

上林縣志叙

卷之四

今天體國經野度地居民非形  
勢熟悉於胸中則政事之經權  
安出非得左圖右指掌瞭然  
則兀席之間安能洞燭四境哉

上林縣志

籍之有裨治道淺鮮也况乎  
五嶺百蠻之地與險阻絕尤非  
中夏情形所可儼似其人猩猩  
狼狽其地焚田蠱樹其語侏儻  
其俗以藥弩利刃為耕作匪

相仇轉轉報復此亦者於

於此則其謂民情始可謂

與而宜化民而成俗故余於上

林縣志之修風之為汲汲也且

君之志也其言曰莫要於駁

兩鄉不通

謠言其民

日荒服不

忽靡常終王

力之在焉

國地制

不無小補

稽後之君子

康熙乙酉季春

林郎知上林縣

陽齋謹序



卷下 計十四條

疆域

分野

城池

里齒

屯堡

土風

公署

上林縣志

兵防

關梁

坪廩

卷下 計十四條

名宦

高年

選舉

田疇

百業

關

山川

關前

橋血

險要

務管

學校

寨汛

墟市

樓閣亭院

鄉賢

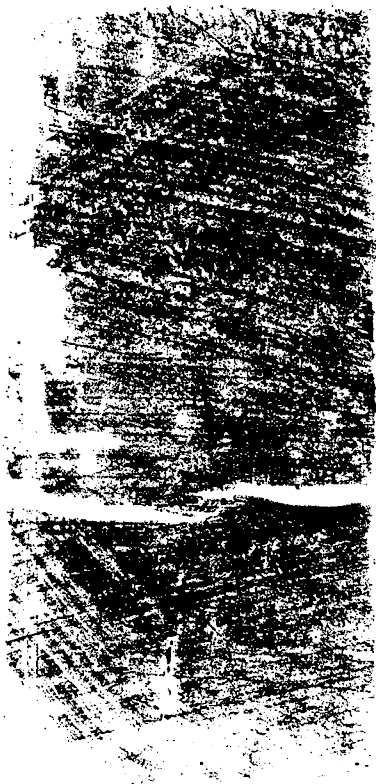
孝子

戶口

屯田

遞役

官簿  
役人



上林縣志卷上

上林縣志 目次

上林縣志卷上

文林郎知上林縣事中興張節振錫齋敬

儒學 教授黃錕嗣承位伯

黃錕子錫協

蘭陵張一蟹羽東

邑人張鴻鵬漸進

章宗孟板

張鴻鵬漸九

戴安允恭

章宗思述泗

章宗參唯泗

楊登芳爾全校

上林古澤州地也自大明山二百餘里迤邐而來至

此聳起三台華蓋辭樓下殿經過玉枕峯頭即結縣

治萬山環抱二水交流尖嶺神起文峯扶嵐山高擎

筆架誠天然之形勝也其開闢助自李唐歷宋元明

以來風氣日上錄遺兵燹劫無存莫可致

尋之所謂記與父老

上林縣志 卷上

有一於千伯云爾至... 功不能無待於閱覽博物志君子也

城

上林本領方縣地... 唐初置上林縣

州... 宋改屬賓州元明仍舊

本朝因之縣治東距賓州八十里馬鞍山分界西距

思恩府一百五十里武緣縣八塘分界百里之內

有三時鎮巡檢司及三時鎮土舍南距直隸府

百五十里思恩驛分界東北距遷江縣一百五

上林縣志卷上

甲三薦塘分界北距慶遠府之忻城土縣一百七

十里羅墨渡分界五十里內有三里營前設南丹

衛轄以思恩參將遂建參將署於三里其地即工

守仁議設鳳化縣者是也內有六營外有八堡在

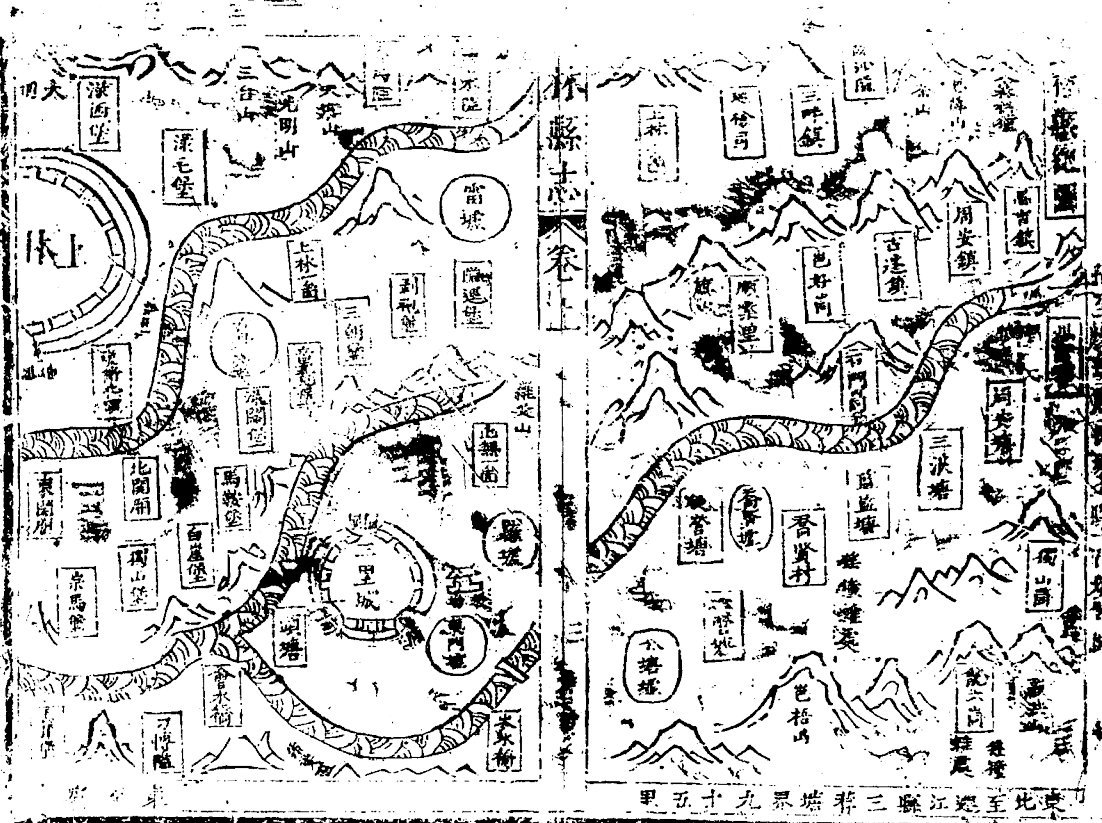
設古蓬周安思吉三鎮土舍各率土兵防守彈壓

八寨諸蠻悍高... 之貽謀可謂周且察左

輿圖

境內崇山峻嶺深谷險隘蠻崗蹊徑四路交通

列於圖以周知險阻扼塞且以便經界云







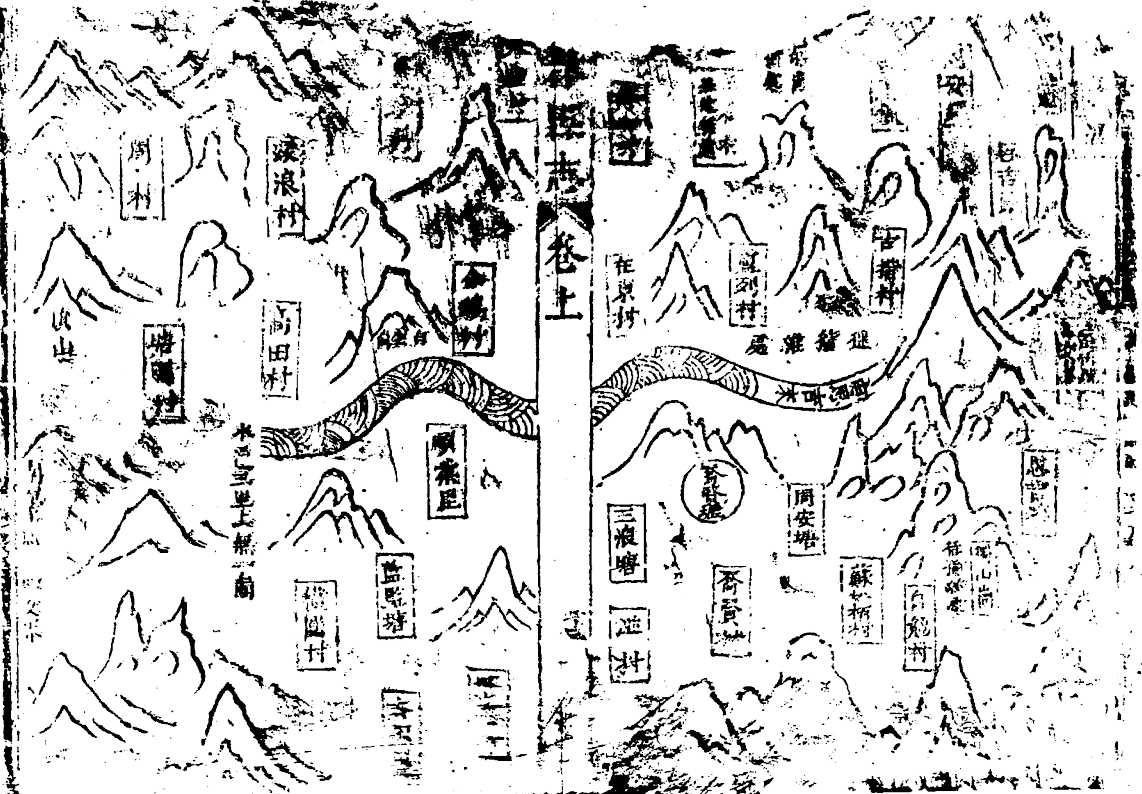
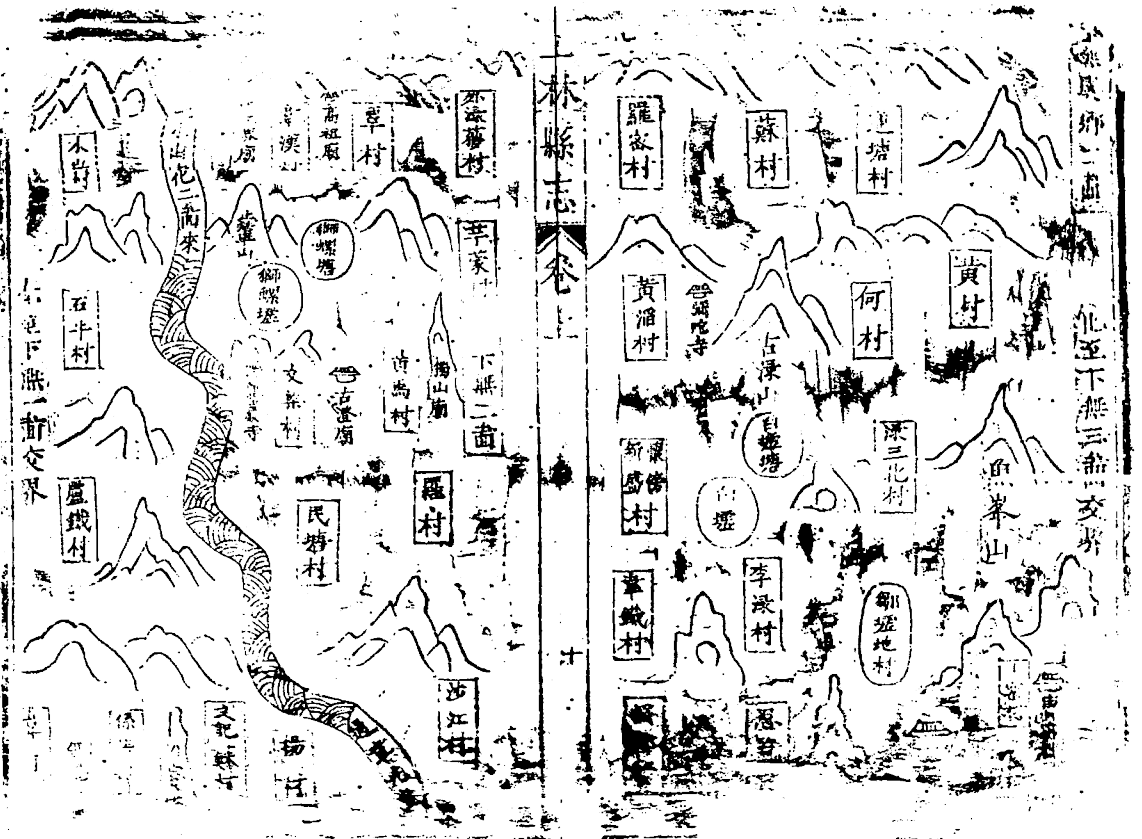
林縣志 卷上



林縣志 卷下







卷上原書缺第 12-13 面。



分野明氣

漢通志云粵之疆場最廣自古謂之百粵分

荆揚之殊蓋粵之東界屬於揚州龜錯所調

用是也其西界則屬荊州於二十八宿

一度於十二次為鶴尾北斗七星則第二

五車五星則第四星至之晋天文志云

南四星曰狗國唐一行禪師係之南越以其

子有且南蠻樊楓之種也分野既殊則氣

錯云湯燠之地少陰多陽李待制曰南

志卷上

薄土薄故陽氣常泄地卑故陰氣常

四時常花三冬不雪一歲之內暑

其間氣多上應膚多出汗朕理不密

而然陰氣盛故晨昏多霧春夏雨

通半盛夏連雨即後寒寒衣服盡濕

脚氣肢體重倦導疾蓋陰常侵

偏而相博故一日之內氣候屢變

一雨便成冬又曰巫覡

卷上原書缺第 15-16 面。

石光山在縣北十里日照山石有光因名

茶山在上林鄉一屬產茶

羅密山交架山磨山俱在縣東四十里

鷄籠山高眼山石蓬山俱在縣東南

雲陵山在縣東十里人府六修道處

黃山岩在縣四十里內有潭

無浪山在縣東五十里中有洞宋華受讀書處

獅山螺山俱在縣東五十里平地突起旁有

江

林縣志卷上

古派山在縣西南

旗山在八寨

魚峯嶺止犂山俱在縣東

大江有二一發源於大明山一發源於上林鄉

餘聖與花江合名曰通源一發源於上林鄉

花流至章光嶺下瀉於南江名曰通感二水合

東注直達鄒墟大河但內地溪澗曲折舟楫不

澄江出大明山人馬波江

原利江出感化鄉

黃龍江里仁江化龍江明鏡湖俱在縣北

馬波

龍母江在縣南三里出大明山合章光江

馬波江源出茶江流合還江

樊廟江出涿洛山

淡竹水在縣南八里出淡竹山會於馬波

鄒墟渡口有泉一穴冬夏常盈流通大河味甚

冽

城池

林縣志

十一

林邑舊無城明洪武三十一年立屯田千戶所始

築土垣僅容縣治倉庫天順元年鎮撫衙門委守

從業為土城三百餘丈成化八年命都指揮岑瑛

重修易砌以磚外環以濠覆以申樓明末被寇燬

康熙二十一年知縣毛渾議捐修復城高一丈五

尺半 文如高三尺周圍四百五十丈為門二重

西門南曰廣惠城樓二座甯鋪六間梁子九

二十五個外有護城池四圍環繞

東關廂 南關廂 北關

里前共九里

東鄉 下無虞鄉

下無虞鄉三

南鄉 感化鄉

東光鄉 上無虞鄉

西北鄉 上林鄉

溝洫

感化鄉一前坡五

上林縣志

卷上

上林鄉一前坡四座

上無虞鄉一前坡九座

又名李見坡 下無虞鄉

旺利賴甚廣

屯堡 共十三堡堡內有兵

三朝堡 隘徑堡 白堡

童竟堡 涼關堡

通津堡 深西堡

險

東鄉二

南鄉二

東光鄉

西北鄉

感化鄉

上林鄉

上無虞鄉

下無虞鄉

童竟堡

涼關堡

深西堡

設官之... 遂曰古鉢曰都者曰羅...

遂曰古鉢曰都者曰羅... 剿丁後...

咳為十原屬遷江八所土官所轄其地山谷...

馬道險巖連各路諸酋為柳度思恩眾...

淵藪寨內各有其人扼據險要橫行...

初征勦無功諸蠻悉恣嘉者所以尚書王守仁...

粵師營師分遣濬八寨諸兵破石門賊始...

遂大奔潰官兵乘勝追躡斬獲一千九百...

王濬移衛置寨求及行...

隆慶四年都御史...

賊寨中苦機營令...

遂家與民為伍...

遂檢得為長官司部兵...

安定頭目賞各部兵二百...

遂七十有奇土官照所轄...

二年荒哈俺焚尚糾黨二百...

臣郭應明密令三寨土官...

遂故其後土司窮不能...

遂少時...

遂翼勇直搗...

遂賊遁移師破...

遂...

遂...

遂...

遂...

遂...

遂...

遂...

遂...

遂...

遂...

遂...

遂...

遂...

遂...

遂...

上林縣志卷之二 禮俗

林世守缺之他邑頗廣但以氣炎土燥故穀

宜於麥樹不利於桑地性使然人力不能強也

者公寅普給耆程教民樹藝然苗而不秀有

已其俗男女一歲遊城為業土著之民惟勤農

承事詩書冠經於祭一遵古禮若感化鄉曲

下禮廣鄉之二

林林志卷之二

香案設位及宗族鄉黨交

香案設位及宗族鄉黨交

香案設位及宗族鄉黨交

香案設位及宗族鄉黨交

香案設位及宗族鄉黨交

香案設位及宗族鄉黨交

香案設位及宗族鄉黨交

香案設位及宗族鄉黨交

正月廿一日為青苗會

其建社也壘甃為壇立石為圭朝夕焚禮碑有古

風若爭訟兩不相下則擇顯赫神靈叩廟設誓

日求報有驗者訟即得理眾皆盡之或遇災病

服醫藥輒延鬼師歌舞祈禱謂之跳鬼婚聘

禮以當委會凡有交際亦以檳榔為先客至

話一安會將畢俱用以致敬其宮室類多築十

茅後陞自固但山風多厲竹木易折風之所到

即生焉木中軋軋有聲不數年即當一易凡取

木須於七八兩月採伐漬之污水中累月方免生

蛀故有七竹入木之諺其民皆安土重遷不遷

服賈三日一趁墟悉任婦人賞易男子急情嬉

不勤生理蓋素所習慣然也性喜爭訟其見事

風不虞誣枉者比比皆是倘與人齟齬雖睚眦

報甚至不惜身命以圖之或先服斷腸草或蓋

草根急奔赴醫家取水立飲頃刻毒發而死

隨湯草者七竅流血偏體青腫猶易平驗之則  
根止口流白沫面色微青而已不現種種惡相蓋  
以兩草大寒大熱之不同一則斂藏在內一則發  
露於外故也聞之土人云服斷腸草者不飲水惟  
可救蓋毒氣尚未散行凝聚一處速用白鴨血或  
生羊血清之輒暴惡物吐出少遲無及矣至蓋  
取不知用何解法更有一種刁頑圓賴人命或  
窮死之人取佛桑花土人謂之紅花丹塗擦其要害處即  
肌理即轉紫黑藏若傷痕欺罔官府以恣其婪詐

林縣志

諸採風門俗者不可不知

諸養種落不一皆古樊瓠之種也相傳南越王  
犬者樊瓠王被擒其國母出令有能脫王歸者賞  
以王女妻之樊瓠聞言欣然往竊負而逃遂妻其  
女樊瓠納諸巖谷間與之交生子數人曰狙曰  
狼曰獠曰狝曰狝曰狝各成一族自為部落不  
相往來故狙人多樊姓雖犬豕不雅改爲盤且  
謂盤古之後肉樊瓠字音相近而假託之其  
建始其說之無信不足信也

海南四里曰得國...

身是哉在天...

也今自桂林...

種籍處者...

豈非分野有...

豈曰後禮...

亦保晚夫...

運上為...

亦精食...

五石...

案處大明...

要很兵以...

男婦交身...

靈稍為...

惟營徒...

近衣長...

烏倫...

...

...

...

...

備則... 子壯...

家或與隣... 作處...

乃密告其夫... 作福...

三五為伴... 採芳...

男亦三五... 為歌...

飾車彩扇... 畫傘...

齊者... 衣服... 巾...

其吉... 期傳... 知各...

遠近... 與相... 得少...

上林縣志 卷上

霜消三夕... 悉共...

段千百... 計謂... 之會...

調鷄... 醜酒... 造角...

繩索... 并列... 以祭...

慘失神... 也平...

或有... 白晝... 肆行...

乘舟... 搶劫... 子女...

廬以... 遁因... 卽其...

... 年... 同... 時... 間... 與... 夫... 野... 合... 覺... 不...

... 空... 手... 後... 乃... 居... 夫... 家... 少... 婦... 怨... 不...

... 翠... 於... 山... 歌... 水... 湑... 歌... 唱... 為... 樂... 少...

... 定... 之... 一... 唱... 一... 和... 相... 呼... 應... 卽...

... 看... 珥... 環... 釧... 以... 贈... 婦... 人... 亦... 祝... 其...

... 華... 屨... 之... 類... 謂... 之... 拜... 同... 年... 復... 另...

... 白... 媒... 家... 設... 饌... 具... 携... 酒... 盞... 齊... 集...

... 得... 則... 飲... 薄... 薄... 說... 手... 遊... 入... 門... 內...

五

... 其... 數... 價... 賄... 遠... 其... 積... 怨... 相... 仇... 讎... 芥... 不... 已... 雖... 同... 心...

... 復... 其... 閭... 至... 十... 數... 世... 而... 猶... 不... 息... 者... 如... 索... 負... 不... 賒... 而...

... 人... 有... 隙... 則... 在... 途... 要... 截... 平... 民... 及... 過... 往... 旅... 商... 而... 靴... 禁... 之...

... 謂... 之... 趨... 對... 構... 營... 慘... 酷... 逼... 令... 將... 銀... 錢... 贖... 命... 飽... 其... 籍... 察...

... 而... 後... 已... 甚... 至... 挖... 墳... 盜... 骨... 立... 木... 飛... 於... 家... 前... 詭... 書... 名... 姓...

... 憑... 空... 嫁... 禍... 於... 人... 者... 獨... 中... 元... 節... 人... 人... 到... 牛... 擊... 豕... 祀... 先...

... 三... 日... 其... 報... 本... 追... 逮... 之... 誠... 猶... 與... 良... 民... 無... 異... 數... 日... 內... 一...

... 切... 不... 入... 城... 市... 不... 主... 墟... 場... 躍... 為... 鬼... 所... 攝... 謂... 使... 之... 擔... 負...

上林縣志 卷上

五

也... 入... 月... 望... 夕... 以... 月... 之... 明... 晦... 自... 卜... 行... 止... 如... 中... 秋... 無... 月...

... 卽... 權... 呼... 宰... 牛... 而... 神... 許... 愿... 暢... 飲... 終... 夜... 以... 為... 三... 冬... 出... 沒...

... 之... 佳... 兆... 焉... 大... 抵... 徑... 俱... 山... 子... 各... 安... 族... 類... 不... 思... 侵... 侮... 平...

... 民... 其... 為... 患... 者... 豈... 甚... 於... 蠻... 獠... 云...

... 每... 歲... 銀... 三... 十... 六... 兩... 六... 錢... 四... 分... 零...

... 每... 歲... 銀... 二... 十... 五... 兩... 六... 錢... 七... 分... 零...

... 每... 歲... 銀... 二... 十... 五... 兩... 六... 錢... 七... 分... 零...

... 每... 歲... 銀... 二... 十... 五... 兩... 六... 錢... 七... 分... 零...

孫應時 嘉興人 康熙十八年任

孫廷諫 山東蓬萊人 康熙二十一年任

孟師孔 直隸大興人 康熙二十五年任

吳維熊 浙江烏程人 康熙二十六年任

翁文彩 浙江寧波人 康熙三十年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

陸宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

郭朝佐 河南長葛人 康熙三十八年任

林縣志 卷五

任三十二

按講鄉約

打又安甘

專薦

梁 森 河南

張之 滙湖廣

張邵 張河南

湖史

金堯江

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

孫宗遠 江南丹徒人 康熙三十四年任

家士 卽杜歲貢康熙二十二年任

鄧球 全州歲貢康熙二十九年任

蔡始生 懷集歲貢康熙三十一年任

黃鍾 昭平歲貢康熙四十年任

三呼鎮巡檢

張璉 江南華亭人康熙十九年任

羅維芳 江西高安人康熙二十一年任

王問臣 浙江山陰人康熙二十五年任

盧之亨 浙江餘姚人康熙三十二年任

沈汝寧 順天武清人康熙三十六年任

胡瑞煌 浙江山陰人康熙四十年任

劉自新 直隸獻縣人康熙四十四年任

恩隴驛驛丞

徐 順直隸易州人康熙二十二年任

辛大成 山東清平人康熙二十三年任

王 瑞 廣東平遠人康熙二十五年任

龐仰 陝西富平人康熙三十三年任

趙重 鄒山東單州人康熙三十四年任

王利田 山東歷城人康熙三十六年任

蕭枝 桂廣西華州人康熙四十二年任

公署

上林縣治明洪武七年縣丞周偉建

縣署順我重修弘治間知縣劉德建

本縣公署在城之東北東向頭門一

大堂一座二堂一座三堂一座

房十間俱瓦

土地祠一所在儀門外左側東向

道堂一座內祀三關在儀門外右側北向

倉舖二間在頭門左右兩邊西向

守備

典史公署在城之北東向俱瓦房

巡檢司公署舊在三呼鎮令廢

驛丞公署舊在恩隴今廢俱瓦房

公館一所全瓦在驛署之左今存

高平倉一所一在署西一在頭門



不易得此種入廣寒無每  
兵防

明穆廷恩恩府參將

入所土官同城

又黎節

三軍城守官

守備一員

志

三軍內設防鎮安

一至今和後二員每年輪

旗標下駐村上

城民教一百五

三軍城守營武

練兵一百零三

練兵二百四十五名

軍不加不

零九徵入織

平解

三軍復遷

三鎮

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍

三軍



三廟在城

朔山廟在城西真身黃帝廟

清思廟在獨山堡洋渡江口

樓閣亭院

迎恩樓在城東門

廣惠樓在城南門

魁星樓在城東南學官前今址遺址尚存

富寧樓在城東今址

上林縣志

得月樓在城西知縣馮德讓建

望江樓在城之東角知縣孫壽建今圯

文昌閣在南城上

泗洲閣在上無名知縣江泗洲水漲即

演武亭在南城外知縣官率三鎮士

堡日圍繞各堡土兵築旗纛大將於此坐一

城遊演以耀武威

食濟院在北部外康熙二十五年重修

林縣志

林縣志

艾林郎字德馨中州張仰承

魏諭宜縣知縣承

劉導昭酒黃 銓子發

陶陵張一盤羽涼塔

李孟淑泗

李孟淑泗

李孟淑泗

李孟淑泗

李孟淑泗

李孟淑泗

李孟淑泗

李孟淑泗

李孟淑泗

李孟淑泗

李孟淑泗

李孟淑泗

李孟淑泗

李孟淑泗

李孟淑泗

通判收四十二年督學粵西公明節險愷  
瘡市閱後以來學使得人未有如公者也於  
特旨調任督學兩浙士懷其教者我特私祀焉

鄉賢

歐陽人武德間持節歷版生蠻開擴化外  
澤州刺史後隱於智誠尚與諸子皆封侯廟食

高祖處是也其靈爽至今猶顯 祿焉

韋曼宋人集書一樓開門誦詩無所不通人以書

樓目之元祐間應舉不第遂隱於羅洪崗號白雲

本縣志 卷下

宋史時許德言以龍圖閣學士左遷廣州太守

字之論治心養性守氣安神之說甚悉每欣然

於鄉人咸推重之

吳邦柱字敬卿明人性至孝 累黨所重年十九

落髮生選貢 江西萬載訓導 陞廣東保昌教諭

意實老 志於華勢判濬如也 與需老約率直會

應年七十有八預示終期遺命 親沒極哀一垂

孔維壽 佛老類其 百稅 不用浮屠

何養純天啓甲子科舉人

譚夢開崇禎庚午科舉人任新城知縣

施炳然崇禎丙子科舉人

譚用霖崇禎己卯科舉人

趙環崇禎己卯科舉人

李鳴雷崇禎壬午科舉人

譚應發永曆乙酉科舉人

韋士桂永曆丙戌科舉人

韋泰登永曆丙戌科舉人

林縣志 卷下

張鴻開康熙丙午科舉人任永寧州學正

韋宗孟康熙壬子科舉人

張鴻繼康熙壬午科舉人

韋 賢城貢仕義學縣訓導

韋崇節選貢任安寧州同知陞麻哈州知州

取賴授光祿寺少卿復任兩淮鹽運司

韋 賢城貢仕任存相縣教諭

韋 賢城貢仕任存相縣教諭

韋 賢城貢仕任存相縣教諭

新國光歲貢任平樂州教授  
諸國垣歲貢選授永安州訓導未赴

本朝

譚嘉祁康熙元年恩貢

韋泰運康熙十年歲貢任天河縣訓導

譚應會康熙十二年歲貢

施益良康熙十九年歲貢

施祖仁康熙二十一年歲貢

甘調鼎康熙二十五年歲貢任興業縣訓導

林縣志

韋夢節康熙二十七年授貢

韋祁裳康熙二十七年歲貢任嶺州訓導

韋士上康熙二十九年歲貢選授平南縣訓導

盧永壽康熙三十一年歲貢

戴安康康熙三十三年歲貢

謝瓊階康熙三十五年歲貢

盧凱生康熙三十六年授貢

盧世生康熙三十七年歲貢

康熙三十九年歲貢

康熙三十九年歲貢

康熙四十年歲貢

莫泰相歲貢選授義寧州訓導未赴

韋至人歲貢

韋至成歲貢 以上三人俱寄籍來賓縣

戶口

九里原額一百零七戶後存九十二戶

人丁原額一千四百四十一丁每丁編銀二

林縣志

分共徵丁銀七百零七兩八錢九分

現數熟丁銀六百五十八兩九錢六分七厘

有膏內有奉文通行各屆審審免增熟入至

應念丁銀起解外

康熙三十年編審增人丁七十七丁六分

丁銀三十二兩五錢零四厘全熟人在縣額

田糧

康熙三十九年官民田地二千五百九十二畝

人丁三分六厘

秋糧米五十五百五十五石八斗

折色解司銀五十兩

解本府銀二千兩

折色夏稅秋糧米銀四百九十六兩三錢八分一厘

康熙四十四年九里額編官民田地總共稅二千八百頃零三畝零六厘六毫七絲二忽三微

林縣志

後熟稅三千二百六十五頃九十六畝零三

一毫六絲九忽七微九纖七塵四埃二沙

漢

雜編秋糧折色米六百二十四石

六合六斗抄六撮四圭五粒

夏秋熟折色熟米五千零一十八石三斗五

一斗六撮五圭九粒

夏秋熟折色熟米五千零一十八石三斗五

秋糧米五十五百五十五石八斗

折色解司銀五十兩

解本府銀二千兩

折色夏稅秋糧米銀四百九十六兩三錢八分一厘

康熙四十四年九里額編官民田地總共稅二千八百頃零三畝零六厘六毫七絲二忽三微

林縣志

後熟稅三千二百六十五頃九十六畝零三

一毫六絲九忽七微九纖七塵四埃二沙

漢

雜編秋糧折色米六百二十四石

六合六斗抄六撮四圭五粒

夏秋熟折色熟米五千零一十八石三斗五

一斗六撮五圭九粒

夏秋熟折色熟米五千零一十八石三斗五

夏秋熟折色熟米五千零一十八石三斗五

折色夏稅秋糧米銀四百九十六兩三錢八分一厘

四

後熟稅三千二百六十五頃九十六畝零三

林縣志

後熟稅三千二百六十五頃九十六畝零三

一毫六絲九忽七微九纖七塵四埃二沙

雜編秋糧折色米六百二十四石

六合六斗抄六撮四圭五粒

夏秋熟折色熟米五千零一十八石三斗五

五

夏秋熟折色熟米五千零一十八石三斗五

夏秋熟折色熟米五千零一十八石三斗五

夏秋熟折色熟米五千零一十八石三斗五

四錢八分四釐九毫餘

實銀七千四百二十五兩三錢七分

毫有奇

通關銀二百四十兩零七錢零七厘有奇

銀一百九十二兩三錢零五厘七毫

銀六千三百八十八兩零五錢二分八

銀五千一百八十六兩五錢八分二厘

加銀一百一十三兩四錢八分零六毫

燕國銀九十兩零六錢六分一厘八毫有奇

解羽筆劍鐵宣德之後漸釀改折猶取

物香料其中滑損未免滋弊

改折垂為成憲

工部項下折色

銀二錢五分六厘八毫有奇除

銀八分有奇鋪墊銀六厘二毫

兩水脚銀三分除外

有奇水脚銀二分四厘有奇

銀三錢三分

銀五錢七毫有奇

共銀一兩四錢七分二

共銀四分四厘七毫六絲

銀一分五厘有奇鋪墊水脚

有銀二十一兩六月初十日

生銀翠毛等項

四年通行各州縣

銀二錢五分六厘八毫有奇除

遠武直惠九...

千七百四十九兩...

如外

二千二百三十八兩七錢九...

十七兩二錢二分六厘六...

荒外

錢四分三厘九毫...

紙劄額銀五兩五錢除荒...

九厘三毫有奇

銀八十四兩除荒外...

一分二厘有奇過閏加銀七...

兩五錢九分二厘四...

工食額銀二十四兩除荒外...

五錢四分六厘四毫有奇過閏...

熟閏銀一兩五錢七分七厘...

本府各官...

銀四百三十兩零...

銀三百五十四兩零二錢三分九厘...

銀三十四兩一錢六分九厘...

有奇除荒外熟閏銀二十七兩二錢九分...

上解司道府共存需額銀五百四十三兩五錢...

四分除荒外熟銀四百四十二兩六錢七分八厘...

有過閏加銀四十三兩一錢六分九厘九毫有...

除荒外熟閏銀三十兩四錢八分九厘有奇...

在縣支應祀典俸食共計銀一千零三十三...

兩四錢八分除荒外熟銀八百四十一兩七錢...

二厘有奇過閏加銀七十九兩六錢八分一...

厘六毫六絲四忽除荒外熟閏銀六十三兩六...

錢五分九厘三毫有奇...

工食額銀二百四十一兩八分...

六分六厘六毫七絲除荒外熟銀一百九十六...

有奇...

有奇...



一 協濟武宣縣修理 監倉額銀八兩五錢  
外熟銀六兩九錢二分二厘有奇

一 協濟江縣工食額銀一百一十四兩除  
外熟銀九十二兩八錢四分五厘六毫有奇

一 協濟四屬共額銀一千一百一十九兩二  
分六厘六毫三絲除荒外熟銀九百一十一

分五分一厘以應有奇

一 賓州協濟本縣孤貧四名口糧額米一十四  
石四斗除荒外熟米一十二石九斗一升六分

一 奇遇閩米一十二斗除荒外熟閩米一十二  
斗

一 右兩額銀五十二兩五錢除荒外

一 熟銀四十三兩七錢五分八厘八毫五絲

一 五厘

一 額銀三兩四錢九分五厘二毫有奇過有

一 合支應餘銀解赴

一 解赴道衙門投納

一 額銀官引五十七道奉

一 額銀五百七十

一 每引額銀依例應銀二百三十五兩計額銀

一 額銀三萬三千五百五十四兩

一 每引額銀東省正額銀四錢四分零一毫八絲五

一 毫絲故正額銀二萬五千兩零九錢零五厘四毫

一 五絲解赴  
一 東五道衙門投納  
一 原額銀三兩二錢解赴  
一 原額銀三兩二錢解赴

兩山山跡在縣後十餘里  
為盧莫一化身之地  
每遇亢旱有司誠心祈雨  
甘霖無不立降

雲陵山盧六者唐時人  
至而性不食肉與同邑莫

四修心練性盧一日在  
熊大明山見二白衣童子

變幻可駭因謂曰汝且  
去更十日可來授汝道書

如期往端坐石上無言  
而化人以爲尸解莫四

孤仙去鄉人異之爲建  
盧仙廟於雲陵山莫仙

林縣志 卷一

於八角山

窺鄰山昔有老叟樵採  
夜宿其上見一劍光

天次早尋之頓忘其處  
因以饒鄰名山

龍艾入山採茶遇仙遂  
攜妻子家焉因名其地

羅艾山

智誠傳唐李敬德君德

一月初十日遠近男婦

鳴飲歌呼動以千言計

日雲尚宋白雲先志

是修棟於此

可修家...

二山...

波平...

提...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

禮記卷之...

始於漢而迄於元也加冕冕桓圭自宋真宗

元年也自涉徽宗加十二歲服九章執鎮圭

元又加十二歲其祀孔子以代之樂者自漢

元禮元多始於其後宋文帝齊六倫設舞樂

用永安宗廟設舞樂者不一至洪武二十

年頒大樂器於天下府縣如府式無

不備樂用登歌而製制乃定也西漢十二賢自漢

元和二年始以類編祀自漢王方正始

世以曾參配享自唐高宗總章元年始也以孟子

配享自宋神宗元豐元年始也以子思配自宋徽

宗大觀二年始也以顏曾思孟並享自宋慶宗咸淳

二年始也加復聖宋聖述聖亞聖公者元文宗至

一平也去公稱子者明嘉靖九年張璁議也以十哲

祀祀自唐元宗開元八年始也升子張補十哲之

咸淳三年而弟子之得追贈亦自唐高宗總章

始也其後不侯伯始於唐開元二十七年

中慶宗咸淳三年也以左丘明

禮記

夏公羊高敷梁赤伏勝高堂生龔聖子

劉向鄭衆杜子春馬融盧植鄭玄服虔賈逵

蕭王弼杜預范甯二十二賢從祀自唐太宗貞觀一

十一年始也以荀况楊雄韓愈自宋神宗元豐元年

也以周惇頤張載程顥程頤朱熹自理宗淳祐元年

也以張拭呂祖謙自景定二年也以邵雍司馬光自

淳熙三年也以許衡元仁宗皇慶二年也洪武

二十九年以董仲舒宣德十年以吳澄正統二年以

高安國蔡沈真德秀八年以楊時嘉靖九年增后

林縣志

通歐陽修胡瑗陸九淵陸慶元年以薛瑄萬曆十

一年以王守仁陳獻章胡居仁四十一年以羅從彦

李侗等從祀皆從言臣之請也叔梁紇宋封公元

時王今天下學校通建廟者自嘉靖九年始也

以張無繇會點孔鯉激公宜配宋程珦朱松蔡元定

亦配從祀者子不先父食之義也洪武元年詔天

下各建先賢祠左祀賢牧右祀師賢者附祭

各建先賢祠左祀賢牧右祀師賢者附祭

各建先賢祠左祀賢牧右祀師賢者附祭

... 亦於何年不知也... 夫傳又矣故學官之鼎建...

重刊上林縣學碑記

... 夫傳又矣故學官之鼎建... 亦於何年不知也...

上林縣志

卷下

五

... 興文教九真菱公輔遂以經學起家入翰林為... 李福交人自是益嚮於文學上林之建李也...

... 其後雖指不勝屈... 其元氣而變其命脈於...

... 天子樂備重道振興... 幸必登 則運法...

... 以百兩後用... 士子交頌行天下...

... 國家敷教作人之... 無已屬在未員敢不奉...

... 而節使宮端桃李... 比年以來時和...

以無情之獄訟猶日祭典負剛之設冠未盡其

不為公也而頑抗逾欠者不之其人亦多自愛

其犯刑義者時暴其短豈習俗之難化抑亦

教子翁無所率莫或端之而觀以敗之故耳

其厚之修土地可復獲我里即春仲集諸紳

之數事定者建修者修庀新訓編墨丹

等政會作則年而後成後吉獨合某其

德化之隆 國家造士之 美妻夫民風之所

學士習之所以端方官長節 虛之厥以諄諄

欲與爾多士濯磨砥礪其 廢成今日修之於

校不耳矣乎并以古之 子來宰是邦與余同

今天時至而事起神動而天隨其候固將有所

而其儀尤有所不可測 吾於邑侯張公之鼎新

可謂有以俾歎其然也是廟之存林邑由來舊矣

其儀雖隆拜跪進反偏 窄無餘地瞻仰者每為

其儀在庚辰西紅泰君 國鼎至國改作而力與

其儀以居香火者而亦 不果為因竊疑 關夫子

天之靈豈不能少助一 臂便使在人之隱願終

其儀遇塞而不伸歎抑或 願之在人者倏然終

其儀上林縣志 卷下 其

其儀非然也大凡物之興廢 事之勤靜氣運之汚隆顯

其儀莫不有其時焉時之未 至欲先以頃刻而不能人

其儀無如何也神亦莫能助 也時之既至即欲緩以須臾

其儀而亦不可得緊惟人實 為之神且弗能違也然則是

其儀舉也蔡君不果於前手 君復不果於後至今日而

其儀巍然煥然也詎非不 時不後時而有候焉存乎

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自

其儀庸者哉吾故曰時至 也其儀既至則其機自



然在上來格 呼歎以為廟祀用此焉也而  
 其受得惠之道 以熱誠夫佑民庇物之功具可  
 舉之矣然則 提廟之修而必有待於公也公之  
 風廟而必有待於今日也夫豈偶然而已耶公  
 振發揚奮中州輝輝人是廟之修如於癸未十  
 二月成於甲申之二月其督修者訓導黃若師其  
 策效力者弟子員 勸簡實縣民楊錦也吳皆有  
 不可不書 賤梓士張一畫記

遷奉思隴真武廟碑記

上林縣志

思隴據澄州之南 偏於廣陽之阻扼期寧之衝而襟  
 環平樂昌封股間 蓋一郡一州三縣之總會也其地  
 東北而來者有二道一發於澄州之鎮鄒前山矣  
 一發於側者且僻 且遠行者苦之一發於廣陽則地  
 勢險阻無崎嶇 之險又其程較近故四方行旅  
 必以廣陽為 孔道焉思隴之有驛池其來舊矣  
 不設馬道且主 夫役驛僅以空名著耳昔僕智  
 於仁念 幸於江東下 政破邑用所向得

卷下原書缺第 29-30 面。

山脈老元 各有數人扼據 聖廟  
 敢樓與遷江入西 爲密  
 其不責縣之丑山蓋天浩地設若假  
 甲又分爲東西撫民西撫民  
 通衢而東撫民之派村寨受演案張  
 有便附近官道爲析城慶遠行旅  
 其中每爲民害此舉  
 一也其自北而東也

林縣志

三若鼎之間中有白排英山硃砂  
 之明堂等村接壤 悉屬  
 近孔道遇有不靖 爲連  
 之東路所當 功樂者一也而東路之爲  
 其情之 險惡復爲 憲  
 心類 何何 其  
 人如草菅 矣判





以爲之藩籬又有三里營官軍駐紮  
 之門戶去營四十餘里又立營資堡分撥營兵  
 以扼賊之咽喉又於北路得壞折城之地設有黑  
 周安古蓬三鎮土舍統率土兵建塔墩寨以制賊  
 肆出而橫行又於東路得寬接壤邊江貫導者立  
 寨坐於淺步口分撥官軍遇上三屬官兵兼司土  
 把守以斷賊之外入而內合當日防禦之法可謂  
 善盡美無如歷久廢弛東路之高峯堡不知撤自何  
 年而北路之營堡三鎮至今如故其間兇蠻草  
 上林縣志卷下

在矣不卑職自抵任以來日擊匪類猖狂民不安  
 既不能清兵進剿以撲滅元兇則不得不出於  
 一途以苟全若輩之性命於是卽用以賊制賊之法  
 拾賊首六十有二人具稟 臬憲委爲練長如東  
 之淪吉兩補那良三村則有若羅仁僚羅洪則有  
 若黃洪明寨受則有若藍法大馬合則有若潘勝金  
 若七人者委用於東而東 縣民稍知欽跡矣至若  
 八之寨草則委之章富也亦便則委之樊

卷下原書缺第 35-36 面。

一則云  
 詳章新編銀兩文  
 壬任三月初六日  
 本府

爲預弊相沿日久窮民版削難堪申請革除以垂久  
 事竊惟 朝廷設官分職無非因民起見故司牧  
 以剔弊釐奸典刑除害爲事卽如錢糧一項弊  
 多捐不勝屈難以財賦之區且有不勝悅幸者  
 粵西磽确之地土瘠民貧一文卽是瘡痍一  
 則課正供尚徵則肉而 捨何堪  
 上林縣志卷下

以重累我窮黎也卑職 訪劣庸村謬司民社  
 自到任受事以來冰炭自矢地方利弊雖未  
 然循體 憲臺釐剔深心愛民如子粵西諸弊  
 一裁革卑職夙夜凜凜無刻不殫心民瘼軫念  
 其間尚有未盡 憲裁者不得不爲斯民痛切  
 上林一縣九里原額官民田地共熟稅二  
 百六十五頃九十六畝 釐折色秋糧米五千  
 八百石三十五升零北糧 下場民脂土供  
 派分毫無取 謹此 謹得 謹此 謹此

命兩 亦每益一布銀銀 三分入官

有七八分或一錢不帶甚 而在糧數升竟派銀

私於其吏如谷有缺官 詠來

扶勢謀求於是土囊地棍復有 吏

行利派者矣以一分入之官則必以一分飽官

囊裏以一分入之胥吏則必以一分潤又

始也借官為名而取盈於百姓其既也

欠於在官室之民病而官亦病矣官

志 卷下

課亦受其病矣不有以痛革之則以使民力

至養癰遺毒也 後業已出示禁

恐日久弊生斯民受其累者理合具 請

憲臺俯賜批示以便勒石永遠革除 變

鴻恩而攀黎沾惠無窮矣

詳請勒石永革里長文 壬午三月十日

萬民頌 無疆壽 縣樂人章宗 道

泰相 等 監生 等 生員 等 生員

等 生員 等 生員 等 生員

等 生員 等 生員 等 生員

等 生員 等 生員 等 生員

入家思實小民望德之隆願林邑何因軍

正額之外科派多端名曰大辦雖屬一時

然積久相沿至今遂成錮弊民脂民膏幾

殆盡幸逢 都院大老爺軫恤民艱洞悉

奏請編審餽送填平水脚棚厥執事楚塘

大夫船見而便規各頭一二臚列具 題

禁革此誠千載一時西粵生靈莫大之

外軍必制其根塞流必清其源剔弊亦必

林縣志 卷下

向來各頭規俱係大辦里長承辦極加

辦富者傾囊貧者罄產甚至鬻男賣女苦

幸仁天蒞任細察積弊之所從生莫不假

長而泥禍之所究極亦莫不波及於里長恪

察實力奉行將四十一年分里長盡行罷

清可謂剔弊而能務絕其本者矣但恐歷

年既久

有不法之徒假公濟私復踵前轍仍立

名色

近察小民尚非奕世蒙恩經久無弊之

道伏乞仁

民請命除前項陋規現表

勸石家禁外河於準除里長一項詳請立碑垂示

以達則不獨九里沾恩抑且萬年戴德為此聯名叩

懇上呈等情到縣據此該卑職查得上林一邑額編

九里而里長一役為首無窮勞於現年大辦科派愚

民不一而足車馬自康熙四十年九月二十四日

任於本年十一月二十二日遵奉 院憲嚴示革除

此誠天高地厚之弘仁為 國為民之良策閩邑羣

黎歡呼載道早已均沾滋澤矣今據閩邑紳衿冬

等亦等激切具呈緣為里長一役受累多年若不

一請 憲臺勸石家章 則雖暫免於一時不能不

慮於日後懇祈 憲臺俯賜批示勸石永遠革除

以邑士民生生世世受福無窮矣

詳革派圖積弊文 年十一月二十五日具

呈 詳陳積弊以恤窮黎 請 賜轉詳勸禁以垂久遠

要 憲照粵西僻處邊省 土瘠民貧野有石田室多懸

壁加以積弊相仍日疲月僣饑寒愁苦之狀誠有下

忍見聞不堪告忍者幸蒙 撫憲竭意剔蠲憐心核

勸 憲督責被如解回題 等 憲照承派立也

他區已下吏長減小民懷德矣或謗

此再油恩波前此 暮月已可之功必致三年有

屬羣黎罔弗翹首跂足思見德化之成而

不待尾諸屬員後 以手加額慙慙而願有請也

思 縣令親民務在與利而除弊 必去利即在

亦有弊不除而利可與亦未有弊既除而民猶

其利者也卑職仰體 各憲鴻慈勉自勵

年九月二十四日抵任所有 前隨辦如

官到任即有繳悉規例及備辦 等 器用

林縣志 卷下

供應米肉油薪等項俱係 個月里長承辦私派

卑職受事之初即 製行禁革又有所謂辦務者

種種名色動輒費至千金 際厥所由一切陋

現年里長承辦每 遇當辦富者傾囊貧者罄產

驚男賣女稱貧無門 與言及此實可痛心旋於

十一月二十二日 遵奉 撫憲檄文禁革里

隨即抄示遍傳立 行禁革閩邑士民無不歡

如慶更生繼復細 加搜剔則又有所謂新編

量開徵之 正供而外各里接糧加派

四方百金... 立將新編銀幣一項... 除... 以...

民困遂於三月初六日特陳積弊... 滯日久等...

請禁革新編銀幣二十四日... 查據屬邑呈稱...

頌德無疆事公辦立... 碑禁革至長俱經詳明... 道府

二憲批示勒石在案... 里長新編既除諸弊漸復... 情狀

而民困得以稍甦矣... 茲又查得卑縣十三團向來... 起

解錢糧及上省上府... 一切人夫俱照團之大小... 派派

又有每年更換保長... 禁卒輪傘水火各夫以及... 春費

下戊二祭屬置三祭... 借羊菜香燭及拜賀... 迎香酒

上林縣志 卷下

進春花人夫等費悉... 係派之民間名曰團務... 其中

非苛索折耗等弊為... 害最甚再加戶房倉房... 庫子

日亦有更換規例... 卑職俱已隨訪隨革... 出示嚴禁

發現銀債傳在案前... 已具詳請明飭俟一... 一搜確

除陸續申報今幸... 憲臺新政重敷... 恩再造向

其業之轉自在人心... 今茲重慶之慶視而... 倍切卑

身肩百里稍為地方... 効力分毫原屬職分... 當然無

贅費誠恐復有不法... 欺騙之徒曠視

王章... 民力仍踰故轍而... 懲行之是後日之... 治

仍係卑職今日不能... 盡心之咎也特將禁... 費

仍係卑職今日不能盡心之咎也特將禁費

臚列土陳懇祈 憲臺俯賜通詳勒石禁革以垂

遠則此神屹立之年皆 各憲臺惠澤流長之日

歌戶祝世世以之非卑職今日所能計量也

原詳臚列禁革積弊十二條

一禁革新官到任繳憑使費銀兩

一禁革新官到任衙署器物並進人夫

一禁革每年更換執事并器物各項

一禁革每年更換戶房倉房庫子禮銀兩

上林縣志 卷下

一禁革起解錢糧人夫使費并一切上省上府

送人夫

一禁革每年各里擴造全書規例銀兩

一禁革每年更換保長堡目規例銀兩

一禁革供應薪米蔬菜馬草等費

一禁革輪傘扇夫水火馬夫禁卒工食等費

一禁革春秋二祭并厲壇三祭各團猪羊

一禁革拜賀迎春酒筵春花等費

一禁革每月朔望日香燭紙銀等費

新編銀兩又於二十日貴族團七民訓

為備以除積弊以恤窮黎事竊查坤縣一邑額

九錢每里十冬每冬十年一換名曰冬頭承催本冬

錢糧每里一年一更名曰里長輪催一年之辦務

五長之弊借立種種名色按糧計派累百盈千一

二在於官一平里長土業及奸商更分肥飽榮

有蓋產傾家鬻兒賣女者 縣自康熙四十年九

一十四日到任即於本年十一月二十二日遵

上林縣志卷下

籌畫嚴檄禁革里長遊經出示革除在案其冬頭

則有新編銀兩一項著錄每年錢糧開徵之初各

里冬頭派收戶丁每糧一石繳銀二分人官而私叔

則有七八分或一錢不等甚有極數升竟派銀數

分若計年縣官民田地共二千二百六十五頃有零

額折色秋糧米五千零一十八石三斗零積計私派

共該得銀四百金年縣官行嚴禁勒百革除於四

十一年三月初六日新陳積弊相沿日久等事詳請

領無非公... 鴨詳在案而未蒙轉詳

查訪得卑縣十三團向來起解錢糧及上省上府

一切人夫俱照團之大小派送又如每年更換保

崇卒斬拿水火人夫以及春秋丁成二祭屬墮三祭

拖羊菓品香燭及并預迎春酒筵春花人夫等費

派之民間名目關務其中無非苛索折乾等弊

官最勇再如戶房倉房庫子堡口亦有更換規例

上林縣志卷下

俱已隨訪隨筆出示嚴禁并將陋規一十二條

西十一年十一月二十五日具報縣府備 恐

行申報在案遠因遷江滬令詳革積弊現奉 憲

飭行通省不便再請以滋瑣費必未蒙轉詳而止

思卑職抵任之後首革現年里長以除大辦次革新

編銀兩以禁額外苛征次革十三團團務以除各項

派無非仰體 憲愛民如子深心剔弊釐好風

雷厲使下員不敢稍有苟且沿襲以取罪愆三大

弊既革則卑縣之鉅細纖悉積年為害於民者無不

徹底澄澈蕩然如洗矣今又查得一火弊為新冬

官例規其獎與新編銀兩等語為 縣里陳之  
 縣額編九里里各十冬積算應有九十冬之正數  
 間復立又冬以廟於十冬之內則是合一邑計之不  
 下百有餘冬矣每冬逐年催收錢糧積至十年餘  
 額通仰江浙所謂十排年者是也至第十一年  
 某戶某人承催例應隔年投遞承認一紙向來  
 他弊皆授遞承認時小冬出銀二兩四錢大冬倍之  
 者日新冬承管銀兩冬頭以一倍入之官則其私  
 戶丁者且至五六百金卑職詢查此弊十年一遇今

上林縣志 卷下

賦

歲十一月正徂九里各冬更換之期特將承管銀  
 查行禁革不染絲毫已經出示曉諭誠念此邦之  
 向因辦務周務以及新編銀兩等項種種廢削  
 不堪雖歷三年休養而民簡元氣尚未派台方  
 損之慮何忍以十年一換之陋例因循仍冀指此  
 爐鼎害他年俾甫離小火之赤子旋受揚波復  
 燬而不為之設圖拯救耶獨是卑職人微言輕  
 革除於今日難保其必不興復於將來不奉  
 何以率諸久遠用

宗道極此聖恩

一項復將昔日

及之倘蒙俯賜允

播疆之惠而 慈

六朝之山同共修

久於高又厚

林縣

林縣

林縣

林縣

林縣

林縣

林縣

林縣

林縣

林縣

林縣

林縣

林縣





志序

周禮小史掌

其近也

志序

以知...道濟

疆理天下遠撫長駕

具見於此矣又如職

掌邦...八民...穀

畜之

一匹夏八鬻

七閩之貉五戎六狄之地

者悉為圖之使同貫利夫

亦猶斯義也我

皇清受命肇造區夏

歷聖相承萬邦和協海隅出日

太平府志 序

罔不率俾大一統志取章

之厚遠踰前古矣而遐荒

絕徼若府若州若縣所各

自為志者顧多缺焉而未

備山川草木未得悉耀乎

光明其何以稱臣子之職

守而為

天子昭無外之模以示茲來許

哉太平為府在廣西南徼

距京師八千七百餘里所

太平府志 序

轄二十有七屬古稱荒服

蓋駱越地也民多獷悍地

復遼濶重巖複嶂深林密

箐伏莽之奸所在多有控

馭失所不時梗化威克愛

克其何道之從耶又西南

與安南接壤北戶鎖鑰

是乎在貢使往來率由

道其在前代則固屢煩師

征矣今日畏威懷德之屬

太平府志 序

猶是拒關逆命之徒也孫

子曰不知山林險阻沮澤

之形者不能行軍此疆

界之間形勢所恃顧可令

其無稽耶府志一書前宏

治間始一纂輯二百餘年

未有踵而修之者遺文散

佚不可復識久矣

今上御極之元年十二月余奉

命簡俾守是邦至官後即欲從

太平府志

序

五

事斯役未遑也謬叨

殊渥不次屢遷旋畀封疆重任

日夕思奮率先庶僚興舉

廢墜務殫厥心而太平之

任實余始政則是書之缺

猶是余政之缺也乃檄下

各屬搜羅殘編得所賫至

新舊諸本頗多簡陋復為

周爰諮訪旁及野乘以供

採擇簿書之餘親為編次

太平府志

序

六

蕪者芟之遺者補之謬者

正之凡七閱月而書成始

星野訖藝文為卷若干為

類若干而以安南志附於

其末則以家載記之例也

蓋不獨詳於四境之內而  
並及於四境之外利害得  
失具載其中矣安內攘外  
之道寧外是求乎其於王  
者疆理天下柔遠能邇之

太平府志 序

七

政或不無小補云是為序  
雍正四年丙午季秋月巡  
撫廣西等處地方提督軍  
務都察院右僉都御史原  
任太平府知府奉新甘汝

來



太平府志 序

八

太平府志目錄

卷首

序文

天文志

卷之一

卷之二

地輿志

卷之三

卷之四

卷之五

卷之六

太平府志

卷之七

卷之八

卷之九

卷之十

卷之十一

卷之十二

卷之十三

卷之十四

營建志

卷之十五

卷之十六

目錄

凡例

星野

氣候

繪圖

沿革

疆域

廂村

卷首目錄

墟市

山川

形勝

關隘

津梁

驛站

古蹟

風俗

城池

公署

卷之十七

卷之十八

食貨志

卷之十九

卷之二十

卷之二十一

卷之二十二

卷之二十三

卷之二十四

卷之二十五

卷之二十六

太平府志

武備志

卷之二十七

職官志

卷之二十八

卷之二十九

卷之三十

卷之三十一

名宦志

卷之三十二

土司志

卷之三十三

學校

壇廟

寺觀

亭臺坊

戶口

賦役

額辦

鹽法

貢馬

蠲卹

物產

卷首目錄

兵制

兵餉

戎署

官制

秩官

秩官

秩官

名宦傳

名宦傳

土司傳

通志

卷之三十四

選舉

人物志

卷之三十五

人物傳

職祥志

卷之三十六

職祥 附兵燹

藝文志

卷之三十七

詔誥敕

卷之三十八

表疏狀議條陳

卷之三十九

記

卷之四十

記

太平府志 卷首目錄

卷之四十一

序書論辨箴

銘告諭

卷之四十二

詩

卷之四十三

詩

卷之四十四

雜記

象胥志

卷之四十五

安南 後漢書

卷之四十六

安南 唐書

卷之四十七

安南 宋史

卷之四十八

安南 元史

卷之四十九

安南 明紀

卷之五十

跋

跋

太平府志 卷首目錄

四

太平府志凡例

一 太平舊有志書屢遭兵燹蕩然無存

本朝兩經修輯俱未脫藁且考核不詳編次失序摭拾事故頗多鄙俚茲廣稽博採合新舊通志并所屬各寫刻諸

本悉為蒐羅參互考訂芟其荒穢正其舛謬然後編次成帙究亦不過因陋就簡文獻不足稽考維艱後之君子或余諒焉

一 是編先列天文地理等十三大志揭其要也復析星野沿革諸條以分屬之從其類也庶幾綱舉目張井然不紊云

一 太平在粵西極南素稱瘴癘之鄉近時風氣漸開水土

太平府志 凡例

亦復不惡故於氣候內詳論之以見

聖朝德化網緼太和洋溢雖在邊土亦與中州無以異也

一 太平流土交錯中外攸分曩時土民恃險跳梁交乘時

肆侵掠亦險要之區也茲于各屬之山川形勢道里關

隘逐一繪圖而詳註焉俾籌邊者一展卷而較若列眉

指掌無煩畫沙聚米之勞勞也

一 營建有關治理其官署學官雖久經廢圮者仍詳列其

原址以備後人稽查

一 學校書院乃養育人才之地太平府屬雖係以土改流

然

國家加意振興日有增重官斯土者亦代有建白其建置修

之不敢忽也

一 聖廟祠宇載在祀典者固應備載其有宦蹟所由亦淡洽于民心久而不忘崇祠以崇報者雖現在廢圮亦必載之以示來者且以昭公道也

一 丁糧關國之大計太平所屬土司原無戶口不編丁銀田糧亦額編無幾而思明土府等九屬又係南寧府督徵轉解茲以原屬本府提調改仍載入以備稽核其合鹽法物產而並志者所以重國計資民用也

一 太平既設新太營又設爐龍二營豈非重邊防而資彈壓哉附戎署于兵制兵餉之後者所以專汛地也

一 太平自元宋以前雖隸中國版圖然皆沿峒酋長世有

太平府志 凡例

其地由元而明始有次第設流官者故職官亦斷自

元明共監司統轄之官不敢遠引槩載以府志各有體

裁也

一 職官有籍貫履歷未詳到任年月無籍及明季兵戈空

必之際姓氏亦多遺缺考者姑闕之以俟異時查補

一 兵農禮樂皆治國之要武雖屬兩途其為國家守土則

一 茲合守令將弁而統之于職官所以見揆奮之相須

為用且以昭

聖朝文武並重之意也

一 凡官斯土者無論秩之崇卑果其治行懋者遺愛在人悉為立傳至如胡端敏何邦佐江白石數公政蹟

尤為卓越特詳著其宏猷偉績以志景仰

一 大屬多係土官自宋治平迄今其間替襲廢置不一茲為詳載各土司世系源流昭然不紊其有善政懿行可稱述者即詳註于各名下以彰厥善不以土司而沒其實也

一 選舉係人才所自出文運之盛衰繫焉太平自前明以迄

本朝科目雖無顯赫然亦代不乏人况邇來風氣日開安知不有崛起而都通顯者以為邦家之光又不僅為此邦增重已耶故志選舉使振興者有所欣慕云

一 太平窮荒僻壤人物寥寥然十室之邑必有忠信茲廣

太平府志

凡例

三

為搜訪凡忠孝節烈有關風化者悉分類立傳以著其實且俾後人有所觀感興起不以邊氓自棄也

一 機祥災異雖一方偶然之數顧天人之感召繫焉不可略也附之以兵燹者俾知此邦代無寧宇今得享數十年太平之樂其為祥瑞不較多乎

一 太平除仕宦而外高人名士皆裹足不至宜乎藝文無可志者茲畢力蒐羅得詔誥疏表暨書序詩歌共八卷視中土大郡或猶過之其土司中間有著述者亦採而錄之以昭同文之盛云

一 雜紀雖稍涉怪誕然多出嶺表錄異西事珥諸書其中不無可信者附列藝文之末以見天壤之大何所不有

不可以耳目拘墟之見而妄參疑信也

一 太平與安南接壤鎮南大關在憑祥州之西南凡開關納貢悉由思明龍州等處而入是太郡雖僻在邊隅實為中國門戶茲附安南志十末所以示土著之無外也

太平府志

凡例

四



太平府志卷之一

天文志序

古之言天者曰地有山嶽以宜其氣精鍾為星屋也者體生於地精成于天列居錯峙各有道繫是以順逆之行時見上下必有人事應之精氣所屬天人交感理固爾也謹天者必詳占候是以黃帝有靈臺之制周禮以保章氏掌之州之地皆有分星以觀妖祥所從來遠矣太平古之南大

天子欲若之心同符前聖天監厥德休徵備至而時幾之教視肯愈加司民牧者可無勤宣

太平府志

卷之一 天文志序

風氣而效節宣法均不可以不講也志天文

太平府志卷之一

天文

星野

鶉尾之次於十二辰在巳楚之分屬荆州  
初張十八度中翼十五度終軫十一度費直說周易  
十三度至軫十八度蔡邕月令章句起張十二度至軫  
度陳卓景初歷起張十七度至軫十一度皇甫謚帝王  
紀起張十八度至軫十一度大衍歷初張十五度中翼十  
二度終軫九度明大統歷起張十五度至軫九度  
太平府屬鶉尾次巳辰翼軫分野

太平府志

卷之一 星野

天文志零陵入軫十一度按軫星共十七度每度該  
千九百二十二里奇太平去零陵僅二千餘里尙當  
軫十一度之內至各流土州縣遠者亦不出二千九百里  
之外俱為軫十一度無疑於五星為榮惑於北斗為衡星  
於三百為司命下星於天市為天垣於五車為中央第一  
星

共二十二星大難識上五下五橫着行中心六箇恰似張更  
有六星在何處三三相連張畔附五箇黑星翼下頭欲知名  
是東甌步天歌

四星似張翼相近中央一箇長沙子左轄右轄附兩  
下四箇土司空門東七烏青五

下名器府器府之星三十二以上便是太微宮壽星向上

取是丹元子

軫宿計星八座共五十二星左右轄傳兩旁左去百一半入

軫十三右去百十半入翼十六

自大別以東至雷澤九江荆州屬衡星春秋

玉衡九星第四星主荆州經

二十六星兩兩而居其西近文昌二星曰上台為司命上台

下一星主荆揚宋史天文

五車五星在畢宿北五帝座也東南一星曰司空主楚分荆

州

天市垣西蕃十一星第二星曰楚

太平府志 卷之二 星野

東甌五星在翼南

青丘七星在軫東

熒惑為南方為夏山荆揚交州楚吳越以南

星紀鶉尾以負南海主於衡山熒惑位焉

附占候

守軫南方有不

金甌守東甌其地有

彗星明則四發

越家穿胸東甌所鍾

軫星傳軫兩傍轄星遠軫凶轄舉南蠻辰

為風車近轄則和遠轄則訛

七星明則夸兵盛動搖夸兵為亂守常則吉宋天文志

謹按星野之說肇自黃帝嗣是占候之家其說屢驗如

春秋傳梓慎禛龜長宏之屬章矣顧天動物也星隨斗

杓而轉東南西北周流不居何以有一定之分野史遷

世守其官宜必習知其故 其言曰三光者陰陽之精

氣本於地而聖人統理之 亦不過儒者常談至其本

於地而見於天者何以各 不可移易則仍無說

以解也故其分野或以州或 一仍保章之遺法而

不知周及秦漢郡國之廢置不同封域之廣狹亦異猶

曰欲知星文之所係先考郡國之所屬固矣班范因之

是以粵之分野星紀鶉尾說無定指宜其來不知變通

太平府志 卷之一 星野

之譏也惟唐僧一行以兩戒山河之首尾與雲漢之終

始相配又以帝車所直分 之墟又以辰次與節次

相係更於七宿之中分四象中 以上元之首以度數

紀之而十二次以明其於分野之故 為明晰宋蔡戡

主其說以定粵之東界北接吳者係揚 域屬星紀

為斗牛女之分野粵之西界北接楚者 之域屬

鶉尾為翼軫之分野庶可正前史之誤矣顧翼二十二

星計十九度軫六星計十七度截於時為靖江守故於

靖江所屬徇詳以為當 十一度緯書考靈曜云一

度二千八百三十二里有奇則三管之地各以道里計

之皆可得其所屬之某星某要矣今諸郡之志以為統

屬翼軫二考 無 別義亦未安有明之季柳州守

川章世純 羅二子之傳象緯之學最為精邃

所著留書 帙尤富其分野則以武昌漢陽襄陽

德安黃州岳州荊州長沙衡州常德辰州永州承天鄖

陽施州衛永順保靖二宣尉司夔州廉州桂林柳州慶

遠平樂潯州南寧黎平等處為翼之分野以寶慶靖州

郴州太平思明鎮安平茶洞思恩泗城利州奉議向武

都康龍州江州思陵上林安隆思南等處為軫之分野

其於蔡說互有異同然兩家之疎密則必有分矣章之

言曰為天文之學者可以考古不可以據古據古則失

今今之分宮分宿取諸實測不循舊貫蓋西學之於天

太平府志 卷之一 星野 四

文其習之也以眾以世以專所用測天之器又皆吾中

學所未有中國雖有絕世聖人知不能以暫勝久以較

勝專也由是言之其說當必可從又西學為今時所用

故並存之以俟為甘石之學者決擇焉

附載蔡戡分野總論 宋嘉祐元年知靖江府

分野之說肇自黃帝星文之學源于甘石其所從來遠矣

固范曄之說以斗女為吳越分而翼軫為荆楚分凡欲知星

文之所係先考郡國之所屬可也方少康庶子之始封而

忘國也都于會稽其後句踐又以會稽而伯閭王搖趙佗尉

之王也一都東甌一都番禺其地皆北接吳之境土故前代

多以吳越並稱而史或謂之 亦揚州之分也

以以來謂斗牛女為吳越之分野並屬揚州者皆指增之東

以累世立國之地言之至於兩漢地理志遂併以鬱林蒼

所屬之郡在粵之西界者盡為牛女之分野則差之毫釐

而謬以千里矣所以杜祐之作通典歐陽文忠公之志唐書

歐先生之圖指掌皆以為前史之誤也且史記趙佗帝潮

海東西萬餘里而一行三河兩界圖之說則以為自江源

嶺嶠南東及海皆蠻越之地蓋粵之疆場最廣自古謂之

百粵雖東極於會稽而西則抵西南之界其東北界雖接吳

而其西北實抵楚列宿在天所主之分野隨方所向皆當逾

海際天而後止周禮東南為揚州正南為荆州其接吳者為

揚州則星紀之分並在東南方也固不應摯折而西轉以攝

太平府志 卷之一 星野 五

正南之方荆楚之界而并為星紀之分野也且翼軫所向正

南之方亦不應至始安而終止而始安以南遠屬斗牛之分

也通典之說曰按荆州南境至衡山之陽若五嶺之南在

州封域則以鄰接宜屬荆州豈有舍荆而屬揚斯不然矣此

則近史之誤也其大槩以為領南之地分野所屬其西

屬荆州翼軫之次耳唐書天文志曰後世之言星分者據

舊地理推之是守甘石之遺術而不知變通之數東坡指

圖中 天象分野圖亦援唐志之說以為証而唐書地理志

則以韶廣康端封好藤羅雷崖以東為星紀分桂鬱林富昭

家龔綉容白羅以西為鶉尾分又一禪師用李淳風之說

以分野圖云自韶廣康封榕藤羅雷州南及珠崖自北以

星紀其西北屬鶉尾之次以此參

則越之東界

吳者屬星紀實斗牛女之分野而越之西界其北抵楚者屬

鶉尾實翼軫之分野前史之差謬至

而後較然明甚雖然

靖江在唐為桂州屬嶺南道在漢為始安屬零陵郡今支邑

之務浦漢屬蒼梧郡桂林新舊志不益考諸家之說遂以始

安屬荆州為翼軫之分荔浦以南屬越遠以為牛女分蓋承

前史之誤爾按史記句踐滅吳併有其地與中國會盟逮王

無疆時北伐齊西伐楚與中國爭疆其境土之廣可知矣又

按史記楚世家當葬王時楚王熊渠伐庸揚粵至於鄂揚粵

即趙佗傳中所謂揚粵也西漢亦如史記之通用粵越兩字

而互見之也又云封其子為越章王皆在江上楚蠻之地則

楚粵之舊疆不復可以西漢郡縣所分為正矣故翰林承旨

宋公白等七人之續通典亦以桂州為禹貢荆州之域春秋

時越地七國時復為楚戰國時為楚國及越之交境此蓋歷

考前載而其說進退可據若然則靜江府在漢雖屬零陵郡

其實古之越地於星文則皆屬鶉尾荆州之分固不當以始

安荔浦一時之所屬為別也晉志以零陵郡為入軫十一度

而始安屬零陵郡靜江當軫之十一度矣且軫四星之中別

有一星名長沙而禮記正義所引緯書考靈曜云一度二千

九百三十二里有奇軫星共十七度今長沙去此纔一千餘

二十里則靜江當軫之十一度斷可識矣且天文自二十八

宿之外其星有專主下土者不特長沙也

太平府志 卷之一 星野 六

太平府志卷之二

天文

氣候

太平僻處炎荒氣候與中土迥異正二月間天氣晴暖土

人即袒裼科跣二月內竟有與中土伏天相似者四五六

月濕熱之氣炎熾燄房帷几案間儼如嵐霧熏蒸逼人

不可嚮邇秋月溽暑更甚絕無清涼之氣冬天亦煦燠居

多從無霜雪草不乾枯木鮮凋落惟風雨連朝積陰成寒

則不拘時令莫不皆然諺曰四時皆似夏一雨便成冬信

哉余謂氣之寒燠視平日之遠近日近則燠日遠則寒理

固然也冬月日行南陸粵西與日較近常考夏至時京師

晝長六刻餘分夜短六刻餘分冬至時粵西晝長六刻餘

分夜短六刻餘分此則遠近之明徵矣太平距桂林千有

餘里為粵西極南之地冬月與日更近宜其窮臘之際小

寒而多燠也

太平所屬多深山密箐其間垂蛇草木之毒鬱結熏蒸遂

成瘴癘又巖洞溪壑間其氣如絲如縷如霧如雲聞之或

香或酸或如嚼米飯之氣或有焦臭之味者皆瘴也二

月青草瘴 黃梅瘴六七月新禾瘴八九月黃茅瘴

又曰桂花 瘴各邇郡城地方居民稠密

視他處為稍減流屬之左州永康風氣與郡城異惟善

利瘴癘時作然較之

各土司中亦有大明

如思明府州太平恩城... 氣候與流屬等而安平萬城龍英上下凍患祥天之最... 者則三結兩茗上下右鎮遠思陵等州此九屬者惟冬月... 及春初差可居守自二月至八月則天氣之酷熱水土之... 惡毒誠非人所能居者矣此太平流土各屬氣候之大略... 也

李西美曰南方地卑而土薄土薄故陽氣常泄地卑故陰... 氣常盛陽氣泄故四時常花三冬不雪一歲之中暑熱過... 半人居其間氣多上蒸膚多汗出腠理不密蓋以一反本... 而然陰氣盛故晨昏多霧春夏雨淫一歲之間蒸濕恒多... 衣服皆生白醜人多中濕肢體重倦成脚氣等疾蓋陰氣

太平府志

卷之二 氣候

二

常盛而然此概論嶺南風氣也太平為粵西極邊地愈卑... 土愈薄濕燠尤甚土著之人習而不覺至仕宦商旅驟至... 其地一中其毒即成疾病藥石無所施吁可畏也惟有... 重起居毋早行毋晝寢毋深夜露坐節飲食而不傷饑... 謹嗜好而無縱淫慾則調攝得宜精神內固雖有瘴氣... 能侵害不然其能免于疢癘天札之傷哉

太平一日之間具四時之氣亦由陰陽不和時令不正故... 也諺曰亟脫亟著勝以服藥此雖俗談然此方要訣

麗江由交趾流入內地春夏大雨... 各毒物沫滯積毒衝入于江... 汲井水飲之

太平原屬... 齊不涉洩志氣先壞精神因而不振積憂成病無怪... 選者之少也不知瘴雖能殺人人之正氣足以勝之亦... 斷不能作祟况乎宦途多瘴豈必窮荒退裔始有瘴哉

昔宋梅華出知昭州嘗曰仕有五瘴急徵泉欲削下奉... 上租賦之瘴也深文以逞良惡不白刑獄之瘴也晨昏... 則宴廢弛工事飲食之瘴也侵漁民利以實私儲貨財... 之瘴也盛陳姬妾以娛耳目帷簿之瘴也有一于此民... 怨神怒安者必疾疾者必殞雖蠶鼓之下亦不能免何... 但遠方仕者苦不自知歸咎于瘴非也識者以為確論... 宋紹聖二年鄭浩以直諫得罪除名羈管新州其友田

太平府志

卷之二 氣候

三

晝迎諸途流涕曰新州瘴地何可以居晝正色責之... 曰使君隱默官京師遇寒疾不汗五日死矣豈獨嶺外... 能死人哉願君毋以此自悔浩茫然自失曰君賜我厚... 矣及建中靖國間召還侍從又以直言不容于朝再謫... 嶺表而氣不為之少挫久之遇赦得歸由此觀之則是... 瘴能害小人不貶害君子明矣况近來風氣日開我朝

列聖相承重熙累洽之後生齒繁盛仁恩洋溢感天和而迎... 善氣雖在蠻煙瘴雨之鄉亦駸駸乎太和之氣充周翔... 洽矣尚何瘴癘之足畏耶曩者所傳不無過實使人望... 而生畏故為辨之以告後之官斯土者無先... 可也 太平府志卷之二

太平府志卷之三

地輿志序

太平古交趾地史稱瓚項巡歷所至書稱堯命羲叔之所宅也依古以來已通中國其在禹貢蓋揚荆之微要荒之服殆與冀之島夷青之萊夷徐之淮夷梁之和夷西傾因桓雍之織皮崑侖折支渠梭同一例焉以在五嶺以南距海最近故不載其山川而物產貢道悉書于冊示大一統無外之義也周禮內地掌之大司徒外地掌之職方蓋亦內揆文敷外奮武衛之遺意此則八蠻之屬固亦職方所掌後乃棄之以與駱越自漢馬援既平嶠南立銅柱于此境之南以表漢界則此已屬內地厥後更隸不常兩江谿峒唐以羈縻處之宋立太平府志

卷之三 地輿志序

一

太平府志卷之三

地輿

繪圖

周禮大司徒以天下土地之圖周知九州之地域廣輪之數辨其山林川澤丘陵墳衍原隰之名物蓋幅員既廣耳目難周而於圖而求則千里之地尺幅可竟此漢蕭何收秦圖籍固知天下阨塞廣遠誠得其要者也太平雖荒蕪廣袤將及千里且流土之錯雜中外之界限所關甚重固之不容緩也後之守土者欲因地制宜斟酌損益以施政令而嚴防範於圖具在其可資省覽乎

圖經善通志圖經內界至道里頗多外編茲悉為校正

太平府志

卷之三

繪圖

一

太平府東至南寧府二百五十里西至交趾界二百五十里南至土忠州界七十里北至思恩府八百五十里自府治至桂林陸路一千二百八十里水路二千四十六里至京師八千七百四十里領州三縣一土府一土州十八土縣二土巡檢司二附郭曰崇善縣東北則左州永康州羅州土縣其正北則養利州萬承土州稍遠者曰茗盈土州茗土州都結土州結安土州信倫土州太平平安恩城英鎮遠五土州在其西北其西南則思明土府州上下西州憑祥土州思陵土州上下二土龍司正南曰土江州南而稍東曰羅白土縣又正西曰上下凍土州蓋太平郡流土交結山園水繞其邊障拱護者皆皆良為

發源于交趾之廣源至憑祥西平公隘入中國界歷龍州  
思明逶迤而來環繞府治是為麗江雁右江于宣化縣之  
合江鎮歷潯梧東入于南海焉壤連交趾鎮南大關在其  
境內為開關納貢之孔道設治于斯內以防察土官外以  
控制交彝誠左江之鎖鑰邊陲之藩蔽云

附載楊芳太平府圖說 明都御史

大平古交趾地也據青連山之陽麗水旋折四交若壺因號  
壺城城後諸山聯絡隱約類蠶蓋益五嶺以西一重障也  
遼郡皆土蠻雖始多逆命倔強然既改土為流虎符朝至  
而夕即赴焉無敢後先與中州無以異况無徭徭諸種之  
雜土民自耕而自守無所謂召募之兵而亦無所事于兵  
也壺城之以太平名其有自耶獨養利孤懸于土蠻中四  
無唇齒之附時罹侵掠不得不早為之備而上下東及安  
平之古磴等險則境與交趾鄰邇即未嘗有虞而防周于  
意外其可以漫自委云耶

太平府志

卷之三

繪圖

二

太平府志卷之三終

太平府志卷之三

地輿

輿圖

太平府志

卷之三

輿圖

太平府屬

州三 東至南寧府三百五十里至甯井界止三百三十里

轄土府

土州六 土巡司二

至香陸路千三百八

十二里水路二千零

四十二里

甯井界

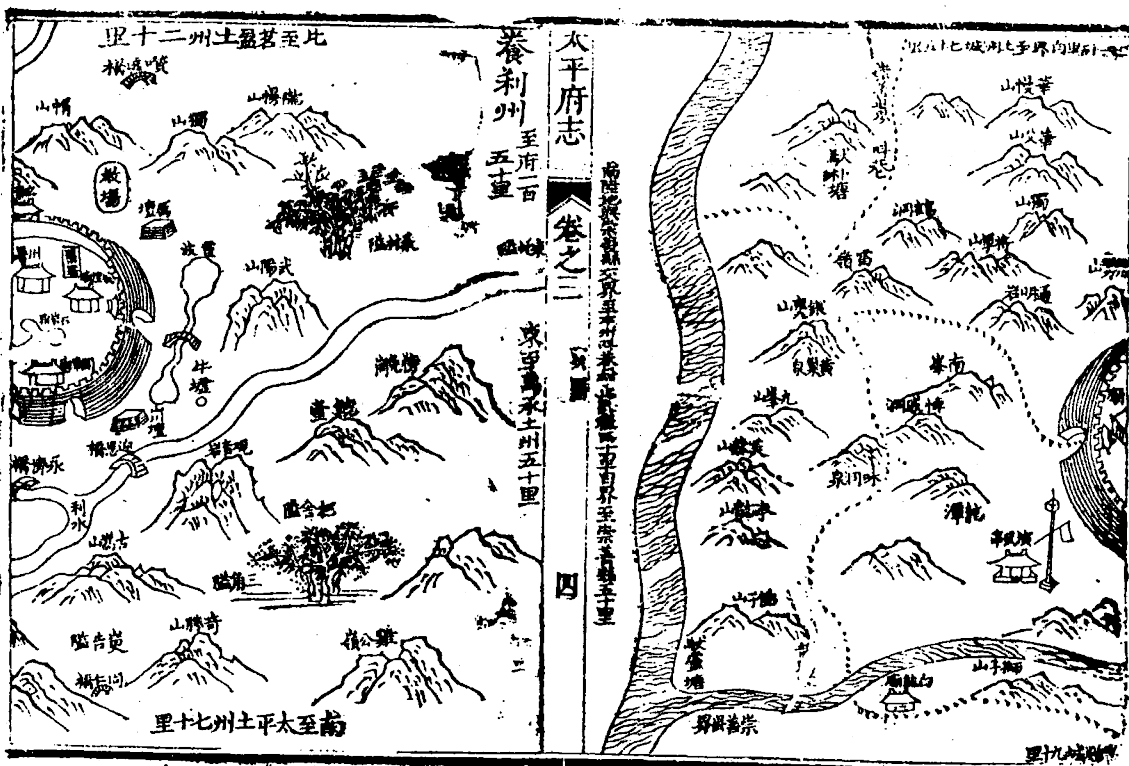
關石時雷



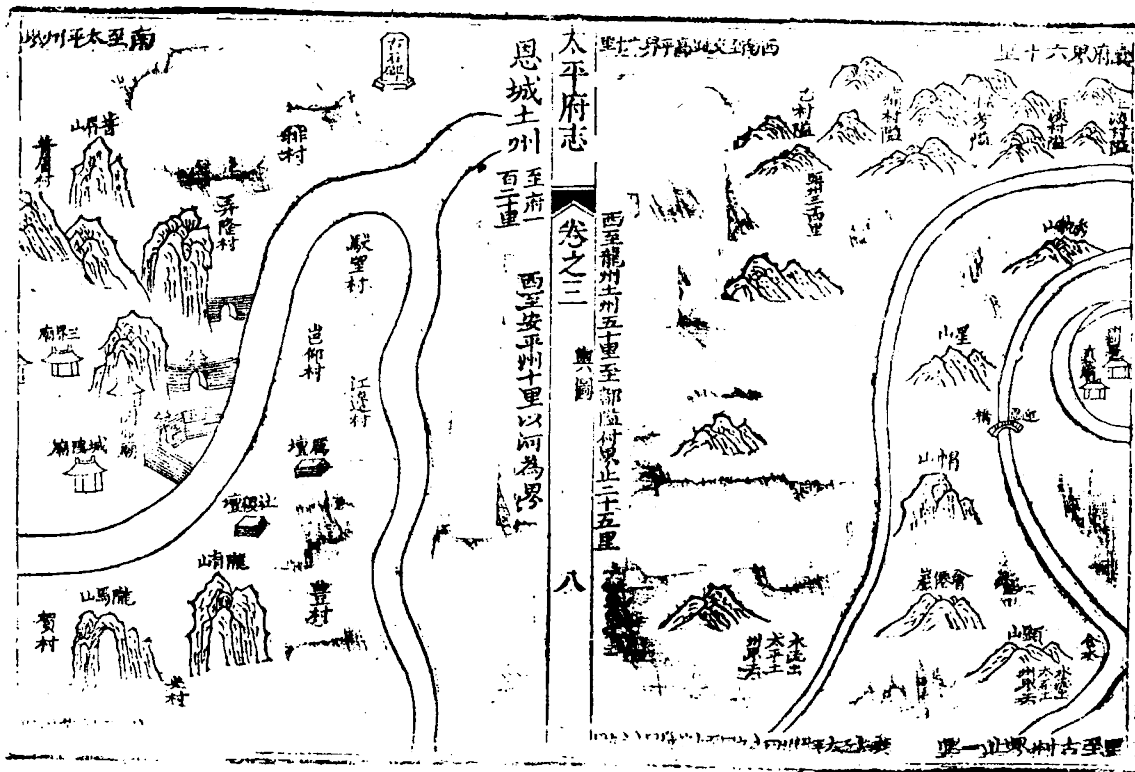
南至羅白縣土接甯南府州山城界止十七里

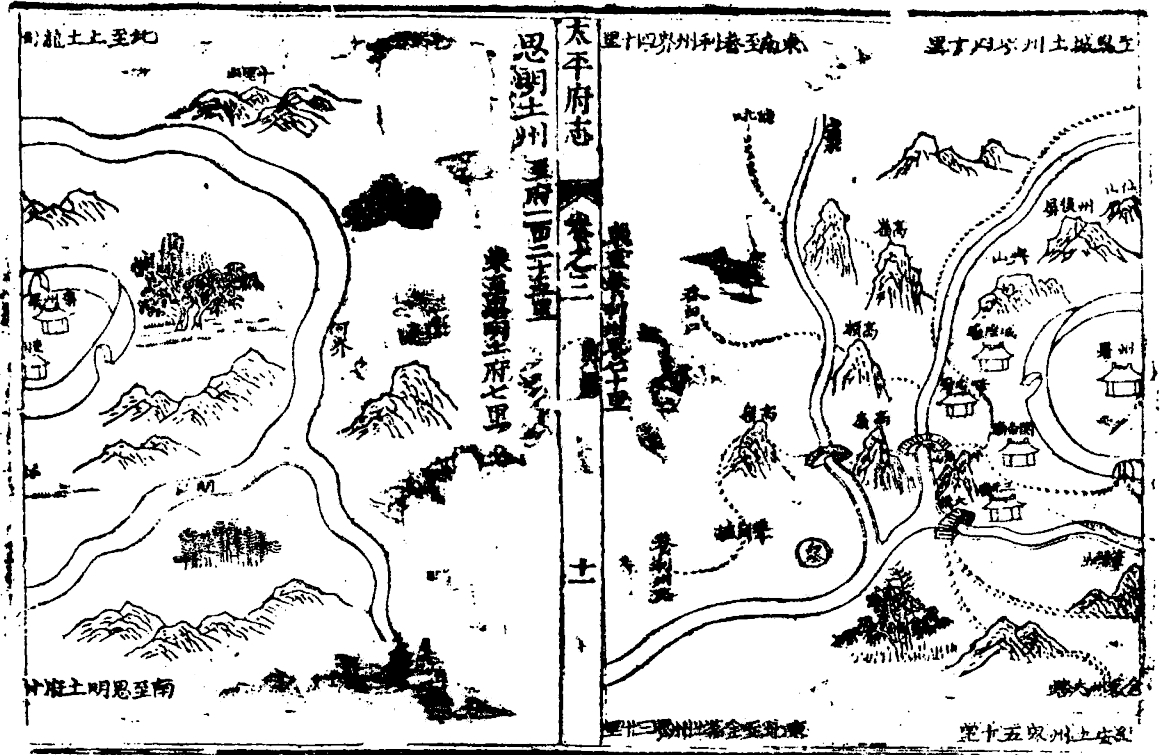
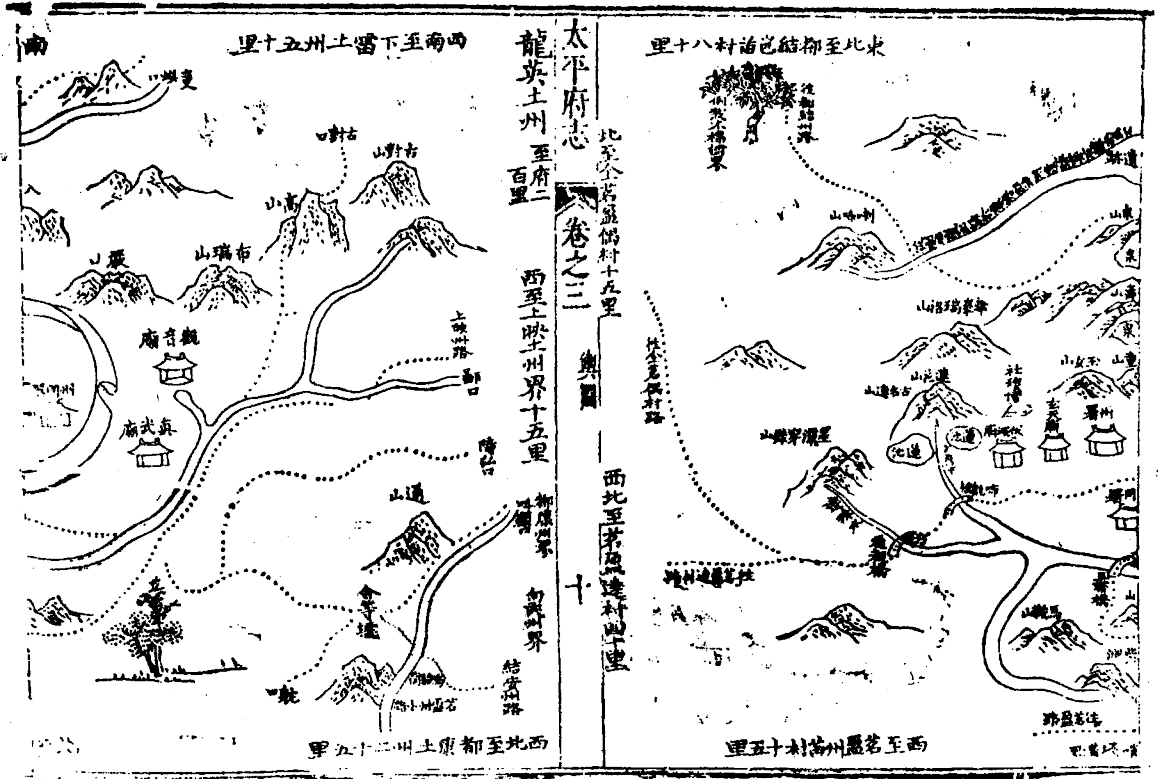














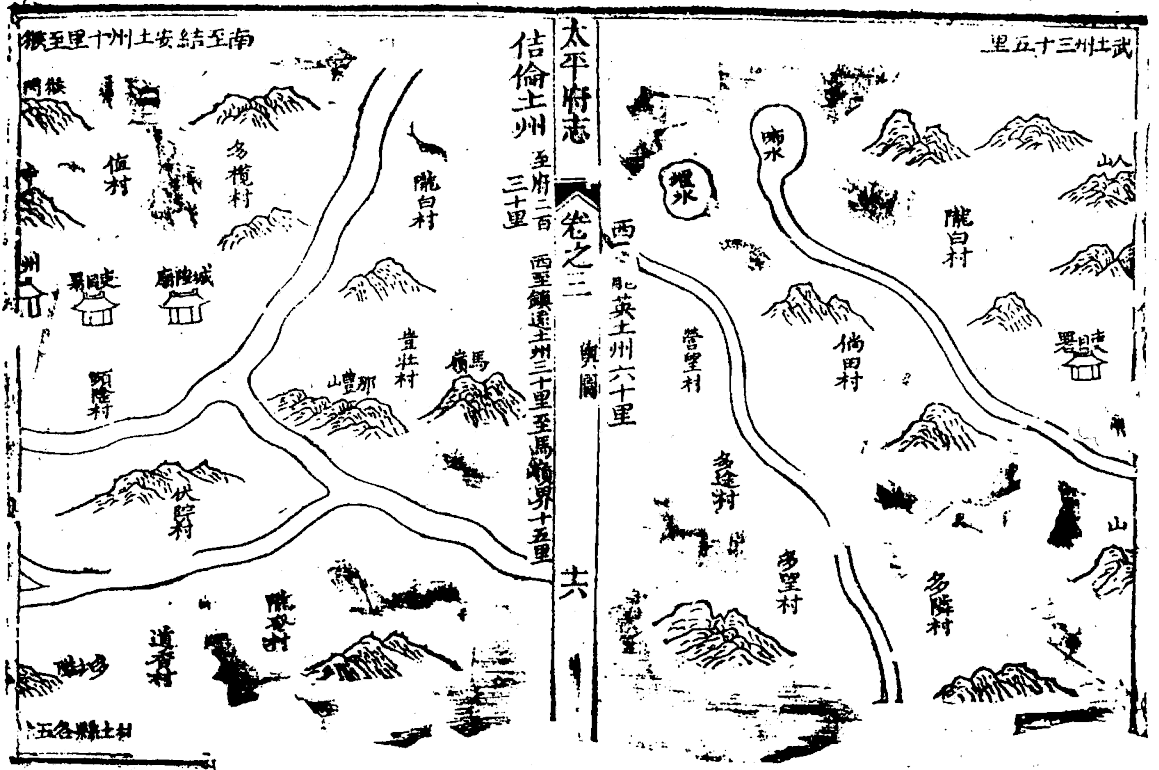
太平府志  
卷之三  
輿圖  
十二



太平府志  
卷之三  
輿圖  
十三







太平府志

卷之三

輿圖

六

信倫州 至府三百 西至鎮遠州三十里至馬嶺界五里

武州三十里五

南至結安州十里至

門山八里



太平府志

卷之三

輿圖

七

都結州 至府三百 西至結安州一百二十里

門山八里

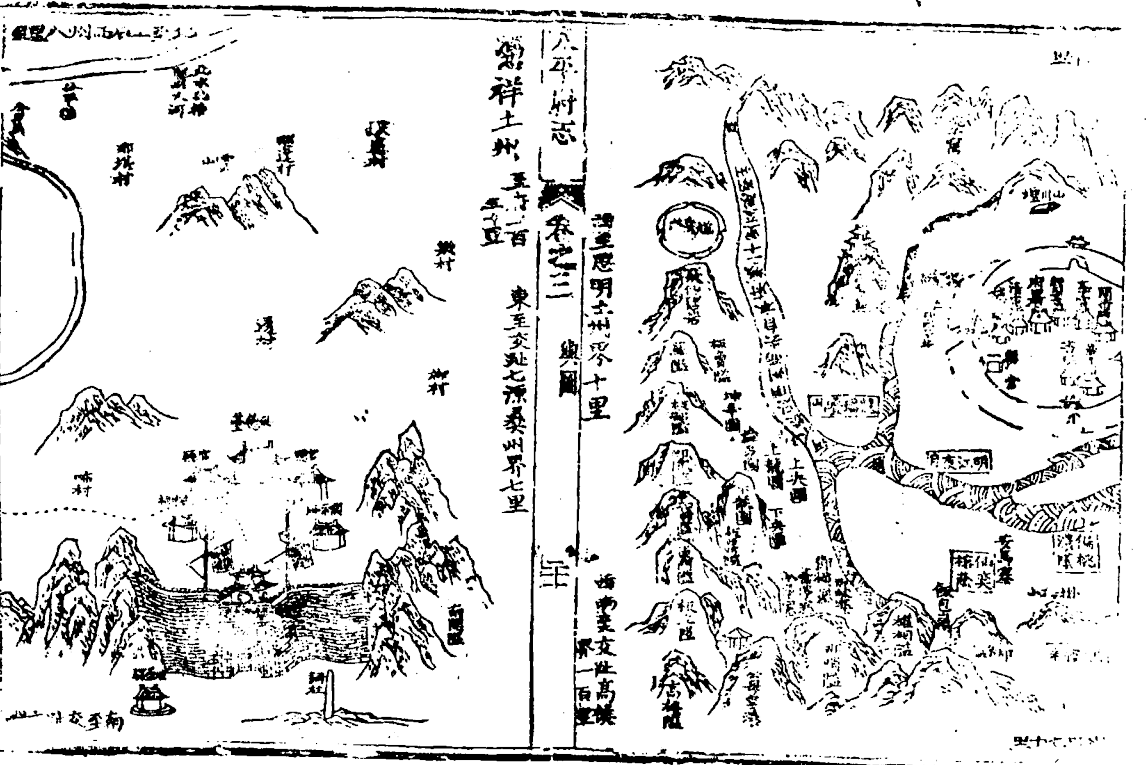
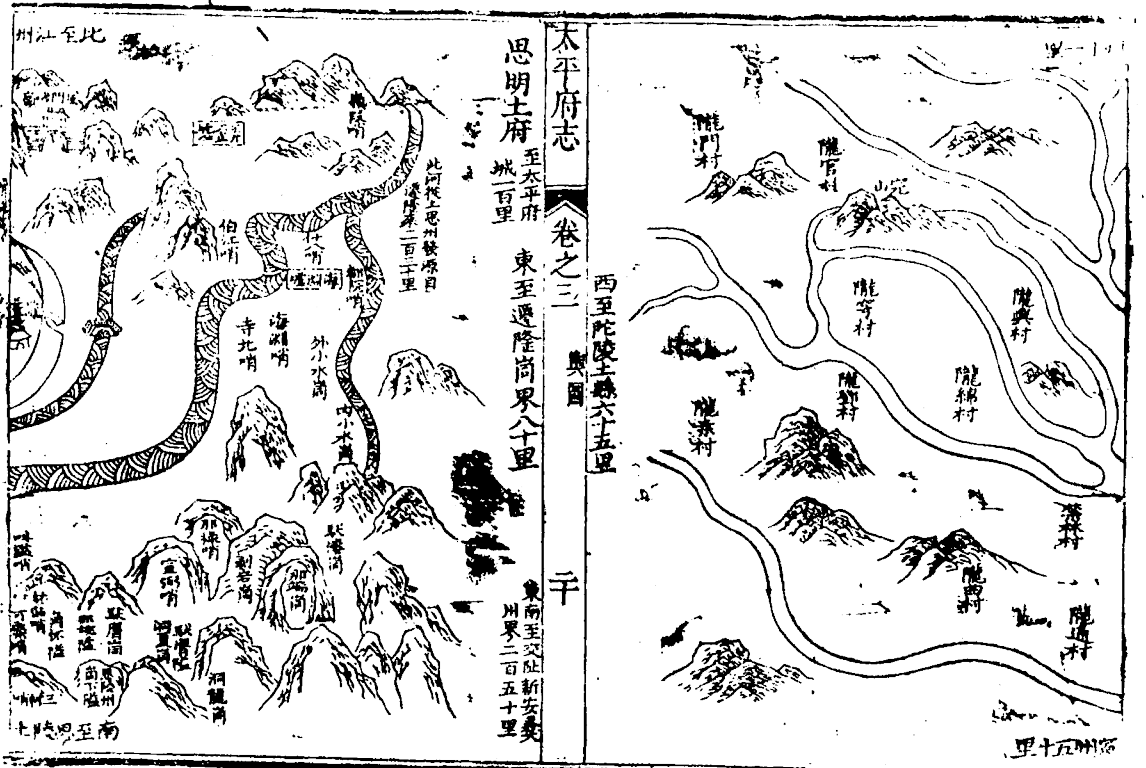
南至

東至化州一百二十里

門山八里



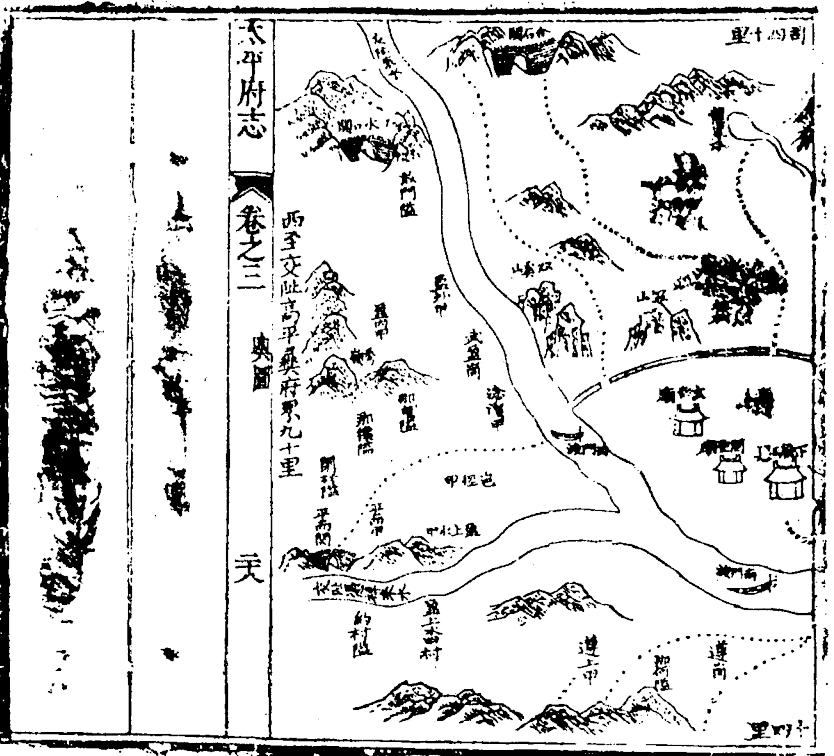












太平府志卷之四

地輿

沿革

太平府為禹貢荊州西南境古交趾西原地唐虞三代皆為  
 荒服周顯王時楚滅越越之族散處江南海上有甌越  
 路越揚越各為君長最為蕃衍號稱百越太平其駱越  
 也秦始皇時南取百越之地以為桂林象郡象郡今廣  
 東廉州府  
 太平去象郡不遠其地屬  
 平南越分其地為九郡  
 來沒於西原夸獠居之  
 初置左江鎮分領諸蠻州屬邕州都督府蠻州有六

太平府志

卷之四

沿革

曰思同今併入萬形今併入萬眾波州今分為太平  
 永康萬承州思誠是也今改為時太平附於六蠻州內德宗年

為西原黃峒酋黃世卿所陷世卿死子倡侃以鎮地

邕州宋仁宗時陷於廣源州蠻儂智高朝命欽

皇祐五年廣南平乃于左右二江溪峒立二

又名武寨治在左二古萬治在左三遷今為南甯  
 州境

平明境治在思五橫山治在田各領州縣屬邕

節度太平寨領十一州六峒州係太平  
 州係太平

東州鎮遠思明十一州峒係龍英元世

隆州懷恩安峒結安渠望六峒

平寨為太平路轄十九州四縣州係太平  
 州係太平

龍英懷恩上凍下凍州係太平  
 州係太平

右萬寨及割遷降寨之半入之命黃李二姓土官  
管領上二十三州縣順帝至正十九年上思州苗苗

行叛奪路印遷路之於獻盧國又以兵侵之

佛壽與父昌郭敗走龍州明洪武元年平章

廣西以兵徇左右江英行懼奉印納款詔改太平

太平府以左州養利太平安平萬承恩城合上思  
恩誠為

改爲龍英上下凍合上下凍  
為一州若盈全若佶倫結安

鎮遠思同十五州及崇善永康陀陵羅陽四縣隸之

以英行知府事二年佛壽與父昌郭歸自龍州以兵逐

之英行愬于廣西行省捕佛壽殺治流山陽縣英行罪

亦當誅以納款故得貸死舉族移泰州于是改銓流官

太平府志

卷之四

沿革

二

知府三年復遷府治還麗江至宣德後崇善養利左州

永康先後改流萬歷十年又以思明州隸本府等又以

永康縣陞為州省思同州地入之終明之世太平所屬

一流縣三流州崇善縣左州永康州養利州十三土州

太平安平萬承龍英恩城上下凍思明州全若若盈

結結安佶倫鎮遠二土縣羅陽縣陀陵縣共十九屬

思明土府江州龍州 祥思陵上石西下石西六土州

羅白土縣雖糧編附南寧府徵收仍屬本府提調我

朝順治十六年

天兵南下各土府州縣奉印納款

朝廷嘉其向化仍予世襲制因前代厥後思明府八屬土府

州縣糧科直隸不受提調知府馬正午具文申報奉藩

司轉詳兩院批允削去直隸歸轄太平府其錢糧仍編

南寧督徵至康熙二十八年陀陵縣黃姓土官故絕奉

文改流以地併入永康州至雍正三年龍州土知州趙

殿烜貪婪奏革 題請分為上下二土龍司改設土巡

檢二員仍擇趙姓近支趙陞趙鼎二人承襲凡領州三

縣一土府一土州十八土縣二土巡檢司二

崇善縣 左州 養利州 永康州

太平土州 安平土州 萬承土州 龍英土州

恩城土州 若盈土州 全若土州 佶倫土州

結安土州 都結土州 鎮遠土州 上下凍土州

思明土府 思明土州 上石西土州 下石西土州

思陵土州 憑祥土州 土江州 羅陽土縣

羅白土縣 上土龍司 下土龍司

崇善縣本西原農向地古名崇山漢屬交趾郡唐屬邕州都

督府宋皇祐五年始建為縣隸古萬寨統屬邕州元隸

太平路明隸太平府宣德三年土官趙暹謀逆督府奉

命剿之遂改流八年始除流官嘉靖十九年遷附南寧

縣在府治北六十里二量地方時本道翁萬達知府江

一桂知縣陳景文議以本府親領三廩及取復龍州所

侵一十八村地入之共編戶三箇

本朝因之

太平府志

卷之四

沿革

三

左州本西原黃岡地古名左陽漢屬交趾郡唐置左州屬

州都督府左州居六蠻州之一宋隸古萬寨屬邕州元

隸太平路明隸太平府成化初土官黃昂絕十四年始

改土為流宏治三年土人黃金謀復土官遂作亂殺州

目黃文通及其子武尋捕獲下獄死正德十五年有韋

廣明復冒黃姓捏疏于朝求復土職知府鄧炳訊得其

詐繫獄死其弟廣隆復攻州城縛從官脅取州印奔下

雷岡將聚兵據州以復土官督府檄知府遣龍英土官

趙元瑤萬承土官許世忠往討之元瑤購得廣隆杖殺

之盡索其黨置諸法左州始平其州治原在思崖村邑

侶墟周演地改流後遷于龍村正德十五年知州李欽

太平府志

卷之四

沿革

四

承復遷于古攬即今之州治也編戶四畝

後利州本西原農岡地古名歷陽漢屬交趾郡唐末始置州

屬邕州都督府宋隸太平寨統屬邕州元隸太平路明

隸太平府宣德三年土官趙文安侵暴鄰境殺戮良民

督府捕逮以罪誅滅六年改銓流官同知判官吏目以

理州事成化間知府韓廷疏言其非便再為裁去同知

判官設知州編戶二里

本朝因之

永康州本西原黃岡地古名康山漢屬交趾郡唐屬邕州都

督府宋皇祐五年始置縣隸遷隆寨統屬邕州元隸太

平路明隸太平府宣德九年土官楊瓊以罪誅滅成化

八里山土官流編戶一里萬歷二十七年思同土州

絕以地歸併遂陞縣為州合思同州地共編黃三里

因之康熙二十八年又以陀陵縣土官黃金鼎故絕之

地無併編立兩番共為五里

太平土州本西原農岡地古名瓠陽漢屬交趾郡唐為波州

居六蠻州之一領于邕州都督府宋皇祐五年析其地

為太平安平二州隸太平寨統屬邕州元隸太平路明

隸太平府

本朝因之佐以流官吏目雍正四年改吏目為州同

安平土州本西原農岡地古名安山漢屬交趾郡唐為波州

居六蠻州之一領于邕州都督府宋皇祐五年析其地

太平府志

卷之四

沿革

五

為安平太平二州隸太平寨統屬邕州元隸太平路明

隸太平府

本朝因之佐以流官吏目雍正四年改吏目為州判

萬承土州本西原農岡地古名萬陽漢屬交趾郡唐建萬承

萬形二州居六蠻州之內領于邕州都督府宋皇祐五

年併萬形之地入之隸太平寨統屬邕州元隸太平路

明隸太平府

本朝因之佐以流官吏目雍正四年改吏目為州同

龍英土州本西原農岡地古名英山漢屬交趾郡唐屬邕州

都督府宋置為崗隸太平寨統屬邕州元建為州

平路順帝至正十九年割龍岡地入之為萬

復改爲州益以上懷州地隸太平府

本朝因之佐以流官吏目雍正四年改吏目爲州同

恩城土州本西原農崗地古名思上漢屬交趾郡唐置思誠

州居六蠻州之一領于邕州都督府宋分爲上思誠下

思誠二州隸太平寨統屬邕州元世祖十五年以二州

隸太平路順帝至正十九年始併爲一州明洪武二年

錫印改爲恩城隸太平府

本朝因之佐以流官吏目

茗盈土州本西原農崗地古名舊崗漢屬交趾郡唐屬邕州

都督府宋建爲州隸古萬寨統屬邕州元隸太平路明

隸太平府

本朝因之佐以流官吏目

全茗土州本西原農崗地古名連崗漢屬交趾郡唐屬邕州

都督府宋建爲州隸古萬寨統屬邕州元隸太平路明

隸太平府

本朝因之佐以流官吏目

信倫土州本西原農崗地古名那地漢屬交趾郡唐屬邕州

都督府宋皇祐五年置安崗隸太平寨統屬邕州元改

爲信倫州隸太平路明隸太平府

本朝因之佐以流官吏目

結安土州本西原農崗地古名營周漢屬交趾郡唐屬邕州

都督府宋皇祐五年置結安崗隸太平寨統屬邕州元

改爲州隸太平路明隸太平府

本朝因之佐以流官吏目

都結土州本西原農崗地古名思望漢屬交趾郡唐爲焉麻

州屬邕州都督府宋皇祐五年置渠望峒屬太平寨統

屬邕州元始置州改爲都結隸太平路明隸太平府

本朝因之佐以流官吏目

鎮遠土州本西原農崗地古名古龍漢屬交趾郡唐屬邕州

都督府宋皇祐五年始置州隸太平寨統屬邕州元隸

太平路明隸太平府

本朝因之未設吏目

上下凍土州本西原農崗地古名凍江漢屬交趾郡唐屬邕

州都督府宋皇祐五年始置凍州隸太平寨統屬邕州

元分其地爲上凍下凍二州隸太平路順帝至正二十

年二州土官叛命龍州土官弟趙帖從征之遂併二州

爲上下凍州以帖從知州事隸龍州萬戶府明隸太平

府

本朝因之未設吏目

思明土府本西原黃峒地漢屬交趾郡唐置思明州屬邕州

都督府宋隸永平寨統屬邕州元世祖至元二十四年

置思明路明洪武元年改爲思明府領思明土石下石

忠州憑祥五州尋因上陵下替以其府改隸太平府

本朝因之設流官同知經歷教授訓導各一員



思明土州本西原黃峒地古名明江漢屬交趾郡唐屬邕州

都督府宋置州稱爲下思明州屬太平寨統屬邕州元

屬思明路明屬思明府萬歷十年改屬太平府

本朝因之康熙五十八年土官黃而芸貪殘不法奏革改歸

太平府管理仍以吏目駐劄其地

上石西州本西原峒地漢屬交趾郡唐始置石西州屬邕州

都督府宋仁宗嘉祐年間分爲上石西州隸永平寨統

屬邕州元隸思明路明隸思明府成化年間土官趙鳴

時故絕改銓流官天啟三年知州呂爾施以州治僻小

水土險惡由詳兩院罷銓知州以地歸併太平府通判

恭管

太平府志

卷之四

沿革

八

本朝因之

下石西州本西原峒地漢屬交趾郡唐置石西州屬邕州都

督府宋仁宗嘉祐年間分爲下石西州隸永平寨統屬

邕州元屬思明路明屬思明府後改屬太平府

本朝因之佐以流官吏目

思陵土州本西原峒地漢屬交趾郡唐屬邕州都督府宋置

爲州隸永平寨統屬邕州元屬思明路明隸思明府

本朝因之未設吏目

憑祥土州本西原峒地漢屬交趾郡唐屬邕州都督府宋置

憑祥峒隸永平寨統屬邕州元屬思明路明洪武十八

年置爲憑祥鎮永樂二年改爲縣成化十八年陞爲州

屬思明府後改屬太平府

本朝因之佐以流官吏目雍正四年改吏目爲州判

州土州本西原峒地古名江陽漢屬交趾郡唐屬邕州都

督府宋皇祐五年始置州隸古萬寨統屬邕州元隸太

平路明洪武二十年改直隸布政使司後仍屬太平府

朝因之佐以流官吏目雍正四年改吏目爲州同

羅陽土縣本西原黃峒地古名福利漢屬交趾郡唐屬邕州

都督府宋皇祐五年置爲縣隸遷隆寨統屬邕州元隸

太平路明隸太平府

本朝因之佐以流官典史

太平府志

卷之四

沿革

羅白土縣本西原峒地漢屬交趾郡唐隸邕州都督府宋

爲縣隸遷隆寨統屬邕州元附江州屬太平路明屬江

州後屬太平府

本朝因之未設典史

上下二土龍司本西原峒地漢屬交趾郡唐屬邕州都督府

宋皇祐五年始置龍州隸太平寨統屬邕州元大德中

陞爲龍州萬戶府明復爲州洪武八年改直隸布政使

司後仍屬太平府

本朝因之佐以流官吏目雍正三年以上知州趙殿烜貪殘

奏革部議析其地爲上龍司下龍司改設兩巡檢仍擇

趙姓近支二人承襲其原設吏目裁汰

謹按太平為粵西極邊之郡禮職方所不載惟考之  
 于中炎帝神農氏益修厥德至交趾莫不從化是茲  
 土之通中國其來遠矣秦開象郡猶蕞蕪也即漢武之  
 設九郡亦一假唐太宗之諭馮盎狄宣撫之討  
 儂酋事平約亦無非羈縻之而已至明洪  
 武始改太平為府  
 次第改流太平一郡教化好  
 勤加富加教而百廢俱興凡厥土司

府志卷之四終

太平府志卷之五

地輿

疆域

太平府北至京師八千七百里至廣西布政司陸路一千二  
 百八十二里水路二千零四十六里東至南寧府二百五  
 十里至宣化縣塘井界止二百三十里西至上下凍生州  
 布局山接交趾莫奔界二百五十里南至羅白土縣接南  
 寧府忠州土州山墟界七十里北至思恩府八百五十里  
 至上映土州伏引村界止二百二十里五里領州三縣土  
 府一土州十八土縣二土巡檢司  
 崇善縣附東至南寧府新寧州二百里至潯瀆村界止八十里  
 太平府志 卷之五 疆域  
 里西至上土龍司一百八十里至馱皮村界止五十五里  
 南至江州土州三十里至佛子舖界止五里北至左州  
 百里至琴榔村界止五十六里附至羅白土縣五十五里  
 至沿井墟界止三十五里西北至太平土州一百里至慶  
 村界止九十里編戶三里  
 左州至府城九十里東至舊陀陵土縣三十五里至儂里村  
 界止四十里西至太平土州一百一十里至立村隘界止  
 三十五里南至崇善縣九十里至琴榔村界止四十四里  
 北至舊陀陵土縣三十六里至龍村界止十五里編戶四  
 里  
 養利州至府城一百五十里東至萬承土州五十里至凍

界止十八里西至龍英土州七十里至排村界止二十五里南至太平土州七十里至檀村界止三十里北至茗盈土州三十里至念村界止十里西北至龍英土州九十四里至通村界止二十四里編戶二十里

永康州至府城二百里東至南寧府隆安縣一百三十五里至登高村界止五十五里西至萬承土州六十里至巖碑坑界止四十里南至羅陽土縣十一里至汪密村界止三千里北至南寧府果化土州三十五里至楞佛村界止二十里編戶三里

萬承土州至府城一百五十里東至隆安縣東灣村八十里東南至永康州禁扣村八十里西至茗盈土州苗村十五里

太平府志 卷之五 疆域

二

里西南至養利州凍村十五里南至舊陀陵土縣八十里至姜門村界止十八里北至全茗土州十五里西北至茗盈達村界四十里東北至都結土州邑苗村八十里

太平土州至府城一百一十里東至左州七十五里至立村隘界止四十里西至安平土州四十九里至上貴村界止三十里南至崇善縣一百一十里至慶村界止二十里北至養利州五十里至檀村界止二十里西北至恩城土州三十里至馱望村界止十五里西南至下土龍司九十里至容村界止三十里

安平土州至府城一百里東至恩城土州十一里至古村界止一里西至儂村接交趾高平彞府界六十里南至下土

龍司五十里至都隆村界止二十五里北至南寧府下雷土州六十里至古州基界止二十五里東南至太平土州四十九里至上貴村界止十九里

龍英土州至府城二百里東至養利州九十四里至通村界止七十里東北至全茗土州界三十里西至思恩府上映土州四十里至伏引村界止十五里南至恩城土州七十里至郭村界止四十里西北至思恩府都康土州三十八里至黎塘村界止二十五里東南至養利州九十四里至通村界止四十里北至結安土州六十里至黃答村界止五十里西南至南寧府下雷土州五十里至龍村界止二十里

太平府志 卷之五 疆域

三

恩城土州至府城一百二十里東至養利州四十五里至排村界止二十里西至安平土州十一里至古村界止十里南至太平土州三十里至馱望村界止二十里北至龍英土州七十里至郭村界止三十里

都結土州至府城三百三十里東至南寧府隆安縣界四千里西至結安土州一百二十里至邱湯崗界止六十里南至茗盈土州四十里至甘崗村界止十五里北至估倫土州一百里至勾繁崗界止六里東南至萬承土州十二里至鮑隘界止五里

結安土州至府城二百二十里東至怡倫土州五里至候村界止二里西至龍英土州六十里至黃答村界止二十里

南至都結土州六十五里至湯回界止五里北至思恩府向武土州三十五里至寧崗界止十五里東北至鎮遠土州三十五里至仰村界止十五里

上下凍土州至府城二百二十里東至下土龍司八十里至

甌省村界止六十里西至嘯局山接交趾莫彝界三十里

南至下土龍司二十里至羅回崗界止十五里北至下土

龍司二十四里至武盈崗界止六里

估倫土州至府城二百三十里東至都結土州八十里至勾

繁嶺界止二十里西至鎮遠土州二十里至那豐村界止

十五里南至結安土州十里至猴頭山界止八里北至向

武土州上林土縣各五十里至多扒隘界止三十里東北

太平府志

卷之五

四

至果化土州一百一十里

全茗土州至府城一百六十里東至茗盈土州二里至孟村

界止半里西至龍英土州二十五里至斗村界止二十里

南至茗盈土州四里至旺村界止三里北至龍英土州四

十五里至怵村界止二十里

茗盈土州至府城一百六十里東至萬承土州四十里至達

村界止三十里西至全茗土州二里至孟村界止半里南

至養利州三十里至唵村界止二十里北至都結土州四

十三里至甘崗村界止三十里

鎮遠土州至府城二百八十里東至估倫土州三十里至那

豐村界止八里西至思恩府向武土州三十里至武林村

界止二十里西至結安土州三十里至仰村界止十里

思恩府向武土州四十五里至江口村界止十里

思明土州至府城一百二十里東至思明土府七里至過河

界止三里西至下石西土州三十里至小溪界止二十五

里南至思明土府十三里至四寨界止八里北至上土龍

司四十里至十里山界止十里

羅陽土縣至府城二百里東至南寧府宣化縣五十里至雷

井界止三十里西至舊陀陵土縣六十五里至六合村界

止三十五里南至南寧府新寧州五十里至播諸石圍界

止三十里北至永康州十一里至汪密村界止八里

思明土府至府城一百里東至南寧府遷隆崗一百二十里

太平府志

卷之五

五

至華陽村界止八十里西至思明土州十里西北至下龍

司界四十里南至思陵土州一百二十里至辦強崗界止

七十里東北至忠州土州界九十里東南至交趾彝界

二百五十里北至江州土州一百三十五里至騰歪村界

止四十里西南至交趾高樓界一百里

上石西土州至府城一百七十里東至下石西土州八里

宋崗界止三里西至交趾文淵彝州界三十里南至憑

土州八里至中柳村界止五里北至下土龍司二十五里

至嘯龍崗界止二十里

下石西土州至府城一百六十里東至思明土州三十里至

小溪界止五里西至上石西土州八里至宋崗界止五里

南至上石西土州一十里上獨村界止七里北至下  
司十四里至舊州崗界止八里

思陵土州至府城二百里東至思明土府一百里至武德崗  
界止六十里西至交阯高樓彝州界四十里南至交阯黎  
彝碌州界三十里北至思明土府一百二十四里至辦強  
崗界止四十四里

憑祥土州至府城二百三十里東至交阯柴源彝州界七里  
西至交阯琴灣彝州界五里南至交阯文淵彝州界三十  
里北至上石西土州八里至中柳村界止三里

江州土州至府城二十五里東至羅白土縣三十里至武黎  
崗界止十里西至上土龍司二百二十里至渠蓬村界止  
太平府志 卷之五 羅城 六

九十里南至思明土府一百三十五里至廳歪村界止一  
百里北至崇善縣二十五里至佛子舖止二十五里

羅白土縣至府城五十里東至南寧府新寧州五十里至佛  
子堡界止三十里西至江州土州三十里至武黎崗界止

二十里南至南寧府遷隆崗四十里至咻弄村界止二十  
里北至崇善縣五十里至沿井墟界止十五里東南至  
寧府土忠州三十五里至山墟界止二十里

上土龍司至府城一百八十里東至崇善縣一百八十里  
賦皮村界止一百三十里西至交阯高平彝府界一百  
十里南至下土龍司四十里北至安平土州一百二十

東北至太平土州一百二十里西北至高平彝府界

里東南至思明土府八十里西南至上下凍土州五十里  
下土龍司至府城二百三十里東至思明土府九十里西至  
交阯高平彝府界九十里西北至上下凍土州四十里南  
至下石西土州十四里北至上土龍司四十里東北至思  
明土府九十里東南至思明土州三十里西南至憑祥土  
州四十五里

太平府志卷之五終 羅城 七

太平府志卷之六

地輿

廟村

崇善縣

永興都 三廟 三村

東廂 南廂 西廂

慶村 舊為新寧都地嘉靖三十年知府農村舊為新寧

三十年知府章萬以無田撥入以助里甲

民黃宗願告爭未決四十五年知府徐鼎斷廂民出

新寧都 十九村 一畝 二畝 即舊縣地

康村 益村 延村 派頭村 求村 望村 洽金

太平府志 卷之六 廟村

馱嘶 稠村 郡造 都同 湧求 外營 甘樣

舍霸 詢村 宅岸 容村 時村

歸化都 十八村 三畝 即舊西隅十八村

頤峒 那邑 那溫 那顛 馱皮 乙村

坤村 一名 盤馬 欽坡 一名崩坎 白沙 弄化

包村 那陽 那奄 馱窖 宜陽 嘶泥 馱逐

冲登 一名 龐度

新撥入十村 在舊陀陵縣係黃英衍劫遷路治

水口 洪山 那楞 馱丁 窖瓦 花黎 楞梁

那渠 汪隴 隴河

太平當崇善未附郭時親領三廂四隅地東廂有下關有

馱廬園南廂有下郭有隄石村 在隔河南岸即今西

有上郭有石狗村 即今呼營二村其四隅分東西南北東隅

領十八村一歸龍次大浪馱貢木牌馱漠漠那大標隴

殿叫竟樓黃梭坤渠樓巖馬拱鳳長圻馱掃賴吞渠隴

以上十七村原江州土官黃威慶因太平土官黃英衍

滅後偽言英衍會貨慶五百金未償遂舉兵取大浪以

下十七村至正德七年土官黃承欽將馱漠以下十四

村歸還太平向有大浪馱貢木牌三村未還今則一十

七村皆為南隅領七村名馱谷輝村籠村喝育籠塔集

蓬板阿 復為龍州所侵 西隅領二十二村名頤峒那

邑那溫那顛馱皮乙村枯坡盤馬包村白沙那奄那陽

太平府志 卷之六 廟村

馱窖馱逐嘶泥冲登何村農村洽民馱扁馱綿馱獵

武二年左州土官黃佛壽舉兵逐太平府土官黃英衍

自晉府事取西隅地行懇于廣西行省佛壽流山陽縣

共于黃仁爭讓以西隅地求賄於龍州趙奎奎遂據之

正德十三年龍州土官趙相以西隅二十二村歸還

而說約強據如故嘉靖十九年泰政翁萬達行部至太

平時值流州有趙楷之亂誅楷以十八村歸太平尚有

四村未還今以北隅領十四村名水口洪山那楞窖瓦

崇善縣江為界

楞梁定吞那湯兵村那內隴河馱丁花黎那渠霸沙

正十九年黃英衍劫遷太平隴河北隅之馱廬園其北

隅中十四村遂為廂民業英衍既除洪武三年通判劉

原高遷府治還麗江北隅之地既虛遂為陀陵所占至

洪武七年三廂土民趁各憲地利銀七官始復還十四村

其十四村原係廂業每年有地稅銀七費明季歸龍江

二兩零歷來為難厘土千赴科應真盡費

中有蛟為害舟楫難通知府懸賞招治思明府土官着

土人藥弩射蛟瘞之謝以金不受索府廂地歸龍村管

夜弛利耐功約身後退還勒有碑記監本村古志後其

子孫將碑石搥碎滅蹟至今仍據未還又因李三州夏

占去隔河銀山元圓二村廂地至康熙四年貢生程宙	稽率三廂者民赴兩院控告始准歸復又龍州土官趙	有濤於順治戊子遣目黃教之帥兵數千屯扎崇善縣	那陽保村占據三畝地方郡城平定後方退	本府舊守禦千戶所軍屯地共十屯	那淘屯 那乃屯 那楞屯 渠浪屯 那加屯	白沙屯 逐王屯 那膠屯 邑模屯 吞堪屯	右千屯錯雜各土司境內千戶所裁後併歸本縣管轄	左州 分四畝	一畝 大村五 小村四	龍村 光村 古攬 <small>即州治</small> 吉村 逐浮	太平府志 卷之六 廂村 三	渠茗 隴堡 渠島 那漢	二畝 大村十五 小村八	立村 桑村 倫村 隴退 幸村 隴臚 何村	哂亮 勇村 獲村 蒙村 黃村 乃窮 鄧兜	渠邏	渠寅 邑吉 喇審 渠寬 霸招 霸柴 乃立	隴迷	三畝 大村十 小村八	柰村 思崖 落城 林村 渠蓬 岳隴 模村	通天 逐淶 隴立	磨光 儂里 那滙 逐防 隴慎 哂柴
-----------------------	-----------------------	-----------------------	-------------------	----------------	---------------------	---------------------	-----------------------	--------	------------	-----------------------------------	---------------	-------------	-------------	----------------------	----------------------	----	----------------------	----	------------	----------------------	----------	-------------------

逐鄰	四畝 大村十五 小村八	新村 渠併 叫程 九岸 渠那 冀伸 潭响	白作 松村 渠立 那陶 馱懶 馱徐 逐琴	隴那	涑江 叫巷 渠獨 邑白 馱思 逐益 隴究	涑王	養利州 分三季 上中下甲	一季 上甲 三十七村	倫那 倫侶 逼或 兜馬 那良 舊州	上下案 那次 邑楞 那民 邑龍 念浩	太平府志 卷之六 廂村 四	隴歷 皮村 邑零 那浩 娜村 隴慢	洞養 安村 閩村 大小叩 惡村 能村	邑村 枕村 四村 好村 谷村 蒙村	板村 井村 民村 渠魁 懷村 目村	價村	二季 中甲 二十村	上下對 上下甚 農村 迤村 隴巫 上下東	隴那 交村 衙村 哂贊 亨村 濕村	那營 郝村 下通 武能响 禁村 隴幼	祐良 逐亨 把求 隴念 逐村	三季 下甲 三十九村
----	-------------	----------------------	----------------------	----	----------------------	----	--------------	------------	-------------------	--------------------	---------------	-------------------	--------------------	-------------------	-------------------	----	-----------	----------------------	-------------------	--------------------	----------------	------------

弄豆 那利 倫兔 洞利 上下桑 硯村

那邑 兔村 那立 那橋 那造 弄廩

逐禁 大小壇 隴遠 那邊 叫招 練村

更村 隴羣 大小偶 那限 隴陂 淶則

上下元 信村 淶利 那隣 功榮 榮村

頭波 那甯 那廩 榜免 把舍 那畢

下轄 那弄 榮湯

永康州 分四鄉四甲

原永康縣 共十一村

那利 那陽 波只 上下豐 淶王 淶我

那董 淶度 淶望 念進 羅圍

太平府志 卷之六 廂村 五

舊思同州 共三十四村

東鄉 五村

楞間 邕陳 蘇村 那淋 隴懷 今歸德學

南鄉 十一村

那獨 那鄧 那乙 那垂 那貴 岳錦 董壽

那髮 吞限 莫陶 那馬

西鄉 十二村

百域 淶位 淶陳 上下靈 霸朔 邕魚 三台

妹馱 下曲湯潭 帝例 王曉 淶欽

北鄉 六村

上曲吞巡 大咆 淶狂 淶椿 淶恪 淶管 以上

歸併

本州 舊陀陵縣 共八十五村

一甲 七村

閭村 黎念 權岸 冷井 邕阮 那印 東岸

淶碧

二甲 十村

側村 送村 武陵 那廖 屯村 那馬 渠羅

馱丁 隴河 花黎 以上三村 撥入崇善

三甲 七村

黎村 那槐 那帶 上旦 上峙 淶特 淶壬

四甲 六十一村

太平府志 卷之六 廂村 六

遂王 怕村 弼村 那邑 老村 那豆 淶著

那翁 那懶 淶練 那甯 谷旦 馱合 那懷

渠培 念壇 那瑟 頤村 額律 那差 邕練

黃茅 那晉 叫和 那畢 盧村 那勞 上姜

中姜 下姜 那樓 汪沙 淶坎 淶踏 頤隆

悉帶 妹岳 坎村 踏懷 霸谷 淶汪 上驢

中驢 頤閣 上元 下元 淶兒 屯村 陶村

岳懶 定吞 那內 渠多 何村 以上四甲 歸併本州

榜梁 洪山 汪龍 寶瓦 那渠 水口 那榜 以上

七村 崇善

太平土州 分三街七甲



上街十二村

仁村 那霞 鄧銅 弄堪 朔寒 倘儻 幢鷄

把奏 孫良 馱押 麇定 渠現

中街二十村

王村 應村 那遠 卓要 那邑 佈慶 那把

渠置 安道 粉村 邑江 渠問 隴內 佈衣

頓門 沙村 酉村 隴穹 均固 伏羲

下街十村

大棧 上九山 下九山 逐皆 喝懶 榜求

隴可 隴慢 叫耽 叫營

東甲八村

把村 那澤 上禮 下禮 吉村 蒙村 慮村

上南甲八村

下賈 把坦 上暉 下暉 欠村 叁民 訓村

吞篤

西甲六村

斌村 貢村 光村 君村 王村 宴村

大力甲五村

上賈 限村 大黑水 小黑水 容村

小力甲十四村

格村 苗村 那温 削村 或村 上曹 下曹

上圍 下圍 少村 壹村 那霞

舟勾 色隆 渠強 佈佛 弄列 隴重 佈馬

諸匠甲三村

譚品 思律 冬匠

安平土州 共四十四村

逐堪 那江 崑替 崑錢 七臘 下叩 詢村

約村 隴隆 崑角 要村 門村 底城 利村

上典 應村 捲崑 冷丟 捲勉 三郎 營印

冷晶 上格 配村 都隘 佈烹 弄義 崑遵

太平府志

歸村 抱村 豪村 典村 隴晶 橋村 那妹

連村 那悉 托村 那沙 坡嵩 逐根 那擊

科晶 佈村

又交趾莫葵占去烟邦化隆二洞 三十五村

壽或 窮村 閉村 念通 漏村 隴何 春深

仙境 凌烟 適賈 崗平 親村 溪渠 文典

北里 鳳眼 古零 忙弄 須呈 宏曹 資用

波州 雅弄 玉池 都其 都梅 鈎落 那嘆

或內 安排 寺寶 或隆 加宏 啟蒙 教村

高承土州 分五坊五崗共十甲  
練坊上甲六村  
苗村 盛村 隴堯 那畢 下州 思陀

在城坊中甲 六村

廣向 多窖 夢恪 營望 各淶 多麻

益坊北甲 六村

多情 廩邏 與斷 多偶 上綱 下綱

盛坊令甲 六村

廩勞 多輦 多良 多信 覺鄧 多賴

丙坊下甲 六村

多淮 劍晰 晰普 通昏 叫辱 多工

武安峒外甲 九村

柴村 蒙村 呂村 耽娜 禮村 榜村 那桐

那村 場榜

太平府志 卷之六 九

晰迷崗陸甲 九村

塞時 逐隴 田尾 逐晰 那侏 邕馬 邕苗

多廂 下莫

那顯峒田甲 九村

那叫 上會 下會 營癩 隴慶 那樓 蹇力

舍勒 隴光

武城峒盛甲 八村

弄隴 多索 冷品 上梨 下梨 那律 那任

那基

上莫峒立甲 九村

多禮 多常 晰昏 四父 單堪 那壇 多基

多郎 多引

康熙三十二年九月都結州以多工多淮喇晰那壇晰昏  
多輦廩勞多禮那律通昏叫辱多引多偶多信那任等十  
五村為萬承州侵占控於府萬承州亦具狀訴知府黃良  
驥委官公勘申詳本道詳奉督撫批飭各守疆界不得混  
爭

龍英土州 管二周四季畝令陸地二處

聳峒 志立村接養利州那湯村交界  
又至料也何淶畧地名分界

營懷峒 多煉村派淪接都廣州交界  
又至機沙村接結安交界

春季村分 二十一村

上兵 隴汪 慕村 下兵 每村 隴值 顯村

太平府志 卷之六 十

求村 看村 仲村 察村 刀村 穉村 望村

把村 皮村 敖村 多浪 左村 拔村 枕村

夏季村分 三十村

伏維 伏曼 老刀 與村 上遠 迷村 隴舊

伏同 向村 多進 下遠 布隴 隴叫 隴乃

隴原 把拽 布德 貪碍 倫宏 橫村 按村

蔭村 員村 光村 隴村 默村 叩村 寧村

硯村 好村

秋季村分 二十四村

温村 意村 上碎 下碎 下胡 可村 巧村

控村 凌村 江督 解村 亮締 選村 濃村

莽村 賀村 賴村 蘭村 俸村 上胡 錫村  
弼乃 寅村 每律  
冬季村分 十四村

那乙 邑外 界村 四板 湧伯 營利 施張  
權項 宏苑 郭村 用村 吞村 盆舍 邑村

上分飯令村分 十六村  
平吉 麻泥 岸村 追朕 三加 鼠村 遷村

更村 滄馬 直碧 那皆滿 三村 降村 默那  
俸村 滄明

下化飯令村分 十一村

蓬村 產村 吞等 隴望 那花內 惠村 邑日  
太平府志 卷之六 廂村 十一

宏去 峇頂 扇村 地周  
陸地村分 十一村

內村 汪村 兵村 烟村 隴巨 秀村 逸村  
荷河啼淦 吞等邑下 隴濃淦 隴逢包村

恩城土州 分二廂  
內廂 二十三村

預村 隴隆 航村 寧村 蒙村 良村 登村

賀村 隴村 堯村 自村 光村 隴辱 畢村  
禁村 叫村 任村 皮村 匠村 賽村 王村

丙村 上下禁

外廂 十五村

陸村 淥村 傍村 豐村 呂村 琅村 那  
排村 教村 均村 能村 邑養 駛望 那邊  
堂官

茗盈土州 共四十一村

邑替即替 顯村 磨村 零村 並村 返村  
傲村 那賴 乞村 立村 相村 尚村 謝恪

隴冷 那邑 斗村 高村 達村 上冷 下鄙冷  
元耦 時村 弄村 甌村 隴村 乳村 解村

朗村 母村 加村 應村即榜 兵村 暗村  
掃村 桐村 伏村 離村 幻村 那襟 逐肥

太平府志 卷之六 廂村 十一  
逐興

明嘉靖初茗盈與全茗爭村經兩院批查知府何派行議  
詳全茗州原有五十一村地方頗寬茗盈州原有三十四  
村地方稍狹是以糧額全茗多於茗盈一十七石四斗今  
若將全茗一十四村地方斷與茗盈斗共得四十八村全  
茗所存三十七村雖議糧過州以息全茗之全茗地方處  
狹不成州治難免日後爭奪若通將一十四村歸還全茗  
又恐茗盈占據已久難以一時勒令盡吐今應照前任知  
府胡世寧斷處責令全茗世興照舊將土名替村並村零村  
榜應村忙村浪村營恩村共七村退還其乞村立村相村  
涼村桐村掃村應村共七村始令李世興管轄其唯顯水  
源仍照舊二派分流各開新溝俱令填塞以均灌溉冬

碑記以杜爭端詳奉檄委本府通判林一鶴親詣名盈全  
老將村水源查照分給填塞安諭目民即差里老鄉茂岑  
瑾查明各村田數魚梁界至分查為圖列于記後

全茗土州 共四十四村

政村 派村 上預 下預 伴村 那逐 進村

抵邀 意村 澗村 熄村 隴望 隴保 給村

科派 偶村 臘村 綱村 楞莊 彌村 叩村

否村 黃幹 那造 遜村 那楞 黃冷 忙村

浪村 營恩 那隴 隴懷 黃正 涼村 邑下

逐迷 把廩 都暫 那紙 那襟 電甌 那了

板孟 旺村

太平府志

卷之六

編村

七

萬歷間名盈土官男李時矯復告全茗州土官經兩院批

斷磨村斗村並村零村乞村立村相村桐村楞應村替村

掃村并新挖壕界之東俱給茗盈州官目管業其黃正村

黃冷村遜村涼村營恩村浪村忙村那隴村那楞村隴懷

村印田馱利江魚梁并新挖界壕之西俱給全茗州官目

管業各照原額兵糧不許再啓疊端

信倫土州

坊鄉 九村

那兜 岳莊 伏院 馱郡 邑龐 劍本 漫那

抵皂 那乍

各村 三十二村

戶村 舊場 橫村 繞村 四乙 劍吉 渠望

多顯 多雍 霸湯 滾骨 王亞 鄧給 鄧離

鄧隆 水尾 乃村 上隴奄 道香 下隴 通孟

喃坡 倘甲 隴埋 隴白 霸占 楞弄 多攬

楞亞 楞坑 那霸 值村

結安土州 分四甲

本州甲 六村

邑院 那黨 卜村 邑傷 那霸 淋邑

歷甲 十二村

把井 那造 甕村 溫村 同村 靜村 上弄

下弄 哀匿 那女 潭下 楞把

太平府志

卷之六

編村

七

喃哩倘甲 八村

喃哩 隴豐 隴威 渠坤 那丈 隴迷 隴白

那止

山隴甲 十四村

盤村 果村 里村 豐村 儻村 邑仰

高村 盤村 月村 追村 買村 旺劫 朗村

七村未編戶

都結土州 分五里

一甲 登崗 三村

登崗 澄村 留村

一甲 娜崗 三村

臘秋村 晰踏村

甲雕村 四村

雕村 浪村 鳩村 邑掃

一甲膠村 五村

榜村 那派 市村 邵養 那何

一甲孫崗 四村

惡崗 上營 下營 尚橋

一甲三村

上排 中排 下排

段洞一甲 四村

太平府志 卷之六 廂州 五

山橫 那豐 上營 樓袍

外一甲 四村

冬村 利村 滄村 用村

院崗一甲 十八村

權村 樺村 巖村 半村 苟村 懶村以上六村無糧

黎村 靈村 在伏 買村 下朴 谷村 巴村

恪村 洞村 榴村 像村 楊村

上下凍土州 共四十二村

洞盈 王村 大俸 小俸 邑窘 境村 巧村

的貫 滄塗 岩華 茗村 婁村 樓內 邑蒙

逐何 花巨 倫村 上花 上供 崑滄 崑

合村 零村 叫國 榜 大庄 際

崑割 那江 崑却 那冬 叫國 那壽 滄明

犀村 龍刀 晰局 隴委 那花 滄合 滄甲

思明土府 三寨 十四哨 六崗 九村

安馬寨 南維寨 東維寨 那雷哨 三寨哨

可擊哨 嶺段哨 淋貼哨 峇北哨 伯江哨

那祿哨 海淵哨 動驢哨 都院哨 什八哨

那桐哨 那桃哨 婆利哨 中藍哨 那端哨

馱鷹哨 剝巖哨 馱樓哨 板方村 婆隆村

四村 院子村 洞窩村 長橋村 祥村

弄歪村 洞漫村

太平府志 卷之六 廂州 五

官庄 都院庄 洞蓬庄 那律庄 什二庄 棍村庄

峙周庄 板瑟庄 峙閣庄 那僚庄 那度庄

淥城庄 那八庄 那土庄 洞漫庄 馱零庄

海豆庄 那郝庄 叫隘庄 洞零鹿場舊鹿戶每春秋二祭

有洞夏洞龍等村明末被交趾新安州侵占

管轄十處

寨 那寨 邵橫寨 那煉寨

上黎龍團 下黎龍團 益另團 坤爭團

上平夫團 下平夫團

四寨東南接交爨西北界思明府思明州之中往時府州爭欲得之治兵相攻累年仇殺當道訊讞不能決萬曆二十三年奏隸府流官爭始釋二十三年復設府學議賦田一分條編四錢充為師生俸餼征戍兵役咸蠲除之法甚善也然奉一撮土錯之不爨不夏之間其民獷而難馴而利有四寨者又驕豢而計煽之使抗不就漢官約束迄八年無成議余既至集鄉父老為陳利害禍福民忻然聽命請稍寬其額余為定三錢兵馬諸役如初民始忻然輸納此可以觀人情矣當其爭也其害如虎鬪于野隸之流官而爭解及其解也其民如戰之于原隸之學官而梗消人情可知也子曰君子居之何陋之有民又忻然請勒之於石同知林夢鼎記

太平府志

卷之六

廟村

七

思明土州 共三十四村

派塢 隴村 賴村 塿村 瓜村 那喇

板寨 那利 下周 那獠 婆瓜 婆坵 潢沫

祝村 那夏 偉村 那侵 那渠 那林 那迭

那叻 那留 把莆 白馬 僚村 那七 那任

凌村 叫禪 國保 那羅 邑菝 那棍

上石西土州 七村

山村 蒙村 那全 那隴 那堪 燕村 馬村

下石西土州 十四村

弄村 那鳴 屬村 小村 樂村 峙敏 那豆

豐村 那渠 畢村 那敏 祿獨 迺淦 荒凌

思陵土州 分六哨 二甲

寺浪哨 三村

岑浪 板堪 那支

蒙包哨 二村

板包 板蒙

潭淵哨 七村

板邦 板達 亭寨 那何 那蓬 那窩 那玷

尚夏哨 二村

尚夏 那容

欽加哨 三村

板欽 板加 叫底

上化哨 一村

那蒔

閑良甲 一村

邑時

山交甲 十三村

辦強 枯榴 板灰 板光 板色 墟閉 板床

板匱 板荷 迺邏 板馬 那交 淦瓊

外天馬寨 五村

太平府志

卷之六

廟村

大

板勒 那崗 寨黃 坤柏 那脚

思陵一州止三十八村與安南祿平獎州接壤康熙十三年獎目韋德勝韋福安父子乘吳逆之叛以兵攻陷州城擄其官母官印州屬土目往還講說索以潭蘭哨七村為質始以歸之康熙二十四等年思陵土官韋榮耀奏願各憲屢經委官會勘移知安南國王悉遵侵地猶據那窩一村不還五十六年村民自願歸隸本州祿平獎目韋福康復以獎兵圍村攻殺盡掠衣糧牛畜殺戮村民數命自是訖無寧歲雍正二年思陵土官韋世華復詳各憲督撫請院移知安南國王復行委官會勘仰體

柔遠至意從寬移案飭令思陵土官曲從以前質當之府志

卷之六 麻村 尤

俾銀四百兩移交祿州獎目收領那窩永歸思陵管轄今掘塚立碑永定疆界以杜爭端碑文附載于後

西太平府知府王為飭行查勘事案奉前護理左江道印務南寧府知府墨勤詳奉兵部尚書總督兩廣部院加三級孔憲批查安南為我

屬國獎民土兵俱係一體本部院從公斟酌那窩地歸思質當之銀應酌量清還仰飭思陵土官韋世華備銀四百兩限一月內移交祿州獎官收領取領查報斷絕質當之議那窩永歸思陵管轄飭令該地文武會同獎官就勘勘處所掘塚之碑永定疆界各安住牧毋相爭犯此後各約東所管民人犯則從重究治倘縱容拘獲土官獎

併飭遵併查明

廣西部院加一級李提憲韓照行左江鎮梁藩憲黃泉

口一江道憲閻轉行各在案業據思陵土州備銀四百

入祿州獎官收領取有獎領繳報茲遵憲飭移行該

以率同思陵土州韋世華祿州獎官韋福康公同恪

照例過處所掘塚立碑永定疆界那窩田產盡歸思陵

管轄碑之北屬思陵地界碑之南屬安南祿州地界各宜

遵守公奉勒石雍正四年四月初五日委官廣西太平府

賓州州知州佟世俊新太營中軍守備李朴立

土州二十二村

茶村 價村 山村 均村 邑口 絹村 邱村

匠紙 花龍 楊村 禮村 嘯村 立村 月村

柳村 卓粟 平公 慮村 那蓬 那堪 透村

教村

州土州 共一百零四村

望村 吞鄧 波佃 枯豐 滾究 棧村 都幹

卑梯 那尙 那派 那忙 滾隨 那隴 邑東

邑莫 邑央 滾弄 吞昂 吞昂 桐枝 綿邑

峇瓦 鄧齊 托村 渠力 劍隴 從蒿 那滙

那貞 滾菓 四修 滾村 薈冷 高留 派岸

那佃 枯桐 琴拱 邑旦 滾演 隴天 邑嫩

滾細 邑密 派丁 峇村 那牛 楞移

那磨 幢村 那齊 七月 冬貞 滄合 滄馨

那角 小桑 馱浪 諾村 湯樓 渠滴 馱貢

木牌 淶柯 枯解 水口 那圪 那莫 荔枝

派甯 色堪 邑萌 隴瀨 渠半 琴了 北乙

邑儻 吞田 下村 蘭村 佈村 瀨湍 峰村

馱皂 隴黃 長洪 隴畏 渠獠 吞踏 渠凹

貢奉 渠萋 畏周 隴豐 大樓 樓黃 隴官

三北 霸禦 鷓客 淶板 丁極 邑火

隴曲 隴通 那藝 隴旻 藩深 白沙 滌淋

甯梁 那依 隴肝 隴鄧 隴操 隴仰 隴扶

隴錦 隴穹 隴問 隴宦 隴茗 佈戔 隴興

邑命 關全 那勞 那厄 隴藏 三踏 叫五

羅白土縣 共三十二村

那蒙 孔弄 角磨 象乙 長江 洞骨 加約

錦姜 們頭 佈滿 了迷 樓那 剝丁 懷拜

渠香 渠蓬 亭妙 邑監 邑陽 那留 模織

弄董 派包 弄窮 那檢 達丁 那羅 滄四

合江 霸沙 天真 佈陶

上土龍司

沿江崗下五崗上五崗古甌崗武德崗四牌崗共六崗  
沿江崗內管上水甲九村鄧勒甲十村下水甲九村思

粟甲十四村下五崗管甲子甲四村慕曲甲四村佈馨

甲二村容甲三村海練甲三村四條甲五村上五崗管

古例甲二村濱淶甲四村凌羅甲四村那要甲三村鳩

賴甲四村弄且甲三村古甌崗管上甲七村沿江甲七

村中江甲十二村下甲十二村武德崗管十二村四牌

崗管二十六村通共六崗二十甲一百五十九村

下土龍司

羅回崗武盈崗遵崗合石崗共四崗羅回崗內管上月

甲三十四村下月甲二十五村武盈崗管內甲二十二

村外甲十六村上水甲十七村平而甲十村那曳甲七

村遵崗管上甲二十八村中甲三十村下甲二十三村

合石崗管十五村淹斯甲九村斗奧甲二十村廟村共

一十四村通共四崗一十二甲二百七十村

太平府志 卷之六 廟村 五

太平府志 卷之六

太平府志 卷之六

太平府志 卷之六

太平府志 卷之六

太平府志 卷之六

太平府志 卷之六



太平府志卷之七

地輿

墟市

崇善縣

北門墟 舊在東門對河名金匱墟  
近始遷此每三日一墟

土地墟 在二箇  
齊縣地

古坡墟 在三箇

那乃墟 在屯上

左州

州墟 在東門內

邑侶墟 在思  
崖村

太平府志

養利州

州墟 在州城

牛墟 在東門外

永康州

州墟 在東門外

旺村墟 在四箇

那隆墟 在五箇

太平土州

州墟 渠邏墟

隴何墟

淶墟

獲阿墟

邑懷墟

那邑墟

東化墟

安平土州

州墟

博墟 又名  
村墟

豆墩墟

堪墟

萬承土州

州墟

大嶺墟

平壤墟

郡村墟

龍英土州

州墟

吞等墟 在州北  
四十里

聳崗墟 在州東  
五十里

恩城土州

州墟

茗盈土州

州墟

太平府志

全茗土州

州墟

信倫土州

州墟

結安土州

州墟

都結土州

州墟

鎮遠土州

州墟

上下東土州

卷之七

墟市

二

正村墟 在州十  
五里

索墟 在安縣  
交界

州墟

思明土府

府前墟

海淵墟 在府東二百里

隴至墟 即牛墟

四寨墟

那堪墟

岐閣墟

思明土州

州墟 每日

五寨墟

上石西土州

州墟

下石西土州

州墟

思陵土州

太平府志

卷之七

墟

三

州墟

憑祥土州

州墟

江州土州

州墟

鉛井墟

孟村墟

羅陽土縣

縣墟

那樓墟

羅白土縣

縣墟

上下二土龍司

州墟

窰頭墟

鄧桐墟

馱棉墟 有埠

四界墟

羅回墟

漁村墟

太平府志卷之七終

太平府志

卷之七

墟

四

太平府志卷之八

地輿

山川

崇善縣 附郭

青蓮山在府治北十里太平之總山望之青碧相連故名綿

亘三百里多巖洞靈泉絕壁下往往有仙峴山側有青山

巖高濶深邃石乳懸綴奇怪萬狀蓋異境也

白雲山在府治東四里壁立如屏山腰有七巖白雲洞最勝

其石文綵絢爛扣之作鐘磬聲葛洪曾煉丹于此竈跡尚

存夜靜常有光如燈自巖而出游中天良久復還

連元山在文廟對江卽學宮前築高壓羣峰巔有三層如磨

太平府志

卷之八

山川

一

盤皆巉石環繞上鑿連元二字

幙頓山在府治南岸形如幙頭又名紗帽山

蛾眉山在府治北距壺關十里烟雨晴霽遠望如眉

盤馬山在府治東四十里四面平坡惟此山形如天馬盤旋

故名

金櫃山在府城東門對岸石壁百尋江水流過其下山腰有

小徑濶三尺許可以橫渡明都御史毛伯溫討安南還勅

元老壯猷平交偉績八字於其上今字猶存中一巖亦曰

金櫃

淨瓶山在府治西北二里形如瓶

銀山在府治東岸有尚深黑昔有人乘炬方入未數步氣悶

遂返

采山在城外江東與學宮對三峰巖形如筆架

頭山在府治東北四里屹立江心春夏波濤衝激有聲

雷明隆慶時水推出一石四圍花開中有錦紋花樹劉業

成書金榜題名四字後知府李友梅建塔三層于上 國

朝知府徐越續建四層崔鬼巨觀為城鎮水口

崇官山在舊縣北其山崆峒如室

燈架山在府治北高崱尖秀郡城之發龍力也

文奎山在府治東二里學宮向之麗水韓其卜舊名將軍山

魯鐸使安南舟泊于此改名文奎山

僧燈山世傳有異僧欲造寺樑木猶存 禪常有燈光

太平府志

卷之八

山川

二

馱夾山在舊縣北土官趙暹曾結菴於此

鳳凰山古名鷓鴣山在府治西北五里奇石卓立如鳳展翼

狀石壁有飛鳴隨曉月儀羽借晴霞之句

大崱山在府治北十里崇善縣土官趙暹開鑿堯石成階為

通諸土司孔道距山半里有狐掘泉

交峰山在府治東三里俗名尖峰山其峰尖削秀麗狀如卓

筆

屏風山因形而名

鄧七山古有道士姓鄧行七結菴修道于此故名

玲山在府治北十里山峰峻峭石經玲瓏故名距螺山三里

壁山在府治東五里山下有池其後一小溪春雨水漲潄河

如璧色故名

五廩山在府治東四里山多峯峯俗時為五廩子故名

仙人山

馬山

踞石山

泥壁山

龜公山山有巖巖有二層如樓閣然石筍參差列於巖壁

六甲山伏波廢關在下

隴口山在府治北乃樵採必經之路山畔有巖

螺山在府治壺關北舊名羅山

上進寶山在府治西北一里感谷巖下有大字

太平府志 卷之八 山川 三

下進寶山在府治東北一里近江

佛子嶺在府城南門對岸十里即府屬地與江州分界處

盤環嶺在府治北五十里其嶺純土可耕經其巔可望太平

安平二土州又名望州嶺一統志名環嶺

黃坭嶺在崇善舊縣東北

牛軛嶺在舊縣東四里形似故名

穆王巖在府治南八里其山盡處即江州地界

感谷巖在府治西北一里下臨江流巖如石罅上下二洞呼

聲相應故名石壁鑄有感谷二大字

鄧巖在府治東北郡人鄧祥龍讀書于此刻鄧巖二字記之

石門在府治北三里其石特立江岸中通一門

雲洞在壺關北五里峭壁插天一洞深窈有石門透山

麓而行雲煙繚繞洞門一石臺可以登眺前人有詩鑄於

石壁

回陽洞首傳有老僧坐化于此後知府江一桂遊此至夕見

燭照洞中

鐘鳴洞俯瞰麗江有懸石擊之似鐘明嘉靖中總督張岳泰

政翁萬達遊此書鐘鳴巖三大字于石壁

麗江即府前江又名崇善江遠府城西南東三源出廣源

州合七源州水歷龍州思明流經府前合石江之水入島

江下滄梧東入南海

龍門江在府治西舟行十里許江心怪石巖岫奔騰石壁

太平府志 卷之八 山川 四

一錚如琴筑每歲春夜南風起鱗魚數萬頭湧流聚此

墨水江一名崇善江發源交趾至下雷合安平恩城太平果

化諸水通于麗江江心有香木潭產魚味甚美名香魚他

江不及

龍馬泉一名嘶馬在府治南對岸世傳有龍化馬于此故名

其水清碧南入麗江旁有古榕樹十數株天將雨樹蔭下

每見鯢魚數萬游躍好事者目為綠樹神鯢為靈城十勝

之一

靈顯泉在府治東五里歲旱祈雨於此

白雲泉在白雲洞下一孔通天下即潭也俗傳有龍潛于

此歲旱祈雨顯應

在螺山下泉外有池池上列植修竹蒼翠掩映

玲山泉源出玲山洞中春霖雨霽泉聲如笙琴聲

龍井泉在府治東北十里深二百丈其泉通麗江太守徐

皇堯石砌階建亭于此有記

廣濟泉在府治北十里大麓山下深不可測崇善土官趙景

堯石成階往來行人飲之無一統志

狐獮泉在大麓山下因狐獮出乃名有樹盤蔭泉上

環山泉源出環山清潔甘美上多林木夏日憩此猿聲鳥語

不絕云

馨泉在馨山盟猿洞春夏水溢聲如琴瑟知府高不矜名曰

馨泉

玉井在下廓玉皇閣前萬曆初年開鑿

龍竅井在府後千戶所公廨載一德志

左州

金山在州治西北里許連列三十六峰上有觀音洞真武殿

二座州牧鄧體靜關一洞天巖鑄金山三字于云構亭

其上

獅子山在州治東四里

九峰山在州治東南三十五里

佛子山在州治東南三十里梁立村

獨山在州治南十里

天登山在州治南門外兩江峙立其高插天故名

陽龍山

芙蓉山在州治西五十里初日照之鮮妍可玩

崑山在州治南十里梁蓮村

銀鑿山在州西四十里新村之南山臨長江起伏如甕相傳

古人藏金處峭壁絢綵宛如人馬旌旗之狀晴霞掩映其

色如銀

馬鞍山在州治西五里

麒麟山在州治西二十五里挺峙蒼秀州治脊脉之山也

華父山在州治西南十里勇村山麓有泉成澤四面環繞春

夏一望汪洋秋冬澄清如鏡

北山在州治之南五里一名墨山其山有巖可容百人曲折

太平府志

盤旋巖者常憩於此前有二坎深不可測洵垂乳石若蓮

花瓣扣之鏗然

將軍山

墨山在州城南五里即北山

龍泉山在州城南三里

天高山在州城東四里

華嶺山在州城西北五里

威國嶺在州城北五里

紅坭嶺在州城西三十里

鞍馬嶺在州城東北四里

角勢嶺在州城西門外兩山相對如角勢然

云

洞泉在貫仲村離城二十五里土人呼嘶洞

龍泉詳見溝洫

鑲泉在零村土人呼嘶鑲

渠慮泉在勇村

滑泉在叫成土人呼嘶滑

懷泉在新村土人呼嘶懷

淞泉在淞村土人呼嘶淞

養利州

古嵩山在州治南四里形如屏風見一統志

武陽山在州治東四里四面水遠下有雷壇遇旱禱之輒應

太平府志 卷之八 山川 八

勝奇山在州治南七村離城三十里為州之門戶

帽山在州治北一里形如幞頭州之後山

散花嶺在州城西三十里昔傳土官追呂仙至此見白馬騰

空天花散墜因名

雞公嶺在州治東六十里偶村嶺甚高峻登望萬山如壁立

觀音巖在州城東四十里其巖離平地十餘丈平廣可坐百

人石壁有菩提大士像巖下有弄月鏡臺三石

仙杖巖在州治南五里詳見古蹟

榜冕峒在州治東二十里各村環遠樹木蒼茂舊設有尚官

今廢

武能崗在州治南三十里兩山夾水扼塞而守人莫敢窺

隴帳崗在州治北十里萬山之中有水穴一起一伏莫測其

源 無懷古石在澗村

通利江發源筆架山經龍英至州治歷恩城太平崇善入左

江

州前江發源自萬承經那造等村至州治前合通利江

潤江自龍英經叩村至潤村合恩城江

呼水泉在州城西

石巖泉在城內深徹無底泉出石罅與東城外潭水相通泛

溢于江見一統志

靈波詳見溝洫

太平府志 卷之八 山川 九

永康州

淨瓶山在州治南三里平地突起一峰形勢如步

天馬山在州治南五里峰巒層峭其形如馬

文筆山展誥山二山相連在州治西三十里尖峰秀麗為州

學向山

橫榜山在州治南三里橫峙數十丈其形如榜

和尚山在州治南四里形圓而淨故名

巒兜山在州治南六里兩山互向其形如門俗號為兜

隴防山在州治南五里

錦屏山在州治南二里

白面山

白虎山在州治西

獅子蟠龍山在舊思同州地

文馬山在州治東南

橫石山在州治南

駱駝山在舊陀陵縣北

殊佳山在舊陀陵縣東

祿空山在舊陀陵縣南

將軍山在舊陀陵縣西北

壽桃奇峰在舊思同州地

將軍嶺在舊陀陵縣地

鳳皇嶺在州治西五里特立展翅形如鳳皇

太平府志 卷之八 山川 十

豈橫巖在州治北七里上下有巖巖中有水俗號為田塘內

有一石特立名為農夫管田每年三月修禱士民遊玩以

兆豐年

龍蛟峒在州治西三十里四面高山中有一峒蜿蜒窈窕連

入往來

綠甕江自綠篁山發源流繞州治南過羅陽入大江水味

甘無毒州人飲濯皆資之載廣輿圖

萬承土州

香壽山在州治東北半里為州後屏高四十丈橫八十餘丈

秀巒十餘峰環抱宛然上右飛來寺飛來香爐

金童山在州治東北半里

玉女山與金童相連

天馬山在金童山左以形似名為州治出脉之山

麒麟山在州治西南二里似麒麟回首

三台山在州治東南二里三峰秀列雲霧常集

蓮花山在州治西北一里形如新荷欲放舊名連山

翠壁山在州治東北蒼翠異於諸山下有湖泉

大嶺山在州治西南十四里侶村之右山下古有墟市

幞頭山在州治南一里形如幞頭

馬鞍山在州治西一里形如馬鞍

玉屏山在州治東南三里許

隴龍山在州治西南四里

太平府志 卷之八 山川 十一

鳳山在州治東四十里

華峰山在州治北半里

喇啼山在州治北二十里

綠嵩山在州治南七里半

石浪山在州治 六十里

雲門紫洞在州治西南

三帶水在州治東半里俗名淥降水源出自玉屏山連州治

前四里與文秀連環二水合流出雲門紫洞

文秀泉在州右北半里

連珠泉在州右北一里

獸崑泉在州治西南二里

興良泉在州治西南四里

馱合泉在州治南七里許

喇啼泉在州治北三十里皆小澗注泉不通舟楫

石浪泉在州治東六十里

靈泉在香壽山其泉寬三尺深一尺水味甘美多汲不涸不

汲不濫故名

太平上州

巖微山在州治東北接養利州界

邑內山在州治南接崇善縣界

佛寺山在州治東北近恩城州界

壁嘶山在州治東

太平府志 卷之八 山川

坡高山在州治東一里

龍蟠山在州治西二里載一統志

板棧山在州治西二里

巖嶺山在州治南一里

邑匡山在州治南南接崇善縣界

九峰山在州治西五里

巖潤山在州治東五里連山峭壁一水中流百卉叢生墨

騷山在州治西頗多題詠

普媚人遊憩于此花二十里

避水山在州治西蕩東流入州境

隴水自安平州東南流入州境

江見一統志

安平土州

仰山在州治西一里

通山在州治東一里

秀貌山在州治北一里

顯山在州治東

星山在州治西

養山在州治東

帽山在州治西南載一統志

會仙巖離州治半里一洞天然石門開徹詞人墨士題咏頗

太平府志 卷之八 山川

多

七景巖離州治三里山中空澗玲瓏

水雲仙洞在州中水傍

大澗水源自南寧府下雷州流遠州境

小澗水自交趾高平下恩城入州境與下雷州水合流歷太

平崇善入于江

寶洲

印洲二洲俱在溪中

龍英土州

八仙山在州治南為州之後屏

牛角山在州治東峰頭尖銳如牛角



征州治北三峰並列故名

瑞山在州治西五里登峰萬仞峭壁千尋連養利全茗恩

城界

巖山在州治南

通山在州治北四十五里水路穿通其來往必穿山涉水夏

月清爽之氣逼人即古蹟所載神溯也

通利江在州治前其源有三一自西北上映州入州境一自

西南一自筆架山三水至州治前合流歷全茗東下養利

崇善入江見一統志

恩城土州

雙留山在州治前峭拔壁立巔有小路達下雷歸順等州

太平府志

卷之八

山川

七

神山在畢村距州治三十里峭壁如削上有一孔如門其中

深廣不可窺測每靜夜土民時見有鬼魂光芒飛入少頃

即聞咿嗚鞭朴之聲若洞口隱隱有儀仗出入及聞炮響

不數日主鄰境有達官殞山下有泉冬溫夏涼更多茂林

人不敢伐

夫媚山在那敏村距州治三里許

叶庵山在黃利距州治十里接養利州界

巴白山

龍級山在州治西里許

隴育山距州治五十里接安平州界

弄隈山在州治北里許

龍馬山距州治半里

疊翠峰在州治東半里

雲巖在州治南

雙溪在州治前清流夾岸為一州之勝

那敏泉詳見溝洫

雙留泉詳見溝洫

龍洲在州治南

烟渚在州治東二里

都結土州

也峭山在州治東北

坤山在州治南

太平府志

卷之八

山川

七

龍麻山在州治北

印山在州治南為州治向山

青雲山在州治北

黃達山在州治東

啼邑山在州治南

澗水自湯嵩嶺北流經州治入右江

啼水自山澗湧出北流隆安縣界

小河水出黎念山啼村下流合隆安河入右江

結安土州

多趕山在州治東

崗段山在州治東北

石人山在州治北

黃仰山在州治西

石牛山在州治南

城門山在州治北

堰水自城門山合流出信倫入右江

嘶水二小澗一流鎮遠州一流都結州

上下凍土州

青蓮山在州治西為州後障

八峰山在州治西八峰相聯

拱天嶺在州治南十里延袤百餘里接交趾界其峰皆拱北

故名

太平府志 卷之八

山川

夫

新橋川在州治南一里

馱孟川一名倫村川出拱天嶺下數里達州治前小河

大源發自交葵廣淵州由龍州水口關入境順流至龍州滙

合下流入左江

信倫土州

奇山在州治南山勢連亘為州後山

高峙山在州治東峰巒直聳

兜齋山在州治西北

那豐山在州治西接鎮遠州界

穆木山在州治東北

侵頭山在州治東

倚坐山在州治北

龍均山在州治東北與鎮遠土州上林土縣連界

嘶卑水流經州治南至隸村入右江

嘶吝水出澗中流繞州治前下穿山洞入上林土縣春夏長

流秋冬淺涸

全茗土州

崑落山在州治西北接龍英州界

端坐山在州治南二里見一統志

獅子山在州治後

叫浪山在州治西

印山在州治前

太平府志 卷之八

山川

志

財江在州治西流入龍英州界

利江在州治南與嘶顯水合流入茗盈州界

嘶顯水環繞州治與嘶壤水會于泓鯉橋東南入茗盈州界

澗水自本州嘶顯村山下流經州治歷崇善入江

茗盈土州

帽山在州治南

獅山在州治北

觀音巖在州治北巖下有水

澗水自本州顯村分東西流繞州治前歷崇善入江

龍潭在顯村

鎮遠土州

龍角山在州治南二十五里接結安州界

莫龍山在州治西二十里接向武州界

筆架山在州治東南

天馬山在州治西

楊山在州治北二十里接向武州界

水歸山在州治東南

巖磨水在州治南水泉清冽州人皆仰給焉見一統志

思明土州

白馬峒在州治西三十里其峒深不可測內有清泉六月寒

氣逼人石壁雲花燦爛彷彿如白馬狀故名有題咏

逐象山在州治北三十里

太平府志

卷之八

山川

六

豬山因形而名關鎮州治之鎮山

明江源出十萬山北流一百八十里入龍州龍江宋陶弼有

羅陽土縣

巖全山在縣治東北

仙人山在縣治南

白鶴山在縣治西

權州山在縣治西北

岵提巖在縣治東南

馱排水自永康州來經那黃村出新寧合大河

思明土府

掛榜山在府治南二十里 德疊嶂表延數十

中峰屹然不生樹木常有雲霞 采其上

公母山在府治西南一百二十里兩山對峙一像男一像女

乃奠土分界之山山極隆雲霧盤旋則晴清光則雨

岐周山在府治西北十二里

岐陽山在府治南十二里竹木茂秀鹿麋虎豹聚其中非集

眾賞賜之不可得而獵也

特懷山在府城水口崗山頂有石形如牯牛因名土語謂

牯為特謂水牛為懷也

藏旦山在府治東一百里高五十餘丈相傳昔有勇士被追

策馬造巖而死至今鄉民祈禱頗有靈驗

太平府志

卷之八

山川

九

花山在府治西八十里其山近水怪石嵯峨像肖人馬戈矛

旗鼓之類過者驚畏

曹爛山在府治西六十里四山高中有平峒可容百餘人

番蘭嶺在府治東九里羣山絡繹至此一嶺聳拔其下四周

皆有泉水

蕃城嶺在府治東十里花果叢生可摘而食若取以歸則迷

不得路棄之乃復得歸

妹娘嶺在府治東一百四十里相傳昔有妻登嶺望夫爰足

墜崖而死故名

飯包嶺在府治南十五里相傳越蒙氏兵侵中土至此嶺暮

眾置飯包于此及旦視之已化石成堆矣兵懼而還

卷之八

郎迷嶺在府治北十里春月野藍花發男女遊歌採之情然

迷感故名

同開嶺在府治西南十二里高七十餘丈狀若龍鱗又名龍

嶺

嶺在府治南十里嶺高而大有兩石相對路由其中通

嶺曰石門街有土檀香可採

風嶺在府治北十五里乃南太孔道

仙奕嶺在府治南十里著葱秀麗頂上有泉有大石寬平方

相傳昔有樵夫上山見老人奕棋比歸至家已經數月

府志

卷之八

山川

序

伏嶺在府治西南十里相傳昔時越裳氏興兵侵中土象

狀石下兵懼而退象跡猶在傍有泉

仙巖在府治西六十里山高林茂傳有飛仙居焉

亭巖在府治北十五里石山有巖可容百餘人

龍揚巖在府治北十六里巖峻絕外有石門兩重內有一

池池中一石臺光亮清滑俗以三月三日男婦盛粧遊巖

齊聲唱歌若歌聲嘹亮必見一神蟒頭懸足否則不見

軍人坐化巖在府治西南二百里相傳元時有萬戶府軍人

採草于此巖內坐化後人因而名之

三清峒舊名百最峒在府治西二百里元鎮南王脫驤征交

遊峒中命工塑三清神相故

洞在府治東五十里舊傳出熱砂故名

龜石在府治東八十里江中有石形若羣龜泛水故名

交椅石在府治東十二里有石形如交椅故名

明江在府城東南二里由遷隆至府境順流而下合思明州

江

交趾河在府城西南十里一小溪出交趾高樓州由六圍四

寨而下合思明州江

浚漢水在府城東五十里凡竹木俱由此運到府前江

海良灘在府城東十六里水勢洶湧中有一石號將軍石舟

行觸之輒輿

汪龍潭在府城東十二里深約六七丈捕魚其中輒與風雨

太平府志

卷之八

山川

序

汪妻潭在府城東一百里深約十丈常有風波盪擊

蓄菴泉在府東九十里味最甘

洞蓬泉在府城東五十里有三五孔穴自岸頭流出其味清

甘

巡檢泉在府城南門外泉有三五孔汲之不竭

嘶濠泉在府城南六里

嘶埋泉在府城北十四里相傳嘶濠嘶埋二泉相通昔常騰

沸土人驚畏將牛羊鐵器穢物窒之乃不為害

嘶吳峒泉在府吳峒石厓間中生魚蝦多生者年必豐夏流

冬涸其山有神祠人歲一祭之

嘶饒泉在府水口峒石厓間出

明王莽在府治東十五里夏極涼而味略酸

太子井一名馬跑泉在府城西北二里元世祖十九年占城

叛遣嶺南王脫驩及右丞陵都太子討之會於思明路土

卒飲明江水疾作禱於神忽馬跑地有泉湧出千萬人汲

之不涸遂甃為井水甚甘美貯於罌中雖旬日而味不變

能消瘴毒明洪武初建樓於上凡奉使差往交趾必備夫

挑汲供用以防水土之患

上石西土州

古望山在州治南五里高百餘丈山巔平廣四方泉繞相傳

漢征交趾屯兵於上山之西五里有通天檜亦征南安營

之所

太平府志

卷之八

山川

三

石石山在州治東二十里其中巖峒瑩靜深廣石孔凝結秀

異天然

透天巖在州治東

啼隴巖在州治北二十里深數十丈村民野果於中以備不

虞

白石巖在州治東

下石西土州

弄化山在州治東接思明州界

馬鞍山在州治東

白樂山在州治北峰巒聳秀林太蒼翠

江山在州治南

獨山在州治西南接上石西州界

思陵土州

公母山北接交南山勢高峻廣闊叢林密菁秀色可觀

連珠山南接交趾祿州山勢雄偉

寶蓋山在州之東

東陵山在州之北

天馬山在舊治之西山不甚高中有石徑甞道小澗旋流

紀牟山在州治東十里

角硬山在州治南二十里

風門嶺在州之北

淦削水在州治前流入思明府界

太平府志

卷之八

山川

三

角硬水源出角硬山北流三十里與淦削水合

白玉泉在州治東泉水潺湲聲聞遠近

憑祥土州

白馬山相傳班氏夫人歿厝於此忽夜沉柩出於馱盧峭壁

山上遂化為白馬形故名

翠屏山在州治後峰巒插立樾蔭層層為州之鎮山

蓬島巖山形峭壁巖在半山昔有羣仙臨此遊人多賦詩於

上

龍井在州治前其水春冬則溫秋夏則涼

江州土州

山四圍峭絕一逕入山內皆平地中有村名弄璋即今

界處

掛榜山在州治右

鷓鴣山

鷄籠山

子母山在州治後

波漢山在州治後山勢起伏狀如波濤萬頃故名

獨山去州治十里一峰獨立狀如卓筆

嘶巖山去州治半里泉自巖中流出巖前盡栽青松丹荔傍

有長塘旋繞夏日荷花盛開香聞數里

淥澗水在州治南流入左江

歸安水來自上思州流經州境注于左江

太平府志

卷之八

山川

五

北門泉在門橋下泉自江心湧出冬夏不涸世傳此泉水之

清濁可卜世之盛衰

羅白土縣

羅高山在縣治南為諸山之冠

那儉山在縣治西南

小溪自山中出流過縣南至江州清水河會瀨湍響水及大

河

隴東泉流入左江

上下二土龍司

馬傾山在舊州城西

叫抱山在舊州城南

獨山在舊州城東五里獨峙平原形如舞拳

獅子山在舊州城南九里勢起伏如獅舞狀

壯山在舊州城西四里

秀嶺在舊州治南九十里近交趾高平府七源州界

仙巖在舊州城東門外里許

紫霞洞在舊州城南三十里

龍江源出交趾

龍泉詳見溝澗

太平府志卷之八終

太平府志

卷之八

山川

五

太平府志卷之九

地輿

形勝

太平府 麗水遠於東南連山障其西北流土交錯四面襟  
環幅員數百里內察土司外控交趾為西粵之屏藩作  
南荒之鎖鑰

崇善縣 附郭

左州 背擁羣峰襟帶一水平陸可達馭廬之江經營直

通四結之境 見通志 土曠人稀瘴癘之作滅於他處

養利州 北奠幬頭之山南繞瀑布之水居兩江陸路要區

為四方貿易所萃 見通志 四野旋環萬山包護村落星羅

太平府志 卷之九 形勝

民居碁布

永康州 山水秀麗草木稀疎瘴癘較他邑頗少

萬承土州 肥饒僻地險阻要區

太平土州 羣山拱護流水迴旋密邇府城人知畏法

安平土州 捍禦外夷屏蔽內地連環交趾人無積習

龍茂土州 居封境之中據山溪之險連環右江去府獨遠

人多頑悍習戰喜鬪

恩城土州 龍馬獻奇弄隈投翠居繞雙溪風氣完固

都結土州 坤山護其後印山拱其前疊嶂層巖左江屏蔽

結安土州 列岫縈迴山谿險阻

上下棟土州 太源抱於前青連拱其後接環安南犬牙相

錯

信倫土州 山谷險峻路徑紆迴

平者土州 山旋水繞一方之勝

茗盈土州 負四結以為固面養利而接鄰

鎮遠土州 襟帶左江犬牙相制

思明土州 順一水以朝宗憑諸山而關鎖

綏陽土縣 山高水險彈丸一區

思明土府 明江水遠於前風門嶺鎮於後地平土沃山秀

水清郡極粵西之邊境接交南之障

上石西州 衆山環繞一徑羊腸

下石西土州 西峰疊秀林木鬱蔥

太平府志 卷之九 形勝

思陵土州 諸峰疊翠二水交流 州志 界連交趾之高樓祿平

地作邊陲之籬籬屏障

惠祥土州 石山峻立江水榮迴

江州土州 波漢南峙綠潭北遶山水清曠密邇郡城

羅白土縣 山川環秀

上下二龍司 控制南交藩蔽中原 州志 地處極邊 新志

太平府志卷之九終

太平府志卷之十

地輿

關隘

崇善縣

臺門在鎮安門外嘉靖丙寅知府徐師臯建萬歷年間知

府蔡迎恩重修顏曰兩江重鎮今廢

壺關在府治北三里舊築土牆風雨頽壞正德三年知府

胡世寧易以石砌東西跨河一百九十丈二尺許萬歷

乙亥知府蔡迎恩重修關上有樓一座三間耳房二間

敵樓二座窩舖二間遇有傾圮流土州縣分修崇善縣

八丈九尺左州十六丈三尺養利州十六丈四尺永康

太平府志

卷之十

關隘

一

州三丈六尺萬承州二十五丈太平州十七丈安平州

十六丈龍英州十六丈恩城州十二丈都結州三丈五

尺結安州六丈上下凍州五丈信倫州七丈全茗州四

丈二尺茗盈州八丈鎮遠州六丈二尺舊思同州八丈

羅陽縣五丈舊陀陵縣九丈

左州

保障關在府東北四十里馱朴地方名曰巷隘為郡治要

途嘉靖四十三年崇善縣知縣吳輔國奉文創建關牆

長二十五丈牆脚八尺面寬六尺高一丈四尺俱用石

砌牆下開濠塹中開關路用板橋四十四年知府徐師

臯見有賊無兵隘為虛設係左州地方議將左州撥好

府城目兵二十三名分作兩班一半守城一半守隘又

見兵無居屋晝夜不便巡守更建瓦屋左右三間是亦

北門鎖鑰處也又有板橋一道知縣吳輔國有修築關

城記見藝文今廢基址猶存

龍頭隘為陀陵盜賊出沒衝要故置今廢

懷拔隘為江州盜賊往來之處故置今廢

布蒙隘離州三十里係府城大路流賊在此伏路故置今

廢設有塘舖兼遞送公文

養利州

黃告隘在州治南十里舊設望樓今廢

凍村隘在州治東北十里交萬承州界

太平府志

卷之十

關隘

二

桑村隘在州治東北二十里交萬承州界

七村隘在州治南三十里交太平州界

三角隘在州治東三十里交太平州界

邑舍隘在州治東三十里交太平州界

盤村隘在州治南三十里交龍英州界

白石隘在州治西三十里交龍英州界

龍懷隘在州治西四十里交恩城州界最為要害交首由

此入掠

永康州

壩堤堡

水口關原在舊陀陵縣南五十里今歸崇善縣



土州

都宣隘 立村隘 箔隘 叫快隘 普眉隘

角隘 毡隘 穆隘 容隘 押隘 吞果隘

安平土州

要村隘 底耽隘 多烈隘 叁村隘 上淡隘

下淡隘 探考隘 痛村隘 乙村隘

以上各隘俱近交吞舊撥有新太營官兵協同土兵防

守

又安平被交吐莫髮占去十隘未還

蚩蜈隘 隴扎隘 吞白隘 叫顯隘 鄙隘

就隘 隴宏隘 古對隘 古磽隘 免零隘

太平府志 卷之十 關隘

三

萬承土州

郡村隘

龍英土州

古對隘近下雷界

黃蜈隘近下雷界

隴扎隘近恩城州界

碇白隘近養利州地方

航隘近全茗州地方

叫顯隘近向武州界

隴宏隘近都康州界

鄰隘近上映州界

鎮遠土州

伏營堡在州治西南

上下凍土州

佈局隘

巖花隘以上二隘近通交趾舊有新太營官兵協同土兵

防守

思明土府

冷梯隘在府東二百里通交趾東海廣東欽州廉州合浦

等處

冷乞隘在府南十五里通公母山等處

黎龍隘在府西南一百里通西平州永平寨交趾邱溫衛

太平府志 卷之十 關隘

四

慶府七源州等處

馱演隘在府南八十里通祿州交趾布政司等處

馱膺隘去城南一百五十里

那爭隘去城西南六十里

又三小隘因思陵州邊界向被外髮祿州占去始暫移

設本府內地任南段地方

那桃隘 角懷隘 權相隘去城東南七十里

在六關九隘係軍廳所管汛內去城西南九十里

羅隘 板曾 板却 那龍 板漂 那肖

板立 東門 扣山

派蓮寨

雷道寨邊界險要原設二隘係王府所

鄧橫寨

那練寨

安馬寨

南雜寨每寨俱有管堡

上石西州

由隘原有槍轟管官兵防守

思陵土州

那河隘逼近黎黎舊例土官督土兵自守

辨強隘同上督守

憑祥土州

太平府志

卷之十 關隘

五

鎮南關在板布村距州治二十里緊接交趾兩岸石山擁

天關內有昭德臺關外三十里有坡壘驛為漢馬援立

銅柱處欽貢之年道府臨關啓鑰設 龍亭于臺上登

官進謁畢方許入貢雍正三年知府甘汝來重修巡撫

李紱有記見藝文

邑口隘

絹村隘

平公隘以上一關隘俱緊接交趾原撥有龍范營官兵協同

土兵防守

上土龍司

武德隘

苛村隘

龍久隘

供村隘

那猶隘

把七隘 暖村隘 賽村隘 達尊隘 益村隘

鵠村隘 給村隘 篋角隘

下土龍司

水口關 平而關 合石關 俸村隘 把因隘

寶宜隘 龍那隘 沿海隘 閉村隘 那懷隘

敢村隘 斗奧隘 淹木隘 那村隘 龍盟隘

那曳隘 約村隘 敢門隘 那河隘 斗村隘

枯喚隘

以上二龍司各關隘係近交趾原設 龍范營官兵協

同土兵防守

羅陽土縣

太平府志

卷之十 關隘

六

那昏堡在縣治南三里舊設目兵三十名防守新寧本曼

巢賊今廢

梅民堡在縣南

外恩城等九土州羅白一土縣或地界四鄰之腹未設

營堡開隘或古有今廢故舊志不載

太平府志卷之十終

太平府志卷之十一

地輿

津梁

崇善縣

南津渡在府南門外卽南津晚渡舊有渡夫二名每名歲

支工食銀六兩因錢糧不敷全書裁扣渡船廢壞向用

木筏往來不便康熙五年知府高不矜捐俸修造大船

二隻分爲東南二渡往來稱便經久朽壞三十一年通

判命品復造

中渡又名東門渡渡夫一名今廢

上渡又名上郭渡渡夫一名今廢

太平府志 卷之十一 津梁

下渡卽歸龍渡

舊縣渡渡夫一名

馱竈渡在歸化都本村

乞立渡在本村

馱皮渡在歸化都本村

白沙渡在歸化都本村

盤馬渡在歸化都本村

馱盧渡在永興都本國

馱各渡在本村

通康渡去太平州路

迎暉橋在府治東見一統志

廣興橋在府治東北四十里冲登村舊名安定爲左永南

輦大路因水溢橋倒萬歷年間舉人蘇則悅馮則元重

修復圯崇正年間左州牧李之清重修復圯每逢夏潦

秋霖民多病涉

國朝康熙五十年舉人歐振綱蘇眉貢生張炳等重建更

名永濟永康州牧周涌有記見藝文

左州

那板橋在州東南架木爲之

東征橋在州門二十里爲府城大路石砌

晡蒙橋石砌

養利州

太平府志

卷之十一 津梁

永濟橋在州西一里宏治十五年知州羅爵建 本朝知

州王乾德修

迎恩橋在州治南宏治十八年知州羅爵建

同仁橋在州治南十里

密江橋在州治南十七里宏治十八年知州羅爵建

四達橋在州治東十里宏治十八年知州羅爵建

隴歷橋在州治西七里通歸順下雷等處

那也橋在州治東十五里通萬承陀陵等處康熙三十

年知州汪溶日重修

永康州 琴吞橋舊陀陵縣地

那橋在舊恩同州治西南見一統志

馱輪橋在舊恩同州東北四里見一統志

太平土州

舊州渡筏渡

大石橋

鉅鐘橋

來橋在州治西三里

平土州

州後渡在州治北去恩城州路

迎恩橋在州城內有華光廟

會仙橋在州城內路入會仙巖

太平府志

卷之十一 津梁

三

水陂橋在州城中有有水陂

萬承土州

武安岡橋在州治西見一統志

玉帶橋在州前西離州半里

長慶橋在州西南路離州四里

馱崑橋在州西南路離州三里

興良橋在州西南路離州五里

馱合橋在州西南路離州八里久圯舊碑尚存

布龍橋在州北離州半里

通都橋在州北離州一里

仙慶橋在州東路離州五里

古嶺橋在州東路離州九里

石痕橋在州東路離州六十里

龍英土州

大石橋在州治東三里

通利橋在通利江州前左右溪水遠流架木橋二座以利

往來見一統志

恩城土州

新州渡在州城前筏渡

舊州渡路通安平

全茗土州

來橋在州城下流

太平府志

卷之十一 津梁

四

橋在州城上流

上下凍土州

孔奇渡在州治前船渡

哥村橋距州治十里木架

巨村橋距州治五里木架

恩明土府

剝江渡在府治東八十里通上段三水小水等處

都院渡在府治東一百里通遷隆忠州上恩南等處

况村渡在府治西十里通上下石西州憑祥上下凍州等處

處

安馬渡在府西南五里通南段西平州永平寨等處

小渡在城西南六里小渡俱用小橋

馱州小渡在城南二里

祥村小渡在城東七里

府門橋在府儀門外正統七年知府黃瑀建

東門橋在東門外成化十一年知府黃道建黃澤重修改

名太平橋

園初康熙九年土官黃戴乾重修

南門橋在南門外成化二十年照磨莫遜建

模綿橋去府南一百步正統九年知府黃瑀建

廣德橋在府西三十里元至正元年總管黃武宗建

永昌橋在府西五十里知府黃廣平建

太平府志

卷之十一 津梁

五

廣明橋在府西三里知府黃忽都建

永濟橋在府北十里土目鄭虔建

東門小石橋在東門外數武近崩壞

南門小石橋在南門外近崩壞

廣濟橋在府治東十一里土目陸柳建

思明土州

州前渡 猪山渡距州治三十里

江州土州

東門石橋

北門石橋江中有泉湧出

派棉橋石鞏

墨水橋石鞏府城大路

龍黃橋石砌

那老橋石砌

窰頭橋石鞏

大橋在大橋村木架

水口橋石砌

河馬橋木架

巴河渡新寧州交界

羅陽土縣

藍冲橋在白沙村木架

太平府志

卷之十一 津梁

六

羅白土縣

石空橋離縣一里過忠州路

上土龍司

鄧勒渡距舊州治五十里

馱壞渡在舊州治東四十里近河村一名馱河渡見一統

勳村渡距舊州治三十里

下土龍司

南岸渡舊州治前

河屯渡舊州治前

通津橋在城東一名青橋一名花橋有石

統志

楞交橋去上下東州路

盈材石壘去憑祥路

枕流橋在城東係府城大路

外都結等九土州津梁無

太平府志

卷之十一

津梁

七

太平府志卷之十一

地輿

溝洫

崇善縣

大陂在科派村側疏為二溝左溝歷那布達於州那右溝歷

東山詢村達於澤岸縣之賦穡多賴此陂

崇善水陂在本縣求村上流明嘉靖年間土官趙暹開鑿未

就被誅中止嘉靖四十年知府章藹復加疏濬尋去知縣

吳輔國繼之水崩抵岸財力不足中止

平崗水陂在陀陵縣那里村界明嘉靖二十七年知府周允

視其地勢平廣帶以溪流可墾為田且為舊府屬地令陀

太平府志

卷之十一

溝洫

一

陵縣土官黃球退還十四村地建議鑿溝允徂中輟嘉靖

三十年推官羅綉行經其地白于知府何泳行興工濬

亦未就而罷

雙路村水溝歷恩城雙路諸村以灌田

左州

橋龍江自陀陵縣三清山合諸水流經州境入左江諸村

田皆資灌溉

龍泉在州東吉村土人呼喇隴石下湧出源泉不竭

池以灌田

養利州

靈陂自茗盈州經隴岐至州沿北水出石中引以灌田

王泌所開

瀑布泉出觀音巖在州南五里漢丈許二水合流灌田

永康州

遼陂在城南二里源從萬承流下

陽陂在城西三里源從大山出灌州前之田

萬承土州

思崖泉有二距州五里灌溉田畝卽玉帶文秀連珠諸泉水

太平土州

四文大陂在舊州之傍沿江左右各流一溝左溝長一十六

里右溝長三十餘里

雙路村水溝疏自恩城叫村大陂歷雙路把廟諸村溝長十

太平府志 卷之十一 溝流

餘里

恩城土州

那敏村泉在州治東五里

菊更留泉在州治西一里

全茗土州

啼顯泉卽與茗盈所爭澗水經上斷分爲二派灌田

上土龍司  
下土龍司

龍泉發源古甌水清多魚四時不竭古甌之田賴之

思明土府井

平府志卷之十一終

太平府志卷之十二

地輿

驛站 鼎舖附

崇善縣

額設夫船無

東去水路由縣城二百四十里至馱盧塘三十里至花梨塘

五十里至馱丁塘二十里至新寧州交界

東去大路由縣城五十里至崩坎塘五十里至新寧州交界

南去小路由縣城五里至佛子舖與江州土州交界

左州

額設夫船無

太平府志 卷之十二 驛站

南來小路由崇善縣崩坎塘十里至琴勒村四十里至州城

養利州

額設夫船塘舖無

南來小路由太平土州界檀村三十里至州城

永康州

額設夫船塘舖無

南去小路由州城四十里至師巖峒與新寧州交界

思明土州

額設夫船無

北去水路由州治一百二十里至江口塘與崇善縣交界

江州土州

設夫船無

北來小路由崇善縣佛子舖二十五里至州治

上下二土龍司

設夫船無

東去水路由司治六十里至農村塘十里至鄧勒塘四十里

至楊額塘五十里至馱棉塘五十里至江口塘與崇善縣

交界

外萬承等一十九土屬驛站無

本府陸路共設塘舖一十一處

東關塘 崩坎塘 馱廬塘 以上三塘屬崇善縣地方

舖夫無

太平府志

卷之十二 驛站

二

馱朴塘 渠併塘 那陶塘 渠烏塘 獨山塘 以上

五塘俱屬左州地方各設舖司二名傳遞公文每名歲支

工食銀五兩四錢

大橋塘 屬江州地方舖夫無

扣村塘 化村塘以上二塘屬上下二土龍司地方舖夫

無

水路下江共設塘舖一十四處

機黃塘 三北塘 崩坎塘 冲登塘 冲口塘

馱朴塘 馱除塘 賴灘塘 叫程塘 八索塘

馱思塘 馱廬塘 花梨塘 馱丁塘

水路上江共設塘舖一十六處

盤馬塘 馱棉塘 楊額塘 鄧勒塘 農村塘

江口塘

太平府志卷之十二終

太平府志

卷之十二 驛站

三



太平府志卷之十三

地輿

古蹟 陵墓附

崇善縣

太平路舊治在府東百里明正德十九年始遷今治而舊治遺址尙存

黃巢故城在府東二里四山周匝皆石壁峭立中鑿石爲門

下瞰江流亦天險也或傳黃巢兵敗南奔會屯駐於此

伏波銅鼓在城隍廟相傳馬援所置

古銅鐘上紀乾和四年辛亥鑄於東禪院今考紀年惟南漢

劉晟有乾和年號豈其時之物耶

太平府志

卷之十三 古蹟

銀窖山在府城東五十里半山間有石峒封塞完密相傳爲

黃巢藏金處

養利州

上州 通域 弄豆 俱舊治有石礫遺址

舊學在城外北二里萬歷二十七年遷入城中

懸崖杖在州治南五里其山峭絕壁立人跡不可到中間橫

出一杖長尋餘相傳爲數千年物

散花嶺在州治西三十里相傳土官趙文安設醮呂仙作

丐臨壇土官惡其不潔拉出呂仙手拍門上成金字題

云串字去中心同水將共侵鬚邊無白髮匹馬去難尋

土官悟追至此嶺白馬騰空天際墜故名越再歲

被事改流

太平土州

明烈女李氏墓土官李琛之女因夫岑璠爲弟所殺矢志不嫁卒葬於此

古銅鐘在州北二里馱廟村側土人名爲飛來鐘不知來自何代

思明土府

黃遠縣故址在府東八十里卽今峙邑村

遷隆縣故址在府東一百六十里卽今馱廟村宋爲鎮元敗

爲縣今廢

武黎縣故址在府東二百里卽今逐村

太平府志

卷之十三 古蹟

華陽縣故址在府東北二百四十里卽今峽寨村

萬戶府故址在府西南二百里去永平寨北二里元鎮南王

脫驪征占城次永平寨交趾王率衆來拒王乃築府爲守

禦以備患仍發三省兵征之交趾王走海諸將以糧盡師

老請還而府廢矣舊基猶存

馴象衛故址在府南二百步詳見黃公神道碑

古萬寨故址在府東一百里卽今古萬山有舊基

江州土州

波巖仙人石枕 石床

石牛望月

水中花洲

荷花半月池

憑祥土州

銅柱在州南鎮南關外三十里坡壘驛漢伏波將軍馬援平交趾時立為漢極界宋陶弼詩壘畫行絕域銅柱入中原外左州永康州及萬承等十九土屬古蹟無考

太平府志卷之十三終

太平府志

卷之十三

古蹟

三

太平府志卷之十四

地輿

風俗

府學記云士多變化皆有禮義之習

鄧濟學校記云民風土俗漸與中土等

鄧志云地狹民稀男女趁墟少事賦詠又云三廂民凡百戶

男女甫有室家即便分爨又云太平之民少習工作間有

行商亦不遠涉又云太平之民多不鑿井遠汲於河婦女

編髮髮髻

一統志云衣冠不正飲食亦殊婚喪用歌樂病鮮求醫又云

婚嫁唱歌踏青為媒灼喪葬鼓樂飯僧為美觀

太平府志

卷之十四 風俗

一

舊志曰府城內外衣服飲食略與中州同尙卜重鬼神疾病

不食藥餌惟用火灸及設牲巫覡又曰永康地瘠民貧風

俗樸陋三時農務孔殷家人亦勤於饋餉相率耕作遇病

祭鬼不食藥餌墟場貿易多婦女貨物惟布帛菽粟菜

縷瓜瓠等物

謹按太平城郭居民有因仕宦落業者苟合省商賈落業

者有由宋皇祐從軍而來者稽其各家世譜出自山東者

十之六七出自江南河南江西廣東者十之三四有歷四

五世七八世不等類多詩書傳家科第絡繹彬彬禮故一

如中州與郭外村民婚嫁喪祭衣冠語言迥異而城郭無

田買售三畝業產三畝土民多屬郡中世家佃戶無敢與

並坐隊飲食者一統志所載悉崇善未改流時土縣土民陋習自我

教化軍教官斯土者又能勸宣

星加意鼓舞邇來舊縣土民有遣子弟出郡就學者有延師訓誨者書字漸通禮義漸曉婚嫁一如府廂儀節非復向時之陋習矣

左州永康養利三州舊俗從乎土俗自改流後民知禮義士誦詩書前明中葉登第者先後有人延及

本朝而永康科目尤盛大三州之風俗雖奢儉或異而冠婚喪祭之儀俱不啻乎與禮衣服居處之制亦無殊乎郡

城猶是村落土人則不能與鄉民比蓋村落之民與土官之民類也

太平府志

卷之十四 風俗

二

太平所隸二十三屬土府州縣雖風俗各殊大抵土官與郡城之世家禮節相等而後過之至於官族子弟管事頭目亦皆知尊卑長幼之分但值土官荒淫昏昧失防微杜漸之術則政柄漸淪而民不逞之息有世職者可不鑒此而慎於未然然此皆特指土人世為官目所役而古所謂狼狽是也居者不類於漢人然經我

朝禮陶樂淑以來其風俗亦漸改矣

太平所屬土司如太平安平高平恩城四屬土官皆知延師立教其子弟亦嫻文詞至上下二土龍司江州上下凌

二土州羅陽羅白二土縣六屬風俗近亦漸易也

憑祥思陵上下石西州若盈全若佶安佶倫都結鎮遠十

一屬離郡甚遠人稀地僻未能誦讀惟思明十府原建有學又經大紳解先生之漸摩其府治與思明州居民皆習詩書隨例應試鄉有舉歲有薦恩有拔官族子弟曉文藝者亦得附焉但密邇南交民多狡悍邇來聲教四訖亦駸駸向化矣

謹按風俗之奢儉厚薄習俗使然太平僻處天南人多淳朴倘得慈惠之師忠信之長日納於軌物之中則至性相感有不漸變而至於道者乎太史公曰法施已然之後禮禁未然之前然則移風易俗其必以禮正之歟

太平府志卷之十四終

太平府志

卷之十四 風俗

三

太平府志卷之十五

營建志序

周禮量人以建國之法營國城郭營后官量市朝道巷門渠造都邑掌之量人又掌之掌固以時修之凡守者受法焉聖人治天下雖不侈於宮室臺池之觀而城隍不修學校不設堂室不闢倉庾壇廟廢而不治道無阻固川無舟梁非所以壯金湯嚴體統廣教化崇祀典也史稱馬援平徵側徵貳之亂所過輒為郡縣治城郭穿渠灌溉以利其民條奏越律與漢律駁者十餘事以約束之自後路越奉行馬將軍故事太平即路越地境內舊有威鎮關相傳為援所築故址猶有存者今之府治據青蓮山之陽麗江四折環其三面其形若壺

太平府志 卷之十五 營建志序

故名壺城明胡世寧復築關其北形勢益固惟所屬土酋時相爭奪日每干戈室廬解舍成毀不常我

定鼎威德遠播蠻夷率服內安外寧民物康阜凡城垣斥埃官師解署壇廟寺觀亭臺坊表固不修飾誠哉其為太平之象也故分其類紀其始末而盛衰治亂之迹亦約畧可粗矣

志營建

太平府志卷之十五

營建

城池

太平府城垣明洪武五年知府趙鑑委千戶程良督屯軍築造土垣高二丈一尺廣一丈二尺周圍六百四十二丈城門有五東曰長春南曰鎮安小西曰安遠西曰鎮邊北曰拱辰各建樓於上永樂六年七月江水泛漲淹塌城垣四百餘丈千戶王宣通判王俊文督令軍民及行各州縣助修易之以石正德十四年知府鄧炳以軍士調守壽州遂於防守砌塞安遠門隆慶五年水漲復傾知府林廷顯補葺萬歷年間知府蔡迪恩通行修砌其各流土與千戶所俱有應修定界工成扁其南樓為南薰樓明末民散城荒傾頽大半

太平府志 卷之十五 城池

傾頽大半

國朝順治十六年始平定知府遲燁推官唐敬一及知府馬正午相繼修復康熙七年四月復因水漲傾圮四十四丈知府高不矜捐俸倡流土各屬修復又建南樓一座知縣連起文捐俸修復東樓一座知縣張京銓捐俸修復小西門一座日久復傾康熙五十八年知府王潯倡流土各屬捐俸修復

太平府城濠舊以軍職廂民魚塘為之嘉靖三十二年知府何派行因南門在府治前西偏外無居民草莽荒穢遷于府治正南其外魚塘填塞建關街商店舍招民居之蓋

府治捍衛計也

崇善縣 附郭

左州舊無城垣明正德十五年知州李欽承遷州治於古槐村即今州治築土城高一丈六尺周六百七十四丈立東西南北四門門皆用木架樓于上崇正十一年知州李之清以不便防守捐資創建甕門四座建敵樓於上

國朝順治六年交趾高平莫酉攻城敵樓盡燬後乃棄城西南一帶改築土牆於內以便居守康熙四年知州王敬祖捐貲仍照舊基修復完固

養利州舊無城垣明宏治十四年知州羅爵築土城萬歷十一年知州葉朝榮始作石城十七年知州許時謙以城內

太平府志 卷之十五 城池

二

空曠改建北樓減十之三周三百七十九丈高一丈三尺垛口六百四十東西南北併小西門水關門共六門敵樓五座城內有泉即石巖泉遇春夏泛溢水通江前架柵木七丈

國朝順治五年頽塌大半十八年知州傅天龍修復完固康熙七年四月十一日江水暴漲與城中泉水交泛城垣廢宇官舍民房崩塌殆盡知州蔡榮造值霖雨隨修隨壞迄無成功康熙三十年知州汪浴日捐資修復

永康州原無城垣萬歷三十年始築土城崇正十一年知州李喬春詳建磚城周圍二百丈高一丈五尺垛口二百一

十東西南北四門敵樓四座

國朝康熙四十三年知州徐樹庸重修

太平土州舊土垣周四百二十二丈高一丈東西南北四門

安平土州舊土垣周七十五丈有奇高一丈無城池

萬承土州舊土垣周八十丈三尺高七尺無城池

龍英土州舊土垣周六十五丈高八尺無城池

恩城土州舊土垣今廢無城池

茗盈土州舊土垣周六十六丈六尺高六尺無城池

全茗土州舊土垣無城池

佶倫土州舊土垣無城池

結安土州舊土垣無城池

都結土州舊土垣無城池

太平府志 卷之十五 城池

三

鎮遠土州舊土垣無城池

上下凍土州舊土垣官署繚以土垣無城池

思明府土城明成化中土官黃道建築周八百九十四丈高九尺厚六尺城門六東曰東旭南曰鎮南西曰柔遠北曰

拱極南曰懷安東北曰承恩城外濠墜環植以竹

思明土州舊土垣周一百三十丈東西南北四門

上石西土州今屬通判管轄城垣州志未載

下石西土州舊土垣周二百一十八丈高五尺東西南北四門

思陵土州舊土垣周二百一十八丈高五尺東西南北四門

憑祥土州舊土垣無城池

土江州舊築土城後更甃以石周六百四十丈高七尺為門

五東南北各一門西二門

羅陽土縣舊土垣無城池

羅白土縣舊土垣無城池

上土龍司在新司治無城池

下土龍司在舊州治土垣周八百五十丈高一丈二尺西北

各一門東南各二門東西南距河北倚山無池

舊額派修府城分界

本府自小西門修至千戶所頭舖中交界止共一百六十二丈

千戶所自本府頭舖中界起修至北門舊陀陵縣界止共二

太平府志 卷之十五 城池

四

百二十三丈二尺

舊陀陵縣自千戶所界起修至萬承州界止共一十六丈

萬承州自舊陀陵縣界起修至太平州界止共二十五丈

太平州自萬承州界起修至龍英州界止共一十七丈

龍英州自太平州界起修至安平州界止共一十六丈

安平州自龍英州界起修至左州界止共一十六丈

左州自安平州界起修至養利州界止共一十七丈

養利州自左州界起修至恩城州界止共一十六丈敵樓一

座裏外折算共成一十六丈

恩城州自養利州界起修至羅陽縣界止共一十二丈

羅陽縣自恩城州界起修至永康州界止共九丈

永康州自羅陽縣界起修至信倫州界止共四丈

信倫州自永康州界起修至全茗州界止共九丈

全茗州自信倫州界起修至上下凍州界止共十丈

上下凍州自全茗州界起修至舊思同州界止共八丈

舊思同州自上下凍州界起修至都結州界止共八丈

都結州自舊思同州界起修至茗盈州界止共八丈

茗盈州自都結州界起修至崇善縣界止共十丈

崇善縣自茗盈州界起修至鎮遠州界止共一十二丈

鎮遠州自崇善縣界起修至結安州界止共九丈

結安州自鎮遠州界起修至小西門本府界止共九丈

更定修城分界

太平府志 卷之十五 城池

五

本府原額捐修一百六十三丈後議減六十八丈應修九十五丈

五丈

千戶所原額捐修二百二十三丈二尺後議減一百七十三

丈二尺應修五十丈

千戶所今久奉裁所分  
分界今均派各屬分修

崇善縣原額捐修一十二丈後議加一十二丈應修二十四

丈

左州原額捐修一十七丈後議加一十三丈應修三十丈

養利州原額捐修一十六丈後議加一十四丈應修三十

永康州原額捐修四丈思同州歸併八丈共一十二丈後議

加一十二丈應修二十四丈

陀陵縣原額捐修一十六丈後議加四丈應修二十丈

今係  
原額

修州

太平州原額捐修二十七丈後議加一十三丈應修三十丈

安平州原額捐修一十六丈後議加一十四丈應修三十丈

萬承州原額捐修二十五丈後議加八丈應修三十三丈

龍英州原額捐修一十六丈後議加一十四丈應修三十丈

恩城州原額捐修一十二丈後議加二丈應修一十四丈

茗盈州原額捐修十丈後議加二丈應修一十二丈

全茗州原額捐修十丈後議加二丈應修一十二丈

信倫州原額捐修九丈後議加三丈應修一十二丈

結安州原額捐修九丈後議加三丈應修一十二丈

都結州原額捐修八丈後議加四丈應修一十二丈

太平府志 卷之十五 城池

鎮遠州原額捐修九丈後議加三丈應修一十二丈

上下凍州原額捐修八丈後議加四丈應修一十二丈

思明府新議應捐修四十丈

上石西州新議應捐修十丈

思陵州新議應捐修一十二丈

羅陽縣原額捐修九丈後議加三丈應修一十二丈

羅白縣新議應捐修十丈

龍州新議應捐修二十丈今係上龍司下龍司分修

太平府志卷之十五終

太平府志卷之十六

營建

公署

太平府署在南門內洪武三年知府金濟貧建西南向後燬

於火成化十二年知府何楚英改正南向建大堂一座廟

愛川堂三間廟曰黃恭兩旁為六房聯工房之末為架閣庫改

照磨所為儀仗庫堂後右側為耳房庫中為甬道戒石亭

前為儀門東為土地祠西為司獄司門之外為寅賓館為

大門後為江州賊燬

開朝順治十八年知府馬正午修復大堂川堂兩廊以及廂

房俱以茅覆之康熙五年知府高不矜重修兩翼及土地

太平府志 卷之十六 公署

祠各處俱易以瓦大門上為蕭樓類曰遠景改舊庫為東西兩

軒二堂後建樓房一所為內室軒之西為射圃日久大門

圯五十七年署府事于鼎元重修堂後諸室牆壁廳櫺六

半頽毀五十七年知府王潯重修

通判署舊在正堂東北後廳三間左右廂房各一間前廳三

間左右耳房書房各三間門二座各一間康熙三十三年

通判俞品遷建于正堂左大堂三間儀門三間大門一

書房前後六間後毀改為經歷廳今通判俱借居分巡道

舊署

理刑廳在正堂西北今廢

經歷廳在正堂左萬歷年間知府蔡恩修改在理刑廳前

居正堂大門之右

國朝康熙五十八年經歷潘琦遷于通判署舊址

教授署舊改會饌堂為之在泮池左二座各三間外有正門

萬歷間知府蔡迎恩重修後遷于東門城內分守道舊址

訓導署舊在櫺星門右萬歷時知府蔡迎恩修久圯後與教

授署同遷東門城內

國朝康熙五十八年知府王游改建鄉賢祠之右

陰陽學在府大門外左今廢

醫學在府大門外右今廢

申明亭一間在鎮安門外今廢

旌善亭一間在鎮安門外今廢

太平府志 卷之十六 公署

乃積倉在府治東北正廳三間廩倉四座大門一座外門一

座今廢

預備倉在乃積倉側

豐濟倉十間在府堂左雍正三年知府甘汝來建

左江驛在府東北城外正廳三間前為樓門三間嘉靖三十

二年知府何派行建隆慶五年水泛傾頽萬歷年間知府

蔡迎恩修葺今廢

分守道署正統五年奉工部勘合立在東門城內後廢即今

教授署地

分巡道署在布政分司之左正堂三間川堂一間後堂一間

川堂左右有廂房正堂前為東西兩廂各三間儀門三間

國朝康熙十年知府高不矜及四流州縣共捐俸七百餘兩

遷建于千戶所地五十五年通判何灝詳請暫借為通判

署

崇善縣將明嘉靖十九年始遷附郭建於積慶寺舊址隆慶

六年知縣何道臨增建正堂三間前為丹墀近北為

路臺為甬道左右為六房各二間再前為戒石亭再前為

儀門門之右為監房左為土地祠再前為大門門之前為

解阜門後俱頽毀

國朝康熙九年知縣張京鐘重修大堂三間後為川堂再後

太平府志 卷之十六 公署

乃二堂左右各有廂房再後為內室由大堂而北稍後為

前廳四十年知縣于澧類曰心軒之後為蔬圃堂之前右

廩倉左為六房其蓋房土地祠俱如舊制

署舊在縣署左今改在關帝廟左前後廳各三間書房

一間

在東門外下郭街嘉靖二十年監生宋世休營民立

里鄰建久廢後建於東門城內

國朝康熙五十年知縣岳康又建於北門墟尾

署在小西門班氏廟牆外康熙五十五年知縣王

設立

國朝康熙五十五年知縣王符

在小西門



屋一所

普濟堂雍正二年知縣周夢錦捐俸于小西門外置買茅屋

二間

左州署自成化戊戌改流後尚未營建至正德己卯知州李

欽承始建於古欖村即今州治嘉靖二年知州周璽十五

年知州方紀龍二十七年知州鄧體靜三十八年知州鍾

鍊前後相繼增城垣廣解字牧愛撫綏保障有坊申明旌

善有亭後經兵燹鄰封侵佔地方漸至削弱坊亭郵表傾

圯無餘至今僅存正署數椽不蔽風雨

吏目署在州署儀門之左前後各三間兩旁有廂房

學正署舊無康熙六十年學正關士勳捐貲自建後房三間

太平府志 卷之十六 公署

四

書房三間在城北門內

訓導署僦居民房

養利州署州治三遷宏治十一年知州羅爵始建衙舍朝對

中峰中為正堂三間左為贊政堂右為龍亭儀仗庫又後

為堂三間兩廊二間前為儀門三間左為土地祠右為迎

賓館大門外有申明雉善二亭大門上鼓樓三間萬曆四

十七年水沒東西兩廊知州王滋復建旁列六房後列吏

舍明末蕩然無存

國初知州傅天寵改舊八官館為署自後沿為州署康熙十三

年復毀於兵三十年知州汪溶日捐貲修建于大堂左建

倉廩一座五間東西各建倉一座共八間又兩廊列六房

各三間儀門外左蓋土地祠一座右蓋郵表三間

規制

吏目署在正堂大門內左廳一間後房三間前兩旁廂房二

間今廢

學正署舊在學宮內為堂三間後房三間大門一間今廢

訓導署

永康州署萬曆二十七年知縣劉吳詳併思同改縣為州始

建治明末毀

國朝康熙十八年知州吳尙庚二十三年知州許延邵相繼

修復二十九年知州柯法重建川堂花廳左右耳房各三

間內室五間四十年知州葉專重建大堂蓬蓬各三間左

右翼為六房三間儀門一座鼓樓一座

吏目署在州署左一座三間久圯今以義學地改建吏目沈

玉瑜薛東顯次弟落成

學正署康熙八年學正張居竣始蓋茅房二十六年學正謝

明賢捐俸以傳是重建一座五間

訓導署

常平倉在儀門內兩旁

太平土州署嘉靖二十七年知州李栢遷於下渡

國初康熙十年知州李開錦遷於湯懷即今州治正堂三間

東西廊各五間儀門三間鼓樓三間樓房五間左右廂房

州同署 即舊吏目署

安平土州署正堂三間東西廊各五間儀門三間鼓樓三間

後堂三間樓房五間左右廂房監房各三間

州判署 即舊吏目署

萬承土州署正堂三間內宅五間東西兩廊各五間儀門三

間鼓樓三間監房三間

州同署 即舊吏目署

龍英土州署正堂五間東西兩廊各五間後堂三間內宅五

間左右廂房監房各三間

州同署 即舊吏目署

恩城土州署正堂三間後堂一間內宅五間東西廂房各五

太平府志 卷之十六公署

間儀門鼓樓各三間監房三間

吏目署

若盈土州署正堂內宅各三間東西廂房各五間儀門鼓樓

各三間監房三間

吏目署

全若土州署正堂三間內宅五間東西廂房各五間儀門鼓

樓各三間監房三間

吏目署

估倫土州署正堂內宅各三間儀門三間鼓樓三間監房三

間

吏目署

正堂後堂內宅各三間儀門監房各三間

州

都結土州署正堂三間內宅五間東西廊各五間儀門鼓樓

各三間監房三間

吏目署

鎮遠土州署正堂內宅各三間儀門三間大門監房各三間

上下東土州署正堂三間內宅五間儀門大門各三間監房

三間

恩明土州署正堂三間顏曰後堂五間顏曰退思堂後樓房五間

東西兩廊各八間由樓而東花廳三間正堂之東為

堂西為英武堂以貯軍器前為儀門門外左申明亭右

太平府志 卷之十六公署

善亭再前為大門譙樓一座由府而北不數武為永成堂

此皆舊日規模今半頽毀矣

清軍廳公署在土州署右舊有正堂三間後堂三間儀門

門各三間久圯康熙五十七年同知曹士璋重建

經歷署原在南門因變拆毀康熙初年經歷焦象賢移往

街尋毀五十八年經歷張琢葺葺屋五間

照磨所今裁廢

教授署康熙二十九年教授高熊徵始建於文昌祠側今

訓導署

恩明土州署正堂三間儀門三間後堂三間堂之右為

三間左為樓房

吏目署

上石西州今歸本府通判管轄舊州公署未載

下石西州署自正堂以及門舍俱以茅覆之

吏目署

憑祥土州署一座三間

州判署 即舊吏目署

江州土州署一座東西兩廊儀門大門各一座

州同署 即舊吏目署

思陵土州署

羅白土縣署

羅陽土縣署

太平府志

卷之十六 公署

八

典史署

土土龍司署在本司署後

下土龍司署在龍州舊治

吏目署今裁廢

太平府志卷之十六終

太平府志卷之十七

營建

學校

太平府學明洪武三十年知府陳惟德始建於城內北隅學

宮卑隘後遷城外東南向正統間知府蔣彥黃重建成化

十二年知府何楚英重修 即清 崇治十三年知府謝翊改

作東向正德間知府徐球復遷舊地南向萬歷十七年知

府張步雲重修復改東向後經江州賊燬

國朝順治十八年知府馮正午建尋圯康熙六年知府高不

矜重修三十六年知府徐越知縣王言再修復圯五十八

年知府王濬率通學捐賞重修雍正元年奉文改啓聖祠

太平府志

卷之十七 學校

一

為崇聖祠追封孔子先世五代王爵添造神牌祭器

敬一亭在明倫堂後嘉靖時知府唐翺建萬歷間知府蔡迺

恩重修今圯

崇善縣原未建學雍正元年知縣周夢錦詳請設學歲試取

進文武生員各四名科試取進文生四名撥府學訓導督

課文廟不另建春秋上下日附祭府學建忠義祠於府學

內隙地節孝祠以壺山書院改為之

左州學明嘉靖八年知州周墨初建于州城北二十七年戊

申知州鄧體靜重修隆慶四年知州林休建明倫堂名宦

祠八年知州袁昌祚遷於城西門外萬歷四十年知州蕭

貽朔遷于城南門崇正己卯知州李之清復遷于城北

五交北境殘毀

康熙二年知州紀振邊修復大殿三間二十五年

捐以仍建于城南門內雍正元年奉文啟聖祠為崇聖

祠追封孔子先世五代王爵添造神牌祭器其鄉賢名宦

二廟及泮池明倫堂雍正二年知府王夢堯捐賞倡率通

學修理

養利州學原在城外北一里明萬歷三年知州王之緒建二

十四年知州劉夢齡遷入城內

太平府志 卷之十七 學校 二

國朝順治十八年傅天龍重修後圯康熙三十二年知州汪

溶日捐俸重建今大殿廟門尚存其餘俱圯雍正元年奉

文啟聖祠為崇聖祠追封孔子先世五代王爵添造神

牌祭器

永康州學明萬歷三十六年知州葉時敏建崇正九年知州

李喬春重修

國朝康熙元年知州趙森重修十四年火災二十一年知州

吳尚庚重建未竣罷任去二十五年知州許延邵學正謝

明英率通學生員張炳等全捐資重修大成殿及西廡明

倫堂啟聖祠名宦鄉賢祠四十五年知州徐得庸以木柱

易以磚柱五十五年知州徐秀為

年奉文改換崇聖祠額追封孔子先世五代王爵添設神

牌祭器

思明府學明萬歷三十七年同知王一岳土知府黃承祖建

同知蘇日登劉廷蕙朱日登相繼修葺建年遠傾圮

國朝同知王之仕蕭如芝相繼修復康熙二十八年同知陳

達土知府黃維鼎教授高熊徵重建康熙六十一年教授

陳廷藩捐俸倡率通學生員公捐重修雍正元年奉文啟

聖祠為崇聖祠追封孔子先世五代王爵添設神

器

太平州原未建學雍正二年知州李審詳請 題設歲試取

進文武生員各四名科試取進文生四名廩糧二石移調

太平府志 卷之十七 學校 三

養利州訓導專駐督課

安平等十七土州羅陽羅白二土縣上下二龍土司學校未

建

社學

社學所以訓蒙童教小子以為大學之根基洪武八年太

祖以天下雖安而化民善俗之道猶有未備乃下詔郡縣

凡闕里皆啟塾立師守令以時程督之于是雖窮鄉僻壤

莫不有學

本府社學

仁育在城外上郭知府周允建章誦修今廢

義正在城外下郭建修同上

崇觀在城外新街

崇文在康村

崇教在求村

崇經在禱求村

崇明在乙村

崇仁在頌高村

崇元在馭逐村

五年崇善縣知縣何道清建

廿汝來創社於... 師課

七十兩... 出產以垂

永久至四年... 俯補名... 九十兩知

府上... 六十兩... 二十兩

別語村... 三處田... 二十斗

... 倉斛一百... 水支為

... 以社百久... 之弊

左州社學高馬... 舊六

養利州社學三所

養聖... 萬歷三年知州王之緒建

永康州社學在城內萬歷二十六年知州葉時敏設

思明府社學... 正六

四寨... 正六

北門之右嘉靖二十一年士民思前

政兵部尚書翁萬達德政塑像其中申請撫按春秋崇祀

亦名翁公祠知府江一桂有記

靜菴書院在府城內城隍廟右祀前知府端敏胡世寧靜菴

其號也提學

永康州

麗澤書院在州城內大王廟後知州許延邵建今改為捕廳

署

思明府

太平府志

卷之十七 學校 五  
太子泉書院土官黃廣成建學士解縉請交趾嘗寓于此與

廣成賦詠結歡歲餘今廢

南坡書院在南門內教授高熊徵建

太平等十八土州羅陽羅白二土縣上下二龍土司無社學

亦無書院

學圃

太平府

林村田在左州嘉靖四十三年知府徐師臯捐俸... 賈給儒學置田于左州之林村凡一千地歲入其... 以資諸生月考之用後被人占削今租不足納糧... 請不入學

請不入學

名籍... 四十四...

共五百五十地

以上二起共田三處萬歷二年本學生員程習孔將田

備宋克一名分本學有案

那賴岡田萬歷年間知府蔡迎恩捐俸金三十兩發委

善縣置買民間宋天佐田那賴岡施迷轉賣與譚永芳田

五百地該共米六升內土名激坎田四片二百地布農田

二片六十地那葵田二片五十地孤喃田六片三子地激

內田四片二十地二激田一片六十地布鄰田四片五十

地滄海田二片二十地... 銀一十兩零三錢

太平府志 卷之十七

六

以上共田二十五片

匠贖田萬歷年間知... 恩續買文松典與陳文顯今

一收贖田五百地該米五斗土名匠贖一號田十二片

一十五兩正

左州

奈村思崖田萬歷二十七年撫院楊芳學道路知州方代

發銀置買民田在奈村思崖村二處每年收租六十石屆

期申詳分給諸生為燈油之資近奉文改折銀兩起解

養利州

原額三十二畝二分零五毫六絲田畝坐處未載

永康州

隴懷村原思同州土官養驢田一百畝萬歷三十六年

州葉時敏詳請入學逐年收租以六十畝歸兩齋教官以

四十畝分給八名廩生為燈油之資

思明府

四寨六團學田 詳見林鼎記

陸祐莊田無頃畝明土官黃承祖抄及叛目陸祐以所有

田塘歸學以為師生廩餼今軍廳所收是也

太平府

名宦祠田隆慶年間撫院郭應聘捐俸銀十兩買置左

州民張表田二百地坐落土名那耽遊年送納花利銀三

兩

太平府志 卷之十七 學校

七

租稅

太平府及左養永三流州原額學租田稅共一項五十三畝

三分七厘五毫六絲共徵租銀四十二兩三錢九分六厘

租穀六十石

熟稅共一頃四十二畝一分八厘零七絲共該熟銀三十

九兩一錢七分三厘租穀六十石

荒稅共一十一畝一分九厘四毫九絲共該荒銀三兩一

錢二分三厘

本府名宦祀田全熟稅二畝九分五厘每年納民田編外

實徵租銀二兩八錢編在左州徵解

左州原額學租田稅一十二畝二分... 畝徵租

三石四斗八升四合一勺二抄五圭逐年共該租銀六十

石正

永利州原額學租田稅三十二畝二分零五毫六絲該租銀九兩二錢九分六厘

除荒稅三畝一分九厘四毫九絲該荒銀八錢二分三厘

實熟稅二十九畝零一厘零七絲該徵熟銀八兩四錢七分三厘正

永康州原額學租田稅一百零一畝該租銀三十兩零三錢

正  
除荒稅八畝該荒銀二兩四錢

實熟稅九十三畝該徵熟銀二十七兩九錢

太平府志 卷之十七 學校 八

太平等土州羅白羅陽土 上下二龍上司無學田

太平府志卷之十七終

太平府志卷之十八

營建

壇廟

太平府 崇善縣附郭

社稷壇舊在府城外西明嘉靖二十九年署府事同知余光遷于舊壺關左萬歷年間知府蔡迎恩重修

風雲雷雨山川壇舊在府城東明正德十六年知府邱炳遷于館驛廢址嘉靖二十九年署府事余光遷于城外舊壺

關右萬歷年間知府蔡迎恩重修

厲壇在府城外北一里

旗纛廟在千戶所東明洪武六年建今圯

太平府志 卷之十八 壇廟 一

伏波廟在府城東門外臨江

關帝廟在府城內東康熙二十五年蔡將吳聯重修置有祀

田

班夫人廟一在府城上郭一在小西門一在下郭

府城隍廟舊在府城外東後遷于城內明知府何楚英徐師

臯蔡迎恩相繼修葺 國朝康熙五年知府高不矜重建

二十八年知府黃良驥重修又拓地丈餘建後座五十八

年蔡將武綱倡修

縣城隍廟在舊縣

北府廟一在府城外西一在府城外東明嘉靖中建後廢

國朝康熙八年重建

黃武廟一在府城外東南隅向江一在大西門外上郭向江

李公祠在府城郊下郭三清觀右祀元太平路總管李維屏

見名

翁公祠在肇化書院祀明左江道兵備副使翁萬達

李公祠在府學前左祀明知府李柳今廢

李公祠在府城郊東祀明知府李友梅

會公祠在府城 祀明分守左江參政道會暈

高公祠在府學照壁左祀知府高不稔

左州

社稷壇在州城西

風雲雷雨山川壇在州城東

太平府志

厲壇在州城西

城隍廟在州城內東北隅震向康熙癸卯知州王文昌重修

已卯知州劉正國重修

伏波廟在州城內兌方離向康熙庚戌知州紀鎮邊

琦重修

土地祠一在州衙門內嘉靖戊子知州周墨建康熙癸卯知

州王文昌重修一在北門外坎向康熙癸卯知州王文昌

重建庚戌知州紀鎮邊增建

黃武廟舊在北門城樓今移建金山大士閣前

白龍廟在州城東十五里相傳始有白蛇旋繞溪側居民

廟祀之

養利州

社稷壇在州治西一里

風雲雷雨山川壇在州治南門外

厲壇在州治北二里

城隍廟在城內東宏治十八年知州羅晉建 國朝順治十

八年知州傅天寵重修康熙三十二年知州汪溶日重修

玄帝廟在城內北萬曆四十四年知州王滋建 國朝順治

十八年知州傅天寵修康熙三十三年知州汪溶日重修

葉公祠在州城內東祀明知州葉朝榮今廢

永康州

太平府志

社稷壇在州城東門外

風雲雷雨山川壇在州城東門外

厲壇在州城北門外

城隍廟在州城內

關帝廟在州城東門外

大王廟在州城內

太平土州

社稷壇

風雲雷雨山川壇

厲壇

黃武廟



大王廟在那邑村

關帝廟

北府廟

觀音菴

萬承土州

社稷壇

風雲雷雨山川壇

厲壇

城隍廟

伏波廟

王公祠祀協鎮王起雲潘兵寇萬承起雲提兵往救孤軍

太平府志

卷之十八 壇廟

四

援遂没于賊州人立祠祀之形為輒應

龍英土州

社稷壇

風雲雷雨山川壇

厲壇

城隍廟在舊城內東

北帝廟在城外東

華光廟在城外東

觀音菴在城外西北

三官廟在城外西北

全者土州

社稷壇

風雲雷雨山川壇

厲壇

城隍廟在州治北

玄帝廟在州治南

佶倫土州

城隍廟在州治北

北府廟在州治西

南嶽廟在州治西

高山廟在州治東

結安土州

太平府志

卷之十八 壇廟

五

社稷壇

風雲雷雨山川壇

厲壇

城隍廟在州治南

玄壇廟在州治南

五顯廟在州治東

南嶽廟在州治東北

真武廟在州治西北

上下棟土州

社稷壇在州治南

風雲雷雨山川壇

城隍廟在州治北

城隍廟在州治東南

思明土府

社稷壇在府治西半里

風雲雷雨山川壇在府治北一里 厲壇

城隍廟在府治西明知府黃忽都建隆慶六年知府黃承

重修

伏波廟在府治東今圯

真武廟在府治西土官黃克順建今圯

關帝廟在府治東土官黃克順建康熙二十八年總理鄭之

宸改建于文廟之左經歷徐爾進塑像

太平府志 卷之十八 壇廟

六

龍母廟在府治西一里知府黃澤重修今圯

雷王廟在府城南門外半里知府黃道重修今圯

北府廟在府治西南知府黃道修今圯有大榕樹一株合抱

低垂炎天小坐暑氣頓消

始廟在府治東二里祥村知府黃道修

黃氏廟在府治西知府黃綱建

之

黃氏廟在府治西知府黃綱建

地制在府治東

黃氏廟在府治西土官黃朝建今廢

文昌廟在學宮之右原於春秋上丁與文廟同祭康熙二十

七年放授高煦徵請修其祀議于書院立主祭祀

憑祥土州

社稷壇

風雲雷雨山川壇

厲壇

城隍廟

太尉廟

江州土州

社稷壇

風雲雷雨山川壇

厲壇

太平府志 卷之十八 壇廟

七

城隍廟

真武廟

班氏廟

關帝廟

華光廟

三界廟

北府廟

伏波廟

羅陽土縣

社稷壇

風雲雷雨山川壇

厲壇

伏波廟

上土龍司

社稷壇

風雲雷雨山川壇

厲壇

文帝廟在治西北

花王廟在治西南

下土龍司

社稷壇

太平府志

風雲雷雨山川壇

厲壇

城隍廟在城東

北帝廟在城南

開帝廟在城西

成國公廟祀明成國公朱能永樂中能討交趾舟抵龍州郡

勅甲病殞土人立廟歲時祀之

胡公祠祀明副使胡宗智宣德間交趾與龍州爭地交兵

斷以公議交人不敢爭州人德之

外安平等十土屬壇廟舊志無考

卷之十八 壇廟

八

寺觀

太平府 崇善縣附郭

積慶寺在府城內北隅天順中建立正德年間千戶朱榮以其

地隘遷于舊官地基嘉靖十九年燬

祝聖宮在下郭

三清觀在下郭祝聖宮左

觀音堂在三清殿左

彌陀寺在三清殿左

真武殿在三清殿右

玉皇閣在下郭四牌

永康州

太平府志

觀音祠在州城東門外育嬰堂之旁

思明土府

廣明寺

真慶寺在府治西元至元二十七年土官總管黃克順建宣

德七年知府黃綱重修景泰年間兵亂拆燬嘉靖七年土

官黃朝遷在都督官署舊址今復圮

觀音堂在西臺沼中四面皆水舊名雲棲庵今圮

江州土州

報恩寺

玉皇閣

三清觀

卷之十八 寺觀

九

廣福寺在城東

三寶寺在城東

青龍庵在城東

外左州養利州及萬承等二十土屬寺觀舊志無考

亭臺

太平府 崇善縣附郭

遠景樓即府治大門 國朝知府馬正午建高不矜繼修有

見藝

太平府志 卷之十八 寺觀

十

鐘樓舊在府城安遠街南明正德十六年知府鄧炳改建于

府治左今廢 有記見藝文

桂香閣在府學文廟後初文廟由北門城內遷于東郭科目

輝聯曰... 工子後七科不利郡人何章明特地理謂文

廟上山微躬必築臺閣于上俾之聳授人文始盛于時知

府陳委謀捐梓建閣既成親臨課士首拔鄧元亮謂諸生

曰余昨夢三鳳山連元山巔齊飛入閣今科捷者必獲三

人是科元亮中式第三名始知三鳳為第三名兆也後丙

子壬午相繼登科明季兵燹閣為江州賊毀 國朝康熙

巳酉諸生麥士奇築茅館三間授徒其中是年中式者二

人一傅士奇一滕... 館尋圯又十科不利康熙甲戌署

府事同知傅澤深以龍州贖銀三百兩重建乙亥秋

丙子許鴻策捷自是相繼不絕云

觀亭在府城外黃泥嶺上知府徐師臯建今廢

方亭在龍井前嘉靖四十四年知府徐師臯建今廢

養利州

魚亭在州城外西萬歷間知州許時謙建今廢

官亭在州治南五里今廢

花亭在州城外東今廢

永康州

太平府志 卷之十八 亭臺

十一

風亭在州治南十里今廢

思明土府

東臺舊名臥月庵今圯

觀魚亭

會友亭

清樓在府治北永樂三年知府黃廣成建學士解縉有記

待月樓

外左州及萬承等二十二土屬亭臺舊志無考

坊表

太平府 崇善縣附郭

行... 在府... 三十三... 寺... 光...

在下郭街... 丙子年知府徐天澤為舉人... 琉璃兄弟... 鄉試建今廢

府學前知府何楚樊建嘉靖八年知府唐翺遷于... 遷還舊址今廢

歷年間知府蔡迎恩重修今廢

歷年間知府蔡迎恩重修今廢

明德親民坊在鎮安門外嘉靖三十二年知府何派行建... 曰保障澄清萬歷年間知府蔡迎恩重修扁其內曰明德

親民外曰粵南保障今廢

承流坊在鎮安門外嘉靖三十四年知府何派行建... 間知府蔡迎恩重修扁其內曰承流外曰鴻臚今廢

宣化坊在鎮安門外右嘉靖三十四年知府何派行... 年間知府蔡迎恩重修扁其內曰宣化外曰經綸

父子登科坊崇正平末年知府陳參謀為舉人謝... 建

孝子坊在府學前街嘉靖年間為孝子何埏建載古志人... 烈坊在父子登科坊左嘉靖年間為節烈坊

載古志今廢

牧愛坊久圯

撫綏坊久圯

保障坊久圯

養利州

節愛坊在州前大街天啟四年知州孔從先建今廢

子來坊在州前大街天啟四年知州孔從先建今廢

登賢坊為舉人盧學易建今廢

擢桂坊為舉人袁士楚建今廢

外永康州及思明府等二十三土屬坊表舊志無考

太平府志卷之十八終

太平府志

卷之十八坊表

三

太平府志卷之十九

食貨序

洪範八政食貨居先生民之大命國家之經費皆係乎此禮以九職任萬民九賦斂財賄誠重之也太平極處邊微雖延袤千數百里而崇山峻嶺不毛強半又民窳俗樸趁墟所市不過布帛米鹽從未有懷重賞服遠賈以致奇貨者他如銀銅鉛錫丹砂水銀孔雀翠之屬皆出交趾非此產也加以歲無常登吏多賸削民奚由而不瘠耶故歷紀民俗所資物產所出賦役所供以惕夫拊循茲土者志食貨

太平府志

卷之十九 食貨序

太平府志卷之十九

食貨

戶口

一本府所屬州縣養利永康二州及萬承等一十四土州縣例不編丁外

實崇善左州二州縣

元戶五千三百一十九口二萬二千一百八十六

明宏治五年戶四千八百五十九口三萬五千七百七十

萬歷二十二年戶一千五百三十六口一萬五千九百四

十七

國朝戶口

太平府志

卷之十九 戶口

原額實在人丁四千九百八十四丁

崇善縣人丁二千二百八十一丁

左州人丁二千七百零三丁

康熙二十五年三十三次

崇左共增丁一百二十二丁

二屬共實熟人丁四千二百七十六丁二分一釐內

崇善縣原額人丁二千二百八十一丁內

除荒丁八百二十九丁七分九釐

實舊熟人丁一千四百五十一丁二分一釐

康熙二十年編審增丁八十一丁

共實在熟丁一千五百三十二丁二分一釐

左州原額人丁二千七百零三丁

康熙二十二十五三十三十五四十四十五等年編審新

增九十三丁

共實在熟丁二千七百九十六丁

太平府志

卷之十九 戶口

二

太平府志卷之十九

食貨

戶口

太平府屬

元戶五千三百一十九口 萬二千二百八十六

明弘治五年戶四千八百五十九口三萬五千七百七十

萬曆二十二年戶一千五百三十六口一萬五千九百

四十七

本朝戶口

原額人丁四千九百八十四丁該丁銀一千零四十一兩二

錢一分除荒外熟丁四千三百零一丁二分一厘該

太平府志

卷之十九 戶口

一

丁銀八百一十八兩五錢三分八厘

康熙二十年至五十年共審增一百七十四丁該丁銀

三十六兩六錢四分五厘

實徵舊熟并審增共熟丁四千四百七十五丁二分一厘共

丁銀八百五十五兩一錢八分四厘零

康熙五十五年至六十年共審增一百零八丁錄奉

恩詔永不加賦

崇善縣

原額人丁二千二百八十一丁該丁銀七百四十三兩八錢

八分零除荒外熟人丁一千五百九十八丁二分一厘

該丁銀五百二十一兩二錢零八厘零

康熙二十年審增八十一丁該丁銀二十六兩四錢

實徵舊熟并審增共熟丁一千六百七十九丁二分一厘共

該丁銀五百四十七兩六錢二分四厘零

康熙五十五年審增

盛世滋生人丁四十二丁

康熙六十年審增

盛世滋生人丁四十四丁俱奉

恩詔永不加賦

左州

原額人丁二千七百零三丁該丁銀二百九十七兩三錢三

太平府志 卷之十九 戶口

分全熟

康熙二十年審增一十八丁該丁銀一兩九錢八分

康熙二十五年審增一十丁該丁銀一兩一錢

康熙三十年審增一十三丁該丁銀二兩四錢三分

康熙三十五年審增一十三丁該丁銀一兩四錢三分

康熙四十年審增一十九丁該丁銀二兩零九分

康熙四十五年審增二十丁該丁銀二兩二錢

實徵舊熟并審增共熟丁二千七百九十六丁共丁銀三百

零七兩五錢六分

康熙五十五年審增

盛世滋生人丁九丁

康熙六十年審增

盛世滋生人丁一十三丁俱欽奉

恩詔永不加賦

外養利永康二流州并思明土府上下凍思明太平安

平恩城萬承茗盈全茗龍英佶倫結安鎮遠都結思陵

江州上石西下石西憑祥等十八土州羅陽羅白二土

縣上下二土龍司原額人丁俱未編

太平府志卷之十九終

太平府志 卷之十九 戶口

三



太平府志卷之二十

食貨

賦役

崇善縣

原額官民田地塘共稅四十四頃二十畝零五分零

額徵本色米二百二十一石零二升零

該徵地畝四差鋪墊水脚等項共銀一百九十七兩六錢

七分五厘零

附徵地利銀一十八兩

原額屯田稅一十頃零六畝四分七厘零

額徵秋糧米五百零三石二斗三升零折銀二百五十一

太平府志

卷之二十 賦役

一

兩六錢一分七厘零

右地糧銀四百六十七兩二錢九分二厘并丁銀五百四

十七兩六錢二分四厘零共銀一千零一十四兩九錢

一分七厘零

存留熟銀一百六十二兩九錢一分七厘零

雍正三年五月內奉文新設本縣

文廟祀典并庫糧出貢旗匾等項共熟銀一十二兩八錢七

分四厘零

起運銀七百九十七兩一錢零九厘

驛站銀四十三兩零一分五厘零

左州

太平府志卷之二十

額徵秋糧折色米二百四十五石二斗九升零

該徵地畝四差鋪墊水脚等項共銀一千一百六十三兩

四錢六分五厘零全數

右地糧銀一千一百六十三兩四錢八分五厘零并丁銀

三百零七兩五錢六分共銀一千四百七十一兩零二

分五厘零

存留銀五百四十六兩三錢零一厘零

起運銀八百七十八兩五錢二分四厘零

驛站銀四十六兩二錢

養利州

太平府志

卷之二十 賦役

二

原額官民田地塘共稅三十頃零七十畝零四分七厘零

額徵秋糧折色米一百五十三石五斗二升零

該徵地畝鋪墊水脚等項共銀一千一百二十三兩七錢

三分八厘零全數

存留銀三百七十二兩一錢八分六厘零

起運地糧銀七百五十一兩五錢五分二厘零

驛站銀無

永康州

原額官民田地塘及所併舊思同土州地共稅二十六頃六

十一畝六分零

額徵秋糧折色米一百三十三石零八升

徵地畝四差折糧折算鋪墊水脚共銀七百一十六兩六錢零七厘零

又所併舊陀陵土縣原額官民田地塘共稅三十三頃六十三畝五分額徵秋糧折色米一百六十八石一斗七升五合外加耗米三石三斗五升零該徵地糧並歲派共銀二百六十五兩四錢零七厘零

右地糧共銀一千零二十二兩零一分四厘零

存留銀五百二十九兩五錢八分一厘零

運銀四百九十二兩四錢三分三厘零

站銀無

萬承土州

太平府志 卷之二十 賦役

三

原額官民田地塘共稅一百頃零四十畝

額徵秋糧米五百零二石外加耗米六石二斗五升

該徵地糧并歲派共銀三百九十六兩零八分四厘零

存留并協濟共銀一百五十五兩三錢六分八厘零

起運地糧并協濟共銀二百四十兩零七錢一分六厘零

太平土州

原額官民田地塘共稅四十七頃八十畝

額徵秋糧米二百三十九石

該徵地糧并歲派共銀二百三十四兩六錢八分零一厘

零

存留并協濟共銀一百六十六兩一錢零六毫

起運地糧并協濟共銀六十八兩五錢七分九厘零

安平土州

原額官民田地塘共稅三十八頃二十四畝

額徵秋糧米一百九十石零七斗外加耗米二石零九合

該徵地糧并歲派共銀一百九十七兩零三分四厘零

存留并協濟共銀七十四兩一錢二分一厘零

起運地糧并協濟共銀一百二十二兩九錢一分三厘零

龍英土州

原額官民田地塘共稅七十五頃一十五畝

額徵秋糧米三百七十五石七斗五升

該徵地糧并歲派共銀三百二十九兩四錢八分三厘零

太平府志 卷之二十 賦役

四

存留銀二百四十一兩九錢

起運地糧銀八十七兩五錢八分二厘零

恩城土州

原額官民田地塘共稅三十七頃三十八畝

額徵秋糧米一百八十六石九斗外加耗米九石三斗四升五合

升五合

該徵地糧并歲派共銀一百五十五兩三錢一分二厘零

存留并協濟共銀三十六兩三錢七分四厘零

起運地糧并協濟共銀一百一十八兩九錢三分八厘零

都結土州

原額官民田地塘共稅二十九頃六十五畝五分

該徵地糧并歲派共銀一百零二兩八錢二分九厘零

存留銀七十三兩一錢三分三厘零

起運銀二十九兩六錢九分五厘零

結安土州

原額官民田地塘共稅一十五頃六十九畝二分

額徵秋糧米七十八石四斗六升

該徵地糧并歲派共銀八十九兩一錢二分八厘零

存留并協濟共銀六十六兩七錢八分六厘零

起運地糧并協濟共銀二十二兩三錢四分一厘零

上下凍土州

太平府志 卷之二十 賦役

原額官民田地塘共稅二十頃零五十七畝

額徵秋糧米一百零二石八斗五升

該徵地糧并歲派共銀九十八兩三錢六分五厘零

存留并協濟共銀八十九兩零九錢八分七厘

運地糧并協濟共銀一十七兩三錢七分八厘零

佶倫土州

額官民田地塘共稅二十四頃零三畝

額徵秋糧米一百二十石零一斗五升

該徵地糧并歲派共銀一百一十五兩三錢七分三厘零

存留并協濟共銀九十兩零四錢

起運并協濟共銀二十四兩九錢七分三厘零

合茗土州

原額官民田地塘共稅二十四頃零八畝

額徵秋糧米一百二十石零四斗

該徵地糧并歲派共銀一百零九兩四錢八分五厘零

存留并協濟共銀五十九兩二錢三分三厘零

起運并協濟共銀五十兩零二錢五分一厘零

茗盈土州

原額官民田地塘共稅二十頃零六十畝

額徵秋糧米一百零三石

該徵地糧并歲派共銀九十七兩零一分五厘零

存留銀七十七兩三錢

太平府志 卷之二十 賦役

起運銀一十九兩七錢一分五厘零

鎮遠土州

原額官民田地塘共稅一十九頃八十四畝

額徵秋糧米九十九石二斗

該徵地糧并歲派共銀一百一十一兩四錢九分二厘零

存留銀六十八兩三錢五分三厘零

起運銀四十三兩一錢三分八厘零

思明土州

原額官民田地塘共稅一十二頃二寸畝

額徵秋糧米六十一石

該徵地糧并歲派共銀四十三兩九錢七分六厘零

存留銀一兩四錢六分

起運銀四十二兩五錢一分六厘零

康熙六十年閏六月內以工知州黃而芝貪殘不法革去

世職州地歸併太平府管理所有錢糧額解馬銀今係

太平府徵解

羅陽土縣

原額官民田地塘共稅二十四頃

額徵秋糧本色米一百五十五石八斗外加耗米七石七

斗九升

該徵地糧并歲派共銀二十六兩五錢五分六厘零

存留銀七兩七錢七分三厘零

太平府志 卷之二十 賦役

七

起運銀一十八兩七錢八分三厘零

右四流州縣并一十四土州縣錢糧俱屬本府督徵轉解

思明土府

原額田無頃畝

額徵秋糧折色米七十五石五斗每石折銀七錢共銀五

十二兩八錢五分

存留銀一十六兩

起運銀三十六兩八錢五分

上石西土州

原額田無頃畝

額徵秋糧折色米三十二石零三合五勺每石折銀七錢

共銀二十一兩七錢零二厘零

存留銀一十八兩

起運銀三兩七錢零二厘零

下石西土州

原額田無頃畝

額徵秋糧折色米二十五石每石折銀七錢共銀二十七

兩五錢

存留銀一十七兩五錢

起運銀無

思陵土州

原額田無頃畝

太平府志 卷之二十 賦役

八

額徵秋糧折色米三十石每石折銀七錢共銀二十一兩

存留銀一十八兩

起運銀三兩

憑祥土州

原額田無頃畝

額徵秋糧折色米一百六十五石每石折銀七錢共銀一

百一十五兩五錢

附徵田土銀一十一兩二錢

右二項共銀一百二十六兩七錢

存留銀一百零七兩一錢九分八厘

起運銀一十九兩五錢零二厘

食銀一十二兩內除荒銀三

兩七錢三分七釐有奇

熟銀八兩二錢六分

一項本縣修理監外差匪銀一十兩內除荒銀三兩一錢

一分四釐有奇

熟銀六兩八錢八分五釐有奇

一項本縣驛傘夫五名工食銀三十兩內除荒銀九兩三

錢四分四釐有奇

熟銀二十兩零六錢五分五釐有奇

一項本縣庫子一名工食銀六兩內除荒銀一兩八錢六

分八釐有奇

太平府志 卷之二十 賦役

熟銀四兩一錢三分一釐有奇

一項本縣斗級一名工食銀六兩內除荒銀一兩八錢六

分八釐有奇

熟銀四兩一錢三分一釐有奇

一項本縣典史皂隸二名工食銀一十二兩內除荒銀三

兩七錢三分七釐有奇

熟銀八兩二錢六分三釐有奇

一項本縣典史馬夫一名工食銀六兩內除荒銀一兩八

錢六分八釐有奇

熟銀四兩一錢三分一釐有奇

一項本縣支應銀二百五十七兩零二分內除荒銀一

熟銀四十九兩五錢全熟

本縣實編銀二百零七兩五錢二分內除荒銀六十四兩

六錢三分六釐有奇

熟銀一百四十二兩八錢八分三釐有奇

以上存留解府在縣支應共銀三百二十六兩九錢八

分內

全茗土州協濟銀四十九兩五錢全熟

本縣實編銀二百七十七兩四錢八分內除荒銀八十六

兩四錢二分七釐有奇

熟銀一百九十一兩零五分二釐有奇

本縣額徵本色米二百二十一石零二升六合有奇全熟

太平府志 卷之二十 賦役

奉准部文仍徵本色糧米

一起運

一項本縣大造黃岡紙劄工墨米五石

一項協濟左州大造黃岡紙劄工墨米五石

一項協濟養利州大造黃岡紙劄工墨米五石

一項協濟永康州大造黃岡紙劄工墨米五石

以上起運本縣并協濟共裁米二十石

一存留支應項下

一項本縣孤貧八名口糧米二十八石八斗

一項奉 恩詔設復囚糧米二十二石

一項協濟左州孤貧五名口糧米一十八石

一項協濟養利州奉 恩詔設復因糧米七石

一項協濟養利州孤貧五名口糧米一十八石

一項協濟養利州奉 恩詔設復因糧米七石

一項協濟未康州孤貧五名口糧米一十八石

一項協濟未康州奉 恩詔設復因糧米七石

以上共支應米一百二十五石八斗

尚存剩米七十五石二斗二升六合九勺七抄五撮

云州

朝原額官民田地塘蓬舖油榨共稅四十九頃零五畝九

分四釐有奇

夏秋糧折色米二百四十五石二斗九升七合有奇

太平府志

卷之二十 賦役

土

徵地糧四差舖墊水脚等項共銀一千一百六十三兩

四錢六分五釐有奇

原額人丁二千七百零三丁該丁銀二百九十七兩三錢

三分全熟康熙二十二十五三十三十五十四十四十五

等年編審新增九十三丁增丁銀十兩零一錢三分

類徵本色米無

以上地丁併增丁共銀一千四百七十一兩五錢二分五

釐有奇

外萬承土州協濟銀一十一兩二錢零一釐

安平土州協濟銀一兩零六分五釐五毫

恩城土州協濟銀一兩零六分九釐

未康州徵解陀陵歸併協濟銀八兩九錢三分一釐

共協濟銀四十九兩七錢六分六釐五毫

一起運

一禮部藥材項下折色本色水脚舖墊共銀三兩二錢七

分五釐有奇

一地畝銀四十四兩一錢五分三釐有奇

一徵回優免三差銀一十三兩二錢四分五釐有奇

一南太兵餉銀七十九兩五錢二分

一存留項下原裁銀一百二十七兩五錢七分二釐有奇

一各官俸項下原裁銀七十七兩二錢零四釐

一各役工食項下原裁銀三百四十一兩七錢五釐二毫

太平府志

卷之二十 賦役

土

外萬承等土州協濟銀八兩二錢九分四釐七毫

一驛站項下原裁銀七十七兩

一編剩銀一分七釐有奇

以上地丁及暫奉改折并原裁共銀七百六十三兩六錢

九分四釐有奇

一奉文新裁存留各項共銀三十八兩八錢

一奉文停止貢生赴京盤纏銀二十五兩

一裁科舉項下科場器具試舉人路費銀十兩

一項驛站裁四銀三十兩零八錢

一項二十二五三十年三次增丁銀四兩五分

以上起運地丁原裁新裁驛站裁四等項并協濟及共銀八百八十一兩零九分八釐有奇全熟內驛站裁四額銀三十兩零八錢

萬承等土州縣協濟銀八兩二錢九分四釐七毫

本州實編銀八百七十二兩八錢零四釐有奇

一存留項下

一支應官俸役食并驛站共銀五百九十二兩五錢零一

釐有奇

外萬承等土州縣協濟銀四十一兩四錢七分一釐八

毫

一解司表箋銀五兩

太平府志

卷之二十

賦役

三

一解司曆日銀五錢

一項巡撫轎傘夫一十二名工食銀七十二兩

一項本州廩糧奉復三分之一銀二十兩

一項府學廩糧奉復三分之一銀二十二兩八錢三分三

釐有奇

一項本府乃積倉皂隸二名工食銀一十二兩

一項解府驛站存六銀四十六兩二錢

以上解司府存留并設復廩糧及驛站共銀一百七十八

兩五錢三分三釐有奇

一在州支應項下

一項本州習儀拜賀朔望行香香燭銀六錢

一項本州祭祀 文廟釋奠二祭存留銀一十六兩

一項本州山川社稷春秋二祭存留銀捌兩

一項本州厲壇三祭存留銀九兩

一項本州奉復鄉飲酒禮存留銀三兩

一項本州渡夫二名工食銀一兩八錢

一項本州走遞舖兵十名工食銀五十四兩正

一官俸項下

一項本州知州俸銀八十兩正

一項本州吏目俸銀三十一兩五錢二分

一項本州儒學學正俸銀三十一兩五錢二分

一各役工食項下

太平府志

卷之二十

賦役

古

一項本州門子二名工食銀一十二兩正

一項本州皂隸八名工食銀四十八兩內

萬承土州協濟銀九兩三錢三分四釐

安平土州協濟銀二兩五錢五分四釐五毫

本州實編銀三十六兩一錢一分一釐五毫

一項本州民壯八名工食銀四十八兩內

恩城土州協濟銀一十二兩

本州實編銀三十六兩

一項本州燈夫二名工食銀一十二兩正

一項本州看監禁卒二名工食銀一十二兩正

一項本州修理監倉存留銀十兩

一項本州轎傘夫五名工食銀三十兩

一項本州庫子一名工食銀六兩係

恩城土州協濟

一項本州吏目門子一名工食銀六兩內

恩城土州協濟銀四兩一錢四分零八毫

陀陵歸并未康州協濟銀一兩四錢四分二釐五毫

本州實編銀四錢一分六釐七毫

一項本州吏目皂隸二名工食銀一十二兩

一項本州吏目馬夫一名工食銀六兩

一項本州儒學門役二名工食銀一十二兩內

陀陵歸并未康州協濟銀六兩

太平府志

卷之二十 賦役

五

本州實編銀六兩

一項本州儒學藩夫一名工食銀六兩

以上在州支應共銀四百五十五兩四錢四分內

萬承等十州縣協濟銀四十一兩四錢七分一釐有奇

本州實編銀四百一十三兩九錢六分八釐有奇

以上通共解支銀六百三十三兩九錢七分三釐有奇內

萬承等十州協濟銀四十一兩四錢七分一釐有奇

本州實編銀五百九十二兩五錢零一釐有奇

外崇善縣濟本州米三十石

起運  
本州大造黃冊紙割工墨米五石

一項本州非軍五名口糧米一十八石

一項奉 恩詔設復囚糧米七石

以上支應共米二十五石

以上起運存蓄通共米三十石俱係崇善縣協濟

本州

初原額官民田地塘共稅三十頃零七十畝零四分七釐

有奇

該夏秋折色米一百五十三石五斗二升三合有奇

共徵地糧鋪墊水脚等項共銀一千一百二十三兩七

錢三分八釐有奇全熟

太平府志

卷之二十 賦役

六

原額人丁無

額徵本色米無

以上地糧共銀一千一百三十三兩七錢三分八釐有奇

外結安太平二土州協濟銀一百三十五兩九錢二分

全熟

一地糧項下

一禮部藥材項下折色及本色改折連水脚鋪墊共銀二

兩零六分三釐有奇

一地畝額銀二十七兩六錢三分四釐有奇

一徵回三差額銀二十七兩七錢九分七釐有奇

一抽解南太兵餉額銀八十三兩二錢八分四釐有奇



一存留項下原裁銀七十一兩九錢一分六釐

一項官俸項下原裁銀三百二十七兩六錢六分四釐

一各役工食項下原裁銀八十六兩零三分四釐

一驛站項下原裁銀七十八兩二錢

一編剩額銀一兩七錢零九釐有奇

外結安太平二土州協濟銀二十七兩五錢六分六釐

以上起運地糧及改折并原裁共銀七百零六兩三錢零

二釐有奇

外結安太平二土州協濟銀二十七兩五錢六分六釐

一奉文新裁存留各項共銀三十七兩二錢五分

一奉文停止歲貢盤纏銀二兩

一裁科場會試盤纏銀六兩

以上新裁并奉文停止各項共銀四十五兩二錢五分

以上起運地糧并新裁及停止共銀七百七十九兩一錢

一分八釐有奇內

結安太平二土州協濟銀二十七兩五錢六分六釐

本州實編銀七百五十一兩五錢五分二釐有奇

一存留支應官俸役食共銀三百七十二兩一錢八分六釐

外結安太平二土州協濟銀一百零八兩三錢五分四釐

一解司存留項下

太平府志

卷之二十 賦役

七

一項布政使表箋紙劄工墨存留銀七兩

一項按察司經歷俸銀四十五兩

一項布政司經歷門子一名工食銀六兩

以上解司存留共銀五十八兩

一奉文設復本州額廩銀五十八兩

一項本州祭祀文廟二祭存留銀一十六兩

一項本州山川社稷春秋二祭存留銀八兩

一項本州厲壇三祭存留銀九兩

一項本州奉復鄉飲酒禮銀五錢

一官俸項下

一項本州知州俸銀八十兩

一項本州儒學俸銀三十一兩五錢二分

一項本州吏目俸銀三十一兩五錢二分結安土州協濟

一各役工食項下

一項本州門子二名工食銀一十二兩

一項本州皂隸十名工食銀六十兩內

太平土州協濟銀五十二兩八錢三分四釐

本州實編銀七兩一錢六分六釐

一項本州民壯十名工食銀六十兩

一項本州燈夫二名工食銀一十二兩

一項本州看監禁卒二名工食銀一十二兩

一項本州修理監倉存留銀一十兩

太平府志

卷之二十 賦役

八

一項本州輪傘夫五名工食銀三十兩

一項本州庫子一名工食銀六兩

一項本州吏目皂隸二名工食銀一十二兩結安土州協

濟

一項本州吏目馬夫一名工食銀六兩結安土州協濟

一項本州儒學門役一名工食銀六兩結安土州協濟

一項本州儒學膳夫一名工食銀六兩

以上支應並協濟共銀四百零八兩五錢四分內

結安太平二土州協濟銀一百零八兩三錢五分四釐

本州實編銀三百兩零一錢八分六釐

以上存留解支共銀四百八十兩零五錢四分內

太平府志

卷之二十 賦役

九

結安太平二土州協濟銀一百零八兩三錢五分四釐

本州實編銀三百七十二兩一錢八分六釐

外崇善縣協濟本州本色米三十石

一起運

一項全裁本州大造黃冊工墨米五石

一項支應

一項孤貧五名口糧米一十八石

一項奉 設復囚糧米七石

以上支應共米二十五石

以上起運存留共米三十石俱係崇善縣協濟

未康州

國朝原額及思同歸併官民田地塘共稅二十六頃六十一

畝六分該秋糧折色米一百三十三石零八升該徵地

畝四差併折糧折算鋪墊水脚共銀七百五十六兩六

錢零七釐有奇全熟

人丁無

本色米無

以上實徵地糧銀七百五十六兩六錢零七釐有奇

一奉文歸併陟陵土縣

國朝原額官民田地塘共稅三十三頃六十三畝五分該秋

糧米一百六十八石一斗七升五合外加耗米三石三

斗五升八合有奇該徵地糧並歲派共銀二百六十五

太平府志

卷之二十 賦役

十

兩四錢零七釐有奇全熟

以上本州及陟陵歸併實徵地糧共銀一千零二十二兩

零一分四釐有奇

外估倫等土州協濟共銀一百五十一兩八錢內

估倫土州協濟銀九十九兩

上下凍土州協濟銀三十四兩四錢

萬承土州協濟銀一十一兩二錢

結安土州協濟銀七兩二錢

一地糧項下

一禮部藥材折色及本色改折連水脚鋪墊共銀六錢一分六釐有奇

原銀二十三兩

原項下原裁額銀四兩八錢九分一釐有奇

原項下原裁額銀九兩三錢六錢八分四釐

工食項下原裁額銀一百四十二兩七錢零一釐

下項 秘銀一十兩

兵銀一十二兩六錢

折原銀

共銀三百四十一兩一錢零

十七兩二錢九分九釐

項共銀二十八兩一錢六分五釐

司表箋水脚類熟銀四兩五

錢一分八釐有奇

十三兩四錢四分

十兩

裁工食銀二錢八分八釐五

裁工食銀一兩二錢

食銀二兩

原歸併並協濟原裁共銀五

釐有奇內

五兩二錢九分九釐

十八兩六錢六分五釐有奇

三兩七錢六分八釐有奇

陵土縣歸併共銀五百二十

十六兩七錢四分二釐五毫

三百八十三兩八錢三分九釐

一百二十六兩五錢零一釐

司表箋包粉工墨水脚共銀九兩五錢

七十二兩五錢

復府存留項下

復三分之一該原糧銀三錢

刑門子一名工食銀六兩

通判烏標十二名工食銀七十二兩

本府通判步快八名工食銀四十八兩

協濟項下

一項協濟左州吏目門子工食銀一兩四錢四分二釐五毫

一項協濟左州儒學門役工食銀六兩

以上解府存留共銀一百三十六兩七錢四分二釐五毫

毫

一在州支應項下

一項本州習儀拜賀朔望行香紙燭存留銀五錢

一項本州祭祀 文廟釋奠啓聖公祠鄉賢名宦春秋二祭銀一十八兩

太平府志

卷之二十 賦役

三

一項本州山川社稷春秋二祭銀八兩八錢

一項厲壇三祭銀七兩五錢

一項額廩八名奉復三分之一銀一十六兩

一官俸項下

一項本州知州俸銀八十兩

一項本州吏目俸銀三十一兩五錢二分

一項本州儒學俸銀三十一兩五錢二分

一各役工食項下

一項本州門子二名工食銀二十二兩

一項本州皂隸十名工食銀六十兩內

估倫土州協濟銀四十八兩

上下凍土州協濟銀一十二兩

一項本州民壯十名工食銀六十兩內

結安土州協濟銀六兩

上下凍土州協濟銀一十六兩六錢六分七釐

萬承土州協濟銀九兩三錢三分四釐

本州及陀陵歸併實編銀二十七兩九錢九分九釐

一項本州燈夫一名工食銀六兩

一項本州看監禁卒二名工食銀一十二兩

一項本州修理監倉銀一十兩

一項本州轎傘夫五名工食銀三十兩估倫土州協濟

一項本州車子一名工食銀六兩內

太平府志

卷之二十 賦役

三

估倫土州協濟銀四兩五錢

本州實編銀一兩五錢

一項本州吏目門子一名工食銀六兩

一項本州吏目皂隸二名工食銀一十二兩

一項本州吏目馬夫一名工食銀六兩

一項本州儒學門役二名工食銀一十二兩

一項本州儒學齋夫一名工食銀六兩

一項本州儒學膳夫一名工食銀六兩

以上在州支應共銀四百三十七兩八錢四分內

估倫等土州協濟銀一百二十六兩五錢零一釐

本州實編銀三百零一兩三錢三分九釐

以上本州及陀陵歸併存留解支共銀六百五十六兩

八分二釐五毫內  
信倫等土州協濟銀一百二十六兩五錢零一釐

本州實編銀三百八十二兩八錢三分九釐

外崇善縣協濟本色米三十石

一起運

一項本州大造黃冊紙劄工墨米五石

一存留支應

一項本州孤貧五名口糧米一十八石

一項奉 恩詔設復囚糧米七石

以上存留米二十五石

太平府志

卷之二十 賦役

五

以上起存共米三十石俱崇善縣協濟

承州

國朝原額官民田地塘稅一百頃四十畝秋糧米五百零

石外加耗米六石二斗五升該徵地糧并歲派共銀

百九十六兩零八分四釐九毫有奇

起運

原裁存留銀六兩七錢三分九釐有奇

原裁官俸銀二十九兩零四分四釐

原裁役食銀二百五十一兩二錢

原裁協濟左州役食銀一兩八錢六分七釐

原裁協濟永康州役食銀一兩八錢六分六釐

新裁本府知府心紅銀五十兩  
以上起運共銀二百四十兩零七錢一分六釐有奇  
存留

本府祭祀銀一十兩

本府修倉備辦刑具銀二十兩

奉復府學廩糧三分之一銀一兩七錢

本府知府俸銀一百零五兩

協濟左州皂隸工食銀九兩三錢三分四釐

協濟永康州民壯工食銀九兩三錢三分四釐

以上存留銀一百五十五兩三錢六分八釐

太平州

太平府志

卷之二十 賦役

五

國朝原額官民田地塘稅四十七頃八十畝秋糧米二百三

十九石該徵地糧并歲派共銀二百三十四兩六錢八

分有奇

起運

原裁存留銀六兩一錢二分三釐有奇

原裁官俸銀二十三兩四錢六分

原裁役食銀八兩四錢

原裁協濟養利州役食銀一十兩零五錢六分六釐

編剩銀三分

新裁本府通判心紅銀二十兩

以上起運共銀六十八兩五錢七分九釐有奇

存留

本府祭祀銀九兩

奉復府學廩糧三分之一銀二兩二錢六分六釐有奇

本府通判俸銀六十兩

本府通判轎傘扇夫七名工食銀四十二兩

協濟養利州皂隸工食銀五十二兩八錢三分四釐

以上存留共銀一百六十六兩一錢有奇

安平州

國朝原額官民田地塘稅三十八頃一十四畝秋糧米一百

九十石零七斗外加耗米二石零九合該徵地糧并歲

派共銀一百九十七兩零三分四釐有奇

太平府志

卷之二十 賦役

二十七

起運

原裁存留銀二兩四錢零二釐有奇

原裁役食銀一百二十兩

原裁協濟左州皂隸工食銀五錢一分一釐

以上起運銀一百二十二兩九錢一分三釐有奇

存留

本府祭祀銀一十一兩

奉復府學廩糧三分之一銀五錢六分六釐有奇

本府馬快十名工食銀六十兩

協濟左州皂隸工食銀二兩五錢五分四釐有奇

以上存留銀七十四兩一錢二分一釐有奇

龍英州

國朝原額官民田地塘稅七十五頃一十五畝秋糧米三百

七十五石七斗五升該徵地糧并歲派共銀三百二十

九兩四錢八分二釐有奇

起運

原裁存留銀六兩二錢九分九釐有奇

原裁官俸銀二十兩

原裁役食銀六十一兩二錢

編剩銀八分二釐有奇

以上起運共銀八十七兩五錢八分二釐有奇

存留

太平府志

卷之二十 賦役

二十八

本府祭祀銀六兩

奉復府學廩糧三分之一銀一兩九錢

本府門子二名工食銀一十二兩

本府皂隸一十六名工食銀九十六兩

本府步快一十六名工食銀九十六兩

本府燈夫二名工食銀一十二兩

本府庫子一名工食銀六兩

本府斗級二名工食銀一十二兩

以上存留銀二百四十一兩九錢

恩城州

國朝原額官民田地塘稅三十七頃三十八畝秋糧米一百

八十六石九斗外加耗米九石三斗四升五合該徵地糧并歲派共銀一百五十五兩三錢一分二釐有奇

起運  
原裁存留銀一兩七錢一分有奇

原裁官俸銀九十兩

原裁役食銀二十三兩八錢

原裁協濟左州民壯工食銀二兩四錢

原裁協濟左州庫子工食銀二錢

原裁協濟左州吏目門子工食銀八錢二分八釐

以上起運銀一百一十八兩九錢三分八釐有奇

存留

太平府志

卷之二十 賦役

羌

本府祭祀銀八兩

奉復府學廩糧三分之一銀二錢三分三釐有奇

本府經歷門子一名工食銀六兩

協濟左州民壯工食銀一十二兩

協濟左州庫子工食銀六兩

協濟左州吏目門子工食銀四兩一錢四分有奇

以上存留銀三十六兩三錢七分四釐有奇

都結州

國朝原額官民田地塘稅一十七頃六十五畝五分秋糧

九十八石二斗七升五合該徵地糧并歲派共銀一百

零二兩八錢二分九釐有奇

起運

原裁存留銀九錢二分有奇

原裁官俸銀八兩三錢零二釐

原裁役食銀二十兩零四錢

編剩銀七分三釐有奇

以上起運銀二十九兩六錢九分五釐有奇

存留

本府祭祀銀三兩

奉復府學廩糧三分之一銀三分三釐有奇

本府經歷俸銀四十兩

本府經歷皂隸四名工食銀二十四兩

太平府志

卷之二十 賦役

辛

本府經歷馬夫一名工食銀六兩

以上存留銀七十三兩一錢三分三釐有奇

結安州

國朝原額官民田地塘稅一十五頃六十九畝二分秋糧

七十八石四斗六升該徵地糧并歲派共銀八十九

一錢二分八釐有奇

起運

原裁存留銀四兩零五分五釐有奇

原裁協濟養利州儒學書門役工食銀六兩二錢

原裁協濟永康州民壯工食銀一兩二錢

編剩銀八分六釐有奇

以上起運地糧銀二十二兩三錢四分一釐有奇

存留

本府祭祀銀三兩五錢

奉復府學廩糧三分之一銀一兩七錢六分六釐有奇

協濟養利州吏目皂隸工食銀三十一兩五錢二分

協濟養利州吏目皂隸工食銀一十二兩

協濟養利州儒學門役工食銀六兩

協濟未康州民壯工食銀六兩

以上存留共銀六十六兩七錢八分六釐有奇

上下東州

國朝原額官民田地塘稅二十頃零五十七畝秋糧米一百

太平府志

卷之二十 賦役

三

零二石八斗五升該徵地糧并歲派共銀九十八兩三

錢六分五釐有奇

起運

原裁存留銀九兩二錢四分二釐有奇

原裁役食銀二兩四錢

原裁協濟未康州皂隸工食銀五兩七錢三分三釐

編剩銀三釐有奇

以上起運共銀一十七兩三錢七分八釐

存留

本府祭祀銀四兩五錢

奉復府學廩糧三分之一銀四兩三錢

本府乃積倉大使俸銀三十一兩五錢二分

本府通判燈夫二名工食銀一十二兩

協濟未康州民壯工食銀一十六兩六錢六分七釐

協濟未康州皂隸工食銀一十二兩

以上存留共銀八十兩零九錢八分七釐

估倫州

國朝原額官民田地塘稅二十四頃零三畝秋糧米一百二

十石零一斗五升該徵地糧并派共銀一百一十五

兩三錢七分三釐有奇

起運

原裁存留銀八兩四錢六分六釐有奇

太平府志

卷之二十 賦役

三

原裁協濟未康州皂隸轎傘夫戶子工食銀一十六兩五

錢

編剩銀六釐有奇

以上起運銀二十四兩九錢七分三釐

存留

本府祭祀銀四兩

奉復府學廩糧三分之一銀三兩九錢

協濟未康州皂隸工食銀四十八兩

協濟未康州轎傘夫工食銀三十兩

協濟未康州庫子工食銀四兩五錢

以上存留銀九十兩零四錢



原額官民田地塘稅二十四頃零八畝秋糧米一百一十石零四斗該徵地糧并歲派共銀一百零九兩四錢

八分五釐有奇

起運

原裁存留銀二兩二錢六分七釐有奇

原裁役食銀三十八兩

原裁協濟崇善縣皂隸工食銀九兩九錢

編剩銀八分四釐

以上起運共銀五十兩零二錢五分一釐有奇

存留

太平府志

卷之二十 賦役

五

本府祭祀銀三兩

奉復府學廩糧三分之一銀七錢三分三釐有奇

本府儒學膳夫一名工食銀六兩

協濟崇善縣民壯工食銀一十三兩五錢

協濟崇善縣皂隸工食銀三十六兩

以上存留銀五十九兩二錢三分三釐有奇

若盈州

國朝原額官民田地塘稅二十頃零六十畝秋糧米一百零

三石該徵地糧并歲派共銀九十七兩零一分五釐有

奇

原裁役食銀二十四兩四錢

編剩銀二分

以上起運銀一十九兩七錢一分五釐有奇

存留

本府祭祀銀三兩

奉復府學廩糧三分之一銀二兩三錢

本府儒學膳夫七名工食銀四十二兩

本府禁衛五名工食銀三十兩

以上存留銀七十七兩三錢

遼州

太平府志

卷之二十 賦役

五

國朝原額官民田地塘稅一十九頃八十四畝秋糧米九十

九石一斗該徵地糧并歲派共銀一百一十一兩四錢

九分二釐有奇

起運

原裁存留銀八兩三錢二分六釐有奇

原裁役食銀三十四兩八錢

編剩銀一分二釐

以上起運銀四十三兩一錢三分八釐有奇

存留

本府祭祀銀三兩

奉復府學廩糧三分之一銀三兩八錢三分三釐

本府儒學俸銀三十一兩五錢二分

本府儒學門役三名工食銀一十八兩

本府儒學夫二名工食銀一十二兩

以上存留銀六十八兩三錢五分三釐

恩州

國朝原額官民田地塘稅一十二頃二十畝秋糧米六十一

石該徵地糧并歲派共銀四十三兩九錢七分六釐有

奇

起運

原裁存留銀三兩五錢八分六釐有奇

新裁左江驛驛丞官俸銀三十一兩五錢二分

太平府志

卷之二十 賦役

原裁役食銀七兩二錢

編剩銀二錢一分

以上起運銀四十二兩五錢一分六釐有奇

存留

奉復府學廩糧三分之一銀一兩四錢六分

羅陽縣

國朝原額官民田地塘稅二十四頃秋糧本色米一百五十

五石八斗外加耗米七石七斗九升該徵地糧并歲派

共銀二十六兩五錢五分六釐有奇

起運

原裁存留銀四兩三錢四分五釐有奇

原裁役食銀二兩四錢

新裁左江驛役食銀一十二兩

編剩銀三分八釐

以上起運銀一十八兩七錢八分三釐有奇

存留

本府祭祀銀六兩

奉復府學廩糧三分之一銀一兩七錢七分三釐有奇

以上存留銀七兩七錢七分三釐有奇

外本縣額編本色兵糧併耗共米一百六十三石五斗

九升遞年解

府倉收

太平府志

卷之二十 賦役

原裁役食銀七兩二錢

編剩銀二錢一分

以上起運銀四十二兩五錢一分六釐有奇

存留

奉復府學廩糧三分之一銀一兩四錢六分

熟銀七百七十五兩九錢二分四釐九毫有奇

利銀一十八兩

原領屯田地塘稅一十頃零六畝四分九釐有零

該項稅銀三石二斗三升五合二勺該折銀二

百五十一兩六錢一分七釐六毫全熟

原領八丁二丁二百八十一丁該丁銀七百四十三兩八

錢八分內除荒丁六百八十二丁七分九釐除康

熙五十五年編審增丁四十二丁該丁銀一十三兩六

錢九分七釐有奇欽遵五十二年

恩詔款內未不加賦無徵外尚實荒丁六百四十丁零七分

太平府志 卷之二十 賦役

四

九釐丁銀二百零八兩九錢七分有奇

外康熙二十年編審增人丁八十一丁應徵丁銀二十

六兩四錢一分五釐有奇

實徵舊熟丁并審增丁共熟丁一千六百七十九丁二分

一釐該丁銀五百四十七兩六錢二分四釐有奇

以上地丁并審增共額銀一千零一十四兩九錢一分七

釐

荒銀二百七十兩零六錢一分一釐有奇

熟銀九百六十六兩九錢七分七釐有奇

外全茗土州協濟銀九兩四錢全熟

熟銀七百七十五兩九錢二分四釐九毫有奇

一存留支應官俸役食共額銀二百七十七兩四錢八分

內除 荒銀八十六兩四錢二分七釐有奇

熟銀一百九十一兩零五分二釐有奇

外全茗土州協濟銀四十九兩五錢全熟

一解府存留項下

一項本府表箋銀一十二兩內除荒銀三兩七錢三分七

釐有奇

熟銀八兩二錢六分二釐有奇

一驛站項下

太平府志 卷之二十 賦役

七

一項驛站存留共銀五十七兩九錢六分內除荒銀一十

八兩零五分二釐有奇

熟銀三十九兩九錢零七釐有奇

以上解府存留併驛站共銀六十九兩九錢六分內除荒

銀二十一兩七錢九分零七毫有奇

熟銀四十八兩一錢六分九釐有奇

一在縣支銷款項

一解府縣習儀拜

賀朔望香燭銀二兩內除荒銀六錢二分二釐有奇

熟銀一兩三錢七分七釐有奇

一項本縣下渡夫一名工食銀五錢內除荒銀一錢五分

五釐有奇

熟銀三錢四分四釐有奇

官俸項下

一項本縣知縣俸銀四十五兩內除荒銀一十四兩零一分六釐有奇

熟銀三十兩零九錢八分三釐有奇

一項本縣典史俸銀三十一兩五錢二分內除荒銀九兩八錢一分七釐有奇

熟銀二十一兩七錢零二釐有奇

一各役工食項下

一項本縣門子二名工食銀一十二兩內除荒銀三兩七

太平府志

卷之二十 賦役

八

錢三分七釐有奇

熟銀八兩二錢六分二釐有奇

一項本縣皂隸六名工食銀三十六兩係全茗土州協濟

濟全熟

一項本縣民壯六名工食銀三十六兩內全茗土州協濟

銀一十三兩五錢全熟

本縣實編銀二十二兩五錢內除荒銀七兩零八釐有奇

熟銀一十五兩四錢九分一釐八毫有奇

一項本縣燈夫二名工食銀一十二兩內除荒銀三兩七

錢三分七釐有奇

熟銀八兩二錢六分二釐有奇

州土州

原額田無頃畝

額徵秋糧折色米二百零五石每石折銀七錢共銀一百四十三兩五錢

存留銀一百二十九兩零二分

起運銀一十四兩四錢八分

羅白土縣

原額田無頃畝

額徵秋糧折色米一十五石每石折銀七錢共銀一十兩

零五錢

存留銀一十兩零五錢

太平府志

卷之二十 賦役

九

起運銀無

上土龍司 雍正四年分定

原額田無頃畝

額徵秋糧折色米二百三十九石二斗二升三合每石折

銀七錢共銀一百六十七兩四錢五分六厘

存留銀一百一十一兩八錢四分二厘

起運銀五十五兩六錢一分四厘

下土龍司 雍正四年分定

原額田無頃畝

額徵秋糧折色米二百二十二石九斗二升七合每石折

銀七錢共銀二百五十六兩零四分九厘

一百三十八兩

大運銀一十八兩零四分九厘

右思明土府以下九屬全書原在南寧府屬項下刊載其錢糧係南寧府督徵轉解仍屬本府提調

太平府志卷之二十終

太平府志

卷之二十

賦役

十

太平府志卷之二十一

食貨

額辦

太平府

一知府員下皂隸六名每名銀一十二兩共銀七十二兩  
遇閑每名加銀一兩以下各衙門遇閑皆同

左州銀二十四兩

養利州銀二十四兩

太平州銀二十四兩

一馬夫三十丁每丁該銀一兩三錢三分共銀四十兩  
團不加以下各衙門遇閑皆同

太平府志

卷之二十一

額辦

十七

龍英州銀二十兩

太平州銀六兩

左州銀六兩

恩城州銀三兩

康縣銀五兩

一通判員下皂隸四名共銀四十八兩

龍英州銀二十四兩

萬承州銀一十二兩

上下凍州銀一十二兩

一馬夫三十丁共銀四十兩

養利州銀二十兩

信倫州銀二兩

鎮遠州銀八兩

羅陽縣銀十兩

一推官員下皂隸二名共銀二十四兩

舊陀陵縣銀二十四兩

一馬夫三十丁共銀四十兩

崇善縣銀二十兩

安平州銀八兩

恩城州銀十二兩 今奉裁

一經歷員下皂隸二名共銀二十四兩

安平州銀一十二兩

太平府志

卷之二十一 額辦

三

茗盈州銀一十二兩

一馬夫三十丁共銀四十兩

萬承州銀二十兩

全茗州銀六兩

舊恩同州銀十四兩

一照磨員下皂隸二名共銀二十四兩

崇善縣銀一十二兩

一馬夫三十丁共銀四十兩

都結州銀四兩

結安州銀七兩

信倫州銀五兩

茗盈州銀一十二兩

舊陀陵縣銀一十二兩

以上款項查得有官則徵無官多係頭目侵收若不

解府各屬豈甘心耶通行追收貯庫作正支銷可也

一膳夫共銀三十七兩遞年解府支給員缺剩銀貯庫員

足則以缺官銷補支

安平州銀六兩

全茗州銀六兩

都結州銀六兩

信倫州銀六兩

鎮遠州銀六兩

太平府志

卷之二十一 額辦

五

結安州銀六兩

舊永康縣銀一兩

一左江驛站紅船四隻每隻銀十二兩共銀四十八兩

寅申己亥三年一徵解府收庫申請修造

養利州一隻

萬承州一隻

龍英州一隻

安平州一隻

一遞運所先年裁革額存紅船二隻共遇二十四兩遇

申己亥三年一徵解府收庫申請修造

太平州一隻

茗盈州半隻

全茗州半隻

一左江驛鋪陳四副每副銀十兩遇寅申五年一徵解府

收庫申請買置

養利州一副

萬承州一副

龍英州一副

安平州一副

一遞運所額存鋪陳二副共銀二十兩遇寅申五年

解府貯庫申請買置

恩城州一副

太平府志

卷之二十一 類辦

上下凍州一副

以上俱載舊志

歲辦

太平府

祭祀銀兩數見下

左州銀一十三兩

養利州銀十兩

永康州原為縣銀一兩

又恩同州銀八兩

又陀陵縣銀四兩

太平州銀一十二兩伍錢

安平州銀一十二兩伍錢

萬承州銀一十二兩

龍英州銀捌兩

恩城州銀拾兩伍錢

老盈州銀肆兩伍錢

全茗州銀肆兩伍錢

估倫州銀六兩

結安州銀伍兩

都結州銀四兩五錢

鎮遠州銀四兩五錢

上下凍州銀六兩

太平府志

卷之二十一 歲辦

羅陽縣出鹿一隻

以上共銀一百二十八兩五錢歲辦貯庫專供丁瘡

等祭

明登德五年勅總兵山雲都司布政司今使內使孟陶張

前來採買孔雀翎毛及蟲鳥採買備交付內使領回

孔雀翎

陰類鳥

陽類鳥

以上三物共折鈔銀照依洪武年間事例載古志

鐸木數見下

先年無嘉靖三十五年收一萬六千六百六

十根至四十年奉布政司劄付承准工部照會議派鐸木五萬一千六十根照依糧米多寡分派

辦四十二年據萬承龍英等州縣申訴備累批行本府

議詳准允每歲各州縣照糧共派銀八十四兩七錢六分三釐兩府寧府收貯取錄木運解今裁

太平州糧米二百三十九石派銀七兩九錢六分正

安平州糧米一百二十石五斗派銀四兩零六分正

萬承州糧米五百零二分派銀一十六兩七錢二分六釐正

龍英州派銀一百九十六石九斗派銀一十二兩五錢一分八釐

恩城州派銀六兩五錢五分正

茗盈州糧米一百零三石派銀三兩四錢三分五釐正

全茗州糧米一百零二分派銀四兩零二分一釐正

佶倫州派銀三兩三錢三分五釐正

結安州派銀七兩八石四斗六升派銀二兩五錢七分正

都結州合派銀三兩二錢三分正

太平府志

卷之二十一 歲辦

四三

鎮遠州糧米九十九石二斗派銀三兩四錢三分五釐

上下凍州糧米一百零二石八斗五升派銀三兩四錢二分

羅陽縣糧米一百五十五石八斗派銀五兩二錢零四釐正

舊思明州派銀二兩九錢三分五釐

以上載古志

舊陀陵縣糧米一百六十七石一斗七升派銀五兩五錢二分三釐

以上俱載古志

太平府志卷之二十二

食貨

鹽法

太平府屬向無額鹽自康熙三年奉

題派

崇善縣額引三十五道八分

左州額引九十二道九分

共額引一百二十八道七分該鹽一千八百零一包一百

二十觔至康熙十一年內奉前撫院金

題派

養利州代銷富賀額引四十九道

太平府志

卷之二十一 鹽法

四三

永康州代銷富賀額引四十九道

共代銷額引九十八道該鹽一千三百七十二包

崇善養永四州縣共額引二百二十六道七分至康熙十

八年奉前撫院傳

題派每引加鹽二百六十二觔八兩

每引計鹽二十四包每包計鹽一百五十觔

太屬鹽引二百二十六道七分

正加共鹽五十三萬五千五百七十八觔十二兩康熙三

十一年奉

文每引改作十引計小引二千二百六十七道

前定經制額引原銷東引鹽石商人



路道輪納西餉親運到府銷售至康熙二十二年

題奉改食廉鹽其東省引課與梧州包餉奉設南寧總商通  
理自廉運鹽至南寧商自南寧折運回府流土府州縣通

融運銷

太平府志

卷之二十二 鹽法

甲四

太平府志卷之二十三

食貨

貢馬

太平府屬

額編土司三年一解貢馬每貢馬一匹折銀二十二兩水脚  
銀三錢六分乾隆二年七月內奉

上諭每馬一匹減銀四兩定為八兩乾隆三年為始永著為

例

萬承土州

貢馬二匹每匹折銀八兩共銀一十六兩水脚銀七錢二

分

太平府志

卷之二十三 貢馬

甲五

安平土州

貢馬二匹每匹折銀八兩共銀一十六兩水脚銀七錢二

分

龍英土州

貢馬二匹每匹折銀八兩共銀一十六兩水脚銀七錢二

分

太平土州

貢馬二匹每匹折銀八兩共銀一十六兩水脚銀七錢二

分

思州土州

貢馬三匹每匹折銀八兩共銀一十六兩水脚銀一十二

八分

全茗土州

貢馬一匹折銀八兩水脚銀三錢六分

上下凍土州

貢馬一匹折銀八兩水脚銀三錢六分

若盈土州

貢馬一匹折銀八兩水脚銀三錢六分

下右西土州

貢馬一匹折銀八兩水脚銀三錢六分

結安土州

貢馬一匹折銀八兩水脚銀三錢六分

太平府志

卷之二十三 貢馬

吳

上龍土州

貢馬三匹每匹折銀八兩共銀二十四兩水脚銀一兩

八分

下龍司

貢馬三匹每匹折銀八兩共銀二十四兩水脚銀一兩

分

江州土州

貢馬二匹每匹折銀八兩共銀一十六兩水脚銀七錢二

分

憑祥土州

貢馬一匹折銀八兩水脚銀三錢六分

思陵土州

貢馬一匹折銀八兩水脚銀三錢六分

鎮遠土州

貢馬一匹折銀八兩水脚銀三錢六分

信倫土州

貢馬一匹折銀八兩水脚銀三錢六分

都結土州

貢馬一匹折銀八兩水脚銀三錢六分

羅陽土縣

貢馬一匹折銀八兩水脚銀三錢六分

羅白土縣

太平府志

卷之二十三 貢馬

七

分

貢馬二匹每匹折銀八兩共銀一十六兩水脚銀七錢二

思城土州原貢馬二匹

國朝雍正十一年改流歸崇善縣轄其貢馬二匹於乾隆三

年巡撫部院楊具題奉

旨豁免

太平府志卷之二十四

食貨

蠲郵

漢永光十五年嶺南舊貢生龍眼荔枝十里一置五里一候  
晝夜傳送臨武長汝南唐堯上書曰臣聞上不以滋味為  
德下不以貢膳為功伏見交趾七郡獻生龍眼等鳥鷲風  
發南州土地炎熱惡蟲猛獸不絕於路至於觸犯死亡之  
害死者不可復生來者猶可救也此二物升殿未必延年  
益壽帝下詔曰遠國珍羞本以薦奉宗廟苟有傷害豈愛  
民之本其敕大官勿復受獻

吳嘉禾三年寬民間逋負勿復督課

太平府志 卷之二十四

晉泰始七年閏五月詔交趾三郡南中諸郡無出今年戶調

唐貞觀元年免民間通租

大歷十四年罷邕州歲貢奴婢

元和八年九月詔曰比聞嶺南五管并福建黔中等道多以  
男口餉遺及於諸處博易骨肉離析良賤難分此後嚴加

禁止如違長吏必當科罰

宋乾德四年二月平廣南赦其地

開寶三年令天下諸州凡絲綿紬麻布香藥毛翎箭筈皮  
草根角等所在約支二年之用不得廣有科市以致煩民

開寶四年劉鋹平詔賑廣南管內州縣鄉村不接濟人戶委  
長吏於省倉內量行賑貸豐稔日令只納元數

開寶六年減廣南無名率錢

雍熙二年閏月禁邕管殺人祭鬼及僧人置妻孥

景德四年十月詔宜象柳州懷遠軍死罪以下非十惡謀故  
官吏枉法犯賊者並原之廣南東西路雜犯死罪以下通  
減一等脅從受者勿理又蠲宜象柳州懷遠軍丁錢及  
夏秋租桂昭州秋租

大中祥符二年罷邕州宜州歲貢藥箭

天禧四年提舉廣西劉誼言廣西一路戶口二十萬而民出  
役錢至十九萬緡先用稅錢敷出歲數不足又敷之田米  
田米不足復算於身丁夫廣西之民身之有丁既稅以錢  
又算以米是一身而輸二稅殆前世弊法今既未能蠲除

太平府志 卷之二十四

而文益以役錢甚可憫也至於廣東西監司提舉司使一  
月之給上同令錄下倍攝官乞裁捐其數則兩路身丁米  
亦可少寬遂詔吏輩月給錢通減二千歲減役錢一千二  
百餘緡

皇祐四年冬十一月詔免廣南民供軍需者今年秋稅十之

三

皇祐五年二月平邕州甲申赦廣南凡戰殺者給禮價護送  
還家無主者瘞祭之賊所過郡縣免其田租一年死事家  
科徭二年

皇祐五年五月詔儂智高所至州無城壘若兵力不敵而棄  
城者奏裁又詔轉運司賑邕州貧民貸米一石

閏七月詔廣南民逃未還者限一年歸業其復三歲

皇祐中詔廣西賦布帛為錢二百訪聞有司擅損其價重困

遠人宜令復故

嘉祐六年夏四月詔嶺南官吏死於儂賊而其家流落未能

自歸者所在給食糞送還鄉

熙寧九年四月癸卯詔廣南亡沒士卒及百姓為賊殘破者

轉運安撫司具實并議賑卹以聞

五月丙辰詔邕州沿邊州崗首領來降者周惠之

壬申詔安南諸軍過嶺有疾者所至護治

七月癸亥詔廣西死事官無子孫許立後

九月詔卹嶺南死事家表將士墓

太平府志

卷之二十四

三

元豐二年五月乙酉詔安南軍死事孤寡廩給之

建炎三年八月減廣南路歲貢買上供銀三分之一

紹興二十五年四月減廣西路折米錢

淳熙十一年十一月助廣西諸州歲計十萬緡

寶祐六年五月丁巳李會伯言廣西度荒田民懼增賦不耕

乞許耕者復三年租後兩年減其租之半守令勸墾爾多

者賞之奏可

元至元十七年詔覈阿里海牙所存戶悉放為民時阿里海

牙下荆南江西廣西海南之地及尚夷山獠俘獲三萬餘

人悉為奴婢自置吏治之責其租賦詔臺御史大夫相成

檢覈之悉放為民

元貞二年七月廣西兩江道飢賑粟有差

明洪武元年詔免通租

宣德二年詔免災傷流民賦役三年

正統五年詔減官田賦額十之二

成化二年減各州縣土貢之半

成化四年免鹽鈔有差災傷去處戶口食鹽俱免輕者減半

正德十六年十一月罷廣西香貢仍遍諭各處鎮巡守備官

凡額外之徵皆罷之初中官鎮廣西者歲以零陵香進費

至二千金武宗即位詔却諸獻而廣西徵香貢如故至是

布政使王啟等請并罷詔從之

萬歷六年免徵驛夫銀一年仍減額銀著之令甲先是巡撫

太平府志

卷之二十四

四

吳文華檄驛傳羨屨通負議捐額以甦合省俱得免徵一

年自是歲徵亦減舊額之十一

萬歷三十三年罷稅鹽

泰昌元年十一月詔免各州縣新餉稅課所設盡免

國朝順治十二年蠲免十年十一年分未完糧巡撫陳維新

題免

順治十三年蠲免十二年十三年分糧巡撫于時躍題免又

諭百姓墾荒田官給牛種

康熙十六年八月豁免十六年分錢糧新任知縣何炯言於

巡撫將軍傅宏烈請行豁免

康熙二十二年免十七年以前欠錢糧稅銀及帶徵錢糧

康熙二十四年赦死罪軍罪以下

康熙三十三年蠲免應徵地丁銀米

康熙四十三年蠲免地丁各項錢糧

康熙四十七年未經具題各案情重者俱停處決緩決者減

等矜疑者俱照例發落

康熙五十年全免應徵地丁銀并歷年舊欠俱免徵

康熙五十二年免審贍丁銀雜派項欸水行禁革鯨寡孤獨

貧困無以為生者將各省積穀酌量賑濟

雍正元年免各年久民欠錢糧

太平府志卷之二十四終

卷之二十四

五

太平府志卷之二十五

食貨

物產

穀屬

白銀粘 桃花粘 岡粘 番生粘 紅米粘 沙粘

南寧粘 班粘 白銀粳 香粳 烏牛粳 鐵鍾粳

小粟 香糯 塔岡糯 狗踏糯 油糯 鴨踏糯

大紅糯 安南糯 番生糯 無鬚糯 桔貝糯 早龍糯

白藤糯 禿鬚糯 蕎麥 玉米 穉子

黍俗名粟米

稷俗名明禾

太平府志

卷之二十五

一

麥有大小二種

菽俗名豆有紅黑青黃赤各種

芝麻有黑黃白三種

蔬屬

蒲稗史類編云嶺外多諸間有發深山窵谷而得者枝塊連

屬有重數十觔者味極甘香名玉枕諸種者自二月至十

月乃成

水葱南方草木狀云花葉皆如鹿葱花色有紅黃紫三種婦

人懷妊佩其花則生男即此花非鹿葱也交廣人佩之極

有驗然其土多男不厭女子故不常佩也

薤菜肇芳譜云幹柔如蔓中空葉似菠薐開白花南人編葦

種水中陸種者宜濕地畏霜雪九月藏窖中三四月取

壅土節節生芽一本可成一畦生嶺南

藤菜一名紫果東坡詩可以敵尊羹又曰紫豆

猴葵色赤生石上南越謂之鹿角

睡粟北戶錄云五六月生田塘中葉類茨菰根如藕梢土人

採根為鹽蘆或云食之好睡

水韭生于野塘中葉似韭有二三尺者五六月堪食不葷而

脆

茄南方草木志云交廣草木經冬不衰故蔬圃之中種茄宿

根有三四年者漸長枝幹乃成大樹每夏秋盛熟則梯取

之其根燒灰可以煨香

太平府志

卷之二十五 物產

二

蕪菁南方草木狀云嶺嶠以南俱無種偶有土人因官携種

就彼種之出地則變為芥亦橘種江北為枳之義也至曲

江方有菘彼人謂之秦菘

芥菜 莧菜 蘿蔔有紅白二種又有胡蘿蔔 苜蒿

生菜形似高苜 菠菱 芫荽 苦蕒 即菜也 解毒 芥藍

豆芽 菘 韭 白菜 芹一名水英 蕨 椿芽 匾豆

鵝眉豆白者佳 豆角有青紅二種 刀豆 蠶豆 葱 蒜

薑 蕪 筍竹種不一 若蓬汁可洗衣 菌有香菌有白

西瓜 荷瓜 青瓜 王瓜 甜瓜 絲瓜 冬瓜 苦瓜

葫蘆 珍珠菜 茨菇 木耳 山薯即山藥 蕓有二種

印蹲鴟 牛腿瓜 瓢瓜 白花菜 馬齒莧 石耳

滷菜子可為油 冬莧

果屬

荔枝虞衡志云自湖南界入桂林纔百餘里便有之亦未甚

多昭平出檳榔臨賀出綠色者尤勝自此而南諸郡皆有

之悉不宜乾肉薄味淺不及閩中所產

龍眼雜佩云自尉佗獻漢高帝始有名見西京雜記左太冲

賦宛挺龍目即此結實也 紫剖之色瑩白正如水晶九核

映於外未亦甘美也 氣風韻遠遜荔枝故謂之荔

奴蘇長公曰閩越人寫荔 而下龍眼吾為平之荔子如

食蜂蟄大蟹斫雪流 一 可飽龍眼如食彭越石蟹嚼

嚼久之了無所得然酒闌口爽饜飽之餘則啞咏之味石

太平府志

卷之二十七 物產

三

蟹有時勝蚌蚶也長公此語足為荔奴解嘲

山龍眼虞衡志云出廣中夏月熟色青肉如龍眼亦龍眼之

野生者也

梅子北戶錄云嶺南之梅小於江左居人採之雜以朱槿花

和鹽曝之梅為槿花所染其色可愛

李有珍珠李麥黃李苦李郁李素門李虞衡志云綿李味甘

美勝常品擘之兩片開如離核桃

優曇鉢一名無花果方輿志云廣西優曇鉢不花而實狀如

枇杷

橄欖嶺表錄異云樹身登枝皆高數尺其子深秋方熟生

及煮飲悉解酒毒有野生者于路樹邊不可梯緣但刻

根下方寸許納鹽於其中一夕子皆自落樹枝節上生  
膏如桃膠南人採之和其皮葉煎之調如黑糖謂之橄欖  
糖其樹枝東向日木威南向曰橄欖

斯橄欖羣芳譜云生邕州核作兩瓣野生者樹峻而子繁  
蜜漬鹽醃皆可藏久用之致遠作佳果

橄欖虞衡志云狀如橄欖青黑色肉爛而甘

方欖亦橄欖類三角或四角出兩江州洞

留求子南方草木狀云形如梔子稜瓣深而兩頭尖似訶梨  
勒而勁及半黃已熟中有肉白色甘如棗核大治嬰孺之  
疾交趾有之

橘草木狀云為樹白花赤皮馨香有美味自漢武帝交趾有

太平府志 卷之二十五 物產 四

橘官秩二百石王貢御橘吳黃武中交趾太守士燮獻橘  
十七實同一蒂以為瑞異

柑草木狀云乃橘之屬滋味甘美有黃有頰者頰者謂之壺

柑大六七寸圍皮薄而子少者佳出嶺南

餘甘子臨海異物志云餘甘似梭形初入口舌澀酸飲水乃

甘又如梅實核兩頭銳呼為餘甘橄欖同一物異名耳

柚子有紅白二種一名柑一名香柑樹高二三丈黃色皮厚

肉甘

羅晃子如橄欖其皮七重

枸櫞樹似橘實如柚大而倍長味奇酸皮以蜜煮為椀南方

草木狀云形如瓜皮以橙而金色極芬香肉甚厚白如糖

服夸人重之女工競雕鏤花鳥以蜂蜜點燕檀巧麗妙  
無與為比異物志云皮不香味不美可以浣治葛之毒酸  
漿近有佛指櫞自閩中徙植者

楊桃一名五斂子有五稜南人呼稜為斂故名五斂一斂兩  
熟味甘

黃皮果海槎錄云出廣西狀如練子及小棗而味

苦提子狀如北地沙果皮味香甜可食

羅旺子出太平府自外皮剝至見膚凡九層食之甚甘賡人  
呼為九皮果殼長四寸如肥皂又如刀豆色正丹內有二  
三實煨食甘美六月熟

人面子格古要論云春花夏實秋熟兩邊彷彿人面 名南

太平府志 卷之二十五 物產 五

方草木狀云樹似含桃結子如桃實無味以蜜漬之稍可  
食其核可玩

芭蕉子有三種小者曰牙蕉大者曰芭蕉長六七寸者曰

蕉

諸蔗南方草木狀云一曰甘蔗交趾所生者圍數寸長丈餘  
頗似竹斷而食之甚甘

薊薊南方草木狀云薊薊草也生於番國者大而紫謂之

薊薊生於番國者小而青謂之薊焉可以為食故謂之薊

焉交趾九真人家多種蔓生

千歲子南方草木狀云有藤蔓出土子在根下鬚綠色交加

如織其子一苞恆二百餘顆皮殼青黃色殼中有肉如果

味亦... 之... 相離... 之有聲似肉豆蔻出交趾

櫻桃 藕 蓮蓬 楊梅 石榴 核桃 菱角

青皮果 枇杷 白果 棗子 芡雞頭菱也 橙香者

為貴 梨 葛 栗 柿 杏 荸薺即鳧花 土瓜

葡萄有紫青水晶二種 梧桐子

竹屬

石林竹南方草木狀云似桂竹勁而利削為切割案皮如刀

然出九真交趾

竹長爽纖葉青肌薄皮

稜竹格古要論云棕竹出廣西葉如棕櫚比身似竹堅且實

又名桃竹

太平府志 卷之二十五 物產

細竹方言謂之茅竹大者可屋嫩者可紙

釣絲竹虞衡志云竹類篋竹枝極柔弱 風如細柳 人呼為刺勒白

刺竹嶺表錄異云南土有刺竹枝上有刺 根橫生枝條展轉如織雖野火焚燒只 刺枝嫩葉春叢

生轉復牢密土人以刺竹為牆人不能入 譜云一名芭

竹筍味落人鬢髮

油梧竹南方草木狀云民家多種之長三四圍一尺八九

寸可作屋柱

思摩竹南方草木狀云如竹大而筍生其節筍既成竹秀而

筍復生節焉交廣所在有之

少麻竹廣桂皆植大如蓋盤厚而中空堪為椽梁種者

二十許釘入土不逾月而生根葉明年長芽環三載而

為林蓋土地所宜也竹譜為蘇麻竹

尾竹纖葉翠枝可供清玩

前竹節密肉厚禹貢云細者為篠

人面竹虞衡志云葉大且密畧似蘆葦

竹可為篋以織器

紫竹皮紫

苦竹節疎體勁可代鑪

淡竹 籬竹 笏竹

木屬

太平府志 卷之二十七 物產

桂石粵風土記云桂林八樹山海經云在黃禹東今粵西地

最宜桂大者十圍終年葱蒨秋風時起四遠聞香至冬枝

端結子纒纒然如小蓮子中空有漿

荆木有三種金荆作枕紫荆作牀白荆作履與他處壯荆蔓

荆全異草木狀云又有杜荆指病自愈節不相當者月暈

時刻之與病人身等置牀下雖危困亦愈

紫檀木格古要論云出交趾廣西湖廣性堅新者色紅舊者

色紫有蟹爪紋新者以水濕浸之色能染物

交廣所在有之

刺桐南方草木狀云其木為材三月三時布葉繁密後有



赤色間生葉間旁照他物皆朱殷然三五房凋則三五復發如是者竟歲九真有之

蘇枋樹南方草木狀云類槐花黑子白出九真南人以染絳漬之以大庾之水則色愈深

謂梨勒南方草木狀云樹似木椀花白子形如礮礮六路皮

肉相着可作飲變白髮髮令黑

刀木一名石鹽一名鐵稜可作棟梁

更連木嶠南瑣記云邕人言鐵力木能上水僅可百餘年惟

黃連木最能久

四方草木狀云五嶺之間多楓木歲久則生瘰癧一夕遇

暴雷驟雨其樹贅暗長三五尺謂之楓人越平取之作術

太平府志 卷之二十五 物產

有通神之驗取之不以法則能化去其實大如雞卵九月

熟晒乾燒之香馥

線木錄異云樹枝葉並蕃茂與棗櫨椰等樹小異然葉下有

鬚如鹿馬尾廣人採之以織巾子其鬚尤宜鹹水浸漬即

愈服而韌故人以此縛船不用釘

枕椰木錄異云如竹紫黑色有文理而堅工人解之以制神

突句此樹皮中有屑如麵可為餅食之

無患木崔豹古今注云無患俗名苦珠子可去垢其木用

棒為器以厭百鬼故名

楓香樹草木狀云樹似白楊葉圓而岐分有脂而香其子

如鴨卵二月華發乃著實八九月熟曝乾可燒

方草木狀云南海桂林多植之葉如木麻實如... 或大株有根四五處而橫枝及鄰樹即連理南人以

為常不謂之瑞木

思備木虞衡志云生兩江州洞堅實漬鹽水中百年不腐

蟻子樹嶺南錄異云有樹如冬青實生枝間形如枇杷子每

熟即拆裂蚊子羣飛唯皮殼而已土人謂之蚊子樹

栢 松 槐 檉 柳 桐 楮 檫 椿 楠 檜

棗木 秋桑 油果木 杞梓 烏柏 栗木 梨木

苦棟 棕櫚 金汗木產思明 山桃 冬青 黃楊

太平府志 卷之二十五 物產

相思 弩丹產太平之都管村 穀木皮可為紙 黃藤

花屬

蘭有劍蘭魚子蘭釣蘭樹蘭諸種 桂有黃白二種

茉莉重臺者名之單臺者名素馨香氣一也素馨與茉莉但

同種昔劉王有侍女名素馨其塚上生此花因以得名

有五瓣似十姊妹光嫩如狗牙花

山薑本草綱目云出九真交趾今閩廣皆有之劉恂嶺表錄

異云莖葉皆隆也值根在濕食與紅豆蔻花相似而微小

兩花生葉間作種如麥粉嫩紅色南人取其未大開者

之含胎花以鹽水醃藏入甜糟中經冬如琥珀色辛香

愛用為餡無以加又以鹽殺治暴乾者煎湯服之極

一名佛手有紅白紫黃數色純白無間者名舜英

花虞衡志云即木槿有紅白二種葉似蜀葵深紅者

單包裹黃梅鹽漬暴乾以薦酒故名

粉紅色四季開

梓樹表錄異云朱槿花莖葉皆如桑樹葉光而厚南人謂

之佛桑樹高止於四五尺枝葉婆娑自二月開花至於中

冬方歇其花深紅色五出如大蜀葵有葉一條長於花葉

上綴金屑口光所照皆生一叢之上日開數百朵

山茶廣志云南山馬大倍中州者色微淡葉柔薄有

毛結如梨大如卷中有數子如肥皂子大別自有一種

中州所出者

入蕉羣芳譜一出廣者樹不甚高花瓣尖大紅色如蓮

其美又有一心葉葉中出紅葉一片亦名美人蕉一

種葉類蕉葉其花紅如榴花日拆一兩葉其端一點鮮

紅可變在四時

樹花梅... 葉皆黑色葉小如石楠質理細厚每

遇丁卯年則花開瓣紫白色如瑞香較小圓耳一開數

月不凋嗅之有草氣俗語事難成者則曰須臾花開

此

元紅虞衡志云此花深紅色絕似紅木瓜

紅豆蔻花虞衡志云此花叢生葉瘦如碧蘆春末始發初開

花先抽一幹有大襍包之釋解花見一穗數十稔淡紅鮮

妍如桃杏色藥重下垂如蒲萄不結實與草豆蔻異種每

藥心有兩瓣相並詞人托興曰比目連理云

史君子花虞衡志云花蔓生作架植之夏開一簇一二十葩

輕盈似海棠

木樨 蕙 薔薇 碧桃 葵有紅葵黃葵 紫荆

萱草一名宜男 海棠惟鐵梗一種 茶藤 鴛粟 水仙

金錢 郁李 紫微 芙蓉 鷄冠 鹿葱 瑞香 山礬

菊有紅黃白三種 梅有紅白二色 石榴 剪春羅

玉簪 杜鵑俗呼映山紅 水蕉 金鳳 石竹一名錦粉

太平府志 卷之二十五 物產 上

麗春俗名月月紅又名長春 滴滴金 夜落金錢

扁竹 百日紅 粉團 蓮有紅白二種 含笑 夜合

指甲印鳳仙 鳳尾 寶珠 鷹爪 鋪地錦 九里香

繡球 簕筍似梔子而重臺 觀音蓮葉似芭蕉花如金蓮

山丹 菖蒲 玉蘭 辛考又名木筆 龍船即躑躅

胭脂 子望香 午時紅 黃蠶

蕪花側垂高岩下似小金蓮節間另行枝葉俗呼屈子花

馬纓丹

草屬 可入藥者別見

蕙草南方草木狀云一名薰草葉如麻兩兩相對氣如麝香

可以止癘

芒茅草一名龍茅葉厚圓花黃終年不枯

芒茅南方草木狀云芒茅枯時瘴疫大作交廣皆爾也土人

呼曰黃茅瘴又曰黃芒瘴

大... 衡志云地無霜雪年深滋長大者可作屋柱小亦中

相與之任

仙人掌自下而上一枝一掌掌有刺花黃色形如鳳

茅藻蒲蘆蘋蕨萍菱薯艮形如袖

子蔓生實在地中浸酒色紅味不變久愈香 芭蕉莎可為

雨衣 龍須可為席

毛屬

鳳母本草綱目云一名風狸生邕州以南似兔而短棲息高

太平府志 卷之二十五 物產

三

樹下候風而吹至他樹食果子其屎如乳甚難得人取養

之乃可得

山羊出深山中有血可治撲跌傷損及諸血症以一分許調

酒飲之神効土人云見人則決驟而去跳躍風迅非足力

所及須密布繩草間胃其足始能生得刺取其血乾而

之甚貴不易得也

山猪方輿勝覽云卽毫猪身有刺能振發以禦人二三百為

羣以害苗稼

野豨類家猪腹小脚長牙利人不敢近

蠻犬如獵狗警而側諸蠻率携一犬自防盜莫敢近

牛馬羊猪犬獬虎豺獾豹狸熊

竹鼠

鹿 麋 麂 麝 兔

引鳥

有山鳳狀如鵝而鳳喙巢兩江深林中

此法如將雄以不枝雜桃膠封其巢留一竅取食

發音不成則窒其竅而殺之又有大頭鳳飛則羽音如

轉輪所出之處云息不致鳴

鳳亦雅... 鳳如孔雀紺碧頭上形毫光逾... 冠

上垂二... 長一尺五寸鳴聲清越如簫笙能變... 音

宮商間出兩江溪洞中子謂綠舍即紫鸞鳴鳳即... 也

鳳... 出... 穴... 登... 不信... 矣

三

孔雀南越志云廣宜諸州出孔雀為鳥不必匹合以... 接便有字

翡翠鳥異物志云形似燕而翠青其羽可以為... 飾

六翻毛長寸餘青草先高作巢以避患及生子愛之... 悉

稍下作巢子長羽毛復益愛之又更下巢而人遂... 得

之矣翡翠大如燕小於鳥

素吉了本草綱目云山嶺南容管廉信諸州紺黑色夾... 腹

黃肉冠如人耳丹喙黃蜂人舌人目曰下連頸有深... 黃

黃尾有分縫能效人言音頗雄重亦有白色者

... 哥... 黑色... 黃口... 不... 能... 言

... 哥... 鳳... 土... 色... 不... 能... 言



此一名池長二三丈螫人手足則割去其肉不

花蛇 雞冠蛇 黃稍蛇 蠶 壁虎 蜘蛛 蜈蚣

蚊 蠅 蟻 蝗 蟻 蟬 蟋蟀 螢 蜂 蟻

蜘蛛 蜻蜒 蚯蚓 蝦蟆 水蛙味可食 石鱗又名山

味佳 斑蝥 蝙蝠 守宮即蜥蜴 蝨斯 螳螂

鱗屬 蚱蜢 蛾 蛭 蝸

鱗屬

香魚出崇善墨水江中香木潭味甚美他江不及

七星魚通志云出太平

鯪魚異物志云南方魚多不肥美味鯪魚為上大者長三尺

作膾炙尤香而美

太平府志 卷之二十六 物產

鮑子魚身有鹿斑赤黃色

魚 鰻魚 鱧魚 鮒魚 鮓魚 鮠魚 黃魚 草魚

魚 鱖魚 金魚可玩 銀魚 魴魚 鰱魚 斑魚

魚能食沙射人 魴魚 蛇魚

介屬

過有水龜神龜二種 蟹 蝦 螺 蚌 蚌 穿山甲

即鮫鯉可入藥

瓦屋子蓋蚌蛤之類也南中呼為空慈子以其殼上有

瓦故更名焉殼中有肉紫色而滿腹多燒以薦酒俗

天爵炙吃多即壅氣背膈煩癢苦則其本性也

雜物屬

銅虞衡志云邕州州伺所出掘地數尺即有礦故蠻人

銅器

木綿羣芳譜云即斑枝花樹大可合抱高四五丈葉黃花紅

如山茶而片極厚一名木綿出南方俗謂作攀枝花

古貝布文昌雜錄云閩嶺以南多木綿土人競植之採其花

為布號古貝余後因讀南史海南諸國傳言林邑等國出

古貝木其華成對如鸞毳抽其緒紡之以作布與苧不異

染成五色織為斑布正此種也蓋俗呼古為吉耳

鷺毛被北戶錄云邕之南溪洞酋長以鷺毛為被取頭頸細

軟毛如稻畦柄之暖甚如綿

練子虞衡志云出兩江州尚大畧似苧布有花紋者謂之花

太平府志 卷之二十六 物產

練土人亦自貴重

白茅香如茅根本草綱目云生廣南山谷合諸名香甚奇妙

尤勝舶上來者此亦今排草之類

排草香本草綱目云出交趾今嶺南亦或蒔之草根也白色

狀如細柳根人多偽雜之

綿布 蘇布 苧布 棉花紫白二種 葛麻 苧麻

赤麻 桑 杉枋 漆 花椒 苦荬 蜂蜜 藍靛

蘇木 蔗糖 萋 竹篔

藥屬

丹砂虞衡志云本艸以辰砂為上宜砂次之今宜山人云出

砂處與湖北大牙山相連北為辰砂南為宜砂地賦云

無甚分別宜砂老者白色有牆壁如鏡生白石林上可入  
煉勢敵辰砂本草綱經乃云宜砂出土石間非白石林所  
生卽是未識宜砂也別有一種色紅質嫩者名土坑砂乃  
是出土石間者不甚耐火邕州亦有砂大者數十百兩作  
塊黑砂少牆壁嚼之紫黑不堪入藥彼人惟以燒取水銀  
闔經云融州亦有砂今融州原無砂邕容聲相近蓋誤云  
鍾乳洞穴中石脉湧起處卽有乳床白如玉屑石液融結所  
成也乳床下垂如倒數峰小山峰端漸銳且長如冰柱柱  
端輕薄中空如鷺管乳水滴瀝未已且滴且凝此乳之最  
精者以竹管仰盛拆取之鍊治家又以鷺管之端尤輕明  
如雲母爪甲者爲勝

太平府志

卷之二十六 物產

四

高良薑本草綱目云嶺南諸州皆有之內郡雖有而不堪入  
藥春生莖葉如薑苗而大高一二尺許花紅紫色如山薑  
花

錦地羅本草綱目云出廣西山巖間根似葶藶及括蕒根狀  
其苗有節可塗腫毒

八角茴香本草綱目云廣西左右江峒中有之形色與中國  
茴香迥別但氣味同爾

縮砂嶺南山澤間有之本草作縮砂密苗似薑形如白豆  
其皮緊厚而嫩黃白主消宿食治痢疾

澤蘭本草綱目云根紫黑色如粟根二月七月開花帶紫白  
色萼通紫色亦似薄荷花三月采苗陰乾荆湖嶺南

多種之

苦地膽葉可貼熱毒瘡

釵子股本草綱目云一名金釵股生嶺南及南海山各根如  
細辛每莖三四十根嶺南多蠱毒彼人以草藥金釵股治  
之十救七八其狀如石斛又忍冬藤解毒亦名金釵股

虎耳草叢生水澤中似虎耳名旱草搗汁如蜜酒成膏潤肺  
烏髭髮

馬鞭草苗似茅芽而莖圓高二三尺抽三四穗生取搗汁一  
升飲之能消癥瘕

箭頭風花似箭鏃可治風

無名異本草綱目云生於石上狀如黑石灰以油煉如蠶石  
太平府志 卷之二十六 物產 五

嚼之如錫黑褐色大者如彈丸小者如黑豆子朱無時  
接骨草苗似竹節可續斷骨

刀鎗草細葉黃花止血鎗血

苦參 蒼耳 香附 白芨 草麻子 地榆 香薷  
天南星 威靈仙 枳實 枳殼 荊芥 天花粉

厚朴 茵陳 苦練子 土牛膝 草果 巴豆 無患子  
黃精 黃柏 五倍子 姜薺 金銀花 三柰 旱蓮草

半蓮 薄荷 莪木 鳳尾草 甘菊 乾姜 紫蘇  
車前子 天竺黃 陳皮 烏梅 青皮 地骨皮

佛手 山椒 艾 葛根 木鱉子 大風藤  
皂角 松脂 五加皮 蛇蛻 龜甲 鉛粉 白盧豆

天門冬 元參 青黛 史君子 聖麥 商陸

蟾蜍 續斷 蟬殼 覆盆子 乾山藥 麥芽 豆蔻

葶果 黃芩 桑白皮 山梔子 金櫻子 蛇床子

鹿膽 草烏頭 兔絲子 蜜陀僧 鱈魚膽 黑白牽牛

石蓮子 仙靈皮 山茨菰 薏苡仁 楮實子 旋覆花

馬兜鈴 九里明可瘳目疾 扁蓄 山查 海金沙

蒲公英 細辛 決明子 夜明沙

毒藥

胡蔓草生山溪間葉似茶而尾尖每日昇東而此草向東日

返西而此草向西土人取而噉之隨飲溪水須臾毒發心

腹腫痛面青腸斷立斃若未噉水尚可解救方用人糞汁

灌吐出此草無患再生殺雞雜糶漿水乘熱灌之可活

菌毒朝野僉載云嶺南風俗多為毒藥令老奴食治葛死埋

之土堆上生菌子其正當腹上食之立死手足額上生者

當日死旁自外者數日死漸遠者或一月兩月全遠者或

二年三年無得活者或有以菌藥塗馬鞭頭馬鞍上拂著

手即毒拭著口即死

斷腸草一名苦蕒藤形似黃精食之斷腸而死即周禮所謂

地鼈是也其花皎好如芙蓉太白云昔作芙蓉花今為斷

腸草羊食此草而肥故中其毒者用羊血灌之或以伏鼠

未生雛者細研和香油灌之或用狗屎調水灌之令其

出方愈

悶化羅人食之頓悶軟弱急用水噴面解之呼此藥為

頭煎蓋用風茄為末也

羅母草於箭射會獸立死

火旺草毒魚立死

太平府志卷之二十六終

太平府志 卷之二十六 物產 七

卷之二十七

古者井田賦車甲連帥比年簡書本正三年簡徒  
華大簡車徒為國立武尚矣太平自漢唐以來世有邊患  
皆屬土酋弊僚之性鴛鴦難馴非兵不制又時有事交趾必  
于龍州憑祥思明三道進師斯固用武地也故郡城既設  
八之營以資彈壓外復設龍憑爐靈二營以捍收圍編之有  
籍駐之有地案之有節紀之有數由來舊矣我

國家仁育義正薄海同風邊徼之地無袍鼓之警者垂數十年  
丙安外寧誠哉其為太平之民也然兵可百年不試不可一

太平府志

卷之二十七 武備志序

一

日不備易曰重門擊柝以待暴客蓋取諸豫操操斯柄者誠能  
勤其簡閱時其訓練雖不必預其于農盡合於古人而亦不  
失未雨綢繆之意也志武備

太平府志卷之二十七

武備

兵制

太平府

明所屬土州縣點撥守城土兵七十名

左州

明守城兵九十名 守監兵二十二名

養利州

明守城兵三十名 守城民兵三十八名

守城自兵三百零 報效兵五十名 哨兵二百名

本朝新太營

太平府志

卷之二十七 兵制

額設參將一員

守備一員

千總一員

把總二員

內撥左州分汛官一員 永康州分汛官一員

額設兵五百五十八名內

步戰兵一百六十七名

守兵三百九十一名

一駐防太平府兵四百五十八名

一分防左州兵五十名 永康州兵五十名

官自備馬六匹



龍憑營

額設守備一員

千總一員

設兵一百五十五名

步戰兵四十七名

官自備馬六匹

龍憑營

額設守備一員

千總一員

額設兵一百五十五名

太平府志

卷之二十七 兵制

二

步戰兵四十七名

守兵一百零八名

官自備馬六匹

恩陽土府新設兵一百名

左江鎮標弁兵防

恩陽土府新設兵一百名

左江鎮標弁兵防

恩陽土府羅隆 恩陵土州各隘 上石西州由隘

官自備馬六匹

上下二龍土司水口等隘係龍憑營撥兵同土兵防守

兵餉

新太營駐劄太平府城

奉餉馬乾連閩歲共需銀八千九百三十一兩八錢

四分零

米二千一百七十六石二斗

穀一百二十九石六斗共折銀五十一兩八錢四分

草四萬五千三百六十斤共折銀二十七兩二錢一分零

龍憑營駐劄恩陽土州

官兵俸餉馬乾連閩歲共需銀二千五百零八兩五錢六

分零

米六百零四石五斗

穀四十三石二斗共折銀一十七兩二錢八分

草一萬五千一百二十斤共折銀九兩零七分

龍憑營駐劄下龍土司

太平府志

卷之二十七 兵制

三

官兵俸餉馬乾連閩歲共需銀二千五百零八兩五錢六

分零

米六百零四石五斗

穀四十三石二斗共折銀一十七兩二錢八分

草一萬五千一百二十斤共折銀九兩零七分

戎署

原守禦千戶所在城東門內明洪武五年千戶程良建後額

萬曆年間知府蔡迎恩重修 國朝康熙十年知府高不

稔改為巡道署五十五年通判何灝詳請借為通判署

軍器局原三間以造軍器

廣盈倉用貯屯糧

後場舊在北門外文廟後隆慶元年知府徐師臯以操練軍士震動神位遷於壺關外

演武亭前廳五間後廳三間今廢

新太營參將署在府城東門內大街後經江州賊毀康熙元

年參將謝宗孔始葢茅屋八年參將崔文元九年參將蘇

昇相繼捐修易以磚瓦後堂三間書房三間

守備署在府城小西門內大街康熙二年守備何應魁捐建

千總署在小西門內大街

旭燾營守備署在思明州治之西北二十里與思明府交界

處

千總署

太平府志 卷之二十七 戎署

四

貼防思明府把總署在府治西

貼防思明州把總署在州治南

龍憑營守備署在下龍司治東

千總署

太平府志卷之二十八

官制

宋

太平提舉司提舉使

盜賊巡檢使

二職兵官也兵兵百餘為谿峒之綱領見張南軒奏議

太平寨知寨 主

二職民官也見文獻通考

元

太平路

達魯花赤見文獻通考

太平府志 卷之二十八

總管以上人

已上二職管長官總管兼管內勸農使

同知並同

通判

推官 經歷 知事 提控案牘

照磨兼承發架閣

已上俱以漢人為之

知府

同知未之

通判三年秋後補益一止德

太平府志卷之二十七終

推官

經歷 知事 照磨 檢校 正德三年裁

教授 訓導

稅課司大使 洪武二十一年設 二十二年裁 三十五年又復 正德三年裁

乃積倉大使 副使

左江驛丞

遞運所大使 奉 案開大軍征討交趾 供 應不敷 奏設 正德三年裁

國朝

知府

通判 權捕

推官 康熙六年裁

太平府志 卷之二十八 官制

經歷司經歷 八使 康熙三十年裁

驛丞 康熙二十年裁

教授 訓導

崇善縣

知縣 典史 訓導 雍正四年以府學 訓導管縣學事

左州

知州 吏目

學正 訓導 康熙四十年設

舊設歇朴驛驛丞 久裁

養利州

知州 吏目

學正 訓導 康熙四十年設

永康州

知州 吏目

學正 訓導 康熙四十年設

思明土府 明有通判 照磨 知事 等員 奉裁

同知 經歷

教授 訓導 康熙四十年設

土司首領

太平州吏目 雍正四年 改為州同 訓導 雍正三年以養利 州訓導管本學事

安平州吏目 雍正四年 改為州判 恩城州吏目

萬承州吏目 雍正四年 改為州同 茗盈州吏目

太平府志 卷之二十八 官制

龍英州吏目 雍正四年 改為州同 羅陽縣典史

結安州吏目 信倫州吏目

都結州吏目 思明州吏目

下石西州吏目 憑祥州吏目 雍正四年 改為州判

全茗州吏目 江州吏目 雍正四年 改為州判

龍州吏目 雍正三年裁

太平府志卷之二十八終

太平府志卷之二十九

職官志序 名宦附

唐虞建官惟百夏商官倍周官三百有六十越在外服大都小伯皆有表臣百司庶常吉士及夷微盧烝三毫之職不以王官之用能和我庶獄庶慎兼詰戎兵以佐乃辟庶民者此也自秦廢封建置郡縣官制代更歷代之史例有職紀之其人其事復有列傳美惡具載以垂法戒郡縣之職官亦史例也獨所立傳有美無惡蓋善善欲長之義然既知所法固不蹈其所戒則有勸亦可以懲懲太平自宋樂始有寨官然皆土酋所領徒瘞之俗無有文字可考明被改流而後府及州縣建長官置寨傳伍陳殷置輔皆王太平府志

卷之二十九 職官志序

矣及所屬土司亦有佐治名氏事蹟亦可錄之

正治官文致武衛規制尤善羣巨而不率職明王制述職願可略乎哉志職官

太平府志卷之二十九

職官

元

太平路總管

李興隆 祖籍山東益都人至元年開任

李維屏 興隆子襲父任至元二十三年加昭勇大將軍陞廣西宣慰使見各宦

知府

明

諸葛天澤 陽州人洪武元年任

金濟貧 洪武二年任

趙鑑 洪武五年任見各宦

太平府志

卷之二十九 職官

陳維德 洪武二十八年任見各宦

郭修 南昌人永樂元年任

許侃 山東人永樂四年任

劉瑩 桐城人永樂元年任

楊銘 襄陽人由進士永樂十六年任

利用 南雄人宣德元年任

蔣彥廣 正統元年任

蔣大方 正統六年任

何大 名正統元年任

黃倫 東莞人正統十一年任

林貴 廣東人天順元年任

曾達 郴州人天  
順元年任

鍾順 順德人天  
順四年任

鍾克敬 成化元  
年任

陳義 四川人成  
化二年任

陳士霖 湖廣人成  
化四年任

郭本 融縣人成  
化五年任

何楚英 番禺人成  
化二年任

韓廷咳 湖廣人成  
化十八年任

趙珪 浙江人成  
化九年任

金川 宏治元  
年任

丁賢 通志作于賢湖廣  
人宏治二年任

太平府志 卷之二十九 職官

許仁 肇慶人宏  
治三年任

何清 廣東人宏  
治七年任

盧易 東莞人宏  
治十年任

謝瑚 潮州人由  
進士任

陳軒 潮州人宏  
治十四年任

王佩 松江人宏  
治十六年任

王球 吉安人由  
生任

陸坡 浙江人由  
進士任

徐球 浙江人正  
德七年任

徐天澤 浙江人由  
進士任

鄧炳 順德人由  
進士任

胡世寧 浙江仁和人由  
進士任

王綸 舉人正德十  
五年任

程榮 荆門人由舉  
人任

潘時 貴州人由舉  
人任

唐翺 廣東人由舉  
人任

潘字 淮安人由舉  
人任

鄭公奇 莆田人由  
進士任

江一桂 徽州人由  
舉人任

周允 廬陵人由官  
生任

何派行 香山人由  
進士任

章藹 蘭谿人由官  
生任

太平府志 卷之二十九 職官

張士麟 四川人由  
官生任

費慈良 鉛山人由  
官生任

徐師早 浙江永康  
人由進士任

吳良 直隸垂亭人  
由舉人任

林廷顯 福建福清  
人由舉人任

邵濂 江西南豐人  
由進士任

蔡迎恩 浙江臨海  
縣人由進士任

林應雷 福建閩縣  
人由進士任

劉汝昭 江西萬安  
縣人由進士任

王命爵 福建南靖  
縣人由進士任

張步雲 湖廣廣濟  
縣人由舉人任

李維祐 貴州清平衛人由舉人萬曆十七年任

吳大紳 浙江義烏人由官生萬曆二十一年任

李國珍 福建長樂人由舉人萬曆二十六年任

郭維屏 江南人由舉人萬曆三十年任

凌登名 浙江錢塘人由舉人萬曆三十四年任

區日振 廣東新會人由舉人萬曆四十四年任

李友梅 貴州人由舉人天啟元年任見各宦

錢承贖 雲南人由舉人崇正二年任

陳委謀 湖廣人由舉人崇正六年任

李 柳 廣西人由舉人崇正十年任見各宦

楊垂雲 福建人由舉人崇正十六年任

徐 美 江西人由貢生崇正十七年任

國朝

遲 焯 遼東人由貢生順治十六年任見各宦

馬正午 北直延慶州人由拔貢順治十八年任

高不矜 山東濰縣人由拔貢康熙五年任見各宦

景嗣正 鑲白旗人由筆帖式康熙十八年任

劉 源 湖南高陽人由進士康熙二十二年任

黃良驥 福建龍溪人由生員康熙二十六年任

陸鍾呂 河南歸德人由進士康熙三十三年任

黃 鍾 江南休寧人由貢生康熙三十四年任見各宦

徐 越 鑲藍旗人由監生康熙三十六年任

傅以履 山東人由歲貢康熙四十年任

李文獻 鑲紅旗人由貢生康熙四十二年任

蔣申錫 山西人由歲貢康熙四十五年任

趙宏揆 鑲紅旗人康熙五十二年任

王 洵 山東人監生康熙五十七年任

甘汝來 江西奉新人康熙癸巳年任

王夢堯 貴州人康熙戊戌進士雍正三年任

同知 陞廣西

劉 震 英德人正統九年任

郭 本 融縣人成化三年任

謝 雍 湖廣人成化九年任

楊 森 宏治七年任

方 溶 淳安人宏治十三年任

徐 球 浙江人正德三年任

李 鵬 江夏人正德九年任

通知 通判

劉原高 洪武三年任

王俊文 袁州人由人才洪武十年任

蔡 年 正統九年任

陳 秉 天順四年任

韓廷彥 湖廣人成化六年任

金 滕 宏治三年任

張 一 宏治十年任

張 朝 慶慶人宏治十一年任

王 綬 山東人正德五年任

田維祐 浙江人正德十六年任

李 毅 江西撫州人由貢生洪武六年任

王 琪 瓊山人正統八年任

揭 冕 江西人正統十一年任

明

太平府志 卷之三十九 職官

五

程式 江西人成化四年任

吳亮 成化九年任

羅頡 吉水人成化二十一年任

黃中才 廣江人宏治八年任

楊昱 德安府人正德五年任

鄭策 福建人由貢生嘉靖二年任

鐵潤 嘉靖七年任

朱守元 浙江人由貢生嘉靖十六年任

章銓 嘉靖二十二年任

戴懋 江西人由貢生嘉靖二十八年任

林一鶴 南海人由貢生嘉靖三十四年任

王汝奇 豐城人由監生嘉靖三十八年任

田璽 福建人由貢生嘉靖四十二年任

唐鯉化 福建人由貢生嘉靖四十四年任

譚音 廣東人由貢生嘉靖四十八年任

王紹武 雲南人由貢生嘉靖五十二年任

張賢 廣東人由舉人嘉靖五十七年任

歐陽楷 湖廣人由貢生嘉靖五十五年任

自此至明末舊志俱無可考

陳王前 陝西人由拔貢順治十七年任

喬嵩裔 河南人由拔貢康熙六年任

李雲文 廣西人由貢生康熙八年任

姚之夔 直隸生康熙二十二年任

汪森 浙江人由貢生康熙三十年任

翁袁炳 浙江人由貢生康熙四十五年任

宋建業 廣西人由監生康熙五十五年任

李世璋 順天人由監生雍正二年任

何灝 浙江人由監生康熙五十五年任

劉頌先 江西人由貢生雍正四年任

李和 正統元年任

金川 正統九年任

車軾 雲南人景泰三年任

周孟初 廣東人天啟三年任

邱瑞 廣東人成化二年任

顏冀 廣東人嘉治三年任

黃 嘉治五年任

黎嵩 南海人嘉治八年任

許金 嘉治十年任

張元節 大德人由舉人正德五年任

蘭宗遠 嘉靖六年任

曾觀 嘉靖十年任

吳信 嘉靖二十一年任

陳養蒙 嘉靖二十七年任

李邦直 嘉靖三十七年任

謝評 嘉靖四十四年任

太平府志 卷之二十九 職官 七

命品 浙江人由貢生康熙三十年任

周中鐸 浙江人由監生康熙四十二年任

余華國 廣西人由監生康熙四十七年任

李世璋 順天人由監生雍正二年任

唐 失名正統八年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

唐 失名正統十三年任

道月 嘉靖四十五年任 杭州人由貢生

黃見可 隆慶五年任 福建人由舉人

葉 蒸 萬曆五年任 廣東人由舉人

聶 杖 萬曆五年任 廣東人由舉人

自此至明末舊志俱無可考

唐敬一 治十六年任 四川舉人順

以後裁

經歷

命 元 同通判劉元高 萬 隆 俱洪武

太平府志 卷之二十九 職官

葉恩訓 正統三年任 天順四年

鄧 信 李 貴 馮 呈

馮 昱 俱成化 羅 佩 張 海

洪 鑾 俱嘉治 黃 大 紀 何 洪

曹 鑾 張 海 王 輔

沙 綸 俱正德 翼 學 夔

史 聰 何 洪 汪 一 躍 俱嘉靖

徐 永 年 王 輔 楊 春 光 俱隆慶

桂 遠 相 汪 一 躍 俱嘉靖

八 鶴 汪 一 躍 俱嘉靖

鄭 澧 楊 春 光 俱隆慶

此後舊志無考

國朝

千 仲 遠 湖廣人康熙二年任

陳 定 遠 浙江人康熙九年任

翁 年 英 順天人康熙二十六年任

張 翊 辰 山西人康熙二十九年任

范 以 煥 江西南豐人康熙三十二年任

戴 璉 江西南豐人康熙三十六年任

李 南 山 蘇州人康熙四十四年任

陳 大 業 康熙五十年任

潘 琦 浙江人康熙五十八年任

曹 天 鑑 浙江人雍正四年任

林 天 正 遼東舉人康熙三年任

何 上 珍 廣東舉人康熙八年任

劉 昇 陽 江南人康熙二十七年任

張 大 本

吳 尊 賢 福建人康熙四十年任

高 琬 福建人康熙四十年任

沈 延 鐘 浙江人康熙四十八年任

王 佳 章 江南人康熙五十六年任

傅 汝 賢 順天人雍正二年任

徐 璠 洪武三十年任

彭 鑾 廣東人正治十三年任

葉 復 福建人正德十三年任

鄧 玉 嘉靖六年任

馮 賜 桂林人嘉靖二十八年任

葉 萬 碩 博羅人嘉靖二十八年任

劉 珠 東莞人嘉靖三十七年任

唐 鉞 瓊山人由監生

張 大 期 隆慶五年任

明 教授

太平府志 卷之二十九 職官



林致中 上思州人 萬曆三年任

鄧廉

國朝

蔣先春 瀘陽舉人 康熙十年任

唐學益 馬平舉人 康熙二十年任

王維泰 瀘陽舉人 康熙二十六年任

卿 慎 瀘陽舉人 康熙四十年任

張雲路 臨桂舉人 康熙四十二年任

王需梅 陽朔舉人 康熙四十五年任

王之鏜 全川舉人 康熙四十九年任

劉懋璋 全州貢生 康熙五十二年任

葉燦 恩州貢生 康熙五十七年任

戴平 柳州拔貢 康熙六十一年任

訓導

明

鍾秀 肇慶人 成化十四年任

謝瑾 成化十七年任

太平府志

卷之二十九 職官

伍敘 肇慶人 成化二十二年任

劉春 江西人 嘉靖四年任

林崇 廣東人 嘉靖十年任

陳文 漳州人 正德三年任

梁 嘉靖十六年任

汪瓚 舒城人 正德十六年任

王 嘉靖十六年任

龍員 桂林人 嘉靖十六年任

陳珩 嘉靖十七年任

吳鑿 廣東人 嘉靖八年任

平士奇 萬州人 嘉靖十六年任

鄧昂 南寧人 嘉靖十六年任

王廷元 德慶人 嘉靖十七年任

凌宗尹

劉繼賢 大浦人 嘉靖三十二年任

梁壑

蔣忠濟 衛陽人 嘉靖三十七年任

彭大治

陳三鸞 全州人 隆慶五年任

甘東陽 馬平人 隆慶五年任

周大器 恭城人 萬曆三年任

管大成

國朝

以後無考

知縣

李先聲 貴州人 康熙二十二年任

許文經 新寧貢生 康熙二十二年任

陳嘉謨 靈川貢生 康熙三十二年任

蒙上卿 融縣貢生 康熙三十八年任

張之彬 宜山貢生 康熙四十二年任

羅萬芳 全州貢生 康熙四十五年任

施堯勳 天河貢生 康熙四十九年任

蘇士珩 義寧貢生 康熙五十二年任

朱與讓 象州人 康熙五十八年任

何公受 柳州貢生 雍正元年任

崇善縣

明

楊楨 天順年間任

容森 成化年間任

太平府志

卷之二十九 職官

丁積 成化年間任

楊如 成化年間任

陳復 新會人 嘉靖五年任

龐一夔 未詳

彭旻 湖廣人 嘉靖十三年任

侯傑 四川人 正德八年任

蒲宗瑞 永明人 正德十三年任

高漢 鄞縣人 嘉靖元年任

趙壁 江西人 嘉靖十三年任

王正中 江西人 嘉靖十五年任

高冠 九江人 嘉靖十一年任

李鶴齡 山東人 嘉靖十七年任

陳景大 關縣人 嘉靖十一年任

李榮 麻陽人 嘉靖二十四年任

蕭廷奉 潮陽貢生 嘉靖三十年任

黃廷鳳 禮州人 嘉靖三十二年任

吳輔國 翁源人 嘉靖四十年任

徐宗靜 福建貢生 嘉靖四十四年任

何道臨 順德舉人 隆慶五年任

吳嘉言 湘陰人 萬曆四年任

霍悅 順德人 隆慶五年任

葉泰 福建人 崇禎元年任

張世涵 萬曆年任

楊洪功 浙江人貢生 崇正年任

楊師武 江西人舉人 崇正十五年任

譚聖謨 廣東人貢生 天啟年任  
鄧騰雲 廣東人舉人 崇正十年任

國朝

魯觀 四川人舉人 順治十七年任

李建極 河南寶豐人

鄭希瑜 福建人官生 康熙二十年任

李棟 順天人監生 康熙二十七年任

王言 江西新淦人由進士 康熙三十一年任見各宦

于澧 山東人由進士 康熙四十四年任

岳康 四川人舉人 康熙四十九年任

太平府志

卷之二十九 職官

周夢錦 福建寧化人舉人 康熙五十九年任 陞安陸府知府

周釋 湖廣潛江人舉人 雍正四年任

典史

程瑤 天順年 關任

胡海 成化年 關任

呂世光 廣東東莞人 嘉靖十九年任

陳居泰 福建吏員 嘉靖三十一年任

周穆

陳時泰 員高 嘉靖二十一年任

陳昉 天順年 關任

張彥燦 廣東吏員 嘉靖十年任

符椿 福建人 嘉靖十年任

江應期 嘉靖三十八年任

張琳 福建人 隆慶五年任

劉 肅 人

王世榮 浙江人 崇正年任

黃守信 陝西人 崇正年任

王楫 山東吏員 康熙十年任

王文品 北直人 康熙十年任

張德啟 浙江人 康熙五十八年任

張宏 直隸人 崇正元年任

六州

張 張 隆 江西人 崇正年任

韓 隆 江西人 崇正年任

黃 達 浙江人 崇正年任

程 勉 廣州人 崇正年任

李 彰 廣東人 崇正年任

李 欽 河南人 崇正年任

周 顯 廣東人 崇正年任

葉 逢 福建人 崇正年任

崔 鳳 江西人 崇正年任

蘇 于 廣東人 崇正年任

吳 壽 廣東人 崇正年任

袁 昌 廣東人 崇正年任

萬 木 丹徒人 崇正年任

陳 子 芳 福建人 崇正年任

劉 肅 人

王世榮 浙江人 崇正年任

黃守信 陝西人 崇正年任

王楫 山東吏員 康熙十年任

王文品 北直人 康熙十年任

張德啟 浙江人 康熙五十八年任

張宏 直隸人 崇正元年任

張 張 隆 江西人 崇正年任

韓 隆 江西人 崇正年任

黃 達 浙江人 崇正年任

程 勉 廣州人 崇正年任

李 彰 廣東人 崇正年任

李 欽 河南人 崇正年任

周 顯 廣東人 崇正年任

葉 逢 福建人 崇正年任

崔 鳳 江西人 崇正年任

蘇 于 廣東人 崇正年任

吳 壽 廣東人 崇正年任

袁 昌 廣東人 崇正年任

萬 木 丹徒人 崇正年任

陳 子 芳 福建人 崇正年任

江 何 人

國朝 太平府志 卷之二十九 職官

高珍 江西南豐人 拔貢 鄭向陽 江西金谿人 舉人

毛鶴騰 廣東博羅人 舉人 萬會宗 烈 江西樂安人 拔貢

蔣杞 江西南合山人 拔貢 楊繼顯 福建閩縣人 萬歷

方岱 江西南湖山人 舉人 萬歷 見名宦

蕭貽朔 萬歷四十年任 見名宦

晏日曙 江西人 舉人 天啟五年任 鍾萬化 江西南人 舉人 崇正三年任

李之清 江西人 舉人 崇正十年任 周崇信 廣東人 舉人 崇正十四年任

應守聖 江西南人 崇正十五年任 李開芳 陳掄定 劉 失名

程大邦 梁 失名 鄭 失名

徐啟新 奉天人 順治十八年任 王文昌 奉天人 順治十八年任

王敬祖 奉天人 順治十八年任 紀振邊 奉天人 順治十八年任

韓之屏 奉天人 順治十八年任 葉本穗 廣東人 順治十八年任

譚奇逢 廣東人 順治十八年任 李拱極 奉天人 順治十八年任

趙琦 奉天人 順治十八年任 劉正國 奉天人 順治十八年任

劉儼 景州人 順治十八年任 宋國楨 奉天人 順治十八年任

李銓 奉天人 順治十八年任 李天榮 奉天人 順治十八年任

羅士奎 山西人 順治十八年任 王國祚 奉天人 順治十八年任

吏目

王國祚 奉天人 順治十八年任

羅士奎 山西人 順治十八年任

古

卷之二十九 職官

廖 嘉靖三十八年任 葉世堯 廣東人 順治十八年任

桂士養 江西人 順治十八年任 熊 廣東人 順治十八年任

余良達 江西南人 順治十八年任 梁大逢 廣東人 順治十八年任

王朝節 廣東人 順治十八年任 吳 江西南人 順治十八年任

林裕 方仲宣 樓家棟 浙江人 順治十八年任

陳廷 北直人 順治十八年任 王天申 浙江人 順治十八年任

張立基 北直人 順治十八年任 劉聖澤 江西南人 順治十八年任

胡璋 浙江人 順治十八年任 姜際隆 山西人 順治十八年任

梁方圖 廣東人 崇正十四年任

梁方圖 廣東人 崇正十四年任

梁方圖 廣東人 崇正十四年任

梁方圖 廣東人 崇正十四年任

梁方圖 廣東人 崇正十四年任

梁方圖 廣東人 崇正十四年任

梁方圖 廣東人 崇正十四年任

梁方圖 廣東人 崇正十四年任

梁方圖 廣東人 崇正十四年任

梁方圖 廣東人 崇正十四年任

梁方圖 廣東人 崇正十四年任

梁方圖 廣東人 崇正十四年任

州

州

州

李先馨

泰城貢生康熙三十五年任

蘇源

梧州舉人康熙四十三年任

莫爾頤

平樂貢生康熙四十五年任

蔣景楷

全州舉人康熙五十年任

陳紹虞

靈川人副榜康熙五十七年任

唐燦

全州貢生康熙五十年任

蘇昇明

武緣貢生康熙五十六年任

鄧孝場

永寧貢生雍正二年任

卷之二十九

夫

七

知州

周曰冕 貢生康熙五十四年任  
周曰冕 貢生康熙五十四年任  
周曰冕 貢生康熙五十四年任

林廷輝 廣東人舉人成化十五年任  
陳文衡 福建人舉人成化十九年任  
羅爵 江西吉水人舉人宏治十八年任  
羅爵 江西吉水人舉人宏治十八年任  
萬應選 江西安福人舉人正德十年任

吳江 西人成化十五年任  
吳江 西人成化十五年任  
吳江 西人成化十五年任

何承 西人成化十五年任  
何承 西人成化十五年任  
何承 西人成化十五年任

張 福建人舉人嘉靖十三年任  
高廷瑜 嘉靖二十年任  
周 福建人舉人嘉靖三十九年任  
嚴 嘉靖三十九年任  
孫 嘉靖三十九年任  
王之緒 嘉靖三十九年任  
葉朝榮 嘉靖三十九年任  
馬之倪 嘉靖三十九年任  
劉慶齡 嘉靖三十九年任  
彭學沂 嘉靖三十九年任

周 福建人舉人嘉靖三十九年任  
嚴 嘉靖三十九年任  
孫 嘉靖三十九年任  
王之緒 嘉靖三十九年任  
葉朝榮 嘉靖三十九年任  
馬之倪 嘉靖三十九年任  
劉慶齡 嘉靖三十九年任  
彭學沂 嘉靖三十九年任

周 福建人舉人嘉靖三十九年任  
嚴 嘉靖三十九年任  
孫 嘉靖三十九年任  
王之緒 嘉靖三十九年任  
葉朝榮 嘉靖三十九年任  
馬之倪 嘉靖三十九年任  
劉慶齡 嘉靖三十九年任  
彭學沂 嘉靖三十九年任

周 福建人舉人嘉靖三十九年任  
嚴 嘉靖三十九年任  
孫 嘉靖三十九年任  
王之緒 嘉靖三十九年任  
葉朝榮 嘉靖三十九年任  
馬之倪 嘉靖三十九年任  
劉慶齡 嘉靖三十九年任  
彭學沂 嘉靖三十九年任

王乾德 江西南昌人舉人嘉靖三十九年任  
楊家鼎 廣東人舉人嘉靖三十九年任  
金國明 正黃旗人官生嘉靖三十九年任  
汪溶日 江南人舉人嘉靖三十九年任  
金依堯 江西南昌人舉人嘉靖三十九年任

何承

何承 西人成化十五年任  
何承 西人成化十五年任  
何承 西人成化十五年任



正三年任

吳紳 治十年任

楊敦 豐城人正德十三年任

江相 徽州人嘉靖二十一年任

羅鑑 穎州人嘉靖三十二年任

甘承慶 陝西人嘉靖四十三年任

知州

唐東旦 江西舉人萬曆二十七年任

趙從誼 福建舉人萬曆二十九年任

汪守位 陝西貢生萬曆二十九年任

周三台 浙江舉人崇正間任

梁昌 廣東舉人崇正間任

劉體仁 廣東人貢生崇正間任

國朝

尚恒 直隸人順治十六年任

邊大文 北直隸人進士康熙九年任

吳尚庚 江南人貢生康熙十八年任

許延邵 浙江武康人進士康熙二十三年任

柯法 連東人監生康熙二十九年任

徐隆 浙江人正德五年任

蔡華 江西人嘉靖十五年任

林應詔 武崗人嘉靖二十七年任

易佩 縣人嘉靖三十九年任

劉昊 江西南昌人萬曆二十五年任

葉時敏 福建舉人萬曆三十三年任

尙呈圖 貴州舉人萬曆三十四年任

李際春 廣東舉人天啟間任

李喬春 江西人舉人崇正九年任

徐美 江西人貢生崇正間任

趙森 奉天人康熙四年任

孟禮 正黃旗人康熙十年任

王瑚 旗人監生康熙二十一年任

蔣國楨 旗人康熙三十六年任

徐樹庸 江南崑山人進士康熙四十四年任

張琦 旗人康熙五十二年任

江表 湖廣人副榜康熙六十年任

侯震 治十年任

陳寬 莆田人嘉靖十三年任

蔡偉 嘉靖二十四年任

侯震 治十年任

歐文直 治十年任

譚廷玉 廣東人嘉靖二十三年任

李材

葉真 江南人康熙三十八年任

周漏 浙江人貢生康熙四十七年任

李秀發 江南人監生康熙五十五年任

張琦 旗人康熙五十二年任

侯震 治十年任

陳寬 莆田人嘉靖十三年任

蔡偉 嘉靖二十四年任

侯震 治十年任

歐文直 治十年任

譚廷玉 廣東人嘉靖二十三年任

李材

國朝

傅應昌 康熙二年任

周祉 江南人康熙二十一年任

胡貢瑜 河南人康熙二十三年任

丁堯瑞 浙江人康熙四十年任

沈玉瑜 浙江人康熙五十年任

楊著 直隸人康熙五十七年任

倪國珍 順天人雍正三年任

張星 北直人康熙七年任

劉春光 河南人康熙二十六年任

劉文玉 北直人康熙三十六年任

范琨 浙江人康熙四十七年任

袁之斌 浙江人康熙五十九年任

袁之斌 浙江人康熙五十九年任

鍾從政

鍾國光

呂學聖

方養賢

國朝

傅應昌 康熙二年任

周祉 江南人康熙二十一年任

胡貢瑜 河南人康熙二十三年任

丁堯瑞 浙江人康熙四十年任

沈玉瑜 浙江人康熙五十年任

楊著 直隸人康熙五十七年任

倪國珍 順天人雍正三年任

張星 北直人康熙七年任

劉春光 河南人康熙二十六年任

劉文玉 北直人康熙三十六年任

范琨 浙江人康熙四十七年任

袁之斌 浙江人康熙五十九年任

袁之斌 浙江人康熙五十九年任

鍾從政

鍾國光

呂學聖

方養賢

何圖呈

何其高

陸景龍

國朝學正

張居竣 桂林人 康熙九年任

蘇源 梧州舉人 康熙二十八年任

蔣如昇 全州舉人 康熙四十三年任

朱若夷 陽朔舉人 康熙四十九年任

何器 象州拔貢 康熙五十五年任

朱公裳 臨桂副榜 康熙六十一年任

訓導

李耀宗 宣化歲貢 康熙四十五年任

韋至人 賓州歲貢 康熙五十五年任

謝明英 全州舉人 康熙二十五年任

蒙帝聘 北流 康熙三十九年任

唐樞 興業歲貢 康熙四十七年任

黃尹 永淳歲貢 康熙五十二年任

李枳 宣化舉人 康熙五十七年任

黎達可 平樂歲貢 康熙五十一年任

莊以位 興安歲貢 康熙六十年任

太平府志

卷之二十九 職官

太平府志卷之二十九終

太平府志卷之三十

職官二

思明土府同知

明

劉以昌 江西監生 景泰二年任 見名宦

陳璣 全州人 舉人 成化十年任

姚璧 浙江進士 成化十一年任

王添貴 湖廣監生 宏治五年任

姚澄 福建舉人 正德三年任

郭綬 廣東人 舉人 正德十三年任

金世盛 廣東人 舉人 嘉靖六年任

蘇日登 廣東人 舉人 萬曆三十三年任 見名宦

徐逢春 福建人 萬曆三十九年任

劉朝昇 崇正五年任

夏淳 湖廣人

朱崙 湖南舉人

汪起英 江西人

吳元正 湖廣舉人 宏治九年任

張煥 江西人 進士 正德十二年任

歐讓 廣東人 舉人 正德十六年任

王一岳 廣東人

朱鳴時 萬曆三十七年任 見名宦

林夢弼 萬曆四十四年任 見名宦

李喬春 江西人 舉人 崇正十年任 見名宦

國朝

潘光先 南海舉人 順治十六年任 見名宦

張思房 四川人 順治三年任

王之仕 廣寧人 廕生 康熙八年任 見名宦

鄭之楨 江南人 進士 康熙十三年任

李山齡 江南人 康熙二十年任

謝樞齡 山西人 進士 康熙二十三年任 見名宦

傅澤深 奉天人 康熙三十年任

李國瑜 陝西人 拔貢 順治十八年任

李郁光 河南人 拔貢 康熙七年任

蕭如之 正黃旗 廕生 康熙十年任

龔鵬 江南人 康熙九年任 見名宦

郭象雲 正紅旗 人 康熙二十年任

陳達 江西人 曾修學官 康熙二十五年任

賈樸 浙江人 監生 康熙三十六年任

姚際離 江南人貢生康熙四十年任

朱文喜 浙江人監生康熙四十六年任

白洵 奉天人康熙五十年任

曹士璋 浙江人舉人康熙五十六年任

潘禕 陝西人舉人雍正二年任

明

彭顏

譚文敬

胡鳳翔

楊懷德

陳謙

吳應詔

沈光鉉

焦象賢

潘大德

崔上煥

董天運

徐一清

李如桂

郭鳳起 奉天人康熙四十四年任

王以豐 白旗人監生康熙六十年任

王廷家 江南吳縣人雍正四年任

何朝聽

趙章

何謙

何濱

譚英

陶侃

單寧

汪恭

陸制

江慧民

程斯道

張敬疇 已上籍貫年代俱無

楊國琰 山西人順治十八年任

尚統宗 北直人康熙八年任

臧翹 南州人康熙二十年任

徐爾進 江南人康熙二十四年任

李公大 宛平人康熙三十四年任

鮑士信 浙江監生康熙三十七年任

張瑜 湖廣人康熙四十五年任

太平府志

卷之三十一 職官

二

明

池繼淵 福建人降附康熙五十年任

張豸 江南人由知縣陞調康熙五十五年任

王道通 順天人雍正三年任

教授

蔣名 萬曆四十六年任

尹升俊 崇正三年任

梁衍洙 崇正十年任

何夢熊 崇正十年任

蘇文昌 陽朔人順治十八年任

滕召 宣化人康熙十八年任

伍文海 全州人康熙十一年任

李之珩 蒼梧人康熙十八年任

高熊徵 岑溪人順治十六年任

葉開運 上思人康熙四十二年任

葉燦 梧州人康熙五十年任

蔣如松 全州人康熙五十六年任

梁鳳朝 桂平人康熙五十四年任

黃飛熊 永淳人康熙四十五年任

謝揆 蒼梧人康熙五十四年任

李光輝 臨安人雍正三年任

李自麗 梧州人雍正四年任

國朝土司首領 雍正四年改爲州同

太平府志

卷之三十一 職官

三

麥瑄 平南人順治十七年任

郭運昭 宣化人康熙四十六年任

劉懋膺 全州人康熙五十二年任

陳廷藩 北流人康熙六十一年任

劉傳恭 桂平人康熙四十九年任

榮科 懷遠人康熙五十九年任

李自麗 梧州人雍正四年任



范之韓 浙江人 康熙十九年任

楊宏震 浙江監生 康熙三十一年任

陳 樞 江南監生 康熙四十四年任

張廷傑 浙江人 康熙五十五年任

成全 浙江人 雍正三年任

常應試 陝西人 康熙二十二年任

羅世澤 浙江人 康熙三十九年任

沈其真 江南監生 康熙四十九年任

馮光宅 直隸人 康熙五十九年任

安平州吏目 雍正四年改爲州判

孫光節 順天人 康熙十一年任

鄭顯高 河南監生 康熙二十八年任

沈汝寧 浙江人 康熙三十九年任

陳光聯 北直人 康熙四十七年任

太平府志 卷之三十 職官

徐平達 北直人 康熙五十二年任

胡有成 順天人 雍正元年任

萬承州吏目 雍正四年改爲州同

駱鳴珂 浙江人 康熙三十年任

戴之燮 浙江監生 康熙四十一年任

江 岐 江南人 康熙四十六年任

邵明瑜 浙江人 康熙三十五年任

陳守宏 浙江人 康熙四十三年任

孫二酉 江南監生 康熙四十七年任

何 智 北直人 康熙四十九年任

馬 銜 直隸人 康熙二十二年任

胡 任 浙江人 康熙三十二年任

王三植 浙江人 康熙四十二年任

柳 銓 浙江人 康熙五十二年任

劉堯章 直隸人 康熙五十九年任

張正美 江南人 康熙四十八年任

朱 仔 浙江人 康熙四十五年任

劉開宗 山東人 康熙三十二年任

毛瑜秀 康熙三十九年任

張 璟 康熙四十年任

周家相 康熙四十年任

薛 堯 河南人 康熙五十二年任

吳吉士 江西人 康熙五十九年任

龍英州吏目 雍正四年改爲州同

樊從師 陝西人

倪人瑞 浙江人 康熙二十三年任

何耀祖 陝西人 康熙二十九年任

王振鎬 江南監生 康熙四十年任

薄純厚 北直人 康熙四十八年任

葉元徽 北直人 康熙五十七年任

杜九斌 山西人 雍正三年任

吳道宏 河南人 康熙六十年任

劉龍舉 湖廣人 康熙二十年任

蔡瑞生 浙江人 康熙二十六年任

呂 庚 順天人 康熙三十四年任

吳 漢 北直人 康熙四十三年任

王茂學 康熙五十年任

謝承茂 直隸人 雍正元年任

太平府志 卷之三十 職官

恩城州吏目

繆 燁 江西監生

劉允仁 浙江監生 康熙二十六年任

羅尚言 山西人 康熙三十二年任

袁 鼎 康熙四十年任

王業寬 江西人 康熙四十九年任

劉三傑 北直人 康熙五十七年任

王鳳飛 順天人 雍正二年任

黎士龍 廣東人 康熙四十八年任

第 斌 浙江人 康熙四十八年任

張德寧 康熙四十年任

楊名譽 北直人 康熙四十六年任

夏允滢 湖廣人 康熙五十九年任

阮 韶 浙江監生 康熙五十九年任

全茗州吏目

秦長發 浙江人 康熙八年任

陳邦華 直隸人 康熙二十年任

孫秀蘭 山西人 康熙二十六年任

陳允升 浙江人 康熙二十九年任

王政敏 江南人 康熙四十年任

張鼎 六年任

葉含香 山東監生 康熙四十八年任

丁友俊 浙江人 康熙五十二年任

劉瑛 順天監生 雍正二年任

趙連 江南人 康熙二十九年任

袁宏道 江南監生 康熙三十三年任

陳邦驛 浙江人 康熙四十四年任

石成芳 七年任

楊花 陝西人 康熙五十八年任

楊花 陝西人 康熙五十八年任

茗盈州吏目

王嘉蔭 河南監生

郭士望 德陽人 康熙二十一年任

李時泰 江西人 康熙三十三年任

朱鳳臺 浙江人 康熙四十年任

陳國棟 八年任

白瑞 北直人 康熙五十年任

俞紹彪 順天人 康熙六十年任

胡文鏡 七年任

張穆 福建人 康熙二十三年任

盧之序 浙江人 康熙三十五年任

張謙 湖廣人 康熙四十五年任

崔士元 北直人 康熙四十九年任

朱圻 江南人 康熙五十五年任

太平府志 卷之三十

信安州吏目

沈起蛟 浙江人

萬名顯 江西人 康熙二十六年任

唐堯佐 湖廣監生 康熙三十五年任

胡瑞皇 四年任

史煜 浙江人 康熙二十二年任

石岱 浙江人 康熙三十年任

石文儒 康熙四十年任

毛敏 北直人 康熙四十六年任

沈明嘉 江南人 康熙五十年任

馬鉉 直隸監生 康熙五十八年任

王德彰 順天人 雍正二年任

岑崑 浙江人 順天人 康熙五十九年任

張以寬 順天人 康熙五十九年任

薛士亨 順天人 雍正四年任

信安州吏目

楊名達 浙江人

鄒恩榮 湖廣人 康熙十九年任

劉源深 陝西人 康熙二十六年任

趙州收 湖廣監生 康熙二十一年任

鄭劉王 山東人 康熙四十五年任

周廷晟 浙江人 康熙五十二年任

劉進義 順天人 康熙六十年任

董英 順天人 雍正四年任

張鼎 江南人 順治十八年任

張朝榮 直隸人 康熙二十二年任

胡湘 浙江人

卜泰來 浙江人 康熙四十年任

薛士林 奉天人 康熙四十九年任

王世遜 浙江人 康熙五十六年任

葉通 山西監生 雍正二年任

都結州吏目

臧昶 浙江監生

曾玉 陝西人 康熙二十年任

朱之芳 順天人 康熙三十年任

楊錫祐 浙江人 康熙三十六年任

呂公輔 山西人 康熙四十四年任

屠元裕 順天人 康熙五十六年任

范正文 順天人 雍正三年任

魏世績 浙江人 康熙二十年任

張柱 陝西人 康熙二十七年任

萬綜 湖廣人 康熙三十五年任

潘廷賓 康熙四十年任

曹享慶 江南人 康熙四十九年任

胡紹銘 順天人 雍正元年任

思明州吏目

邢思智

胡英俊

張大成

沈溥

林士俊

石如珍

阮啓聲

下石西州吏目

太平府志

卷之三十一 職官

何一鳳

潘嵩祚

徐必達

林大恩

楊洪楨

時榮

慈祥州吏目

唐汝際

程謙豫

劉師儼

張其勳

周一陽

錢乘

高華顯

袁之焜

劉應芳

馬宗李

林麗明

張彩

馮延年

金玉

信九年

趙開吉

袁祖根

唐建第

張其勳

周一陽

錢乘

高華顯

袁之焜

劉應芳

馬宗李

林麗明

張彩

馮延年

金玉

信九年

趙開吉

袁祖根

唐建第

王興周

張大斌

楊世齡

杜體乾

王士美

陳兆頑

王啓琪

單永昌

陳茂文

沈錦鰲

劉自新

胡翰

張理

勞士榮

朱懋顯

何人龍

任毓茂

曹球

常念

何允文

王祐

潘法

王曰欽

李淑白

錢元偕

王興周

張大斌

楊世齡

杜體乾

王士美

陳兆頑

王啓琪

單永昌

陳茂文

沈錦鰲

劉自新

胡翰

張理

勞士榮

朱懋顯

何人龍

任毓茂

曹球

常念

何允文

王祐

潘法

王曰欽

李淑白

錢元偕

劉自新

胡翰

張理

勞士榮

朱懋顯

何人龍

任毓茂

曹球

常念

何允文

王祐

潘法

王曰欽

李淑白

錢元偕

八

太平府志 卷之三十一 職官

九

羅陽縣典史

諸宏基 浙江人 康熙七年任

羅奕秀 廣東人 康熙十八年任

梁瑞 廣東人 康熙二十八年任

蔣爾星 江南人 康熙三十一年任

勞守謙 浙江人 康熙四十年任

許大耀 北直人 康熙四十二年任

楊標 康熙四十年任

史起鎔 北直人 康熙四十七年任

汪士騰 江南人 康熙五十年任

周炳 浙江人 康熙五十六年任

續祿 山西人 康熙六十年任

倪鏞 順天人 雍正三年任

太平府志卷之三十三終

卷之三十三 職官

十

太平府志卷之三十一

職官三

新太營

恭將

胡鳳翔 河南武進士 萬曆三十年任

成大用 江南武進士 崇禎十二年任

張啟亨 江南人 順治五年任

安邦 順天人 順治十六年任

馬裕 陝西人 順治十七年任

王政純 遼東人 順治十八年任

謝宗孔 湖廣人 康熙元年任

崔文元 北直人 康熙八年任

蘇昇 陝西人 康熙九年任

馬成龍 陝西人 康熙十一年任

昂三 遼東人 康熙十九年任

趙國泰 康熙二十年任

太平府志卷之三十一 職官

孫朝選 浙江人 康熙三十年任

孟廷簡 陝西京州人 康熙三十五年任

黃龍 福建人 康熙四十年任

陳赤 江南武進士 康熙四十八年任

王起雲 陝西人 康熙五十年任

武綱 旗人 康熙五十四年任

蔡成貴 江南人 康熙五十八年任

鍾維嶽 江南人 雍正元年任

張箕節 寧夏人 雍正二年任

守備 余宗堯 順天人 順治十七年任

何應魁 河南人 順治十七年任

程邦

盧雲龍 陝西人 武進士 康熙二十二年任

劉如龍 陝西人 康熙二十七年任

魏相業 順天宣化府人 武進士 康熙三十二年任

吳紹儒 湖廣人 由武舉 康熙四十二年任

葛應正 江南人 由行伍 康熙五十七年任

李 朴 陝西人由行伍  
康熙元年任

張應鳳 北直人由行伍  
康熙六年任

劉明 康熙三十年任

劉大勝 本營行伍康熙  
四十五年任

楊鳳詔 陝西人康熙  
五十四年任

趙陞 由行伍康熙  
六十一年任

把總

李長清 陝西人由行伍  
康熙八年任詳名宦

鄭進 河南人康熙二十  
二年任

吳天祥 湖廣人康熙二十  
四年任

太平府志

卷之三十一 職官

周起泰 康熙二十年任

石龍 陝西人康熙  
三十七年任

王國臣 湖廣人

周定邦 貴州人康熙  
五十二年任

趙陞 河南人康熙  
五十六年任

梁錦 由行伍康熙  
六十一年任

糧廳管

守備

呂國學 江南人由行伍  
康熙六年任

張

方士鼎 浙江人武進士  
康熙三十七年任

鄭進 康熙二十年任

張明 康熙四十年任

莫維棟 柳州府人康熙  
五十三年任

王大貴 北直人由行伍  
康熙五十八年任

符相 廣東人由行伍  
康熙十年任

張明 康熙二十七年任

劉大勝 康熙三十年任

鄭星貴 本營行伍康熙  
四十二年任

周光祖 江蘇人康熙  
五十四年任

周惠 江西人由行伍  
康熙五十七年任

張進德 山西大同人  
康熙二十五年任

張文亭 河南人由行伍  
康熙四十九年任

李

張

張

張

張

張

常力行 山東蓬萊人由行伍  
康熙五十四年任

潘克演 宣化縣人由武舉  
康熙五十八年任

張汝霖 順天人由將材  
康熙九年在

寶繼昌 全州人由武舉  
康熙五十五年任

黃起蛟 平樂人由武舉  
康熙四十九年任

林秀 柳州人由行伍  
康熙五十七年任

楊琛 陝西人由武舉  
部推選

卓金茂 順天豐潤人  
康熙二十一年任

郭

辛德宏 山東人武進士  
康熙二十三年任

陳韶 廣東人康熙  
四十四年任

楊澤法 順天人武進士  
康熙五十二年任

納青 鑲黃旗人康熙  
五十八年任

馬明 陝西人由行伍  
康熙八年任

張宏謨 廣西人由行伍  
康熙五十五年任

思明土府州貼防把總

原未設官康熙五十一年同知白洵詳請設并防守每  
年左江鎮標撥弁駐之

太平府志卷之三十一終

陳治邦 江西新喻人由  
伍雍正三年任

程邦 陝西人康熙  
二十八年任

羅仲高 湖廣人康熙  
四十年任

趙奉 湖廣武陵人康熙  
四十四年任

周光祚 湖廣荊州人  
康熙五十四年任

馬良 福建人由行伍  
康熙六十一年任

吳天祥 康熙二十六年任

吳天祥

吳天祥

吳天祥

吳天祥

吳天祥

吳天祥

吳天祥

吳天祥

吳天祥

吳天祥

吳天祥

吳天祥

志卷之三十二

官

元

李維屏太平路總管為太平土官之祖愛民如子有害於民者悉去之時麗江數經兵燹民間子女多被擄掠維屏出資贖以歸之至元二十三年加昭勇大將軍陞廣西宣慰司宣慰使亦多善政郡人立祠祀之

趙鑑洪武五年由鬱林州知州擢知太平府清介自持愛民如子始終一轍郡民德之

陳惟德洪武二十八年來知太平府事時置郡之初百凡草

太平府志

卷之三十一 名宦

劉以昌江西大庾縣人由監生景泰二年任思明土府同知

時黃瑛黃錄構亂土知府黃鈞及其父瑠俱遇害人民驚竄以昌加意撫輯日民相率復業擒賊寘法民賴以安

何楚英字邦佐番禺人正統己卯舉人歷拜陝西道監察御

史天順初天變求直言疏陳四事皆切治體劾逆臣曹吉祥得罪下錦衣獄謫貴縣主簿歷陞柳州府知府丁內艱

成化十二年補太平府知府時太平城垣舊磚凋剝改整新石期于永固弭盜庇民民賴以安捐俸修學規制宏敞

凡公辦倉庫及諸壇廟次第修築事集而民不擾焉秩滿

西泰政

丁績化年間知崇善縣事創立社學招民間童子給廩

休未變隆至以禮導之民乃翁然嚮化漸有華風祀名宦

趙珪浙江人成化十九年知太平府事存心平易為政寬猛適中吏民悅服所屬尚酋令行禁止莫敢違犯

謝瑞廣東潮州人由進士宏治十二年知太平府事加意學校勸行月課親為講導以春秋為教經指授者累取科第至入太平春秋之學皆其教時上丁釋菜音樂未備瑚始製樂舞諸器令

太平府志

卷之三十一 名宦

羅喬江西吉水人由舉人宏治八年任養利州知州十八年再任凡州署壇廟

興祀名宦子洪先宏治十年生于州署嘉靖八年狀元

黃中才直隸廬江人由舉人宏治八年任太平府通判寬厚長者愛民如子于無遺無告者尤加矜恤民到今稱之

胡世寧字永清仁和人宏治六年進士正德十三年遷太平府知府太平地遠惡所領十五州縣皆土官異時守率利

共貨賄或輕極亂之土官謫守甲而不虐

私賄禮接之土官伏階下如中州長吏土官世寧絕其

長官吏索賄乃施行以故土勢終世寧令土官

土官死卽與保葬無他留難土官大悅服壺城三面阻江

惟北門外一路平陸無有闕隔時遭寇掠世寧檄諸土官

建關其上一時萬夫畢集工費數千金皆土官辦給關數

旬成太平州知州李璿素捷法無敢詰世寧密授計龍英

土知州趙元瑤立擒璿以獻思明叛族黃文昌等四世爲

逆殺其知府占三州二十七村累敗官軍總兵康泰與世

寧入思明城執文昌兄弟三人既泰恐見劫率兵夜遁委

世寧空城中而諸屬土官已預伏兵近山爲世寧防變卽

日張旗建鼓護世寧還文昌懼歸所侵地降未幾以母喪

去諸土官泣送數百里世寧後至兵部尚書諡端敏名山

明史稿

太平府志

卷之三十二 名宦

三

周墨太倉人由進士嘉靖三年任左州知州始捐俸營州署

建學宮慈惠多善政州人刻木肖像祀之于北山岩復祀

名宦

郭湍號凝波福建莆田人由舉人嘉靖五年任太平府通判

察民疾苦清除宿弊輕賦興學次第舉行時以思田構亂

撫按檄湍督餉飛芻輓粟盡心乃事時苦炎蒸卒于官郡

人立祠祀之子應聘巡撫廣西置祀田有記見藝文

葉逢陽福建人由進士嘉靖十四年任左州知州內從寬大

外尚嚴明秩滿去任祀名宦事實無考

鄭公奇福建莆田人由進士嘉靖十六年知太平府事性剛

行廉出以公恕諸所處分民彝服之時太平西隅故地

龍州人盟弱公奇建白當道遷崇善

縣附郭取復龍州侵地一十八村隸之規模始壯民賴以

安尚議盡復太平四隅所失故地以疾卒于官

江一桂字白石新安人由舉人嘉靖十六年知太平府事時

交夸莫登庸蠢動世宗命毛伯溫征之伯溫計先遣使往

諭一桂請行登庸乃稱臣築受降城建昭德臺於鎮南關

以壯邊防上嘉其績進階亞中大夫及卒諸夸創柶柳祠

於關內祀焉嚴從簡殊城周諸錄

鄧體靜廣東順德人由舉人嘉靖二十七年任左州知州首

重學校重修學宮愛恤士類公餘流覽山水借以訪察民

隱諸弊悉革在任五年政簡刑清祀名宦

太平府志

卷之三十二 名宦

四

甘東陽馬平人隆慶五年任太平府學訓導學問淹博工文

詞纂修府志出其手

萬木江南丹徒人由舉人萬歷元年任左州知州修建學宮

禮士愛民仁聲大著

王之緒雲南臨安人由舉人萬歷三年任養利州知州鼎建

學宮重修州署四時季考如意作人革去陋規祀名宦

葉朝榮福建福清人由恩貢萬歷十一年任養利州知州整

石修城引水灌田尤加意人才建立社學革除供給陋規

萬歷十五年子向高入相特進上柱國祀名宦

楊繼顯福建閩縣人由舉人萬歷二十三年任左州知州政

多慈惠興學有材月勸考課多所成就祀名宦

劉吳江西南昌人由舉人萬歷二十五年知永康

地方一里編戶一箇舊治阻山多瘴前令率多畏避

宣化縣地遙理縣務吳精地理周視縣屬得那陽村地形

如飛鳳展翅氣脉自西承州蜿蜒數十里而來至此開張

背負大嶺面臨綠蕩江山環水繞風氣完固率民遷建縣

治居之公私稱便二十七年思同州土官黃天賜故絕許

請其地歸縣管轄分田起稅更俗化民煥然改觀尋因縣

陞為州改調藤縣政績益著

方岱江南蕪湖人由舉人萬歷二十七年任左州知州捐置

學田千奈村思崖二處年例收租六十石散給諸生以養

膏火士林賴之

毛鶴騰字翰伯廣東博羅人萬歷甲午舉人初任天台縣轉

領州府判署府事以挫抑權要左遷左州知州署崇善縣

事遷上石西州廉介骨鯁所至育士愛民皆建專祠祀之

蘇日登廣東人由舉人萬歷三十三年任思明土府同知首

詳建學捐貲三百兩倡之尋陞桂林府同知祀名宦

葉時敏福建人由舉人萬歷三十三年任永康州知州時州

治初創諸制未備時敏至乃繕以土垣周三百餘丈捐俸

起造公署詳請立學創建殿廡明倫堂及諸社學士民始

有絃誦聲廉潔慈惠士民至今稱之

朱鳴時萬歷三十七年任思明土府同知前任蘇日登捐建

銀三百兩存府以工料不敷尚未興役鳴時請於

劉庭蕙出南寧府庫銀三百兩益之修建規模宏敞郡人

德之祀名宦

王泌廣東興寧人由貢生萬歷四十四年任養利州知州初

州多曠土泌至教民開墾引隴幔之水疏為靈陂時其蓋

洩以資灌溉民賴其利日以殷饒捐修文廟公解百廢畢

舉祀名宦

林夢弼萬歷四十四年任思明土府同知時學校甫建夢弼

請以四寨六團田給師生充俸餼四寨民犢難馴舊私其

利者又以計煽之使抗不受漢官約束夢弼召集父老備

陳利害禍福民忻然聽命立碑府前及四寨境上以垂永

久通學德之祀名宦

李友梅貴州人由舉人天啓元年知太平府事在任八年多

善政民立祠祀之事實無考

李喬春江西人由舉人崇正九年任永康州知州以地連土

蠻醜類不時竊發因舊土城易堯以磚城周三百餘丈民

得安堵加意學校重修祠廟建設分司諸廨舍在任一年

廉能大著陞思明府同知

李柳湖廣人由舉人崇正十年知太平府事在任六年勤郵

民隱政多慈惠郡民立祠祀之事實無考

梁方圖懷集人崇正十四年任左州學正倡修學宮躬勤訓

課講學不倦督學黃景明日吾道在子矣粵俗父母之喪

停數十年不葬方圖力自上官請重其罰一時就葬者以

太平府志 卷之三十一 名宦 五

太平府志 卷之三十一 名宦 六



數萬計後攝太平府學以俗尚火葬方圖刊布家禮四訓約要一書教之民皆感化

國朝

遲焯號藜生正白旗人由貢生順治十六年知太平府事

關羨蕪招集殘子建署立學化民造士郡屬賴之

潘光先奉天人順治十六年任思明府同知時地方初闢

先招集士民入城悉心綏撫明年三崗黃京構亂監軍勦

捕境以獲寧

趙森奉天人由貢生康熙四年任永康州知州時兵燹之餘

民戶逃散田悉荒蕪森加意招撫哀鴻畢集捐給牛種

墾荒田額賦無缺歲歉出粟賑飢多所全活秩滿陞

太平府志 卷之三十二 名宦

七

平陽府同知

高不矜山東濰縣人由拔貢康熙五年擢知太平府事廉

剛正屬員多敬憚之與利革弊愛民禮士有古循吏

屢遭水火災每給銀米計口賑濟季考月課生童

列以示獎勵多所成就在任十三年凡文廟祠壇

池悉捐俸修葺士民立祠祀之

李長清陝西人由行伍康熙八年補新太營把總時文武

協幾至生變清結心腹陰為解散當吳逆之叛逃

舉匿郡城中潛謀不軌知府高不矜按以罪

偽將軍劉某受偽劄引兵數百勾通

清探得實白諸文武大吏有領心腹

夜逃... 趙龍井各山遙望關上有信哨馬絡繹

王之仕廣寧人由廩生康熙八年任思明土府同知留心民

瘼興盜安民皆有成法存留學用銀六百餘兩交土官黃

戴乾建學士林賴之明年陞鶴慶府知府

黃曆福建同安人康熙十八年任養利州知州時遭吳逆之

變偽將軍劉某兵圍州城屠與新太營守備固守被困突

圍而出身受重傷猶斬賊將數人以陞橋被執卒于難

龔鵬字... 江南人自初監康熙十九年任思明府同知時

甫離... 勞來安... 給莊田以昇學校動行月課士林

太平府志 卷之三十二 名宦

八

謝樞齡字健行山西安邑人由進士康熙二十三年任思明

府同知潔已愛民革去同泰臺蓋陋規舊例安南貢使致

關左江道南大兩知府及新太營察將俱先期至府駐劄

皆係地方供應樞齡設法買辦印簿又減去人夫民得

息至今德之

許延邵浙江武康人由進士康熙二十三年擢知永康州

介諸土酋中地狹民寡時見侵掠二十八年陀陵縣黃姓

土官故絕延邵請其併入本州勢力始大

賴以安捐修文廟

之

高... 字... 漢人... 業中順...

庚子副榜康熙十三年吳逆構亂孫延齡叛據廣西遠近震懼熊徵擬平滇三策并討吳三桂檄文上總督金光祖六月梧州失守偽鎮吳鳳破岑溪奪縣印偽總兵陳士龍統兵駐岑欲東侵廣東能徵勦邑紳士鼓勵鄉勇斬士龍復岑溪八月遊擊唐鳳鎮岑延熊徵共商機宜屢破賊兵擒斬偽總兵林萬勝孫雲客等十四年冬總督金光祖失利于儒洞檄調唐鳳往援熊徵因棄家同赴肇慶後又與鳳破賊于封川擒偽總兵吳天偉十七年春撫蠻滅寇大將軍傅宏烈恢復梧州署熊徵團練同知十八年補授桂林府教授倡議修建桂林府學臨桂縣學及宣成書院聚生徒教習二十六年調思明府學倡修學宮創學署建書

太平府志

卷之三十一

九

院條正風俗五事身為講勸陋俗以革三十九年陞并陘縣知縣會廣西巡撫彭鵬廉知熊徵守城破賊事特疏薦之遂以平滇策討逆檄宣付史館時熊徵令并陘纔五月起擢兩浙鹽運使在官多惠政四十五年卒熊徵為人明達敢言為文不事雕飾達意而止所著有郢雪齋前後集

思明府志

安南紀畧等書

溶日字鏡水江南六安人由拔貢康熙三十年任養利州知州招集流亡修葺學宮公署重纂州志士民德之

巨號兩峰江西新淦人由進士知馬平縣事康熙三十一年調知崇善縣洞察積弊痛革陋規廉介慈惠吏畏民安

以前任舊案呈誤部議革職巡撫彭鵬特薦擢陞宛平縣

知縣

黃鍾江南休寧人由貢正康熙三十四年知太平府事廉明慈惠禮士愛民一切應行事宜次第興舉甫半年以丁艱去未終厥績民甚惜之

丁澧山東人由進士康熙四十一年知崇善縣事廉明剛正決斷如流訟無滯獄以行取去任民甚思之

樹庸江南崑山人由進士康熙四十四年知永康州事捐貲修學造士恤民有古循吏風行取內陞歷拜監察御史起雲陝西人康熙五十三年任新太營參將時有萬承州徭兵之變起雲提兵救之卒于難

太平府志

卷之三十二

十

太平府志卷之三十二終

太平府志卷之三十三

土司志序

兩江谿洞舊為荒服唐貞觀中諸彝內屬始置羈縻州隸都  
 府以其首領為刺史宋參唐制析其種落大者為州小者  
 為縣又小者為崗推其雄者為首領籍民為壯丁以藩籬內  
 郡其蠻長皆子世襲分隸諸寨總隸於提舉司元豐以後崗  
 蠻長多寄內地納粟授官官得至大小使臣或敢詣闕陳利  
 害至借補閣職與帥抗禮為招馬官者尤與縣相狎子弟有  
 入邕州應舉者招遊士多設耳目州縣文移未下已先知之  
 居室輿服僭擬公侯其州縣雖曰羈縻然租稅不供威令不  
 行寨官非惟墮不舉職且日定崗官之門握手為市提舉官  
 太平府志 卷之三十三 土司志序

亦不復威重與之交關通賄賂間有自愛稍欲振拔者諸崗  
 必共汙染之使以罪去甚則醜焉元以兩江羈縻州縣俱屬  
 南寧帥府分司管轄而上下相通姑息尤甚彝俗怨于管轄  
 往往侵盜邊境莫之能制明初兩江土蠻東派交關西緣牂  
 牁際滇之廣南莫不納土歸款願貢方物乃因舊疆稍稍增  
 省置各府州縣于其長吏以世及之典外銓流官佐之郡有  
 丞州有目削絕者始以流官代焉大都包荒受之羈縻勿絕  
 而已但在明初諸土官奉約束一徵召惟恐後時正統以後  
 吏道雜而多端中涓武弁視土官為外府而墨吏以漁獵收  
 之卽襲一職文移輾轉未有不以賄行者故土司怨怒多不  
 用命視文告若土苴徵發不時至又其權足以專生殺財地

以後上供威尊命賤諸部落莫敢仰視僭上虐下所在多心  
 漸成尾大不掉之勢議者欲倣漢主父偃諸侯王襲封之議  
 令得推恩羣子弟計土均分以弱其力庶可令無邪心而易  
 使以義然有明之世武備廢弛凡有徵發皆藉土司之兵以  
 克敵故土司日益驕縱而我別無以制其命欲更置之不可  
 得也

國家定鼎令之以文齊之以武左右兩江各設大帥駐之宿以  
 重兵諸要害地皆有偏裨分守營壘相望奸無所伏間有竊  
 發勦捕立盡無取土司之兵故諸土司奉法唯謹罔敢干戾  
 蓋威德之勝于前代遠矣惟其行事甚忠敬篤于仁義以輯  
 和其民藩衛內地者斯能保世以勿替其有作奸犯科輒付  
 太平府志 卷之三十三 土司志序

有司逮之坐法殄世  
 命討無私咸其自取史遷曰觀所以得尊寵及所以廢辱亦當  
 世得失之林也志土司

志卷之三十三

上官承襲例

明洪武二十六年例廣西土官承襲務要驗封司委官體勘別無爭襲之人明白取具宗圖并官吏人等結狀呈部具奏照例承襲正德初令極邊有警地方暫免赴京餘各照舊嘉靖七年例土官病故其應襲兒男查勘無碍止令以官男孫名色就彼襲替權管地方俟著有功勞然後授以冠帶俟功勞再者然後授署職俟功勞屢著然後實授本職嘉靖九年土官衙門造冊將現在子孫盡數開報某人年若干歲係某氏生應該承襲某人年若干歲某氏生

太平府志 卷之三十三 土司

係以次土舍未生子者候有子造報願報弟姪者聽嘉靖二十八年例應襲土舍曾經調遣有勞者暫免赴京就彼冠帶署印管束彝民待後功勞顯著方許實授萬曆二十年三院會議土舍初襲照舊小帽管事三年後若守法奉公兵糧完足者給官帶至六年九年勞績愈彰漸次議加署職實授如有恣肆不檢仇讎構兵及錢糧兵馬負欠逾期追奪示罰仍立宗枝文簿印貯轄屬該道遇土官嫡妻生子限一月內具報該府報道註冊為日後勘襲左券以杜爭端萬曆二十二年例土官土舍一經援納假借衣冠生事擾民深為未便通行一體禁革萬曆二十四年例凡土官土舍告加納級等項一體嚴行禁革

本朝康熙初年例土官育子之日即令報流官轉報督撫存案其現在之子亦令照例報明

土司傳

太平土州其始祖李茂山東益都人宋仁宗時為邕州牙將守兩江地屢立邊功英宗治平間桂州守陸詵至邕召兩江尚首簡閱壯丁為飭邊計值太平安平二州尚首廢闕詵遂舉茂補治二州請印給之數傳至李興隆為元成宗時從湖廣行省右丞劉國傑征上思州蠻賊黃勝許有功陞太平路總管與隆卒子維屏繼尤多善政維屏卒子郭輔繼值元祚衰徵上思賊黃英衍者即勝許孽族統眾襲戒奪路印自行總管事郭輔無援與弟郭祐退保太平安

太平府志 卷之三十三 土司傳

平地及明太祖與其子以忠獻地歸附乃給印授世襲太平土知州洪武四年以忠得罪削職子泰襲泰死子鐸襲鐸子永樂間舉兵殺安平知州李顯事聞逮治充南寧衛軍以其子穀襲殺死子瑤襲瑤死子琿襲琿妻岑氏生子琛瑋妾王氏生子丹王欲立己子因譖于琿遂誣琛以不孝逼走安平以瑋攝州事後琛瑋既雪分當襲稱兵拒之知府胡世寧正瑋罪琛得襲琛生二子長曰松次曰栢松未襲而死松子芳襲芳死子大經襲大經無嗣琛次子栢襲栢死子應春襲應春死子萬秋襲萬秋死子國長襲國長無嗣叔萬季襲萬季死子恩祖襲恩祖死子繼堯襲繼堯死子開先襲等以罪廢其弟開錦襲開錦子

國朝順治十六年投誠仍于舊職及死子元翰訖翰死子  
笛襄籍在任多善政愛養士民約束兵目絕派飲禁仇殺  
地方寧謐實土司中賢員巡撫宜思恭薦之格於部議提  
督韓良輔廉其賢時加獎賞知府甘汝來初抵任即謁見  
特加優異不以土司相待巡撫李紱親書南土賢牧之額  
賜之以示獎勵籍雖土官深疾土司積習著土司說鈴及  
變風諸篇頗有見地後以疾乞休子璋襲

安平土州其先世李郭祐與太平州李郭輔兄弟也為上思  
州賊黃英衍所襲退保太平安平地明洪武初郭祐與郭  
輔子以忠獻地歸附授安平土知州使守交趾各隘給印

世襲郭祐死子賽都襲賽都死子文貴襲文貴死子顯襲  
太平府志 卷之三十三 土司傳 二

顯為太平土官李鐸所殺無嗣弟華襲華死子森襲森死  
子齊襲齊死子植襲植死子源襲源死子樽襲樽死子天  
曠襲天曠死子承宗襲承宗死子明岱襲明岱無嗣弟明  
魯襲明魯死子長泰襲長泰無嗣弟長亨襲長亨子

國朝順治十六年投誠仍于舊職及死子子定襲子定死子  
蚤襲蚤居官安靜地方無科派仇殺之事雍正三年舉行  
大計總督孔毓珣巡撫李紱訪實同田州土知州岑應祺薦  
舉卓異部議不准嗣奉

特旨照流官卓異例賞以朝服蟒袍一時榮之

恩城土州其始祖趙仁壽山東益都人宋皇祐間隨狄武襄  
征儂智高有功授土知州職先是恩城分為二州元

一聞下州土官廢絕遂併為一州以趙雄傑守之明洪  
雄傑舉州歸附乃授職給印子世襲以流官吏目佐  
傑長子智顯末襲死次子智輝借襲智輝死兄智顯  
惠襲福惠死子存宜襲存宜死子忠順襲忠順刑家  
以舉鄉飲大賓及死子明襲明死子鑑襲鑑死子彭年  
彭年傳繼英繼英傳朝籍為郡庠生後襲職有善政以  
德著朝籍傳芳聲芳聲傳應機應機傳應極應極傳貴  
於百彭年至應極未詳其世系

國朝順治十六年貴炫之子東垣投誠于舊職東垣死子康  
平府志 卷之三十三 土司傳 四

永土州舊名萬陽唐置萬承萬形二州宋省萬形入焉隸  
太平寨元隸太平路明洪武初土官許郭安歸附授世襲  
知州設流官吏目佐之永樂間征交趾死於軍子永誠襲

永誠死子奎襲奎死子榮宗襲榮宗死子營襲營無嗣以  
榮嵩孫世忠襲世忠長子文盛以罪死次子文昌襲文昌  
死于軍弟文茂襲文茂無嗣親族文鈺襲文鈺死于國難  
襲屢立軍功及死子大政襲大政死子祖與襲祖與死子

嘉鎮襲嘉鎮子  
國朝順治十六年投誠于今職及死子鴻業襲鴻業死子嗣

昭襲嗣昭無子弟嗣麒麟襲

龍英土州始祖趙世賢州之望族也洪武二十八年州官與  
奉議向武都康等州作亂朝命都督楊文帥師征之十月

世賢率眾納款乃給印授世襲土知州割上懷州地

世賢無嗣弟世忠襲世忠死子武威襲武威死子崇彬襲

崇彬死子文榮襲文榮子萬寧未襲死以其子元匡襲元

匡無嗣弟元瓚襲元瓚亦無嗣弟元瑤襲瑤生三子長彥

澄次彥麒季彥麟元瑤先已立澄既而廢之立麒澄忿怨

據信懷尚瑞以兵攻之為澄所敗澄遂入州治事瑤竟為

所制以志死麒愬于督府坐澄以幽父致死刑而彥麒

以爭襲啓蒙下獄死于是以彥麟襲焉彥麟有軍功既

子邦興襲邦興亦有軍功無嗣弟邦襲邦死子政

襲政立死無嗣弟政舉襲政舉子繼宗未襲死其子蔭

蔭昌為族人繼祖所殺無嗣以從祖邦顯子廷耀襲

志 卷之三十三 土司傳 五

死子有鼎襲 順治十六年有鼎投誠子今職有鼎死子振綱襲振綱

加子炳襲炳死子作晉襲 順治十六年有鼎投誠子今職有鼎死子振綱襲振綱

用其始祖李德卿山東青州人宋皇祐二年隨狄武

用其始祖李德卿山東青州人宋皇祐二年隨狄武

知州職給印子世襲鐵釘死子復襲復死子子

子實死子懋齡襲懋齡死子東襲東無嗣 華襲華

子萬青襲萬青無嗣弟萬榮襲萬榮無嗣以弟萬和子

子襲顯奇死子世興襲世興死子時嬌襲時嬌死子伯

子伯椿死子長青襲長青死子承基襲承基死子應春

順治十六年庚春投誠子今職應春死子

死子天裔襲天裔以罪死無嗣叔頭鼎襲頭鼎以攻乞休

子天裔襲

全若土州其始祖許文傑山東青州人宋皇祐間隨征偃寇

有功分立州治為土知州明初土官許添慶舉州歸附授

知州職給印世襲添慶死子武學襲武學死子誠襲誠死

子均玉襲均玉死子勝安襲勝安無嗣以姪榮高襲榮高

子德瑛未襲死以其子金襲金死子福海襲福海死子國

豐襲國豐死子萬冕襲萬冕死子家感襲

國朝順治十六年家麟投誠子今職家麟死孫邦顯襲邦顯

死子以桓襲 太平府志 卷之三十三 土司傳 六

結安土州先世祖山東青州人宋時隨征有功分立州治為

土知州至明初土官張榮舉州歸附授職給印世襲任

榮死孫伯綱襲伯綱無嗣弟伯通襲伯通死子文貴襲文

貴死子威顯襲威顯死子世忠襲世忠無嗣服弟世瑚襲

世瑚子淳保當襲為奸目所殺州民保族人惠聰襲又為

族人所殺乃以張貴子圖襲圖死子紹宗襲紹宗無嗣二

支張護襲護死子倍襲倍死子瑚襲瑚死子墩寶襲墩寶

死子鈺襲鈺死子現襲現死子鵬襲鵬死子國輔襲國輔

死子邦泰襲邦泰無嗣弟邦興襲 國朝順治十六年邦興投誠子今職邦興死子天祚襲天祚

死子廷翰襲

其始相馮山東青州府人宋皇祐間

知州職明初馮萬傑舉州歸附二年仍授舊職

印世襲萬傑死子志威襲志威死子永高襲永高有罪

子崇富襲崇富死子紹玠襲紹玠死子奎襲奎死子萬福

襲萬福無嗣姪晏襲晏子珣未襲死目民保珣子日翔襲

為晏庶子璣所殺目民抱日翽之子壽慶懇于司府乃以

壽慶襲壽慶死子承恩襲承恩死子夢龍襲夢龍死子有

光襲有光死子天寶襲天寶死子嘉猷襲嘉猷死子德蔭

襲

國朝順治十六年德蔭投誠子今職德蔭死子世英襲

郁結土州始祖農威烈明洪武初以州長率眾歸附授土知

太平府志 卷之三十三 土司傳 七

州職給印世襲威烈死子永隆襲永隆死子得安襲得安

死子富毅襲富毅死子廣寧襲廣寧死子惠忠襲惠忠無

嗣姪福高襲福高死子萬真襲萬真死子希文襲希文死

子國寶襲國寶死子叔希孔襲希孔死子國琦襲國琦死

子廷爵襲廷爵死子嗣弟廷祿襲廷祿無嗣弟廷封襲

國朝順治十六年廷封投誠子今職廷封死子應倫襲應倫

死子天雄襲天雄死子建業襲

鎮遠土州始祖趙昂昇山東青州人宋皇祐五年隨征有功

分立州治為土知州傳至明初趙勝昌以州歸附投舊職

給印世襲勝昌死子德興襲德興死子富毅襲富毅死子

廷爵襲廷爵死子嗣弟廷祿襲廷祿無嗣弟廷封襲

相襲君相死子人偉襲人偉死子秉基襲秉基死子匡寧

襲匡寧無嗣伯秉業襲

國朝順治十六年秉業投誠仍子世職秉業死子永康襲永

康死子長通襲長通死子昌齡襲

陽土縣其始祖黃東堂山東青州人于宋皇祐五年隨征

有功分授土知州職傳至明初黃宣舉地歸附乃給印授

職子世襲黃宣死子通襲通死孫敬仁襲敬仁死子景純

襲景純死子鈺麟襲鈺麟死子昂襲昂未故子金彪奪襲

金彪以強惡亂倫下獄死子獄襲獄死兄珮襲珮死子志

高襲天爵繼之天爵死子啓祚襲

國朝順治十六年啓祚投誠子今職啓祚死子運襲襲運與

太平府志 卷之三十三 土司傳 八

死子世康襲世康死兒世瑛襲

上下凍土州其始祖趙帖從出自龍州土官之裔元至正二

十年帖獲上下凍土州有功遂併州為上下凍州命帖

從守之興武元年帖從舉州歸附給印世襲知州帖從死

子福瑀襲永樂四年征交趾福瑀死子軍子慶昌襲慶昌

無嗣弟元禮襲元禮死子廣勝襲廣勝死子世珍襲世珍

死子文興襲文興死子元恩襲元恩死子繼英襲繼英死

子廷璽襲廷璽無嗣弟廷美襲廷美死子顯忠襲顯忠無

嗣族人趙鄧襲鄧死子邦麟襲邦麟死子夢璧襲夢璧死

子應錫襲

國朝順治十六年應錫投誠子今職應錫死子秉祿襲秉祿

殺官庶兄秉桓襲秉桓死子東相襲

思明土州其土官黃姓與思明府同族明洪武初黃鈞壽歸附授世襲知州屬思明府鈞壽死子志銘襲子郝孫真相繼死有黃義者稱爲真所生告襲成化間思明府黃琮與其子震相繼煽亂震伏誅震子紹治兵兒村被思明州殺義父子奪大小民村凡二十有四宏治六年紹復以兵脅知府黃道給券與其子黃文昌領州事十八年下所司捕紹紹仰藥死文昌仍具贖冒黃真宗支爭襲數爲邊患乃遣恩城州土官趙忠順擒誅之以義子永寧襲後文昌子黃泰復據其州泰死子恩紹襲恩詔死弟恩錫襲恩錫死弟恩隆襲萬曆十年恩隆與思明府土官黃承祖爭四寨

太平府志

卷之三十三 土司傳

九

二十九村委官勘之以四寨宜屬思明府黎龍等村以那強爲界那強以西如板勳等十三村給思明州那強以東如板益等十六村給思明府後思隆死子拱極未襲庶弟黃拱聖謀之承祖弑拱極并其母巡撫劉繼文以黃承祖助逆議削其地奏將所爭村寨盡給思明州改屬太平國朝順治十六年河龍投誠于今職河龍死子玉中襲玉中死子而芸襲食殘不法于康熙五十八年參革改歸太平府管轄  
按黃琮神姦也身道大蓋世濟其兒而傳及四世猶併思明州而有之王法幾以不振矣明其柄取委其訂法者

爲其餌而陰庇其私尙可謂中國有人乎承祖雖在罪思明州故其屬也乃削土官之地俾其爭奪之下邑禮統已紊彼安能俛首而甘心焉始謀不慎反以釀爭悲夫  
陀陵土縣舊名路陀宋置元隸太平明因之洪武初土官黃富來歸授世襲土知縣職以流官典史佐之康熙二十八年省入永康州

太平府志

卷之三十三 土司傳

十

思明土府古西粵地漢屬交趾郡唐置思明州隸邕州宋隸永平寨元改思明路元末有土官黃忽都者爲思明總管明洪武元年忽都歸附詔改思明路爲府錫印授世襲知府設流官同知佐之忽都死子廣平襲廣平死無嗣弟廣成襲廣成死子瑯襲其庶兄琮亦以捍禦功累遷都指揮使守潯州景泰間瑯老以庶子鈞襲嫡子鈞怨問計于琮琮欲因而奪之遣子震僞徵兵於思明夜襲瑯鈞殺之歸報於鈞已而又圖奪嫡都御史李棠誘琮執之震與子紹奔龍州鈞死于獄郡人立鈞之子道襲琮度不得免時憲宗在東宮景泰帝有子曰見濟琮遣人入京賂用事者乃具奏請立見濟爲皇太子會藤峽賊方熾尙書于謙奏令琮赴軍前討賊立功琮以功進都督未幾英廟復辟琮自殺命發棺戮其屍成化間總督韓雍捕震誅之紹遂治兵兒村被思明州與其長子文昌破下石西州次子文盛破上石西州三子文華遣兵陸光煬殺知府黃道子光燾又遣兵趙保安刺道死之遂據府治宏治十八年督府命



副總兵歐磐率兵討之紹仰藥死文昌忿甚連年剽掠  
思明治於况村築城以拒數為邊患恩城土官趙忠順以  
計擒文昌等詣軍門冥于法以光雙子賜襲賜無嗣以叔  
崇雙之子旻襲旻亦無嗣以鈞次子逗之子澤襲澤死子  
世興襲世興死子承祖襲承祖死子應雷襲應雷有罪削  
職弟應聘襲柔儒不振住大平以印寄同知署及死遺腹  
生子戴乾

國朝順治十六年戴乾投誠予襲今職戴乾死子維基維屏  
皆庶出維基長應襲因得罪于父出奔及父沒稱兵構爭  
而戴乾第三子維挺襲焉維挺無嗣弟維璋襲維璋亦  
嗣弟維鼎襲維鼎死子辰襲辰以疾乞休子觀珠襲

太平府志

卷之三十三 土司傳

十

按思明轄七州一縣故稱望郡迨其後也日割月蹙上思  
與忠州入邕思明州入太平憑祥由縣改州隸太平上石  
西州漸裔內地而祿州西平州淪於交彝且不復返矣當  
莫登庸叩關歸款時粵東欽州侵地粵西則否豈當事  
者未及聞耶方黎彝乞封權在中國有能援登庸納土  
事索我侵疆豈不堂堂烈烈哉然而操縱之機固未易言

矣舊志

上石西土州唐置石西州宋析屬永平寨元屬思明路明因  
之洪武初以土官趙姓者領州事趙氏絕土目何士弘自  
立士弘與交彝戰亡無嗣思明府土官黃瑯弟黃瑒攝之  
死亦無嗣遂以官銓知州思明府又以族人黃高攝

專流官知州殷輿為土人毒死...  
敢入思明府官族黃貴寧因據州宏治六年况村黃紹攻  
州奪其村十有八督府遣兵討之紹自殺徵其印貯藩司  
黃貴寧復以育子黃景祐謀管所轄村十有七賂土目黃  
珠等矯為府帖付景祐攝州事督府坐責寧罪以印給流  
官知州仍屬思明府但州治荒蕪前後蒞州者率寄家太  
平府入州視事若寄公然萬曆十九年知州孫繼先始新  
州治携家人以從復建社稷山川郡厲諸壇修城隍土地  
二祠拓城堯井州治始改觀矣崇正間併歸本府通判管  
理

本朝因之

太平府志

卷之三十三 土司傳

十一

下石西土州其始祖開鴻宋時有守禦功治平間桂州守陸  
誥至邕集兩江峒首補置將吏鴻始為知州傳至閉賢歸  
附前明乃授職治州事給印世襲賢死子聰襲聰死子瑀  
襲瑀死子高襲高死子遇襲遇死子芳襲芳死子建極襲  
建極死子建環襲建環無嗣以從祖秋之子襲文經繼之  
文經死子國藩襲國藩死子璋襲璋死子在明襲在明死  
子承恩襲承恩死子國擴襲

國朝順治十六年圖擴投誠予今職圖擴死孫有光襲  
憑祥土州宋為憑祥峒屬永平寨元屬思明路明洪武十年  
峒長李昇內附授憑祥鎮巡檢永樂二年改為縣以子  
應清為知縣應清死子誠襲誠死子壽祥襲壽祥死

化十八年以...

為州以...

死諸子...

幼弟珏...

妻之州...

官黃朝...

奉然嘗...

客歐紹...

黃朝朝...

納時芳...

寰謀廢...

遂約李...

之寄枝...

亂呼趙...

發庫藏...

不得已...

中擊殺...

御史經...

子將有...

薦願效...

泰唯唯...

祥擒李...

萬達會...

之子佛...

入州治...

上龍襲...

國朝順...

死子天...

天錦襲...

地方日...

致子滋...

思陵土...

境次年...

襲常死...

襲祐死...

紹宗死...

之子懋...

無嗣弟...

龍州土...

萬戶府...

更目佐...

以罪謫...

人告茂...

太平府志 卷之三十三 土司傳

太平府志 卷之三十三 土司傳

能征宗壽死子景昇襲昇死無嗣以叔仁政襲仁

死政子南傑襲南傑死子源襲源死無子庶兄浦有二子

長相大楷相當立楷妬之謀岑氏以僕辜陳子璋詭云遺

腹而岑氏兄子猛方熾楷遂奏言璋實源子當立為相所

篡事下都府未決璋賂鎮守太監傅倫舍人王祥詭云有

制猛偽檄調兵二萬人送璋入龍州左江大震相挈印奔

况村都御史楊旦討璋猛殺之相乃歸相二子長燧次寶

相枝樞寶亦枝樞相絕愛之曰肖我當立猛乃以寶去見

為奴嘉靖元年相死州人立燧樞弑之州人立其族弟燧

時王守仁提督兩廣募客岑伯高用事樞賂之伯高言于

守仁曰煖非趙氏裔當立者樞也遣上思知州黃熊兆覈

太平府志

卷之三十三 土司傳

五

之熊兆黨伯高言樞當立以州印畀樞樞遂殺煖大亂州

目黃安等潛往田州購寶時為奴楊布家年十三矣安

等行百金購得之言之督府都御史林富謂樞勢已張母

持之急乃令樞攝職俟寶長讓之樞復時時誅殺寶富論

樞令以印還寶寶謝以五千金益以腴田三十一村樞計

寶弱易與不如微厚利而徐圖之遂聽命樞復求韋璋之

子應育之令往來寶所寶妻黃氏思明府土官黃朝女也

貳于寶而與應通應乃厚結州目及遣人之向武州乞兵

自樹寶曰荒悍刑狡男子王良為關樞知良恨寶激之使

內應良許之樞以千人夜至寶寢門呼良良開門納樞兵

執寶寢所殺之以他盜聞應以兵千人乘揀州治并結黨

自後都御史蔡經與副使翁萬達謀圖之萬達

未可速圖章應與慎慮慮可旦夕擒斷工中堅

第獲之督府以為善萬達行部至太平人以此

論之計獲應論死時諸言樞事者故不為史

而達愈厚樞時稱樞勇冠軍可當一面樞信之

六千人詣萬達言狀并以三十一村地獻萬達

樞弛不為備部兵多以乏糧遣歸萬達召樞及州目

等人見伏壯士劫之曰汝罪滔天宜自為計汝死官

汝子可為書諭汝黨勿亂樞自分必死乃為書諭其

業已如此亂無益也可善輔我子以存趙萬達即杖

樞斃之以指書諭其州人時樞子匡時生四年矣立之一

太平府志

卷之三十三 土司傳

六

州悉定乃以十三村還龍州十八村隸崇善縣屬太平府

匡時死子英襲英死子元璧襲元璧死子有濟襲有濟

嗣弟有涇襲為庶兄有濤所殺涇子國梁想父究有濤

入交趾

國朝定鼎更名祿奇賚印投誠准其供職有濤死子廷楠襲

當國梁文寬既曰應襲而廷楠據之國梁復出奔雲南

煽動國梁遂領偽兵破州城殺廷楠廷楠妻黃

子爭襲者數年乃以庶支趙元基孫國

紅襲殿紅貪黷殘忍每年科派不下

納者輒縱令頭目抄掠其村庄又捏以他事陷害之民不

聊生久矣雍正二年知府甘汝來

劣蹟又經王民告發研得實列欵通揭經總督孔毓

巡撫李紱

題叅革職并子女安插桂林省城部議析其地為上龍司

龍司改設兩巡檢另擇勿支那襲隨經太平府知府王

堯詳請督撫會

道經部議覆以趙陞為上龍司土巡檢趙庸為下龍司土

檢

按明永樂間三將軍問罪安南由龍州度憑祥用扼交人

之吭最後安南納欵叩關謝罪懇請命則二州固中

之藩籬亦入交之門戶也黎賊父子血染劍鋒莫氏主

面縛道左州無老少能傳其事至于今為烈州與交人

太平府志

卷之三十三

土司傳

七

有反唇莫不盛舉張英國之問罪毛司事之受降用以

伏其口彼亦北望鎮南之關如在天上益湯之是憑殆

文武之繫賴耳登昭德之臺者其有遐思哉

江州土州其始祖黃勝奇山東青州人宋皇祐間隨征有功

至黃孟溫元時為州長四傳至黃威慶明洪武初歸附授

世襲土知州威慶死子中立集中立無嗣弟中謹襲中謹

生二子智高襲江州智勝襲忠州智高死子能廣襲能廣

死子海襲海死子永欽襲永欽無嗣弟永錕襲永錕死子

恩死子河漢襲河漢死子紹箕襲紹箕子廷錕襲

朝順治十六年廷傑投誠子今職廷傑死子世藩襲世藩

無嗣從弟諸藩襲諸藩死子奇隆襲奇隆無嗣弟奇隆

尚芳死子錫璋襲

羅白土縣其始祖梁敬貢山東青州人宋從征有功授土

傳至黃復昌子明洪武初舉地歸附子舊職復昌死子福

星襲福星死子德容襲德容死子鳳襲鳳死子廷政襲廷

政無嗣弟廷真襲廷真死子國英襲國英無嗣弟國賢襲

國賢死子天送襲天送死子慶遠襲慶遠死子椒襲襲

椒為江州所殺無嗣弟椒襲襲

國朝順治十六年被亂投誠子光福襲光福為江州土官黃

奇隆謀殺于金麟襲

太平府志卷之三十三終

太平府志

卷之三十三

土司傳

六

太平府志卷之三十四

選舉序

大司徒頒教法于鄉攻其德行道藝而與其賢者  
論秀士升之司徒升之學升之司馬漢才古未  
其途大槩以進士為重至明始定為制三途並用  
奏備矣我

定鼎以來取士雖仍明制而旁求山林隱逸特舉孝廉方正  
文武互用其法可謂盡善盡美適三代而軼漢唐矣况當  
百廢累洽之後聲教四訖無遠弗届太平雖僻壤宜乎人  
起行且與中土埒也志選舉

太平府志 卷之三十四 選舉志序

太平府志卷之三十四

選舉

進士

崇善縣

明

嘉靖四十一年壬戌科申時行榜

鄧宗孔 嘉靖乙卯舉人官山都察院都事世浙江金華知府詳人物

鄉舉

崇善縣

明

永樂十五年丁酉科

太平府志

卷之三十四 選舉

宋

龍蟠

謝玉成

永樂十八年庚子科

程巽

何觀

景泰元年庚午科

廖俊

岑昶

程培

景泰四年癸酉科 復增二十五名共五十五名

黃子顏 教諭

天順三年己卯科

岑芳 春新

天啟六年壬午科

宋璧 海陵知縣

成化四年戊子科

桂茂

宋瑚 樂昌知縣

成化十三年丁酉科

黃侃 賓州學正

成化十六年庚子科

梁琛

成化十九年癸卯科

鄧仲賢

宏治二年巳酉科

太平府志 卷之三十四 選舉

蒙斐 舊志作蒙斐府志作蒙斐俱訛

顧直

二

宏治十四年辛酉科

鄧杞 瑞金知縣

宏治十七年甲子科

岑鍾秀

正德八年癸酉科

岑宗本

正德十一年丙子科

汪克思

正德十四年巳卯科

鄧祥龍 一作劉姓惠州知州詳人物

嘉靖三十四年乙卯科

鄧宗孔 見進士

隆慶元年丁卯科

謝世臣 曲江知縣

隆慶四年庚午科

岑珍

萬曆元年癸酉科

劉業成 教授

萬曆四年丙子科

程樂道 教授

鄧起鳳

萬曆七年巳卯科

太平府志 卷之三十四 選舉

岑圮

程植

三

萬曆十年壬午科

岑樓

萬曆十六年戊子科

涼邦彥

萬曆二十二年甲午科

滕玖

萬曆二十一年癸卯科

林翔鳳 山海關道詳人物

廖朝懋 撫州通判詳人物

萬曆三十四年丙午科

謝廷 由晉寧縣陞山東東平州知州

謝三選

萬曆三十七年己酉科

謝三捷

萬曆四十年壬子科

蘇則悅

學德知縣

歐騰霄

崇正六年癸酉科

鄧元亮

崇正九年丙子科

馮則元

崇正十五年壬午科

馮文英

何章明

廖士望

太平府志

卷之三十四 選舉

四

年代無考舉人

何城

國朝

康熙八年己酉科

滕佑

掖縣知縣

麥士奇

康熙三十八年己卯科

馮龍章

原河池州學正今補上思州學正

康熙四十一年壬午科

歐振綱

康熙四十七年戊子科

蘇眉

康熙五十二年癸巳 恩科

梁應斗

雍正二年甲辰補癸卯正科

朱元翰

左州

明

萬曆四十三年乙卯科

鍾文煥

盧幹

梁啓君

國朝

康熙四十四年乙酉科

太平府志

卷之三十四 選舉

五

李雲燦

本縣教諭

雍正四年丙午科

陳鵬翼

薛鍾嶽

養利州

明

萬曆七年己卯科

盧學易

推官

萬曆十一年壬午科

袁士楚

推官

萬曆十九年辛卯科

曾遇

知縣

萬曆四十二年乙卯科

袁學冲 加縣

天啓四年甲子科

盧錫瓊

崇正九年丙子科

趙天益

袁傑 推官

國朝

康熙二十九年庚午科

袁簡臨 曲沃知縣

康熙三十八年巳卯科

趙琬 任四州知縣

是年加額十名

太平府志

卷之三十四 選舉

六

永康州

明

萬曆四十六年戊午科

張經纓

蔣朝宗

天啓元年辛酉科

陸光裕

崇正六年癸酉科

陳五策

崇正十二年巳卯科

黃必元

崇正十五年壬午科

光緒

朝

康熙二十六年丁卯科

陸臺樞 原籍江西人

康熙三十二年癸酉科

張稱

康熙三十五年丙子科

盧元復 敦長

莫元貞 宣城知縣

羅圮

雍正四年丙午科

陸襄

太平府志

卷之三十四 選舉

七

思明土府

明

崇正十二年巳卯科

鄧英傑

崇正十八年乙酉科

王健

朝

雍正二年甲辰補癸卯正科

羅定午

雍正四年丙午科

鄧



康熙三十五年丙子科

許鴻象 太平府學在  
樂清知縣

副榜

明

萬歷壬子科

程起祚 籍貫  
未詳

天啓辛酉科

廖種德 崇善  
人

國朝

太平府志

卷之三十四

康熙科

謝家瑤 崇善人  
永福教諭

康熙三十五年丙子科

蘇眉 崇善人  
見樂人

武舉

康熙四十一年壬午科

謝香振 崇善  
人

康熙四十四年乙酉科

馮綜綸 崇善  
人

康熙五十年辛卯科

李家珍 左州  
人

陳作新 左州  
人

雍正四年丙午科

黃德昭 崇善  
人

科分未詳武舉

黃光表 崇善  
人

陳攸 永康  
人

貢生

崇善縣

明

鄧順

謝允 儋州  
同知

岑子章

鄧瀚

謝天祐

程鶴鳴

朱世伯

朱世倬

何實

岑章宣

朱希孔

謝演

劉桐

鄧澄

王楷 永康  
人

岑廣 儋州  
同知

鄧銓 知縣

岑震 衛經  
歷

程鵬

譚源

朱驥

朱世俊

陳萬

何仁

謝乾

陳伯和

歐敏

岑昇 縣五

岑名

鄧名

鄧名

鄧名

鄧名

鄧名

鄧名

鄧名

鄧名

宋希舜

李素

龍定

何欽

程增

李淳

黃寧

教諭

趙輝

何浩

龍真

蘇智源

鄧璿

蘇廣

何裕

黃安

黃連

岑正

朱璽

鄧給

蘇子賢

梁真茂

許質

太平府志

卷之三十四

選舉

十

譚綱

程浩

歐文魁

陳綱

岑綱

鄧淳

馬寧

岑鬱

李悅

李京

梁堅

文凱

蔣華

易智

趙馳

歐俊

謝昊

陳鼎

鄧景

宋永年

唐宋

謝宗繼

何澤

李愷

何芳

易興

章昂

陳選

程錦

譚溥

蘇俊

何元吉

岑斗

歐隆

廖鐸

何鳴鳳

劉性

鄧仁

鄧冠

鄧極

譚孟舉

謝選

鄧顯

任彪

太平府志

卷之三十四

選舉

十一

陳獻

岑琳

章純

朱汝俊

陸俊

謝龍

章和

鄧愁

趙壅

訓導

廖盛

何經

何珠

程玉成

朱儀

方忠

鄧周

歐經邦

何程

程景

鄧敬

陸

程

廖遇

程九霄

鄧世德

鄧公明

岑宗源

歐經久

夏耶

廖莪

陸萬鍾

蒙廷用

程玉京

陳文頌

何瑞

劉連

唐時傑

歐廷用

梁維棟

鄧召高

李學顏

張岳

何世寧

謝天良

太平府志

卷之三十四

士

鄧錦

陸萬年

陳清

朱象

程文經

李傑

宋希郊

歐時仕

謝天中

李維橋

陸伯輿

程之魯

宋希璟

李世榮

謝得仁

岑蕙

廖天粹

岑興賓

謝永良

廖朝高

譚世良

何本遠

方鳳舉

程大道

謝天賢

鄧宗壽

何世統

廖種德

謝名臣

謝臣

謝之琪

楊自弘

蘇則恬

鄧倫

陳肅清

程陟

陳孔道

蘇時興

鄧邦珍

馮時薦

鄧效采

謝芝芳

太平府志

卷之三十四

士

劉崇業

鄧維翰

馮則化

宋喻

陳景元

易應程

方丕顯

梁光祖

何士達

鄧健

岑其瀾

岑儲秀

劉日壽

程宙楮

陳朝珮

張擇中

國朝

黃廷卿

張載珍

黃佐聖

張載務

廖之瑛

張作聖 訓導

滕六星 由泗成府知縣授

莫若緝 訓導

廖士魁

滕六宿 訓導

廖之瑛

陸卓雲

廖愷

陳言從 現任南卑府教授

鄧福英 訓導

廖 幅

廖 恂

劉秉義

鄧生林

劉秉忠

謝玉書

李 篇 太平州

張載珠

吳子俊

蔣開昭

譚道榮

太平府志 卷之三十四

進舉

古

謝家瑤 訓導

蕭世鵬

王慶虞

孫承統

陳 彥

葉培新

鍾名揚

楊性邗

唐 中

陳以舜

廖芝榮

陳言志

陳言貞

葉振堂

張拱乙

張耀光

顏若禹

左州

盧 詵 教諭

盧 謐 教諭

盧 照 經歷

張顯謨

張業昌 教諭

劉學成 教諭

楊起光

聶國龍

盧自興

張顯業 教諭

張紹堯 學正

黃佐聖

聶國輔 永平府通判

郭朝聘

張羽冲 學正

郭朝宰 府判

杜日華 教諭

梁啓祚 江府知府

岡朝

楊參柱 訓導

莫與倫

太平府志 卷之三十四

進舉

五

張三錫

李文光 訓導

黃公俊 訓導

王緒宣

張 煜 訓導

姚 瑞

黃公傑

馬英敏

彭大齡

姚錫邕

農瑞文

王以孝

陳 校

黃 猷

朱 琇 慶遠府訓導

楊時通

王國坤

莫雲翥

何世寶

何 傑

葉 培

姚錫圭



馬國正

志明土府

譚緒綬

程道高

陸懋

黃天漢

程道彰

劉甘瑜

鄭緒傑

農大德

太平府志

鄭一鳳

農大縉

屈三錫

國朝

黃龍見

程鴻飛

甘智隆

譚

盧堯仁

周中傑

由藩...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

鄧作舟

黎子和

周斯聖

監生

崇善縣

宋珊

宋世偉

蘇通

朱天保

國朝

梁應奎

唐如雲

廖彬

唐世芝

劉正安

程光璧

左州

國朝

李文魁

聶期梓

養利州

王之屏

譚宙可

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

鄧作舟

黎子和

周斯聖

監生

崇善縣

宋珊

宋世偉

蘇通

朱天保

國朝

梁應奎

唐如雲

廖彬

唐世芝

劉正安

程光璧

左州

國朝

李文魁

聶期梓

養利州

王之屏

譚宙可

鄧作舟

黎子和

周斯聖

監生

崇善縣

宋珊

宋世偉

蘇通

朱天保

國朝

梁應奎

唐如雲

廖彬

唐世芝

劉正安

程光璧

左州

國朝

李文魁

聶期梓

養利州

王之屏

譚宙可

鄧作舟

黎子和

周斯聖

監生

崇善縣

宋珊

宋世偉

蘇通

朱天保

國朝

梁應奎

唐如雲

廖彬

唐世芝

劉正安

程光璧

左州

國朝

李文魁

聶期梓

養利州

王之屏

譚宙可

鄧作舟

黎子和

周斯聖

監生

崇善縣

宋珊

宋世偉

蘇通

朱天保

國朝

梁應奎

唐如雲

廖彬

唐世芝

劉正安

程光璧

左州

國朝

李文魁

聶期梓

養利州

王之屏

譚宙可

鄧作舟

黎子和

周斯聖

監生

崇善縣

宋珊

宋世偉

蘇通

朱天保

國朝

梁應奎

唐如雲

廖彬

唐世芝

劉正安

程光璧

左州

國朝

李文魁

聶期梓

養利州

王之屏

譚宙可

鄧作舟

黎子和

周斯聖

監生

崇善縣

宋珊

宋世偉

蘇通

朱天保

國朝

梁應奎

唐如雲

廖彬

唐世芝

劉正安

程光璧

左州

國朝

李文魁

聶期梓

養利州

王之屏

譚宙可

鄧作舟

黎子和

周斯聖

監生

崇善縣

宋珊

宋世偉

蘇通

朱天保

國朝

梁應奎

唐如雲

廖彬

唐世芝

劉正安

程光璧

左州

國朝

李文魁

聶期梓

養利州

王之屏

譚宙可

永康州 黃玉曉

潘梧

國朝

王其祥

陸承禎

吳汝宜

鄧元璋

陸映

盧瑤

思明土府

國朝

鄭璉

呂韻借

鄭琳

鄧燦章

太平府志

卷之二十四 選舉

辛

鄭輔宸

黃常倫

明初六堂之制在科目上楊士奇夏原吉皆以是進誠重之也後分四途曰貢曰舉曰詹曰例非教曹之舊矣太平人物首列朱珊而珊之進身則以此也其可以出身分優劣乎

薦辟

崇善縣

明

鄧嘉祥

何顯宗

易祖榮

以上三人洪武十年廣西行中書省未勅時至京各授知府俱功績不受

錄用

元 宋

黃瑛 善章弟 長 成信郎

黃克明 堅第二子 授奉政大夫 湖廣漢陽府同知

黃紹基 土官 克順弟 充明長子 授思陵州官

黃理凱 土官 武宗第四子 授肅州知州 因交趾侵占 佩甲回府

黃紹積 充明第二子 授肅州同知

黃武高 萬山第三子 授兵部郎 思明府洞兵 萬戶

黃榮輔 武高長子 授軍民萬戶

明

鄧嘉會 洪武元年 錄授 恩同州吏目

太平府志

卷之二十四 選舉

壬

鄧嘉美 洪武元年 錄授 授同大生

李仕堅 永樂間 由生 員錄 授交趾 淵縣主簿

鄧驥 永樂間 由生 員錄 授永樂四年 從總兵 征交趾 有功 奏薦 交趾 隸山府 通判

廖靖 永樂四年 從總兵 征交趾 有功 奏薦 交趾 隸山府 通判

黃階 授北京內 府太監

黃瀚 都督官 黃瑛長子 授錦衣衛 指揮使

陸彥通 授邱溫衛 留關 守禦千戶 所千戶

呂義 授留關千 戶所百戶

陸核 授留關千 戶所百戶

歐紹 授留關千 戶所百戶

盧圓 授留關千 戶所百戶

黃威祐 授臨溫衛

黃賢明 授邱溫衛陸

楊成 成化年間

陸春 成化年間

地封

明

鄧召高 以子宋孔貴贈文

滕祚昌 以子佑貴贈文林郎

太平府志卷之三十四終

太平府志 卷之三十四 選舉

圭

太平府志卷之三十五

人物志序

芝之生也無本醴之出也無方人物之產原不限于方隅也  
凡太平所屬延袤將及千里山川奇秀雖雁蕩仙都無以過  
就輿扶輿磅礴鬱積之氣必有所洩魁壘卓越之材鍾之而  
生者豈不乏人元明以前習爽闊味風氣未開其無足怪有  
明建治以來學校有設師儒有官士服詩書民知禮教其通  
籍天章文章德業著于當時者歿而可祀于社矣獨行之士  
伏處章奏或砥飭旅隅或敦行孝弟即身不出閭閻而能以  
節自植守志不回者亦不一而足皆可以磨世而礪俗潛德  
之光顧可令其湮沒不傳耶志人物

太平府志 卷之三十五 人物志序

圭



太平府志卷之三十五

人物志

鄉賢

宋胡昇晉人性警敏博極羣書成化戊子舉於鄉授樂昌知縣善政歲饑民絕食胡設法賑濟度其地可藝麻菜密令家人取種數斗給民種之菜熟活人甚衆縣人呼為宋公菜

宋珊字示器崇善人幼失父事母以孝聞仲兄璉性褊急珊父事心兄有不悅不辨曲直跪以請罪長力學補弟子員每至一失之或先珊退然如不及士類服之由太學生授蒙城縣志勵名節一介不苟取會江北大饑奉檄賑濟區

太平府志

卷之三十五 人物

書周恣活飢民以萬計已而流賊四起被郡縣珊練民兵拒敵蒙城得全未幾小河灣盜復熾上司檄珊帥兵討之斬首百餘賊遂平珊馳驅兵荒間得危疾不瘳卒于官妻脫簪珥扶輿歸縣民莫不悲涕卒祀名宦鄉賢

趙雍字國重號石臺本府千戶所人賦性剛方不容人過不涉非義由歲貢授桂林府學訓導以師道自持為督學所重常念麗江喪祭過侈乃取考亭家禮視土俗所宜斟酌損益編次成書名喪禮儀節梓之以示鄉人鄉人翕然從之未幾以祿薄道險不能迎母就養遂棄官歸侍當道常表其居曰恬孝卒祀鄉賢

岑珍字廷聘別號栢齋崇善西廂人由監生歷任臨高縣知

縣總公不事擊斷惟勸諭之益自解釋訟日以稀在官三年以老乞歸居家嘗質嗣民田由嗣民食賴其田而不與反誣訟之知府周允訊得其情將罪嗣民而追還所質之金珍曰民為貧所迫故忍為無情之辭若加罪而責之償金將矣出珍不願還金矣人益賢之卒祀鄉賢

鄧祥龍字雲卿崇善廂人少孤貧年二十一以糧役為縣令所笞發憤從師就學析薪汲水以代束脩常於巖穴幽僻處終歲誦讀正德己卯舉於鄉判臨安府以清白稱巡撫檄監礦厥力辭不赴既又委勘激江土官例有餽遺悉力却之廉名益著擢知寧州一以恩信感民民歡悅服有土舍為勢豪所陷不能自直祥龍力白其枉等以老致官

太平府志

卷之三十五 人物

歸宦蒙蕭然州民攀轅不舍相率送至田州而還立祠祀之本府崇祀鄉賢

鄧宗孔崇善人幼穎異博極羣書父病孔侍湯藥衣不解帶居鄉恂謹有度嘉靖壬戌登進士授都察院都事陞浙江金華府知府居官廉介守正不阿不斂于以私卒祀鄉賢

林淵鳳本府千戶所人慷慨好施雖傾產不顧為諸生時授徒自瞻里人有自鬻以葬其親者鳳即以所得束脩代為贖出領萬歷癸卯鄉薦授永平府司李決獄多所平反矧劾不憚權要陞黔省僉事總制意宗煥知其才薦擢山海關副使軍前贊畫屢著奇績

第卑隘無異微時時人益重其操卒祀鄉賢

忠義

夏武後千戶所後所百戶正統六年征斷藤峽賊鏡甚官兵  
幾敗武冒刃突陣斬賊數人賊潰官軍乘勢掩殺遂獲

勝武沒於陣軍門錄其功陞其子為副千戶

崑崗輔字世生左州人天啟元年恩貢授永平府判時邊

多故督催糧餉協濟無虞幸以親老乞休歸以禮化俗會

交彝圍州城輔同州守日夜捍禦計殺交兵無算以糧盡

力窮城陷不屈被害祀鄉賢

獨行

何捏崇善人嘉靖時補府學正精舉業好登覽所至輒有題

太平府志

卷之三十五

三

咏事父母甚孝赴省考貢忽接父病信即不入考踉蹌奔

歸父病未痊焚香頂禱祝求以身代常嘗父羹以驗病狀

及父卒捏處苦塊哀號徹晝夜路人為之感泣有司以聞

詔建孝子坊旌表

陳才崇善永興都民家貧好施官渡祠道頽圯才家性有一

池鬻以葺之人爭笑之不恤也嘉靖癸巳歲大歉饑殍載

路知府唐翔翔漏卹園瘞之才以錢米給役者遍歷原野

悉收骨骸雖勞不辭陀陵縣土官黃球慕才名延之去會

盜劫球才與焉行篋皆盡知府江一桂重才行詎召才謂

之曰若以球技被劫吾將責球償汝所失才曰盜劫球非

球欲也球所失視才尤多奈何反責球償江益賢之

十舉鄉飲大賈既家益貧守益勵知府周九列其行

督府檄府以金帛遊之

黃琮思明府土官廣成第八子時思明州缺守當道知琮賢

檄琮署州事交趾侵西平琮以署印官往禦之賊退即勒

兵歸或問之琮曰吾所守者印也今以孤軍遠留邊境設

不能守盜奪印去則如之何眾服其識景泰二年府亂諸

當道議署府者咸曰非琮不可乃檄琮署府事琮夙夜圖

維定其亂成化元年遙授承事郎

黃瓊土官廣成子景泰二年府亂民心搖杭或謂瓊曰盍行

矣曰是吾父母邦吾安往哉竟出身任其事上書督府請

兵致討都御史李棠執首亂誅之民賴以安

太平府志

卷之三十五人物

四

黃鉞思明土官黃瑠次子喜讀書或勸之仕曰吾讀書為賢

人使吾父為賢者父為榮大矣一官何足為親榮宗族咸

稱之凡郡事有大疑難質之於鉞一兩言而立決

黃鐸思明府土官黃瑠少子幼負奇氣性甚孝父及於難鐸

即輕身欲手刃父仇人解之曰君欲為父報仇而先自輕

其身則報仇之具失矣反貽仇家笑乃止朝夕謀所以報

仇者誓諸江曰不為父報仇者有如江後竟復其仇交

聞鐸名皆為憐伏

陸祥思明府人仗俠有謀略善應對土官黃瑠聘祥女配其

子鈞生道景泰間瑠老鈞襲瑠嫡子錄怨同計于瑠庶子

瑛瑛遣子震徵兵思明夜襲瑠鈞之



不壞至康熙四十二年木忽不見每夜靜隱隱有佛燈現焉

列女

程氏劉氏崇善縣人嘉靖時本府孝廉黃子顏之媳也顏生

子三人長估大億次侃估娶程氏億娶劉氏估與億相繼

早亡程氏年十九無子劉氏年二十一止一女父母憐其

少欲為改嫁二人以死自誓同處一室併力女工上事翁

姑下撫幼女數十年如一日有司以聞詔加旌表後侃亦

舉孝廉時人稱之曰二門雙守節二代兩登科按舊志稱

勸梓者女兒程係益妻蓋似億訛俱云有子與縣志互異姑存疑附見舊志云劉氏崇善人黃估

妻幼與女兄甚相愛及嫁不忍捨相過無虛日估死時劉

太平府志 卷之三十五 人物 七

年十九子一更幼女兄勸之嫁劉已含怒不應明日至復

從容言之劉涕泣哭附估靈誓不與姊相見情愛遂絕估

弟黃益亦早卒子幼妻程氏以死自誓妯娌皓首以雙節

稱

鄧氏崇善人知州鄧祥龍之姊適廂民程澤澤死氏年二十

有五子方邦甫三歲鄧守節四十餘年後本府申詳督學

旌表

何氏崇善廂民鄧榜妻稱死氏年二十有八無子惟一女何

更為夫立後孀居四十餘年人無間言

劉氏崇善人郡廩生鄧汝明妻庠生劉焜女年二十八而夫

亡生一子懋林甫數歲氏日以紡織營活子長百計完娶

值兵變子為賊所擄氏哭幾絕康熙壬戌大槓賊蹂躪野

當事者發米作粥以給饑民時劉年七十一枵腹五日鄰

人邀劉領粥劉三出門而三退曰吾平生米嘗外出今若

此何面目見吾夫吾父於地下耶因投于河漁人救之乃

潛身水邊俟漁人去復投河死聞者泣數

趙氏崇善百戶魏蘭妻蘭死時氏年二十餘子龍甫數歲氏

日勤紡績撫育孤子長成為之婚娶襲父職孀居四十餘

年節操無玷

陸氏思明府頭目陸祥之女適知府黃鈞生子道甫七歲鈞

與父知府黃瑠俱被害時陸少艾携道避難上思州水漿

不入口者三日或強之食曰未亡人為保遺孤苟存性命

太平府志 卷之三十五 人物 八

尚欲覘面對人飲食耶其父陸祥為之赴愬左江各憲仇

得復乃回思明道既長嗣郡守陸嘗為逃避難艱苦狀勉

一之口毋忘此也聞郡咸稱貞淑以為女中君子云

李氏太平州土官李琛女適歸順州土官長子岑瑤瑤為其

弟所殺氏年二十七復於父母家父母強之改適不聽氏

年四五十人駁之甚嚴晝夜常鎖外戶不使與男僕相見

夜明燈坐中堂羣婢環之紡績至雞鳴乃鎖門而寢晚年

操守益嚴

太平府志卷之三十六

祥祥志序

洪範庶徵曰雨曰暘曰燠曰寒曰風曰時五者來備各以其  
 敘休咎之徵視乎五事有肅又哲謀聖與狂僭豫急蒙之異  
 雷已童子曰人之所為其美惡之極乃與天地流通而往來  
 相應天人相與之際甚可畏也歷代之史例有五行政以紀  
 天祥職是故耳兩江溪峒自宋立五寨而後太平之名始見  
 史自是以來歲有豐凶時有治亂類有災祥先見以示其  
 易曰雷洊至君子以恐懼修省故殷宗修德而祥彘為之  
 宋君一言而癸感為之退舍靈享之占驗不可謂非治  
 之助也志職祥

太平府志

卷之三十六

祥祥志序

太平府志卷之三十六

祥祥志序

宋

咸平二年五月甘露降太平州

嘉祐壬午冬府城梅生連理

明

洪武二年三月有白鼠渡江自南而北晝夜不絕未幾朝

廷頒本府各衙門印信

洪武十八年十萬山象出害思明府稼穡命南通侯率兵

二萬驅捕因立馴象衛于郡城

太平府志

卷之三十六

祥祥

永樂六年七月初六日大水滄場城垣四百三十六丈

樓三百四十六間

正統二年文廟火

天順六年斗米千錢死者過半

成化十三年六月郡城大水等又大水

先治二年夏洋池蓮生並頭是秋疫變順真同領鄉

先治五年斗米千錢二錢郡民飢死無算

先治八年春大雨雹

先治九年春大雨雹

先治十四年秋大水

正德五年三月二日大水

四十二年秋七月二十三日有巨魚長丈餘出湖

凡三日乃止又鯉魚之鬚皆聯于尾見者怪之

隆慶辛未思明土府大水城隍廟滄沒三尺許神像皆仆

民房七壞數千間

隆慶甲戌七月思明土府天狗星自東北流至西南其聲

如雷

隆慶丙子八月二十日思明地震

隆慶五年夏五月大水漂沒民居本府城垣滄頽三百餘丈

荒州初建土署時採木為梁名榜木運至河忽自窺入泮

申至崇禎十七年木忽浮出江心次年土官趙有潛

兄有潛襲殺嗣後龍州有亂木即先起至今仍存

太平府志 卷之三十一 雜錄

崇正間太平東關渡每遇狂風見巨魚出沒波心

計溺死數十人至戊子兵荒後患始息

順治庚寅辛卯連年大旱斗米直錢二千府屬流土飢死

甚衆又有黑斑乳虎白晝噬人至壬辰虎自死山中

順治十三年江州近城一泉瀾一畝泉水忽赤如血未幾

忠州土官黃安信思明府土官黃戴乾以私怨合兵破其

州土官黃廷傑被害

按廷傑焚毀郡城公署文廟罪不容誅卒至身首飛散豈天假手于思明

忠州府 康照七年夏五月積雨旬餘大水自交趾來淹沒東南隅

城墻丹桂直道茶府署前沿河村莊房舍漂沒男女牛畜

崇禎元年冬虎入城

崇禎八年春崇善縣獄中火起燒縣署及參將署延及民

房客舖城內外焚燬殆盡男婦死者七人

崇禎十年辛亥街民黎迥陽募父于府城南岸岡一月後

城廂內七八日連被火災每日夜數次警報事林正請

地與請募動南方火山親率居民掘起令其別葬火遂息

崇禎二十年郡城與思明等處大旱斗米銀六錢餓殍

道知府詳報運米賑濟施粥於三清觀

崇禎二十二年府城春夏數月不雨知府白啓明禱于神

清滯獄釋無辜禱畢甘澍立沛是歲豐

崇禎二十四年六月有大蛇入城南馱窺村田中村民笑

太平府志 卷之三十一 雜錄

崇禎二十七年春正月麗江蚌產明珠自瀨灘以上賦

以下每夜朱光映徹水上沿江村民採蚌剖珠小舟略

不絕至四月止

崇禎二十七年思明土府十月不雨

崇禎二十八年十一月思明土府有白氣一道自東南

直衝數丈月餘始息

崇禎五十一年六月十四日夜三更時虹霓由東至北出

現半時十六夜一更虹霓由西至北亦現半時

崇禎五十八年秋七月大水

兵燹

明宣德三年崇善土官趙暹助逆以兵入寇府境千戶  
欽鄭中率軍拒之兵刃將接賊見羣鴉飛鳴官軍上遂退  
追之獲其俘問何以懼敵曰時見紅袍神立于空中羣鴉  
導之故懼而退眾皆以為神助後遂改流

嘉靖四十二年賊劫府城倉庫

國朝順治五年偽慶國公陳邦傳遣標官梁成舉帥十村  
賊兵數千至壺關外屯札檣南太參將標官劉登鳳殺之  
參將成觀瀾走江州

順治己丑年三月思明府土官黃載乾率目兵萬人攻破  
府城殺參將張啟亨自稱麗江伯遣目官楊昌祚逼取明  
故鄉紳山海關道林翔鳳家欽賜蟒玉

太平府志 卷之三十六 兵變 五

順治七年 王師破廣東進取廣西明永曆自肇慶奔南  
寧乘舟至左州九岸村聞追兵逼近遂棄舟取路走雲南  
至太平州輜重盡為土民所劫順治十一年偽將軍吳三  
省總兵曹友統兵萬餘人由雲南抵太平州擒土官李開  
先械至壺關外戮之以尸傳示各土司時郡城地大震衣

甲山崩江魚跳躍三省駐數月復回雲南

順治八年雲南廣南府狼兵破郡城擄掠一空江州土官  
黃廷傑乘機率兵到郡城拆毀官署民房及文廟寺觀惟  
小西門外班夫人廟正殿現一蟒蛇遂不敢拆

順治十二年偽安西王李定國自廣東新會縣大敗回南  
寧至思明府擒上官黃載乾索餉又拘江州土官黃廷傑

索餉人民逃散山谷

太平自崇正十七年闖賊入都交趾莫彝乘中原鼎沸悉  
入內地劫戮受害最烈

順治八年定南王孔有德開闢廣西太平引領

如望歲焉九年七月會城失守太平密運滇黔仍為諸  
黨所據壬辰以後已亥以前七八年間兵燹交侵饑饉  
生民塗炭城郭邱墟至順治十三年大師會軍橫州  
擒偽安西三月至南寧左翼總兵馬 由左江進追

師李先芳至瀨灘擒之迨奏凱旋師復留都司李尙桂  
剿除餘黨其後安西營將賀九儀復據潯寧偏將段全  
文駐劄太平府蕭祥來駐劄左州府屬殘黎再罹湯火至

太平府志 卷之三十六 兵變 六

順治十六年三月

上師恢復南太左翼總兵馬 越南寧分遣遊擊李有成  
駐劄上思州擒獲偽江夏王與將軍陳奇策等五月有成  
領兵入太平府各土司遂相率投誠七月內委遊擊安邦  
帶兵防守

部銓知府遲焯與司李唐敬一後先蒞任各土州縣畏敵  
版圖始歸畫一

左州

明天順六年左州官男黃昱黃倚爭襲構兵為亂殺州民  
無算民怨于督府捕昱倚繫獄皆死

宏治三年土人黃金謀逆 殺州目黃文

及其子武盡掠州民資畜聚岩自保乃誣想知州...

等激變當道捕金下獄誅之  
上德十五年左州土人章廣明復冒黃族求復土職知府

鄧炳訊得其詐繫獄杖死至是炳奉檄征古田以知州李  
欽承攝府事委游訓導攝州事廣明弟廣隆乘虛聚眾攻

州城縛游教官脅取州印奔下雷筒督府檄炳遣土官趙  
元瑤許世忠往征之元瑤購所親信得廣隆下府獄杖殺

之盡索其黨實諸法左州始平  
國朝順治五年舊陞陝縣屯村妖民周仲以符水呪語惑眾

聚黨千餘人殺陀陵馮典史陀陵土官奔他境又攻左州  
城不下南太參將成觀瀾帥兵滅之

太平府志

卷之三十六

七

順治九年交趾莫酋遣將翁茶由龍州攻破左州殺鄉紳  
聶國輔生員張東高等遠近鄉村擄掠殆盡惟渠茗村離

城十里村民固守賊不能入城中逃避于此者獲全  
康熙十九年左州土民張茂林原陀陵縣典史劉廷信十

村土民胡進攻破左州城先是知州葉本穗謀取廷信女  
不遂適奉本道羅毅廷信貯穀最多穗短價勒索廷信茂

林奔赴歸順州投偽總兵帥黨破州城本穗奔南寧愬帝  
道遣副將裴帶兵至左州破其黨

養利州

康熙十三年八月養利州知州三 乾德與吳三桂有舊私  
造木印自稱平東將軍招募軍士勒令各土司助餉人民

郭為墟

丁九年吳三桂偽將統兵駐劄歸順州八月...

州

德九年土官... 璉驕恣不法構兵為亂事聞命下...

國朝順治九年... 兵千餘圍永康州城... 下盡擄劫打牛畜人口

順治十三年羅陽... 村人口千畜

其... 太平府志

太平府志卷之三

八



太平府志卷之三十七

藝文志序

班史十志藝文其一也諸史因之爲創于累代之述作舉  
 其名而志之示一代藏書之富而已簡帙既繁故文不具載  
 郡縣之志唯惜其篇什之少矣凡名公卿之紀述賢士大夫  
 之贈答騷人逸士之所憑弔而流連匪直以其文也所以美  
 循良之治績表先哲之遺踪發潛德之幽光寫山川風物之  
 勝槩皆繫乎是故不可闕也太平在宋元以前彝獠所居衣  
 冠文物之所不至狼荒之俗衣卉食生書契猶未興也自通  
 道以來山川風土始見物色有明迄今鉅手鴻篇相繼有在  
 是不一人舊志簡畧掛一漏十網羅散佚哀集成編斷碑  
 太平府志 卷之三十七 藝文志序

尚靡不足爲僻壤之光也志藝文

太平府志卷之三十七

藝文

詔誥

賜呂興督交州諸軍事詔

咸熙元年

魏 陳留王

詔曰吳賊政刑暴虐賦歛無極孫休遣使鄧句救交阯太守  
 鎮送其民務以爲兵吳將呂興因民心憤怒又承王師平定  
 巴蜀卽糾合豪傑誅除句等驅逐太守長吏撫和吏民以待  
 國命九章日南郡聞興去逆卽順亦齊心響應與興協同  
 移書日南州郡開示大計共臨合浦告以禍福遣都尉唐  
 等前進乘懸因南中都督護軍霍弋上表自陳又交阯將  
 各上表言興創造事業大小承命郡有山寇入連諸郡懼  
 太平府志 卷之三十七 藝文

詭異權時之宜以興爲督交阯諸軍事上大將軍安定縣侯

乞賜褒獎以慰邊荒乃心欵誠形于辭旨昔儀父朝魯春秋  
 所美寶融歸漢待以殊禮今國威遠震撫懷六合方包舉  
 尙混一四表興首向王化舉衆稽服萬里馳義請吏帥  
 加寵遇崇其爵位使興等懷忠感悅遠人聞之必且競勸  
 以興爲使持節都督交阯諸州軍事南中大將軍封安定  
 侯得以便宜從事先行後上

賜救交州詔

梁 江淹

門下交部昔值時諒負海不朝因迷途往歸款莫由今創  
 萬寓網緼造物原刑四裔澤浹中畿愍彼邊氓未均王化  
 宏遠仁蕩以更始可曲救交州統內咸同曠典李叔獻

即樞南土其股肱文武材選推并遣大使宣揚朝旨

論土官黃忽都詔

洪武元年 明太祖

朕武功而定天下文教而懷遠人此自古先哲王威德並  
咸由斯道春茲兩江地瀕南海民俗朴質自宋元以來東  
南陽岑黃二氏代居其間世亂則保障邊陲世治則常修職  
貢由其審時知機故能如是頃者命將南征克清閩廣汝等  
不煩師旅奉印來歸嚮慕之情良可嘉尚特茲詔諭汝等益  
加相勉宣布德音使彼居民各安農畝爵賞之勸朕不汝吝  
也故諭

封知府黃忽都詔

洪武九年 明太祖

朕惟帝王以天下為家亦必順天下之情以為治故任官錫

爵各因其宜爾黃忽都自父祖以來世居邊徼今朕肇登寶

宋太平府志 卷之三十七 藝文 二

位統治華彝爾能奉印趨朝良可嘉尚故仍繼世授以官爵  
保障邊陲爾又能輸誠效順恭事朝廷宜錫誥命以為爾光  
可授朝列大夫廣西思明府土官知府於戲率由典常尚益  
堅於臣節服膺顯命宜深體於至仁其往懋哉毋替厥職

封知府黃廣成誥

永樂四年 明成祖

帝王以天下為家必順天下之情以為治故任官錫爵各因  
其宜爾黃廣成乃故土官知府黃忽都之男界在廣西久遵  
王化昔我皇考太祖皇帝臨御之時念爾父兄忠勤故繼世  
授以官爵朕今統治華彝爾克紹先業效職惟謹春茲忠盡  
宜仍舊任錫以新榮可授中憲大夫廣西思明府知府於戲

率由典常益堅爾之臣節服膺顯命尚體朕之至仁懋勤勿  
心毋怠毋忽

敕

分嶺南東西道敕

唐懿宗

敕嶺南分為五管誠已多年居常之時同資禦捍有事之時  
要別改張邕州西接南蠻深據黃洞控兩江之獷俗居數道  
之游民比以委人太輕軍威不振境連內地不並海南宜分  
嶺南為東西道節度觀察處置等使以廣州為嶺南東道邕  
州為嶺南西道別擇良吏付以節鉞其所管八州俗無耕桑  
地極邊遠近罹盜擾尤甚凋殘將盛藩垣宜添州縣可割桂  
州管內冀州象州容州管內藤州巖州並隸嶺南西道牧管

太平府志 卷之三十七 藝文 三

救賜交趾

宋王安石

救交州管內溪洞軍民官吏等眷惟安南世受王爵撫納之  
厚實自先朝含容厥愆以至今日而乃攻犯城邑殺傷吏民  
干國之紀刑茲無赦致天之討師則有名已差吏部員外郎  
充天章閣待制趙禹充安南道行營馬步軍都總管經畧安  
撫招討使兼廣南安撫使昭宜使嘉州防禦使入內侍省  
都押班李憲充副使龍衛四廂都總管指揮使忠州刺史燕  
達充副都總管順時興師水陸兼進天示助順已兆布新之  
祥人知悔亡咸懷敵愾之氣然王師所至勿迂克奔吞爾士  
庶久淪塗炭如能諭王內附率眾自歸爵祿賞賜富倍常科  
舊惡宿負一皆原滌乾德幼穉政非已出造廷之日待遇如

初朕言不渝衆聽無惑比聞編戶極困誅求已戒使人具宣  
恩旨暴征橫賦到即蠲除冀我一方永爲樂土

諭指揮僉事黃瑛宣德二年

明宣宗

敕諭工溫衛指揮僉事黃瑛爾即密差土去前去交趾報知  
總共官成山侯王通等知之及探交趾事情具奏來聞故敕  
又敕諭工溫衛指揮僉事黃瑛得爾奏報交趾事情及棄賊  
不守失陷官軍具悉爾之勤勞然爾既得脫罪亦不問宜率  
土兵人等效力前驅以圖後功故敕

諭指揮僉事黃瑛宣德三年

明宣宗

敕諭工溫衛指揮僉事黃瑛爾父子忠事朝廷盡心邊務多  
效勤勞朕甚嘉之特陞爾爲廣西都指揮僉事率領土兵

太平府志 卷之三十七

四

鎮守龍州憑祥岐壘等處往來備禦仍聽總兵官都督蕭瑄  
都督山雲節制爾其據忠効力撫恤軍民鎮守邊備以副朕  
眷注之意故敕

再敕諭廣西都指揮僉事黃瑛得爾奏報備悉事情此係邊  
方急務難以遙制敕至爾可相度虛實可援則援不可援則  
止果其來歸隨即收入腹裏城池加意撫恤仍具奏來聞  
許纖毫擾害以沮其忠順之心故敕

賜土官知府黃鈞景泰元年

明景帝

敕諭廣西思明府土官知府黃鈞近得總兵官都督僉事田  
眞奏報攬灘蘭蔴等堡并象州等處俱有蠻賊聚衆爲惡流  
劫鄉村殺擄人口漸肆猖獗雖調官軍前往各處勦捕然處

賊多共少猝難成功以爾世受國恩所管土民又多勇敢  
戰當邊境用人之際正爾等效勞之時敕至爾即量調爾處  
精銳土兵協助官軍征勦前項賊寇以靖地方有功照例給  
賞事平之後令各寧家爾其欽承朕命毋忽故諭

三年賜都指揮使黃瑛

敕諭廣西都指揮使黃瑛朕以朝廷施恩於臣子必彼此惟  
均臣子效勞於國家當遠近如功勞可紀陞賞必加比因廣  
西屢報賊情已當命將往彼征勦今尚未寧故又特命太子  
大保左都御史王翔總督軍務重加撫捕朕以爾瑛舊嘗領  
軍守備潯州等處自賊生發以來爾能率領土兵協同官軍  
勦殺後因爲事法司請加爾罪朕念爾在邊方會效勞力特

太平府志 卷之三十七

五

加寬容茲命王翔往彼督軍殺賊以爾素有能忠於朝廷特  
敕爾并賞銀兩綵緞至日爾宜悉心竭力凡遇所在征討聽  
從王翔節制協同奮勇勦殺有功之日重加陞賞必不吝惜  
不許懷疑陰持兩端以沮成功無事則謹守地方共享太平  
之福如違責有所歸爾其欽承朕命毋怠毋忽故敕

四年賜都指揮使黃瑛

敕諭廣西都指揮使黃瑛朕以爾在邊方守備年久殺賊有  
功且嘗建言國家重事朕深嘉悅皆未旌賞恆切於懷茲特  
陞爾爲前軍都督府都督同知敕至爾受命之後即便馳驅  
赴京面聽獎諭以副朕眷待之意毋或稽遲故敕

諭土官知府黃道天順五年

明英宗

救諭思明府土官知府黃道近因廣東廣西賊盜生發地方不靖已命總兵官都督僉事顏彪統領各處軍馬前去兩廣督同鎮守總兵等官計議調遣所在軍衛有司官軍土兵民壯人等搜捕勦殺及命巡撫兩廣右僉都御史葉盛贊理戎務勅至爾即多選精壯土兵整理軍器聽顏彪等調遣殺賊務要奮勇當先尅期成功以靖地方以除民患有功之日一體陞賞朕復念爾會效勞力忠勤可嘉特賜爾銀二十兩綵緞二表裏尚勉圖報稱用副朕委任之意故諭

諭土官知府黃道成化元年 明憲宗

救諭思明府土官知府黃道朕以兩廣賊寇久為民患特遣總兵等官都督趙輔等統領漢達官軍前去征剿已敕趙輔

太平府志 卷之三十七 藝文 六

等調用土兵狼兵協助殺賊但念往年起調之時彼處總兵不得其人因而求索作弊多端及至殺賊有功并所得財畜俱被官軍占奪今已深知此弊特遣兵科給事中王秉英賞銀二十兩綵緞二表裏尚爾并諭朕意勅至爾益効忠勤即將所部土兵狼兵但存精壯者盡數起調委的當頭目管領爾仍躬親統率徑赴軍前聽總兵官趙輔等調度殺賊毋得遲悞不可後期而至先期而回有功之日重加陞賞進兵之際有能奮勇當先攻破賊寨所得財畜聽自收用已戒約官軍不許分奪爾其欽承朕命故諭

太平府志卷之二十七終

藝文二 表

賀平交趾表

明解

聖人得位寰宇同春宏敷濟衆之深仁克廣普天之鴻業華夸一統海岳均安恭惟皇帝陛下德合重華功高神禹萬里救民於水火六師致討於渠魁肅清積穢之餘風光復曆朝之舊境實有同於開天闢地之功啓運肇基之盛也臣某職守南邦躬逢盛事同懽情於億兆祝聖壽於萬年

賀交趾平定表

黃福

天地以生物為心四時順序聖人以安民為德一視同仁干戈戢戢而海宇清平禮樂彰明而神人歡慶恭惟皇帝陛下與天同運如日方中齊魯舜之文明重華協帝遺周以之功烈廣大如天顧德威之所加惟遐邇之咸服聲為行而身為度車同軌而書同文夫何交趾之炎荒敢外中華之教

太平府志 卷之三十八 藝文 一

稽厥土實古頑存存在漢唐僅能羈縻至宋元尤為叛服遠乎黎醜仍踵弊風負片蛙之見而自尊致謂魚之禍而莫悔何簡定之餘孽復效前尤繼而幸機之復宜再循復轍其鼠之威而蹂踐疆域恣蛇虺之毒而吞噬邦人邊塵瀰漫蟻聚蜂屯之是覩田里蕭索雞鳴犬吠之不聞盡傷造物之心憤激神人之怒皇上每垂戒諭屢擴至仁彼乃愈肆跳梁恣為不道爰與睿算用命偏師天戈一指而蟻穴盡空風曉

衆而爲濟頓息渠魁既殄遺孽悉除共惟拯救之勅式慰

蘇之望班師振旅喜文德之誕敷行賞錫封觀武功之載載

郡邑有守令以懷保衛所有士馬以隄防千年草莽之區變

爲禾黍之地累世雕題之衆化爲衣冠之民衣食足以養生

絃歌足以易俗輿圖舊物予以光復山川精彩予以發舒賦

列九州不止金人之貢化均萬里遠踰銅柱之功氛稂廓清

雨暘時若實由懋先之盛德冠古之隆功致今日之太平雪

前代之遺恨也臣願慙微賤幸遇聖明垂憫愚蒙有罪特加

寬宥位階卿輔受恩實荷深洪始詔開百粵之新藩遂令掌

二司之重寄拜命惟謹懼德弗堪易俗移風勉承流而宣化

彰善輝惡普激濁以揚清遠慕臯夔之良尚隆唐虞之治然

太平府志 卷之三十八 藝文 二

遐陬之地雖異而感報之心悉同凡霑雨露之民室家相慶

獲際風雲之士冠冕增輝咸欲觀照臨之清光予以謝生成

之大德臣心感激未能率領以來朝天闕遙深徒切仰瞻而

下拜敢效華封之三祝恭祈聖壽於萬年

論征安南疏 嘉靖十五年

明 張 岳

臣伏觀皇子誕生煥頒詔命內外臣民莫不覃敷惟安南以

久不入貢詔使臨遣爲之停止下外廷集議咸謂罪當討無

赦陛下寬仁惻怛不忍遽動甲兵特詔使者馳入其國究問

緣由臣待罪邊疆不能宣達朝廷威德使雕題君長慕義向

奉效職貢至於上軫聖慮萬里遣使死有餘罪臣竊聞安

正德十一年內國王黎嗣爲逆臣陳高與其子陳昇

國人立嗣弟黎諫主國事以兵逐陳高父子奔據其國諫

山府黎諫立七年又爲權臣莫登庸所逼出居其國清華府

登庸立諫幼弟黎應相之既又弑應而自立國內分裂日尋

干戈無暇請貢此皆往歲傳聞及其國諫山長慶等府陳報

之言其間曲折及近日事情雖不能詳知然其久爽貢期大

抵由此非真負封豕之勢敢於阻兵拒險以阻上國之命而

不貢者豈自古蠻夷惟逆命則誅若其國不能通貢似不足

以勞敵中國今用兵之聲先已傳布使者行勅未復誠恐生

事樂禍之臣不能仰窺陛下所以遣使行勅之本意迎合附

會謀動兵戈臣不暇遠引請以目前義理事勢反覆詰之夫

太平府志 卷之三十八 藝文 三

欲興兵必以黎氏爲辭爲之討其亂賊也爲區區南交勞師

萬里之外討其賊而定之位非中國長策其不可一也不定

黎氏而因以取之是乘人危難而利其所有五霸稍知義者

不屑爲也而謂聖明爲之乎其不可二也萬一勝不可必交

人操長技毒弩乘高截險以邀我師如古人所謂廝與之卒

一有不備而歸者此拾禍敗孰當之乎其不可三也今兩廣

因敵猱獍屯結官軍僅足備守所恃以調發者狼兵然諸州

土官及湖廣勾刀手連年疲於征調內懷警怨若復驅以遠

征深入數千里之險進有難必之敵退無旋反之期狼顧兩

端莫堅圖志南交暑濕易生疾疫萬一師老財匱猱獍乘虛

而起安南事未可必兩廣被敗可以立俟其不可四也近日

大工役府州縣無礙銀兩盡起

法墮滯課額虧損每年數給諸軍剩積無多兵興十萬日費

千金永樂中用八十萬人入交今就折半言之亦當有四十

萬人屯食兩廣飛芻輓粟約以二石致一石何處措辦其不

可五也天下承平久矣人不知兵兵不習戰將帥皆膏粱子

弟少經行陣而婦帥之喜談兵者類皆趙括房琯之流

為大言爾蓋深於兵者必不談兵其撥拾古人精練以

多安也欲舉大事而使膏粱主兵驟安之士得成其謀不待

兩兵相交而不勝之機先見矣其不可六也此六不可者臣

特粗舉其端耳至於天下大勢其財用盈虛兵馬強弱民情

休戚蓋有非臣職事所及而不敢究言者臣愚以為安南繼

太平府志 卷之三十八 藝文 四

有可諫之罪猶當重為民命愛惜審酌輕重於當用兵之中

求所可不必用者以全民生以養元氣今其久不入貢之情

只是如此以義理事勢反覆推之用兵一事臣愚切以為不

可天下大器也安之甚難無故而動搖之臣日夜以思不寒

自慄伏望陛下上承上天仁愛之心遠思皇祖不祥之訓待

行勤使者復命乞下廷臣將安南事勢反覆熟議如黎氏尚

存力能入貢則許之入貢如果困難未定則且申救邊臣謹

固疆場禁戢奸宄毋得妄生事端致有驚駭搖動人心待安

南亂定應否入貢另行奏請定奪此於國家事體初未有損

而生靈得免於兵革之禍所全活者多矣臣邊吏也遇此大

征義當損甲執戈躬率先所部以死效命乃其職分顧不

也恐死而無益是以冒昧為陛下陳之伏冀陛下哀矜曲

重裁察非特臣一身一郡之幸實天下萬世之幸

楊芳

照得思明府土官黃應雷懦弱無為荒淫不檢威令不行於

左右事權旁落於家奴當陸佑衡命之日一力士可以掄解

乃姑息曲庇至極報已逃其違言欺罔之罪莫贖之罪矣迨

事窮勢蹙復以府印私授致佑藉印號名村寨威劫目民敵

殺官兵勞師費餉是叛逆者陸佑而致之叛逆者應雷能辭

其責乎即被其爵削其地非過也第罪在應雷而伊父祖之

世官世祿似難以應雷之故滅之夫應雷之罪狀已彰人心

不服難以復居民上矣至黃應宿僉謂係黃承祖螟蛉之子

且因爭地之故而強據六哨致六哨被屠戮之慘目民仇視

之此豈應襲爵之人獨黃承祖幼子黃應聘官族目民俱謂

其為黃子閩府心之土州中詞如出一口似應准其襲以

存黃氏宗祀蓋宗族無異議衆庶無間言誠至當而不易者

也所有未盡事宜行據布政司會議前來臣等覆加參酌條

為六事上請大聽

一定襲爵以安目民看得應雷有罪當廢應宿係黃承祖螟

蛉之子其不宜襲也無庸說矣至以應雷之故而降府為州

降應聘為土知州委局未竟豈有罪當廢者應雷而應雷

罪也次其有罪者而以承祖之爵土置

太平府志 卷之三十八 藝文 五

而後去之如斯而已

一處罪人以杜亂階看得黃應雷既以罪廢而令與應聘同城而處終伏隱禍據議降為土舍移置北段院子嗣及弄辱弄懷二村制其出入籍田養贍不許管事此後生有子亦止業土舍共黃應雷仍聽管理上石西州故業俱屬思明節制應給應雷養贍田土容臣等行該道查明徑給庶懲創之中寓存恤之意

一攝府篆以控邊地看得黃應聘會勘已真其應承業土知府之職無容議者惟是年甫七歲何能管理印務今會議暫屬流同知署掌符至十五歲交印接管其地方一切兵民事務分流土官署印接印之日禮當各俸薪俱照舊庶邊郡控

太平府志 卷之三十八 藝文

六

馭有人而奸人窺伺可杜矣

一分流土以遠嫌疑看得流土官之不宜同城而處者謂有掣肘也今黃應聘尚幼一切府事俱屬流同知管理若同知遠住六哨無論應聘恐有他虞該府與安南鄰亦何以示彈壓仍應同城住各原舊衙宇公移列銜流土悉如今議

一願土情以絕窺伺看得六哨之願歸流者蓋緣應雷屠戮之慘故也茲審該府目民咸稱每年賦稅悉取足於六哨若割五哨以屬流止留洞一哨以屬土將賦稅何從出則無論他日即目前且露爭端矣是安得為長策也仍俱屬之土官便惟嚴禁其暴虐以安六哨可也

一建學校以廣風教看得學校之設所以陶多士厚風俗而

人心從來弗之易也思思非隘乃獨斯此豈以縫之士希乏而建學設官未可輕議耶今逆孽蕩平士民忻向化該府暨思明州生員合之可得二十八非復曩昔之比若猶然寄附他府似乎無人視之也查得太平府左州漸為興育將不過二年亦可幾此似應設教授一員將該府與思明州寄附太平府學者悉歸本學廩生量設六名嗣後不妨續增教官惟聽流同知統屬土知府則平禮相處至於營繕之費祭祀之需廩餼之用詳閱蘇同知條議已犁然具備容臣等督行該道議行則營泮宏開儒生仰藉上進之階而路蠻默化地方亦賴安寧之福矣

太平府志 卷之三十八 藝文

七

請設崇善荔波二縣學疏

國朝 李 紱

題為邊士進身無階願詳建學以鼓士氣以廣

聖化事據布政司詳稱雍正二年六月二十五日奉本部院

批據太平府詳稱雍正二年五月二十八日據崇善縣

知縣周夢錦詳稱雍正二年五月二十六日據舉貢監

生員馮龍章等呈請建學等因該署布政司事按察使

白洵查看得崇善荔波二縣僻處邊末仰蒙

聖祖仁皇帝文教豈放恭遇我

皇上御極以來加意作養邊方士子無不人人知奮絃誦振

興第是學校未建文武童生未定有入學額數是以先

據崇善縣紳士援例激切呈籲詳奉批司查議并查通

省尚有應行建學之處查明一體會

題旨因遵節檄行太平慶遠二府妥議詳報去後茲據

府各詳覆前來本司覆查崇善縣附於郡城設有府學

文廟似可無庸添建今荔波縣學應請擇地營造既據該

守令情願率先創捐建立絲毫不敢派累毋庸另議至

學校告成司鐸之責不可缺員合無俯如各該府縣所

議將太平府訓導酌撥崇善縣學慶遠府宜山縣訓導

酌撥荔波縣學專司督課容俟人文加盛之日另請

題設庶免添官之繁又省俸工之費再崇善縣照中學之

例荔波縣照小學之例均應如各該府縣所請祀典廩

糧及考貢旗隨等項應請一照中學小學之例所需各

太平府志

卷之三十一 藝文

八

項銀兩在...每年地丁錢糧內動支入冊奏銷事

屬允協...請伏候本部院察核會

題施行等...據此該臣看得崇善荔波二縣地處遐

荒仰蒙

聖祖仁皇帝久道化成文教覃敷今又恭逢我

皇上御極以來崇儒重道加意作人薄海內外咸歸化育

特沛恩綸廣額增科雖屬邊方士子無不共知奮勉絃誦相

聞其有學校未建士子進身無階者理宜

題請以光

三治先據該太平慶遠二府詳據崇善荔波二縣各詳

學經臣 批司查議去後茲據督布

詳議前來 覆查無異似應九其所請仰懇

皇恩特准設學庶邊方士子莫不同被

聖朝文明之化永沐造

隆恩於無既矣 謹會

題伏乞

皇上敕部議覆施行

請行文安南國王禁止邊民仇殺疏

李 穉

奏為請 竊查廣西地方南寧太平思恩三府所屬土司界連

交趾沿邊千里並無邊牆又無高山大川為之阻隔田

地相連村落相望而土彙積習搶奪劫掠視為泛常有

太平府志

卷之三十八 藝文

九

土民出境搶奪者亦有彙民入境爭占者昨歲有安南

那陽樊州率祿州彙兵至邊境與思陵土州爭論地界

經 檄飭思明同知潘輝會同營弁前往勘明隨即退

散又經督臣檄飭安南禁戰在案 思安南在藩服中

最為恭順土彙爭佔之事伊國王未必盡知除工民出

境搶奪 業經嚴加禁止外其有彙人入境爭奪未似

應止用行文安南國王令其自行禁戢即可不致

但土司之事係督臣專職故總督衙門有行文安南之

案而 衙門並無行文舊案可稽查安南在廣西西南

境上而督臣遠駐東省文書往返動需時日 倘有 變搶奪細故 一而咨會督臣一而即



南彼此禁戢庶幾速於消釋息事寧人不無小裨  
伏乞

上睿鑒施行

酌通邊缺調補陞轉疏

甘汝來

題為酌通邊缺調補之例分別俸滿陞用之員以收實效  
以廣

皇仁事該臣看得南太慶思四府悉係烟瘴之區所屬道員

以下敎職以上缺出例於桂平等五府官員內選擇

悉風土之員調補歷俸三年報滿即行陞用定例

已久雍正二年七月內部議條奏所請嗣後粵西

官員無論調補部選俱照五年即陞之例

太平府志

卷之三十八 藝文

十

題報陞用敎職等官停其調補奉

旨依議欽遵在案臣自

前守太平以來在南太地方日久身履其地耳目所經較康

熙二十五年廣西按察使黃性震條奏定例之處更有

親知灼見為從前奏議所未及者謹分別為我

皇上陳之查南太慶思四府同稱烟瘴然如南寧府屬之宜

化永淳橫州思恩府屬之武緣民居稠密烟瘴全無與

內地無異蓋武緣原係宣化割立之縣故為思恩府之

首邑而不同城而永淳橫州又緊與潯州相接嗣後

一州三縣遇有正雜各官缺出並南寧府之經歷司

等缺均應停其調補稟請歸部查選至左江道駐劄

與南寧府知府既非烟瘴之地似應稟停調補但該

員均有管轄土司之責實係要缺必須熟悉風土之員

應仍照舊例進行再查柳州府屬之馬平雜容直隸賓

州所屬之上林此三縣雖非烟瘴之缺但係獠獍悍素

稱難理非才且優長老成熟練之員未易勝任嗣後遇

有正雜缺出應請照調補烟瘴之例選擇調補照例俸

滿

題陞庶於地方有益抑臣更有請者近遵奉調補官員五

年陞轉之例似亦經久可行但查州縣等官雖處蠻烟

瘴雨之鄉尚有俸銀火耗足以養廉不至窮愁鬱結惟

雜職微員俸銀無幾衣食不周臣在太平左江道任內

太平府志

卷之三十八 藝文

十一

目擊此項微員鴉衣菜色不勝愁苦近年據報病故者

十之五六間有三三家屬相隨者亦多相繼淪亡甚至

無人扶柩歸籍此種情形實堪憫惻相應懇請

聖慈准其仍照三年即陞之例俾微員得慶生全且此內儘

有才能之員將來感戴

天恩自必益加竭力報效其州縣以上等官仍照五年報滿

題陞緣係條陳事理字多逾格貼黃難盡伏乞

皇上俯賜全覽敕部議覆施行

請展廣西案件限期疏

李紱

該臣看得粵西南太柳慶思五府屬各州縣居民多屬

荒山蠻苗獠獍十

遇有承查拘審事件不無負固抗匿且距省寬遠一切  
文移多需時日是以案件不能依限完結者往往有之  
前據南寧府屬之永淳縣知縣朱琰詳稱湖南距省寬  
遠有苗州縣奉行一切事件俱於定限之外各展限兩  
個月廣西南太慶恩四府事同一轍可否援例等情經  
臣批行布按二司查議嗣據該司詳請移查原案隨經  
臣移准湖南護撫臣朱綱抄案移覆前來又經行司查  
議并飭各該府查明程途分晰造冊詳

題去後茲據布政使黃叔琬按察臣白洵會詳稱湖南所  
屬距省寬遠有苗州縣康熙四十七年內既已具

題部覆奉

太平府志

卷之三十八

藝文

旨准展限兩個月完結欽遵在案則西地一桂平梧州

四府雖有苗種例多向化距省近州縣置議外其餘

南寧太平邕州慶遠思恩五府州屬州縣居民多屬

猪種依山結寨賦性蠢頑兼鄰省移壤凡遇承查拘

審事件不無負固抗匿地方有司必須籌畫至當多

購緝實與湖南之生苗相同且水陸程途遠近一二十

里不等一切文移往返動需時日且南太慶恩四府

有統轄土司實與衡州等府所屬州縣七州等處

寫遠無異應照湖南成例

題明除新舊交代以及奏銷兩項編審

計各案仍照舊例依限完結其餘一

個月

案件俱照六個月例限完結至命盜等案原有定限  
請於各定限之外俱展限兩個月完結等情并造冊呈  
前來臣覆查無異相應據詳

併懇

一視同仁比照湖南有苗州縣一例展限庶例限酌乎  
至中下吏免受枉叅遲延之咎矣臣謹會題伏乞

上虞鑒敕部議覆施行

議

撫恤土司以靖疆索議

國朝 崔維雅

查粵西四十八土司雖在化外亦隸版圖有明岑猛之

亂雖以盧蘇王受至動數省官軍究以招撫了事王

太平府志

卷之三十八

藝文

七

成之功至今膾炙人口至我

朝以來土司歸化世循舊典未嘗有如明季叛亂騷動有

事剿除者頃逆賊煽禍不無從亂旋即投誠即其承

一節土司不得自主必聽斷結於

朝廷之流官可以見土司之歸命矣其爭襲應襲諸案向

來積承問官藉為奇貨往往至四五年不結因而賄

賂日滋更有乘機借貸之人乘土司需用微利至數倍

者是大有恃於

柔遠人之意此從前之流弊也查土司承襲事隸本司

門詳憲定案今後凡有爭襲應襲等事到司即行

不許耽延立取宗枝親疏圖諸部計甘結片言可剖

承問官游移耽擱滋賄賂之門長奸狡之風將問官揭  
報糾叅如有從前積弊嚴行禁革不使朋奸刻剝則土  
司樂業歸

化之心益固變亂之萌潛消遠人皆吾赤子邊圉安於磐  
石矣

移兵駐防思明說 呈大平府 高熊徵

查思明土府田無頃畝只額徵秋糧米七十五石五斗  
每石折銀七錢不過共銀五十二兩八錢零耳前明全  
盛時稱有九百餘村今不過五六百村耳其四寨五圍  
則屬軍廳所轄每年徵學用銀一百五十六兩其餘俱  
土府所轄田雖廣而民極貧安馬四寨素行剽劫號為

太平府志 卷之三十八 藝文

盜藪今則不獨安馬四寨雖附近各村亦然總因府城  
無兵無戍只土城多半崩缺任其橫行夜聚曉散或

放人魚...八十有近則明火劫掠或燒屋或斫人矣  
有司...具報土人悉聚...亦祇合究離

太平府一百餘里既輓長...營三十餘里然無  
統轄兵亦不...過而問之查植營之設不過為交趾各

隘耳今則交趾效順臨上實為無虞後初到思明閩郡  
紳士曾經具陳欲設兵防守誠恐糧餉無措今道管設

有守備一員千總一員戰守兵近三百名議以守備...

兵一半移守思明千總留一半駐防...無煩於  
餉實可資乎...府恐有盜案相連事尼不

行今盜竊紛紛若能前行之實可鎮...少得

新太亦撥百石尤加聲勢蓋土人風俗狡薄與風而不  
懷德趨利而少媚睦睚眦之怨雖至親亦必與訟至於

地方強暴縱奉上司拘提多抗不出或半路搶奪或具  
文請銷百種怪異故惡者不能剪除而善者反遭陷害

若有官兵則後有拘提必不敢抗拒亦無能搶奪矣弭  
盜安民計無便於此者...官移兵必當詳督撫提

鎮題明方可舉行... 高熊徵

陳為請革頌風以成雅俗事竊惟聖人立教首重倫常  
賢者治民必先禮教我

太平府志 卷之三十八 藝文

則文德誕敷薄海內外罔不幸俾至於異國道子入侍選  
邇悉戴恩光聲教之隆亘古莫及思明自朱治平即予

世襲漸沐華風計將七百餘年雖建學始千萬歷而賢  
才何代無之如黃質成之締交解學士黃承祖之矜式

蕭尚書此皆克自振拔不為流俗所域今其橫經而稱  
士子受事而為目民言諸衣服與漢何殊惟是積習移

人頹風未改即閩郡皆用火葬則送死之道非若夫兄  
死而弟妻其嫂弟死而兄妻其婦則兄弟之倫絕娶妻

不拘同姓反唇輒易其妻則夫婦之情乖以至閩門...

潔婦德無稱...及門之士...耳提而面命然官徵言  
輕終難使人以必從故...必賴主持風化之人

蓋上有好者下必有甚焉者矣謹列五款陳杜伏乞採  
奪施行

一禁火葬夫人人生本諸父母推而五服宗黨莫非恩愛  
所存故生事死葬古之所同按律從尊長遺言將屍屍燒  
化及棄置水中者杖一百惟亡歿遠方子孫不能歸葬  
而燒化者聽從其便乃土司習俗父母死輒焚之徐收  
燬骨埋於土中謂之火葬以至五服宗黨莫不皆然夫  
人必罪重乃至掃灰父母親黨何辜而至於燬體仁人  
孝子何忍見聞此所當亟為禁止者也

一禁弟娶兄妻兄娶弟婦夫兄弟天倫諺云長兄當父  
長嫂當母禮男女不同禮架以厚別也兄嫂弟婦之間

太平府志

卷之三十八

去

為別孰厚焉土司地方其天性友愛孺童送素者亦不  
乏人惟是兄死而弟娶其嫂弟死而兄納其婦儼然仇  
儼至長子孫父母不以為督婦家不以為言習既成  
恬莫知怪設起死者而見之真不知生者當置何地  
也凡若斯人廉恥喪盡欲望其一堂聚順其可耶夫  
兄弟爭財古人猶以為鄙况滅倫敗俗一至此乎此又  
當亟為禁止者也

一禁輕出其妻夫詩首關雎易始乾坤蓋有夫婦而後  
有父子有父子而後有君臣有君臣而後禮義有所措  
故月老檢書紅絲繫足雖曰人合實由天定即禮有二  
由則不去者三是以偕老之咏期以百年風化之

貽諸奕世土司風俗其為妻子奸合如鼓瑟琴者亦不  
為少有等輕薄之流娶妻不問家門或漁其他或貧其  
財遂成匹偶迫財盡而各風興味色衰而白頭者吟  
爾新婚以我禦窮殊足悲也甚者今年娶婦而明年棄  
之而棄者不知何罪一人之身已幾易其妻而嫁者尚  
忘其醜以至夫妻道苦淫僻易生傷風壞俗莫此為甚  
又所當亟為禁止者也

一禁同姓為婚夫娶妻不娶同姓禮文昭昭買妾不知  
其姓尚卜之何可紳紳土司地方昏娶惟身家年貌是  
問不論同姓以至姪妻其姑姊歸其弟演倫莫大焉已  
往雖不可救將來亦當禁止

太平府志

卷之三十八

七

一禁士子妻室蠻服夫衣者身之章也妻者身之配也  
士既躬身儒林必當儀型妻子思明雖係土司立學已  
多年所輒見土司婦人椎髻黑齒跣足綴鞋襪太可以  
搖風衣則僅蔽乳上裙雖繫于乳下長至拖地俯仰之  
間肌肉盡露在彼土人固無足怪何乃士子之妻亦皆  
效其所為雖曰習俗使然但所稱刑于者其謂之何今  
縱不能盡變其蠻俗亦宜首嚴於士人倘有生員之妻  
仍然蠻服責令學官申報戒飭示儆秀才之家既變則  
頭目容民相觀而化不難矣

以上五款皆大關於風化卑職以為禁止之法當始於  
學校首於郡城始於學校者卑職於月課之時將五

詢於諸生有犯必以其果孝弟足稱齊家可法考校之期即得以優行舉揚若囿于習俗犯此五禁考校之期即得以劣行揭斥首於郡城者思明四門有大總三街有鄉約朔望之期令有司以前四禁詢之大總鄉約有犯必改一年之間其轄內之民四者無犯即為美俗當旌鄉約大總輕者花紅重者匾額以示鼓舞若有犯者許即首報責懲倘鄉約大總隱不首報察出并治以不能覺察之罪如此則人人思賞畏罰必駸駸乎皆入于善而風俗不難移易矣抑尤有說者卑職前在桂林見朔望講約設有善惡二簿善者旌而惡者責凡有罪者俱於講約時發落俾民心知所觀感今見思明府雖有

太平府志

卷之三十八 藝文

七

鄉約所經年不聞講約亦安用此鄉約為也并宜飭行以助宣禮教者也卑職職司教鐸志切維風如果其言可採懇祈檄行太平府及思明府清軍廳同相董率大張告示曉諭期在必行將見頽風立變雅俗驟臻其於教民成俗之意未必無小補也

條陳土司利弊

甘汝來

竊照太郡各土司稽其由來皆自宋治平時從征有功錫茲土職歷朝鞫靡弗替義與荒服之外咸建伍長相符然其地連流屬隸治流官久沐華風非同化外更有一二屬建立學官課習儒業駸駸乎衣冠文物漸將中土顧惡習不見少移官則貪漁無厭民則搶殺頻仍

非特險遠謂法可倖免兵難驟加所以兇頑日熾趨愈下卑府抵任之初頗聞陋習再加廉訪之後深識頽風嗟彼子遺忍聽其弱肉強食而不恤念茲邊土豈堪此風聲鶴唳之時驚不圖拯救之端罔副好生之德謹將應興應革事宜逐一臚列呈請憲鑒伏乞採擇施行

一官屬之爭襲宜杜其端也查土官有故絕者其親屬往往越序爭替動萌殺機彼此聚黨互相廝殺土民有不附已者輒行抄搶其家是設官原以安民而民且先受設官之荼毒矣然其端則起於知府之貪其重賂意持兩可律例無辜不肯據理早為決斷之所致也請自

太平府志

卷之三十八 藝文

九

今以後遇有土官故絕者即時報明該管衙門立刻弔取宗圖族譜先別其族屬之親疎次辨其房分之嫡庶先後其間之應襲不應襲者自判若黑白矣替襲之人既定一面照例取具各結連宗圖族譜詳報各憲一面揭示該地方指明其應襲則眾望歸而覬覦之念息民情定而鼓煽之術窮矣其或有乘機聚眾負固不服者即檄令附近各土司會兵擒拏仍一面飛報各憲相機撲滅庶搶掠屠民之害可杜

一勸懲之法宜均施也查土官中有犯貪婪殘虐者仍行拿革其有恪守官常者從未定有獎勵之成規彼謂縱勉力為善終無見錄不無沮廢之心請今後

戶部計者應隨事詳明聽憲察核或行牌優獎或給匾  
褒揚使知為善之樂則善者益勸而聞風者亦將奮然  
興起

一詩書之澤宜遍被也欲善風俗必先正人心欲正人  
心必先興教化每見一鄉之中愚頑雜處間有一二誦  
說詩書敦行禮讓者則一鄉之人皆知教而禮之士民  
族類雖殊究亦同此心理宜令土府州縣各捐建義學  
一所延品行端方者為之師率官族及士民中之秀者  
入學讀書每年將在學肄業生徒姓名造冊報府五年  
之後各將頗通文理者送府考試即以應試者之多寡

太平府志

卷之三十八 藝文

三

定各土司之優劣薄示勸懲使知鼓舞則詩書禮樂之  
化漸臻而風俗人心或可少變矣

一應襲之官男宜及早教育也承襲者率以年至十五  
為合例彼弱冠時即居民上苟不讀書無異一木偶也  
積奸頭人視愚稚可欺乘機滋事最為民害請飭以後  
凡序應襲者自幼必令延師誦讀講明倫常大義畧請  
治體斯奸徒知所顧畏不敢肆其欺詐是亦除民害之

一要

一官妻之協理宜永禁也查土官身故男幼例以官妻  
協理以致積惡頭目欺其無知易於壅蔽輒在外生事  
官生事或熾熒之議影彰道途夫

朝廷之印信豈容穢婦掌用甚且有急圖協理毒殺其夫  
者應請勒石永禁嗣後土官身故男年不合例者即在  
官族中不論親疎令土民公舉端方諳事一人暫行署  
理但不得與故官妻妾同居以別嫌疑

一積年頭目之亟宜革逐也查各土司頭目亦世代傳  
充盤踞把持無惡不作遇事指一科十過倍分肥土官  
之罷軟者酒色是圖倦於聽斷往往批委審理民詞居  
然以官法從事故土民平時見之亦輒行跪叩禮儼然  
又一土官也委任之久漸至恣肆鴟張而土官已受其  
脅制敢怒而不敢言土官或稍聰察約束緊嚴不便於  
已輒生怨望甚或勾通左右親族暗圖毒害土官畏之  
直如芒刺在身而又不能猝去也種種兇頑誠堪髮指  
請飭土司將此輩槩行革斥另召老實者充役敢有不  
服革逐者即鎖拿解府按法重處仍將新役名數造冊  
報府稽查去此巨奸官民得安衽席

太平府志

卷之三十八 藝文

三

一土司之科派宜酌革也查土官歲有田畝租稅又有  
相沿舊例如婚嫁喪葬等項規餽之入在土官已坐享  
豐厚在土民已苦於供億而貪婪者尚於額外巧立名  
色百計誅求邊鄙窮黎奚能堪此今後除租稅規餽外  
不許一毫妄派并令每年終先將租稅規餽數目造冊  
報府存案大年春出示各村照額輸納如有濫勒即許  
赴府控告嚴審詳奪如無吉凶事務之年規餽亦免除

此苛歛士民之困稍舒

一火葬之惡俗宜嚴禁也查各土司舊俗凡遇父母及尊屬卑幼病故不行棺殮即舉火焚化拾灰骨瓶貯埋葬可為滅絕天倫忍心害理之極請飭永禁嗣後凡遇死亡其衣棺厚薄隨家有無務必依禮殮殮聽便安葬責令該管土官不時嚴查有犯即申府詳請按毀棄死屍分別治罪革此惡風不異枯骸被澤矣

以上所議各條見出管窺議多迂濶自未能切中其宜伏乞俯賜採擇核奪舉行俾頽風少挽邊土稍寧官民將頂祝於無既矣

太平府志卷之三十八終

太平府志卷之三十八 藝文

三

太平府儒

明邱濬

國家受天休命

上帝以治以教際天所覆之地凡具人

形居地之上

以安其生復其性廣西左右衛江在嶺

嶺以南之邊境

唐宋以來固已州縣之然至今守宰猶襲用

其土酋學校

尚未遑立惟太平一府其守臣特出朝命常調

且建學立師

俾以教焉兩江州郡前此所未有也成化丙申

番禺何侯楚英

來知府事慨然以教化為意凡可以為一郡

之人變化其習

莫安其居者無所不用其心大要欲其民風

太平府志

卷之三十九 藝文

土俗一旦與中土

等任末期年政行化施民徭胥悅乃與其

佐同知韓廷或

通判蔡顯推官陳宣等謀曰左右兩江皆無

學而吾太平

獨有學太平之支郡屬邑皆無學而獨府有學

是則茲學之建

其標準之所示者廣風化之所及者眾非內

地他學校比也

茲歌俎豆之地師生之所蒞止民彙之所瞻

仰為政首務

為法乃鳩工庀材重加修葺規制宏壯藻

飾華麗視舊

蓋有加焉既成適生員陳鼎趙馳應貢春官教

授羅胤具事

以記來徵惟天在上其形穹然而下覆乎地

地所至之處

惟乎海而止凡在寰海之內莫非天王之地惟

所及者有先後

故其人之歸化者有遲速苟有介

人在上惟其教化而期及之

...帝三王之盛其所治之地四方相距亦不其  
...以後世之職方可見也洛陽為王城

...其境東之乘車介莒皆樊地也淮南  
...乃鮮虞肥鼓國河東之

...而亦有赤狄甲氏此外荆楚吳越閩蜀又皆在荒服之遠中國  
...所有者僅宋晉齊魯衛鄭通不過十數郡耳自時厥後

...疆界日拓而遠向之荆楚吳越閩蜀皆為內地其聲明文  
...物之盛顧若友有浮於宋晉齊魯衛鄭之舊者蓋天旋地轉

...氣運隨之而遷移而又有承流宣化之臣乘治教休明之時  
...權其機而幹運漸摩以成就之焉則夫左右兩江之間其轉

...移通變之機安知其不本於今日茲學之設乎何侯雖為一  
太平府志 卷之三十九 藝文 二

...神立學然所關係甚大而遠後之繼侯芳躅以治以教於茲  
...者尚當體侯之心汲汲然皆以教化為心而士之生於茲地

...受侯之教養者皆從事於學孜孜不已與凡支屬之邑接近  
...之壤聞其風者相與感發慕倣學周公仲尼之道亦如今日

...荆楚吳越閩蜀之區出而與北方之士相後先其將自此始  
...耶何侯與此學其關係之大且遠如此不顯為一郡也

...負聖天子所委任而克相之於是乎見焉侯字邦佐世居廣  
...之番禺自監察御史知柳州府事丁內艱改今任三

太平府燕居廳壁記

...行燕居廳大夫公退於是而委蛇自適

太平府志 卷之三十九 藝文 二

...掩有四海時已立矣山川繁紆宛若盡  
州十五而縣四習俗多異額附郭三廡

...在廣西邊境固未易治凡官於是者視諸  
耳因循苟且延歲月而已耳且泥于風水治廳面西而居百

...有餘年成化丙申何公奉命來守是邦顧是廳偏隘而非所  
宜乃相地勢於中正改位面去 捐已資以廣其基考卜維新

...採良材於山工師效勤監護章 創始於 年十月十有五  
日落成於成化丁酉正月六日廳堂於其前寢室於其後總

...若干楹棟門牆煥然一新圃中鑿池植養蓮菱四時花果  
百種菜茹又作小亭以適清興然費出囊篋力用家乘未嘗

...役于民也蓋公之歷事建事功于郡邑在在有矣由科目任  
太平府志 卷之三十九 藝文 三

...陝西道御史忠直以忤權要謫佐貴縣修學校撫良善平蠻  
寇巡撫都憲韓公以公之廉能上聞

...以持已明以治人第 雜答柳城 而復  
任於此燕居成而洋官作焉 餘資經營置買易民

...用擴學址殿廡堂齋櫺星戟門文昌神祠師儼舍與夫  
泉分司城隍廟宇合祠壇俸郡西城垣固不修美而不煩

...民匪直楚也所屬州縣流土之職幸所號令而猶草之風  
羣黎而各得其所邊境晏然豈非公之仁愛所致歟政務

...暇燕居之時益思所以上副朝廷安邊之意創功立業亦  
以壯觀朝廷之盛予忝職郡敢稔知其所 宜謹述俟

...誌於廳壁俾其將來知公之練達者感寬不厚

太平府志 卷之三十九 藝文 三



而百廢具興詩曰高山仰止敬羨歎觀其棠而思名伯  
不懷感於公而無窮乎公姓何諱楚英字邦佐世家廣東番  
禺之宦族云

養利州公堂記 正德元年

姚鏐

自太平而北 養利州土守也宣德初以僭逆誅朝廷去土  
官弗用設流官同知判官吏日以理州事者已五十餘年成  
化間郡守韓廷或言其非便 定去同知與判官  
弗用設流官知州一與吏目一以理之 二十餘年然其  
俗本變而流官至此者亦復變之故官與民恆 而不能  
以相適况復有所改於其俗乎 侯爵既得命來視  
事始以慈惠撫民民用帖柔 乃告其眾曰吾命  
太平府志 卷之三十九 藝文

吏若州主斯土而儀觀不傳

治意哉吾與

若更新之可乎眾皆曰然於且

有後匠能

工乃就其土之高爽者登

為庫為室

之前為樓為門臨落有所蒸休

可晝夜出入

有禁凜乎公府之規矣又即其

亭以飭里

閭為社學以教子弟為公館以居四士之賓

取其幽曠靜

潔者為城隍廟為山川社 州局三壇 祀之以嚴祠宇

無城為之垣其四周而 兀垣為門所以備保障也城之外

有水五悍急不可渡為之杠梁其上而或構亭以望所以利

濟涉也夫以荒墟斷落之蕭條瘴癘江濤之險惡而能月終

歲葺悉去其陋一旦使官有寧處神有恆棲居者有固守

之於是州亦勤且勞哉况其所謂民者復知其  
樂通書寫以為業衣冠文事漸即華風若是者皆  
所及也侯不謂之賢哉夫昔之潮與柳皆蠻也翻

一柳子厚惠之凡城郭巷道皆治而其民亦始以樂生  
然則天下之俗成乎其人亦多矣使先此為守而皆若  
任之今日則其效當不止是使他州之為守而皆若侯之為  
心則其可感而化者又豈養利之民為然哉顧乃因循玩愒  
往往一遇其所難而遂却足自廢其可嘆也矣侯字德器江  
右吉水名家嘗訓於吾慈有善教慈之人至今愛慕之予亦  
辱侯之教而愛且慕尤深焉潤別十年餘偶以宦遊相值方  
太平府志 卷之三十九 藝文

幸有會於侯而又喜侯之能於其政也故為書其槩以歸之

土人俾鑄之石

鐘樓記 嘉靖元年

鄧炳

自京城達於各省府州縣鎮莫不有鐘嚴夜禁戢奸惡載之  
制書較然矣太平舊有鐘樓在府治之右偏陋狹隘鐘去地  
盈尺兒童皆可摩挲殆非樓也強而名之爾正德丁丑歲予  
來守是邦視其弗稱亟欲新之值歲連歉民無蓋藏費用百  
出官無羨餘工匠之費益從於內地則其材木可知矣鳩工  
之念屢萌而輒抑歲辛巳頗稔阜民門樓撓折益甚乃以安  
遠廢樓之材易腐為堅雖有餘一二猶未足以辦此復益以  
在湖十金山於崇善典史詹春敏於從事於是相地於府

之方謀之僚屬士民同贊共決爰築土為基金與城平命  
為樓方廣二丈有奇高如之經始於是歲季冬癸巳落成  
於嘉靖元年孟夏甲子財力不出於民奏功易成而人弗沮  
其鑄造自漢代來自交州鈕象蒲牢四足缺一上有墨痕匠  
者告以改鑄以免墮之患且得勒名于上其實欲規改鑄  
之利也顧以舊物不可變而名不可貪擇日遷鐘鈕竟無患  
有運而言者曰鐘樓之楚實登一邦之觀瞻且足固一邦之  
風氣鐘普卑而今高聲洪而聞遠此都人文其將自此浸盛  
乎子應之曰苟利於民固官斯土者之所宜有事也敢自以  
為平哉遂伐石以紀歲月云

胡公祠記

府志 卷之三十九 藝文

六

興享有土宇蟠際天地乃畫置守宰基分珠貫用寧又民  
承衍天子而太平郡去京師為里幾萬凡官守茲土以其  
若屏置之不自奮飭污蔓最蕭四疑鄙其民先國家所  
以休來遠徼之意至正德改元三年毅皇帝以南京刑部郎  
中胡公世寧來守是郡公仁和人舉進士官歷內外廉方明  
惠聲有聲稱用是試之而公亦不惟不以遠自嫌棄方以盤  
錯展其平生乃按封圻謀野酌便煦休振刷吐布誠惠與為  
更始郡屬多土官故相習為反驚不庭謁太守而守亦防猜  
不脫弛情意益隔公至即以檄約如期至傳令其下皆甲前  
入共詣堂皇公凡所指諭中其機牙固已縮汗嚴憚終不敢  
以貨產稱贊獻比翼日公出臨其營觀其酋騎射與談語

久乃還其子男應襲官文移上下漏隙干吏議必為修檄拾  
全改土官又皆以為太守愛已由是招麾惟公命思明黃文  
昌輩素稱桀驁一呼皆伏警階下獨太平州李璿攝事久乃  
冀得襲不復仰稱兵拒命公密檄龍英州趙元瑤討之焚其  
州璿奔保山寨瑤就圍之公以縑一端遺瑤署其上曰討固  
在辨其下無罪今以勞苦克之日不得妄戮一人語聞其下  
皆散去卒生得璿所活幾萬人郡勢而版阻江而背獨無限  
公庀材具量舂揚城壺關城中婦子乃始帖席臥其為政大  
都急在學校均稅役完城積穀簡練兵質而猶不聽者乃以  
威斷收攝之用是數條十事上督府陳公今多見施行明年  
二月公以母喪去位民相與挽留不能得後四十有六年嘉  
靖癸丑臨海王宗沐來視學事郡生泣而請曰遐徼陋遠不  
得望見天子素隔蒲澍凡今諸生與父老能安於業與學緊  
所以哺植麻履之由我胡公而祀無特祠非所以稱郡人心  
惟先生圖之仰惟國家置吏急存黎庶眾方擇應邇會不移  
時而名譽亦沉泯獨公任既退阻且在官纔暮而民思至今  
非有浹洽肌膚其何以然守官如公實應祭義乃以請於巡  
撫兵部侍郎應公積巡按監察御史朱公有字立祠為位春  
秋以羊一豕一黍稷黍羞祀公公既去太平更歷藩臬撓致  
藩宸濠幾死後更至兵部尚書諡曰端敏公操介苦絕傲衣  
糲飯獨秉持大綱抑豪右弱峻發堅厲至捕擷眾忌氣雄萬  
夫其所學通易春秋世稱名臣公邑人許公應元來為副使

太平府志

卷之三十九 藝文

七

時與宗沐道公允詳以非那事不載祠成新太守何君派行  
 請文宗沐為之詞使勒諸石詞曰帝臣萬方始郡太平龍蛇  
 赤子理將何憑不刈且憂不撫遂驚嗟嗟胡公期政是程惟  
 公之來爰咨其俗爰咨爰處心通慮獨公曰嗟來匪民實仇  
 不得輶輓突駛宜跳惟予父母其育其教彼嬉而乳公摩其  
 首彼跳而狂公械其脰昔駐於郊今甲而入昔望而疑今臨  
 其室惟昌惟瘡狼戾劫燔公刃若霜公農如淵順生逆極中  
 蹶抵骭兀爾酉醜匍匐歸遯郡面三方城缺其北盜來履平  
 雞犬殷蘇公曰百姓其偕來築男升而扔婦餉之粟盜望而  
 嗜民寢而葺民曰胡公惠我孔時凡今為吏所急在私鼎有  
 棄肉民厭糠粃我桑我麻伊公來耔民曰胡公惠我何久凡

太平府志

卷之三九 藝文

八

今為吏躡前鞭後席不欲溫遲顧我我老我幼伊公來阜  
 思公報公祀事孔嚴濟濟後後黍稷豆籩子弟父兄拜舞且  
 虔公生惠之鞠之揉之豈其廟貌而不我庇風煦雨濡稻實  
 豚肥鐘鼓考考祠於世世刻詩在石

平定安南碑

嘉靖二  
十年

羅欽順

安南黎氏受命天朝以有其土六傳而至於讓權移身窺不  
 復能國其臣莫登庸者因而據之踵襲故常妄自尊大兩廣  
 暨雲南撫臣廉得其實具以狀聞皇上赫然震怒謂黔首敢  
 爾悖逆法所當討遂允廷臣之議將興問罪之師兵部左侍  
 郎兼都察院右副都御史蔡公經方提督兩廣軍務首被命  
 調集兵糧相機撫剿公博謀精慮規畫皆以時定遂檄諭

庸父子使知大義所在迷復必凶復勝論其國中士民御合

倡義輸忠以轉禍為福賊黨聞而備恐然猶時出謫計既卒

不得遂乃具降表悉以其土地人民之數來獻伏聽天朝處

分公於是為通其表於朝僉謂夷情叵測且臣禮未純不可

許上以為然乃申命威寧侯仇公鸞總督征討諸軍兵部尚

書兼都察院右都御史毛公伯溫參贊機務爾書敦遣授以

便宜之權二公乘傳至梧聞賊計尚懷猶豫毛公曰是制之

在我乃更徵問登庸乞降之誠何以表見度其未即應遂指

示諸將佐分領精兵十餘萬列屯界上將尅期進取賊益恐

亟以書來願東身聽命削僭號奉正朔歸侵疆土地人民悉

聽處分者一如前章而哀懇加切二公乃以便宜許受其降

太平府志

卷之三九 藝文

九

直關城之北為壇至日味爽設龍亭於上覆以黃幄旗纛儀  
 衛以次畢陳文武官僚分班拱侍門既開登庸繫頸以組令  
 其姪文明表前進躬率諸小目及耆老人士跪而趨至壇  
 下俯伏以代表事者宣布朝廷威德莫不竦聽乃受其降表  
 登諸案而釋其縛登庸仰瞻黃幄拜稽益恭其國人遙列關  
 外者亦皆北向稽首無慮數萬少頃登庸遂趨詣軍門俯首  
 再拜跪聽訓辭總戎為言自非皇仁如天汝安得復有今日  
 其歸侯命於國中復再拜而出喜浮頰面嘉靖十九年十有  
 一月三日也於是閉關撤衛固封守公私上下皆相與事  
 事如平時惟呼之聲不踰旬而徧於四境流聞海內莫不熙  
 熙如也降表聞皇上察其誠至特矜而宥之復念其士民未

請之勤授登庸安南都統使仍許世襲論功酬勞毛公加太子太保蔡公陞右都御史仍舊鎮暨仇公均受上賞其餘陞賞有差於是廣中諸士夫相與言曰自古制御蠻夷固非一策然或傾天下之力而後濟其亦億矣今茲之役師集而未行糧具而未裹而登庸悔罪乞降皇皇焉如弗及是豈偶然也哉良由我皇上神武聖文聲光暢達於無外故綏之即來二三大臣一以尊主庇民為心而不為身謀故誠無不動信可謂無前之偉績也然非託諸文詞施之金石將何以垂示萬世乃具書幣遣梧庠訓導劉鐸來謁余文欽順臥病山廬既愚且老然事端初發亦嘗不與眾同憂及茲側聽懽聲又不能不與眾同樂雖文辭萎弱竊以為晚年之幸殆無以加

太平府志 卷之三十九 藝文 十

此諸君有請其又奚辭顧茲役之預有勞者武列自總兵副參下至千百夫之長文列自撫按藩臬下至庫堯巡邏之微不能盡載官爵名氏謂宜著在碑陰並垂不朽若參政翁君萬達則勤勞最著眾論攸歸又不突不表而出之也其事既備遂聲之以詩詩曰虞有頑苗迷帝之則師弗窮征終然來格茲事遼闊累代無聞不圖今日見此殊勲迓彼安南世修職貢黎裔浸微賊臣乃縱涓涓莫禦遂至湯湯逞其詐力亂我天常命將徂征皇威有赫將則元侯上卿贊畫撫臨重鎮亦既得人萬全之舉屬此三臣調度既周詢謀亦廣文告之辭明如指掌白旆旆虎旅桓桓先聲所震洵甚驚濤企仰軍門輸誠恐後函表義書戴星而驟重關夙啓黃帷高張素

上請天子曰嘻澗鱗窮獸忍弗生之悔悟方新惟新是川仰為都統以輯其眾交人驚喜有頌曰天百拜稽首天子萬年思昔舞干文德何盛媿美重華惟皇明聖除兇有命大義率彰包荒有容祖訓彌光亦有忠良齊驅並力動必應機謀無容隙陽開陰幽默契皇衷何頑不感何塞不通南徼既寧萬邦丕慶正德厚生式符嘉靖洪纖咸遂飛走攸同勸辭

白石以節無窮 歸化圖記畧 嘉靖十六年 田汝成 左參議

太平府志 卷之三十九 藝文 十一 歸化圖者龍州僑官家宜陽諸十八村也故為左州屬左州土官黃仁之謀使人私於龍州趙奎曰仁不忍

宗祧之故而有關精 領寡援仁又素貧願以君之靈定之使仁得奉其祭 先人之土田不敢愛其以腴沃若儻宜十八村者為 沐具四十年奎欲毋聽或說之曰左龍隣也緩急人 有漁鄰周急仁義事也奈何勿聽夫彼與其弟爭欲以 不愛其土地而求貨於我事濟是我有大造於左州弗 十八村首自在也君何恡焉奎許諾假四千金卒定仁 後四十年而奎子帖堅嗣左州以十八村請帖堅怒曰我生後未燥固知十八村我屬也弗與後仁孫昱以罪誅左州置流官龍州喜曰莫予奪也已帖堅六傳而至趙源源死而有韋應之禍龍州亂無主都御史 趙淵以官讓其兄子寶而令寶 貢關

者三十一年  
八村矣然左州太

平府屬龍州則否而十八村環太平府郭又太平故無附縣

於十八村為左州則太平不以通為龍州則太平孤立土

酋重大懼不能自存正德間知府胡世寧詳督府請追奪龍

州十八村還太平置附縣視他府時不主其議實路楷時亦

有言於督府者督府方幸楷還寶官不暇省嘉靖十六年楷

復弒寶而朝議有交南之師太平當交人首壤於是府八訴

軍弱愈急且曰即有警是無太平也督府憂之屬兵備副使

翁萬達為計翁曰太平以十室居土酋中何異肉處虎口奉

平無以自存矧此軍興夫楷三弒主而自立一旦慮誅合謀

交虜襲太平以提我搖動非小請先誅楷楷誅則村復村復

則縣立縣立則府實乃可有爭設計擒楷傳翁倫楷諭以立

其子不絕趙宗因曰汝子三尺之嬰必立之者以趙氏世有

龍州所謂定分也龍州亂垂三十年一旦待禱拖而定者以

寡奪必討罔可逃刑所謂天憲也汝不死不足以明憲十八

村不出不足以嚴分楷涕泗請死曰即是所以生楷也手條

列十八村籍上之翁乃徙崇善縣附太平府而以十八村為

崇善縣歸化圖編戶十里檄知縣徐鎬指揮王良輔經理其

詳鎬良輔來言曰新民多偶語疑有變於是翁曰督府下令

以十三事撫新民內二事定賦稅二事均役力一事言立社

學教弟子事畢而楷妻黃氏亦時時向州曰農賢輩流第

八村故左州屬若輩無觀  
新民大定崇德論曰魯頌有言戎狄是膺荆舒是懲

孟子亦曰用夏變夷未聞變於夷者也夫有苗弗格文德是

動鬼方三年遠役未憚何者區域有殊台生則一則聖人內

夏外疑仁至義備法天資始體地舍宏內寧之餘外顧不廢

以故人文日開聲教遠被四裔十八村者穴蟻輟麟何所輕

重歷年既高遂落戎心嬰情金玉徘徊難助彼狂何知日尋

彌亂是故忠州之酋宜撫而四裔之富不可繼也龍州之孤

宜恤而十八村之約不可寒也於赫翁公執我天憲戡亂以

正刑拔餌以信憤繼繼仁徵盟以崇信膺懲協謀變易

合道不其偉歟說者謂龍憲之變為始條理事南太此舉為

太平府志 卷之三十九 藝文 三

於彼似為雍容爾乎於戲輪轅既飾或摧於荷楫柁備施

武泗於波收彼粗悍如捕犇翔置我藩籬飲啄無擾而且友

側悉心覲覲絕計孰謂終條理者為易耶智者知之可為

道也 太平府重修學宮記 嘉靖三十八年 黎澄按察副使

廣西太平郡舊有學矣今復重修何也夫古人重改作况凋

敝之郡乎及觀於易之盡而後知改作之不可已也夫天下

之事既盡則有復治之理但治盡非易事故曰先甲三日後

三日蓋前事過中而將敗則可自新以為後事之端後事

學自成化年間太守何君修葺之後今百餘年風雨所侵  
 圯壞日甚此盍則思治之時也守土者其能以愜然乎太守  
 章公諱以丁巳八月來守是邦詩書禮樂之教得於庭訓者  
 數矣蒞官之始即加意文教比及三年庶事既修乃移檄撫  
 按議重修焉諸司咸允其請而士子亦爭樂成其美遂捐俸  
 以始事諷日發告精白乃心而木石得庀工程之類以次調  
 度役不及民焉是役也丑肇於庚申三月三日而告成於辛  
 酉正月二十六日丁亥仍其故址悉易以堅緻之材文質具  
 備竹苞松茂之規模然一新而士民胥以改觀天其將以啓  
 太平文運之隆乎夫太平自有學以來士風幾於不振其盍  
 太平府志 卷之三十九 藝文

西

也極矣一旦舉而新之非謂先甲三日者乎凡所修葺規模  
 宏遠皆可以為啓佑之曰非謂後甲三日者乎章君之所  
 以振民育德蓋有道焉而後學之不可已也况太平荒  
 服去天萬里子承風教之司無以祇承上意以為遠人  
 之倡蓋不能不賴於良有司也夫聖人之德澤汪洋浩蕩如  
 水行地中無所不至但疏鑿塞導其支流而使之沛然溢於  
 四海者則存乎人今我皇上御極壽考作人紀綱之化極天  
 地之所覆載莫不尊親德化之隆萬古一見者也而所以  
 承流宣化布之於遐荒之地者其責在予與太守共之也苟  
 欲安民莫先於厚風俗欲厚風俗莫先於重學校欲求平治  
 之策而不先教化是猶涉江河亡舟楫其何能濟况欲用

卷三九原書缺第 15 面。

身不能恕於懷者雖以述職行邁亦終不以此而自怠教養  
 之心也廂民程九垓質敏而志篤才瞻而學充老於巖穴無  
 慕乎外一日以詩文數百來謁予喜其生長邊徼而文采之  
 不類編氓也問其衣食所資則曰耕稼課牧之暇惟以訓詁  
 子姓沈酣書史而已予乃特出意見激獎其居署曰幽垣而  
 別其稱曰逸史云一日以社學傾倒乞修整俾得率童釋肆  
 習其中予諾之而未遑也則曰日本府社學僅二其一在上廂  
 名曰仁育其一在下廂名曰義正皆建自周公一書已閱一  
 紀而學務不興垣頽毀敢告執事願率圖之遂命鳩工庀  
 材百堵版築有門可以時啓閉有瓦可以蔽風雨閱月竣事  
 吉日惟戊擇冠者五六人童子六七人相與佔畢鉛槧其中  
 太平府志 卷之三十九 藝文

六

蓋彬彬乎絃誦之可觀也乃出諸幼穉而命之曰果行育德  
 太守之責也發包困擊師資之權也初筮告再三瀆瀆則不  
 告爾小子之所當研幾也孟子曰有為者亦若是彖傑之士  
 雖無文王猶與二三子藏修游息日以記誦章句為功變化  
 氣質為尚如人一出恭之訓洒掃應對之節已具載於小學  
 題辭優而泳之有餘師考之通志太平風俗士有禮義之習  
 民無受田之家予方喜汝父兄樂教子弟而又憫汝童穉分  
 爨之尚早也既葺學宮以振邊庠復浚溝洫以成稼穡而崇  
 德廣業可不於山下之險而寓養正之功乎又嘗披於易繫  
 天地之大德曰生聖人之大寶曰位何以守位曰仁何以聚  
 人曰財理財正辭禁民為非曰義而王道之易易也麗江

之郡漢屬交趾自唐宋至元皆土秩惟我朝太祖毅然改  
雖民彘雜處而沐浴皇仁日久材賢漸出由是觀之則仁育  
義正二社學豈非華俗為政之首務歟顧名思義可不勉諸  
詩亦有言弗替引之小子有造則亦不能不深望於後之君  
子一注意也別駕王君劍溪聞予言而作曰是誠端本之務  
久要之舉也奇雖不敏敢不協力以從事乎遂書之以為記

重修左州各處公署祠廟記

鄧體靜

左州公署自成化戊戌更治後向未營建至正德己卯知州  
李公欽承於古欖今州治右偏創正衙一所猶未定居也永  
康令徐公隆署篆立牧愛坊始表正方位癸未周公墨乃築  
城垣壇廟創制宇亭院坊表增修廨舍街道規制翼然公廨  
太平府志 卷之三十九 藝文 七

猶未暇也後丙戌方公紀龍建譙樓廳事尚仍茅土之舊迨  
乙未海州衛經歷鍾公鍊來署銳志興作門堂寢室庫園廡  
廟不期月而大成雖材質未掄輪奐飭而規模宏遠矣計戊  
戌至乙未更五十八載公署庶制始備厥惟艱哉嗣後官吏  
急於私橐土民利其敝而竊其餘日蠹月頽不二十年而名  
宦祠伏波廟社學公館社倉及申明旌善閱武諸亭山川社  
稷諸壇俱圯埽無餘獨先師城隍二廟雖存亦漸濕朽位座  
蒙塵神像剝蝕門垣弗治諸畜為廐嗚呼難得者人難成而  
易敗者事可與樂終而不可與慮始者天下民皆然也獨左  
州哉予戊申冬就暨是邦閱頽垣故址敗屋荒圃深用戚然  
問諸長目指曰某址某官所建某祠某廟也某址某官所

某亭某館也某官地某民所侵據慨然思建復之緣工費稍  
廣且地瘠瘠乏予事簡而任淺無從措備事遂暫已舊本州  
有糧例支費不下百金歲效為常此時雖微而未解也適  
郡倅余通催公來署麗江篆未幾而別駕林公東厓亦至予  
曰事濟矣二公俱清白吏也當無不可乃以事白果獲俞允  
且移文諭華焉於是諸目相率効力市材於山磚瓦於冶六  
甲之夫以次服役予乃相地勢高下之宜陰陽向背之利遷  
文廟於左陽書院故址左建名宦祠右建同文社學翼之所  
侵地而繞以垣外為會門又遷牧愛坊於州門外遷東門於  
州向之左增築土垣各三尺立山川壇於東門闕武場之前  
立社稷壇於西門舊州治之左建公館於名宦祠之廢地建

申明旌善二亭於牧愛坊之左右建吏目廳宇六房廡舍修  
撫綏保障二坊以及城隍廟土地祠州治自譙樓儀門以達  
于堂寢庫莫不葺理各壇以石灰飾以彩繪明於久遠焉又  
買張時塘為直道追反目抄沒官地而復之正欲建養社  
而力未及焉某才也短苦心竭勞至忘寢食自知不能  
二公之烈然二公之心庶因予而永奇矣後有繼者  
歲暮之俾勿壞豈惟先事者之願哉某不佞直書其事而  
之不敢以文失實也各役經始於庚戌冬十月落成於辛  
春正月云

太平府志 卷之三十九 藝文 七  
太平府題名記  
鄧洪震  
太平城西粵邊微之衝水繞山環地勢嚴固聯一方黔首

長以控制交彙為郡亦云重矣職斯郡者得其人則境土又安江左賴以無虞不然則外侮易生而險不足恃其職之修否匪祇關乎一郡之利害已也前朝號稱羈縻未聞漢官之設迨我聖祖肇基區宇廓清化行南服更路為府始命諸葛

姓天澤名者領其事嗣後遷代不常二百年來庶務漸與民物幾與中州埒諸公後先表樹之烈不可泯也然而宦蹟雖多文獻未備即題名之不可無者猶缺而弗遑豈若有所待耶浙東永康徐公師以治行久著江南擢守是郡適殘燬委頽之餘公至奮然作新振頽起敝往昔因循之政靡不修舉邵土酋拜見之儀并一切無名之費革坐堂常例除叅缺公規歲省千有餘金身先約素為僚屬倡不閱月賢聲四達

太平府志

卷之三十九 藝文

九

遠近來悅乃完登解宇煥然改觀立石于郡治傍門之東考前職斯郡者凡若干人或姓存而名亡或姓名僅存而其籍貫履歷年月不無缺誤稍加補正列而饒之垂諸永久仍虛其左以俟後而屬記於余蓋將以勵同事者鑒觀也嘗聞太平郡職之賢者莫如正德間端敏胡公其地里與徐公同而潔已惠民立綱陳紀其意趣亦與徐公孚且徐公繕甲兵修城池置田養士仰與胡公之築壺開興學校相脗合厥後歷三公讜議忠言多所建白勲名顯於當世郡人立祠祀之其他余不能詳然有符於端敏者可式者有也其異乎端敏者可敬者也後之蒞官者因人為鑑當思民之好惡在茲將求其端敏之芳躅圖以同之庶不磨遠郡庶其治乎粵西

亦可賴哉余重徐公修久曠之典而亦此舉之同而不獨故茲不敢私為之說若夫徐公冀日功德被於南隅聲名溢乎中國如古史稱循良黃龔之徒使百世之下聞其風而知亦則自有百姓口碑在非一石碑之為有無也

南閣記

徐師臯

廣西古百粵地源於廣源經麗江為左江源於我利出大藤峽為右江太平漢號麗江郡晉以來彝獠居之唐平嶺南於兩江立五寨一曰太平逮我皇明改為府設治於茲內以防禦土官外以控制交襲實江嶺要衝邊陲藩屏也北城重固並關東西附上下郭惟南面江一水之隔遂為吳越予覽形勝似非用武之地迺鳩工聚材繼垣建臺而樹塞門巋然一

太平府志

卷之三十九 藝文

十

魯靈光也外題百粵要津內扁兩江重鎮是亦足為干城帶礪矣若夫保障澄清外戶不閉而建太平之業者端有望於後之君子

修築關城記

吳輔國

廣西太平府崇善縣為修築關城事嘉靖四十二年九月初二日抄奉本府帖文嘉靖四十二年八月二十五日蒙欽差整飭左江兵備兼分巡道廣西等處提刑按察司僉事徐憲牌本年八月初六日奉欽差總督廣閩軍務兼巡撫兩廣地方都察院右都御史張憲牌前事備仰本縣即便轉行掌印官出示曉諭嚴令各鄉居民富者出財貧者出力或聽小鄉併入大鄉設立土城一圍高一丈四五尺各設開門以時



啓閉如殷實之家聽其比照北方自置看家樓一座各便自  
 備保安家業賊行要路許令阻塞以杜後患遇有警急各鄉  
 夫務要齊心奮勇併力截捕獲功解報重加給賞事千民瘼  
 各官嚴加督察完日備將緣由轉報施行奉此轉行知縣吳  
 輔國查看得本縣永興都三圖廂民俱住附城關內已各另  
 建排柵外其新寧歸化三圖俱住與土官地方相枕大村不  
 過四十餘家小村不過二十餘家房屋俱用竹篴爲壁茅草  
 作瓦雖改土爲流尚沿土民習俗向無盜賊入境侵害惟北  
 路界接左州馱朴地方近被南寧所屬八寨強賊經由此路  
 來劫府庫先蒙本道臨府閱視備行本府轉行本縣就即估  
 計動支官銀督匠建立壺關敵臺一座敵樓二座窩舖二間  
 太平府志 卷之三十九 藝文 五

俱各完備外今奉前因又該本縣到冲登地方名曰叫哇村  
 親踏看得有一峻山險水處所乃是通行喉舌之地應立關  
 城以杜後患橫量計共二十五丈就於新寧歸化三圖起夫  
 扛運山石倩匠築砌地脚濶八尺面寬六尺高一丈四尺起  
 立更樓關門并開壕塹俱盡種茨通行門路則用板橋其合  
 用工匠與稿勞人夫則係本縣自行措處今已築完至于把  
 守人役本縣出示自招防禦而壺關之防禦蓋額有各州之  
 上兵焉大抵非衆罔與守邦非險罔與衆守此城池之設亦  
 更於土者第一要事也故當正德六年太平知府端敏胡世  
 準見府治之地勢當麗水之來往交夾兩旁殆有類於壺頸  
 之形乃於壺頸之上築一關城名曰壺關則是麗江之壺城

備之有以木果於其終也至繼知太平府事者則有徐球  
 至焉其是關樓之建女牆之築然後壺關之設遂終其事焉  
 此關立而土有險矣土有險而兵有守矣前數十年絕無賊  
 入自後嘉靖來盜賊四至及四十有二年而太平之庫始遭  
 害矣嗚呼世道江河人心不古勾引之禍豈起於太平吏胥  
 輩乎時有本道臺徐浦公巡歷太平剪除寇脚後因登樓  
 眺望乃嘆曰此古麗江也誠交南之保障也若於壺城之上  
 加以敵臺樓舖則其有敵之場而賊無可入之地誠所謂  
 控扼咽喉一夫荷戟萬夫莫過之險在斯歟此關城之敵臺  
 樓舖輔國於是乎督匠而馱朴之城壕橋路輔國於是乎創  
 太平府志 卷之三十九 藝文 五

建此二城之設非爲壯麗於太平之觀實係保障於太平之  
 郡是雖勞於一時而實遠於萬世也此我吏士者之深謀也  
 雖然聖人有金城此又吏士者所當求否則在德不在險又  
 曰險不足恃毋亦近于迂矣乎予併書之以俟世之吏士者  
 擇取焉謹記

重修太平府胡公祠堂記

張瀚

有明太子太保兵部尚書諡端敏胡公浙之仁和人儼儼現  
 璋精研道腴蚤有志於經濟起家進士正德間由南部郎出  
 守太平以治行卓異進江西按察副使蕩平東鄉諸盜時寇  
 陰蓄異志公上疏發其隱誦禮樂政令漸不出自朝廷江  
 大可虞不在諸盜恐誣公離間親王還繫京師掄揀

死言官交章論救得戍遼陽濼友伏誅值世廟繼統名起行

間拜按察使洵歷臺省列卿左都御史改兵部尚書加官太

保公以十事要說大意欲簡閱國營宿勁兵京師謹防北虜

又勸上親賢講學遠媚疾絕嬖幸憂深慮遠願以切直犯忌

言不盡用尋謝病乞骸骨草數上題許賜歸未幾復召起適

以疾卒於家儼然衣冠危坐不仆余時為諸生每望見顏色

聆論議所聞平生經歷皆卒卒未究其志惟太平最久無負

於民死而有知猶依棲麗江百粵間也頃吾承乏蒼梧亟訪

郡中果建自祠歲時蒸嘗不失問政績則故老相傳謂為廉

明博大在郡勸學興禮築城壺關緜士爨功德不可殫紀

乃作而嘆曰嗟乎士君子所至策立勲業仁德濟世豈冀聲

太平府志 卷之三十九 藝文

聞當時報國身後哉天地萬物本吾一體分道當為時勢不

可已凡以盡其心事其事吾何得而與焉惟澤在生民功施

社稷維繫人心自不可解則報祀之典所由義起而非其立

德立功之初心也公昔有言始亦自歎未竟焉謙無已豈意

民心歷久不忘洋洋俎豆之存適契其依依故民之戀非夫

精誠上下感應乎寧無俟勉強若是耶今江右有祠吾浙有

祠公所請不足人愈多之稱頌勲伐尤彰明較著至所自信

若太平郡治能無想見循良偉績入人深遺思遠哉茲郡之

祠信不容已矣夫表先哲以勸官師存遺惠以俾風教固憲

臣奉揚明命之職乃檄郡修飾陳宇嚴潔祠事仍記憶大略

重修城隍記

麥琛

天下郡邑咸有城隍廟凡吏於土者始至必齋宿而祀歲有

水旱之災民有疾疫之患必祈禱之春秋仲月合風雲山川

並壇而祭視察實重焉洪武己酉太平改路為府自獻廬

還治麗江肇一祠宇而城隍廟在府治東半里草創之初規

制隘陋久且傾圮成化丙申太守何公楚英蒞音新之而齋

所神廚則未備也萬曆乙亥泉亭蔡公由順天少府出守是

邦始至之日謁廟祀神俯思思顧而嘆曰嘻闕哉齋所不

作則萃渙之誠弛矣庖廚不設則省牲之禮廢矣神儀不肅

侍衛不備丹漆黝望之不飾則顯若有年之敬無所觀感而

興起矣於是崇而新之乃計費度工取材於捐俸取力

太平府志 卷之三十九 藝文

民則神殿之後埋池開地為屋三間左為齋官右為神

為更衣廳諸若神儀之污毀金碧之剝蝕椽題之朽

之彫摧垣墻之漫滅與夫香火供奉之具監戒勸懲

此未嘗備者悉哀舊益新奕奕堂堂視往模加飾

乙亥冬孟迄於丙子仲春乃告成焉琛嘗與客

公有三謔焉客曰三者何琛曰古之君子先成

於神是以民惠其德而神錫之福公自下車之

慮周備至觀其革常例節冗費通商惠工輕刑

以安善類行鄉約以變彘風故民之困者舒

歌緇衣肆詠矣明有禮樂幽有鬼神於是即



賈蓋志也孔子曰 祭則愛

辨沈璧非崇神之聽之視精明

地而省牲省器之有所矣其即詩所

教聖人以此化成天下矣粵西俗尚鬼

化嚴刑之所不能齊一聞鬼神報應之說即儆

奉曲踞惟恐或後焉今廟之東西兩廡公咸命

果報之像無非所以示勸懲而助刑政之不及也

道亦神矣哉故一事而三益其者是泉亭公之能也

徵記探述所與客談其言之公曰治民事神其理

太平府志 卷之三十九 藝文

新廟置所亦盡有司之責焉耳子以予繪善惡報應為神道

設教者予豈敢當也雖然予將假此以悚其心也使世之人

皆有以悚其心則弗敢動于惡矣弗動於惡則必趨于善矣

苟趨於善雖為佛老之教即吾聖人之教亦可也又奚問乎

道之同不同也可以記矣遂曠所言以刻諸石公名迎恩漸

之臨海人英毅而幹勞伐昭宣不但於新廟置所云

城隍廟碑記 黎淳

為國者築城濬隍固封守易云王公設險以守其國禮云城

郭溝池以為固用此道也然天地間鬼神體物不可遺冥冥

之中城隍實有主焉蓋有是實理則有是實氣理乘氣行微

而顯費而隱乃誠之不可掩如此惟太平古南粵地谿洞曠

俗殊中夏雖州府於漢唐威因克制秦澗於宋元惠莫肯

則至於皇明始歸一統綱常倫理庶幾國憲衣服飲食循用

華風城隍廟在府治東半里洪武已酉改路為府自馭廬還

治麗江肇建祠宇粵俗尚鬼凡民藝有事悉來祈禱神亦屢

著靈驗愈人之疾活物之命救歲年之災大為有司所嚴成

化丙申太守番禺何公楚英移龍城之節來為郡偕二守通

山韓公廷或通守揭陽蔡顯等同寅協恭振立綱紀勤勞盡

瘁用濟民艱原歲久旱自冬至今不雨至於春分田畝輟耕

太守憂之乃率僚佐官員府吏胥徒鄉耆里耆竭誠修禮祈

禱於廟翼辰陰雲四布越三日大雨霑下土脉悉灑率鋤通

舉民動播種秧苗罔遺已而踰月又不雨仍來懇請甘澍如

太平府志 卷之三十九 藝文

前五日乃止既優既渥既霑既足百穀生遂秋成有期賦稅

豐完盜賊寧靖太守以悅邊境以安蓋太守為時名臣初拜

御史立朝敢言以剛直忤當道左遷縣佐助天兵平兩廣有

功累陞今職其英烈之氣自足以動天地矣而二守諸公皆

更化善治簡任賢哲一心一德為國仁民人心之靈固有攸

在也府之勝槩如將軍金櫜靈臺青蓮諸山左右屹壘而如

江遠前涵輝漾秀斯夕薦靈山川於人亦良有助夫以人心

之靈而感山川之靈又以山川之靈而協人心之靈城隍之

神司之陰為佑助於其間即所謂理乘氣行體物而不可

者則凡動物與祥皆常事耳又况以太守之忠義感召乎

守每念廟祠逼隘且將朽墜謀於後佐圖一新之用於神

適有橫槎梓人執藝來謁於是二守暨閩郡官僚各捐俸資  
樞才琢石運甃陶瓦費悉公出財閩民徵經始是年六月戊  
子落成八月辛未開廓地基為正廳五間高廣倍舊中塑神  
像前暨門扁綵繪丹碧繚以周垣望之巍然雄壯一方民奠  
雲集祀事日虔靈光益著矣太守乃因二守書特來京請為  
碑記太史公為文以勗神曰雖明有禮樂扶植陽道雖幽有  
鬼神掌握陰靈禮樂與治道備鬼神安氣化全今高城深池  
神寶典之遭逢聖明不鄙彝僻壤一春同育俾賢太守冠裳  
爾形容堂宇爾家室劍佩爾從官凡新任必預盟誓威祀必  
先牒告出謁入恭禮罔暫違皆敬神也爾可不思盡職乎其  
必舒矣闕竇貫通幽顯弼亮聖天子宏宣威德永奠南陲贊

太平府志

卷之三十九

藝文

七

助賢太守以養以教清其政刑輔翼明教育成子弟降山川  
貞淑之氣鍾為俊英節宣日時風雨寒暑順適時令以蕃百  
穀以消百病孝子慈孫義夫節婦則默相之或徂於蠻俗不  
信道悖是者則譴罰之凡在無事時皆然至若一旦徭徭竊  
發或外彝內侵倘嘗卒屬百神折衝銜枚保障一方務為豫  
重門擊柝以待暴客弗當為泰之象城復於隍弗用師斯永  
奠厥位矣維時郡臣敬聽回憲遂書以刻於瑣石銘曰  
用夏變夷國有守臣輔 降祥責在鬼神祁祁甘雨既蕃民  
食赫赫厥靈勿羞神職陰陽表裏一敬奉天皇圖萬世廟祀  
萬年

太平府志卷之三十九終

太平府志卷之四十一

藝文四

記

翁公祠堂記

明江一桂

太平故漢交趾裔地也歷代置棄殊規名亦互稱曰寨曰峒  
曰團曰鎮曰路土衙世握厥柄則均延及我皇明肇域有年  
改府隸流銜位如制轄州若縣十九續改流者四漢官威  
其復視於茲乎治據青連山之陽麗水旋折走其下交匪  
少武形若壺然因號為壺城後諸山聯絡隱約絕類蠶叢絳  
白土人甕窪伏莽者為村二十有四綿亘百餘里是蓋左州  
之幅頓太平脊背之重障也先是左人內鬩割質於龍龍人  
太平府志 卷之四十 藝文 一  
利而執之不服吐退土人憤險恣毒舍沙射人三廂之城殊  
苦之孤城子立三年叠役向無附郭以翊郡茲因太平肯綮  
之猷而有志所懼念者前尚書靜菴胡公會守是邦首築壺  
關以捍之方議復地更化等以憂去間有嗣志未就粟之不  
待碩才偉望如稚圭希文者經略於上則無以撻龍人之黠  
狡而翕舌之徒又從而講張之是故機局之齟齬而難覓究  
竟也已嘉靖戊戌我東涯翁夫子以跌宕之材汪濊之學斯  
馳之識骯髒之持風聲所屆罔不爭相淬浣以共於治時鄭  
守上其故夫子慨然嘆曰不復地附郭而欲太平其治難矣  
况控外勤遠以赫厥聲乎於是力任其事上之督府半洲蔡  
公是之乃聞於明下其議夫子責成太平通判蘇廷獻馴象

捐捐王良輔隆安縣知縣徐鈞相與勘整其...  
 靡靡罔敢喙息蓋深憚夫子之嚴明夫子亦嘗其罪并獨村  
 民于三年用昭王化之平蕩也所復之地以崇善小江為界  
 曰頓峒曰隴度曰乙曰包曰那邕曰賴曰弄化曰那勳曰得  
 埔曰馱皮曰那陽曰盤馬曰那庵曰馱窖曰馱逐曰宜陽曰  
 喃坭曰崩石約有十八村不責夫全者舉其大而示之廣也  
 如龜放而還玉壘而完自勝長慶以來幾二百年陷溺一  
 朝挈回衽席之上謂非太平之大幸歟初隸為歸化里合三  
 廂之永與崇善之新寧共里六十均轄崇善以為附郭越明  
 年庚子三月五日迺遷縣於郡太平之士民懽忻鼓舞滄滄  
 乃歌曰地復於龍翳誰之功維翁夫子冒其無窮又歌曰縣  
 太平府志

卷之四十一 藝文

二

遷於崇翳誰之宗維翁夫子怙其有終歌既相戒伐木礮石  
 爰構書院於層岡額曰肇化言化自夫子始也肖像瞻依以  
 無忘冒怙之盛德小子一桂適蒞任創觀贊猷底績通判蘇  
 子知縣陳景大教授馮賜訓導平士奇通學生員李傑等咸  
 以記請余謂必名筆乃垂不朽豈敢濫竽但傳猷茂緒不能  
 不攜撫以俟信史之採并得附名碑陰之為幸也乃若夫子  
 行誼高迥動準賢哲問學淵滴鋪張至道其勲業之著如立  
 四峒討斷藤峽流潤樹光均灼煇可紀最懋且奇勘勸安南  
 受降奏膚自漢元朔迄今未有如駿功者桂時叨役幕下身  
 親見之晉秩昭寵鑄珉載匱則尚有太史氏詳焉茲特惠及  
 太平一郡之功而實繫太平之民心於悠袤焉爾是不敢

不記

重修思明府城隍廟記

陸慶 蘇九鵬 廣生 六年

夫天地並立鬼神萃焉郡國城隍廟由來遠矣明陽舊廟在  
 郡之西隅東南有通衢西北有民舍其堂深而廣其宇峻而  
 趨斯神有所安而民皆賴之以為禦災捍患邇歲辛未仲秋  
 洪水漫漫民房圯壞茲宇水深二三尺許神像被水殞釋雨  
 旁故刻諸鬼神幽怪之像亦皆泯泯金碧坭土蕩然一空朔  
 望上香靡所拜謁本郡黃君承祖下令重修鳩工聚材繪塑  
 神像金碧煌然命郡目甘德盛等口授狀於余以紀石余曰  
 嗟乎君之勤心於斯誠幹蠱用譽者哉蓋明有禮樂幽有鬼  
 神自天地洪蒙以判之後悉崇尚之矣二者相須人顧有肆  
 然於禮樂獨一節神宇惶懼戰慄氣結汗流不敢出一語迺  
 敢於臨民者巧偽飾詞辯駁百端而不屈雖加以夏楚其欺  
 益甚焉此至嚴者而示之以不嚴可畏者而示之以不畏習  
 使之然也故國家必建神宇以為禮樂相先之地必塑神像  
 以為斯民敬畏之基黃君此舉其深知幽明之理乎自此而  
 與天地相為悠久自此而為斯民禦災捍患功德長遠矣謹  
 書其事以志焉

卷之四十 藝文

三

九府學田記

楊芳 巡撫

田以養 胡可已也自代匱來謀之直指錢公出帑金三千  
 購得九府學田四十六頃三畝零每田有四至有租數有  
 生名刻石於各府州縣學宮前學使駱君撰有碑文

不啻詳矣今學使楊君又查出頻年所出  
五十九頃五十六畝零復勒之石總計共得田一百四十五  
頃五十九畝有奇蓋亦名省所無者嘉惠後學先後一心謹  
識之以備查考若乃近相稽覈使不至於埋沒兼并而令鉛  
槧子得沾升斗之助是又在我良有司也

太平府學田記

蔡迎恩 知府

古之教者知夫人情所樂於順所不樂於強惟樂於順而不  
樂於強則所以責其志之專而業之精者必有道矣是故學  
校之設聯之師儒立之學規使終日順承於詩書禮樂之中  
潛消其躁妄拂抑之態文之以辭稱之以服俾其耳目之所  
樂而血氣心思之所暢也慮其久而或變也必嚴其考校之  
太平府志 卷之四十 藝文 四

法隆其優恤之儀升於司徒者不征於鄉升於學者不征於  
司徒而士之感發淬礪不自以為苦也故其志之專也則自  
奮迅有為至於詩書禮樂皆能盡其精微而無有粗疎傲戾  
之氣其業之精也則自正心修身之術凡可以為國家天下  
之用者能貫而通之而無有鹵莽生澀之習蓋其濡養之至  
磨操之久日見其所樂不見其所強人情不得不至乎此也  
今也去古日遠為士者不務求其真實之學溺於馳外之習  
凡可以一蹴以成功名者不顧其學之所得與否而朝課書  
夕校文孜孜焉以應有司之求足矣豈人情之所樂而况貧  
窘之累聲利之饑維然日出而交於吾前本以非所樂之情  
強以非所順之習驅之必可奪之誘則宜其有厭苦

心惟舍之不速亦何怪乎業之不精而志之不專也此  
之教必加富庶之衛孟子之政必施恆產之民非有由然  
太平有學舊矣人文漸盛而詩書禮樂之教亦相率而求  
之但地瘠少田土無貲產興於教者亦為不得已而強之  
樂於情而順之矣前任太守徐公師臯有見於此置田一千  
五百五十地計其所入以助之適予至出金三十置田  
時共事者崇善尹何君道臨擇其上著之流汰更三而得其  
最者一千五百地徐公入金二兩五錢恐日久人易不免兼併  
侵漁謀為立石長久徐田共三千五十地除納糧外歲  
共金六兩五錢又有學田亦予指賞修葺歲入金四兩  
五錢每歲共金一十一兩七錢聚為一處以給諸士之貧難  
太平府志 卷之四十 藝文 五

郭公祀田記

蔡迎恩

夫禮有勤於民事而死者則祀之雖事之所就不一凡此族  
者皆在祀典然祀又藉於祠者雜何從先志也思其志不失  
其禮此孝子仁人之用心超然不可及矣疑波郭公自嘉靖  
五年來粹太平也先是太平土習獷悍多蒙黥斷不可理  
以柔道於是一切爭為深文痛法以繩督之而人亦相傳以  
為非深刻不可治蓋太平之人之蒙詬而病焉者久矣公至  
獨先教化而後誅罰事無劇易處之一以鎮靜人無奸良鄉  
之一以誠懇法宿弊遏苞苴民咸便焉時維思田跋扈典調  
大兵眾推公運餉卒于官於是士民哀思如喪考妣

申狀議設三於名官祠歲舉禱嘗不乏已五十紀

撫大司馬華翁實公之聖嗣也奉命節制西南滌清累信

海宇寧謐之後廣孝思之誠出俸資千金就府置田以為歲

時乘盛之供時署篆推府黃君見可舉之未遂會左州守萬

君木毅然任之即以倫村那耽二處得田之膏腴者四坵上

下輸服如出一意猶恐世遠人易不能無弊謀立石長久計

請予文適予蒞任之初正歎崇賢之典首得斯舉而喜之不

能自已者敢不以文記竊嘗論之張文憲之鎮嶺表文仲

之治雷陽而後世之民規規然感慕而相立之彌久不忘也

疑波公之在太平其所以得民而治之太平之民所以感公

而祀之者固不讓於嶺表雷陽矣又何置之田而慮及後云

太平府志 卷之四十 藝文 六

萬君曰不然凝波公之倅太平不勞民不傷財公之志也今

禱嘗二舉不免需之於官而取之於民非其志之所安矣是

况左州逼近太平而二村鹽腴供事甚易又不勞於力不亦

安其志乎予曰噫有是哉公之得民之深而後之承公之志

亦深雖然公之祀無窮矣今督撫公丕烈偉勳昭灼宇宙則

心田德澤在在濡霑無非紹先德於彌遠承先志於無疆耳

且方今聖天子簡任元老加惠南越必遡勳伐之源肇生之

迹勒之竹帛銘之鼎彝行將廟享於他日矣豈一方之祀為

公愜哉公諱湍別號凝波山鄉進士歷官為太平倅關中貴

族也其祠之步數佃之姓名歲租之入圖籍之詳勸之禮

何可存也是為記

太平府專記

鍾繼英

今天下府州縣學多廢經閣凡以明聖道而一士趨也學

西太平歲久未建臨海蔡君迎恩守太平既三年政通人和

百廢具興乃始鳩材而創制焉至于上已告成矣乃與節推

麥君琛徵記於不佞英且以播告諸士英嘗聞之古云聖人

未生道在天地聖人既生道在聖人聖人既往道在六經是

六經也者固聖人之道之寓也今夫善為國者必遵先王之

典章善為家者必遵先人之訓令不遵典章則不足以守其

國不遵訓令則不足以保其家彼聖人者蓋吾儒萬代之宗

祖也其所詒六經奚啻國之典章家之訓令也哉為士者不

太平府志 卷之四十 藝文 七

有以遵之則家非其家國非其國而一脉相傳之統緒絕矣

其何以光昭前人之令聞哉我祖宗以來聖聖相承咸以書

舜文武之道治天下兩儀而外莫不有學莫不有師其教則

五品其術則六經諸不在是科者有禁一時奇袤之士變風

反同而都鄙鄉間之問家詩書而戶禮樂蔚然與三代同風

太平右路越地郡縣其土僅踰百年王化所漸被無論城市

即長林邃谷之夫莫不誦說詩書稱述孔孟而薰陶乎禮法

之場其遊庠序而服章縫者類多博古通經而不恃嚮往夫

聖人之經非徒文也道也士之於經非徒遵其文也貴遵其

道也諸士誠能莊誦其言仰維其義專精致志使聖經之理

不融會於吾之一心而珍之如琉璃信之如著龜由此而

可以此道植人... 而達則以是... 家者遵其先世... 之克肖哉如... 富貴而弋... 雖多亦笑... 之長故... 無負於蔡... 載碑陰... 不具論... 其大致如此

修伏波祠記

王之緒

祠在府城南百步稍東負郭臨江... 陰浮越可以奠亦可以憩... 四楹左右齋室各五楹... 汨沒於隆慶已巳今成於萬曆丙子云先是郡臺蔡公按治... 修政問俗力起頽敝首學校次城垣壇宇館署煥然一新... 方觀者非復太平舊矣是祠漂圯獨甚惟存斷柱敗垣公... 之且曰屢築之有今日誰之功也此距銅標不遠數百里... 席伏波之貽較之烏蠻兩粵樓船駐節之所感為孰切惜... 無有倡義而新之者無何清戎使者行部公力雪養利二... 卒究咸釋之二戍之族戴德願為公新是祠公於是命... 吏曰陳良策董治其事經始于十二月告成于正月工速... 制備謂無好義者哉蓋上之仁有以感之也當落蔡公

太平府志 卷之四十 藝文

八

麥公把酒臨軒適養利吏王之... 成也蓋為記以識歲月之緒... 先後繼作意氣嘗相感合惟... 之在漢廷老成慷慨忠憤自... 內修民事城郭里巷水泉灌... 人祭禱如見公本閩閩習侍... 熟矣出守是邦百度具舉政... 泉澆澆之功同符而八塞羅... 將以翊銅標於無窮者則其... 然哉昔梁公扶日懋忠方其... 歷涉惠儋壯海潮之祀為韓... 合故也然後知募梁公東坡... 波之祠豈直教民崇古已乎... 大司寇鶴翁家譜

左州牧題名碑記

萬曆十五年 高珍

左之置州自唐始而宋而郡... 舊隸代有更易不紀其隸太... 容不紀者此而不紀是欲觀... 大為缺典已乎粵自成化十... 氏莫稽正德十三年始遷州... 成化十六年凡奉命蒞茲土... 石碑後有承而前有可據庶... 因觀省之餘循名以溯

太平府志 卷之四十 藝文

九



也昔蓋留心樞緘而安養左民之介厥如... 觀邊鄙之精神使銅柱玉關之積屹然在望遠救長城萬里之勳烈而擴之則左乃朝廷魏乎一重鎮寄也今日之紀豈容再緩哉今日之左豈得以昔日章創之左而自諉哉嘗聞太史公論治之言曰太上因之次整齊之下與之爭夫珍固不敢與爭適厠整齊之末而補其缺畧云爾若夫起做以維風俗... 大有為者珍匪人也又烏足以知之各官姓名籍貫入職官師

養利州學記舊歷十二年

謝杰

教化之於風俗猶隄防之於水然水性善動不有以濬而蓄之則四潰決嚙不可收拾是獨水罪哉亦不善隄防者之過

太平府志

卷之四十藝文

十

也民生之初... 從而駸之隨化而染矣焉能不披古先哲王深鑑其然是以維之以禮教而陶之以學宮有詩書六藝以定其業有講習辨說以明其誼有端冕袿纓神鞞鴈宮羽以束其形有籩豆簠簋罇鬯琖斝盃几杖以習其度有賁鑄絃纒管箏祝以和其聲有珩珮琚瑀采齊肆夏和鸞勺象以諧其節有夏楚扑作移左移右移郊與遠方以收其威以故秀民之肆於斯者朝遊夕息日去不善而趨於善直若冰之必寒火之必熱駟虞之不殺竊脂之不穀焉漸摩既久人自為教家自為學馴致罔間之下絃誦相聞駸駸乎有比屋可封之俗其盛也嗟乎達於此者可與之語葉大夫之政矣大夫...

備以茂才異等入太學出倅江州尋擢養利守大夫可

用遠其材碩大夫安之日惟化理以圖稱塞養利粵西之... 高擢去神京不啻萬里而遙彘配之與居獲之與鄰官斯土者率世其土近雖易土而流然亦以土視之因陋就簡蓋非一日余嘗讀大夫所與呼大將軍書殊竊慨其有桑間濮上德色諄諄之遺風以宣父所欲放買大夫所謂流涕太息者大夫且身觀之宜其不可以一朝居而思有以易之也先是州有學舍遠州治二里許博士棄之不居鞠為茂草醫人直儲管目之去則牧豎飯牛扣角其間有司弗能詰也大夫至始議更之易遠而近易故而新易湫隘而爽塏拓城以為循引水以為辟雍以丈計者三百四十有奇版築取諸力役不

太平府志

卷之四十藝文

十

賜其材辟雍為池從百二十尺衡殺從十之三深殺衡八之七會時苦魁大夫導水之源注諸池池溢令力役者得疏其餘潤以溉田民咸欣欣然色喜忘其為泮官役也不踰時五功告竣門堂殿廡齋祠舍宇暨於亭庖廩庫靡不種種具備毋論蠻無從入即牧豎亦罔窺其門得優游於斯者非視聖之薦神則就學之章縫爾言翼翼濟濟踰踰宛若與成坵並部者大夫既落成乃走介萬里告其友人謝杰且屬之記謝杰曰大夫可謂古循吏矣嘗讀史至文翁治蜀每亟嘆其知所重者蜀自蚕叢魚鳧以來雖世有國土然險遠僻陋未矜爨風翁欲誘進之乃遣小吏開敏者受業於京師割少府之俸使買蜀物以遺博士故小吏就學者多能精其業以

轉授受數年之間蜀士彬彬比齊魯焉大夫修起學官業已無愧於成都矧數捐薪俸以助工役又適與減省少府用度者相類自今諸生有成就者亦嘗除更繇補孝弟力田乎招下縣子弟為學宮子弟乎選學宮僮子使其便坐受事乎今知大夫必有合也他年諸生出行縣吏民見而榮之豈無知司馬長卿張寬王褒者出於其間藉令之賦子虛大人頌金馬碧雞吾道亦愉快也且上方隆洽文治薄海內外罔不率俾粵西雖遐孰非聲教所及漸濡淪浹以躋於古哲王之化夫何難者大夫治養利善狀甚具余簡不勝書姑述其所教化者若是亦班史傳文翁意爾政成名入於蘭臺則大夫方有子為大史當別作敘傳以紀世家非余之能知矣是舉

太平府志

卷之四十 藝文

七

督撫直指監司諸公咸是大夫而行其志故謀獨臧而總督兩廣吳公之主大夫尤力公清時名德用夏變彝余以象後進竊懷高山景行之日久矣因於大夫之記也三致意焉

思明府建學記

萬曆三十七年

黃士俊 翰林修撰

思明為粵羈縻之域歷漢唐宋建置無定幘明興初有真都者總管思明路表地以獻高皇帝嘉其內嚮詔世官等諸列郡而改思明為府始今名二百餘年來雖奉弊致瀆溢臣然瘞瘵狂狂忘于大造詩書之道闕如也郡守黃承祖以建學請諸當道僉曰胥後令迨陸祐之變始議興文亦用夏變夷意也於是兩臺使者疏奏初發序設師儒詔下可載

朱公先是以新寧寺善後有殊勞特晉丞彈治之實其云比下車政圖經始第所費緡錢不貲索之帑則郡故土治無錢穀嘉肺之美可紆緩急徵之丁則兵早頻仍民救死不瞻誰能堪此誅求也者公私交策無所出迺毅然曰叛逆之身始於民不知義夫學校正禮義之源詎當吾身而令甚盛之舉旋議旋罷也謂師儒按籍得逆祐沒入載邕藏約三百金無已以便宜請予縮則身為任也牒上監司劄公力成其議報兩臺使者楊公戴公咸可之乃涓日鳩工庀材不足什之五輒捐俸佐之且公精於形家卜得最勝地面山如列屏所對一峰獨峭聳蓋所稱文筆者耆老子弟欣欣然子來以丁未十一月肇工而落成於己酉某月先寢殿次戟門次明倫堂次東西廡次齋舍庖湑泮池規制大備丹堊藻繪煥然俾觀即視大邑通都無少遜也既竣事公與諸士雍容駿奔其間諸士跪進而請曰以叢爾敵鄙竊微惠於使君不渝於夷二三弟子員幸獲齒於章縫之列者伊誰之賜也為記旃公曰唯唯則馳使屬子言以鑿諸石余拜命之辱因是而益嘆我國家文教之翔洽跨跌異代也蓋思明當草昧時如日中豐沛未曙孔子為何人詩書為何語侏離椎髻夷於異類又性泉勁好鬪喜兵修睚眦之怨而甘斧鑕恬不知也其豈秉燧之獨殊耶禮義之源湮鬱未鬯而風俗弊也所從來矣我國家數下明詔建邊學教化所暨薄海陬邑舉出晡昧而

太平府志

卷之四十 藝文

七

光明徇思明以退服未遑至今日順風一招無不響答

時之幾幾逾井邑侏離而絃誦椎髻而冠裳好鬪喜兵而  
賦然修揖讓父兄以是教子弟以是習步趨於孔孟之側  
注於詩書之府寢昌寢熾正千載一時也諸士適逢其會何  
如講明聖賢之道而復行之以三德六行為齊民表有其  
積習坑故常甚或蔑模範若弁髦聲利若薙聚則諸士自  
待謂何亦非公與諸當寧者之所以待諸士矣矧公寵靈於  
多士非尋常尺寸度者在鄭公孫僑不毀鄉校仲尼氏猶嘆  
其仁嗣後與人田疇子弟之歌久而彌篤今公之初什伯於  
不毀而不慢不殘則依然寬猛相濟之政也聖人復起吾固  
逆其必以遺愛歸公也諸士寧忘公之德乎報乎監司劉公  
諱庭憲號雲嵩漳浦人郡丞朱公諱鳴時號太古棠化人諸  
太平府志

卷之四十 藝文

五

思明四寨條編記

萬歷四  
十三年 林夢鼎 同知

四寨東南接交夷西北界思明府州之中往時府州爭得之  
治兵相攻累年仇殺當道訊讞亭平爭不能決萬歷二十三  
年奏隸府流官爭始解三十三年復設府學議賦田一分條  
編四錢充為師生俸餼征戍兵役咸蠲除之法甚善也然奉  
一撮土錯之不夷不夏之間其民犷而難馴而利有四寨者  
又驕獯而計煽之使抗不就漢官約束迄八年無成議余既  
至集鄉父老為陳利害禍福民忻然聽命請稍寬其額余為  
定三錢兵馬諸役除如初約民始忻然輸納林子曰此可

人皆欲其爭也其官如虎鬪於一隸之流官而解及  
解之其民如獸逸於原隸之學官一梗消人情可知也子曰  
君子居之何陋之有民又忻然請之於石

思明府城隍廟像記

萬歷四  
十七年 李 同知

府治故有城隍廟在清軍廳之右不遠登步負壬向丙正殿  
歸然兩廡翼然顧瞻廟貌令人森然攝矚立二像仆者待塑  
空碑偃臥於堦左又若俟之君子為文紀之者余朔望觸目  
有慨於中業命更塑二像以肅拱衛廟祝張全勝膝而前曰  
賴使星之臨仆者有起色矣至如碑之無文何請紀之予為  
首肯退而思曰以交夷之素得志於思明也固兵之積弱乎  
豈不作神羞哉迨余署事禱神而一敗祿酋於安馬再切督  
太平府志

卷之四十 藝文

五

重修太平府城碑記

崇禎  
七年

龍文光

古者有城非第域民以封疆之界蓋亦取諸盛民之義故仲  
甫之於齊召伯之於申於韓是天子命大臣往城初封之諸  
侯盛民也齊桓之於衛楚邱杞綠陵方伯約與國城避患  
之諸侯亦盛民也其功皆播諸聲詩事皆紀諸春秋乃今之  
郡何啻古百里之大國今之縣何啻古七十里之伯五十里  
之子男而城之卑薄不稱甚非古重城意也粵西有太平郡  
古南粵地漢屬交阯郡曰麗江唐為羈摩郡宋平嶺南立

初改為府地近交存為全學第一重門也 太城因

粵籍之以安太城脆而全粵緣之以危者乎頃者揚竿四  
走我粵賴聖天子加威遐暢當茲綢繆慮周以五羊三楚之  
大藩焉不免齊魯梁秦晉之內地焉不免而粵以西獨免之  
飲水思源我粵安享昇平豈偶然哉乃昆明陳公守太平政  
通民和百廢具興而築城之功為尤著太平築城例派各土  
司土人不免秦境視我城身高低厚薄莫軌于度未幾輒圯  
垂二百六十餘年有憚勞恤費而適任其圯者有蘧廬其官  
泚汲若不朝夕者而城圯益甚大夫嬰其敝不避驚譁以從  
命都御史許公以桂陽縣郡邑修城大夫以狀白報曰  
可是舉也材中度覽中陶工中程費用若干咸取給於贏未

太平府志 卷之四十五 藝文 夫

嘗指民間半縑派土司一役經始壬申之夏七越月修築城  
垣周遭六百一十四丈月城一城樓一樓臺一與夫高舖八  
新砌月城便門增過鐵門二包表北門文昌門二鐵補東南  
西城門三蓋始事時大夫實處崇善縣譚公工分仁義禮智  
信委任諸屬獎勵勤惰以故諸屬協衷庶民和會而成以不  
日也城成之明年春商諸紳士民謀紀石而徵記於余余惟  
築城有功勳著當時澤流後世者周公自雒邑之營此取天  
下道里中也武侯之築諸葛城此為當年據險計也惟是張  
仁愿之城三受降遮虜入寇歲省費億萬李德裕之城威遠  
最為西川保障則實邊城外固內地始矣則太平為全粵  
交存必窺之路我大夫有盛民之功如是不真大有

粵也哉昔司馬子長謂非之功必樹之非常之人余於  
大夫亦云况我粵土地赤窳財賦不足當中州一郡自黔遼  
餉加人無固志余力為維桑請命而黔餉蠲遼餉減非曰市  
恩亦以為民也誠以公任繁邑深有見於民窮盜起盜起  
財腋雖有完城將焉用之大夫凜凜稟務拊循不加派繕城而  
得衆心以成之尤其得無形之金城也夫春秋書二十有五  
非義非時者書雖義與時必書重民力也大夫舉合義時於  
春秋法當書余故書而鐫之後之君子其毋阻於難而壞成  
績其毋忘大夫之功大夫諱爰謀南直興化籍昆明人譚公  
諱聖謨湖廣醴泉人他執事有勞者具載碑陰焉

重修太平府署碑記 唐熙元年 國朝 馬正午

太平府志 卷之四十五 藝文 七  
余於辛丑臘月六月 守太平時大師開闢左江之第  
三禩也兵燹後一切公廨鞠為茂草郡署僅茅蔭數椽  
不蔽風雨將欲檢較簿書咨詢時務掾屬師生舉厠荒  
棘叢中吏隸胥徒無卓仗餘地賦課文書罔所積厝繕  
葺之役其可緩乎哉於是捐俸鳩工芟蕪築基鑿石甃  
磴採斲麓之材運交牆之甃用是高大其公堂仍舊址  
也次及二堂左右對峙二樓後寢室三間亦陞樓其上  
儀門大門以次而舉咸新創也至如吏書卷房左右鑿  
室悉竹編茅覆蓋荒微蠻服時常新創備於力也增所  
未備不能無待於後之君子矣雖然余更有懼焉官於  
斯者於斯撫馭嚴士吏民之待理者二十餘司也四封

之內哀鴻猶未集澤利弊之興革所當相其時勢而輕重布之者方殷然其未艾寧曰吾可以晏然居之以自逸乎哉先憂後樂所其無逸古之訓也其敢忽諸是為記

太平府遠景樓記

康熙六年

高不矜

樓即府治大門久為兵火斷爛惟基尚存歲丙午郡守馬當時正午當草昧經營之後謀及州縣諸屬因其基而崇大之於時棟楹既立椽桷板檻瓦磚之屬除治亦漸垂成矣忽左遷以去厥工遂罷是冬十月予承乏茲土初困於水土之不習既病於簿書之繁劇越七月餘未遑他務而茲樓之工未竟時有風雨飄搖之懼夫前

太平府志

卷之四十 藝文

七

之人能舉之而後之人不能終之是非有志者之恥與因復慨然謀諸闔屬為工庀材者踴躍趨赴倍甚昔時兩闕月而樓成日堂上坐而觀之初無足異也從旁仰視有若奮足在霄漢間者蓋以太郡城垣即山也府治尤居山之極巔樓距城闌僅咫尺疊石層壘其勢益峻憑眺其上望甚遠城外江河江外山遠千峰萬壑燦然近列几筵亦足樂矣遂以遠景頽之忽而憶及蘇文忠公肩州遠景樓記慨然自失為其近於襲也將更之既旬日復恍然曰凡物之有會於心者古今人不相謀也彼之命是名也自肩州得之余之命是名也乃自太平得之各名所見非強為同也亦何足異也哉且吾

亦正樂其同焉耳夫文忠之記為美其風俗之醇古與

其太守之賢良而作也茲郡雖屬僻遠而俗尚朴茂庶幾近之余即迂拙無為倘後之來守斯土者登高望遠釋去國懷鄉之悲效先憂後樂之志相率而為賢師帥將與史冊所載循良之績輝映後先又何肩州之足云乎哉遂仍之是役也始於某年某月成於某年某日創舉者前太守馬當時正午司李命天水鈺勳助者左州紀憲章振邊養利州王蒼崖乾德陞工部員外郎傅荷卷人龍永康州趙燦南森崇善縣連瑞亦起文又署左州事太平府經歷林峻生天柳署養利州事柳州府照磨趙完楚廷舉而竣其事者則余愧如不矜也因並勒石以垂永久云

太平府志

卷之四十 藝文

五

東西軒記

高不矜

太郡後堂列廂樓二座傳係舊庫也府治遭兵火焚燬內宅房舍無幾底定之初來守斯郡者久為僕從樓止想亦為苟安計然上漏下隘半層以板片星橋風雨難避又惛然自高正室若見凌軋余甚惡之又其東旁簷有古榕樹一株蟠踞輪囷枝葉茂密蔭及兩樓前後此府中之喬木也若榮瑞關焉俱被其虍柄障蔽雖有清風明月日彩霞光幽翳濛濛一無所見余益惡之將毀之謀之於客客曰兩樓對峙勝槩也若之何毀之余曰不然譬有才者於此人鮮不愛之惜之而才無裨益亦

與無才者等耳矧以不善用之而肆其鴛鴦以為物害乎斯樓一日不去寧惟巨榕之翠華不昭將此地之氣象亦日損擇日毀之吾計決矣一日呼工匠撤其東檢磚坏之端厚者楹柱之堅直者于堂之東山向以作一室抑其規模覆以茅草題曰東軒越數日呼工匠撤其西磚坏楹柱之檢用如前於堂之西山向陽作一室抑其規模覆以茅草題曰西軒餘磚展砌瓦蓋垣牆兩邊伐竹編籬分別院宇移花木畧為點綴出入觀望東西曠爽其榕柯條枝葉婆娑蕭散布滿塔墀氣象為一變矣不獨此也每當旭日初升月明斜照或澹霞舒卷清風徐來葉間翠鳥穿織鳴囀翩反如聞孔壁之笙簧如擊波上之流光耳目所接奇勝迭出以視昔時氣象為何如哉余以西軒距榕蔭稍遠兼廚近而囂置酒局茶竈俾僕人守之若夫東軒正榕蔭盛垂處也徑僻涼而靜聚書其中余於公暇時一憩焉其於暑日尤宜也噫後之人未見昔時之污狹或有以毀樓為余咎者庸詎知夫余之於斯舉也亦猶夫見不才者而棄之也况未嘗棄之而且成之俾之舍其舊而新是圖向之悍然相為凌軋者退然自歛轉相輔翼如左右手非即化無用以為用者機耶客喜曰善夫吾而後乃今知夫教之多術也盍志之以為來者告也於是乎書

重修永康州文廟碑記

許廷節

太平府志

卷之四十 藝文

五

今上御極之十有九載戡亂武成遂專嚮於文治不次進用儒臣褒崇聖教令天下郡縣皆務興修學校而又恐重傷民力乃懸格以勸官師士庶捐輸樂成罔非欲偕斯世共躋於人文之雅化其用意良深厚矣永康雖古屬荒裔土司然自明萬曆間改併流州知州葉公時敏始建有學置博士弟子員聲明漸暨迄今將百年所矣其可鄙髮茲一方忽焉而不舉乎延節於康熙甲子三月來刺是州初見州治荒殘官舍皆茅茨弗庇風景淒然獨幸文廟一宇歸然猶存蓋舊學全燬于兵此為前守宛陵吳公尚庚所首創尋以罷去未究厥工及周視堂廡門垣諸故址牛羊踰躅悉蕩為町疇場矣瞻拜之餘

太平府志

卷之四十 藝文

五

心竊傷之輒慨然嘆興曰諸廢皆不逞此舉胡可緩哉且予奉從儒術起家既奉

命守茲土夫豈異人任顧處此窮壤行事有極難爾山石礪磽良木不生求之窮巖絕徑間勞費什倍合境編氓無一工匠陶者墁者斷且鋸者皆必從遠方招致非特厚其直孰肯子來語物力之艱無甚於此然予既矢志必舉寧可以形勢多阻而墮乃功耶於是倡捐薄俸為二三子矜勸勉以大義亦不敢以終窶辭取材於他山募工於旁邑殫厥經營而繼修正殿檁楹几筵始得完好新建兩廡儀門櫺星門濬池築垣次第落成時以啓聖明倫二祠堂尚闕雖心力已殫猶未敢告勞也全州謝

省元來乘鐸於茲遂相與戮力綢繆祠堂二區亦再新  
輸奐矣經始於康熙二十三年十一月觀成於二十五  
年六月終以物力多艱故歷時最久雖不足以侈壯麗  
然而規模亦云備矣爰進諸生於堂階而告之曰天地  
生才不拘以方帝王造士亦不限以城人苟有志亦何  
地不可自奮乎爾儕生於邊鄙囿於土俗雖有異敏之  
姿遲遲多自非薄而弗肆力於學安陋保殘修名不立  
不亦重可惜耶今幸逢右文盛世敷教不爾遐遺延邨  
亦不量薄力為爾儕勉規恢成此教育之地誠能實  
體此意而立誠以修辭砥節而礪行俾大廷升舉而登  
孝秀之選細民觀感而興禮讓之風化行俗美皆於吾

太平府志

卷之四十一 藝文

三

學中基之將來人文蔚起安知不可與華都上國相頡  
頽耶諸生皆拉而咸請勒石記之因復推本設教之  
意而並書以為勸焉其捐貲名數例得載於碑陰用光  
來者

重修南門渡頭記

黃良驥

余治麗江之五年凡興築便民者輒不辭役南津古渡  
去城下數武而南門必經之途也舊設石梯以通行  
李以宿商艘以便舟楫歲久水侵往來上下徒艱於步  
蓋江身深而狹流急而湍每值春漲秋霖翅上流數百  
里俱滙於斯而致阻滯者不計其數彭澤之狀非若南岸天  
成石磴可抗衝其

不更孰甚爰是卜

日鳩工運石取材自下迄上兩月告竣為廣七尺為深  
百三十尺為層級八十有奇為左右月臺六以拱抱窮  
水之性為糜金錢八萬緡是役也捐貲於俸不擾於民  
巍然鞏固煥然坦途庶幾利涉大川得便吾民耳矣若  
前人之制作固有待於今人則今人之修創而歷多年  
所更有望於後人之嗣續今人也

南坡書院記

康熙二十八年 陸祚蕃

余按書院之設唐人禁中以儲書籍宋人踵之為祀鄉  
先生而施教焉如白鹿嶽麓嵩陽尚矣粵處西偏兵燹  
以來人文寥落

本朝定鼎將五十年成進士者指不多屈豈真地足以限

太平府志

卷之四十 藝文

三

人哉抑亦造就之功未至耳丁卯予膺  
簡命衡士茲土首嚴月課刊發條教命校官以時肄士按季  
報閱用為殿最然士子食貧者眾既不能延師受業又  
不能負笈他邦加以居習無所膏火乏資苟非上之人  
鼓舞而作興之其何能克自振拔也耶則昔人書院之  
建尤不可不亟為講求者也迫翻閱省志桂林有宣成  
書院全州有清湘書院其諸平梧潯柳慶南思太各郡  
屬俱有書院而至於今不廢者省城則華掌書院中丞  
郝公浴之所建立也南寧則敷文書院巡憲宋公翔之  
所增修也至於觀瀾書院時立梧江余且得藉之以較  
士嗚呼書院其曷可少乎戊辰冬歲試再按邕州而思

明教授高子熊徵竟以新初南坡書院記來請予覽  
辭曰思明土司文教不興好學者少因商於土府黃

維鼎得南門舊公館地一所深十有五丈廣十有七丈  
前臨蓮沼環植嘉卉初建書院頭座三間為講堂後座

三間祀文昌像與學士解公縉神位俱覆以瓦兩旁為  
書舍若干間暫蓋以茅共費若干金召集生童絃誦其

中朝夕不倦予覽畢詫曰何教授寒員乃能留心造士  
如此可不謂舉其職者耶然考其書院之所由建以太

平守黃君良驥郡丞陳君達首命其請嘉與樂成又得  
督工總理郊之宸實心董事而貢矜諱復等協力同勸

是皆宜大書特書牽連得書者也爾諸生肄業於斯勤  
勤而夕礪日就而月將作忠作孝希聖希賢他日人才

輩出科第蟬聯當與中邦衡盛慎無以土司自畫可也  
是為記

書請祀解先生記

康熙二十八年 高熊徵 教授

徵按省志先生諱縉字大紳吉水人洪武戊辰進士上  
封事 聖性政剴切萬言改御史永樂間為翰林學士直

文淵閣時上方用兵交趾先生力言交趾古羈縻國通  
正朔時賓貢而已得其地不足郡縣上遂疎之出為庶

西參議尚書李至剛奏先生怨望改交趾嘉靖間袁公  
表字承之吳縣人以僉事督學粵西初視學首問名宦

祠有解先生籍乎眾對曰無有袁公愕然即徵郡祀先

太平府志

卷之四十 藝文

五

生云徵嘗讀先生洪武間陳王道一疏曰陛下取天下  
於羣盜救生民於塗炭此帝王之功也絕女寵寺人之

患無聲色遊畋之娛此帝王之畧也乃國初至今二十  
餘載無幾時不變之法無一日無過之人陛下嘗云世

不絕賢又云民不畏死奈何以死懼之陛下好善而善  
不顯惡惡而惡日滋良由誠信有間而用刑太繁也嘗

聞陛下震怒誅鋤奸逆矣未聞詔出褒一大善賞延於  
世者也夫朝賞而暮戮或忽罪而忽赦陛下每多自悔

之時輒有無及之嘆陛下又好觀道德心經說苑韻府  
諸書臣竊謂劉向學不純師陰氏韻府寒士叢說臣願

陛下上溯唐虞夏商周紀之奧下及關閩濬洛之傳令  
臣執筆而隨其後又曰痛懲法外之刑永革京城之役

婦女帷簿不修方今逮繫大臣過惡當誅且勿加刑做  
古藍田呂氏今義門鄭氏家範布之天下率先以旌勸

之行授田均田之制舉常平義倉之法古時書院學田  
興復而廣益之此化原所由始也又曰秦盛之潔衣服

之舉僕文之備此畏天之末也簿書之期訟獄之斷鈞  
距之巧此治民之末也上稱奇才云徵不禁喟然嘆興

曰先生真奇才也歟哉其學似董江都其直似汲長孺  
其文似賈太傅其正似韓昌黎遺際開創之英君而不

得一行其夙志謫廣西不已又謫安南李至剛之奏胡  
為乎蓋亦天未欲平治天下俾如三代之盛耳使天欲

太平府志

卷之四十 藝文

五



平治天下成祖以任三楊者任之其勲業治效當不止如斯而已也及徵改調思明遍詢古蹟遺文乘軼斷簡殘碑無不手錄考太子一泉舊為土府書院永樂八年先生謫交趾參議嘗寓于此與其郡守黃君廣成尋芳咏詩結歡歲餘而先生始還今其長老尚能指其所遊之地所題之景歷歷言之不置也而交夔沐先生之化漸染華風迄今其俗喜購書甚於中土春秋釋奠稱爲先師如朝鮮之有箕子也非其德盛感深何以得此乎徵因之有感矣當時至剛一劾交趾再謫蓋逢迎成祖以排擠先生也然使至剛不劾交趾不謫先生在吾粵不過祠於名宦已耳安能使交人奉爲先師懷其德教

太平府志

卷之四十一 藝文

五

煥休箕子至於今不替哉然則士惟患無其德無其才斯所至皆窒苟有其才有其德則安往而不利昔蘇子瞻謫惠州有詩曰爲報先生春睡足道人輕撞五更鐘章惇聞之笑曰蘇子尚爾快活耶復貶海南子瞻至儋州慨官舍以居有司不可買地築室僱人運石畚土助之日與幼子過讀書自娛又何嘗不快活耶惇亦未如之何也已矣先生惟數奇故不能安身朝廷行其所學以大庇天下蒼生然千百世之下觀其議論而想望乎采讀其文章而如見其爲人孰得孰失孰賢孰不肖必有能辨之者彼至剛之劾非所以擠先生適所以成先生耳始置弗深論第書院之設原以勸學視之不及如

白鹿洞書院以朱子講學而名吾粵之宣城書院以張宣公之建節呂成公之誕生而名其他如嵩陽嶽麓書院無非皆以昔賢得名今思明僻隅名賢罕至文苑之興始自先生春秋俎豆徵先生其孰能當之爾諸生肄業於斯誠能尊崇而效法焉將見學爲醇儒直能匡主文可名世正不阿時出而仕也則足以致君而澤民伏而處也亦足以淑身而善俗庶無負論法聖賢之意諸生成曰有是誠敢不惟命因並書之以爲記

思明府學署記

高熊徵

太平府志

卷之四十一 藝文

七

印隨失去矣啟頑間學官缺或不至則貢衿且代署學篆矣總之學宮初建諸生寥寥學官或去或留無久志宜文事之不能興起也

本朝定鼎順治間蘇君文昌陽朔人署篆僑寓民居間因飲酒醉斃矣康熙間伍君文海全州舉人自蒼梧陞任則寄居生員陸參之家光復後滕君侶署篆宣化人或寄居軍府右旁或寄居洞鄉民舍五年無定在繼而署篆者李君之玕蒼梧舉人則寄居生員譚馥家以憂去又繼而署篆者今太平訓李君先馨計將三載或來或去皆假館譚生員家亦未嘗有一署址嗚呼學官萍寄

施教錄哉余於丁卯奉文改調仲夏蒞任

所諸生為余借住生員鄭瑜家循例謁夫子廟但見荒  
 郊茂草片瓦無存歎感歎集諸生而問之命曰此邦  
 土司向無學校諸生原寄太庠萬歷間土府黃公奉祖  
 始議創建郡丞蘇公曰登朱公鳴時相繼成之當時實  
 有兩年學用銀三百兩益之學官魏煥學署規模因鼎  
 莖兵燬康熙十年郡丞王公之任再留歷年學用銀六  
 百餘兩界土官黃公載乾郡丞肅公如芝實重新之吳  
 逆變亂庶官勇黃維畿爭襲勾引交彝入寇戰爭者五  
 載府城灰燼聖廟復燬故荒廢如此予慨然久之六月  
 值太平守黃公送交南回貢至止瞻拜目擊余因為緣  
 簿求序募建郡丞陳公捐俸以倡子更勸募構材鳩工  
 為費不貲越三載乃成正殿儀門泮池橋星門等處自  
 念官以教為名而無一設教之所其何以殫厥職乎爰  
 謀於郡守黃公維鼎得南門舊公館地一所詳建書院  
 就於書院之右創建學署五間南負北蓋藉講堂以  
 施教焉余自捐十五金工匠木料之費董其成者國學  
 生鄭君輔辰也余思諺謂學官孔子廟祝故天下學署  
 皆在學宮之內今思明學宮久圯學署從無余因陋就  
 簡暫建於茲謹備述顛末勒諸石後之君子其亦可以  
 諒余心也夫

太平郡守黃公去思碑記 代各土司 高熊徵

去思碑何為而作也為德政深入乎民心感不去懷而

太平府志

卷之四十 藝文

元

作也惟其感之不去也故或歌五禱或咏兩岐或  
 桐城之祀或泣岷山之碑載於往冊昭昭也其或後世  
 人心不古諂諛成風雖立碑頌德或成於僚屬之趨附  
 或出於宵小之阿私皆於未去任之前先通欵忱冀得  
 歡心碑名去思其實獻媚耳何思之為惟我黃公於康  
 熙三十四年四月初三蒞任與利除害政簡刑清從前  
 積案悉與釐剔獄無冤濫民用不擾往者我土司凡有  
 一事差票頻仍追呼不已自公蒞任至今也未嘗聽差  
 一役往者我土司每遇訟訟動牽多人以為奇貨自公  
 蒞任至今也未嘗輕逮一人蓋潔已以率屬則官若有懸  
 魚重士而愛民則庭可羅雀至禱雨而甘霖驟降修葺  
 而文獻足徵善政彰彰難以殫述方期三年報最永庇  
 斯民不意聞訃讀禮禮速爾回籍我土司黃重白叟罔不  
 咨嗟嘆好官之難得思截鏡之無由某等因民心之愛  
 戴欲偕隊轍以攀轅而歸帆早掛雖願人留一大錢而  
 不可得爰相與磨崖刻石用誌不忘乃當公已去之後  
 而思念之彌深正如甘棠之澤剪髮戒於後人始將與  
 桐城之祀岷山之碑並照古今而非出於阿私趨附冀  
 得歡心者之可同日語也公諱鍾號謂菴江南休寧人  
 由貢監初筮仕安南郡丞以卓異擢梧州知府有惠政  
 改調太平知府蒞任僅半年以丁太夫人憂回籍仁聲  
 入人懷土軍民咸歌思不替云是為記

太平府志

卷之四十 藝文

元

風門嶺石橋記

高熊徵

予考風門嶺在郡城北十五里為南太孔道磊石為門  
門上建樓樓中有廟像真武諸神帥周環有大樹時值  
炎暑清風習習涼爽異常故號曰風門余由州抵任初  
未經此去夏與廳徐君廷太平守 公於弄至始過

六地中凹而兩旁突起儼然如門南拱明郡而北  
望江州紆曲幽阻宛與天庾嶺相以亦 明一鎖鑰也

徐君云樓廟久圯往歲招有僧主此將捐金釀資以成  
之既而 法故中止相與慨嘆者久之嶺南北之下

而無橋遇雨潦則泥淖最深往來者病焉  
自辰角見而兩畢則除道天根見而水涸則成

太平府志

卷之四十一

三

梁博有司之常職然今之為有司者凡公家錢貨雖錄  
一兩不得輕用嗚呼自公務之臨不得已而用之未免有  
掣肘之虞况土 方無公家之積有司縱欲有所修

舉提襟露肘其 之何哉今年秋郡目總理鄭君以  
嶺南北下之道踣崎者將修之窪者將橋之繼又以樓

與廟之傾圯者將盡補葺之於是鳩工庀材召匠於楚  
伐石於山訂石之工若干甃而砌之工若干橋長若干

為石墩者若干與廟甃石之費若干棟甃之費若干  
椽角之費若干經始於某月越某月而工竣共用若干

金廟貌重新金湯如舊南北石橋既葺且固往來坦坦  
無泥萍憂請記于予予不禁喟然歎與曰善矣哉鄭君

之是舉也夫修廢舉陸有司之事猶每多掣肘之虞鄭  
君無有司之責而喜於為善俾積年之廢墜一旦修舉  
公私無費而行旅與歌其為善願不懋歟或曰是舉也  
君益為其子璠求福也余曰奚有於是君子之為善也  
要在於誠而已易曰積善之家必餘慶蓋善積而福  
自及之苟為善之心既誠其子子孫孫實嘉賴之豈但  
福其次子璠而已哉詩曰豈弟君子求福不回鄭君之  
謂矣鄭君諱之宸字贊御為人長厚而樂善不倦云

永濟橋碑記

康熙四十九年周 涌

太平府志

卷之四十

三

至冲登村後一水間之其源出萬山匯成巨澗當春水  
驟發會集眾流奔濤怒激衝突可畏涉者病焉明成化  
年間始築石橋以跨之水勢噴決易至傾圮其後興廢  
不一修築之役蓋亦指不勝屈矣自我

朝定鼎兵燹之餘又復崩塌六十年來未有議及此者顧  
以地當孔道郵遞之往來相望不絕感苦村民捐貲買  
舟以濟之居者行者均受其病矣然則斯橋之興廢其  
有關於利弊者豈小哉余蒞康三載每因公事赴郡往  
來於此未嘗不怒焉慨之也壬辰春孝廉歐振綱蘇眉  
明經張炳慨然以利濟之心為修復之舉告於邑侯  
公各施金為倡而余素有是心亦稍分薄俸以助之三

子者於時鳩工運石日夕董率不越月而厥工告竣  
余一言以記之余因是而知一橋之興廢實關世運之  
盛衰不獨一方之利病係之也昔經兵燹致慨此俯因  
之而圯今者百廢具興而茲橋亦煥然一新也是豈非  
時際昇平休養生息既久而民物殷阜之效耶故於其  
成也余既嘉三子者之好義而又為太平之民幸其生  
太平之世也爰不揣鄙陋而為之記

萬承州重建城隍廟碑記

王健

萬陽隸屬太郡詢諸故老夙稱樂土粵自分疆以來舊  
有城隍廟稱遠市塵清曠幽僻里民出入祈禱歲時報  
賽者或稱未便兼之立廟塑像年久敝壞漸就傾圮而

太平府志

卷之四十 藝文

五

揆之職守事神尊民有司者之責也州守許君欲營而

新之俯順輿情卜地于州署之左鳩工庀材尅期告竣  
僅三閱月而落成鳥革氈飛丹堊備飾爰誦吉日許君

親率其族日商民往瞻拜焉退而適予館欣相告曰今

茲廟貌煥然一新庶幾哉神無怨恫人民胥悅境內輯

寧在斯舉矣予曰未可恃也神之所享其惟明德乎傳

有之夫民神之主也務使上下皆有嘉德而無違心然

後民和年豐而神降之福繼自今而世守斯土者急於

保障緩厥繭絲則凡朝考其職畫講其政夕序其事必

求夫嘉德咸備違心悉泯而後即安則所以格神人而

綏遐福者豈外是歟許君以為深得箴規之義願勒諸

石以貽後人予曰諾是為記

博感洞記

李銓

余素雅志林泉三十年來凡宦遊經歷之地於山水之  
名勝者無不留心焉惜五嶽皆瞻眺而未及登然勝槩  
亦歷歷在目其為神遊也舊矣其他如終南太白黔倉  
雞足中條少室四明峨眉匡廬等山桃源紫雲醉翁蘭  
亭赤壁諸勝與夫都會郡邑一鄉一區隨處邱壑溪澗  
之足賞心者亦莫不登眺遊覽流連憩息其會心處顧  
亦多矣然皆不無人力之雕鑿點綴失其天真而今昔  
名人傳記題咏之多不可勝紀其間文以地著地以人  
傳千古之下人地相因之盛若出一時斯皆造化司

太平府志

卷之四十 藝文

五

而所生所遇者有不同也左陽深處萬山之中雖曰荒  
殘而山水之奇實有非尋常所可比擬者余於蔗仔之  
初近郭即得有金山焉相共晨夕已別有詩歌記之矣  
而南山一帶千峰環峙綿邈幽深余每思其中必有  
處乃於暇時採俗觀風而復得所謂博感洞焉者從  
遊之見其洞門軒敞一宏中流峭壁危崖龍蟠鳳舞  
折進退回顧周旋殆五丁之初闢日夕猿鶴之所  
者也過危石渡澄溪而潺湲之聲忽遠忽近載觀  
不知其所從來沿溪魚貫而入漸次而暗不數武  
一竇光接眉睫間躡級以登其上宛如珍樓玉宇飄  
飛揚時有煙霞往來卷舒以供俯仰者也洞外竹木

雜飛鳥決皆桑麻在望雞犬村民髮鬢遊秦之野有令

人徘徊顧戀而不忍去者矣其上陡絕難行石立而首

滑林深而草茂乃緣木牽蘿猿攀蟻附始得躋最上洞

天異哉狀如虎穴勢甚湫隘似不能納耦及偃僕而進

中復光明寬廣二竅通天石梁懸架上有古木交加如

虬龍震怒下瞰精寬風色天光依然入人懷袖則其臺

閣重樓幻極奇致殆別一天地非復人間世矣左有重

門天然石砌乃降階數級益復轉折灣環移步換形令

人不可端倪其雲物花草鳥獸魚龍不能名字在在皆

然扣之則鏗鏘噲眩八音齊諧疑若仙樂凌空瓊聲濟

楚恍兮惚兮身在五雲端矣洞中可容萬人其委曲周

折處僅容一夫然炬潛行里許乃至其奧懸崖平廣石

蓋擎天其平如掌其光如壁仰極憑虛之致下臨不測

之淵至此心懾神飛飄飄然栩栩然若夢若仙生平之

遊未有若此之奇遊也有從遊之客曰天下名勝余遊

者多矣實未曾經見奇幻有如此其極者惜乎生于

遐荒不遇心賞使亘古至今寥落無聞不知造化果有

意耶無意耶余曰不然此殆可見天地生物之心也矣

夫天地之足實者實也鬼神之所忌者名也設使此山

生于繁華之地登眺者眾題詠者繁將見七竅鑿而混

沌死而欲完其精神存其面目能乎否乎與其舉世浮

夸實喪而名存何如與世相遺而全其天真耶客乃

重修嶺南大關記

雍正四年李紱

周禮掌固掌修城郭溝池樹巢之固凡守者受法焉

有司險掌九州之關以周知其山林川澤之阻而達

道路設國之五溝五涂而樹之林以爲阻固者有守禁

蓋設險之道若是其重也廣西越在南服重山密菁徭

獠叢雜所在險阻而鎮南一關南臨交趾號爲要地馬

新息銅柱在焉其地獨平曠無高山深林爲之阻固所

恃者關而已

國家威德廣大悉主悉臣四裔款塞中外一體安南尤恭

順於是關久不修漸就傾圮貢使歲款關往來是路雖

設險非

聖世所無非所以肅觀瞻而重邊防也且恐內地細民間

嚮出而境稷我藩服亦非我

國家所以懷遠人之心則宜修葺矣於是文武大吏蒞茲

土者料木石之直以從事於斯役今廣西按察使甘君

時方守太平兼攝南寧事南寧有檳榔小稅額課外得

羨銀千八百兩慨然曰關故太平地守禦故不復修今

既有此羨願獨任之列請咸報可遂鳩工於雍正三年

春二月至冬竣事有乞其傭有翼其樓斥堠營汛既齊

既收南望銅柱兩高並峙洵天南之偉觀也

其心任之者耳無其心以衆人共其心

太平府志

卷之四十 藝文

五

太平府志

卷之四十 藝文

五

而不足有其心雖一人獨任而有餘甘君信賢愛士  
君諱汝來江西之奉新人由進士起家所至有廉能聲  
以吏部主事來守太平未幾遷左江道副使歷今職並  
聖天子特簡其將來倚任固未可量云余方理裝北行甘君  
來請記遂質言其實以嘉甘君以勸來者庶毋廢斯績  
也時同事茲土與斯謀者兩廣總督孔公諱毓珣廣西  
提督韓公諱良輔左江總鎮梁公諱永禧義得並書

重修思明府學記

陸紹琦

思明古南粵地漢唐以來夷獠所居設官置吏未之及  
也宋時始隸邕管元為思明路明改思明土府城郭雖  
具學校之制闕焉其地乃接壤安南為貢使往來必經

太平府志

卷之四十一 藝文

美

之道國家車書一統聲明文物將以昭示遠人則地雖  
土轄建學明倫之典其可廢乎明萬歷間始初建立學  
鼎革後燬于兵康熙十年修之僅成正殿一座未幾  
以亂毀三十六年既平定教授高君熊徵自桂林改  
茲土觀學宮茂草亟請于府設法募建越數年而殿  
門廡次第落成其規模宏敞一倣桂林學制為之而  
明之學遂巍然為邊境壯觀矣顧以地極遠遠隸學之  
弟子寄籍多于土著歲科兩試俱就南寧考棚學使  
未嘗一蒞其地守土之吏莫之省治而學官漸就傾圮  
寢失舊觀康熙六十一年教授陳君廷藩慨然以修  
為任垣墉塗墍丹雘畢動于是思明之學復煥然一新

如前日滿余校士兩蒞南寧見思明之人士多條駁  
發如農生廢堯尤土裔中之傑出者比秋試而鄧生禮  
方新遂遂舉于鄉哀然為一經旨斯豈非學校修明人  
文蔚起之驗歟夫王道之行化民成俗必由于學故  
年計吏報最以興行教化為先而司鐸者居師儒之位  
率諸生論道課業于學宮尤宜恪勤將事相與有成然  
或事需經費力所難為則往往委之守土之官而已不  
能與今思明之學廢舉陸有高教授倡之于前而陳  
教授從而繼之洵可謂克勤厥事後先媲美者矣

太平府志

卷之四十一 藝文

美

國朝際重熙累洽之感海濶教育八十餘年薄海內外無  
不道一風同粵西為嶺表勝地人材之盛不遜中邦思  
明自建學迄今百四十有年復日新月益發與桂林  
諸郡士並駕齊驅自茲以往蒞茲土者無能以教化為  
先時時修葺勿墜而再鑄之官感其勤教之克勤厥  
事以相與有成日率諸生砥行力學務勉為端人正士  
以應

國家選造之典行見思明之士震發雲蒸翬起而又  
樹之風聲俾土裔之賢詩而用昭文  
遠人以光

聖朝一統無外之治不盛哉余校士之語而樂為之  
記以示後人

太平府志卷之四十一終

太平府志卷之四十一

藝文五

序

送太平郡守泰和王君去矜赴任序 明 張昇

太平郡隸廣西去京師萬餘里近隣交趾龍州自古夷獠居之強悍戾性習不常兵戈之橫警教之條起于瞬息易動難安非可以禮義教訓馴服之今之官游者孰不欲近地以聲望易著也孰不欲善地以政化易行也若萬餘之里至遠邦也得之安有不悻悻然者夷獠之邦至難治也良之安有不戚戚然者雖以大儒若韓昌黎之刺潮則以為遠逐柳子厚之守柳則以為投荒况世之恒情乎今泰和王

太平府志

卷之四十一 藝文

一

去矜以南京後軍都督府經歷彌九載考最至京需缺又明年以廣西太平府知府以至遠之邦有難治之俗在人情有不堪者而君怡然安之惟報稱之是圖慨然以行無幾微難已士君子莫不重之以為有所養度越世情遠矣非世德之冒之微耶蓋君家望殊高其來非一日也若抱才能而侍內殿說書者君高祖沂也播賢聲而守瓊州者君曾祖伯貞也又有大父文端公碩德重望掌天下鈐衡公而且明者其垂休遠矣宜乎君之所養異乎人也初緣蔭補中書舍人詞翰俱有家法久而京光祿署正以廉能著稱又陞後府經歷廉能愈著無愧于家聲吾知其不難于

其氣習亦與中州無殊加以君世德之餘廉平之操必能廉聽以正其陋敷德政以動其衷嚴禮教以革其俗正倫義以端其風殆見風行草偃日新月盛而氣習益美矣以質于少司空張公時達公去矜姻戚也喜而踴勉去矜曰其朝夕無忘于斯言遂書之

送太平府江君序

唐順之

嘉靖中交人寡其君貢獻不通天子議將用師於是命廷臣推擇諸臣中才望尤異者使為廣東西雲南三省撫臣而三省之吏自藩臬至於州郡縣必精其人有不稱者更而置之而廣西之太平與廣東之欽廉雲南之廣南諸郡實綰三省之口為中國出兵之戶其地與交南相齒錯故其選人尤重

太平府志

卷之四十一 藝文

二

于他郡而江道適以戶部郎出守太平君練達而沉毅氣偉而志雄士大夫以是賀太平之得其人而知君之能勇于立功名以自見也會余以省父至南郡君之僚某君輩因求余文以為君贈余惟交南距中國萬里許且夫以北土能寒之人而爭務于毒利暑濕瘴癘之域以轉餉之艱而當自食其地之逸以不習地形之勢而當當關拒險陡崖深溝之塞此兵家之忌罪人未可以必得而中國且驕然傲矣故征交之議士夫多難之雖大固有下煩兵不費糧而可以有功者則漢人所謂州郡足者也今廣東西雲南諸郡所轄諸土兵其畏葸固與交人無以異其巢窟于陡崖深溝之中固與交人于交人之地無以異也往時徵土之毗多竊出與交人

近以通夷禁之夫此正不必禁也貴在因而用之耳誠欲  
刺其陰事而疑敵其黨則足以備間謀欲奪其險阨則足以  
供鄉導何不可哉且莫氏以篡得國交人雖蠻夷固未必盡  
肯甘心為篡人役也其左右之劫于兇虐欲自拔而不能者  
計亦多矣聞故王子孫尚有據國之半而爭之者而占城歷  
交人之百世仇國也此皆可借其報怨之憤而資其夾攻之  
力顧為計者未知出此誠使此諸郡迭相臂指潛形蓄銳蹈  
瑕而動用其長技與熟于地形之兵加之以間謀鄉導之便  
因其故王子孫與左右欲自拔之人以為內間因其仇國以  
為外騎使彼備多而力寡然後陽壁于其所備而陰襲其所  
不備其國中固宜有嚮應者然則兵不必傳其都而篡之首  
太平府志 卷之四十一 藝文 三

又送太平府序

唐順之

古之仕者比閭族黨之長皆不去乎其鄉積而至千公卿大  
夫皆不去乎其邦出有祿位之榮而入有桑梓之歡其委贄  
而效之君也未嘗一日違乎其親其戮力于國也未嘗一日  
捐乎其家其或銜命而使蓋亦不過乎友邦侯服之間而  
有蠻陬海徼之遠且艱也然而四牡所父之詩上之所

下之所所以自鳴于上者且眷然而  
其情其勢之所易以使而下不必矯其情之所難以去上不  
奪人之私以斷乎事之所必集而下不必自割其私以殉  
公之所必急於此之時士之不樂于仕者其亦鮮矣後世  
之仕者不然微于一命之寄則不得不去其鄉鄉羈于畫土  
之守則不得不違乎其親其所冒而歷者或絕棧驚波窮瘁  
毒霧夢寐之所駭而虞焉者也其所羣而靡者或侏侏程語  
弄竄鹿視耳目之所怪而愕焉者也此其勞逸愉悒與古已  
大異矣而上之人方且據其勢之所易以使用而惟斷乎其  
之所必集下之人方且割其情之所難以安而惟徇乎其公  
之所必急然則今之仕者其亦有所不樂乎否耶白石江君  
太平府志 卷之四十一 藝文 四

歎人也乃今為天子出守太平當南徼之絕去鄉萬里之外  
涉瘴癘之地與夷獠雜處君雖慷慨不畏艱阻然而君有老  
母在顧力不能偕也豈亦有所不樂者乎君既不得如古士大  
夫各用于其鄉而其勢又不得以其情自請還地而朋友間  
亦無有能以柳易播如古人而又無有能代為之請者其亦  
有所不樂乎否耶雖然太平為南徼雄鎮外村交人之背內  
理綏諸蠻酋其為地也最要而其欲得良吏也甚急君負材  
練達氣倜而志雄意者太平固非君不可而君不宜以親為  
辭耶抑以天子方有事南陲欲借家雋於鎮綸之用而暫試  
之盤錯之效以待旦夕而事定則遂還君於內地以便君之  
私也歟余固知君非久淹邊郡者也然則君其可以代



行而所父之歌余知其不必作于他日矣

孝忠經序

蔡迎恩

夫天下之道二也二者何曰仁義而已矣然堯舜之庭禪精  
一無餘旨周公之制作孔子之刪述皆明乎此也曷為而二  
之曰求之古人之心曷為而二之曰求之世變之人心道之  
二也無容緩矣何也春秋之世雖有六家九流其為害也未  
甚故孔子授徒敷教止言仁會子得其宗詳載一經孝道備  
焉所以闡明道德之源為人心反本之思亦至切乎及至戰  
國世教益衰方術愈競天下之言不歸揚則歸墨聖人之道  
蕩然無聞矣孟子出作七篇首以仁義為言闢邪說放淫辭  
君父之教昭然於人心目間炳如也此道之二所自來忠孝

太平府志

卷之四十一 藝文

五

之教所由立矣孟子沒火於秦聖賢仁義之道不絕如絃迄  
於秦劉石渠之設白虎之會非不尊道也殊方異旨背道遠  
矣馬季長為漢通儒傳道日甚遺宗孔氏家法做城孝經者  
忠經十八章明仁義之旨於垂絕之時植人心之變於頽靡  
之際名教中功亦偉哉夫何世遠言湮人之傳習但知孝經  
之所以孝不知忠經之所以忠噫孝者忠之體忠者孝之用  
體用一原相須而成蓋不可偏廢矣或者以季長漢習言多  
附會及經疑而棄之孰知先賢非後賢無以傳其道後賢非  
先賢無以明其教豈以習染時好之故病其人而沒其言哉  
蓋非尚論之公矣予嘗習讀二經有年深求其旨合於孔子  
春秋之教春秋正名定分使亂臣賊子知所懼而約於仁義

道德之中也二經之作敷詞衍義支分節解君臣父子之行

昭然顯然雖出於六籍之外實與春秋相表裏者矣適予奉  
乏太平會養利州牧守王君出二經為覽君欣然以謂有補  
邊氓有功名教願捐俸餼梓以廣其傳與之校正君以唐皇  
御序多紕繆支離請去之予嘗聞同邑陳恭愍先生刻此經  
亦如君議而刪焉可謂符合矣仍屬予以引其端予以二經  
之傳心身之助齊治之本况在交彘塞崗之間二經又切且  
要也世之學者能於二經而體玩詳察之上可以事天事君  
三才之道備下可以事親保身而自行之源清斯足以見聖  
朝雍熙累洽之化無遠弗届矣是帙也豈曰小補云

崇善縣規則序

蔡迎恩

太平府志

卷之四十一 藝文

六

世之為士者當平居未遇之時涵濡礪礪而記憶古今事遂  
抱膝撫髀以談世務就為天下利之當與就為天下弊之當  
革激切吞嗟思得一職以自建明也及薦于鄉揚於廷為民  
社司牧之寄顧嘆曰家之殊政國之異俗世難齊一如是乎  
其為孰與孰革茫然不能一言以及之間有所言也或阻於  
勢或奪於貨終無可言之日矣宋儒程伯子之言曰孔子曰  
古之學者為己今之學者為人吾以謂古之仕者為人今之  
仕者為己其學也為己則其仕也必為人其學也為人則其  
仕也必為己余讀其說而有感焉蓋以為苟不自利必能利  
人而不為己必能為人也今夫以小民之困蔽有司莫以  
而不以有司之沒我以有司之濫費小民莫敢言而不以

之惡我何也其來之久而習之熟恬然莫之怪也此程伯子所謂今人為己之仕也有志於學古用時者其於積習承久之弊必有剝濯祛除而名言不已敢負初心而漫不加意哉今崇善尹何君宰茲土四載矣其積學於平居者深則見於官守者確有惠愛之政有強教之仁利之孰與害之孰華富之定而言之中也固宜於是請裁於上大叅朱公兵憲李公每以軫念邊氓加惠疲邑得君所請咸樂共成焉蓋恐久而更易謀梓用傳以垂永久或謂君曰君則可矣得無病後來者君曰吾知自盡而已違恤其後乎且後來者賢必不非我不賢吾亦安能為不賢者地乎君為人貌古而氣凝恬淡而寡欲其居官苦約體悉民之隱憂敷之欵議數千言誠得

太平府志

卷之四十一 藝文

七

時艱之急務矣余以君之志有成始而其言有善終者可知己以君之仕能為人而其學必為己者又可知已謂非素養之豫豈其然耶余叨守茲郡而崇善尤近轄也當余蒞任之初得君所職而深喜之蓋占敘於首不能辭也噫斯舉也余之志也君之才而先之故及為士者始終人已之說雖為君語實為自坊云

思明府志序

國朝高熊徵

今上御極之二十有一年武功既告文德誕敷大宗伯傳詔直省通志未進者

勅巡撫都御史纂輯以進廣西撫院鄒公承

勅會城聘閩省進士舉貢通古學者咸集纂修余時備

桂瓊奉檄協理志局凡郡邑乘悉得綜覽其左右司皆附見各郡屬即交趾志亦備載南寧惟思明志屢行催取竟無一字到局幸天啟二年省志舊本備有存者得按編葺而學校無稽焉洵缺典也客歲之夏余奉文改調思明觀其地土平衍山川明秀綽有華風循例參謁夫子廟庭雖荆榛瓦礫僅有茅屋數椽然碑尚在讀之則明狀元黃公仕俊之所撰文也學苑丁未落成於已酉不禁唏噓歎興曰立學已久諸生彬彬濟濟當檄取舊志之日縱無完志可獻若此碑文不可錄之以入省乘乎及後諸生謂學官傾圮抄建學錄由白余呈請余披閱詳明復歎曰是皆可以入志也因

太平府志

卷之四十一 藝文

八

論諸生凡有舊籍廣為搜採片紙隻字俱量酬其直於是郡人各言往事郡守黃公維鼎首出其黃氏宗譜以示余遍詢往來鄉人但有斷石殘碑皆不憚躬至手錄又得解公縉黃太夫人墓志一文最後乃得宏治間知府黃公道重修舊志一本紙盡蠹蝕字皆骨魚為卷四雖事多遺漏而有籍可稽余大喜曰是志成志矣爰請於二守陳公召諸生集寓署分條別款以次纂編沿華終藝文而冠以繪圖事必嚴其實詞務去其浮親加校警察諸省乘各立小序以明其意為門十有六為目四十有五以附於其下共成書六卷雖遐陬僻壤漢德少文然盛衰興替之故治亂安危之機物土之

因民之俗不... 史之一助云爾是為序

安南志紀要序

高熊徵

余考交趾自漢武帝元鼎間平南越即置刺史猶在吾  
岑建縣之先雖中間一更女子徵側之反然馬伏波旋  
討平之銅柱旣標交人震懼自漢而三國而晉而南北  
朝而隋而唐無他虞也至五代間南漢實有其地而丁  
部領始自稱王有宋之興文教稱隆而武畧未振北有  
遠西有夏終始... 爭其何暇及交趾耶安石謀立奇功  
僅得四州一縣官... 八萬死者什六而交人陷欽廉陷  
邕州屠其民五萬餘口得且不償失矣宋之不競一至

太平府志

卷之四十一 藝文

九

於此乃元世祖統一寰區嫉其不肯假道命鎮南王脫  
惟征之詔發江淮蒙古雲南黎兵九萬餘人水陸並進  
日炬航海舟楫無功左丞唆都中書李恒戰死脫懼以  
是得罪中國視交曩竟比之亡隋之高麗矣孰敢加兵  
明永樂間一俘黎季犛再俘陳季擴張英國之勲媿美  
伏波乃英公召還闈人鎮守貪官墨吏不已誅求遂致  
黎利復叛仁宗即位仍用中官宣德間茶籠州之敗寧  
稿之敗昌江之敗倒馬坡之敗王通統禱竟主和議遂  
棄交趾以至於今嗚呼交趾誠不可取有如是哉若之  
何自漢迄唐皆為郡縣也及予改調思明正與交趾接  
壤詢之故老康熙十三年吳逆叛交曩乘亂屢破思陵

州殺其官毋擄其官男且勾通十萬山賊并破思明  
恣僧等村光復以來思陵登控侵地先經郡丞李公山  
齡再經郡丞謝公檀齡復經泗城郡丞潘公麒姓迫令  
郡丞陳公達二十六年二十七年二十八年又三次往  
勘始有定議曩情狡猾有自來矣余按思明抵南關僅  
百餘里南關抵交州不過四百八十里許惟諒山至鬼  
門關此百里間山叢林密溪澗頗多稍勤跋涉耳餘俱  
平坦大道不濘不沙可以方軌聯轡渡富良江即為交  
州非有劍閣平陰之險長江天堑之限也且其州無城  
垣民皆草屋又非有高城深池之可憑恃也奈何前輩  
之論咸美三楊以... 必成碩畫未易為少年喜功者道  
耶今年春又值交人入貢之期道府駐節幾三閱月而  
交人動以奏事本... 為辭不肯驗貢偃蹇濡遲殆為已  
甚余閑齋無事因綜省志及浙江督學谷公應泰明史  
紀事本末與侍讀學士李公仙根使事紀要二書纂輯  
成帙題曰安南志紀要俾留心邊事者得有所稽勿謂  
僕船下瀨之師未渡富良龍編諒山之域不煩戍卒有  
明兩定復及宋元遺車當戒使黠曩輕中國無伏波英  
國其人庶亦籌邊之一助云爾并繪輿圖以備考

太平府志

卷之四十一 藝文

十

書

擬代道府與安南國王書

高熊徵

竊惟流服者貢舊制原有定期要君者誅聖經毫無

假按王之國自秦迄漢迄唐皆為郡縣當女子徵

反旋即素誅銅柱猶在若姜公輔之賢入為宰相史部

炳然五代時中國多故丁部領自稱為王朱初其子丁

璉入貢太祖就封之此交趾為王之始也璉後為大

黎桓所篡宋太祖曾發兵問罪祗聞北有事以

桓通誅後遣使貢方物謝罪真宗即位始封為王

傳僅三世大校李公蘊復篡之中國以蠻夷不足責因

其奉貢遂用桓故事授之為王傳十一世子絕壻奉陳

日照乃有嗣元初日照子光昂奉貢世祖封之其後用

兵雖中國未嘗得志而陳日烜亦遁走不能堪矣明洪

武初日烜子日燧進貢援例得封後因黎季犛弑主自

立永樂初陳天平走愬京師遣送歸國季犛誘殺之中

國發兵討季犛伏誅交趾悉為郡縣如漢唐時將二

十年中間簡定陳季擴之反英國公張輔三定安南雖

美伏波赫赫在人耳目苟非中官貪墨將帥寡謀誤聽

講和戰守失策今日之交趾猶中國之郡縣也王安得

撫有之乎王之祖黎利實清化府俄樂縣土官巡檢耳

以交民不勝誅求因而首事倖獲成功更值宣德戡兵

遂棄安南利墮入貢正統元年王祖麟遣臣貢賀始

封王由此觀之交趾豈王之故國哉正德十一年王

嗣虐政暴征國人怨之社堂燒香官陳曷作亂莫登

攻殺陳曷因以自立王國不入貢者二十年王祖

越在草莽遣使間道入告中國與師致討登庸而縛道

左故降安南為都統使司授登庸孫福海為使是莫氏

之在安南非一日矣

本朝定鼎服治十七年莫元清率先歸順僅授都統康熙

二年王祖黎維禧人貢即封為王

朝廷之待王祖莫莫元清輕重厚薄原有等差康熙六年

維禧不請

朝命擅自與兵奪莫元土地元清奔歸

朝廷雲南兩廣藩王將軍督撫提鎮咸謂王國擅兵宜加

征討

呈上如天之度不忍加兵

太平府志 卷之四十一 藝文 十一

封遣院臣李仙根部臣楊兆傑

諭王還其土地人民王國獲安事猶在耳吳三桂之亂王復

驅逐元清俾其竄身泗城

王師會勦雲南賴將軍由粵西進元清與泗城土官躬先

鄉導不為無功第以曾受偽命奪其原封其子莫敬光

家屬三百餘口

令王安插得所敬光縊死敬暉尚在宜加撫恤已奉

俞旨今據王稱二王三王四王之說是王安插未嘗得所也

二十一年禮部咨開遵

百安插敬暉事是

是上未嘗許王之盡誅滅其族屬也而王必欲使莫氏無噍

類極之於其所往何其量之不廣耶况莫黨通籍人名  
寬行劫事述本撫院代王

題達已將泗城土官歸順土官章職

國家之於王國

恩至渥矣今兩貢之期既屆本道府奉文於冬月已抵思明  
府原為接貢非為奏事也而王不即遣貢過河照常行  
事以昭恭順而乃藉言泗城田州容住莫黨廣南蒙自  
侵占崗村假入貢之名為求地之實令人駭異誠不知  
王是何心也王以為

朝廷果利王之貢物乎兩貢並進王自計為數幾何真不

過太倉之一粟耳然貢物不至則有不臣之罪今王乃

太平府志

卷之四十一 藝文

七

藉貢以求地是有要君之心其為罪又可勝誅哉本道  
府守土邊疆與王國為隣誠不忍王蒙要君之罪故特  
以書聞王其恪共臣節忠敬為心速將所貢方物照例  
入關以便查驗免致後期至其奏事本章宜俟督撫示  
下另為申進苟必以貢物為奏事張本是以防求後非  
道府之所敢知惟王審察而速行之以彰恭順之節毋  
自干無將之誅可也貢期已逾立埃回音不設

論

崇善縣論

明 何道臨

崇善極邊小邑山石絕延巉巖險峻迥旋人物星稀煙  
火不接棘木茂落茅草蔓蕪惡獸怪鳥盤巢穴與民為伴

走山徑為康衢騁林蹊為通道結架網索為室而居引耕牛  
而畜其下風雨淖淖氣息悶騰蚊蟲交發鼠竊狗偷者乘其

空而曳之據山麓平曠之土闢而耕治為田犁鋤布種以食  
夫安焉作以耕蓬頭跣足獸走禽奔上論詩書下談禮節則

如夏蟲疑水井蛙駭日乃堯舜未博之俗唐虞尚頑之民自

漢武頸繫百粵伏波始事南交制燠齒驍足之民驅蠻髦鬼

賊之眾歸我中國山川險阻人馬可通而彘性桀習至今未

解我聖朝以太平文物之化蕩平撫治之則邊疆熙然丕變

矣其初以其出于土彘立其酋長以馭之而以褒衣博帶縉

紳臨焉彘性懦恭驚悍率其頑梗鑿山障海擾釋地方勤平

戡定易置為流邑千抵邊東隅時在郭三廂并歸化一十八

太平府志

卷之四十一 藝文

七

村尙未錄隸崇善所統治者惟舊縣兩里之民計家不滿數  
百口田里附于邑下其殘苛貪冒者勿論矣畧知存心為國  
者撫育其人民而耕治其田里民之事邑主如子之事父母  
飲食言笑疴癢疾痛緩急相關叫呼相聞邑小事簡民無餘  
役供給奔走應答之勞閒暇時以詩書禮義之文漸次錫  
可以坐臥而治民無愁歎之聲矣嘉靖十八年始遷附郭邑  
于郡後周匝帶山已處其中東抵左州距巒南連江州越河  
西接龍州封境北當太平安平眾巒疆界去交趾二三百里  
極邊枕塞當衝要衝宜壯雄藩謹鎖鑰焉三廂一十八村  
隸縣治增編六里每歲發派差役道遠疲奔民稱繁重往  
欲附奏遷復而大勢難移更革煩矣在城密通衣冠日改月

也。日染庶幾漸入歌絃舊以其近邊僻地事從俯就日

與各州兌耕貨入而以其租給托農人館貯歲時揭家寄

無遺算故鮮富鉅之民土民無別轉遷買賣夫妻子女

備取其便易者而任意為之冬熟鮮收則嗟天時不利而坐

起民賴衣食然焉焉駭鈍狂狎目前近利無憂深慮遠之謀

太平府志

卷之四十一 藝文

五

父子祖孫相承多甲乙不辨白黑不分欲致富盛豪雄者難

婚姻而夾谷遯阻之眾與牛馬鹿豕同遊管窺蠡測尙踵披

倉卒無擇患固固之心然民以飽食醉飲為便駭聞詩書訓

子之說責以修飾學宮並延師教則如孟子所謂月攘一鷄

乃可稍變其風俗知尊君親上之道而固疆守圉之民漸可

夷之治而講張為幻器頑抵冒者撫之不知恩繩之屬肆吻

辯

太平府志人物辯

國朝高不矜

葛爾邊郡人物寥寥科目半客籍名宦如晨星無

吾不能無疑焉夫人才不擇地而生矧我大郡高山大

川重疊逶迤所鍾人文既負英氣尤饒俊骨迺遜稽

百餘年僅得一人說者鮮不以為地氣使然今古載籍

不能悉備則誦法無資名儒大家亦鮮遵止則指引無

人其說亦近似余皆以為非確論也想眉山蘇氏未至

京師時地之僻遠與粵西同及其大魁天下文章卓越

事業炳燦為古今人所不能及是地氣不足以限人也

明甚若夫諸子百家不外六經蓋六經聖人之書百家

之精微也學者貴精不貴粗苟能使六經之義旨深通

上足垂世立教下可體國經野為名儒為大臣端必歸

之矣竊思百家之書凡在遠方絕域或者有得有不得

至六經如人之日用飲食有不家傳戶誦者乎而猶以

為誦法無資何異臨水呼渴守粟啼饑也我

國家取士之法皆本前代規模肆舉業者習一經演書理

者尊宋註誠令諸生各精研體認旨趣貫徹之後取前

太平府志

卷之四十一 藝文

六

大

止成... 小試小利大試大利

孝廉... 未嘗無也精於時文者未嘗無

師良友亦未嘗無也所患者心不虛功不純耳

經離道以至拈題不知書理駢辭而無結

而日月云遺悔之何及此科目寥寥之故也如

之薄典籍之缺與師友之無人豈不痛哉再

之典勤事山祀之以勞定國則祀之能禦大災捍

人平志

大忠則祀之

陵墳衍人

居官而人

歌咏者有同聲傳聞者無異辭然後薦之憲司達之

朝廷或合食配享永千秋之血食於不衰因知在官為名

宦始能在家人鄉賢古今來未有鄉不稱賢而能為名

宦者亦未有宦不得名而可入鄉賢者兩者相兼而實

不得離故桐鄉馮夫子孫不敢遷其墓南陽信臣後代

猶為立其祀至今書傳美之惟觀太郡二百七十餘年

間為時不為不久撫治者不為不多而傳者無幾則何

也吾亦不能無說焉蓋當鼎革之後典章焚燬故老無

公... 胡公左之首

公... 非天... 斷爛則姓字湮沒亦

本... 知之謹

也又... 風土不

惟... 性今

一... 中州而至越水陸

之... 不測風土雖異倫

起... 不

汗... 瘴病能殺人哉惟恐憂

飲... 氣以禦之則為其中

者... 弱而心志衰矣

夫... 於民生榮

名... 往官者去

其... 氣

定... 與害與之

缺... 事出千

之... 兩公之

太... 文

大

...

所以至今凜凜猶存也人奈何以地遠自諉乎如使上

負朝廷下負百姓縱得久延殘喘匍匐歸里亦鄉黨朋

友所不齒而尚欲視然居鄉賢之列吾不知其人賢不

肖何如也其子孫賢不肖何如也然非所論於本郡之

鄉賢也歷考郡屬縉紳先生出仕者皆鄉科又未多人

任遷轉致顯達居要路雖有善政而前朝自成宏以後

黨援既分資格遂限觀其顯達者少則誰為用力以入

名宦既名宦不得入則鄉賢所以寥寥也雖然官無大

小人無貴賤當時豈無德惠並行為鄉評所膾炙上憲

所薦聞者况鄉賢之祠其猶存想亦歷歷有人奈兵燹

以來人屬隔代祠祀荒草其子孫或存或亡而有司又

不能訪求表彰之亦足悲矣至於節烈者關乎天地之

正氣秉於人生之至性綱常賴以振名教賴以扶者也

自昔干戈興學校廢禮義衰風俗壞凡在君臣父子兄

弟夫婦人倫之際有不忍言者矣况在萬里遙邊兼諸

土之悍軼乎吾謂得一人以持之亦足無恨及觀何垵

之孝程氏劉氏之節何其踵相接也據彼堅苦自靜不

必充類至盡足以振頹風激流俗而有餘夫誰嘆其寥

落也但忠臣義士多出於亂離高節奇行或伏在草莽

倘司教化者從而密訪潛搜得一人則坊表立于百千

萬人表一處則聲名馳于天下後世一人不為少數人

不為多要使流工重節烈其所以培植者豈淺鮮哉

太平府志 卷之四十一 藝文

九

太平府誌山水辯

高不矜

考禹貢導南條諸山水漾自嶠家江自岷山若白衡飛

西南界外則為足跡所不及登岫嶺而誦禹碑陟九疑

而瞻舜廟可稽也至交廣諸山水一無所載雖顧微之

畧為表記怪誕者多惟范至能常評桂中山川頗得其

狀能曰桂山之奇宜為天下第一士大夫落南者少往

往不知而聞者亦不能信余生東吳而北撫幽冀南宅

交廣西使岷峨之下三方皆走萬里所至無不登覽太

行常山衡嶽廬阜皆崇高渾厚固有諸峰之名政爾魁

然大山山峰云者蓋強名之其最號秀異莫如池之九

華欽之黃山括之仙都温之鴈蕩夔之巫峽此天下共

珍之者然皆數峰止耳又在荒絕僻遠非几席間可得

且所以能拔乎其萃者猶借重崗複嶺之勢盤桓而起

其發也有自來惟桂之千峰皆秀無緣延悉自平地崛

然特立玉笋瑤簪森列無際誠怪且多此誠當天下第

一讀韓退之詩云水作青羅帶山如碧玉簪柳子厚嘗

家洲記云桂多靈山發地峭壁林立四野黃昏直詩云

桂嶺環城如鴈蕩平坡蒼玉忽嵯峨觀三子語意則桂

山之奇儼在目中不待予言之贅噫嘻此范君之記載

在書傳者非一日矣憶不肖自康熙四年候選掣太平

一缺親朋咸痛惜以為西粵烟瘴地太平尤逼近交彘

非人所居予雖素安命遠近尊

太平府志 卷之四十一 藝文

十



朝廷所使不敢存憂患心奈萬里迢遙風土莫測未免神

氣沮喪及東裝就道所越名山大川指不勝屈然亦數

年來南北奔馳目所熟睹獨入粵疆時意必荒涼岑寂

未遑遠視迨攬轡全州境上舉目西南一帶高峰突兀

如玉笋千竿縹緲雲漢天貌倏忽傾分不覺神搖目蕩

疑其誤入海上三山耶而何處有此問之行人則曰桂

林諸山也予懷始少放識向者人言之誣越兩日抵省

城寓七星巖下前所望諸山咸逼襟袖如獨秀峰如伏

波巖如堯山虞山棲霞各洞峭饒森攢峻嶒壯鬱誠如

范君所云真天下之奇觀也亦以越山之佳盡此而已

太平府志 卷之四十一 藝文

三

絕及三旬始抵太郡地方開闢未久果蕭條冷落從人

皆含淚不敢仰視予懷又少啟蓋仰觀猶有山俯視猶

有水而從人不知也然亦覩其大畧耳履任後署中一

小樓常坐臥其上每開窓四顧環城皆山歷四時寒暑

風雨晦暝凡諸山之態骨容貌皆得一一熟領而指數

之其在東南者近城闔有平而質者有孤而削者有磊

落而如墜者有壁立而干霄者星羅棋布燦若列眉吾

已得其形之真其在西北者去城稍遠山色以遠而愈

出時或風烟俱淨天山共色時或烟雨將來巖壑窈窕

不但此也倏見其紆屈而蒼蔚倏見其遙屬而綺聯倏

見其斗拔而離立倏見其飛來而踴踞鮮不雲含翠舞

令人心目為之不停由此論之永衡諸山有其渾厚而

少其空靈桂林諸山有其空靈而少其渾厚若太郡之

山雖不敢絮抗名岳而近者體勢蟠結遠者峰巒銳密

似亦兩得其髣髴矣矧麗江委蛇其涯青壁千仞澄波

映綠其上接天其下無地而四屬之中山巖巒壑尤多

表表皆足爭勝槩於遐胤乃古今來更無一堪題堪咏

紀之書冊傳人耳目者則何也蓋美不自美人而彰

永陽山水不遇柳州則幽岫洞溪亦必無沒於荆榛而

無聞其理其勢物亦如人嗟此太郡僻在交彘既為高

人墨士遊覽所不經即官斯土者非困於風土即厄於

簿書是不特無其才而且無其興徒使山鑿寂寂空嘆

乎有人而無人也為效范君之志述而附之以待後之

留意山水者

太平府志 卷之四十一 藝文

三

交州牧箴

漢揚雄

交州荒裔水與天際越裳是南荒國之外爰是開闢不羈不

絆周公攝祚白雉是獻昭王陵遲周室是亂越裳絕貢荆楚

逆叛四國內侵蠶食周宗臻于季報遂入滅亡大漢受命申

國兼該南海之宇聖武是恢稍稍受羈遂臻黃支航海三萬

來牽其犀盛不可不憂隆不可不懼顧瞻陵遲而忘其規莫

亡國多逸豫而存國多難泉竭中虛池竭瀕乾牧臣司文敢

告執憲

銘

思明黃太恭人墓誌銘

承樂八年解 緝 學士

永樂八年庚寅冬十月既望中憲大夫知思明府黃廣成墓  
 其母太恭人於鄉託邨之北送其葬者數千百人哭聲震野  
 於是太恭人年五十有九矣衆咸曰不登上壽有遺恨太恭  
 人有遺恩太恭人事其姑無違禮也太恭人之先與黃氏皆  
 家山東從狄武襄公平交南分鎮龜筦世有爵土太恭人父  
 知上思州陞海北道元帥叅知政事同平章移守南寧盡忠  
 勝國廣成六世祖元初廣西道都元帥龍虎上將軍賜名昔  
 刺不花高祖克順武毅將軍思明路總管曾祖萬山襲父職  
 祖武宗廣西兩江道宣慰使司都元帥父忽都繼之內附嗣  
 太平府志 卷之四十一 藝文 五

朝知思明府其卒也廣成方七歲耳後七年為洪武乙亥廣  
 成人朝受襲還未踰月帥民兵從征奉議連歲與交人辯訟  
 歸其侵疆永樂四年間罪安南為前鋒破鷄陵關越兀良江  
 以全師還明年從征有功受上賞七年復從征還次子琮九  
 歲以選為指揮戍守正溫所以致子孫皆幼有成立太恭人  
 教之也豈惟教其子孫哉夫亡子幼與其子數從征伐也撫  
 其人民睦其宗戚任其供輸給其乏絕居者有安生之樂行  
 者無後顧之憂三十年思明黃氏之維持也非兩宗之積慶  
 焉能至是哉太恭人生至正壬辰六月二十三日沒以葬之  
 歲五月二十八日母太夫人上思州仙洞宦族平章公死之  
 後家益落無他兄弟迺奉迎養之致孝今年八十有三矣

成之能孝太恭人以身故之也廣成求予文昭其世於戲古  
 以邕為邊防每有南夷之禍自有思明又在邕數百里外而  
 邕始免於禍以有思明為之蔽也今遇聖神開天闢地之初  
 復南交地數千里竟海為藩而思明實為之嚮導書之簡冊  
 傳之萬年黃氏之功名豈少哉太恭人比於洗氏可劣乎是  
 不可無傳也銘曰嬰母知感陵母知興克詔其子謂知之明  
 准太恭人撫孤焚契成童受職遵俾從征俾母後願惟忠是  
 慕險阻備嘗受天之祐天祐慈母能智而才封樹厥塚以植  
 以培芝蘭猗猗賸餘輝輝考古列女庶其同歸

告諭

嚴飭土司告諭

甘汝來

太平府志 卷之四十一 藝文 五

照得各土司雖地處偏隅習尚稍異究無非王土王臣  
 况該土官世襲斯職亦有民社之寄奈何一惟賸剝全  
 無休養之心試思荒蕪地土瘠瘠小民終歲勤勞  
 所獲無幾該土官那食器用何者不取給於民彼完租  
 供給已不勝困頓又何堪恣意苛求且民賴官治官藉  
 民守苟誅求不已必致財盡民散該土官又安所措手  
 足奈之何不一計及此也前者本府甫出都門已聞土  
 官虐民之大槩迨入境以來土民沸騰之怨比比載途  
 及蒞任後畧加廉訪除太平安平憑祥等數州頗能自  
 愛留意地方殊可嘉尙外其餘貪殘恣肆狂悖乖張種  
 種劣蹟莫不備細深知總由聽憑積奸頭目指撥

科派動盈數千少亦不下幾百金縱令各目呼羣引眾

逐戶沿村指一索十以一繳官惡等分肥八九有設措

少後者即率眾抄洗其家致多有拋地土搗妻子逃竄

異也者至土民或因戶婚田土雀角關毆訃告一惟徇

私受賄往往顛倒是非恣其酷法嚴刑土民亦吞炭含

冤不敢上訴甚而故縱搶竊坐地烹贓事發終始庇護

用圖自掩更且酒色是圖終日醉夢昏昏一切事件或

委之官妻或委之頭目任其無法作樂漫無覺察直與

木偶無異又或縱容奸徒與販違禁貨物私出外爨勾

通為害諸如此類不可勝言本應逐一列款詳參姑念

太平府志

卷之四十一 藝文

五

開導冀改將來合行嚴飭各該土府州縣此後務須洗

滌肺腸痛改前非禁絕科派留心政事愛養百姓杜絕

與販將積惡頭目速行革逐另擇誠實者辦公果能官

民相安即為盛世良吏本府樂以優隆相待并當不次

詳薦上憲重予褒獎若乃執而不悛是終不可理論不

畏

王章本府冰心鐵面定行列款詳請嚴參提問按職議擬

除襲削土勢所必然斯時該土官上辱宗祖下喪身名

悔何及哉能以此論為良言即具切實遵依呈送如

為泛文不肯遵行又或陽奉陰違均難姑縱言出法

各宜凜遵毋忽

飭禁光棍撞騙告諭

廿

照得太郡地處極邊水毒山瘴遠省除仕宦而外即商

旅亦褻足不前遊斯土者非充發之夷頑即逃逃之奸

宄多非善類半屬刁徒訪得近年以來此輩以郡守為

鈞餌視土司為利藪往來勾通代為夤緣打點欺土人

之真頑往往為其局騙至死不寤今本府奉

命來守茲郡日久焦勞惟在釐奸剔弊易俗老使閩郡漢

土官民共享安靜和平之福其有作奸犯科罪不可追

者本府則執法如山恪守

朝廷之律例不敢絲毫軒輊蒞任兩月心事洞然直知

太平府志

卷之四十一 藝文

五

諒若有此輩棍徒自無所施其伎倆而各土司之務

有人心亦必不為其所搖動但恐此輩為惡不悛遇

事仍萌故智且影射之語無從實對最易蠱惑人心則

或有仍前招搖撞騙者亦未可定除現在嚴禁訪外

合行嚴飭為此示諭閩屬土官目民人等知悉如有前

項不法棍徒往來兩各土司地方或倘解本心鄉親故

舊名色巧言煽惑者爾等切勿墮落機阱自罹法網即

將遊學拿解府以憑嚴審究擬倘或徇庇不報抑且

通同作弊一一訪聞立刻嚴拿輸官則據實通揭受

頭立斃於法府鐵面冰各宜自保身命無謂言之

不見也

生員入學生論

甘汝來

定惟天地生材原不囿於方隅太郡古駱越地僻  
 西極邊與安南接壤人文科第從來遠遜中土然十  
 之邑必有忠信况一郡之大哉蜀有文翁而蜀乃大化  
 潮有昌黎而潮乃漸盛度其時之蜀與潮未必不吾太  
 平等也所患無文翁昌黎其人耳地何能限人哉方今  
 聖天子在上加意人材鄉會則廣蒐搜遺拔其元者破格先  
 用又令督撫確查人文最盛之州縣

題請增改學額每道一督學使者必諄諄

百務拔真才所以振士氣而敷文教者靡不至矣本府奉  
 命茲郡下車後即行觀風課士文藝頗多瑰璋卓

太平府志 卷之四十一 藝文

七

犖之才因孜孜圖所以致育

頑俗悍思以詩書禮樂樹之

土俗者亦惟設學為先務

地敬延名宿藉以觀摩

悉赴儒學報名彙齊造冊

倡百和他日士習日隆

不今日之蜀與潮等也

士生逢盛時沐浴

聖化雖無文翁昌黎猶興竊於爾多士有厚望焉其各踴躍

以從弗辜守土者之雅意

甘汝來

照得各土司生長邊荒素無嚴師益友目不觀善行不  
 聞正言是以肆志妄為少成習慣本府抵任之後一  
 聞各土司貪殘穢跡恨不立時掃除殆盡既又念土司  
 雖屬冥頑亦具有心知血氣詎同異類於是通飭各土  
 司許其赴府謁見面加訓導旋有一二肯來者接見之  
 下竭誠相告勸之以天良感之以

皇恩更悚之以

國法遂不嗟感激指天誓日痛改前非且涕泣嗚咽若無

地自容者始信此心此理之同然而土司之未始不可

化導也但所轄土司二十一屬今來見者僅二三處餘

皆觀望不前殊不可解近訪得府城文武衙門各項人

太平府志

卷之四十一 藝文

天

役向遇土司到府輒共視為奇貨藉稱常規公然需索

爭多求益無饜苛求甚至乞丐流民亦赴公館環鬧勒

要賞錢舉國若狂一至斯極無怪各土司視府城為畏

塗也此等惡習深可痛恨除本府衙門書役敢有需索

絲毫常規者查出立斃杖下外合行通禁為此示諭前

項人等知悉嗣後凡遇土府州縣等官因公到府敢有

仍前藉名勒索者一經查出立刻鎖拿重究決不姑貸

飭禁土司官族告諭

甘汝來

照得土司職守土者各止一官而倚官肆害土民土

官且不能鈴束者則官族也凡土官一應嫡庶叔伯基

功兄弟皆曰官族其開家教謹嚴端方自愛者則有而

夜郎自大荼毒窮民者正多本府下車之初深知其爲  
民害爰加廉訪纖細洞然彼蓋自謂狐鼠有託何妨鄉  
曲橫行故往往視土民若奴隸遇事恣意誅求務飽囊  
橐富貴不接之時卽勒收租穀棉花致窮民賣男鬻  
女且敢白票拘人私行鎖禁罰銀贖罪甚而射獵不許  
人馬百十踐踏田禾勒派供應稍拂其意痛加鞭撻村  
村被害人人切齒此等極惡窮克應卽鎖拿究審但恣  
爾等墮落土司幼之師訓耳濡目染無非貪殘惡習且  
向來監司郡守輒置土司爲化外任爾等縱恣乖張會  
不少加懲創是爾等不知有天理

王章久矣今卽繩之以法固爲不枉然半屬陪於不自知

太平府志 卷之四十一 藝文 五

者又覺可矜是以始寬先行飭諭爾等務知及早歛跡  
力圖改過庶幾身家可保如再蹈前項不法之事一經  
訪聞或被受害官發定卽鎖拿詳報嚴審從重究擬至  
該土官亦應以正相規嚴行約束倘其不能化導規戒  
於先又或阿徇庇護於後則亦不能辭其咎也慎之思  
之無貽後悔

論鄧橫寨

廿汝來

照得普天率土莫非王民民有隸屬當遵法紀而聽官  
府命令蓋官府者乃

天子之命吏守此土治此民剪暴除殘是其職掌光天化日  
之下豈容強暴橫行茲爾鄧橫寨之黃興運馮惟高莫

志公莫嶺興等恃居山谷無惡不爲前者自  
路搶劫江那村民黃祥漢等猪米牛隻捉去男婦不  
勒要多金回贖又前後抄掠五團院利叩山等處民人  
譚學恭李父福鄭載寧等家猪牛銀物及祥漢等赴控  
軍廳差役拘拿膽將公差非刑拷打細鎖禁錮種種滅  
法叛形顯然查搶奪律載人多有兇器照強盜得財皆  
斬又犯罪拒捕毆所捕人者絞刑煙令典何無畏懼在  
爾等無非恃其國隘事無忌憚不知層山複嶺縱  
斷鑿三窟以藏身試問其死於庭終難借一枝而託足

朝廷德威遠播遐方皆恪守

太平府志 卷之四十一 藝文 五

王章豈以附近地面而敢有妄行跳梁者今本府不卽詳  
請大兵誅戮蓋不忍其中良善者罹玉石不分之慘且  
猶冀爾等痛自回化以免滅門之殃是以先行飭諭令  
與爾等約此諭一至若三日內將先發搶掠財物人  
口逐一給還各家放出公差爾等二三人親身來府  
泥首塔前謝罪誓做好人本府卽將爾等前罪一槩免  
究聽爾自新安居樂業永守廬舍墳墓共享太平倘違  
此限再限五日若仍不遵是終昏迷梗化甘作叛民且

藐視

命吏本府斷不容爾等於天地間定卽飛請發大剿滅  
爾等將無噍類悔何及哉思之思之

訓

問俗

明黃世興題明

嘗聞粵湖之陽山為天下最窮處縣郭無居民官無丞尉小吏十餘家皆鳥言夷面韓昌黎初至其地言語不通畫地為牢然後可告以奉期約居半歲有區區者自南海擊舟而來昌黎與之言詩書禮樂陽山一變而為文獻思明雖朴俚視昔陽山何如解太史視昌黎亦庶幾上下而又有廣成公為明江主文教文人學士繼大史至者繩繩不絕詩書禮樂雖自廣成公萌芽今二百餘年尙未得與中土麗那相埒美則何歟豈上立教之本未敦鼓舞之法未備故不得泯民心而孚教化耶抑亦爾父爾兄耳提而面命者未至也夫太守之

太平府志

卷之四十一 藝文

三

教族人讀書

黃土府母

太守母不知書一聞太守讀書之聲甚於絲竹管絃之音嘗食時而聽則食而遂忘其味讀書之足以悅人以此哉太守母恨不為男子幸而為男子則盡天下之書何所不讀汝等有子而不能教有書而不能讀古人云三經品題便作佳士汝家品題乃出自太祖高皇帝乃不讀書知禮義何官乎忠孝哉

系親

黃土府母

昔者天子猶耕籍田王宮后妃猶績何言太守母耶太守母今已春秋七十高猶終夜績不知其勞雞初鳴則起走郊外理田暇則猶績豈太守母慮無衣慮無食哉蓋人生坐而食天地之賜則造化慳之今汝貴不及太守汝妻富不若太守母而乃男不知耕女不知績束手而待衣待食吁可懼哉

教子弟讀書

黃承祖題明

若子弟亦曾聞中都衣冠文物之盛乎中都言必稱詩動必言翩翩然美矣若子弟耳目同中都手足同中都言語色笑皆不中中都而乃目不知書耳不聞書手持足履言語色笑皆不知書則與無耳無目無手足不能言語色笑同也今人之生

太平府志

卷之四十一 藝文

三

視諸人少一耳少一目少一足則拂然怒謂造化者之不公今乃并其耳目手足言言而盡亡之而又并忘其心乃不知愧何與今郡社有學社師居業有地課誦有節教有定則善讀則父母愛之兄弟親之宗族鄉黨尊而美之若子弟何所畏而不為讀書明理之君子不讀書則父母惡之兄弟賤之宗族鄉黨相慢而相笑之若子弟何所利而固燕僻而不為子弟勉矣予日望之

蠻風

國朝李 簪 太平

溯予家世裔分隴西隨官轍馳驅今提携爰卜居今易畦予聞之故老今可稽維宋室皇祐分後

旄永不返故國兮魯鄉承家而世守兮保障歷二十三  
世今年長黑齒變我俗兮蠻荒詩禮漸消亡兮習非男  
女共混同兮閩閩鳥羣而獸聚兮蒙衣世遠而習固兮  
莫讎仇殺其報覆兮何為同室而操戈兮可悲昏暗以  
長夜兮無期紀綱徒虛張兮羈縻兇橫縱其暴兮誰援  
牝雞而雄鳴兮當軒崑崙其向隅兮含冤疾呼而不聞  
兮何言豈天亦助虐兮不然胡為遺此民兮堪憐其誰  
能拯溺兮屬賢予心何擾擾兮愁煎膜視而永嘆兮微  
官寢食時俱忘兮仇奸狐兔哀相甲兮鼻酸抗激而東

歸兮圖安

太平府志卷之四十一終

太平府志

卷之四十一

藝文

三

太平府志卷之四十二

藝文

五言古詩

龍州溪亭小集有作

林 弼

旅懷感留滯朋情增鬱陶及茲晤語際少慰道路勞危亭入  
窈窕秋月何蕭騷野菊被山徑幽蘭滿江皋俯視霜露繁仰  
觀天宇高清歌發華席凝眸送輕初山川悲九辯塵土歎二  
毛何以不飲酒徒用心切切流光亦易失行樂隨所遭君看  
龍江水東流日滔滔

龍州道中

王 偁

微生易為役遠節恒自持夙興戒前征萬里投南陲迢迢古

太平府志

卷之四十二

藝文

一

龍州山嶺雜羣夷浮雲霧兩曜聚經昏陰罪由茲望明都尚  
隔天一涯淹留暫停駒促刺心不怡所愧子桑戶中林人見  
稀

永樂四年閏七月二十三日至太平八月朔偕大理公

謁先師廟廟在城北因而賦此

黃 福

聯街冒秋雨出郭行晨香禮竟尼父廟延登庠序堂白髮論  
經史青衿羅酒漿我雖不嗜飲荷茲來意長文談有益友仁  
化推虞唐雲山萃律翠霜橋壘垂黃顧茲嶺外俗思我齊東  
鄉歸來坐精舍一詠聲琅琅

寓憑祥縣有懷奉陳吏部

黃 福

憑祥山縣幽環抱多溪嶺原草遍行階庭梧陰金井魚出

...來曠野穿廳固事喧... 外屋雙耿青牛邑幸迎白髮... 風雨聲止如山嶽靜擬看... 俄頃偉哉開拓功絕勝彬... 自龍州至憑祥道中

自龍州至憑祥道中

潘希會

癸酉王正月望舒忽已圓... 斷港前旌出迴巒隱見萬... 與青空連洒落觀羣山芙... 關儻然若有得殊土元同天

太平府志

卷之四十七

二

予與潘黃門使安南還... 即席賦此時正德癸酉十... 滄本無期

崢嶸屹野次石壁開巖... 陟餘超然生遠思涼颺... 滄本無期

出鎮南關

關外即安南境

潘希會

崔嵬分茅嶺鎮南扼雄... 前旌鳴騶歷層巒命自... 帶爭駿奔語言雖假譯... 漸

龍州仙巖次湛內翰韻

潘希會

...為平野孤巖傲幽屏... 星來矯首空遐思東風... 尊本無期

閱壺關城懷胡端敏公治蹟

二十四韻

壺城明初建得名因形... 西南三面阻江無他虞... 民剽悍草竊繁有徒守... 者力詘空嗟吁平時所... 曠日相雕肝教令輒違... 此專城符守官清以介... 豚魚孚諸會樂為用生... 鋤誅縛其渠魁至公庭... 夫不願國經費殫力爭... 至今完以固屹然見雄... 公景行在後來宜步趨

太平府志

卷之四十七

三

出郊勸農望青連山作

甘汝來

青連抱北郭登嶂何綿... 綠浮修眉狀態變昏曉... 若相逆弄委故相燒片... 帝暮或如展旛旒或如... 威或賤若纖小或隨若... 或引若介紹或竦若鸞



或學若驪囊枝幹造連旋數州青未了  
洞閣深宵余方有公事無暇悉臨眺  
事務藜何當著屐來幽探窮窈窕

七言古詩

度摩雲嶺至思陵州

元陳宇

嵯峨摩雲嶺石壁如梯繞天頂千年毒瘴鬱不消  
怒人老楓結丹瘦蒼莽思陵州懸崖結屋如層樓  
寨門半掩刀架健隱隱雲際聞鳴牛奴隸下山健  
如虎口紅如血面如土手捧柳漿跪馬前山旭水  
蟲間穀組對此停鞭空自慨吾獨何為在荒裔他  
年同京王會圖願借丹青寫雅譽

麥黃歌

明包裕

太平府志

卷之四十二 藝文

四

大麥黃小麥黃家家男婦登麥場老者看家壯者出旋挑野  
菜煮羹湯男彭女刈不辭勞麥場堆積如陵高烹雞打餅薦  
先祖沽酒尊尊娛父母舞者舞兮歌者歌胥言收穫今頗多  
忽聞官府里胥至征討夫錢征夏稅須臾算盡無子遺老穉  
含悲欲訴誰共誇今歲麥秋好孰知又得一日飽好將民隱  
達聖朝樽節財用寬征徭古來民足君須足莫使民有逃亡  
屋

龍州詩二首

明湛若水

龍之山不興雨雲山中之人不可以論鳥用如城苑高曼祇  
可以障南氛 龍之水亦流東荆水陽之氓不可以情鳥用  
如壑流南溟惟可以洗甲兵

白象

解縉

早稱成周象輅之飾以象禮大夫之笏用象詩稱象祇禹  
言商革則象之為中國服用久矣交趾即唐虞以來南交之  
地五服五長之所疆理以象為貢豈古昔之常制也恭惟我  
聖明受天明命全復唐虞成周之地迨南交順附而馴象蕃  
息於葦蕘之下者四十餘年矣邇者交人作亂聖天子命將  
征之師行未逾時而白象來獻臣按昔周獲白魚而勝殷漢  
得白麟而定西域唐得白龜而平淮蔡白象之獻安南克平  
之先兆也若彼漢晉魏唐宋九真林邑陀羅文犀之獻以爲  
聖者以求而得之又皆無其應豈可與今日之盛相挈而擬  
倫哉臣謹再拜稽首而獻詩曰聖人垂衣朝大清四方萬國  
太平府志 卷之四十二 藝文 五

皆來庭考圖按籍一纏理田賦貢錯積諸經占城交趾古荒  
服漢唐列郡猶連城自從宋季歷富否淪入異境誰能懲蠶  
蠶小醜作威虐清問赤子行天兵感茲白象來入貢執訊獲  
醜斯吉徵維南巨獸有馴性視瞻四體多震驚肉豐味異鼻  
拾芬曲貝御理雷紋紫時來變化比頰玉隱約有似蛟龍騰  
智能拒害思報謝駕車服戟由性靈傳聞西竺多此物治平  
之世來南溟黃金羅纒眩睛雪琉璃絡索分水晶月光夜寒  
催立仗露珠下滴搖光星天河浴出雲浪湧玉山迤迤空中  
行楊花暖風吹不起白雨一洗推銀屏乃知和氣有充塞地  
不愛寶呈華英守朝賢後出濟濟澤及鳥獸通幽冥雞鳴犬  
吠百谷登坡野雲鶴蒸聖情謙鴻勳宵旰慮及八表

鯨災聖德萬歲白象顯相 南交赤子萬歲歌神明

左州元惡就榆州印復還偶成口號 鄧炳

何物癡兒膽如斗敢取銅符獨懸肘效尤武仲要魯君僭擬  
平盧襲留後冒姓已步衛青塵禦人更出黃巾右通逃相繼  
遺妻孥耕鋤無數荒菑臨廬舍滿眼糜鹿場牛羊絕迹靡蕪  
數營深恒作林甫遷計窮惟事檀公走轅門軍令應加誅邊  
境夷情宜善誘寬柔已示再生恩迷替不懲難定咎懸賞感  
激勇士心面縛立致壺城口身臥桁楊悔莫追罪服上刑甘  
自受兵不血刃俄成功印失中書仍復舊黔驢逞技將誰欺  
穴鼠抱金竟奚有窟中狡兔終難藏金裏遊魚盡復久寄言  
奸宄休誼歷逆豎叛藩咸授首

太平府志 卷之四十二 藝文

六

銅柱

國朝 廿汝來

麗江炎荒之鎖鑰南控安南壤相錯距關一舍分茅嶺  
漢家銅柱高岩粵伏波峻業何崢嶸英風萬古震寥廓  
當日樓船下交趾疾掃狂童等殘孽二徵授首傳京師  
九真革面復疆索郡縣其地中土同螳臂安敢復張櫻  
五季凌遲世多故部頌邪行乃橫作宋元師征屢無功  
包荒無乃太孱弱蠻夷獷悍本性習朝廷駕馭藉方略  
將帥豈乏英雄姿雅量無能專委託有明英公亦人傑  
功與伏波庶相若中官繼鎮求珠犀統袴握兵權帷幕  
遂令封豕肆狂噬內地旁州恣侵掠惜哉用武功不究  
議祖捐之滿臺閣爵予世及用緝糜國威如斯亦稍削

今代聖神御區寓六合以內併包絡况乃近地非遠絕歲修

貢職尤謹恪我來行部視邊徼表取諸豫嚴關柝顧瞻  
前烈蹟未湮來者樹立當奮躍肯念平生馬少游畏此  
毒氣熏蒸瘴鄉惡

伏波銅鼓

甘汝來

路越古器誇銅鼓冶鑄工絕勝雕組伏波所遺製尤精  
闢今存者猶四五壺城神祠亦得一古光古聲足摩拊  
我初至郡謁明神瞻拜已畢顧庭無望古遙集尋遺踪  
于虛烏有復何覩外史荒唐良可嗤按圖索亦等膠柱  
兌戈和弓隨切灰夏鼎商彝化焦土有形必敝固其常  
區區奇技何須數不朽惟應銅柱標萬古千秋兀撐拄

太平府志 卷之四十二 藝文

七

那霸泉

朱陶 弼

昔年觀地志此水出牂牁斷岸溪無底平流暗起波感恩來  
客少射影短狐多未老諸蠻在樓船空再過

會仙巖

陶 弼

寂寞長冥洞涓涓漱玉泉鳳簫聞夜半鶴馭認雲邊煮茗尋  
安老披簑訪稚川於中得消息何用買山錢

思明府明江

陶 弼

幾年來瘴外此夜宿溪中照枕殘雞月吹燈落葉風盧循猶  
偽國楊僕已衰翁起戴寒星去前村燒影紅

答別龍州蕭從事詔

元 傅若金

南溟政化通靈棧浮度斗瘴草偃隨風殊俗

為別游談喜屢同馳驅不可住心切大明宮

使節明金虎腰弓偃畫蛇蠻夷趨號令原陽見光華邊樹猶

含綠江梅久放花憶君依幕府何日定還家

南津晚渡

明岑方

南津官渡迥天晚起蒼烟負擔客爭路立沙人待船風波無

衣食足何年借問營營者誰謀早濟川

鰲頭山

錢溥

江上蟠陀石雄吞北郭陸中擎天一柱獨障水東馳霖雨多

需望風雲每護持憑誰一點化高躍向天池

青連山

錢溥

太平府志 卷之四十一 藝文 八

萬疊山如障城頭翠作圍玉龍隨瀑挂心鶴伴雲歸謝屐遊

難遍陶籬見亦稀倚欄有不厭嵐翠濕人衣

白雲洞

錢溥

野外尋仙跡雲封古洞 桃林在瀟瀟草不知秋道路迢

三島烟霞占一邱有無誰可必明月自悠悠

石門漁唱

黃諫

向晚孤城北漁歌起石門聲從蘋末出蓬向耳邊聞烟浦燈

光爛沙汀笑語喧誰知崑瀨叟不肯戀華軒

綠樹神湫

黃諫

隔江沃澗底榕葉鬱青青神物深潛處清泉自有靈惠能

萬卉勢欲捲南溟林洞祈年者時來倒綠醴

南津晚渡

董應珍

夕陽芳樹外一葉泊清灣爭渡村夫健譁呼土語蠻未聞

彼去盡道趁墟還載月蘆花渚簑衣一夢闌

筆架晴嵐

鄭宗維

羣峰恒吐氣非霧亦非烟練淨巖前石光浮雨後天鶴歸遙

認樹豹隱不知年合作文明兆英才筆似椽

送龍州樊使君

王越

萬里龍州路冥冥烟霧溪山峰迎去馬野燒隔平林地遠官

無法民興業有金相思明月夜愁聽幾猿吟

赴南寧謁諸部使

鄧炳

部使期交集先辭 却書隨人共至船與水爭流巖岫煙

生暎炎荒夜作秋安邊三五策容可備咨取

新莊道中

鄧炳

慣作周流客新莊 過泉聲寒瀉玉山影綠搖波江曲添

程路風和送棹 漁父拙爪網避龜龜

宿布村

潘希會

途日已久草閣 寐美睡方知倦驛樓自解歡泉聲

淵底花氣萬林端往 許沉沉在欲關

南寧太平之間巖石奇絕累日玩之不厭

潘希會

崖迴石壁悅玩竟忘疲混沌何人鑿玲瓏一世奇景

物隱隱畫藏詩絕頂雲昏處惟應仙鶴知

太平學舍八首

張岳

台道江河水文章奎壁精寒光無楚越清潤足餅罍絕

戈心青衿絃誦鳴新秋占氣候應產紫芝榮  
空城抱靜碧天宇邁青葱誰謂經無用人知聖可同三千歷  
戎馬萬丈吐霓虹所志誠能遠殷勤戒繁蟲

陳良稱楚壁姜相擅南金文物動千古風流越在今洞犀箭  
礪鐵習羽鶴低林莫遺流光適負君頭上簪

聲教千年運春秋一畝官明雁薦綠藻道響拂絲桐地遠人  
多朴中孚物自融乘桴非有託茲意鬱冲冲

文豹能藏霧翠毛亦自珍如何寒潭水翻駭後車塵經緯精  
微在步趨禮法陳前賢心最苦直指竟非真

迂濶元吾道盱睢是吏師誰能朱墨暇更理鳶魚辭春雨滿  
太平府志 卷之四十二 藝文 十

芸閣天聲散島夷豈無分竹者感歎良在茲  
春秋讓相夏秦漢事邊功攘斥非無術微言自不同聖心墀

友袂朝氣漫躋棘振策首遐軌多岐幸勿訐  
往歲謬文柄掄材上澤宮迂疎成汎愛棄逐任飄蓬舟楫一  
身遠關河萬里通重來多舊意朗詠舞雩風

和可齋惠祥途中即事 張岳  
昨晚猶孤棹今朝獨木橋千峰旆旆遠萬里鬢容消歸鳥入  
雲定殘花過雨飄交南消息近客意自蕭蕭

和可齋飲駐仙亭 張岳  
亭陰清翠篠樹影搖青楓偶此殊方會翛然濛濛風基敲靜  
夜子月挂下弦弓不為流連飲天涯任轉蓬

送三兄之任左州守 林嫌  
莫以春明遠即歌行路難麗江秦代郡別駕漢時官五嶺  
常暗三冬候不寒傷離無限意惟有勸加餐

送三兄之任左州守 林嫌  
方郊愁送遠煙柳正垂堤別酒燕臺北征途象郡西春帆  
草綠候館嶺猿啼借問南飛翼何年得並棲

萃綠亭 許時謙  
吏事邊城少探幽得自吟構亭倚古岸伴客憩濃陰金印山  
隆座龍英水遶林溪聲風裏細日夜有鳴琴

觀魚亭 許時謙  
地偏心愈遠臨眺在幽遐石自非關雪林溪不礙花殘隄惟  
太平府志 卷之四十二 藝文 十

觀音峭壁 袁必登  
頭頭皆是道樂處更為天歲去松長老春來花自妍臥雲堪  
笑傲對月可談禪悟得東林偈虎溪亦宛然

女夫董文君從粵西龍州再過休卷 盛於斯  
三載留西粵孤身歷百蠻啼猿愁落日野鬼嘯空山劍刺流  
星鐵弓餘明月尊前莫戀咽猶幸得生還

金山種花即事 國朝 李銓  
地僻憚人意春溪好種花崖前除宿草石罅長新芽時  
雨來天外幽禽過水涯孤懷聊可寄不羨邵平瓜

恭送甘遜齋先生奉

孫 匪

特簡出守太平

門人于振

聖主重巖疆臨軒簡望郎竹符分繡嶺銅柱肅炎方訟少車

隨鹿庭空月映牀

聖書徵不遠立雪待明光

連日出郊勸農二首

甘汝來

鵲鵲催農事箒篁間稻畦每隨星出入徧歷隴東西黃  
犢肩犁健青秧刺水齊箒車吾代祝為爾償豚蹄

農人先苦旱甘澍偶隨車先是郡苦久旱余到官日麥  
甘霖立沛原野具足故云

秀雲千頃桃花水渠其耕方澤澤我黍定與與豈復

類難卜年應大有書

還白雲洞二首

甘汝來

太平府志

卷之四十二 藝文

十一

玉屏千仞削絕頂嶺氣氤氳日蟠丹穴參天羃白雲龍

興能作兩豹隱亦多文此意同誰會長歌對夕曛

一水滌青帶層巒白顛大還留藥籠小有闢壺天許

臥陶宏景曾來葛稚川盪胸雲在身世已悠然

香魚

甘汝來

墨水潭中產鰕鱖味絕殊怪來飲食指偶爾沃齋厨未

穆丁香屑全勝丙穴腴清貪饑不減吾意欲沉穽

太平府志卷之四十二 藝文

太平府志卷之四十三

藝文七

七言律詩

那霸泉

朱陶弼

路下泮河水石間三分繞過二分山年光欲盡家猶遠嵐氣  
雖疎鬢已斑貧從笑談譏獨進兒曹音信喜生還南風一夜  
吹鄉夢數刻飛過五嶺關

蕭州秀嶺

陶弼

路隨雲磴石梯行限隔華夷天意明自與大君為外屏何勞  
諸將作長城福民可拜三公爵壽聖能呼萬歲聲海國未疆  
崖石老待誰來此勒功名

太平府志

卷之四十三 藝文

一

桂林喜日仲實僉憲至

元傳若金

正月文州奉使歸忽聞鞍馬發王畿嶺南瘴雨開鉅柱江上  
春雲逐繡衣草熱蟲蛇常並出樹澗豺虎近皆肥明朝按節  
勞咨訪邊郡于今未解圍

御製征南詩

太祖皇帝

大將軍征膽氣豪腰懸秋水呂虔刀馬鳴甲冑乾坤靜風動  
旌旗日月高世上麒麟終有種穴中螻蟻更何逃大標銅柱  
歸來日庭院春深慶百勞

龍州答請命官阮士儔

張以寧

使星南照破層陰咫尺天威儼若臨銅柱迴看雙白鬚麻發  
仰望寸丹心我留夢到雲霄迺子去恩霑雨露淡到口鍾

煩一問清溪何日濯煩襟

又答

張以寧

白髮飄蕭老翰林故鄉長憶越山陰  
客程牛渚星槎遠吟思  
龍江烟浪淚多子出疆迎蕩節  
顧予為國抱葵心行看洱水  
堤邊柳滿馬春風拂醉吟

龍州答迎官何符

張以寧

帝念南邦遠貢琛頌封特遣老臣臨  
皇華詔度尊君命炎微  
淹留豈我心人日預占晴景好  
使星還照瘴雲深暫分莫酒  
臨岐淚頭上青天見素襟

次韻羅復人編修

張以寧

棹歌聲起汜河濱君著先鞭我後塵  
山上安山猶遠使客中  
太平府志 卷之四十三 藝文 二

送客是愁人心隨初日葵花轉  
眼看薰風荔子新細數歸期  
同把酒龍江梅信定先春

摩天嶺

任亨泰

當空隱隱翠相磨十萬連山未足多  
鷹隼搏秋迷樹杪星河  
向夜掛巖阿可憐霧集雲鬢好  
奈此蠻烟瘴氣何今日風前  
交趾路幾回目送馬蹄過

憑祥道中元夕有懷

王 侗

會向蓬萊捧壽觴良宵湛露沐恩光  
鳳笙曲奏梨園譜絳霄  
燈然火樹芳往事別來傷旅恨  
流年老去在他鄉夷歌蠻舞  
誰能解馬上看山夜未央

送知府王綸之任太平

陳 連

新領除書荷寵榮雙旌五馬出都城  
過家喜有親朋會人郡  
應多父老迎好效劉寬施善政  
肯效黃霸擅能聲左江黎庶  
沾恩惠鼓舞謳歌樂太平

伏波祠懷古

鄭 定

元祠衰草已凄然猶有居人話  
昔年銅鼓生秋雨後石墻  
花落夕陽邊竹書早著平樂策  
沙井空餘飲馬泉詞客經過  
休感慨雲臺麟閣總寒烟

過思明府

解 縉

天子泉頭曙色開仙桃花影覆層臺  
摩天嶺勢龍驤去交趾  
人從鳥道來蕃族金符猶付裴漢庭  
銅柱久荒摧西風笳鼓  
運雲起十萬山中獵騎回

太平府志

卷之四十三 藝文

三

送解學士赴廣西叅議

羅養蒙

入掌絲綸在石渠又分旌節鎮邊隅  
雄藩佐政資籌策便道  
還家重里間銅柱雲開通驛路  
鑿山日近望皇都賜環應有  
天書至注目江頭候使車

送解學士之廣西叅議

王 恭

金鑾召對暫辭朝供帳都門折柳  
芸閣幾人同視草桂林  
千里獨乘輕轎蒼梧雲盡蠻空遠  
黃帝懸關晴樓高起見京遙  
清瘴雨消想是丹心

送沙同知赴祿州

楊 榮

大江南去路迢迢王事驅馳豈憚  
幾處雕題通象郡千年  
銅柱過龍標山城雨歇蠻烟淨  
海風清瘴氣消莫道危

蕭然 思明經古戴皇朝

張純

白雲山 白雲遮原是清神道 士家甲乙艾荒微有字丙丁  
舊老更無華樂泉細掬晨蒸朮丹石空明夜走砂仙客不知  
何處去數聲啼鳥隔烟霞

太平知府何公輓詩

弄大年

萬里專城望遠夷他鄉捐館更堪悲馬遷作傳書循吏何武  
居官有去思郭外褰帷行郡罷天涯旅櫬到家遲顯揚幸有  
賢孫子看取瀧岡表墓時

聞從者談土俗寫懷柬王憲僉

劉大夏

邕州壤地接交南凄楚夷風不忍談男女歌謠成俗禮官民  
太平府志 卷之四十三 藝文 四

爾汝集茅菴瘴來山谷雲應黑毒入溪河水盡藍漂泊獨憐  
吳楚客故園回首意何堪

送周成德知養利州

顧清

古松山下一城安井落參差畫裏看黎庶幾年占得歲朱  
此口 以憑欄才名豈必懸諸子忠信由來重百蠻合浦明珠  
連乳穴大書行見石崖刊

得徐伯雨太平書本答

顧璘

殘臘江門望使車新春忽枉麗江書嗟予已作三湘別念  
那堪萬里餘絕域風烟居暫定溪山官府自應疎  
耽詩律滿紙瓊瑤愧不如

龍州歌送沈編修使安南

州南接六郡 溪白鵬黑猿相間啼鳥巒頭苦竹密伏波  
屬前春日西揚 旌走馬迎天使擁節封王壯漢儀試向殊邦  
觀禮樂交南元 是舊邊陲

始至太平

田維祐

佐職明承寵命嘉疎才自合處荒遐郡中編戶惟三里城內  
居民止一家十九縣州環粵徼萬千山水極天涯宦遊到此  
饒閒暇不負年來兩鬢華

劉奇逢補任上石州

張壁

早從闕下再彈冠萬里休嗟道路難今去宦遊仍郡刺向來  
聲價起刑官且持南粵符竹莫戀東湖舊釣竿銅柱尙餘  
標漢紀嘉名還擬並高寒

太平府志 卷之四十三 藝文 五

發邕州往鎮南關

張岳

隔年梅雨記重遊風雨依稀瘴瘴收老去筋骸懸樞馬誰將  
華髮博蝸牛孤光冉冉龍頰月雙橋迢迢天際舟夜數星辰  
翻百念非關鄉國起離憂

太平東岸尖峰似故山作

張岳

何處飛來玉笋峰似曾排闥為吾容隔江翠色迎孤棹故園  
白雲知幾重樹老時鳴楓葉雨山空遠處夕陽鐘十年回首  
湖元鬢欲暈征鴻恨莫從

和可齋泊舟左江有懷韻

張岳

雄堞岩岩俯碧灣天涯此路接雞林地非中土衣冠並氣壓  
南荒歲月溪尊俎空憐麾羽扇溪山何處聽蕉音儻諧插翮

東嶽願學燒丹變紫金

和可齋泊况村雨霽二首

張岳

夜雨滄溪中曉起看山翠色重萬感忽來惟宴坐遠書  
空澗封似問瀚海秋飛箭稍喜炎天近息烽却怪南華  
意物者等閒空谷喜聞登

花飛故遠村水土周防翻藥笈江湖劇念傷征軛擬爲暫駐  
成淹久倦聽風波歎曲言

夜飲董泰戎族崗寓舍讀壁詞間過伏波祠詩有感張岳

孤戍元雲壯國酒酣日落歌鳴鳴大材敢適馬新息短劍  
還聞陸大夫空壁洪溝看獨夜江天冥漠失雙鳧幾回欲酌

太平府志 卷之四十三 藝文

六

溪頭月又恐前身是腐儒

經宿受降城

張岳

老夫越吏姓名通銜壁牽羊事不同聖代神靈跨往昔南天  
萬水盡朝東荒山故壘籠寒月征馬孤嘶自晚風讀罷穹碑  
一帳望螭頭飛動欲騰空

沉沉高閣午陰清况有嶼峴蒼翠迎金鼓往年分關地關山  
千古受降城龍蛇蟄伏天機靜烟雨冥濛春草生倦倚烏皮  
成獨寐不堪幽夢緬縱橫

遊白石洞

張岳

夢裏似曾踏翠寒萬山洞經石林攢翠知夏冷冬温地祇在  
藤梢棘刺端陰火瓊膏烹日月長空簫管待此鶴道人不見

避秦客漫憶桃花回首看

諸天洞府日華傾此洞陰風地底鳴泉落鮫珠含內景石飛  
仙佩散元精暫游不覺心源靜欲去那禁毛骨清勝會山靈  
應記取後期末許結三生

東崖長淡次江赴慈祥途中遇雨賦贈張岳

行時霽柳拂前驅別後雷殷水滿湖俄頃陰晴迎伏暑凌兢  
車馬戒泥塗岸沙帶浪東西落田鵲逢人向背呼愁絕同袍  
關塞客南山欲與剪扶須

五月陰晴長綠蒲冥風怪雨亦相須農人思記豐年兆僕馭  
偏憂九折途遠勢驚翻銀漢水怒濤疑拔老龍鬚嚴程傍險  
兼奇觀雷濕何妨赤杖扶

太平府志 卷之四十三 藝文

七

登鎮南關昭德臺二首

張岳

炎荒突兀見春臺皇德昭回氣象開五色光華騰北斗一天  
雷雨動南垓乘槎擬借搏風力破浪還看曝日頽安得坡仙  
扛鼎筆表忠高捲靜氛埃

振衣千仞瞰飛鳧望極江山思渺然百粵風烟圖一幅清時  
日月鏡雙懸天開正朔尊王會地接金鼈立極年橫海昔賢  
堪勒柱高臺我輩亦樓船

送劉北川之任太平

郭伋

鄉評屬望聞年少海內談詩見爾豪千里未應泥驥足一官  
聊復隱蓬蒿鳥山碧石牽離緒麗水晴空動去舸邊微清時  
無一事那齋燒燭註離騷



送平州

歐楨伯

山下院院竹馬權虎符何日出長安登樓山月諸蠻伏吹劍  
邊風高騎寒鬱水星搖秦使節蒼梧雲傍漢臣冠明年羽獵

談詞客歸賦長楊雪未殘

送徐華源太守赴太平

陳 壘

送客都亭歲有常送君今日意偏長甘棠未斬先人澤  
守 奕葉重瞻繼世光冰榮十年碑在口恩波七邑淚霑裳

揮帳盡欲執鞭去萬里蒼梧恨未遑

送江地官伯馨出守太平

陳有守

萬里炎荒銅柱標千軍北掃蒼崖遙虎符熊軾開蠻府書戟

朱旛下聖朝儲計人知稱相學折衝應不羨驃姚日南從此

太平府志

八

流聲教早奉

送江太守赴太平

胡思忠

乾坤五馬一麾遙落萬江花共寂寥旌節曉看衝朔霧樓船

秋喜泛江湖萬家烟火蠻夷靖千里風霜瘴癘銷知爾此

堪報主豈因岐路歎蓬飄

送凌元字司馬擢粵西太平郡守

徐 燊

廉范歌聲滿歛溪雙旌遙向桂林西虎符雄握諸蠻化熊軾

高憑五馬嘶兵邏筒酋防夜警刀耕山壘勸春犁責堂吏散

馬青簡月照枕椰翠羽啼

西行象郡吟寒帷開看刺桐花苑笙吹月春舉騎銅鼓

八思龍不奈當年萬石家

謁伏波祠

國朝 甘汝來

伏波祠枕麗江濱拜舞年時集馬人黑白謾勞污蕙苴丹青  
何必羨麒麟諒為烈士當如此見說天王自有真試問文淵

州上望將軍銅柱尚嶙峋

過黃巢故城

甘汝來

廣明謬判六書文南北縱橫逞寇氛黃谷已經祿獸魄朱邪  
旋復視鴉軍尚從草澤飛燐火時向城陰結陣雲故壘前車

千古鑑潢池赤子敢紛紜

銀窖山

甘汝來

重封石笏倚丹梯茶毒生靈說偽齊騰上未聞蹲白虎剗中

太平府志

卷之四十三

九

誰見滿朱提藏舟大壑需人負覆鹿肩蕉待客齋未得五丁

揮巨斧盡傾山腹賑羣黎

同左陽羅譽章使君九日金山登高

廖留安

兩年嶺外悲秋客又逐登高 隊行邱壑舊傳仙吏蹟林泉

新識使君清背巖風日孤峰 蓬蓬人家家萬里只看

蘿薜古漫將懷抱對簪纓

別是蓬壺小洞天最高峰在丈雲顛結廬人境喧車馬遯跡

僧房冷篆烟風細何須愁帽落谷空誰復喜音傳勝遊且盡

登臨興忘却飄零又一年

一掌平擎亂石開鐵橋橫鎖隔塵寰草依曲徑因秋瘦洞壑

晴陰竟日關村舍蕭條橫遠郭泉流清激漱空山憶舊遊

人遊處賸有浮雲自往還

蠟屐生平幾兩穿誰人乞與買山錢金銀氣作秋雲薄草木

情隨海日懸佳節每驚愁裏過微名還藉句中傳南來消息

無征雁回首衡陽興渺然

辛丑中秋雜使君載酒招遊博感洞漫成三律呈同遊

諸友

廖留安

巨靈開闢幾洽桑雲暝重巖一徑荒絕壁擬鐫新姓字懸崖  
遍覓舊文章水流石髓衣侵雪花綴天根展帶香韜晦莫嫌  
沉鬱久有時為爾發幽光

石室幽深古木平疎林繫馬午風清躡雲早覺蓬萊小燃炬

方知巖巖晴萬怪離奇侵冷眼一溪碎湃咽秋聲登探除却

太平府志

卷之四十三藝文

十一

投荒客洞口藤蘿鎖日橫

今古遊人只好名此中誰信是蓬瀛敲殘鍾乳天漿溢網拂

珊瑚海樹明咳唾如同棲鶻語招呼莫使螭龍驚携來桂醕

須拚醉他日難尋別後盟

金山雨霽

張煜

萬怪嶙峋石一邱眼前突兀壓荒州雲來洞口光常滿雨還

山頭翠欲流登眺平原多野色銜盃高開發清謳漫言地僻

無佳境巖岫新晴可恣遊

銀霄晴霞

張煜

峰巒曲折俯江干徙倚遊人著意看霞映霜楓山盡赤永飛

仙鼎井猶丹渾同勺漏能棲葛漫擬陵陽可作餐因望山原

開霽色平林一帶晚烟殘

鶴洞聞聲

張煜

碧天雲外送清聲知是凌霄黃鶴鳴軒蓋絕榮應有恨兵戈  
息響可無驚九皇遙集蓋雞侶萬里孤飛戀鳳城蓬島有仙  
常努力暫棲空谷莫相輕

懸崖仙杖

趙天益

峭壁孤危古樹空何人遺杖挂崖中雲烟靜處堪棲鶴風雨  
來時欲化龍遠影獨橫秋正老高標微映日初曛會看太乙  
持歸去藜閣光芒萬丈紅

無懷古石

袁簡臨

嵯峨兀立插層穹四野蒼茫一望中雲擁山腰迷遠樹月明

太平府志

卷之四十三藝文

十一

峰頂照疎桐擎天有骨能撐柱承露無盤只真溪石榻昔誰

會此臥羲皇而後與何窮

五言排律

過思同州書所見

明陳璣

思同接左壤過此不勝情舉目稀人迹憑誰問土名劫灰飛  
欲盡野鬼哭無聲敗屋簷垂地空困雀鷄草麻拋舊業修

竹撤荒塋娶婦知何在孤兒幸此生烟塵方去盜風樹或來

兵潛逐麋鹿往寂聞雞犬鳴無辜嘆莫及有識恨難平揮淚

西風外亂階誰構成

五言絕句

左陽雜咏

國朝李銓

雨後行春旬殘陽掛樹梢琴堂無古瓦補漏剪新茅  
捲幔山侵案開簾月滿牀及春多種菊贏得晚來香

七言絕句

思明州元日

元陳孚

去年元日步瀛洲賦舞天輝拜冕旒山驛今朝一樽酒徵臣  
身在嶺南州

三雛掌上玉娉婷拂曉  
忽似有啼聲

思明州五首

陳孚

風吹蠻雨滴芭蕉杵臼敲殘夜寂寥習得孤燈牀榻畔思明  
州裏過元宵

太平府志

卷之四十三 藝文

十三

手捧檳榔染蛤灰崗中婦女趁墟來蓬頭赤腳無鉛粉只有

風吹錦帶開

鹿酒香濃犬羸肥黃茅江上紙錢飛一聲鼓絕長鎗立又是

蠻巫祭鬼歸

毒蟲含弩滿汀沙荒草深眠十丈蛇遙望天邊紅似火瘴雲

飛落木棉花

刺竹叢叢苦筍生山禽無數不知名元宵已似春深後龍眼

花開蛤蚧鳴

江州

陳孚

司馬琵琶昔日歌天涯流落事如何若行今日江州路應是

行衫淚更多

老母越南垂白髮病  
相思一夢魂

燕北寄黃昏瘴烟蠻雨交州客三處

廣西卽事二首

傅若金

南鎮干戈日夜陳西山寇盜出猶頻荒村百里無烟火聞道  
官軍更殺人

比歲供輸不自聊堪今氣稜未全銷陣前將士須殊死莫倚  
功多氣轉驕

龍州十首

明林弼

龍州入夏多風兩山路無時一尺泥今日開門喜晴齊洞雲  
片片度前溪

山蕉木奈野蒲菊佛指香圓人面桃更有波羅甜似蜜冰盤  
太平府志

卷之四十三 藝文

七

初薦尺餘高

草閣柴扉傍竹關崗官留客意徘徊盤蔬蕉葉攜薇至甕貯

筠籠送酒來

崗丁崗婦皆高髻白紵裁衫青布裙客至柴門共濕揖一時

男女竟誰分

千山萬山皆戴石十日九日長出雲水鼠夜啼人不見峽猿

暮嘯客偏聞

近水刺桐知驛舍倚山毛竹卽人家趁墟野婦沽甜酒候客

溪童進辣茶

架巖鑿壁作巢居隱約松雲碧樹疎水榭枝枝橫檻似未門

箇箇小亭如

白沙青石小溪清魚入疎罾艇子輕謾說南荒風景異此時  
真似剡中行

林塘幽窈隔桑村風磴崎嶇接石門雨過葦茨忘赤日雲深  
篔簹易黃昏

龍州溪崗極南邊雞犬桑麻自一天流水桃花今有路何須  
更覓武陵仙

思明州太子泉

解縉

思明江上澁如灰太子泉甘玉一杯見說馬跑非異事渥注  
原自產龍媒

馬跑前頭曙色開溪邊遙見白雲回汲泉搖動天邊月上  
銀河欲下來

太平府志

卷之四十三

十四

太子泉頭數舉杯鎮南營壘尙崔嵬當年假道來交趾此地  
曾經玉節回

龍州

解縉

龍州百尺石爲城萬戶層樓樹色青舉網得魚沽美酒滿船  
明月棹歌聲

波羅蜜樹滿城圍銅鼓聲喧夜賽神黃帽葛衣墟市客青裙  
錦帶冷遊人

交州出到龍州路瘴雨荒烟泣鷓鴣始信玉關長閉好欲將  
封事贊皇圖

廣源江水綠於苔綠繞龍州學宇回惟見七源江水濁常時  
風雨徹天來

入南交關

寒雨黃昏漸有聲停驂坡壘欲三更使臣分得天瓢水一洗  
南交瘴癘清

安南歌送沈使君

徐禎卿

烏蠻灘上烟水聲依波廟前秋月明夜半津人挽舟上夷歌  
偏動望鄉情

訪客陞檳榔

董傳策

急脚蠻奴鬻半斜客來提榼手雙叉檳榔擊出斑斕片灰白  
菱青當獻茶土俗以青菱葉白灰和檳榔煎之客至盛楹以獻謂之代茶

噉王皮菓

董傳策

碧樹離離金彈垂膏凝甘露嚼來奇木奴秋色珍如許那似  
太平府志

卷之四十三

十五

香飄海暑枝

董傳策

波斯薦翠味回甘嶺樹秋高拂瘴嵐記得吳都曾有賦密絨  
錫餽到江南檳榔最佳名波那種法用錫餽包之雖寄遠不損

詠蕉子

董傳策

蕉子垂垂結陣黃綠枝風扇迴凝香生憎骨膩甜於蜜消得  
幽人在異鄉

噉荔枝二首

董傳策

鐵餘娑娑落子紅方苞剝出水晶籠炎荒正惹長卿渴却噉  
瓊漿半洗空

南風飄落出墻枝丹渥羅囊玉露披博得風流瘦吟骨蘇那

會寫黑猿詩

觀音蕉

董傳策

蕉樹從來葉扇青却擎丹萼大於餅觀音禪性元貞靜那得  
猩猩染數層

了哥

董傳策

籠裏清音奈若何元來朱叻慧無過秦樓鸚鵡休相妬瘴媛  
聲聲叫了哥

人面子

董傳策

翠裏團團顏帶醜箇中甘味天酸渴只緣人面看來好支膝  
秋風却睡魔

奶頭果

董傳策

太平府志

卷之四十三 藝文

七

流火輝輝樹欲垂青林披落絳囊奇赴墟藉却娘行瘦好採  
枝頭哺乳兒

九層皮

董傳策

栗懼香滋薯懼奇蒸來皮裏裹層皮饒君露底元無骨怪得  
包藏肉太肥

水泡果

董傳策

花放金絲香裊林彈垂鬆穰核拋心南人不識林檎味却認  
池邊水泡侵

枸櫞

枸櫞大樹也南中  
多此節迥獨無橙

董傳策

斗落南林香滿枝釀成風致錯尖披却消一味吳江夢秋歷  
黃橙勝柚皮

寄曝蕉

董傳策

曝來紺穎瘦於腸石蜜釀成墨貯香漫憶秋風半搖落賴虬  
飛出榜江鄉

壺關春色

楊鳳

曲曲山城繞流水巍巍雄據百二雉壺關別自有乾坤生意  
都從人事美

筆架晴嵐

楊鳳

疊嶂叢中獻奇異乾坤秀氣南荒萃嵐光時作絳霞紅不是  
巫山雲雨意

青連疊嶂

楊鳳

數里青山如碧落茶差遠近映樓閣連城佳木匪長春霜雪  
太平府志

卷之四十三 藝文

七

不經色不惡

楊鳳

飛騰上雲路

白雲仙洞

楊鳳

玉洞雲深不知處瓊花瑤草自芳吐仙人一去不復迴鬼物  
頗呵空守護

綠樹神湫

楊鳳

陰陰夏樹覆密葉下有靈泉清且潔泉可浴今樹可風煩襟  
一洗淨如雪

山寺僧燈

楊鳳

古刹依山地偏頗沙門夜靜無人鎖佛燈漏影出疎樞望遠  
猶疑鬼放火

石門漁唱

楊鳳

斜日石門明遠郭漁舟點點烟波落數聲欸乃天地寬籠辱  
無驚多少樂

南津晚渡

楊鳳

櫻櫻紅塵行役子長途日暮猶未止沙頭獨立喚船來兩岸  
青山瞑烟起

隴口樵歸

楊鳳

無耕徑路多草石委苦一肩為誰役出山撞過溪邊翁放下  
且談先天易

太平府志

卷之四十一 藝文

太

會仙臺

李廣園

柯爛仙人久不來洞門雲鎖向誰開巖花自解知心語猶伴  
禾風到石臺

上石西州

吳爾施

蕢茅為宇竹為門斗米肩豚逐酒尊欲向此中停信宿俄傳  
交趾掠前村

幾處人烟覆短堦山多水許牧羊羊頽祠蔓草無香火惟見  
殘碑枕夕陽

百萬當年事遠征高標銅柱伏波營受降城下徘徊久能得  
將軍日再生

馬跑相傳舊有泉行人消渴欲流涎甌中携得家園茗太子

亭之竹火煎

題家慈手画梅花送甘遜齋之任麗江二絕句

時甲辰元日

國朝 錢陳羣

画梅恰值花開候元日題詩送遠行詩瘦花寒人澹石乾坤  
何物與同清

使君度嶺穿雲去壓帽迎幢一萬枝乞得硬黃傳粉本長教  
寒徑有春姿

太平府志卷之四十三終

太平府志

卷之四十三 藝文

十九

十府志卷之四十四

藝文八

雜記

交事紀聞紀世宗御製送毛伯溫南征詩大將征夷膽氣豪  
 腰懸秋水雁翎刀風吹金鼓山河動電閃旌旗日月高天上  
 麒麟原有種穴中螻蟻莫能逃太平頌詔回轅日親與將軍  
 脫戰袍掛齋俸忘錄則太祖送總兵楊文征蠻詩也雁翎刀  
 呂虔刀末云大標銅柱歸來日庭院春深慶百勞借忘錄  
 作于宏治中交事紀聞之附會不言可知然太祖集中不載  
 是詩又見宋時一小說云是哲宗送大將征奪則其來久矣  
 然亦不足信蓋野人之談三變矣奔洲二史考

太平府志

卷之四十四 藝文

一

安南國王陳日照者本福州長樂邑人姓名為謝升卿少有  
 大志不屑為家業間為歌詩有云池魚便作鯉鵬化燕雀  
 安知鴻鵠心詩與博徒豪俠遊屢竊其家所有  
 以資妄用遂生變於父其叔乃獨異之每加回護會其家有  
 姻集羅列器皿頗盛至夜悉席卷而去往依族人之仕於湘  
 右至半途呼渡舟子所須未滿殿之中其要害舟遠離岸謝  
 立津頭以俟聞人言舟子已租因變姓名逃去至衡為人所  
 捕適主者亦聞人遂陰縱之至永州久之無聊授生徒自給  
 永守林岵亦同里頗善遇之居無何有邕州永平寨巡檢過  
 永一見奇之遂挾以南塞居邑宜間與交趾鄰近境有棄地  
 數百里每交易則其國貴人皆出為市國相乃王之婿有

而美少年悅之因請以歸會試舉人謝居首  
 納為婿其王無子以國事授相又昏老遂以屬婿以此  
 國為自後屢遣人至闕訪其家或以為事不可料不宜與  
 之通竟以歲久難以訪問反命焉其事得之陳合惟善僉樞  
 云明諸書

安南在本朝凡三征而三定之人知之矣不知元世祖時亦  
 征之凡三征而後輸服特未及郡縣之耳初征時故宋陳尚  
 書子丁孫及其婿梁奉御蘇少保子寶章及趙孟信葉郎將  
 等俱降服附蓋宋遺臣入異國不獨陳宜中入占城也陳日  
 頌在元世祖朝僭國號大越主憲天體道大明光皇帝更名  
 陳威冕平號紹寶元兵陷其國都而歸本朝自宣德棄地後  
 太平府志 卷之四十四 藝文 二

南修朝貢嘉靖初英登庸黎氏自立亦建國號曰大越改  
 元明德禪位于子方濂改元大正分所部為十三承政司以  
 擬天朝之布政各立憲察司以擬按察又各立總兵使司以  
 擬都司及上赦之革其王號降封方濂于福海為安南都統  
 使賜以銀印秩從二品其十三司改為宣撫然而仍帝其國  
 不用所賜印且行入貢曰交鄰其後不復守入貢之約且侵  
 粵西無虛日蓋自漢及六朝以後專制一方屢服屢叛方  
 之難制未有及之者萬歷野獲  
 水東日記言國朝將官專生殺如都督韓觀守廣西尚然觀  
 師遠生員迎侯悉命斬之曰我知此亦賊耳山忠毅公  
 有問焉聞公蓋懲英國殺黃泰將故事

碑誌俱不言公僂黃泰將事惟三下南交錄畧及之

詳按黃泰將者名中初以都督僉事同呂毅送陳天平還國

為黎季犛所賺殺天平後大軍南討毅為鷹揚將軍中無職

寄從軍自効內云賊依天健山等處而以兵由生厥潭合二

江渡犯官軍新城候補遣中等擊敗之以後賞功典下謂都

行僉事呂毅黃中先失律敗事後雖有功不在賞典尋命掌

交趾都司黔公之敗毅以戰死再用輔率師南討簡定等伏

誅中時在軍而論功姓名絕不之及豈其時中不用命為輔

所僂邪葉文莊之所懲豈文廟初以是怒張英公為其功成

而後寬之且諱之邪記以備考余洲

西南土府知府僅得統土知州土知縣而已惟廣西思明府

太平府志 卷之四十四 藝文 三

之上石西州雲南麗江府通安巨津二州其知府俱土而州

守則為流官不知堂屬體統亦如內地否又如廣西泗城州

其屬程縣為流官正德中土知州岑豹亡狀逼逐流官知縣

而自領其事朝廷遂不除更以至於今思明府所屬尚有祿

州西平二土正嘉之間為交趾所侵陷思明既不能尅復大

司馬亦不能討漠然置之罔聞國事如此何以鞭笞四夸野

景泰辛未八月思明府土官知府黃瑠被弑庶兄都指揮使

玠陰主之也巡撫廣西李侍郎棠副總兵武都督毅發玠

罪寘獄當死巡撫廣東揭侍郎稽乃奏言玠守潯州軍民

服賊不犯境近聞為事以致賊徒流劫德慶曲加寬宥

東無流劫之害矣

玠謀之侍郎江淵潛遣人赴京賂用事者乃

帝大悅謂萬里外乃有此忠臣命禮部會多官議

術等將覆奏署名少傅王文端公直有難色給事中

仇對眾灑泣都給事中林聰出語人曰吾慟不署名其實

然也奏上憲宗出就沂邸而立見濟為太子生母杭氏為后

而汪后廢於是陞賞太濫有滿朝皆太保一部兩尚書之謔

直得所賜元寶扣案頓足歎曰此何等大事乃出一蠻夸邪

吾儕愧死矣累疏求退然侃遷詹事府丞聰右春坊司直郎

皆不辭也玠以大赦原免復職于少保以廣西賊起請賞玠

以作其氣上從之已而陞都督充叅將毅以事降黜案因此

太平府志 卷之四十四 藝文 四

致仕其後見濟殤御史鍾同郎中章綸疏請復舊皆下獄刑

科給事中徐正密請名見便殿屏左右言宜置沂王於沂

沂州迎上皇與俱以絕人望景皇怒出正為雲南衛經歷

行乃請成鐵嶺衛及上皇復辟時玠已死發棺鞭屍以

戒逮正至正驚破膽便溺皆青一襪於市初太子太保

部尚書何文淵因言官劾其貪言自言易儲有功詔

父有天下傳之子天佑下民作之君已所屬對也得釋

仕至是懼禍自經死時揭稽已降知府致仕家居文淵弟

某與其子主事喬新等爭訟兩奏文淵之死實諸子逼以

禍喬新亦令人告稽巡撫廣東時代黃玠為易儲之疏

管校逮至京鞠之迹涉已往俱獲釋焉黃瑜雙 槐慶抄



按黃珪一醜孽爾初心不過避死何知朝廷大計樂教之道此謀者可勝誅哉荒微犬豕之儔上窺宮庭而肆其所欲廟堂之上唯唯聽之恬然而不知恥尚可謂廷有人邪向令東朝不易見濟非久即世景帝大漸之後東朝請於皇太后奉迎上皇復辟詞正勢順翻然天地開闢君臣如故何至前開

於鮮規之獸嗜可以觀其事矣西事 中國人出為土司者近年思城知州趙天錫本江南女俊遊粵西見雙上酉因得贖職聞其得官之故則訖所天及正室而趙氏無他子遂以吞法婦襲夫官善筆札會與舊知書媚

宛嫌物全見舊本色其人至今尚存萬歷野獲

太平府志 卷之四十四 藝文

五

岑伯高者文成親信指揮王佐之幕客舞智多詐親文成未旬殺蘇意私索蘇萬金蘇遂懷志自沮文成有小侍兒知之始受撫已又納龍州趙楷之路為言楷當立文成信之以印授楷楷遂為亂後數年翁仁夫萬達始以計誘致楷杖殺之伯高索賄之迹已著幾敗乃公事楷事又復信之其故謂何使貪使詐即機畧若文成猶難之談豈容易哉西事

養利州知州羅得之子洪先於宏治十年生在養利任所十八年簡再復任在養利從學後中嘉靖八年狀元知州葉朝榮於萬歷十一年任子向高隨任從學養利後中鼎甲官至

幸梧州

晉阮放字思慶成帝時求為交州刺史行達軍浦逢陶侃高寶平梁頌自交州還放設檣請寶伏兵殺之寶眾擊放賊

夫保簡陽城得免剋州少時暴發渴見寶為崇遂卒 志

唐中丞杜式方為桂州觀察使時西原賊反詔命郎中裴劼持撫葉令桂州押衙樂源與副將二人往傳詔命源儒者有

氣誼賊帥黃少卿大喜留宴悅其佩刀請之源雖自愛念欲捨懷之不可拂其意遂解刀以贈賊帥酬小婢二人副將源以軍中虛實告賊裴郎中大怒源具言本末辭色頗厲裴愈怒移書式方式方心知源冤陰勸其逸去源以無罪不肯式方畏郎中不得已灑泣厚致酒餼竟致之法源將刑名妻子與別謂曰可置筆箱中當訴于帝問監刑者曰今何時

太平府志 卷之四十四 藝文 六

曰日中源曰吾昏時便往賓州取副將明年四月殺裴郎中因舉頭謂執刀者曰爾慎勿折我頸折之即殺爾其人不聽拉其頸殺之忽驚驟仆地死數日後賓州報副將以其日昏時暴得心痛死裴至明年四月亦卒其年十月式方於毬場宴敕使忽語曰樂源何為來此我亦無過索酒漚地祝之良久曰我知汝究而竟殺汝我亦罪也遂不能語昇入署夜死今桂州南門外源死處方丈無草人因為立樂將軍祠祀之

史逸

宣德間崇善縣土官趙遷興兵入寇千戶趙欽鄭忠率軍拒之時見羣鴉飛鳴于官軍之上賊弗戰而退私詢其黨云爾兵既來何以怯敵曰彼時見紅袍神于空中率鴉導之故

太平府志

廣州即古龍編建安中立州治時有蛟龍蟠編於南北三津

廣州即古龍編建安中立州治時有蛟龍蟠編於南北三津

廣州即古龍編建安中立州治時有蛟龍蟠編於南北三津

廣州即古龍編建安中立州治時有蛟龍蟠編於南北三津

廣州即古龍編建安中立州治時有蛟龍蟠編於南北三津

廣州即古龍編建安中立州治時有蛟龍蟠編於南北三津

廣州即古龍編建安中立州治時有蛟龍蟠編於南北三津

廣州即古龍編建安中立州治時有蛟龍蟠編於南北三津

廣州即古龍編建安中立州治時有蛟龍蟠編於南北三津

廣州即古龍編建安中立州治時有蛟龍蟠編於南北三津

廣州即古龍編建安中立州治時有蛟龍蟠編於南北三津

黃皆族姓之大者也又宋時有四道儂氏安平武勳四道

周氏儂智高亂後儂氏之良許從宋姓趙氏偶坐間有談及

州右多異姓者歸而披閱諸志及弟子員籍錄其解所經見

柳屬附進士復亨文天種孝廉宗義實別駕規附司

孝廉鳳順孝子琦陀孝廉趙孝廉盛植明府克儉家明經澤

太平府志 卷之四十四 藝文 八

府以讓 邑屬農進士爽附進士梯長孝廉輝裔別駕璜粟

經昇亦參軍准 又弟子員籍諸姓外柳之銀賣原磨王利

雍皆姓譜所解載者西事

西中夸靈不常動議征勦將士以首鹵為功或免罪雖云當

斷首以去者嶺南

此中胥掾開隸之屬多范愚不諳事語之通不了了雖纖細

皆沈隊不能上升宜其溼濕乃爾嶺南

皇祐中民謠言農家種穀糴家收五年秋青破儂智高謠言蓋應之也舊通志

新龍等州山田揀荒平處以鋤鋤開為町畦何春兩丘中貯

水即先買鯪魚子散于田內一二年後魚兒長大食草根並

盡既為熟田又收魚利及種稻且無稗草乃齊民之上術也

嶺表錄異嶺表山川盤鬱氣聚不易疎洩故多嵐霧作瘴人感之多病

臃脹或蠱俗傳百蟲為蠱以毒人蓋濕熱之地毒蟲生之非

弟嶺表之家性慘害也嶺表錄異

飛蠱其來也有聲不見形如鳥獸啾啾唧唧然中人即為痢

太平府志卷之四十四 藝文九

便血醫藥多不差旬日間必不救朝野僉載

閩廣多蠱或謂凡至旅寓當叩主人云爾家有無蠱毒耶問

之即不行夷堅辛部載解毒咒云姑蘇咏摩耶咏蠱吾毒生

四角父是窈窕母窮是舍耶女眷屬百千萬吾今悉知汝摩

訶鄭景盟集閩廣蠱毒名曰超生有林宰家顯得其二咒曰

本師末來祖師來末三百六十祖莫能吾前要及生急急如

律令又曰本師來一祖師來末咒作牛咒喫泄草入人腸急

急如律令又曰有手訣稱不能記藥則升麻一味水調服程

雜識蠱藥種類不一用法亦繁或以土木易人五臟或置雞鴨食

中入腹復生長翅足或人魂至家終夜力作力竭乃死

洋杉人家貨物入已漢人有捕得造蠱者則羣執生瘞之或

投烈火中百粵風土記

挑生者妖術也以魚肉請人遂作術於中人食之則此物遂

活於胸腹害人至死而後已也嘗見范石湖桂海虞衡志載

當時李壽翁為雷州推官得一方甚妙云食在胸膈則服升

麻吐之在腹則服鬱金下之仕宦長病此故為揭出即疾七修類稿

五月五日聚諸蟲豸之毒者並置器內自相吞食最後獨存

者曰蠱有蛇蠱蜥蠱蟻蠱視食者久斃卜死者遲速蠱

成先置食中味增百倍歸或數日或經年心腹絞痛而死者

中之物皆潛移去魂至其家為之力役猶虎之役俵也其後

夜出有光熠如曳彗是名飛蠱光積生影狀如生人是名挑

太平府志卷之四十四 藝文十

生影積生形能與人交是名金蠱於是任意所之流毒鄉邑

殺人多者蠱益靈家益富恭富昭賀蠱術公行嗣官潛知其

狀令巫作法壓之取婦埋地中出其首澆蠟燃之以名冤魂

魂不為附種婦代鬼返罵乃死否則不能置之法也鮑明遠

詩吹蠱痛行暉蓋飛蠱也按周禮土訓掌道地圖道地愚疏

云地愚蠱事人所為也周時荆揚不入職方王制南不盡衡

山則西北亦有蠱矣國語曰宵靜女德以伏蠱愚謂女惑男

如蠱使人形神變喪精魂為其所役也張衡思玄賦成姘麗

以蠱媚兮增嫵眼而蛾眉則房中亦有蠱矣何必鳩舌雕題

騷人羈旅始為惑哉雅凡中蠱者顏色返美於常妖姬望之而笑必須叩頭乞藥出



初因寒而作大熱愚魯湯柴胡可減 夏月因暑氣者六和

湯若身極熱而頭極疼脈數者謂之熱瘧宜用南人批草

子說 染此病不可不服藥第恐深最難治用涼藥多則不

可用熱藥須得法可焉附子則冷服之非極工巧以處之則

不可如通身熱而汗不多頭疼未解且與和解散如腰以上

極熱以下稍涼胸膈煩渴腰腿重疼或大便稀滑其脈多數

按之不實即陽浮陰閉也李待制生薑附子湯最妙然初病

生薑附子極能發散既病經日去汗愈多虛煩潮上則惟恐

其不斂不降又須熟附乾薑沉香用乾薑須冷服若便利則

不宜沉香 煩甚少加竹茹渴甚加人參北五味咳逆加丁

香淡竹葉此草惟廣州白雲後洞及惠州羅浮有之然治虛

寒咳逆功不及烏附 若煩燥而有異象眩惑夜不安寢可

略與些小溫膽湯大便欲利者不可服若煩渴大作蜜砂丹

參砂丹破症奪命散既濟湯乃局方竹葉石膏湯去石膏加

熟附子冷湯加入參附子宜選而用之若煩熱而大便自利

小便亦多不可以赤為熱膝脛以下稍涼乃病邪激其血氣

俱為表熱無以養中故外熱而內虛也可急服薑附湯養氣

丹及灸氣海并足三里穴若至於四肢厥冷或兩足冷頭額

虛汗或時咳逆脈數其症尤危惟有黃牙丹伏火硃砂丹三

建湯能斂心液能壯真陽可以更生也又有痘瘡即熱症之

盛者醫書謂血得寒則淋泣得熱則滲溢故熱瘡面赤心熱

舌破鼻衄皆瘡熱沸其血湧上所致故宜用挑草子法甚則

太平府志 卷之四十四 藝文 五

血上來其心竅故昏不能言或但噫噫作聲即瘧瘴也治之

當散其血近有明醫用麥門冬湯下黑神散立見神效南遊

之士不可不知亦不可不備此藥也愚前所謂涎迷心竅及

舌強者亦用之矣却非正瘧瘴乃挾風症耳故所取之方當

審而後用之也 續洪治 瘧瘴說

本經不惟烟霧蒸鬱亦多毒蛇猛獸故編類集及嶺外代答

本經書備言蛇虺蜈蚣諸毒最當謹者夜起不可倉卒亦

不可無燈又不可不穿鞋襪嘗聞有人中夜下榻而蜈蚣偶

棲草鞋上傷其足得香白芷雄黃末服之藍澱汁傳之乃愈

又一村婦倉卒炊火不知火筒中偶有蜈蚣驚竄入喉致下

胸膈悲聲求救傍一人云以小豬斷喉取血又雞血尤妙令

此婦頓啖須臾更灌生油一口遂惡心蜈蚣聚在血中吐下

續飲雄黃水方漸安又有人被蝮蛇咬遍身腫裂口吐黃水

良久悶絕有一道人以新汲水調香白芷末二錢灌之立甦

再服即愈道人云此合用麥門冬湯今倉卒以水代之亦甚

又有被蚊傷而垂固者一僧以五靈脂一兩雄黃半兩為末

酒下一錢即愈又方如前治蜈蚣藥或得白礬火上灸洋

在傷處亦可又虎傷亦以白礬末摻瘡封裹之蜈蚣傷又用

雞冠血又雞屎塗亦可又方取大蜘蛛一枚縱其曠所傷處

令吮其毒候蜘蛛困悶自落却滴冷水數點以活之如覺夫

愈更取一枚曠之使毒盡自愈治蛇入口并七孔中者割其

母尾懸置口中并七孔中即出卒為蛇繞不解用熱湯洗之

太平府志 卷之四十四 藝文 五

以人尿治之蜘蛛飛絲入口用紫蘇葉嚼之即愈嶺南衛生方

草子即寒熱時疫南中吏卒小民不問病源但頭痛體不佳

便謂之草子不服藥使人以小錐刺唇及舌尖出血謂之挑

草子實無加損于病必服藥乃愈廣衛志

嶺南屋柱多為蟲蠹人夜則齶聲刮刮通宵攪人眠書籍蠹

蛀尤甚故其地無百年之室無五十年之書而蛇蟲虺蜴縱

橫與人雜處蓋依稀蠻瘴之習矣調聲制五雜俎

粵人淫祀而尚鬼病不服藥日事祈禱視食富為豐殺延巫

鳴鐘鑼躡歌舞結幡焚楮醮酒椎牛日夕不休事畢插柳

枝戶外以禁往來其中寒熱瘟疫者謂之中草子多以不藥

死者相枕可哀也百粵風土記

太平府志 卷之四十四 藝文 五

嶺表占卜甚多有鼠米卜箸卜牛卜骨卜田螺卜雞卵卜篋

竹卜俗尚鬼故也陳繼儒呻吟語

邕州之南有善行術者取雞卵墨畫祝而煮之剖為二片以

驗其黃然後決嫌疑定禍福言如響答據此乃古法也神仙

傳曰人有病就享君請福煮雞子十枚以內帳中須臾茅君

擲出中無黃者病多愈有黃者不愈常以此為候愚又見卜

者流雜書傳虎卜紫姑卜牛蹠卜灼骨卜鳥卜雖不法於書

龜亦有可稱者北戶錄

卵卜者握卵祝之書墨於殼記其四維煮截視當墨處辨殼

中厚薄定吉凶禳人卜墓請繡匠祝神以卵投地不破者如

獲滕公之碑上

南方逐除夜及將發船皆殺雞擇骨為卜傳古法也卜占即

以肉祀船神呼為孟公孟姥其來尚矣按梁簡文帝神記云

船神名馮耳五行書云下船三拜三呼其名除百忌又呼為

孟公孟姥劉思真云元冥為水官死為水神冥孟聲相似又

云孟公父名幘母名衣孟姥父名板母名履或云冥父冥姥

因元冥也同

雞卜以雄雞雞執其尾剪其尾香禱所占畢殺之拔兩股

骨淨洗用線束之以竹筴插束處使兩骨相背左骨為儂儂

者我也右骨為人者事也視兩骨側所有細竅以小竹筴

長寸許偏插之斜直偏正任其自然以定吉凶其法有十八

變直而正近骨吉曲而斜遠骨凶漢元封二年平越得越巫

太平府志 卷之四十四 藝文 六

適有祠禱之事令祀上帝祭百鬼用雞卜斯時方士如雲儒

臣如雨天子有事不昆命元龜降用於體廷臣莫敢致諍

意其術大有可觀者矣赤雅

山魃者嶺南所在有之獨足及踵手足三肢其牝好傅脂粉

於大樹空中作有木屏風帳幔食物甚備南人山行者多

持黃脂鉛粉及錢等以自隨遇雄者謂之山丈遇雌者謂之

山姑必求脂粉與者能相護唐天寶中北客有嶺南山行者

屬夜懼虎欲上樹宿忽遇雌山魃其人素有輕齋因下樹再

拜呼山姑樹中遙問有何貨物人以脂粉與之甚喜謂人曰

安臥無慮也人宿樹下夜中有二虎欲至其所山魃下樹以

手撫虎頭曰斑于我客在宜速去也二虎遂去明日辭別

容甚謹歲中每與人營田人出田及種畚耕地種植並是山  
熟則來喚人平分之性質直與人分不取其多人亦不  
多取多者遇病

太平府志卷之四十四終

太平府志

卷之四十四

藝文

七

太平府志卷之四十五

象胥志序

周禮象胥掌蠻夸閩貉戎狄之國使掌傳王之言而論焉  
以和親之象主通四夸之言東方曰寄南方曰象北方曰譯  
西方曰狄鞮而統名之曰象何也解者謂周德先致南方  
象來貢也夫越裳在交趾之南猶以三象重譯貢獻况距越  
裳而近者乎太平之壤南接安南前世以來時戢時肆國家  
有征討之命則供億出焉有享王之典則導送職焉而邇來  
稽首向化朝貢封襲取道必經

國家柔遠之令典外臣欵納之常儀不可以不識也志象胥

太平府志

卷之四十五

象胥志序

一

府志卷之四十五

後漢書

安南

禮記稱南方曰蠻

禮記稱南方曰蠻雕題交趾其俗男女同川而浴故曰交

趾其西有噉人國生首子輒解而食之謂之宜弟味旨則

以遺其君君喜而賞其父取妻美則讓其兄今烏潯人是

也交趾之南有越裳國周公居攝六年制禮作樂天下和

平越裳以三象重譯而獻白雉曰道路悠遠山川阻深音

使不遠故重譯而朝成王以歸周公曰德不加焉則君

子不歸其費政不施焉君子不臣其人吾何以獲此賜

太平府志

卷之四十五 安南

一

其使請曰吾受命吾國之責者曰久矣天之無烈風雷

雨意者中國有聖人乎有則意往朝之周公乃歸之於王

而先王之神致以薦于宗廟周德既衰於是稍絕及楚子

辛闞領其百越秦并天下威服蠻夸始開嶺外置南海桂

林家稱漢與尉陀自立為南越王傳國五世至武帝元鼎

五年遂滅之分置九郡交趾刺史領焉其珠崖儋耳二郡

在海洲上東西千里南北五百里其渠帥貴長耳皆穿而

絕之垂肩三寸武帝末珠崖太守會稽孫幸調廣幅布獻

之蠻不堪役遂攻郡殺幸幸子豹率善人還復破之自領

郡事討擊餘黨連年乃平豹遣使封還印綬上書言狀制

詔即以豹為珠崖太守威政六行獻命歲至中國貪其珍

賂漸相侵侮故率數歲一反元帝初元三年遂罷之凡立

郡六十五歲逮王莽輔政元始二年日南之南黃支國來

獻犀牛凡交趾所統雖置郡縣而言語各異重譯乃通人

如禽獸長幼無別頂髻徒跣以布貫頭而著之後頗徙中

國罪人使雜居其間乃稍知言語漸見禮化光武中興錫

光為交趾任延守九真於是教其耕稼制為冠履初設媒

聘始知姻娶建立學校導之禮義建武十二年九真徼外

蠻里張游率種人慕化內屬封為歸漢里君明年南越徼

外蠻夸獻白雉白菟至十六年交趾女子徼側及其妹徵

貳反攻郡徼側者養冷縣雜將之女也嫁為朱馭人詩索

妻甚勇交趾太守蘇定以法繩之側忿故反於是九真曰

太平府志

卷之四十五 安南

二

南合浦蠻里皆應之凡置六十五城自立為王交趾刺史

及諸太守僅得自守乃詔合浦交趾刺史並修

道橋通陸路備糧穀九年遣使波將兵萬餘人討之明年夏四月

段志發長沙桂陽等處兵萬餘人討之明年夏四月

援破交趾斬徼側徵貳等餘皆降散追擊九真賊都陽等

破降之徙其渠帥三百餘口於零陵於是嶺表悉平肅宗

元和元年日南徼外蠻夸究不事人究不事人蠻夷別號也邑豪獻

生犀白雉和帝永元十二年夏四月日南象林蠻夸二千

餘人寇掠百姓燔燒官寺郡縣發兵討擊斬其渠帥餘眾

乃降於是置象林將兵長史以防其患安帝永初元年九

真徼外復即蠻夷舉土內屬開境千餘里元初二



年蒼梧蠻夷反叛明年遂招誘鬱林合浦蠻漢千人攻蒼梧郡鄧太后遣侍御史任遵奉詔赦之賊皆降散延光元年九真徼外蠻貢獻內屬三年日南徼外蠻復來內屬順帝永建六年日南徼外葉調王便遣使貢獻帝賜調便金印紫綬永和二年日南象林徼外蠻夷區憐等數千人攻象林縣燒城寺殺長吏交阯刺史樊演發交阯九真二郡兵萬餘人救之兵士憚遠役遂反攻其府二郡雖擊破友者而賊勢轉盛會侍御史賈昌使在日南即與州郡并力討之不利遂為所攻圍歲餘而兵穀不繼帝以為憂明年召公卿百官及四府掾屬問其方畧皆議遣大將發荆揚兗豫四萬人赴之大將軍從事中郎李固駁曰若荆揚無

太平府志

卷之四十五 安南

三

事發之可也今二州盜賊盤結不散武陵南郡蠻夸未輯長沙桂陽數被徵發如復擾動必更生患其不可一也又兗豫之人卒被徵發遠赴萬里無有還期詔書迫促必致叛亡其不可二也南州水土溫暑加有瘴氣致死亡者十必四五其不可三也遠涉萬里士卒疲勞比至嶺南不復堪鬪其不可四也軍行三十里為程而去日南九千餘里三百日乃到計人粟五升用米六十萬斛不計將吏驢馬之食但負甲自致費便若此其不可五也設軍到所在死亡必眾既不足禦敵當復更發此為刻割心腹以補四其不可六也九真日南相去千里發其吏民猶尚不堪况乃苦四州之卒以赴萬里之艱哉其不可七也前

太平府志

卷之四十五 安南

四

將尹就討益州叛羌益州諺曰虜來尚可尹來殺我後就徵還以兵付刺史張喬喬因其將吏旬月之間破殄寇虜此發將無益之効州郡可任之驗也宜更選有勇畧仁惠任將帥者以為刺史太守悉使共任交阯今日南兵單無穀守既不足戰又不能可一切徙其吏民北依交阯事靜之後乃命歸本國還募蠻夸使自相攻轉輸金帛以為其資有能反間致頭首者許以封侯列土之賞故并州刺史長沙祝良性多勇決又南陽張喬前在益州有破虜之功皆可任用昔太宗就加魏尚為雲中守京帝即拜龔舍為太山太守宜即拜良等便道之官四府悉從固議即拜祝良為九真太守張喬為交阯刺史喬至開示慰誘並皆降散良到九真單車入賊中設方畧招以威信降者數萬人皆為良築起府寺由是嶺外復平建康元年日南蠻夷千餘人復攻燒縣邑遂扇動九真與相連結交阯刺史九江夏方開恩招誘賊皆降服時梁太后臨朝美方之功遷為桂陽太守桓帝永壽三年居風令會暴無度縣人朱達等及蠻夸相聚攻殺縣令眾至四五百人進攻九真九真太守兒式戰死詔賜錢六十萬拜子二人為郎遣九真都尉魏朗討破之斬首二千級渠帥猶屯據日南眾轉彊盛延熹三年詔復拜夏方為交阯刺史方威信素著日南宿賊聞之二萬餘人相率詣方降靈帝建寧三年鬱林太守谷承以恩信招降烏滸人十餘萬內屬皆受冠帶開置七縣

熹平二年冬十二月日南徼外國重譯貢獻光和元年交  
趾合浦烏滸蠻反叛招誘九重日南合數萬人攻沒郡縣  
四年刺史朱雋擊破之六年日南徼外國復來貢獻

太平府志卷之四十五終

卷之四十五

五

太平府志卷之四十六

象胥

安南

唐書

安南都督府本隋交趾郡高祖武德五年改為交州總管府  
管交峰愛仙烏宋慈險道隆十州高宗調露元年八月改  
交州都督府為安南都督府大足元年四月置武安州南  
登州並隸安南府元宗開元十年安南賊帥梅叔鸞等攻  
圍州縣遣驃騎將軍兼內侍楊思勗討之肅宗至德二年  
九月改為鎮南都護府後為安南府以刺史充都護管兵  
四千二百人舊領縣八戶一萬七千五百二十三口八萬八  
千七百八十八天寶時領縣七戶二萬四千二百三十口  
九萬九千六百五十二西至愛州界小黃江口水路四百  
一十六里西南至長州界文陽縣靖江鎮一百五十里西  
北至峰州嘉寧縣論江口水路一百五十里東至朱倉縣  
界小黃江口水路五百里北至朱倉州阿勞江口水路五  
百四十九里北至武平縣界武定江二百五十二里東北  
至交趾縣界福生去十里德宗貞元十九年安南經略使  
裴泰為州將王元季所逐憲宗元和十四年冬十月壬戌  
容管奏安南賊楊清陷都護府殺都護李象古及妻子官  
屬部曲千餘人象古道古之兄也以貪縱苛刻失眾心清  
世為蠻酋象古召為牙將清鬱鬱不得志象古命清將兵

...少卿自貞元以來數反覆桂管觀察裴行立...

...裴行立...裴行立...裴行立...

...裴行立...裴行立...裴行立...

...裴行立...裴行立...裴行立...

...裴行立...裴行立...裴行立...

...裴行立...裴行立...裴行立...

...裴行立...裴行立...裴行立...

...裴行立...裴行立...裴行立...

...裴行立...裴行立...裴行立...

...裴行立...裴行立...裴行立...

太平府志 卷之四十六 安南

僕卿杜式為桂管觀察使丙申貶仲武為安州刺史三日

辛未安南將士開城納桂仲武執楊清斬之裴行立至海

門而卒復以桂仲武為安南都護穆宗長慶三年夏四月

甲午安南奏陸州獠攻涼州縣四年安南都護奏黃家

與環王國合勢陷陸州殺刺史葛繼蘇文宗太和二年夏

六月峰州刺史王朝升叛庚辰安南都護韓約討斬之九

月庚戌客管奏安南軍亂逐韓約武宗會昌三年十一月

安南經略使武渾役將士治城將士作亂燒城樓劫府庫

鄂奔廣州監軍使段士則安撫亂眾十六年蠻寇安南經略

使段士則安撫亂眾十六年蠻寇安南經略使段士則

安南都護于琢為政貪暴強市蠻中馬...

止與鹽一斗又殺蠻酋杜存誠羣蠻怒導南詔侵盜邊

境七月容管都虞侯來正謀畔經略使宋涯捕斬之懿宗

咸通元年冬十月安南都護李鄩復取播州播州屬黔中

道於大中十三年為安南所陷十二月安南土蠻引南詔

兵合三萬餘人乘虛攻交趾陷之都護李鄩與監軍奔武

州二年春正月詔發邕管及鄰道兵救安南擊南蠻六月

癸丑以監州防禦使王寬為安南經略使時李鄩自武州

收集土軍攻羣蠻復取安南朝廷責其失守貶儋州司戶

鄩初至安南殺蠻酋杜守澄其宗黨遂誘導羣蠻陷交趾

朝廷以杜氏疆盛務在姑息冀收其力用乃贈守澄父存

誠金吾將軍再舉鄩殺守澄之罪長流崖州秋七月南詔

太平府志 卷之四十六 安南

攻邕州討之先是廣桂客三道共發兵三千人戍邕州三

年一代經略使段文楚請以三道衣糧自募土兵以代之

朝廷許之所募纔得五百許人文楚人為金吾將軍經略

使李蒙利共闕額衣糧以自入悉罷遣三道戍卒止以所

募六守左右江比舊什減七八故蠻寇乘虛入寇時蒙已

卒經略使李弘源至鎮纔十日無兵以禦之城陷弘源與

監軍脫身奔蠻州二十餘日蠻去乃還弘源坐貶建州司

戶文楚時為殿中監復以為邕管經略使至鎮城邑居人

什不存一文楚秀實之孫也三年二月南詔復寇安南經

略使王寬數來告急朝廷以前湖南觀察使蔡襲代之仍

發許滑徐汴荆襄潭鄂等道兵各三萬人授襲以禦之六

勢既盛蠻遂引去邕管經略使段文苑坐變更舊制謂募土軍以代廣桂容戍軍左遷威衛將軍分司十一月南詔帥羣蠻五萬寇安南都護蔡襲告急救發荆南湖南兩道兵二千桂管義征子弟三千詣邕州受鄭愚節度嶺南東道節度使韋宙奏蠻寇必向邕州若不先保護遽欲遠征恐蠻於後乘虛扼絕餉道乃救蔡襲屯海門鄭愚分兵備禦十二月襲又求益兵救山南東道發弩手千人赴之時南詔圍交阯襲嬰城固守救兵不得至四年春正月庚午軍船已離岸遂溺海死募僚樂綽携其印浮度江荆南江西鄂兵襄州將士四百餘人走至城東水際荆南虞侯元惟德等謂眾曰吾輩無船入水則死不若還向城與蠻鬪人以一身易二蠻亦為有利遂還向城入東羅門蠻不為備惟德等縱兵殺蠻二千餘人建夜蠻將楊思緒自子城出救惟德等皆死南詔兩陷交阯所殺擄且十五萬人至是留兵二萬使思緒據交阯城谿洞存餘無遠近皆降於南詔因詔諸道兵赴安南者悉召還分保嶺西道嶺南舊分五管廣桂邕容安南皆隸嶺南節度使蔡京奏請分嶺南為兩道節度從之五月敕以廣州為東道邕州為西道又割桂管龔象二州容管藤巖二州隸邕管尋以嶺南節度韋宙為東道節度使以蔡京為西道節度使蔡襲將諸道兵在安南蔡京忌之恐其立功奏稱南蠻遠道邊徼無

太平府志

卷之四十六

安南

四

虞武夫邀功妄占戍兵虛糜餽運蓋以荒亂路遠難於運驗故得肆其姦詐請罷戍兵各還本道朝廷從之襲累奏羣蠻伺隙日久不可無備乞留戍兵五千人不聽襲以蠻寇必至交阯兵食皆闕謀力兩窮作十必死狀申中書時相信京之言終不之省至是蔡襲死矣而十必死之狀會無朝臣一人為之申理自是之後唐之紀綱大壞凡藩鎮有片言隻字則朝廷聳動惟恐拂其意朝廷反與之關通依以為外主矣四年四月南蠻寇邕管以秦州經略使高駢率禁軍五千赴邕管會諸道之師禦之六年秋高駢自海門進軍破蠻軍收復安南府自李琢失政後交阯沒十年蠻軍北寇邕容界人不聊生至是方復故地然僭昭

太平府志

卷之四十六

安南

五

之代益不可問矣

太平府志卷之四十六終

太平府志卷之四十七

象胥

安南

宋史

交趾本漢初南越之地漢武平南越分其地為儋耳珠崖南海蒼梧鬱林合浦交陘九真日南凡九郡置交趾刺史以領之後漢置交州晉宋齊梁陳因之又為交趾郡隋平陳廢郡置州煬帝初廢州置郡唐武德中改交州總管府至德中改安南都護府梁貞明中土豪曲承美專有其地送款於末帝因授承美節鉞時劉隱擅命嶺表遣將李知順俄承美執之乃井有其地後有楊廷藝紹洪皆受廣南部

太平府志

卷之四十七

安南

一

蕃繼為交趾節度使紹洪卒州將吳昌茂遂居其位昌茂死其弟昌文襲乾德初昌文死其叅謀吳處珩峰州刺史矯知護武寧州刺史楊暉牙將杜景碩等爭立管內一十二州大亂部民嘯聚起為寇盜攻交州先是楊廷藝以牙將丁公著攝驪州刺史兼禦蕃都督部領即其子也公著死部領繼之至是部領與其子璉率兵擊敗處珩等賊黨潰散境內安堵交民德之乃推部領為交州帥號曰大勝王署其子璉為節度使凡三年遜璉位璉立七年聞嶺表平遂遣使貢方物上表內附制以權交州節度使丁璉以檢校太師充靜海軍節度使安南都護又詔以進奉使鄭琇王紹祚並為檢校左散騎常侍兼御史大夫八年遣使

貢犀象香藥朝廷議崇寵部領降制曰率土來王方相以

恩信舉宗奉國宜示於封崇眷拱極之外臣舉顯親之茂

典爾部領世為右族克保遐方風慕華風不忘內附屬九

州混一五嶺廓清靡限溟濤樂輸琛寶嘉乃令子稱吾列

藩特被鴻私以旌義訓介爾眉壽服茲寵章可授開府儀

同三司檢校太師封交趾郡王太宗即位璉又遣使以方

物來賀部領及璉既死璉弟璿尚幼嗣立稱節度行軍司

馬權領軍府事大將黎桓擅權樹黨漸不可制劫遷璿於

別第舉族禁錮之代總其眾太宗聞之怒乃議舉兵太平

興國五年秋詔以蘭州團練使孫全興八作使張璿左監

門衛將軍崔亮為陸路兵馬部署自邕州路入寧州刺史

太平府志

卷之四十七

安南

二

劉澄軍器庫副使賈湜供奉官閤門祗候王偁為水路兵馬部署自廣州路入是冬黎桓遣牙校江巨湟齎方物來貢仍為丁璿上表請臣族本蠻酋僻處海裔修職貢於軍旅假節制於方隅臣之父兄代承闔寄謹保封畧罔敢怠違爰暨淪亡將隊堂構將吏耆耄乃屬於臣伸權軍旅之事用安夸落之眾土俗獷悍懇請愈堅拒而弗從慮其生變臣已攝節度行軍司馬權領軍府事願賜真秩令備藩千冒宸辰伏增震越上察其欲緩玉師寢而不報王師進討破賊萬餘眾斬首二千餘級六年春又被賊於白江口斬首千餘級獲戰艦二百艘甲冑萬計轉運使侯寶率前軍前進全興等頓兵花步七十日以候澄仁祥

使之不進及澄至并軍由水路至多羅村下遇賊復擅迴  
花步桓詐降以誘仁寶遂為所害轉運使許仲宜馳奏其  
事遂班師上遣使就効澄混俱澄尋病死戮混等邕州市  
全興至闕亦下吏誅餘抵罪有差寶贈工部侍郎七年春  
桓懼朝廷終行討滅復以丁璿為名遣使貢方物上表謝  
罪八年桓自稱權交州三使留後遣使貢方物并以璿表  
來上帝賜桓詔曰丁氏傳襲三世保據一方卿既受其倚  
毗為之心膂克徇邦人之請無負丁氏之心朕且欲令璿  
為統帥之名卿居副貳之任制裁制置悉繫于卿俟丁璿  
既冠有所成立卿之輔翼令德彌光崇獎忠勳朕亦何吝  
若丁璿將材無取童心如故然其奕世紹襲載綿星犯一

太平府志 卷之四七 安南 三

且捨去節鉞降同士伍理既非便居亦靡安詔到卿宜遣  
丁璿母子及其親屬盡室來歸俟其人朝便當發日降制  
授卿節旄凡茲兩途卿宜審處其一丁璿到京必加優禮  
今遣供奉官張宗權齎詔諭旨當悉朕懷亦賜璿詔書如  
旨時黎桓已專據其上不聽命是歲五月上言占城國水  
陸象馬數萬來寇率所部兵擊走之俘斬千計雍熙二年  
遣牙校張紹馮阮伯簪等貢方物繼上表求正領節鎮三  
年秋又遣使貢方物僭州言占城國人蒲羅遏率其族百  
餘眾內附為交州所逼是歲十月制曰王者懋建皇極寵  
綏列藩設邸台師所以盛會同之禮胙土方面所以表節  
節二進引茲以焉之隅克修設羽之貢式當易帥爰利建

不忘請命之恭用舉酬勞之典權知交州三使留後黎  
桓兼資義勇特稟忠純能得邦人之心彌謹藩臣之禮往  
者丁璿方在重切昧於撫綏桓乃肺腑之親專掌軍旅之  
事號令自出威愛並行璿盡解三使之權以徇眾人之欲  
遠輸誠款求領節旄士變疆明化越俗而咸又尉佗恭順  
稟漢詔以無違宜正元戎之稱以列通侯之貴控撫存落  
對揚天休可檢校太保使持節都督交州諸軍事安南都  
護充靜海軍節度交州管内觀察處置等使封京兆郡侯  
食邑三千戶仍賜號推誠順化功臣遣左補闕李若拙國  
子博士李覺為使以賜之端拱元年加桓檢校太尉進邑  
千戶實封五百戶遣戶部郎中魏庠虞部員外郎直史館

太平府志 卷之四七 安南 四

李度往使焉淳化元年夏加桓特進邑千戶實封四百戶  
遣左正言直史館宋鑄右正言直史館王世則又使焉明  
年六月歸闕上令條列山川形勝及黎桓事迹以聞鑄等  
具奏曰去歲秋末抵交州境桓遣牙內都指揮使丁承正  
等以船九艘卒三百人至太平軍來迎由海口入大海冒  
涉風濤頗歷危險經半月至白藤徑入海汊乘潮而行凡  
宿泊之所皆有茅舍三間管葺尚新目為館驛至長州漸  
近本國桓張皇虛誕務為誇託盡出舟師戰懼謂之耀軍  
自是管征抵海岸至交州僅十五里有茅亭五間題曰茅  
徑驛至城一百里驅部民畜產妄稱官牛數不滿千揚言  
上萬又廣率其民混於軍旅以雜色之衣乘船鼓譟近城

之墟張白旗以為陳兵之象俄而擁從桓至展郊迎之禮  
桓歛馬側身問皇帝起居畢按轡偕行時以檳榔相遺馬  
上食之此風俗待賓之厚意也城中無居民止有茅竹屋  
數十百區以為軍營而府署湫隘題其門曰明德桓質陋  
而目眇自言近歲與蠻寇接戰墜馬傷足受詔不拜信宿  
之後乃張筵飲宴又出臨海汊以為娛賓之遊桓跣足持  
竿入水標魚每中一魚左右皆叫譟歡躍凡有宴會預坐  
之人悉令解帶冠以帽子桓多衣花纈及紅色之衣帽以  
珍珠為飾或自歌勸酒莫能曉其詞嘗令數十人扛大蛇  
長數丈饋於使館且曰若能食此當治之為饌以獻焉又  
羈送二虎以備縱觀皆却之不受士卒殆三千人悉點其

太平府志

卷之四七 安南

五

額曰天子軍糧以禾穗日給今自春為食兵器止有弓弩  
木牌梭槍竹槍弱不可用桓輕脫殘忍昵比小人腹心關  
豎五七輩錯立其側好狎飲以手令為樂凡官屬善其事  
者擢居親近左右有小過亦殺之或鞭其背一百至二百  
賓佐小不如意亦種之三十至五十黜為關吏怒息乃乞  
復其位有木塔其制樸陋桓一日請同登遊覽地無寒氣  
十一月猶衣夾衣揮扇云四年進封桓交趾郡王五年遣  
牙校費崇德等來修職貢然桓性本兇狠負阻山海屢寇  
寇害漸失藩臣禮至道元年春廣南西路轉運使張觀於  
州如洪鎮兵馬監押衛昭美皆上言有交州戰船百餘艘  
寇如洪鎮掠居民劫掠實去其夏桓所管蘇茂州又以

鄉兵五千寇邕州所管緣山都巡檢  
志在撫寧荒服不欲問罪觀又言風聞黎桓為丁氏斥逐  
擁餘眾山海間失其所據故以寇鈔自給今則桓已死觀  
仍上表稱賀詔太常丞陳士隆高品武元吉奉使嶺南因  
偵其事士隆等復命所言與觀同其實桓尚存而傳聞者  
之誤觀等不能審覈未幾有大賈自交趾回具言桓為帥  
如故詔劾觀等會觀病卒昭美士隆元吉抵罪先是欽州  
如洪咄步如昔等三鎮皆瀕海交州潮陽民卜文勇等殺  
人并家亡命至如昔鎮鎮將黃令德等匿之桓令潮陽鎮  
將成雅移牒來捕令德固不遣因茲海賊連年剽掠上以  
工部員外郎直史館陳堯叟為轉運使因賜桓詔書堯叟

太平府志

卷之四七 安南

六

始至遣攝雷州海康縣尉李建中賫詔勞問桓堯叟又至  
如昔訪得匿文勇之由盡擒其男女老少一百三十口  
潮陽鎮吏付之且戒勿加酷法成雅得其人以狀謝堯叟  
桓遂上感恩并捕海賊二十五人送于堯叟且言已約  
谿洞首領不得騷動七月太宗遣主客郎中直昭文館  
若拙賚詔書充國信使以美玉帶往賜桓若拙既至桓  
迎然其詞氣尚悻慢謂若拙曰向者劫如洪鎮乃外  
賊也皇州知此非交州兵否若使交州果叛命則嘗有  
番禺次擊閩越豈止如洪鎮而已若拙從容謂桓曰上  
聞寇如洪鎮雖未知其所自然以足下拔自交州牙校  
之節制固當盡忠以報豈有他慮及見執送海賊事

白然而大臣僉議以為朝廷比建節帥以寧海表今既為  
蠻賊寇害乃是交州力不能獨制矣請發勁卒數萬會交  
兵以剪滅之使交廣無後患上曰未可輕舉慮交州不測  
朝旨或致驚駭不若且委黎桓討擊之亦當漸至清謐今  
則不復會兵也桓愕然避席曰海賊犯邊守臣之罪也聖  
君容貸恩過父母未加誅責自今謹守職約保永清於瀕  
海因北望頓首謝真宗即位進封桓南平王兼侍中桓前  
遣都知共馬使阮紹恭副使趙懷德以金銀七寶裝交椅  
一銀盆千犀角象牙五十枝細絹布萬匹來貢詔陳于萬  
歲殿太宗神御許紹恭等拜貢及迴賜桓帶甲馬詔書慰  
獎咸平四年又遣行軍司馬教紹留副使何慶常以駟犀

太平府志

卷之四十七

安南

七

一象二象棚二七寶裝金瓶一來貢其年欽州言交州効  
誠場民及頭首八州使黃慶集等數百人來投有詔慰撫  
慶還本道廣南西路言黎桓迎受使黃成雅陪奉自  
今國朝加恩願遣使至本道以寵海裔先是使至交非桓  
即以供奉為辭因緣賦歛上聞之止令驛吏名授命不復  
專使景德元年又遣其子攝驩州刺史明提來貢懇求加  
恩使至本道慰撫遣裔許之仍以明提為驩州刺史二年  
上元節賜明提錢令與占城大食使觀宴飲因遣工部  
員外郎邵曄充國信使三年桓卒立中子龍鉞龍鉞兄龍  
全劫庫財而遁其弟龍廷殺龍鉞自立龍廷兄明護率扶  
蘭岩攻戰明提以國亂不能遣使加資給

州產象等言桓諸子爭立眾心離叛頭音黃慶集黃秀  
等千餘人以不從驅率戮及親族來投廉州請發本道二  
千人平之慶集等願為前鋒上以桓素忠順屢修職貢今  
幸亂而代喪不可就改國信使邵曄為緣海安撫使令曉  
譬之慶集等仍計口賜田糧曄乃貽書交州諭以朝廷威  
德如其相魚肉久無定位偏師問罪則黎氏盡滅矣明護  
懼即奉龍廷主軍自稱節度開明王遂欲修曄以聞上  
曰還荒異俗不曉事體何足怪也令削去偽號曄又言頭  
首黃慶集先避亂歸化其種族尚多若復遣使慮遭屠戮  
詔以慶集緣三班釐務于郴州遂許入貢龍廷稱  
安南靜海軍留後弟峰州刺史明利副使南寧書

太平府志

卷之四十七

安南

八

殿中丞黃成雅等來貢會合光殿大宴上以成雅坐遠欲  
帝升位者訪于宰相王旦旦曰昔子產朝周周王饗以上  
卿之禮子產固辭受下卿之禮而還國家與卿地方優待  
客使無嫌也乃升成雅于尚書省五品之班拜龍  
特進權校太尉充靜海軍節度觀察處置等使安南都護  
兼御史大夫上柱國仍封交趾郡王食邑三千戶食實封  
一千戶賜推誠順化功臣仍賜名至忠給以旌節又追贈  
桓中書令南越王進奉使黎明昶等並進秩大中祥符元  
年天書降加翊戴功臣食邑七百戶實封三百戶東封畢  
加至忠同平章事食邑一千戶實封四百戶二年廣南西  
路言蠻人劫海口



流矢死詔督安南捕賊明年執狄獠十三人以獻至忠又

遣推官阮守疆以犀角象齒金銀紋繡等來并獻馴犀一

上以犀違土性不可豢畜卻不納又以逆至忠意使者既

去乃令縱之海濱三年遣使來朝表求甲冑乃詔從其請

又求互市於邕州本道運使以聞上曰瀕海之民數患交

州侵寇仍前止許廉州及如洪峇互市蓋為邊隅控扼之

所今或直趨內地事頗非便詔令本道以舊制諭之至忠

纔年二十六苛虐不洽國人附大校李公蘊尤為至忠

親任嘗令以黎為姓其年遂聞至忠逐之殺明提明昶等

自稱留後遣使貢奉上曰黎桓不義而得公蘊尤而效之

甚可惡也然以其蠻俗不足責遂用桓故事制授特進檢

太平府志

卷之四十七 安南

九

校太傅充靜海軍節度觀察處置等使安南都護兼御史

大夫上柱國封交阯郡王食邑三千戶實封一千戶賜推

誠順化功臣公蘊又表求太宗御書詔賜百軸四年祀汾

陰后土公蘊遣節度判官梁任文觀察巡官黎再嚴以方

物來貢禮成加公蘊同平章事食邑一千戶實封四百戶

任文等並優進秩五年夏以進奉使李仁美為誠州刺史

陶慶文為太常丞其從隸有道病死者所賜附還其家是

冬聖祖降加公蘊開府儀同三司食邑七百戶實封三百

戶賜翎戴功臣七年春又加保節守正功臣食邑一千戶

詔交阯國使人貢者所在館餼供億務令豐備其年遣知

唐州刺史陶碩等來貢詔以碩為順州刺史充安南

軍行軍司馬副使吳懷嗣為澄州刺史充節度副使先是

交州狄獠張婆者避罪來奔知欽州穆重穎召之至中路

復拒焉都巡檢臧嗣遂令如洪峇犒以牢酒交州偵其

事因捕狄獠故鈔如洪峇掠人畜甚眾詔轉運司督公蘊

追索仍令疆吏自今不得召誘誘獠致生事公蘊或聞歲

或仍歲以方物入貢天禧元年進封公蘊南平王加食邑

一千戶實封四百戶二年加檢校太尉食邑一千戶實封

四百戶每加恩旨遣使將命至其境上仍賜幣幣裝金帶

鞍馬焉仁宗即位加公蘊檢校太師遣長州刺史李運泰

都護副使阮守疆來貢天聖六年遣驩州刺史李公顯來

太平府志

卷之四十七 安南

十

詔廣南西路轉運司發溪峒丁壯計捕之未幾卒年四十

四其子德政自稱權知留後事來告哀贈公蘊為侍中南

越王命本路轉運使王惟正為祭奠使又為賜官告使除

德政檢校太尉靜海軍節度使安南都護交阯郡王天聖

九年遣知峰州刺史李偓佺知愛州刺史師日新等來以

偓佺為驩州刺史日新為珍州刺史明道元年恭謝加同

中書門下平章事景祐中郡人陳公永等六百餘人內附

德政遣兵千餘境上捕逐之詔遣還仍戒德政毋輒誅殺

尋遣靜海軍節度判官陳應機掌書記王惟慶來貢以應

機為太子中允惟慶為大理寺丞德政加檢校太師三年

其子峒及諒州門州蘇茂州廣洞大發峒丹波縣蠻

州之思陵州西平州石西州及諸峒掠居人馬牛焚屋廩而去下詔責問之且令捕會首正其罪以聞寶元元年進封南平王康定元年遣知峰州刺史帥用和節度副使杜猶興等來貢慶曆三年又遣節度副使杜慶安三班奉職梁材來貢以慶安為順州刺史材為天子左監門率府率六年又遣兵部員外郎蘇仁祚東頭供奉陶惟幄來以仁祚為工部郎中惟幄為殿崇班明年又遣秘書丞杜文府左侍禁文昌來以文府為屯田員外郎昌為內殿崇班初德政發兵取占城朝廷疑其內畜姦謀乃訪自唐以來所通道路凡十六處令轉運使杜杞度其要害而戍守之然其後亦未嘗寇邊前後果貢馴象皇祐二年邕州誘其

太平府志 卷之四十七 安南 土

國蘇茂州韋紹嗣紹欽等三千餘人入居省地德政表求所誘詔盡還之仍令德政約束邊戶毋相侵犯其後廣源州蠻僂智高反德政率六二萬由水路欲入助王師朝廷優其賜而卻其兵至和二年卒其子曰尊遣人告哀命南西路轉運使尚書屯田員外郎蘇安世為弔贈使贈政為侍中南越王賻賚甚厚尋除日尊特進檢校太尉兼海軍節度使安南都護封交阯郡王嘉祐三年貢異獸一四年寇欽州思慮管五年與甲峒賊寇邕州詔知桂州固發部兵與轉運使宋咸提點刑獄李師中同議掩擊之詔安撫使余靖等發兵捕討靖遣謀誘占城同廣南西路兵甲趨交阯日尊惶怖上表請降詔未得舉兵聽日尊貢

奉至京師八年遣文思使梅景先副使大理評事李繼先貢馴象九年四月戊寅以大行皇帝詔及遺留後賜日尊加同中書門下平章事是日交阯使駢命內侍省押班李繼和喻以申紹泰入寇本路屢乞討伐而朝廷以紹泰一夫肆狂又本道以遣使謝罪故未欲與兵治平初知桂州陸訖言交州求僂宗且男日新反欲取温關洞等地帝問交州於何年割據輔臣對曰自唐至德中改安南都護府梁貞明中土豪曲承美專有此地韓琦曰向以黎桓叛命太宗遣將討伐不服後遣使招誘始効順交州山路險僻多潦霧瘴毒之氣雖得其地恐不能守也神宗即位進封日尊南平王熙寧元年加開府儀同三司二年表言占城

太平府志 卷之四十七 安南 土

國久闕貢臣親帥兵討之虜其王詔以其使郭士安為六宅副使陶宗元為內殿崇班日尊自帝其國僭稱法天應運宗仁至道慶成龍祥英武睿文尊德聖神皇帝尊公蘊為太祖神武皇帝國號大越改元寶象又改神武五年二月日尊卒命廣西轉運使康衡為弔贈使乞予所奪州縣詔報之曰卿撫有南交世受王爵而乃背德奸命竊暴邊城棄祖考忠順之圖煩朝廷討伐之舉即行深入勢蹙始歸迹其罪尤在所絀削今遣使修貢上致恭詳觀詞情灼見峻侮朕撫綏萬國不異邇遐但以欲之民遷劫焚取久失鄉井俟盡送還省界即以廣源等賜交州乾順初約歸三州官吏千人久之才送民二百二十一口男子年

十五以上皆刺額曰天子兵二十以上曰投南朝婦人刺  
 左手曰官客以舟載之而泥其戶牖中設燈燭日行一二  
 十里則止而偽作更鼓以報凡數月乃至蓋以給示海道  
 之遠也順州落南深置戍鎮守被罹瘴霧多病沒陶弼亦  
 終于官朝廷知其無用乃悉以四州一縣還之然廣源舊  
 隸邕管羈縻本非交趾所有也元豐五年獻馴象二犀角  
 象齒百二年以追捕儂智高為辭犯歸化州又遣其臣黎  
 文盛來廣西辨理順安歸化境界經略使熊本遣左江巡  
 檢成卓與議文盛稱陪臣不敢爭執詔以文盛能遵乾德  
 恭順之意賜之袍帶及絹五百匹乃以八隘之外保樂六  
 縣宿桑二峒予乾德哲宗立加同中書門下平章事元祐

太平府志

卷之四十七 安南

三

中又數上表求勿惡勿陽响地詔不許二年遣使入貢進  
 封南平王徽宗時累加開府儀同三司檢校太師大觀初  
 貢使至京乞市書籍有司言法不許詔加其慕義除禁書  
 卜筮陰陽歷算術數兵書敕令時務邊機地理外餘書許  
 買政和末又詔以交人自熙寧以來全不生事特寬和市  
 之禁宣和元年加乾德守司空建炎元年詔廣西經略安  
 撫司禁邊民毋受安南通逃從其主乾德之請也四年安  
 南入貢詔卻其方物之華靡者賜敕書厚其報以懷柔之  
 紹興二年乾德卒贈侍中追封南越王子陽煥嗣授靜海  
 軍節度使特進檢校太尉封交趾郡王賜推誠順化功臣  
 八年陽煥卒以轉運副使朱希充弔祭使贈陽煥開府儀

同三司進封南平王享天祚嗣授官如其父初封之制  
 年詔廣西帥司毋愛趙智之入貢初乾德有側室子奔大  
 理變姓名為趙智之自稱南平王聞陽煥死大理遣歸與  
 天祚爭立求入貢欲假兵納之帝不許七年詔文思院製  
 鞍轡以賜天祚二十一年累加天祚崇義懷忠保信鄉德  
 安遠承和功臣二十五年詔館安南使者於懷遠驛賜宴  
 以彰異數進封天祚南平王賜襲衣金帶鞍馬二十六年  
 命右司郎中汪應辰宴安南使者於玉津園八月天祚遣  
 李國等以金珠沉香翠羽良馬馴象來貢詔加天祚檢  
 校太師增食邑隆興二年天祚遣尹子思鄧碩儼等貢金  
 銀象齒香物乾道六年累加天祚歸仁協恭繼美尊度履

太平府志

卷之四十七 安南

四

正彰善功臣帝自即位屢却安南貢使九年天祚復遣尹  
 子思李邦正求入貢帝嘉其誠許之詔館於懷遠驛廣南  
 西路經略安撫使范成大言本司經略諸蠻安南在撫綏  
 之內其陪臣豈得與中國王官亢禮政和間貢使入境皆  
 庭參不復報謁宜遵舊制於禮為得朝廷從其請淳熙元  
 年二月進封天祚安南國王加號守謙功臣二年賜安南  
 國印三年賜安南國曆曰天祚卒明年子龍翰嗣位授靜  
 海軍節度使觀察處置等使特進檢校太尉兼御史大夫  
 上柱國特封安南國王加食邑仍賜推誠順化功臣制曰  
 卽樂國以肇封既從世襲極真王而錫命何待次升示殊  
 禮也五年貢方物上表稱謝九年詔卻安南所貢象以其

無用而煩民他物亦止受公二十六年累加龍輪守義

國履常懷德功臣光宗即位以奉表入貢稱賀寧宗朝賜衣

帶黑幣累加謹度思忠濟寧不動禮保節歸仁崇謙協恭功

臣及食邑焉嘉定五年龍恩覃詔以廣西運判陳孔碩充

弔祭使特贈侍中依前安南國王制以其子吳昂襲封其

爵位給賜如龍輪始封之制仍賜推誠順化功臣其後謝

表不至遂輟加恩吳昂卒無子以次昭聖主國事遂為其

婿陳日煥所有李氏有國自公蘊至吳昂凡八傳二百二

十餘年而國亡淳祐二年詔安南國王陳日煥元賜效忠

順化保節功臣增守義二子實祐六年詔安南情狀巨測

申傍兵備景定二年貢象一三年表乞世襲詔日煥授檢

太平府志

卷之四七

安南

校太師安南國王加食邑男威冕授靜海軍節度使觀

察處置使檢校太尉兼御中大夫上柱國安南國王效忠

順化功臣賜金帶器幣鞍馬威淳五年詔安南國王父日

奕國王威冕加食邑八年明堂禮成日奕威冕各加食邑

賜鞍馬等物

安南四

家背

安南四

元史

安南國古交趾也秦并天下置桂林南海象郡秦亡南海尉

趙佗擊併之漢置九郡交趾居其一後女子徵側叛遣馬

援平之立銅柱為界唐始分嶺南為東西二道置節度

立莞安南越等封丁部領為交趾郡王其子璉亦為王

傳三世為李公蘊所奪即封公蘊為王李氏傳八世至吳

昌陳日煥為吳昌塔遂有其國元憲宗三年癸丑兀良合

台從世祖平大理世祖還留兀良合台攻諸夸之未附者

太平府志

卷之四十八

安南

七年丁巳十一月兀良合台兵交趾北先遣使二人往

諭之不反乃遣徹徹等各將千人分道進兵抵安南京北

洮江上復遣其子阿朮往為之聲其虛實交人亦盛

陳兵衛阿朮遣軍還報兀良合台倍道兼進令徹徹都為

先鋒阿朮居後為殿十二月兩軍合交人震駭阿朮乘之

敗交人水軍虜戰艦以還兀良合台亦破其陸路兵又與

阿朮合擊大敗之遂入其國日煥竄海島得前所遣使於

獄中以破竹束體入膚既釋縛一使死因屠其城國兵留

九日以氣候鬱熱乃班師復遣二使招日煥來歸日煥還

見國都皆已殘毀大發憤縛二使遣還八年戊午二月日

府志卷之四十七終

以方物來見兀良合台送詣行在所別遣訥刺丁往諭之  
 曰昔吾遣使通好爾等執而不返我是以有去年之師以  
 爾國主播在草野復令二使招安還國爾又縛還吾使今  
 特遣開諭如爾等矢心內附則國主親來若猶不悛明以  
 報我光曷曰小國誠心事上則大國何以待之訥刺丁還  
 報時諸王不花鎮雲南兀良合台言于王復遣訥刺丁往  
 諭使遣使偕來光曷遂納款且曰俟降德音即遣子弟為  
 質王命訥刺丁乘傳入奏世祖中統元年十二月以孟甲  
 為禮部郎中充南諭使李文俊為禮部員外郎充副使持  
 節往諭之其畧曰祖宗以武功創業文化未修朕繼承不  
 緒鼎新革故務一萬方適大理國守臣安撫聶只陌丁馳

太平府志

卷之四十八 安南

二

梁表聞爾邦有勳風慕義之誠念卿昔在先朝已嘗臣服  
 一乘貢方物故頒詔旨諭爾國官僚士庶凡衣冠禮風俗  
 一依本國舊制已戒邊將不得擅興兵甲侵爾疆場亂爾  
 人民卿國官僚士庶各宜安治如故復諭甲等如交趾遣  
 子弟入覲當善視之母致寒暑失節重勞苦之也二年孟  
 甲等還光曷遣其族人通侍大夫陳奉公員外郎諸衛寄  
 班阮琛員外郎阮演詣闕獻書乞三年一貢帝從其請遂  
 封光曷為安南國王三年九月以西錦三金熟錦六賜之  
 復降詔曰卿既委質為臣其自中統四年為始每三年一  
 貢可選儒士醫人及通陰陽卜筮諸色工匠各三人及蘇  
 合油光香金銀朱砂沉香檀香犀角玳瑁珍珠象牙綿白

磁蓋等物同至仍以訥刺丁充達魯花赤佩虎符往來安  
 南國中四年十一月訥刺丁還光曷遣楊安養充員外郎  
 及內令武復桓書舍阮求中翼郎范舉等奉表入謝帝賜  
 來使玉帶緞扇藥餌鞍轡石差至元二年七月使還復優  
 詔答之仍賜曆及頒改元詔書三年十二月光曷遣楊安  
 養上表三通其一進獻方物其二免所索秀才工匠及其  
 三願請訥刺丁長為本國達魯花赤四年九月使還報詔  
 許之仍賜光曷玉帶金繪藥餌鞍轡等物未幾復下詔諭  
 以六事一君長親朝二子弟入覲三編民數四出軍糧五  
 輸納稅賦六仍置達魯花赤統治之十一月又詔諭光曷  
 以其國有回鶻商賈欲訪以西域事令發遣以來是月詔

太平府志

卷之四十八 安南

三

封皇子為雲南王往鎮大理都蘭交趾諸國五年九月以  
 忽籠海牙代訥刺丁為達魯花赤張廷珍副之復下詔徵  
 商賈回鶻人六年十一月光曷上書陳情言商旅回鶻一  
 名伊溫死已久一名婆婆等亦病死又據忽籠海牙謂  
 陛下須索巨象數頭此獸軀體甚大步行甚遲不如上厓  
 之馬伏候救育於後貢之年當進獻也又具表納貢別奏  
 表謝賜物七年十一月書省影牒光曷言其受詔不拜  
 待使介不以王人之禮遂引春秋之義以責之且令以所  
 索之象與歲貢偕來又前所貢藥物品味未佳所徵回鶻  
 輩託辭欺誑自今已往其審察之八年十二月光曷復書  
 言本國欽奉天朝已封王爵豈非王人乎天朝奉使復

...朝廷况本國前奉詔旨令依舊俗凡  
 ...安于正殿而退避別室此本國舊典禮也來諭  
 ...前恐忤旨故依違未敢直對實緣象奴不忍去家難  
 ...又諭索備醫工匠而陪臣黎仲佗等陛見之日咫尺  
 ...不聞詔諭况中統四年已蒙原有今復論及豈勝  
 ...惟閣下其念之九年以葉式捏為安南達魯花赤李  
 ...之十年正月葉式捏卒命李元代式捏以合撒兒海  
 ...之中書省復牒光昂言比歲奉使還者言王每受天  
 ...子詔令但拱立不拜與使者相見或燕席位加於使者之  
 ...上今覽來書自謂既受王爵豈非王人乎考之春秋敘王  
 ...人於諸侯之上釋例云王人蓋下士也夫五等邦君外臣

太平府志 卷之四六 安南 四

之貴者也下士內臣之微者也以微者而加貴者之上蓋  
 以王命為重也後世列王為爵諸侯之尤貴者顧豈有以  
 王爵為人者乎王寧不知而為是言耶抑辭令之臣誤為  
 此言耶至于天子之詔人臣當拜受此古今之通義不容  
 有異者也乃云前奉詔旨並依舊俗本國遵奉而行凡受  
 詔令奉安于正殿而退避別室此舊典禮也讀之至此實  
 頗驚訝王之為此言其能自安于心乎前詔旨所言蓋謂  
 天壤之間不啻萬國國各有俗驟使變革有所不便故聽  
 用本俗豈以不拜天子之詔而為禮俗也哉且王之教令  
 行于國中臣子有受而不拜者則王以為何如君子貴于  
 改過猶想高明其亮察之十一年光昂遣童子治黎文

來貢十二年正月光昂上表請罷本國達魯花赤其文曰  
 微臣僻在海隅得霑雨露化與幽生懼忤鼓舞乞念臣自降  
 附上國十有餘年雖奉三年一貢然迭遣使臣疲於往來  
 未嘗一日休息至天朝所遣達魯花赤辱臨臣境安能空  
 回况其行人動有所恃凌轢小國雖天子與日月並明安  
 能照及覆盆且達魯花赤可施於邊蠻小醜豈有臣既席  
 王封為一方藩屏而反立達魯花赤以監臨之寧不見笑  
 於諸侯之國乎與其謂監臨而修貢孰若中心悅服而修  
 貢哉臣恭遇天朝建儲冊后大恩霽需施及四海輒敢哀  
 鳴伏望聖慈特賜矜恤今後二次發遣綱貢一詣都鄙奉  
 納一詣中原拜獻凡天朝所遣官乞易為引進使庶免遠

志 卷之四八 安南 五

魯花赤之弊不但微臣之幸實一國蒼生之幸也二月復  
 降詔以所貢之物無補於用諭以六事且遣合撒兒海牙  
 充達魯花赤仍令子弟入侍十三年二月光昂遣黎克復  
 文粹入貢以所奏就都鄙輸納貢物事屬不敬上表謝罪  
 并乞免六事十四年光昂卒國人立其世子日烜遣中侍  
 大夫周仲彥中亮大夫吳德卻來朝十五年八月遣禮部  
 尚書柴椿會同館使哈剌脫因工部郎中李克忠工部員  
 外郎董瑞同黎克復等持詔往諭日烜入朝受命初使傳  
 之通也止由都蘭黎化往來帝命柴椿自江陵直抵邕州  
 以達交趾閏十一月柴椿等至邕州永平寨日烜遣人進  
 書謂今聞國公辱臨敝境邊民無不駭愕不知何國人使

而至于斯乞回軍舊路以進 權回牒云禮部尚書等官奉

上命與本國黎克復等由江陵抵邕州入安南所有導護

軍兵合乘驛馬宜來界首遠 迓日烜差御史中贊兼知審

刑院事杜國計先至其太尉率百官自富良江岸奉迎入

館十二月二日日烜就館見使者四日日烜拜讀詔書椿

等傳旨日汝國內附二十餘年向者六事猶未見從汝若

弗朝則修爾城整爾軍以待我師又云汝父受命為王汝

不請命而自立今復不朝異日朝廷加罪將何以逃其責

請熟慮之日烜仍舊例設宴于廊下椿等不就宴既歸館

日烜遣范明宇致書謝罪改宴于集賢殿日烜言先君棄

世子幼嗣位天使之來開諭詔書使子喜懼交戰于胸中

太平府志 卷之四十八 安南 六

竊聞宋主幼小天子憐之尚封公爵於小國亦必加憐昔

諭六事已蒙赦免若親朝之禮子生長深宮不習乘騎不

諳風土恐死於道路子弟太尉以下亦皆然天使回謹上

表誠兼獻異物椿曰宋主年未十歲亦生長深宮如何亦

至京師但詔旨之外不敢聞命且我四人實來召汝非取

物也椿等還日烜遣范明宇鄭國瓚中贊杜國計奉使陳

情言孤臣稟氣軟弱且道路艱難徒暴白骨致陛下哀傷

而無益天朝之萬一伏望陛下憐小國之遼遠令臣得與

繅寡孤獨保其性命以終事陛下此孤臣之至幸小國生

靈之大福也兼貢方物及二馴象十六年三月椿等先達

京師留鄭國瓚待于邕州樞密院奏以日烜不朝但遣使

臣報命飾辭托故延引歲時巧佞雖多終違詔旨可進兵

境上遣官問罪帝不從命來使入覲十一月留其使鄭國

瓚于會同館復遣柴椿等四人與杜國計持詔再諭日烜

來朝若果不能自覲則積金以代其身兩珠以代其目副

以賢士方伎子弟工匠各二以代其土民不然修爾城池

以待其審處焉十六年十月立安南宣慰司以卜顏鐵木

兒為叅知政事行宣慰使都元帥別設僚佐有差是月詔

以光祿既沒其子日烜不請命而自立遣使往召又以疾

為辭止令其叔遺愛入覲故立遺愛代為安南國王二十

年七月日烜致書于平章阿里海牙請還所留來使帝即

遣還國是時阿里海牙為荆湖占城行省平章政事帝欲

太平府志 卷之四十八 安南 七

交趾助兵糧以討占城令以已意諭之行省遣鄂州達魯

花赤趙翥以書諭日烜十月朝廷復遣陶秉直持璽書

諭之十一月趙翥抵安南日烜尋遣中亮大夫丁克紹

大夫阮道學等持方物從翥入覲又遣中奉大夫范至

朝請即杜抱璋等赴省計事且致書于平章言添軍一

占城服事小國日久老父惟務以德懷之迫于孤子之

亦繼承父志自老父歸順天朝三十年于茲干戈示不

用軍卒毀為民丁一資天朝貢獻一示心無二圖幸閣

於察助糧一件小國地勢瀕海五穀所產不多一自大軍

去後百姓流亡加以水旱朝餉暮飢食不暇給然閣下之

命所不敢違擬於欽州界上永安州地所俟候

孤子親身赴闕面奉聖訓老父在時天朝矜憫之度外  
 今老父亡沒孤子居憂感病至今尚未復常况孤子生長  
 遐陬不耐寒暑不習水土艱難道塗徒暴白骨以小國陪  
 臣往來尚為沴氣所侵或十之五六或死者過半閣下亦  
 已素知惟望曲為愛護敷奏天朝庶知孤子宗族官吏一  
 一畏死貪生之意豈但孤子受賜抑一國生靈賴以安全  
 共祝閣下享此長久自天之福也二十一年三月陶秉直  
 使還日烜復上表陳情又致書于荆湖占城行省大意與  
 前書畧同又以瓊州安撫使陳仲達聽鄭天祐言交阯通  
 謀占城遣兵二萬安撫五百以為應援又致書行省其畧  
 曰占城乃小國內屬大軍致討所當哀籲然未嘗敢出一

太平府志 卷之四十九 安南

八

言蓋天時人事小國亦知之矣今占城遂為叛逆執迷不  
 復是所謂不能知天知人者也知天知人而反與不能知  
 天知人者同謀雖五尺兒童亦知其弗與况小國乎幸貴  
 省裁之十月日烜弟昭德王陳燦致書於荆湖占城行省  
 曰願納款歸降十一月行省右丞唆都言交阯與真臘占  
 城雲南暹羅諸國接壤可即其地立省及於越里潮州毗  
 蘭三道屯軍鎮戍因其糧餉以給士卒庶免海道轉輸之  
 勞二十一年三月荆湖占城行省言鎮南王昨奉旨統軍  
 征占城遣左丞唐兀解馳驛赴占城約右丞唆都將兵會  
 合又遣理問官曲烈宣使塔海撒里同安南國使阮道寧  
 等持行省公文責日烜運糧送至占城助軍鎮南王略

見比官軍至衡山縣聞日烜從兒  
 散部陳嗣宗以日烜書至言其國至占城水陸非  
 力奉獻軍糧及官軍至永州日烜移牒邕州言貢  
 期擬取十月請前塗預備丁力若鎮南王下車之日希文  
 垂報行省命萬戶趙修已以已書復書復移公文令開路  
 備糧親迎鎮南王及官軍至邕州安南殿前范海崖領兵  
 屯可蘭章大助等處至思明州鎮南王復令移文與之至  
 兩道以進日烜復遣其善忠大夫阮德輿朝請即阮文翰  
 奉書與鎮南王言不能親見末光然中心欣幸以往者欽

太平府志 卷之四十九 安南

九

蒙聖詔云別軍不入爾境今見邕州營站橋梁往往  
 相接實深驚懼幸爾忠誠少加矜恤又以書抵平章政  
 事乞保護本國生靈庶免逃竄之患鎮南王命行省遣總  
 把阿里持書與德輿同往諭日烜以興兵之故實為占城  
 非為安南也至急保縣地安南管軍官阮益屯兵七源州  
 又村李縣短萬劫等處具有與道王兵阿里不能進行省  
 再命倪閔往規虛實對酌調軍然不得殺掠其民未幾  
 答兒解李邦憲孫祐等言至可離隘遇交兵拒敵祐等之  
 戰擒其管軍奉御杜尾杜祐始知與道王果領兵河  
 軍過可離隘至洞板隘又遇其六與戰敗之其首  
 中傷死聞與道王在內傍隘又進兵至



從官軍遂分六道進攻執其大將僚班段台興道王逃去  
追至萬劫攻諸隘皆破之興道王尚有兵船千餘艘距萬  
劫十里遂遣六士於沿江求船及聚板木釘灰置場剗造  
選各翼水軍令烏馬兒拔都部領數與戰皆敗之得其江  
岸遺棄文字二紙乃日烜與鎮南王及行省平章書復稱  
前詔別救我軍不入爾境今以占城既臣復叛之故因發  
大軍經由本國殘害百姓是太子所行違悞非本國違悞  
也伏望勿外前詔勒回大軍本國當具貢物馳獻復有異  
於前者行省復以書抵之以為朝廷調兵討占城屢移文  
與世子俾開路備糧不意故違朝命俾興道王輩提兵迎

太平府志

卷之四十八

安南

十

敵射傷我軍與安南生靈為禍者爾國所行也今大軍經  
爾國討占城乃上命世子可詳思爾國歸附已久宜體皇  
帝涵洪慈憫之德即令退兵開道安諭百姓各務生理我  
軍所過秋毫無擾世子宜迎鎮南王共議軍事不然大軍  
止於安南開府因令其使阮文翰達之及官軍獲生口乃  
稱日煜調其聖湖等軍船千餘艘助興道王拒戰鎮南王  
遂與行省官親臨東岸遣六攻之殺傷甚眾奪船二十餘  
艘興道王敗走官軍縛棧為橋渡富良江北岸日烜沿江  
布兵船立木柵見官軍至岸即發砲大呼求戰至晚又遣  
其臣阮奉御奉鎮南王及行省官書請小却大軍行省復  
移文責之遂復進兵日烜乃棄城遁去仍令阮效銳奉書

謝罪并獻方物且請班師行省復移文招諭遂調兵渡江  
壁於安南城下明日鎮南王入其國宮室盡空惟留屢降  
詔救及中書牒文盡行毀抹外有文字皆其南北邊將報  
官軍消息及拒敵事情日烜僭稱大越國王憲天體道大  
明光孝皇帝陳威冕禪位于皇太子立太子妃為皇后上  
顯慈順天皇太后表章於上行使昊天成命之寶日烜即  
居太上皇之位見立安南國王係日烜之子行紹寶年號  
所居宮室五門額書大興之門左右掖門正殿九門書天  
安御殿正南門書朝天閣又諸處張榜云凡國內郡縣假  
有外寇至當死戰或力不敵許於山澤逃竄不得迎降其  
險隘拒守處俱有庫屋以貯兵甲其棄船登岸之軍猶眾

太平府志

卷之四十八

安南

十

日烜引宗族官吏於天長長安屯聚興道王范殿前領兵  
船復聚萬劫江口阮益駐西路永平行省整軍以備追襲  
而唐兀解與唆都等兵至自占城與大軍會合自入其境  
大小七戰取地二千餘里王宮四所初敗其昭明王兵擊  
其昭孝王大僚護皆死昭明王遠遁不敢復出又於安演  
州清化長安獲亡宋陳尚書婿交趾梁奉御及趙孟信葉  
郎將等四百餘人萬戶李邦憲劉世英領軍開道自永平  
入安南每三十里立一寨六十里置一驛每一寨一驛屯  
軍三百鎮守巡邏復令世英立堡專提督寨驛公事右丞  
寬徹引萬戶忙古解字羅哈答兒由陸路李左丞引馬  
兒拔都山水路敗日烜兵船會其達德侯陳仲日烜逃去

追至膠海口不知所往其宗族文義侯父武道侯及子明智侯婿張子懷侯并彰憲侯亡宋官曾參政蘇少保子蘇寶章陳尚書子陳丁孫相繼率眾來降唐兀解劉珪皆言占城無糧軍難久駐鎮南王令咬都引兀軍於長安等處就糧日烜至安邦海口棄其舟楫甲仗走匿山林官軍獲船一萬艘擇善者乘之餘皆焚棄復於陸路追三晝夜獲生口稱上皇世子止有船四艘興道王及其子三艘大師八十艘走清化府咬都亦報日烜太師走清化烏馬兒拔都以軍一千三百人戰船六十艘助咬都襲擊其太師等兵復令唐兀解沿海追日烜亦不知所往日烜弟昭國王陳益稷率其本宗與其妻子官吏來降乃遣明里昔班等

太平府志

卷之四十八 安南

十一

送彰憲侯文義侯及其弟明誠侯昭國王子義國侯入朝文義侯得北上彰憲侯義國侯皆為興道王所殺彰憲侯死義國侯脫射還軍中官軍聚諸將議交人拒敵官軍雖數敗散然增兵轉多官軍困乏死傷亦眾蒙古軍馬亦不能施其技遂棄其京城渡江北岸決議退兵屯思明州鎮南王然之乃領軍還是日劉世英與興道王興寧王兵二萬餘人為戰又官軍至如月江日烜遣懷文侯來戰行至冊江繫浮橋渡江左丞唐兀解等軍未及渡而林內伏發官軍多溺死力戰始得出境唐兀解等馳驛上奏七月樞密院請調兵以今年十月會潭州聽鎮南王及阿里海牙擇帥總之二十三年正月詔省臣共議遂大舉南伐二月

詔諭安南官吏百姓數日烜罪惡言其戕害叔父陳遺愛及弗納達魯花赤不顏鐵木兒等事以陳益稷等自拔來歸封益稷為安南國王賜符印秀峻為輔義公以奉陳祀申命鎮南王脫權左丞相阿里海牙平定其國以兵納益稷五月發忙古臺麾下士卒合鄂州行省軍同征之官兵入其境日烜復棄城遁六月湖南宣慰司上言連歲征日本及用兵占城百姓罷于轉輸賦役煩重士卒觸瘴癘多死傷者羣生愁歎四民廢業貧者棄子以偷生富者鬻產而應役倒懸之苦日甚一日今復有事交趾動百萬之眾虛千金之費非所以恤士民也且舉動之間利害非一又兼交趾已嘗遣使納表稱藩若從其請以甦民力計之上

太平府志

卷之四十八 安南

十二

也無已則宜寬百姓之賦積糧餉繕甲兵俟來歲天時稍利然後大舉亦未為晚湖廣行省臣線哥是其議遣使入奏且言本省鎮戍凡七十餘所連歲征戰士卒精銳者罷於外所存者皆老弱每一城邑多不過二百人竊恐姦人得以窺伺虛實往年平章阿里海牙出征輸糧三萬石民且告病今復倍其數官無儲蓄和糴於民間百姓將不勝其困宜如宣慰司所言乞緩師南伐樞密院以聞帝即日下詔止軍縱士卒還各營益稷從師還鄂二十四年正月發新附軍千人從阿入赤討安南又詔發江淮江西湖廣三省蒙古漢參軍七萬人船五百艘雲南兵六千人海外四州黎兵萬五千海道運糧萬戶張文虎費拱辰陶大珪

運糧十七萬石分道以進置征交趾行尚書省與魯赤平  
章政事烏馬兒樊榭叅知政事總之並受鎮南王節制五  
月命右丞程鵬飛還荆湖行省治兵六月樞密院復奏令  
烏馬兒與樊叅政率軍士水陸並進九月以瓊州路安撫  
使陳仲達南寧軍民總管謝有奎延攔軍民總管符庇成  
出兵船助征交趾並令從征日烜遭其中大夫阮文通等  
入貢十一月鎮南王次思明留兵二千五百人命萬戶賀  
社統之以守輜重程鵬飛字羅合荅兒以漢券兵萬人由  
西道永平與魯赤以萬人從鎮南王由東道女兒關以進  
阿八赤以萬人為前鋒烏馬兒樊榭以兵由海道經玉山  
雙門安邦口遇交趾船四百餘艘擊之斬首四千餘級生

太平府志

卷之四十六

安南

古

擒百餘人奪其舟百艘遂趨交趾程鵬飛字羅合荅兒經  
老鼠陷沙茨竹三關凡十七戰皆捷十二月鎮南王次茅  
羅港交趾興道王遁因攻浮山寨破之又命程鵬飛阿里  
以兵二萬人守萬劫且修普賴山及至靈山木柵命烏馬  
兒將水兵阿八赤將陸兵徑趨交趾城鎮南王以諸軍渡  
富良江大城下敗其守兵日烜與其子棄城走敢喃堡諸  
軍攻下之二十五年正月日烜及其子復走入海鎮南王  
以諸軍追之次天長海口不知其所之引兵還交趾城命  
烏馬兒將水兵由大傍口迂張文虎等糧船與魯赤阿八  
赤等分道入山求糧聞交趾集兵箇沉箇黎磨山魏寨登  
兵皆破之斬萬餘級二月鎮南王引兵還萬劫阿八赤將

前鋒奪關係橋破三江口攻下堡三十二斬數萬餘級得  
船二百艘米十一萬二千餘石烏馬兒由大海口趨塔山  
遇賊船千餘艘擊破之至安邦口不見張文虎船復還萬劫  
得米四萬餘石普賴至靈山木柵成命諸軍居之諸將聞  
有交趾無城池可守倉庾可食張文虎等糧船不至且天  
時已熱恐糧盡師老無以支久為朝廷羞宜全師而還鎮  
南王從之命烏馬兒樊榭將水兵先還程鵬飛塔出將兵  
護送之三月鎮南王以諸軍還張文虎糧船以去年十二  
月次屯山遇交趾船三十艘文虎擊之所殺掠相當至緣  
水洋賊船益多度不能敵又船重不可行乃沉米於海趨  
瓊州營拱辰糧船以十一月次惠州風不得進漂至瓊州

太平府志

卷之四十八

安南

五

與張文虎合徐慶糧船漂至占城亦至瓊州凡亡士卒二  
百二十人船十一艘糧萬四千三百石有奇鎮南王次內  
傍關賊兵大集王擊破之命萬戶張均以精銳三千人殿  
力賊出關謀知日烜及世子興道王等分兵三十餘萬守  
女兒關友邱急嶺連亘百餘里以遏歸師鎮南王遂由軍  
已縣趨益州間道以出次思明州命愛魯引兵還雲南與  
魯赤以諸軍北還日烜尋遣使來謝進金人代已罪十一  
月以劉廷直李思衍萬奴等使安南特詔諭日烜來朝二  
十六年二月中書省臣奏既罷征交趾宜拘收行省符印  
四月日烜遣其中大夫陳克用等來貢方物二十二年日  
烜卒了日烜遣使來貢二十八年十一月鎮守永州兩淮

萬戶府千戶蔡榮上書言軍事大要以朝廷賞罰不明十不用命將帥不和坐失事機其弊有不可勝言書上不報二十九年九月遣吏部尚書梁曾及禮部郎中陳孚持詔再諭日尊來朝詔曰省表具悉去歲禮部尚書張立道言曾到安南識彼事體請往開諭使之來朝因遣立道往彼今汝國罪愆既已自陳朕復何言若曰孤在制及畏死道路不敢來朝且有生之類寧有長久安存者乎天下亦復有不死之地乎朕所未喻汝當具聞徒以虛文歲幣巧飾見欺於義安在三十年梁曾等使還日燔遣陪臣陶子奇等來貢廷臣以日燔終不入朝又議征之遂拘留子奇於江陵命劉國傑與諸侯王亦里吉解等同征安南敕至鄂

太平府志

卷之四十八 安南

六

州與陳益稷議八月平章不忽木等奏立湖廣安南行省給二印市蜃船百斛者千艘用軍五萬六千五百七十人糧三十五萬石馬料二萬石鹽二十一萬斤預給官軍俸祿遣軍人水手人鈔二錠器仗凡七十餘萬事國傑設幕官十一人水陸分道並進又以廣西行樞密院副使徹里魯為右丞從征安南陳巖趙修已雲從龍張文虎岑雄等亦令共事益稷隨軍至長沙會寢兵而止三十一年五月成宗即位命罷征遣陶子奇歸國日燔遣使上表慰國家并獻方物六月遣禮部侍郎李衍兵部郎中蕭泰登持詔往撫綏之其畧曰先皇帝新棄天下朕嗣守大統踐祚之始大肆赦宥無間遠近惟爾安南亦從寬宥已敕有司

六遣陪臣陶子奇歸國自今以往所以畏天事天者其德思之大德五年二月太傅完澤等奏安南來使鄧汝霖等書宮苑圖本私買輿地圖及禁書等物又抄寫陳言征伐交阯文書及私記北邊軍情及山陵等事宜遣使持詔責以大義三月遣禮部尚書馬合馬禮部侍郎喬宗亮持詔諭日燔大意以汝霖等所為不法所宜窮治朕以天下為度敕有司放還自今使价必須選擇有所陳請必盡情憫向以虛文見給會何益于事哉勿憚改圖以貽後悔中書省復移牒取萬戶張榮實等二人與去使偕還武宗即位下詔諭之屢遣使來貢至大四年八月世子陳日燔遣使奉表來朝仁宗皇慶二年正月交阯軍約三萬餘眾馬軍二千餘騎犯鎮安州雲洞殺掠居民焚燒倉廩廬舍又陷祿洞知洞等處擄生口孳畜及居民貲產而還復分兵三道犯歸順州屯兵未退廷議俾湖廣行省發兵討之四月復得報交阯世子親領兵焚養利州官舍民居殺掠二千餘人且聲言昔右江歸順州五次劫我大源路掠我生口五千餘人知養利州事趙珪擒我思浪州商人取金一碾侵田一千餘頃故來警殺六月申書省俾兵部員外郎阿里溫沙樞密院俾千戶劉元亨同赴湖廣行省詢察之元亨等請詣上中下由村相視地所詢之居民農五又遣下思明知州黃葛壽往詰之謂是阮益世子太史之奴然亦

太平府志

卷之四十八 安南

十七

夫口是心非也安南國其界曰

曾與南貨聲教所及之地况獻圖奉貢上下之分素明

往薄來懷撫之惠亦至聖朝果何負于貴國今朝自作不

靖禍焉斯啓雖由村之地所係至微而我國輿圖所關甚

大兼之所殺所擄皆朝廷係籍編戶省院未敢奏聞然未

審不軌之謀誰實主之安南回牒云邊鄙鼠竊狗偷輩自

作不靖本國安得而知且以貨賂借至元亨復牒責安南

飾辭不實却其貨賂且曰南金象齒貴國以為寶而使者

以不貪為寶來物就付回也番察事情明以告我而道

里遼遠情辭虛誕終莫得其要領元亨等推原其由因交

人向嘗侵承平邊境今復倣效成風兼聞阮益世子乃交

趾跋扈之人為今之計莫若遣使諭安南歸我土地返我

太平府志

卷之四十八 安南

十八

人民仍令當國之人正其疆界究其主謀開釁之人戮于

境上申飭邊吏毋令侵越却于承平置寨募兵設官統領

給田土牛具令自耕食編立部伍明立賞罰令其緩急首

尾相應如此則邊境安靜永保無虞事聞有旨俟安南使

至即以諭之自延祐初元以及至治之末疆場寧謐貢獻

不絕泰定元年世子陳日曠遣陪臣莫節夫等來貢益稷

久居于鄂遙授湖廣行省平章政事當成宗朝賜田二百

頃武宗朝進銀青榮祿大夫加金紫光祿大夫復加儀同

三司文宗天曆二年夏益稷卒壽七十有六詔賜錢五千

緡至順元年諭忠懿王三年夏四月世子陳世焯遣其臣

鄧世延等二十四人來貢方物 太平府志卷 四十八

太平府志卷之四十九

安南

安南五

二年六月壬午安南國王陳日燿遣其少中大夫同時

等來朝貢方物請封爵詔遣翰林學士張以寧典簿牛

封日燿為安南王賜以駝紐金銀印時安南占城歲

戰十二月壬戌遣翰林編修羅復仁兵部主事張福

安南占城國王各聽命罷兵三年遣使往安南高麗占城

社其國山川仍命各國圖其山川及錄其碑碣圖籍付使

者還三年安南使臣杜舜欽以其主陳日燿卒來告哀請

太平府志

卷之四十九 安南

一

命上召見親 修王廉往祭別設日燿靈位于

殿廉南面布 拜伏而聽成禮而退隨遣吏部主

事林堯臣賞詔封陳日燿為安南國王五年二月丙戌安

南陳叔明遣其臣阮爾霖來朝奉表貢象時禮部已受其

表主事會魯視其副表其王乃陳叔明言魯曰前王陳日

燿驟更名必有故亟白尚書詰之使若不能諱言日燿為

叔明所逼而死遂纂其位託修貢以視朝廷之意上聞

曰島夷狡猾如此却其貢不受五年十月甲午命中書

諭高麗占城安南等國三年一聘或比年一來其所貢方

物勿令過多十四年陳燿遣使奉表貢方物時思明府上

南攻其承平等奉安南亦言思明府攻其院

十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

黎季犛弑其主陳日焜二十三年閏四月廣西布政司奏

安南遣使入貢上以海外諸國三年一朝今安南又遣使

貢爾部其速令廣西遣還必三年乃來二十六年四月

以安南弑主廢立詔絕其朝貢仍命廣西都司布政司自

今勿納其來使二十九年安南復攻取思明府地三十年

正月遣行人陳誠呂讓諭還地久不決誠讓貽書安南曰

使者不佞辱主上明命久未決無以復主上也使者今接

古証今析利觀害以告執事在後漢時徵側叛馬援討夷

之立銅柱經內外界唐為五管之一宋始自樹然乾德寇

太平府志 卷之四十九 安南

邊郭遠討擒偽太子洪真懼而割廣源門州思浪蘇茂統

柳之地降元初有天下爾先王光景首稱臣修貨道日而

嗣改操於是世祖來討爾日烜蒙荆棘竄海島浮泊城郭

宗社人民幾盡日燭鑿而失所命於元且曰向者天使辱

臨小國送迎止祿州懼冒侵越之罪不敢過邛温也則是

邛温以北地不在爾國明矣今爾國乃越淵脫踰如熬慶

遠而盡有之將乘元末亂隙僥倖而得之也行人下車之

日王之君臣皆稱此地故屬雲南不言所以始也無乃為

大言誑我耶抑王懼以侵地得罪自飾耶主上神聖不計

王前罪乃計王飾罪其熟圖之安南復書辨不已且遺

等黃金二錠白銀四錠沈檀香百斤誠等却之安南

也陸買音受之何辭誠曰尉佗以彈丸黑子地與強漢抗

是賈禍也賈受重賄分諸子是賈利也王以尉佗自處固

耳乃欲陸買我乎安南無以難誠等還上召羣臣議或以

其抗命當討上曰曩吳相爭自古有之彼恃頑不服當取

封胡查為安南國主上從之遣禮部郎中夏止善齋詔

天平來朝三年十一月胡查復遣景真等隨聶聰來貢迎

還陳天平上許之救廣西總兵韓觀左右將軍董中呂毅

率兵五千送天平歸國按洪武三十年黎季犛弑其主陳

日焜更姓胡自稱太上皇以其子蒼為皇帝更名奄紀元

太平府志 卷之四十九 安南

大聖國曰大虞承樂元年遣使賀即位貢方物表言日燈

死支庶無可嗣者在以陳氏甥為眾推理國事四年因乞

封下禮部議安南絕遠多詐難信宜遣使廉察上命行人

楊渤等持節諭安南陪臣者老悉心以答毋誑安南乃遣

使隨渤等入朝進其陪臣表章請封查為王遂許之二年

老樞宜慰使司緣友遣使護前安南王孫天平來朝陳奏

而安南故陪臣亦來告急且請伐安南安南賀正且使者

至上命禮部出天平使見之使者識其故王孫也上遣御

史李琦行人王樞齋詔問胡查俾具陳陳氏之故以聞五

月胡查遣使阮景等隨李琦等入朝謝罪願請天平歸而

王之大悅遣行人聶總往為約與景真俱行十二月

太平府志 卷之四十九 安南

夷大將軍成國公朱能左右副將軍西平侯沐晟新城侯

張輔參贊軍務六部尚書劉儒督理軍餉刑部尚書賈福

大理卿陳洽率師分道討黎蒼冬十月輔六度坡壘關晟

兵至白鶴江十月成國公能卒于龍州輔為征夷將軍發

憑祥渡坡壘關令都督韓觀以廣南六邊餉修道伐木繕

橋出遊六偵賊呂毅等前

留兵守之輔後檄數季黎冬二十罪及關軍容整肅秋

毫無犯民悅降者相繼朱榮等取雞陵關復敗賊三萬眾

得軍資器械無算大日輔渡雞陵謀片站兩傍皆有伏遣

呂毅黃中以兵搜捕之賊遂逃哨昌江市造浮橋築堡

方政王恕哨探直抵富良江北而大將自片站西折至

福道朱榮往約沐晟同進三帶州偽僉都都原南策人莫

窳莫遠等相拒輔言賊恃偽東西都及宣洮洮富良海潮

希麻罕諸江自固緣江樹柵築土城綿亘九百餘里盡發

諸府州縣民二萬守之又於富良江南崖置樁水中盡取

戰艦列橋內都守備甚嚴時列象馬隊凡水陸號七百萬

我師自新福移營三帶州造舟圖進取五年春正月輔晟

合兵破賊籌江柵三月敗賊於富良江五月追賊出喜羅

海口擒黎蒼及其父季犁檻送京師六月安南平置交趾

都布按三司都督呂毅掌都司事尚書黃福兼掌布按二

司事五年六月救張輔沐晟劉儒訪求交趾人才禮送赴

京擢用又救張輔等聞爾已破賊東都糧甚多足充軍

食宜愛惜勿妄費廣西所運餉即停罷如已在途就所至

賊堡貯之令如法守備輓運民悉罷歸九月季黎蒼及其

偽將相下獄十月以交趾所舉明經士人甘問祖等十一

人為諒江等府同知賜救慰勉六年八月交趾簡定反以

征夷將軍沐晟參贊軍務兵部尚書劉儒率師討之十二

月晟兵遇賊于生厥江敗績都督呂毅尚書劉儒交趾參

政劉昱死之更救英國公張輔總兵清遠侯王友副之師

師討簡定六年張輔沐晟上交趾圖東西一千七百六十

里南北二千八百里七年五月簡定稱上皇立陳季擴為

越皇帝八月輔敗賊于鹹子關九月輔敗賊于太平海口

十一月輔兵至美良獲簡定檄送京師季擴走八年張輔

太平府志

卷之四十九

安南

四

太平府志

卷之四十九

安南

五

收賊餘黨阮師檜於潮州初師檜偽稱王與偽金吾上燕  
軍杜原措等據東潮州安老縣宜陽社有眾二萬餘人時  
出黃江麻半江大全等處海口為寇以應簡定至是輔以  
兵圍宜陽社賊眾拒戰官軍水陸皆奮矢石如雨賊大敗  
斬首四千五百餘級擒偽將官二千餘皆斬之歛其屍為  
京觀繼而張輔等奉敕召還輔奏賊首陳季擴賊黨阮師  
檜胡具鄧景異等未殄滅請留都督江浩等領雲南福建  
廣東江西都司四州福建二行都司荊州南昌武昌廣西  
護衛官軍聽黔國公沐晟調用以雲陽伯陳旭為副將從  
之張輔差指揮朱福等檜送偽大越上皇簡定并偽太保  
等官至京伏誅八年十二月季擴請降以為交趾右布政

太平府志

卷之四十九 安南

六

利三千箇扇萬把其...  
獨麻二十二年九月尚書黃福...  
交趾布按司事十一月交趾黎利反改稱時...  
察使洪熙元年二月上諭禮部尚書呂震曰往年劉備...  
在交趾陷賊不屈而死禮官不言朕思婦人盡節于夫...  
有旌典兪大臣捐軀為國可無褒恤其...  
論節愍又曰忠臣之心皆願立功報國不能成功則惟守  
義若身為大臣惟兩順取容為保祿固位計國亦奚取三  
月征夷副將軍榮昌伯陳智率師討黎利智與都督方政  
慢攻養寇降救切責之令改過自效仍命械送倉虐指揮  
師祐張雄等赴京宣德元年成山侯王通充征夷將軍總  
兵鎮交趾未幾通言交趾反敕通勦賊都督方政坐罪隸  
麾下立功二年斬偽司徒利賊大懼通怯不敢追又為關  
山壽所窘賊復聚寧橋戰通敗績柳升兵又未至通輒與  
利賊書和許寧清化等州地按察使楊時習以為不可力  
爭通厲聲叱時習比升兵至監留關又大敗升死通遂與  
利賊盟班師陸行出廣西山壽陳智由水道出欽州凡文  
武吏士得還者八萬六千六百四十人二年十月敕工部  
尚書黃福同交趾布政使阮勛曰爾福爾勛皆先朝老臣  
今交趾未靖發兵征討特令卿二人參總機務其同心協  
力早成平定之功用安一方之眾事有當陳奏者密封以  
聞是月黎利遣人進前安南陳王嫡孫暲表乞立為陳王

太平府志

卷之四十九 安南

七



後大臣皆言此黎利之請當與之無名徒

爾示弱上召問楊士奇楊榮榮曰永樂中費數十萬人命

得此至今勞者未息困者未安因其請而與之便士奇曰

榮言當從初求立陳氏後者太宗皇帝之初心求之未得

乃郡縣其地數年以來兵民困于交趾極矣此皆祖宗之

赤子體祖宗之初心保祖宗之赤子正陛下盛德何謂無

名漢乘珠崖前史以為美何謂示弱臣侍仁宗皇帝久矣

聖心每憾此事恐有意外之慮願陛下勿疑上意遂決時

安南侵占城國王奏請命官往問東陽曰春秋王者不治

夷狄安南雖奉正朔修職貢然恃險負固積歲已久今若

太平府志

卷之四十九

安南

八

迷抗命若置而不問損威已多即問罪與師貽患尤大宜

勿聽上命南京都察院右都御史屠瀟勘處安南侵侮占

城事宜時占城王古來為安南所侵侮挈國族奔泊廣東

訟冤於朝守臣以聞方議遣官而人皆難之時李孜省因

欲傾瀟瀟往命下物議怖恐有私為謀曰盍以敕示眾

猶可別圖避就毋落其穽矣瀟笑却之即日戒行比至獻

策者或曰安南藩臣也當為問罪之舉或曰占城脆弱遣

回國莫保後艱宜留置之瀟曰用兵則毒民避強則取侮

皆弗聽乃詣蒼梧諸郡覘知其情狀移檄安南諭以禍福

俾圖逆順安南大恐辭對甚婉瀟曰此謂不戰而先奪其

氣矣可因撫而兩存之遂至安南而召古來論歸國

以軍護其歸守臣忌不肯發乃即召募千人習武事者

海船二十艘以往無勤民古來感恩以金銀器飾異香若

士獻瀟瀟却之既抵國復遣使馳謝并以聞上嘉其誠命

受之瀟辭曰綏遠之仁繼絕之義在天子臣何功之海上

不允又懇辭從之令貯禮部自是二國暫睦宣德三年五

月贈祭交趾死節諸臣廬陵劉子輔初為廣東按察使坐

累左遷知諒江府撫民如子民感愛戴之時黎利勢熾甚

他郡縣皆陷子輔與守將倡兵民效死守數月寇增眾攻

城食且盡而人心益固既而又踰月寇攻益力遂破城城

中兵民皆盡力鬪以死無一人降者子輔知事不支曰吾

太平府志

卷之四十九

安南

九

奉命守郡郡亡與亡義不可汗賊手遂自經死一子一妾

皆先子輔死上聞贈子輔祭政賜祭復其家四年羅汝敬

等使交趾還黎利貢方物并代身金人奏曰謹遵聖諭訪

求陳氏子孫無有遺者蒙索所留官吏軍人及其家屬即

差四處尋訪但有留遺盡應起送五年黎利募陳高而自

立禮部侍郎李琦還利表請封朝臣請與師討之不許六

年六月遣禮部右侍郎章徹諭黎利權署安南國事九年

廣西總兵山雲奏交趾黎利已死長子狂妄次子幼弱奸

臣黎問黎察構黨仇殺良民驚懼諒山府土官阮世寧七

源州土官阮公庭各率家屬及部下三百餘人避難來

願於廣西龍州及太平府處之上敕雲曰黎利本起

因奉使持以從人望堅請立之朕志在息六遂詔

祭實建立而彼遠奏焉死焉之死利所為也此...  
即加兵但不忍荼毒生靈姑令權署國事其行不義如此  
宜為天所斃也爾宜戒飭邊兵嚴謹守備阮世寧避難來  
歸隨便居住凡所食用皆官為處置使之得所無失遠人  
來歸之心景泰元年敕諭安南黎濟將所擄占城國人口  
依數放回彼此兩全和好成化甲午安南國王遣陪臣何  
瑄至邊以假道為名窺覘虛實征南將軍沐琮遂知其情  
拒不許詐不得逞則侵老搃以放燬沐具以聞請救切責  
復命各夷酋長整擗軍馬慎固封守以防不虞交人知我  
有備不敢肆侮遣使詣闕謝罪正德十一年四月安南陳  
昌弒其主黎暲而自立復為陳真所逐退走諒山陳真鄭

太平府志

卷之四十九 安南

十

綏等共立暲兄子諱嗣國遣真攻暲於諒山暲病死其子  
昇復據諒山有荆門人莫登庸者世業漁以武舉為陳暲  
參督自拔歸諱屢立戰功封武川伯鎮海陽乃以重賄賂  
諱左右諷舉已典兵柄既而漸橫妻諱母除諱左右皆易  
以親信乃退居海陽府諱忿起兵攻之不克敗走清華登  
庸乃立諱弟應既而醜應自立為帝改元明德嘉靖九年  
復傳位與子方瀛自稱太上皇時黎諱尚保清華屢遣使  
來告變道梗不達已而登庸奪清華諱走又安又以兵迫  
之走老搃而死故臣黎嗣等立其子寧于清化之木州甫  
七歲遣陪臣鄭惟僚來奏登庸篡立狀帝欲討之以鄭  
議不合而止及皇子生頒詔外國以安南道梗等不奉正

六年大學士夏言請問安南國罪下廷議紛紛不決...  
部謂登庸弒主僭竊阻逆朝貢法所必誅請命師討之羣  
臣多謂彼中要領未詳師未可出宜救邊臣體勘且傳諭  
登庸如能悔罪輸貢許其款服兵部左侍郎潘珍諫曰陳  
昌莫登庸皆弒逆之賊黎寧與其父諱不請封入貢亦二  
十年揆以義皆所當討何徇寧請為左右且其地不足置  
郡縣叛服無與中國遠事瘴蠻非計之得也宜遣大臣有  
文武才者聲言進討檄數登庸罪狀赦其脇從且令黎寧  
合勦賊父子不擒則降何必勞師帝責珍撓成命祿職歸  
戶部侍郎唐胄曰帝王之於夷狄當以不治治之自安南  
有內難兩廣遂少邊警自古夷狄相攻中國之利也不必  
罷敝中國為黎氏復仇帝竟主討議救邊臣先體勘之廉  
州知府張岳亦疏爭不報且救錦衣衛遣官使彼國察之  
久未得要領已而雲南巡撫都御史汪文盛與世守雲南  
沐朝輔招致安南夷人刁鮮等為我間諜搜緝彼中刺客  
者亡何登庸遣偽知州阮環等八人潛入雲南偵我兵進  
止刁鮮等執之并獲偽印一方偽大誥一道文盛疏聞于  
朝兵部請梟環于邊以威登庸帝曰登庸篡奪黎氏偽作  
大誥罪在不赦即救雲南兩廣鎮巡等官預整士馬協力  
征勦刁鮮等各與冠服仍賞白金三十兩汪文盛沐朝輔  
各降救嘉之隨命兵部尚書毛伯溫督師咸寧侯仇鸞總  
師進討安南初登庸知朝廷有必討意懼乃遣偽臣范正

太平府志

卷之四十九 安南

十一

教等費公移白列於沐朝輔處詭言黎暲為陳高所殺

子登庸為立明弟諱奸人鄭校等誘譟遷清華登庸復立

應又迎譟歸俱先後死黎氏無他嗣應垂死與羣臣議皆

言登庸有功千國遂付印其子令主國事其不上表通貢

者為陳昇據諒山道梗且關吏不納耳朝輔致正毅等及

表移於朝帝知登庸奸偽乃遣黃綰等宣諭之既而綰與

張治還乃以伯溫總戎務仇鸞率師聲罪討之時伯溫總

督宣大軍務乃移鎮廣西為出師計伯溫至廣西徵集兩

廣閩楚諸狼土官兵并檄雲南守臣別集兵候師期又檄

諸司於臨邊州郡縣儲積糧餉議分正兵為三哨計六萬

八千人奇兵為三哨計四萬二千人雲南兵別分三哨計

二萬一千人總計大軍一十三萬一千以恭政翁萬達張

吉副使陳加謀鄭宗古等分監各軍而雲南兵則黔國公

沐朝輔都御史汪文盛主之經畫既定兵眾漸集乃馳檄

諭安南吏民示以朝廷興滅繼絕至意有能舉郡縣來歸

者即予郡縣其人能擒敵登庸父子者予二萬金官極品

又諭登庸父子能籍其土地軍民束身來歸亦待以不死

既乃移師邊徼尅日進發登庸聞之懼遣使詣轅門言願

出境歸降躬聽處分伯溫許之約日為壇于鎮南關內設

幕府以待時方瀛已死登庸乃留其孫福海守關與姪莫

文明及酋目阮如桂等四十餘人入關各尺組繫頸詣壇

下蒲伏稽首納款書復詣轅門獻所籍土地軍民數相

所... 土請奉正朔及舊賜印章護守本國以俟

更... 伯溫等宣諭朝廷威德稱制赦之暫令歸國待命處

嘉靖二十年二月以莫登庸為安南都統使初伯溫與

守臣連疏言登庸畏威束身歸罪而黎寧所稱黎氏後

裔系不詳莫可為據乞宥納登庸削去故爵量授秩使

撫安南夷眾因遣官送莫文明等至京下廷議僉如伯溫

言帝曰莫登庸既而縛軍門納土請罪察其款表與國人

代陳情有可原茲為交人永固革去王號勿得稱國庶免

亂臣接迹乃降安南國為安南都統使司以登庸為都統

使官從二品子孫世及別給印章其所僭擬制度令削除

改正海陽山南等一十三路各設宣撫司正佐職官襲替

太平府志 卷之四十九 安南 五

黜陟俱德登庸總理通諒廣西藩司歲頒正朔令三歲一

貢其黎寧仍令守臣體勸果黎氏子孫授與清華等四府

妄作勿子莫文明等及諸酋目賜賚有差六月毛伯溫班

師初制命下登庸已死伯溫上疏請以制命授其孫福海

從之伯溫乃班師朝廷論功加伯溫太子太保仇鸞柳珣

沐朝輔及諸儒裨各擢賞有差已而福海不能輯眾為黎

寧所逐居南海上朝廷亦置不問久之福海子宏澤當襲

職族人莫正中欺其孤幼陰欲謀奪而官屬范子儀等助

之賴官目黎伯驍仗義擁眾羽翼宏澤得不死正中窮蹙

亡命入中土子儀亦潛往永安兩家之難結詭辭搖惑

行事與提督周延同心可畫送宏漢還國襲封莫正中仍  
安置原所黎氏再有其國宏漢卒子茂給立萬歷辛巳茂  
給上言之頒承襲成命以安邦統奏乞補給其父宏漢敕  
書下禮部覆議從之

太平府志卷之四十九終

平府志

卷之四十九

安南

古

太平府志卷之五十一

象有

安南六

紀要

安南即古交趾書云宅南交禮王制云南方曰蠻離題交趾

有不欠食者矣

山海經言交趾國入交腰東漢書云男女同川而浴故云交趾近是其地東

距海西抵雲南老撾宣慰司南抵占城北抵廣西思明憑

祥山則句漏佛跡江則富良為最大其俗糞穢雜居不知

禮義其性輕悍以富為雄役屬貧弱椎結剪髮文身跣足

若熱好浴于江便舟善水其產多魚鹽亦金沙珠璣玳瑁

之產也周武王時交趾南越蒙氏重三譯來朝迨其衰也

平府志

卷之五十

安南

一

荒服不至秦置象郡以謫卒戍之秦末為南越王趙佗所

併漢武帝元鼎五年平南越以其地為交趾九真日南三

郡領縣二十有二先時越王遣二使者治交趾九真聞漢

兵至合浦籍其戶口以降即拜二使者為交趾九真太守

置交州刺史領之是時雖置郡縣而猶仍其俗不習漢文

書第羈縻耳平帝時錫光為交趾太守始導以禮義光武

中興遣使貢獻封鹽水侯而有任延者用徵辟為九真守

修田器教民墾闢示以嫁娶禮法於是徵外蠻為舉鄉華

風建武十六年交趾女子徵側徵貳反命伏波將軍馬援

討平之立銅柱為漢界一在欽州之西三百里分茅嶺東

界一在憑祥州南界一在林邑北為海界一在林邑南

山界銘之曰銅柱折交趾滅交人往來疊石以固之授  
 南靖通九真置望海太康縣自是銅鼓銅馬始入中國矣  
 順帝永和間日南蠻為梗朝議發荆揚諸郡兵討之中郎  
 李固駁其不可謂宜選有勇畧仁惠任將帥者為刺史太  
 守帝從固議即拜祝良為九真太守張喬為交趾刺史喬  
 至關示慰誘並皆降散良單車入賊中設方畧招以威信  
 降者數萬人由是嶺外復平三國間吳魏與蜀更置官吏  
 不能相統一晉平吳蜀始置刺史以便宜選用長吏陳隋  
 以來改九真為愛州日南為驩州皆設刺史又添設九德  
 新昌諸郡唐始分嶺南為東西二道置安南都護安南之  
 名始此開元間大興文教而九真姜公輔遂用經學起家  
 太平府志 卷之五十 安南

入翰林為名宰輔交人自是益嚮于文學宣宗大中時李  
 琢為安南經畧使苛墨自私以斗鹽易一牛交人不堪命  
 結南詔以叛攻陷安南經畧使蔡襲死焉都護高駢復其  
 地因以府為靜海軍授駢節度使唐亡為南漢劉隱所併  
 未幾土豪互相篡奪十二州大亂部民嘯聚彙渠丁部領  
 者自稱萬勝王以子璉為節度使宋初璉遣使人貢太祖  
 封之此交趾為王之始後為大校黎桓所篡太宗怒議興  
 兵問罪命水陸二軍分道並進前軍侯仁寶沒于賊旋議  
 班師桓遣使貢方物謝罪因而撫焉桓倨驕宋使至受  
 不拜信宿後乃張筵飲宴桓跣足持竿入水標魚每中一  
 魚左右皆譁呼或自歌勸酒莫能曉其辭後李若拙

稍以禮誦之真宗即位封南平王黎氏有安南自此始傳  
 三世大校李公蘊篡黎氏自稱留後遣使奉貢上以蠻吞  
 不足責遂用桓故事授公蘊交趾王再傳日尊僭稱帝改  
 元神武子乾德繼之尤詩護熙軍閩王安石謀立奇功議  
 者以開邊中之言交變可取狀沈起劉燧後先經畧益挑  
 撥結禍交人遂叛陷欽廉又陷邕州殺守臣蘇緘屠其民  
 五萬八千餘口詔以鄧錕為招討使趙禹為副討之二將  
 相左至富良江為所扼不得度官軍八萬疫死者什六僅  
 得四州一縣而還遠萬皆得罪乾德乞再修職貢還所奪  
 州縣時置戍鎮守罹瘴霧多病沒朝廷知其無用以四州  
 一縣還之自端拱迄嘉祐兩江州崗數為蠻所侵軼蘇茂  
 太平府志 卷之五十 安南

廣源甲源等地入交趾者六十二村累朝以其僻在海隅  
 不復與較也傳十一世至吳昌無子婿陳日曩遂有其國  
 傳子光昺元世祖既平雲南光昺上表奉貢稱封光昺為  
 王光昺死子日煊自立世祖召入覲稱病不朝煊承承  
 等收古城遣使假道不聽世祖命鎮南王脫權征之右丞  
 唆都中書李恒以兵會日煊空其國航海以遁李恒等追  
 襲於海敗之會盛夏軍中疾作霖潦暴漲議者請班師恒  
 弗能奪遂還蠻兵追敗後軍恆及唆都俱戰死官軍溺死  
 者什有五六二十三年詔發江淮蒙古雲南黎兵九萬餘  
 人水陸並進日煊及其子復走入海鎮南王追之海口不  
 知其所之雲南虎等糧船不至諸將恐糧盡師老無以

支久議全師還日烜分兵三十餘萬以過歸師鎮南王由  
 聞道歸尋遣使入貢金人以代罪日烜卒子日燁遣使來  
 貢時復謀大舉平章不忽木魯獻窮則噬勢使之然今日  
 燁襲位若以一介之使諭以禍福彼能悔過則不煩兵而  
 下帝從之於是交趾遣其臣何惟嚴阮代之詣闕謝罪成  
 宗卽位命罷征皇慶二年交趾犯鎮安歸順二州陷祿洞  
 知洞焚養利州官舍民房殺掠數千人中書省遣使詰之  
 安南飾辭以謝因飭邊吏毋令越自是貢獻不絕明太  
 祖既集大統安南陳日燁遣使進貢封日燁為安南國王  
 且戒後世毋伐其國日燁卒日燁嗣五年其兄陳叔明逼  
 死之自立奉表貢馴象禮部主事曾魯取其副視之曰前

太平府志

卷之五十五

四

王乃曰燁今日叔明必有以也亟白尚書詰之使者具言  
 日燁為叔明逼死故託貢以覘上意上曰烏爨何狡猾如  
 此却其貢不受七年叔明詭稱奉詔視事且自稱年老以  
 弟熾代許之十一年熾卒弟燁襲叔明仍專國政二十一年  
 叔明卒國相黎季犛廢燁尋弑之季犛叔明子也立叔  
 明子日焜主國事次年又弑日焜立其幼子顯假燁名遣  
 人來貢二十九年思明府奏安南奪邱濫如怒慶遠淵脫  
 五縣上令以地還思明不聽朝議討之上曰蠻夷相爭自  
 古有之彼恃頑不服姑待之而已三十二年季犛復弑顯  
 而立其幼子矣尋復弑矣奪其位季犛詭姓名為胡一元  
 子蒼易名查仍偽稱日焜奉貢永樂初季犛詐稱陳氏

絕查陳氏甥請權署國事遣使奉貢歸思明侵地上不  
 其詐許之踰年日焜孫天平間道由雲南老樵走懇京師  
 會安南賀正旦使至上出陳天平示之使者識其故王孫  
 也皆錯愕下拜有感泣者上遣使責之黎季犛詭辭謝罪  
 請天平還國永樂四年春上遣廣西都督黃中呂毅韓觀  
 大理卿薛昂等以六五千人送天平還既入關季犛遣陪  
 臣黃晦卿等迎候禮甚恭具牛酒犒師中等遣騎覘之盡  
 樂屬路無他也遂進度雞陵關至片站山路險峻林莽蒙  
 密軍行不得成列會天雨季犛乃伏兵山谷中眾數萬鼓  
 譟出斷橋後騎不得進遂劫天平格殺之昂亦死中等以  
 聞上大恚決意討之七月癸未命成國公朱能西平侯沐

太平府志

卷之五十五

五

晟新城侯張輔都督柳升率裨將朱彬陳旭等分道並進  
 尚書劉儒黃福蔡贊軍務會未能疾卒以輔代之輔入安  
 南破隘留雞陵等關沐晟率雲南兵與輔合遂自三帶州  
 招市江口造舟以進敗賊眾于嘉林江夜入多邦城進克  
 東都西都賊聞之焚宮室倉庫以遁於是宣江泚江等州  
 縣皆降輔等督舟師攻賊于富良江賊以海舟橫截江中  
 而用划船載木立柵以拒輔乘柵未備躬督將士力戰賊  
 不能支都督柳升以舟師橫擊之賊大敗乘勝長驅得船  
 三百艘復引兵出奇羅海口生擒賊首黎季犛并其子澄  
 及黎蒼黎芮黎啟偽柱國胡杜等黎氏親屬俘獲無餘安  
 南悉平先是輔等受命時詔令求陳氏後立之至是備訪

國中官吏耆老咸稱陳氏血屬戮賊殺戮無遺無可繼者

安南本中國地願復古郡縣齒於齊民輔以情聞上從其

請乃置交趾三司以都督呂毅黃中掌都指揮使司尚書

黃福兼掌布政按察司事前侍郎張顯宗為左布政置交

州北江諒江三江太原宣化建平新安建昌奉化清化鎮

蠻諒山新平義安順化新華等十七府統四十七州一百

五十四縣衛十所十三又于交廣分界處立溫衛及隘留

二守禦所軍隸廣西民屬交趾以相制馭上以秦漢以來

之土宇陷於外彘者四百四十六年一旦復入中國版圖

詔布天下文武羣臣咸上表稱賀六年春班師入朝秋七

月各進爵級賞賚有差是年冬安南餘孽簡定作亂與其

太平府志 卷之五十一 安南 六

黨鄧悉都鎔阮師陳希葛謀反偽稱日南王僭號大越朝

命沐晟從雲南往征之晟與簡定戰於生厥河敗績都督

呂毅尚書劉備叅政劉昱都指揮柳琮皆沒廷議謂非輔

不可七年正月乃命輔往共勦之輔以四月至南寧會兵

五月入境時賊黨阮師等推簡定為太上皇別立陳季擴

輔躬督戰艦破孔日柵再破賊子關斬俘無數賊退保黃

江既而鼠義安偈江冬十月師至清化越四日生擒簡定

於吉利柵之山并其黨陳希葛等輜送京師明年二月輔

還朝上嘉勞之未幾季擴復嘯聚稱重光年號張輔奏反

賊陳季擴外示順服中實詭詐終無悛心請討之九年春

正月復授輔前印督師往征之五月師次東關六月進兵

賊聞輔至以石填神頭海口三十丈許設鉅木以抗輔督

將士悉起其石以通舟楫賊懼立壘常月江輔戒眾曰此

壘不足攻其山南險阻彼必設伏以撓我乃使驍將率土

兵搜山果得其伏者斬之奪其壘賊遂遠遁輔隨所至而

追之賊或聚或散竟莫得其要領是時賊恃荷花海險謂

我師不能渡于日麗海口立堡以守輔率舟師自奇羅海

洋過荷花海口直抵日麗進兵破之賊大駭曰天兵飛來

也遂大潰奪其化口城謀知賊悉眾守愛子江復追至其

境賊伏巨象數十以為前敵後列人馬以抗我師輔戒將

校口擒賊在此一舉機不可失乃統師驅馬先進象伏突

起輔一箭落其象奴再箭中其象鼻象呼號退走自蹂其

太平府志 卷之五十一 安南 七

眾乘勢擊之斬艾偃伏填滿山澗賊徒散遁暹蠻等處輔

部將領隨處搜捕至暹蠻蒲幹等柵賊首陳季擴及妻子

皆就擒時十一年冬也明年班師還朝十三年四月朝命

輔佩征蠻將軍印充總兵官往鎮交趾十五年封疆寧謐

上以輔久勞於外名輔還京命豐城侯李彬鎮之御史黃

宗載言交趾新入不尤在得人今府州縣多歲貢

生乞仕遠方遂授太學教養之素又非諸司

試之才以故收民字理刑者不諳法律宜令

史二司嚴殿上狀十六年正月交趾清化府

樂縣土官巡檢黎不後多利季擴餘黨也先是上因給事

馮貴奏賦安南命山官馬賦守權貴奏政官吏貪

財物人不勝征求靡有固志馬騏尤為不法上官州縣不勝其毒及者四起而黎利尤劇馮貴有土兵二千人驍勇善戰馬騏嫉之盡奪其兵貴與黎政侯保俱力戰死李彬分兵勦捕時有擒獲然及者愈多終不能制亡何彬病卒利賊益張都督方政敗績指揮伍雲陳忠俱死之仁廟初卽位遣中官山壽諭黎利投以清化知府命都督方政策昌伯陳智鎮守交趾利不受職日肆侵掠智政素不相能山壽擁兵觀望宣德元年智等進兵至茶籠州敗績知府岑彭死之上命成山侯王通都督馬瑛往征交趾尚書陳洽參贊軍務洽言彙地險惡宜遠斥堠以覘賊勢王通不聽至寧橋遇伏兵遂敗陳洽死之指揮李騰等俱陷于賊

太平府志 卷之五十 安南 八

通奏黎賊倡狂復命安遠侯柳升保定伯梁銘都督崔聚由廣西黔國公沐晟與安伯徐亨新寧伯譚忠由雲南會兵討賊尚書李慶參贊戎務仍命黃福往掌交趾二司事二年黎利陷昌江城指揮李任劉順顧福知府劉子輔中官馮智死之利賊攻交趾城王通歛兵不出利賊致書與通請和通自寧橋之敗氣大沮喪遂許以清化府等州地按察使楊時習曰奉命討賊乃與賊和而擅棄地旋師何以逃罪通厲聲叱曰非常之事惟非常之人能之汝何所知自是人無敢言九月柳升師至隘留關利賊及大小頭目具書詣軍門乞罷兵息民立陳氏後升等受書不啓封遣人奏聞時賊於官軍所經處列柵拒守官軍連破之直

抵鎮巽關升意易之不嚴戒備至倒馬賊獨兵百十騎馳所履皆淖泥地賊伏兵四起升中鏢死從者皆沒是日梁銘李慶相繼病死都督崔聚率軍至昌江遇賊賊續聚為賊所殺官軍或死或奔利賊益侵我內地祿州西平州及欽州四尚俱沒于安南王通謀知升敗益大懼遂決意講和與利盟遣以金織文綺利亦奉重寶為謝是月利遣人至京表以陳日燧三世嫡孫陳嵩為名實出利上集大臣議之張輔等謂太宗經畧數年得此土今棄之無名徒以示弱此表出黎利之譎言蓋發兵誅此賊上問楊士奇楊榮皆曰求立陳氏後者太宗初心也求之不得乃都其地故叛亂相尋今陳氏既有後因其請而立之以息

太平府志 卷之五十 安南 九

民何謂無名漢乘珠厓前史榮之安在示弱乎上曰卿人言是皇祖言朕亦聞之乃出高表示羣臣論罷兵意馳奏利獻叛臣蔡福等遂班師時文武臣多不能返惟尚書黃福自交趾回為關戍所得皆下馬羅拜曰公文民父母也爭獻餼糧金幣肩輿送之利聞之嘆曰朝廷遣治文趾使人人如黃尚書我輩皆按兵不復與矣急遣人馳往守護送至龍州三年王通等至京下廷鞫言通等失律發師山壽曲護叛賊馬騏激變藩方俱論死餘坐罪有差陞交趾死節宦武官世襲文官復隸家誅叛臣蔡福等蓋福先以都督守義安降賊故也籍其家赦交趾令其陳氏嫡孫之寶以聞利遣人奉表奏嵩病死陳氏絕國人推



國以俟就命上履降其之六年六月方復並上

國人奏言陳氏果絕利撫綏有方得民心乞令特補永為

藩臣詔利權署國事八年黎利死子黎麟襲自黎氏據安

南雲南鎮遠州復為所侵欽州貼浪如昔二都亦入安南

朝廷置不問正統元年黎麟遣陪臣來賀詔封麟為安南

國王並賜印四年安南寇掠安平州思陵州竊錄二尚二

十一村上遣官諭之麟乃謝罪悉退還七年麟死子濟襲

天順三年濟為庶兄琮所弑國人討平之而立濟弟顯時

太監汪直用事議討之傳旨索永樂中調軍數劉太夏在

職方故匿其籍乃止先治中瀨死子暉襲暉死子敬自立

未及請封而死以敬弟誼襲正德初誼母戚阮种用事屠

太平府志 卷之五十 安南 十

戮宗親逼誼自殺國人黎廣等討平之立瀨庶子暉時安

南謀蠶食占城占城上聞諭禁之輒陽聽命侵盜如故已

而中國人多潛入安南至有受偽御史者教之窺伺雲南

太監錢能貪殘令指揮郭景往來安南猾獍奸徒出入莫

敢誰何遂誘我逋逆覘我虛實鎮南關外類多華人而障

安諸郡所在有變賊矣於是撫臣屢請增文武吏士控制

彈壓然交人侵奪我州里我亦不能禁時調弱儒輩下專

權虐政暴征國人怨之十一年社堂燒香官陳嵩作亂殺

關詭為陳氏後遂日莫登庸者本都齋漁人有勇力戮以

為都力士亦叛降嵩等復與黎氏大臣阮宏裕等共立黎

謙為主而攻敗陳嵩時謙方十歲兵柄在登庸實登庸

臣鄭綏以登庸不臣聽權虛位乃復立其族子西榜為主

登庸攻敗鄭綏捕西榜殺之十六年登庸率兵攻陳嵩嵩

敗死嘉靖元年敕編修孫承恩等齎詔往諭即位值國亂

道梗不能達登庸自稱安興王欲謀弑諫走清華依鄭

氏鄭氏安南世臣諫母妻族也登庸立諫庶弟應為王三

年登庸冒諫名遣人進貢並求封四年黎諫遣人請兵救

援俱不能通五年登庸賂欽州判官唐清為應求封都御

史張寅置子獄六年登庸復使國人范嘉謨偽作應禪位

詔遂篡之立子方瀛為偽太子尋弑應九年登庸禪位于

方瀛自稱太上皇退居都齋海陽為方瀛外援擅作大誥

五十九條秋黎諫卒于清華鄭江黎炯等共立黎寧為嗣

太平府志 卷之五十 安南 十

十五年黎寧差頭目鄭惟僚泛海至京歷奏登庸僭逆之

罪惟僚有志操能文章為書引申包胥等為比讀者悲之

是年以皇子生先議頒詔諸獎禮部尚書夏言奏安南不

貢逾二十年宜罷使上命兩廣督臣潘且覈其罪狀及寧

奏至遂下廷議禮兵尚書嚴嵩張瓚等會府部多官議與

兵致討命工部尚書毛伯溫為兵部尚書從宜撫勦兩廣

侍郎潘且疏稱莫氏奸雄之賊黎氏逆利之裔皆非所宜

立如以蠻方處之則元昊可儗不義可俟而黎利可王也

二氏紛爭兵甲未息皆欲假天朝名號以為之主只宜靜

以觀其變與廷議不合因名且還以待郎蔡經代之是時

欽州知州林瑜元奏交人侵欽州如昔貼浪二都漸稟金

勒古森了葛四崗宜問罪而廉州守張岳獨言用兵之害宜留使者勿前督府蔡經問岳曰空言罷兵亡以塞明詔子能保毋用兵降登庸乎岳曰欲降之必令納地令貶號且令匍伏詣闕獻國中圖籍聽上處分夫國體固不可褻也督府曰如此能令登庸聽乎岳曰祇岳一檄之力足矣於是督府以兵事調度一屬之岳而岳具有成畫司馬毛伯溫至岳以先所論列者告之復手賊情地形冊子授伯溫曰公用兵圖進取方畧無逾此者然不若罷征為完計顧公策安決耳連數日語輒當伯溫意伯溫密謂岳曰支事屬子矣先是登庸聞廷議與師遣其黨范正毅齋公移詣雲南言前國王黎暉被逆臣陳嵩殺害無子登庸同國

太平府志

卷之五十

安南

十一

人推立暉弟諛諛被奸人鄭殺杜溫誘選清華登庸仍推立諛弟應旋自清華迎諛歸與庶俱以病死黎氏無嗣庶垂死與羣臣議以登庸父子有功於國付以印章命主國事遂為國人所推其不上表通貢者先緣陳昇據諒山為梗後乃守臣閉關不納耳黎寧乃亂臣所置之子冒黎姓非諛子也其所自列如此然事皆誣罔多自飾未幾方瀛死以子福海嗣之登庸密遣使諭情於岳岳絕不與通至是求益懇岳用前言於督府者要之登庸初猶倔強岳懼以禍令蚤自為計於是登庸拜謝惟命是從會岳遷浙江督學尋轉參政登庸復首鼠兩端伯溫具奏乞還岳廣東登庸密規曰廉州守安在岳至登庸曰張太守在吾無恐

矣伯溫檄重兵駐節南寧而參政翁萬達者素負雄畧所策如張岳議伯溫益信之萬達使指揮王良輔通判蘇廷獻傳譯令束身軍門歸地繳印去僭號奉正朔遣良輔等作書諭之登庸乃以十一月素衣繫組躬率頭目者十人等各以尺帛束頸候于南關萬達等先於關內近地開張幕府設龍亭覆以黃幄傳令開關登庸暨其姪莫文明并頭目人等由關道左出脫履跣足面北而跪傳解其組及接受一書遣指揮王良輔馳送莫文明等赴京奏口安南自漢一再內附然爨俗瘴鄉終不宜中國大率數歲一亂又必此歲而後定昔張輔以十餘年勞費僅得數十郡縣叛者相繼卒歸于燹此明驗也參酌前世利害莫若

太平府志

卷之五十

安南

外而不內如以登庸有罪未宜輕授爵土孫福海見今待命倘蒙矜宥或可別與都護總管等項名色如漢唐故事此所謂以燹治燹者也至若黎寧雖稱為黎氏子孫節據諸司查勘或以為阮塗子或以為鄭氏詐俱難憑據但黎氏修貢已久若遺裔尚存似宜體恤合行雲南官查勘果有可據仍令於漆馬江居住不致失所如此庶為曲盡登庸亦上表謝罪願以如昔貼浪二都及漸瀛金勒古森了葛四崗歸之欽州桂林希元議上從之乃降安南國為安南都統使司以莫登庸為安南都統使從二品給印章子孫世及改海陽山南等十三路各設宣慰司蓋欽州侵地仍令守臣勘訪黎寧東係黎氏後授

華等四府以承宗祀制下登庸口死伯溫等請以制命授其孫福海從之乃以二十年班各陞賞有差二十五年

莫福海卒子安瀛... 雖居一隅而黨類... 其臣鄭... 莫子黎寵寵死後立... 亂檢以兵會之宏... 亦不出...

亦不出... 慶中兵... 亦不出... 亦不出... 亦不出...

亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出...

亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出...

亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出...

亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出...

亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出...

亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出...

亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出...

亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出...

亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出... 亦不出...

印約束兵民令來納欵并求封號于時躍念其率先向化且欲為黎氏勸具聞報可自後入貢相繼其安南維祺故

子維祺聞高平莫氏投誠隨亦遣使上表欵關納貢康熙二年遣陪臣阮敬揚給來貢

以廷頒賞有差遣送歸國維祺未受封而卒康熙三年

以差國史院編修吳光禮部司務朱志遠弔祭維祺嗣子黎維禧援例請封五年春遣翰林院侍讀程芳朝禮部郎中

張易貴賞勅印冊封禮部為安南王是年安南援前代之例以會典所載明

廣西巡撫金光... 受爵而卒其子... 太平府志

莫據隙與兵... 乃奔飯朝... 不足三千日... 朝督撫兩廣

上高特選... 今以高平... 界址及失... 人疑休不肯... 誓希以棟動

朝廷二使臣理... 元清托詞高平... 元清將高平... 元清將高平... 元清將高平...

元清將高平... 元清將高平... 元清將高平... 元清將高平... 元清將高平...

元清將高平... 元清將高平... 元清將高平... 元清將高平... 元清將高平...

元清將高平... 元清將高平... 元清將高平... 元清將高平... 元清將高平...

林一州安置二使臣反覆書諭維禔及其柄臣鄭櫛相持四十餘日始遵

旨以高平府及上琅下琅石林廣淵四州退還二使臣以正月八日出關至三月十九日乃入關往反七十餘日九年正月至京復

命元清以高平雖還尚有保寧一州及小總小社未退而鄭櫛仍發土兵戍高平元清具文申訴提督馬雄會將軍豫國安副都統王永年相繼出兵櫛乃撤還元清入高平十月維禔卒弟維旋嗣十二年遣陪臣胡士楊阮茂才來告哀十三年值吳逆之變邊方多故維旋與其臣鄭櫛復謀攻高平元清不支與子敬光敬睦敬明敬實率家奔入泗

太平府志

卷之五十 安南

六

城於是黎氏盡有高平之地十四年維旋卒弟維正嗣十九年大師會勦雲南賴將軍兵由劍塞進時元清已死其子莫敬光與泗城土官岑繼祿為嚮導二十年雲南平是年維正遣陪臣鄧公瓚等奉貢并告哀且言元清父子從逆事

上命將莫發回其國家口發回其國安插毋致殘害二十一年巡撫通判王國學府通判王國正桂林通判張士貢及守備李敬光懼不歸國敬光懼不敢歸未至關即自縊死其弟敬眷三百餘走餘眷三百餘口至安南維正悉殺之是年鄭國事二十復初國事二十二年六月

欽差翰林院侍讀郭黑禮部郎中周燦等奉維禔維旋又遣

十四字賜之二十四年維正遣陪臣阮益等入貢二十八年禮部咨

年遣陪臣阮進才入貢二十八年禮部咨  
莫敬睦事維正具文回復且移咨廣西巡撫王  
代之題達內云莫敬睦等妄稱二主三王通結彼國  
人名寬及三桂殘黨姓方姓王請符劫掠彼國高平宜  
興化等地方大抵事多誣罔三十年二月維正差陪臣阮  
名儒阮貴德阮廷策陳璫等奉貢復齋奏本言莫敬睦  
等事三十五年四十年四十五年俱奉貢五十五  
年遣陪臣阮益等入貢九卿遵

太平府志

卷之五十 安南

七

西將金銀犀角象牙沉香速香俱照數交布政司貯庫仍  
造冊送部奉

安南國路遙遠犀角象牙俱係重物解送其實勞苦嗣  
後犀角象牙免其進貢五十五年四月十四日維正卒  
維禔疏稱權管國事俟

朝禮告哀當而差陪臣赴京陳奏奉

維禔既請遣人陳奏應如其所請令遣陪臣赴京陳  
可也五十七年四月遣陪臣欽關赴京告哀并請封五  
八年三月

差內閣中書鄧廷詰翰林院檢討成文弔祭維正并

安南國王十一月十八日至鎮南關照例

安南候接陪臣范謙益并通事員役等進關照例行禮畢  
次第出關二十二日移咨一角為移知事

皇上至仁至聖不泄不忘念該國世篤忠貞侯度惟謹故  
封祭恩禮既

充並行復

命兼攝所以嘉惠體恤至深且厚本<sub>內翰林</sub>院恭膺

簡命前來

封祭已於十八日出關今擇於十二月初一日行

冊封禮初二日行 諭祭禮

封祭之日該國王嗣率該國文武官目遵照舊例跪迎安設

諭祭文 後行三跪九叩首恭見禮宣讀

太平府志 卷之五十 <sub>安南</sub>

大

諭祭文 後行三跪九叩首謝

恩禮

冊封日俱用吉服

諭祭日俱用素服該國王嗣其率由舊章欽崇盛典以對揚

天子之休命為此合預行知二十八日安南國王嗣遣陪臣

左都御史張伯階戶部侍郎黎英俊奉東一道儀注三冊

前來併欲參拜

諭祭文 參見

天使而呈柬冊因傳諭恭拜須行三跪九叩首禮參見須行

一跪三叩首禮答云拜叩從來只行本國之禮聞得琉球

國亦只行該國之禮若要遵行

天朝之禮必須演習一二旬本國水土不佳安敢久留

天使等語因傳諭云琉球乃海外荒服不知禮義該國在邦

域中又頗曉文墨豈可下喬入幽以琉球為比本院既奉

君命豈敢復為身謀瘡痍何足懼哉因不許參拜

諭祭文 只傳二人入見二人呈上柬冊求允行該國之禮隨

發還柬冊寫諭云該國所行五拜三叩首者乃藩王禮也

天朝所行三跪九叩首者乃

天子禮也今

帝命錫臨

天威咫尺該國乃欲用諸侯之禮褻瀆

天王恩命不大昧春秋之義耶三跪九叩首禮甚屬簡易該

太平府志 卷之五十 <sub>安南</sub>

九

國歷來貢使俱請何得以難行為辭九該國既請

封祭便當預令貢使通事指演何至臨期惶惑若該國于

封祭日遵行三跪九叩首禮稍有不齊本院仰體

皇上寬大之仁亦不加責備爾等俱係讀書人當以大義開

導該國王嗣不可失恭順之道也二人云當回啟王嗣明

日報命而退隨移咨一角為移覆事本<sub>內翰林</sub>院恭膺

簡命前來

封祭已擇日照例行禮移知在案今接來柬殊駭聽聞

天朝中外一統跪叩典禮屬在藩封罔不率從况該國世受

皇恩恪守侯度歷來貢使入京俱遵

天朝典禮跪叩如儀即本月十八日該國委差候接范謙

等行賜德臺行三跪九叩首禮亦無違越豈意

帝命錫臨

大威咫尺乃忽萌異議欲變舊章耶若該國遵照康熙二十

二年舊例參見謝

恩命行三跪九叩首禮本院即如期前來

封祭倘必欲用該國之禮竊賈

旨定奪為此合咨前去速決從違以定行止二十九日安南

國王嗣復遣陪臣吏部侍郎阮公基戶部侍郎黎英俊奉

東懇求允從該國之禮其東內有康熙二十二年本國舊

例五拜三叩禮儀注載于冊五拜三叩乃本國事

太平府志

卷之五十一

手

天至尊至敬之禮拜不可謂從俗其如衣冠何記有從俗從

宜嘉善矜不能之文倘要必行三跪九叩首禮須演習一

二旬日方可觀望語因巡來柬寫諭條駁云康熙二十

二年該國原遵行

天朝之禮現有部籍可考何得偏執該國草冊為是五拜三

叩首乃該國事

天至尊至敬之禮三跪九叩首乃

天朝至尊至敬之禮今

恩命式臨該國反欲用夷變夏耶據云拜不可以從俗其如

衣冠何該國入關入貢俱遵行三跪九叩首禮何嘗變該

國衣冠哉

天朝不變該國衣冠風俗者所以從俗也今于參見謝

恩常遵行三跪九叩首者所謂禮從宜也宜者乃因時制宜

之謂豈可昧于大義不知變通哉所謂嘉善而矜不能者

必該國一心遵行

天朝之禮乃為有善可嘉也至行禮時或有恭錯不齊大見

不能可矜也今該國只欲從俗叩拜是不肯行

天朝之禮非不能也况本院仰體

皇上寬大之仁決不求全責備何必以煩苦為辭若該國必

欲習熟可觀即演習一二旬日何妨二人不能答只云願

抄尊諭回啟王嗣而去三十日安南國王嗣遣陪臣吏部

侍郎阮公基戶部侍郎黎英俊來領

太平府志

卷之五十一

主

諸命 稿及銀帛云情願遵行

天朝之禮因傳入面問二人並無異詞隨發銀帛等件二人

跪領而去十二月初一日往

封行二里許陪臣阮公基黎英俊復來道傍稟云今早王嗣

傳文武陪臣演習三跪九叩首禮俱云本國先王實未曾

行莫不歎息王嗣頗覺惶惑

欽差因大怒在轎上手書諭云本院聞之臣事若猶子事父

忠于君節所以孝于親無論二十二年該國故王原遵行

天朝之禮現有載籍可考假使當日或未會行今王嗣感後

望恩蓋篤恭順正所謂幹蠱用譽光昭前烈也何嫌何疑而

不變通從宜克全忠孝之道哉二人看畢大喜稟云蒙

天使大人開示大義敢不遵行願先回啟王嗣而去午時渡富良江至其國進王府至第三門通事稟照舊儀注

天使當下轎因諭云本院俟到爾國王嗣跪迎處方下轎復來稟云王嗣即在此門內跪迎諭云爾等昨日所送儀注

是至第四門方下轎今日如何改說復來稟云本國之門是白內算出此是第四門了因大怒諭云爾國雖屬蠻夷

終係人類豈可隨口杜撰說謊不知禮義廉恥為何物獨不內愧于心耶通事等往來跪求不已復大怒諭云本院

若來私覲或自己謙讓爾王嗣還該再三請轎今日奉命而來乃敢累次胡鬧若果如此無禮本院便捧

請命回館不  
太平府志 卷之五十 安南 主

冊封了爾王嗣只管上本恭本院欺壓爾國另請大人來封祭就是了陪臣等相顧驚愕方請乘轎而入至第四門見

王嗣率文武陪臣跪迎  
龍亭乃下轎與王嗣行相見對揖禮通事稟稱舊日儀注

天使由左門而入王嗣由右門而入諭云本院係天朝欽差豈肯走爾國旁門因隨

龍亭由中門而入直至其殿如儀行冊封禮畢至朱雀門留坐獻茶與國王分賓主坐國王送至

第四門外作別乘轎回館初二日照舊儀注于朱雀門行諭祭禮正中設

龍亭西側設故王靈位東向

天使西向立上香奠酒奠官立讀

諭祭文禮畢王拜謝因素服不留茶不遠送不對揖餘儀皆冊封同申時移文一角為移知事本內院恭膺

簡命前來  
封祭今行禮俱畢定于本月初五日起程復

命所有沿途需用人夫轎馬船隻等項該國作速齊備伺候承應可也初三日安南國王肅束留行不九初五日安南

國國王陪輔送贈儀禮物及家人銀兩絹布俱不收又遣陪臣送束求照舊例帶謝

恩奏本禮部申文因東內事大二字悖謬本內引例不明撞頭多悞發回未收初六日復遣陪臣至市橋駟送贈儀禮

太平府志 卷之五十 安南 主  
物不收又進奏本申文因忌辰亦未收十三日至開口護送陪臣具申束進奏本申文副使收帶安南國委差阮登

蓮徐伯璣丁文貢黎孝等肅申  
天朝欽差成大人鈞座下等祇見大人奉

命南來經過之地分毫不擾呈送之物一介不收憐恤人夫愛念軍士等感戴無涯茲奉國王命恭進奏本祈進

天皇帝陛下另有申文冀達禮部衙門目今已抵關外開關在卽懇乞轉達庶令微忱得以

上聞職等今肅申十五日進關至昭德臺護送陪  
王驢儀禮物及陪輔驢儀禮物并國王與家人銀兩絹布

正副使俱不收受六十年三月遣陪臣胡丕積等人貢五

六五十九年兩次正貢方物并謝

大寶貢獻方物並三年歲貢并請陪臣往回皆由水路  
上恤其勞瘁諭可其奏永為定例廩給溢額賞賚有加焉

朝貢方物 康熙十四年例

每貢金香爐花瓶四副重二百零九兩銀盆一十二口重

六百九十一兩沉香九百六十兩速香二千三百六十

八兩洋菓香三十株重二千四百兩白木香五十件重

一千八百兩白土絹二百疋每疋長四

十尺闊二尺重座一觔六兩共二十七觔八兩參

共二千三百九十九觔共三百八十觔

太平府志 卷之五十 安南

康熙五十六年五十九年兩次歲貢方物

每貢金香爐花瓶四副重二百零九兩折作金子二十一錠

銀子六十九錠稱六百九十一兩沉香九百六十兩速

香二千三百六十八兩五十九年貢物同俱收貯藩庫

謝

免獻犀角象牙

二次儀物

金香爐花瓶一副重該五十七兩五錢折作金子六錠

七兩五錢銀鶴銀臺各一個該重四十九兩

折作銀子五錠稱四十九兩四錢銀香爐花瓶一副計  
五十四兩四錢折作銀子五錠稱五十四兩四錢沉香三十觔  
速香六十觔漆扇一百把冊封賜郵儀物俱同收貯藩庫

朝貢官從

陪臣三員通事一員行人四員從人十三名

朝貢事宜

一欸貢之年分巡道預期詳明督撫兩院先以檄傳該國

王及差官前往督催修

貢取具遵依辦貢入關限期國王乃遣使并通事領貢夾

板公文隨差官入關投遞本道遴委驗貢太平府佐一

員俟國王報有出貢日期其使臣將貢物運至坡壘驛

太平府志 卷之五十 安南

安置驛距鎮南關三十里令龍憑關守備探實具文報

本道即移駐太平府料瑯委驗貢官喚帶銀匠馳出坡

壘驛將貢物細驗秤明造冊呈報本道俟發示啟關而

新太參將先領官兵至關上擺列及把守各隘口

一本道于啟關三日前向太平府南太兩府知府及各

官同行至思明土府計程一百次日自思明

至受降城駐劄計程七十里次日自受降城至幕

營駐劄計程七十里是夜四更

道於頭號鼓五更鼓一鼓即起號鼓掌號

土司馬齊集聽命分口護衛

前道...



拜謁

龍亭之行三跪九叩首禮畢本道委思明土府同知致祭昭德  
臺關門土神事畢龍憑關守備稟領鑼鑼鼓三通放  
炮三聲守備高聲唱開關即發

皇令旗二面出關喚通事引彝使將恭進表文及貢物捧進

入關叩謁

龍亭其關外彝從人並皆羅拜事畢暫命彝官退出關外本  
道與各官隨送

龍亭旋陞昭德臺堂上公座各文武官謁畢各土官領目兵

叩見發喊三聲而後復喚彝使官從入關叩謁畢乃開

櫃當堂驗明貢物封訖與各官面詢彝使倘有漢土棍

太平府志

卷之五十 安南

三

徒指稱餽送索騙情弊可即指實報名查究各彝使目

共稱文武漢土官員人役毫無指索南國草木咸露露

潤本道隨即命南太二府取花幣諭龍憑二州備牛酒

先將花幣犒賞入京之貢彝官次賞護貢物回國彝從

又將牛酒犒勞彝官之從與漢土官兵舊制應用花幣

公費銀兩乃南寧府二稅出辦康熙二年黎彝進

貢酌定太平府辦犒賞入京進貢之彝使南寧府辦犒

賞護貢至關回國之彝役查進貢彝官彝從共二十一

員名正使陪臣一員賞鑲金銀花一對重二兩大紅

緞一端副使陪臣二員每員各賞鑲金銀花一對重一

兩六錢各大紅緞二端通事官一員賞銀花一對

一兩二錢大紅緞一端行人四名每名賞銀牌一面

重八錢各紅布半疋以上所帶花幣銀兩二年初貢

時議以思明府思明州憑祥州上下凍州各捐助以勸

大典當時上下凍州思明州二土官各助粉銀二十兩

應折紋銀十兩共實銀二十兩而知府又捐俸銀二十

兩九錢方得足用至犒賞彝官彝從及各衙門人役漢

土官兵人等牛隻酒米例龍憑二州辦龍州出二憑祥

出一共牛四十隻酒一百埕米三十石裁酌多寡賞資

明白其護貢之彝官彝從受賞出關歡頌而去思明府

土官即播鼓龍憑守備高聲唱開關放炮三聲本道同

太平府志

卷之五十 安南

三

新太參府南太府廳各官面諭龍憑關守備督令把關

門及各處隘口兵丁慎加防守三日之後方撤以防彝

狡隨將貢物表文入京進貢彝官彝從名數登記姓名

轉報督撫兩院委官押貢入京文武職官各一員思明

州河下登舟由水路往其應用裝載貢船六隻乃思明

土府思明州出辦查前朝往例貢使自思明登舟送至

崇善縣逐程交替直至廣東謁見總督賜宴賞而後遣

之行由閩浙而往康熙二十六年兩貢則由廣西過楚

乃抵京師若貢使歸國則禮部題議差司贊序班伴送

至廣西巡撫照例委官伴送又委太平府知府親詣啟

關驗放彝使回國先委新太參將龍憑守備二營官備

各帶官兵並思明土府清軍同知一明土府龍憑二州

等土官及行調土司照例出辦夫馬自兵護送貢使至

關仍照前接貢之例設立

龍亭太平府知府會同大小文武各官列班行禮及致祭昭

德臺關門各土神事畢龍憑關牛等鎮鎮鑰高聲唱開

關而回國葬官與來接葬使從役人等照例叩謁

龍亭畢知府會同各官逐名點驗出關取具文淵州葬官印

結收領繳府就即封關各官回署知府具文通報督撫

兩院司道查考

一本道至關啟鑰同行官太平府知府一員府佐一員南

寧府同知一員思明土府同知一員思明土府土官一

員龍州土官一員憑祥州土官一員思南副將一員新

太參將一員龍憑守備一員龍憑關守備一員又例先

行太平府詳定驗貢官一員及至關押貢人京文職首

領官一員武職千總一員

一備辦

龍亭二座

皇令旗二面及大鼓二面桌幃座褥硃硯筆架紙劄心紅桌

椅床檯一切什物例出思明土府

一受降城原設在下石西州之上距州十里本道及各官

衙門與葬使公館答應水薪椅桌等項例思明土府下

石西州上石西州修造答應

一幕府營地在憑祥州十里之上距鎮南關十里之下其

起造本道及各官與葬使公館答應水薪椅棹等項及

修整南關城垣昭德臺衙宇與開關致祭土神猪羊并

犒賞前項牛酒米石數目俱龍憑二州出辦龍州居二

憑祥居一

一至關所需禮生讚禮拜謁

龍亭例思明土府儒學撥送禮生四名先呈報儀注

一本道并各官至關用水例於思明土府太子井挑送土

府出辦人夫土府經歷司押運

一各土司額出夫馬名數

萬承土州額出夫八十名馬二十四太平土州額出夫

四十五名馬二十四安平土州額出夫四十五名馬十

五匹龍英土州額出夫六十名馬二十四恩城土州額

出夫二十名馬十四名盈土州額出夫十五名馬五匹

全茗土州額出夫十五名馬五匹羅陽土縣額出夫二

十名馬五匹陀陵土縣額出夫二十名馬五匹結安土

州額出夫十五名馬五匹都結土州額出夫十五名馬

五匹鎮遠土州額出夫十五名馬五匹佶倫土州額出

夫十五名馬五匹江州土州額出夫一百名馬二十四

羅白土縣額出夫二十名馬二匹以上共夫五百名馬

一百三十九匹俱於太平府送至思明土府往回接送

思明土府額出夫三百五十名馬二十四匹思明土州額

出夫二百名馬二十四匹思陵土州額出夫三十名馬  
十五匹忠州土州額出夫四百名馬二十五匹遷隆崗  
額出夫一百名馬十八匹以上共夫一千零八十八名馬  
一百一十匹查往例內撥忠州人夫二百名馬十三匹  
思明土州馬八匹俱往受降城候龍憲二州人夫擡運  
貢積及乘送彙使至即接送至思明州下船尙餘人夫  
八百八十名馬八十九匹俱於思明土州送至受降城  
往回接送

龍州額出夫四百名馬三十匹又出積夫一千名憑祥  
土州額出馬二十八匹兵三百名事畢仍擡貢積上下  
凍州額出夫三十名馬六匹上石西州額出馬二十五

太平府志 卷之五十 安南 三

匹無夫下石西州額出馬二十匹無夫以上人夫及積  
夫共一千七百三十名馬一百零九匹俱自受降城送  
至關前往回接送但查在關所需人夫馬匹擡運貢積  
及乘送彙使例應龍憲二州出辦送至受降城接替者  
又係忠州思明州接送至思明下船至於以上各土司  
有馬者出馬無馬者出轎一乘代夫四名

一各土司額調目兵名數

萬承土州額調兵一百六十五名太平土州額調兵一  
百四十五名安平土州舊例把守七隘無行調擺列目  
兵龍州土州額調兵一百五十名思城土州額調兵九  
十五名全著土州額調兵六十四名若盈土州額調兵

四十四名都結土州額調兵五十四名信倫土州額調  
兵四十四名結安土州額調兵五十五名鎮遠土州額  
調兵五十一名羅陽土縣額調兵六十六名陀陵土縣  
額調兵四十九名思明土州額調兵三百名上下凍土  
州額出兵一百名提調管轄土府州縣思明土府額調  
出兵一千名江州土州額調出兵三百名思陵土州康  
熙二年例報目兵三百名因地方荒殘詳免二百名額  
調出兵一百名龍州土州額調出兵二千名憑祥土州  
額調出兵三百名上石西土州額調出兵一百名下石  
西土州額調出兵一百五十名羅白土縣額調出兵六  
十名忠州土州額調出兵五百名遷隆崗額調出兵三

太平府志 卷之五十 安南 三

百名以上共額調兵六千一百七十二名內南寧府屬  
忠州遷隆二土司共八百名聽南寧府行調其餘土兵  
屬太平府兼同新太參將行調至康熙六年安南納貢  
本道牌行禁止凡擺列目兵俱聽本道行調至各土司  
出辦目兵例各土官親身統領前至關前擺列  
一高平莫都統原無進貢定例於康熙十一年七月內莫  
都統修貢謝

恩需用擺列兵夫馬匹本道牌行依黎彙額數各調一半永  
為遵守

按有明典彙云永樂十四年五月英國公張輔言自廣東  
欽州天津驛經滄州港至瀟滄州軍縣抵交趾

由水道陸行止二百九十一里比邱溫故路近七驛傳之  
以便往來從之 嶠南瑣記云粵西入安南有三路一路  
由憑祥州出鎮南關一日至文淵州一路由思明入邱溫  
者過摩天嶺一日至思陵州一路由龍州入一日至平西  
隘 紀要云思明抵南關百餘里南關抵交州五百里惟  
諒山至鬼門此百里山菁深險頗多溪澗稍勤跋涉餘俱  
平坦大道可以方軌聯轡渡富良江之西即為交州

李仙根曰交趾即安南即交州即日南西北自交岡來故  
曰交趾東北界廣西東界廣東西界雲南西南界老撾即  
古哀牢南挿入大海中通占城秦漢時皆郡縣也黎氏王  
國在富良江西後三峰山左鞍子山右傘圓山挿入雲霄

太平府志 卷之五十 安南 五

富良江左右纏抱前入大海亦南荒一都會也所屬有十  
三道五十二府二百一十九州縣都統莫氏惟高平一府  
四州在北隅之東俱無城郭其人披髮以香蠟梳之故不  
散跣足無塵滓以地皆淨沙也男女衣皆大領無分別  
無裙褲女有無褶圖帟其王與官或時冠帶鞞鞞然非其  
好也稱其人貴曰翁茶翁茶者大官也其牛羊猪燒去毛  
即割而食之只有燒酒時刻吃檳榔惟睡蓆方停嚼耳無  
用藥物塗其齒黑而有光見人齒白者及笑之惟王官用  
黃瓦官民不敢用瓦以草苫楹棟以竹房檐高四尺許門  
高不過三尺俛首折腰乃得出入即王殿檐高不過丈許  
其屋外多種刺竹甘蔗椰子諸樹其果四時生長無定也

太平府志 卷之五十 安南 五

氣候常煖其土產惟稻無二麥有布最纖輕有蠶桑絹綉  
曰交兌素絹如畫絹潤二尺多榕樹甘橘有波羅密果如  
南瓜味微甜中有子如刀豆子皆可食其象牙香藥綿花  
胡椒茴香醬醋等物皆自外來者無棹椅特為使臣造二  
公座甚高大其寢棹圓彩金漆高可尺許絃似花瓣其文  
字與中土同另作數十字多加土傍與使臣往復文書不  
用也臨賀公館在富良江之東去國二十里許以竹為牆  
每天使至一次則加竹一重其風俗淫蕩無耻洗浴便溺  
男女裸體往來坐立不相迴避雖貴家亦然其豪家稍有  
床褥平民則無貴者以網為篋兩人擡之大貴者有轎似  
車上轎盤腳坐或用八人四人擡之最可笑者其王傘扇  
轎夫全體俱露止用一股青布纏腰從尻下裹勒至臍雖  
寒天不着寸衣又皆形狀肥實名曰好漢聞多係殺人援  
赦者其共止穿大袖青衣一件天暑即裸並無甲冑其器  
械尚銃藤牌鎗刀諸物頗精於飾以之大用殆不足也頗  
讀書知文字而好怪異無傳授不甚貫通尙巫鬼不奉二  
氏之教以能強言者為功故根有四字評之曰愚曰疑曰  
詐曰傲愚則不認理疑則不信人言詐則其言不可信傲  
則自謂無罪此四字如銅牆鐵壁牢不可破也  
通志論曰昔漢武帝西征大宛西南入牂牁夜郎之墟南  
平甌閩暨粵東西以其餘力定交趾九真日南三郡如友  
掌然何其烈哉元混一區宇以宇內之全力不能下一

南何也漢以文告而元以兵威也余觀漢武時樓船下濠  
之師未嘗渡富良也龍編等山之域不以煩成卒也彼且  
無町畦吾與之無町畦禮所謂修其政不易其俗者殆庶  
幾哉光武能閉西域之關而不能忘徵側之叛雖銅柱標  
名千古爛然而海徼之俗從此滋屬矣試即建武之功方  
於元鼎已不可並轡而況於元乎食墨之吏先携其  
心虎狼之習雖革其舊而得之能終守之乎明初兩率南  
交擒其罪人而郡縣置之豈不稱然旋復平旋復叛則  
非勝之難也乃守之難也至宣宗時強將隕于戈勁兵濶  
草野糧餉不繼海內為虛雖欲不戢兵庸可得耶後之議  
者猶以三楊棄安南為失策噫老成碩畫固未易為少年

太平府志

卷之五十一

安南

重

喜功者道也又曰安之中介在粵東西及滇南之間粵東與  
南由海道入而粵西山陸道入故頒朔傳檄以及上表進  
貢卑由粵西其地形使也明正嘉中安南黎莫二篡互相  
雄據爭欲得中國之為重而中國亦察其情形隨宜處  
之萬羈縻勿絕也莫氏中微黎氏復興旁觀之議幾於  
盈庭大都英銳之士以漢唐郡縣為名必棄鵲蚌之勢而  
清漲海之塵老成之臣惕宋元之遺車皆欲以變治變如  
嘉靖間故事夫今昔之情不甚相遠傳曰上者因之其次  
整齊之最下者與之爭西京之時寬其文網而因其習俗  
故其民安東京之時導以禮法而恐以兵威故其民疑至  
漢之季而吏病民亦病吏幾不可收拾矣唐宋而後尤

有甚焉墨吏利其山澤之貨以安南為奇貨藉山而冶場  
澤而漁虎狼之性妄噬隨之其號為強有力者喜以功名  
自樹今日召募明日徵輸餉首未聞而捉衿肘見元姑無  
論西漢時交州置官為刺史者一為郡守者二邑令不數  
明則列為三司分置十七府州縣且以百計而又鎮以中  
官彼其人豈皆飲水茹檠匪躬之故乎聞之掌故若蔡政  
馮貴已有墨聲而中官馬騏尤甚初政若斯後將安極宜  
乎交人之屢叛也竟合浦郡多墨吏珠移之交孟嘗為郡  
去珠復還嗟夫今之安南能盡得若人布之南交令彝人  
不敢輕中夏哉

太平府志

卷之五十一

安南

重

大家宰甘公所修太平郡志也志刻於雍正丙午  
以 冢宰公命增刊於乾隆丁巳蓋 冢宰公  
前守太平者也太平自明初設郡宏治間始有  
志、缺修且二百三十餘年曩歲癸卯 冢宰  
公蒞茲土亟圖編纂局未及開而晉監司遷臬  
憲階大中丞悉在粵西益倦、以太平修志為  
務爰檄各屬搜殘編訪耆舊立例簡而該紀事

政

詳而核自輿地以至藝文諸志秩然明備于太  
平稱信史矣迨 冢宰公入為大司馬考戶工  
二部則例新定戶口賦役額辦鹽法四者與丙  
午以前頗有異同又重訂正付明江司馬周公  
之矩至粵俾秦另刊編入秦維

國家所恃與民人相守者惟此圖籍賦稅諸大例內  
外昭然畫一可百世而率由耳使郡乘與部冊  
弗符戶口舛錯則奸究易以潛踪田賦鹽法差

言則晉役易以染指邊鄙小民必有不勝其害

者 冢宰公思之深而慮之遠一修之不巳而  
重訂而增刊之無非欲以其至詳且晰者予太  
平二十六屬以長久安全之計不向於吏治民  
風時、相關切哉夫人當身任厥事或亦夙夜  
留心迨事過而輒忘過之久而並忘其所以然  
乃以身所閱歷之地彌久而精神彌注將見斯  
志一重改正吏自是水無賦蛇改虎民自是水

政

有佩犢帶牛 冢宰公以佐理天下太平之政  
先試之一郡而一郡臻上理是當日守太平太  
平播太平景象今日為

天子總百官佐

天子理天下天下舉一太平休風 冢宰公繼贊襄

治平之具於太平志乘不可見其一端耶秦後  
公十有一年幸履 公後塵太平三載自揣別  
無治行惟凜 公郡乘模規以為法守而勿之

敢越雖未敢云

盪厥職要亦清夜問心差可

無愧後之守是邦者能以公之心為心視斯

志而重加意焉太平自此享太平之福矣因增

刊工竣而為之跋

乾隆三年歲次戊午蒲月上浣知太平府事寶

山李錫泰



跋

泰

太平府志跋

國家撫有萬方際天所覆罔有內

外悉主悉臣

皇上闢統乘乾繼照明目達聰咨岳

訪收悖德允元柔遠能邇罔不

從又惟時粵西居國之南襟帶

兩江風壤殊異太平為府尤處

太平府志 跋

極南地卑土惡瘴毒彌甚俗多

剽悍馴擾為難外連交阯夷情

狡猾時犯邊境驚懼子弟憂患

長老勞士大夫今雖恭順跡其

往事思患豫防備不可弛內頑

外黠素稱難治惟我

大中丞甘公經術經世文武兼

資治行卓越震耀寰宇久在

帝心雍正元年太平守缺

天子以邊徼要地非公不可遂膺

特簡由尚書吏部主選出踐斯任既

至釐奸剔弊講學明農蠻俗頽

風為之不變暇即寄情吟嘯著

作琳瑯慨郡乘之簡略悵文獻

太平府志

版

三

之無徵毅然以為已任亟欲綱

羅放失舊聞自筆削之未及也

以

天子嚮用

公切治郡數月擢遷左江兵副

旋歷臬憲晉

大中丞巡撫廣西振綱飭紀百

廣西行營太公為

公治粵始基檄府遍徵所部漢

土府州縣新舊諸志以供採輯

余忝承乏茲土徧摻博訪得士

人家舊藏草稿數帙委吏繕寫

致之幕下

公以春秋大筆政事之暇手自

太平府志

版

三

先立凡例區門列類刪蕪

補缺去謬存真閱數月而成帙

于時數百年未成之書綱舉目

張犁然大備總二十七屬星土

之部分疆域之廣輪山川土田

城郭都鄙民風物產以及文教

武衛屯台人材具載其中蓋



何... 昭焉後之官其二三

然... 因地而制宜因俗以成化

取之是編有餘矣於以上佐

國家太平之治而下庇吾民永得

蒙太平之休也皆

公之賜矣

公之有造于太平者豈其微也

太平府志

版

四

哉余獲與校刊之役既竣工敢

誌數言於簡末用表服膺之志

於不朽云

廣西太平府知府王夢堯敬啟

廣西府州縣志總目錄

第一冊 ..... 上林縣志 太平府志

第二冊 ..... 左州志 慶遠縣志

第三冊 ..... 柳州府志

第四冊 ..... 象州志 武宣縣志

第五冊 ..... 靈川縣志 灌陽縣志 平樂縣志 永安州志

第六冊 ..... 平樂府志

第七冊 ..... 梧州府志

第八冊 ..... 富川縣志 岑溪縣志

第九冊 ..... 興業縣志 桂平縣志 重修北流縣志

第十冊 ..... 欽州志 靈山縣志 廉州府志

第一冊目錄

〔康熙〕上林縣志目錄

序 ..... 一

目錄 ..... 二

卷上 ..... 三

卷下 ..... 一九

〔雍正〕太平府志目錄

卷首序 ..... 四一

卷首目錄 ..... 四五

卷首凡例 ..... 四七

卷一 ..... 四九

卷二 ..... 五二

卷三 ..... 五四

卷四 ..... 五九

卷五 ..... 七四

卷六 ..... 七八

卷七 ..... 八九

卷八 ..... 九一

卷九 ..... 一〇三

卷十 ..... 一〇四

卷十一 ..... 一〇七

卷十二 ..... 一一一

卷十三 ..... 一一三

卷十四 ..... 一一四

卷十五 ..... 一一六

卷十六 ..... 一一九

卷十七 ..... 一二三

卷十八 ..... 一二七

卷十九 ..... 一三四

卷二十 ..... 一三七

卷二十一 ..... 一五七

卷二十二 ..... 一六〇

卷二十三 ..... 一六一

卷二十四 ..... 一六三

卷二十五 ..... 一六五

卷二十六 ..... 一七二

卷二十七 ..... 一七六

卷二十八 ..... 一七八

卷二十九 ..... 一八〇

卷三十 ..... 一九一

卷三十一 ..... 一九六

卷三十二 ..... 一九八

卷三十三 ..... 二〇三

卷三十四 ..... 二一三

卷三十五 ..... 二二四

卷三十六 ..... 二二九

卷三十七 ..... 二二三

卷三十八 ..... 二三六

卷三十九 ..... 二四七

卷四十 ..... 二六〇

卷四十一 ..... 二七九

卷四十二 ..... 二九五

卷四十三 ..... 三〇一

卷四十四 ..... 三一五

卷四十五 ..... 三一九

卷四十六 ..... 三二二

卷四十七 ..... 三二五

卷四十八 ..... 三三二

卷四十九 ..... 三三一

卷五十 ..... 三四一

卷末跋 ..... 三四八

..... 三六六

